# 行屋崎遺跡（ぎょうやざき）

一般国道403号（小須戸田上バイパス）道路
改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2015
新潟県南蒲原郡田上町教育委員会

# 序

国道403号バイパスの延伸にともない、平成24年９月24日から10月10日にかけて試掘調査を行いましたところ、遺物や遺構が見つかりました。そこで、本格的な発掘調査を平成25年６月12日から11月30日まで行い、平成26年度は遺物の整理等を精力的に行い、この度、報告書の刊行にこぎつけることができました。

遺跡の立地は、新津丘陵から信濃川へ緩やかに傾斜する途中、五社川右岸の自然堤防上に位置し、この地の小字名から「行屋崎遺跡」と命名しました。今回の発掘調査範囲は長さ160m、幅20mの南北に長い調査区で、一部二層で調査面積は3,740㎡でした。現在の水田面下40～110㎝の地盤の真上２～12㎝から７世紀後半の遺物を含んだ層が確認され、多くの土器・金属製品・木製品そして遺構が発見されました。

本遺跡は古代の画期となる大化改新（645年）直後の7世紀後半が主体で、やや後続する新潟市大沢谷内遺跡と共に、これまで未解明であった渟足柵存続時期における新潟平野の遺跡動向が把握でき、出土品は一括資料として極めて価値が高く、越後の古代史上画期的な調査成果が得られました。

ピンホールではありましたが飛鳥時代の新潟平野を垣間見ることができ、田上町にとりましても、わが町の成り立ちを知るうえで貴重な資料となりました。

結びに助言・指導をいただきました奈良大学坂井秀弥教授を始め、新潟県教育庁文化行政課、関係者各位に深甚なる謝意を表するとともに、本調査成果が広く活用されることを期待し挨拶といたします。

平成27年２月

田上町教育委員会　教育長　丸山　敬

# 例　言

1　本報告書は新潟県南蒲原郡田上町大字湯川字行屋崎131 ～ 177に所在する行屋崎遺跡の発掘調査記録である。

2　発掘調査は一般国道403号（小須戸田上バイパス）道路改築事業に伴い、新潟県三条地域振興局から田上町教育委員会（以下、町教委）が受託したものである。町教委は、掘削作業等を株式会社ノガミに委託し、平成25年６月12日から平成25年11月30日まで発掘調査を実施した。平成26年5月16日から平成27年２月27日まで整理作業・報告書作成作業を実施した。

3　出土遺物及び調査・整理作業にかかる各種資料は、すべて田上町教育委員会が保管・管理している。遺物の注記は2013年行屋崎遺跡の略記号で「13GZ」とし、出土地点や層位などを続けて記した。

4　本書に掲載された遺物番号はすべて通し番号とし、本文及び挿図・遺物観察表・図面図版・写真図版の番号は一致している。また、図中で示す方位はすべて座標北を示す。

5　引用・参考文献は、著者及び発行（西暦）を文中に［　］で示し、巻末に一括して掲載した。ただし、第Ⅵ章の文献については章末に掲載した。

6　本遺跡出土の鈴・X線撮影は公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団に依頼した。

7　本遺跡の性格把握と問題点について坂井秀弥氏（奈良大学）、出土土器については春日真実氏（公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団）、発掘調査及び整理全般にわたって滝沢規朗氏（新潟県教育庁文化行政課）にご指導及びご教示をいただいた。

8　自然科学分析は生物考古学研究所及び株式会社パレオ・ラボに委託して実施し、結果を第Ⅵ章に掲載した。

9　本書の執筆・編集は、田畑　弘（田上町教育委員会）の指導の下、武部喜充（株式会社ノガミ）があたり、基礎整理を会田　一・泉田智子・小林理恵・土田真由美、整理作業及び報告書作成にあたり井村　潤・永木美佳子・金子かずみ・熊野敦子・佐藤　弘・鈴木恵子・津野里美・二村裕子・福田志穂・松浦冨美子・山口　恵・吉澤由加利の協力を得た。執筆分担は以下のとおりである。

第Ⅰ章・第Ⅱ章・第Ⅶ章：田畑　弘　　第Ⅲ章～第Ⅴ章：武部喜充　　第Ⅵ章第１節：楢崎修一郎（生物考古学研究所）、第２節：藤根　久、第３節：森　将志、第４節：佐々木由香・バンダリ スダルシャン　第５節：小林克也、第６節：藤根　久、第７節：黒沼保子・バンダリ スダルシャン（以上株式会社パレオ・ラボ）

10　調査成果は現地説明会［平成25年11月３日］、平成26年度第１回新潟県考古学会研究発表会［平成26年10月18日］、報道記者発表［平成26年11月27日］などで公表しているが、本報告をもって正式な発表とする。

11　発掘調査から本書に至るまで、下記の方々から多くのご教示・ご協力をいただいた。

ここに記して厚くお礼申し上げる。（敬称略　五十音順）

相田泰臣　安達俊一　伊藤秀和　加藤　学　木立雅朗　久野正博　小林　弘　鈴木　暁　田中耕作
知野美比古　戸澗幹夫　南部裕樹　福島正実　堀沢悠一　丸山真史　本谷文雄　湯原勝美
渡邊朋和　（公財）石川県埋蔵文化財センター　株式会社イビソク新潟支店　中店嶋地区　奈良大学
新潟県三条地域振興局　（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団　新潟市秋葉区役所
新潟市秋葉区役所小須戸出張所　新潟市秋葉区水田自治会　新津郷土地改良区　羽咋市教育委員会
浜松市博物館　立命館大学　湯川地区　湯川地区農家組合

# 目　　次


序・例　言

第Ⅰ章　序　　説

第１節　調査に至る経緯 …… 1

第２節　調査の経過 …… 2

A　試掘調査 …… 2

B　本発掘調査・整理 …… 3

第３節　調査体制 …… 4

A　試掘調査 …… 4

B　本発掘調査・整理 …… 4

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境 …… 7

第２節　歴史的環境 …… 9

第Ⅲ章　調査の概要

第１節　グリッドの設定 …… 10

第２節　基本層序 …… 11

第３節　調査の基本方針 …… 12

A　現場調査での基本方針 …… 12

B　整理調査での基本方針 …… 14

第Ⅳ章　遺物包含層と遺構

第１節　概要 …… 15

A　飛鳥時代の遺物包含層と遺構 …… 15

B　平安時代の遺物包含層と遺構 …… 15

C　中世の遺構 …… 15

第２節　遺構各説 …… 15

A　旧河川流路 …… 15

B　自然堤防上の遺物包含Ⅱc層 …… 16

C　自然堤防上の遺物包含Ⅱb層 …… 16

D　掘立柱建物 …… 16

E　柵 …… 19

F　溝 …… 19

G　土坑 …… 25

H　ピット …… 40

I　杭・杭列 …… 40

## 第Ⅴ章　遺　　物


第１節　概要 …… 41
第２節　土器 …… 41
Ａ　土器の分類 …… 41
Ｂ　古墳時代後期の土器 …… 45
Ｃ　飛鳥時代の土器 …… 45
１）旧河川流路SR400遺物包含5a・7層 …… 45
２）自然堤防上の遺物包含Ⅱc層 …… 46
３）掘立柱建物 …… 46
４）溝 …… 47
５）土坑 …… 47
６）ピット …… 50
Ｄ　平安時代の土器 …… 50
１）溝 …… 50
２）自然堤防上の遺物包含Ⅱb層 …… 51
Ｅ　中世の土器 …… 51
Ｆ　弥生時代の土器 …… 51
Ｇ　遺構外の土器 …… 51
Ｈ　試掘調査時の土器 …… 51
第３節　土製品 …… 52
第４節　石製品 …… 53
第５節　金属製品 …… 54
第６節　木製品 …… 55
第７節　植物遺体（種子） …… 58
第８節　獣骨 …… 58
第９節　その他 …… 58


## 第Ⅵ章　自然科学分析


第１節　出土獣骨 …… 59
第２節　珪藻化石群集 …… 63
第３節　花粉分析とプラント・オパール分析 …… 71
第４節　出土大型植物遺体 …… 78
第５節　出土木材の樹種同定 …… 83
第６節　旧河川流路SR400の5b層中のシルト …… 84
第７節　出土木製品・加工木の樹種同定 …… 85


## 第Ⅶ章　ま　と　め


第１節　行屋崎遺跡の総括 …… 97
第２節　飛鳥時代における行屋崎遺跡の性格 …… 101

《要　　約》…… 102
《引用・参考文献》…… 103
《観　察　表》…… 107
**遺構観察表**
遺構観察表（１）掘立柱建物（SB）…… 107
遺構観察表（２）柵（SA）…… 109
遺構観察表（３）溝（SD）…… 109
遺構観察表（４）旧河川流路（SR）…… 110
遺構観察表（５）土坑（SK）…… 110
**遺物観察表**
土器観察表…… 112
土製品観察表…… 117
石製品観察表…… 118
金属製品観察表…… 118
木製品観察表…… 118
獣骨出土一覧表…… 123

# 挿　図　目　次

第１図　試掘トレンチ位置図……2
第２図　試掘トレンチ別土層断面摸式図……2
第３図　行屋崎遺跡と周辺の地形図（1：3,000）……6
第４図　行屋崎遺跡と周辺の遺跡位置図（1：25,000）……8
第５図　グリッド設定図（1：1,000）……10
第６図　基本層序と遺構検出層位模式図……13
第７図　遺構の平面・断面形状の分類……14
第８図　覆土の堆積形状の分類……14
第９図　飛鳥時代の土器分類（１）……42
第10図　飛鳥時代の土器分類（２）……43
第11図　平安時代の土器分類図……43
第12図　飛鳥時代の土器分布図（重量）……43
第13図　SK172（左）・207（中）・665（右）出土獣骨写真……59
第14図　旧河川流路SR400（14B20グリッド）出土獣骨写真……60
第15図　旧河川流路SR400（14B19グリッド）出土獣骨部位図……60
第16図　旧河川流路SR400（14B23グリッド）出土獣骨写真……61
第17図　旧河川流路SR400（14B23グリッド）出土獣骨部位図……61
第18図　旧河川流路SR400（15C02グリッド）出土獣骨写真……61
第19図　旧河川流路SR400（15C02グリッド）出土獣骨部位図……61
第20図　旧河川流路SR400（15C06グリッド）出土獣骨写真……62
第21図　旧河川流路SR400（15C06グリッド）出土獣骨部位図〔図はカモではなくハト〕……62
第22図　堆積物中の珪藻化石分布図（主な分類群を表示）……69
第23図　堆積物中の珪藻化石の顕微鏡写真……70
第24図　行屋崎遺跡における花粉分布図……75
第25図　行屋崎遺跡における植物珪酸体分布図……75
第26図　行屋崎遺跡から産出した花粉化石……76

第27図　行屋崎遺跡から産出した植物珪酸体 …… 77
第28図　行屋崎遺跡から出土した大型植物遺体 …… 82
第29図　行屋崎遺跡出土木材の光学顕微鏡写真 …… 83
第30図　旧河川流路SR400の5b層中のシルト …… 84
第31図　行屋崎遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（１）…… 92
第32図　行屋崎遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（２）…… 93
第33図　行屋崎遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（３）…… 94
第34図　行屋崎遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（４）…… 95
第35図　行屋崎遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（５）および試料写真 …… 96

# 表　目　次

第１表　トレンチ別検出遺構・遺物一覧 …… 2
第２表　行屋崎遺跡周辺の主な遺跡 …… 9
第３表　行屋崎遺跡出土獣骨のまとめ …… 62
第４表　分析を行なった試料とその詳細 …… 63
第５表　堆積物中の珪藻化石産出表〔種群は［小杉1988］および［安藤1990］による〕 …… 66
第６表　旧河川流路SR400堆積物分析試料一覧 …… 71
第７表　産出花粉胞子一覧表 …… 74
第８表　試料１g当たりのプラント・オパール個数 …… 75
第９表　出土した大型植物遺体 …… 78
第10表　出土グリッドごとの大型植物遺体 …… 81
第11表　出土木材の樹種同定結果 …… 83
第12表　遺構別の樹種構成 …… 85
第13表　器種別の樹種構成 …… 89

# 図　版　目　次

［図面図版］

図面図版１　遺跡全体図・時代別遺構色分け図（1：600）、遺跡分割配置図（1：800）
図面図版２　遺跡分割図１（１：100）
図面図版３　遺跡分割図２（１：100）
図面図版４　遺跡分割図３（１：100）
図面図版５　遺跡分割図４（１：100）
図面図版６　遺跡分割図５（１：100）
図面図版７　旧河川流路SR400遺物出土状態分割図１（１：40）
図面図版８　旧河川流路SR400遺物出土状態分割図２（１：40）
図面図版９　旧河川流路SR400遺物出土状態分割図２のエレベーション図、遺物出土状態分割図３（１：40）
図面図版10　SB131・132（１：60）
図面図版11　SB198・199（１：60）
図面図版12　SB500・501・502（1：60）
図面図版13　SB503・504（１：60）
図面図版14　SB505・506（１：60）
図面図版15　SB507・508（１：60）
図面図版16　SB509・510（１：60）
図面図版17　SB511（１：60）、SA515（１：80）、SD4・5・33（１：40）
図面図版18　SD33・73・75・94・95・100・111・116・117・141・160・200・250・613、P438・459・460・556（１：40）
図面図版19　SD290・291・307・340・341・347・374、SK348・351・717・807（１：40）

図面図版20　SD384・412・414・488・491・532・668・724・768、SK1・3・6・7・665、P753（1：40）
図面図版21　SK2・9・10・11・13・16・19・20・21・24・29・30、P711（1：40）
図面図版22　SK40・58・74・85・88・89・110・128・130・135・136・137・138、P541（1：40）
図面図版23　SK150・151・163・165・167・170・172・174・180・182・190、P157・173・329・440・444・445（1：40）
図面図版24　SK197・207・208・210・215・216・234・237・240.・244・246、P223・375・587・605・608（1：40）
図面図版25　SK247・261・277・278・281・282・297・306・308・309・314・717・744、SD307、P276・458・464・467・470・564・623・643・649・746・797（1：40）
図面図版26　SK311・313・322・330・345・348・351・370・402、SD291・340・347、P684・728（1：40）
図面図版27　SK371・377・378・382・383・389・390・391・413・436、P680・681・683（1：40）
図面図版28　SK393・394・398・403・405・719・720・727、P350・379・513・533・536・542・723・757（1：40）
図面図版29　SK409・415・416・417・421・423・741、SD414、P401・406・527（1：40）
図面図版30　SK418・420・424・425・426・430・437・452・490・547、P521・529（1：40）
図面図版31　SK280・281・557・558・559・560・574・628・637・744、P70・466・538・631・642・643・655・657（1：40）
図面図版32　SK653・665・726・755・764・765、SD724（1：40）
図面図版33　SK730・731・732・733・734・767、SR400、SD768、P706（1：40）
図面図版34　P38・42・80・90・92・93・96・98・105・107・120・125・134・142・143・146・685（1：40）
図面図版35　P149・153・154・155・156・161・168・171・183・193・194・202・203・204・205・206・218・225（1：40）
図面図版36　P226・227・241・242・252・253・254・266・275・279・295・296・304・312・316・320・323・325・335・407・610（1：40）
図面図版37　P343・354・355・356・365・366・372・376・380・385・386・387・388・410・433・434・573・626・721（1：40）
図面図版38　P435・442・443・473・474・476・525・562・629・630・650・725・735・736・738・743・746・750（1：40）
図面図版39　K26・69・108・338・344・349・392・396・566・654・664・686・687・688・693・695・696・698・700・701・773・774・776・777・778・780・781（1：40）
図面図版40　古墳時代後期、飛鳥時代（旧河川流路SR400）の土器1
図面図版41　飛鳥時代（旧河川流路SR400）の土器2
図面図版42　飛鳥時代（旧河川流路SR400）の土器3
図面図版43　飛鳥時代（旧河川流路SR400）の土器4
図面図版44　飛鳥時代（遺物包含Ⅱc層、SB506・508・509、SD33・73・117）、平安時代（SD4）の土器
図面図版45　飛鳥時代（SD250、SK1・2・9・20・40・58・128・172・190・197・210）、平安時代（SD291・340・491）の土器
図面図版46　飛鳥時代（SK210・234・237・247・261・278・311・313・351・370・389・394）の土器
図面図版47　飛鳥時代（SK398・402・403・421・423・719）の土器
図面図版48　飛鳥時代（SK720・726・727・732・733・734・755・767）の土器
図面図版49　飛鳥時代（SK767）、中世（SD290、SK280）、弥生時代、遺構外、平安時代（遺物包含Ⅱb層）、試掘調査時出土の土器
図面図版50　土製品1（ミニチュア土器、手捏ね土器、人形・動物形土製品、紡錘車、土錘、板状土製品、円柱支脚）
図面図版51　土製品2（円柱支脚、鞴羽口、円筒形土製品、塊状土製品）
図面図版52　土製品3（カマド形土製品）、石製品1（紡錘車、紡錘車未成品か、権状錘、砥石）
図面図版53　石製品2（凹石、砥石）、金属製品（鈴、耳環、鉄鏃、鉄斧、鑿）、鍛冶滓
図面図版54　木製品1（直柄平鍬284、一木平鋤未成品286、柄287～293、竪杵294、糸車の横木295、田下駄296、大足の横桟297、櫂298・299、弓状木製品300・301）
図面図版55　木製品2（弓状木製品302～310、用途不明木製品311～317）
図面図版56　木製品3（丸木弓318～324、把手付槽325、槽326、板材（木樋か）327～335、曲物底板336～338）
図面図版57　木製品4（曲物底板339～343、曲物綴じ樹皮344・345、皿346、皿347、俎板か348、俎板349、

物差し350、斎串351 ～ 358）
図面図版58　木製品５（火鑽杵359・360、焚付け木361、二又材362 ～ 367、板材368 ～ 370、角棒371 ～ 384、板材385 ～ 401）
図面図版59　木製品６（板材402 ～ 409、角材410 ～ 418、割材419、角材420・421、割材422、角材423、板材424）
図面図版60　木製品７（角材425・426、割材427 ～ 429、角材430、割材431 ～ 442）
図面図版61　木製品８（割材443、杭444、割材445、杭446 ～ 455、建築部材456・457、用途不明材458 ～ 462）
図面図版62　木製品９（柱根463 ～ 482、杭483 ～ 486）
図面図版63　木製品10（杭487 ～ 504）

［写真図版］

写真図版１　遺跡全景、遺跡遠景
写真図版２　旧五社川流路全景、遺跡遠景、遺跡近景
写真図版３　調査前全景、旧河川流路（１）
写真図版４　旧河川流路（２）
写真図版５　旧河川流路（３）
写真図版６　旧河川流路（４）
写真図版７　旧河川流路（５）
写真図版８　旧河川流路（６）
写真図版９　旧河川流路（７）
写真図版10　遺物包含Ⅱc層、掘立柱建物（１）
写真図版11　掘立柱建物（２）
写真図版12　掘立柱建物（３）
写真図版13　掘立柱建物（４）
写真図版14　掘立柱建物（５）、柵、溝（１）
写真図版15　溝（２）
写真図版16　溝（３）
写真図版17　溝（４）
写真図版18　溝（５）
写真図版19　溝（６）
写真図版20　溝（７）、土坑（１）
写真図版21　土坑（２）
写真図版22　土坑（３）
写真図版23　土坑（４）
写真図版24　土坑（５）
写真図版25　土坑（６）
写真図版26　土坑（７）
写真図版27　土坑（８）
写真図版28　土坑（９）
写真図版29　土坑（10）
写真図版30　土坑（11）
写真図版31　土坑（12）
写真図版32　土坑（13）
写真図版33　土坑（14）
写真図版34　土坑（15）
写真図版35　土坑（16）
写真図版36　土坑（17）
写真図版37　土坑（18）
写真図版38　土坑（19）
写真図版39　土坑（20）
写真図版40　土坑（21）
写真図版41　土坑（22）
写真図版42　土坑（23）
写真図版43　土坑（24）
写真図版44　土坑（25）
写真図版45　ピット（１）
写真図版46　ピット（２）、杭・杭列（１）
写真図版47　坑・杭列（２）
写真図版48　地震による噴砂脈、遺構調査状況、現地説明会
写真図版49　飛鳥時代、平安時代、中世、弥生時代の土器群
写真図版50　土器（１）旧河川流路
写真図版51　土器（２）旧河川流路
写真図版52　土器（３）旧河川流路
写真図版53　土器（４）旧河川流路
写真図版54　土器（５）旧河川流路
写真図版55　土器（６）旧河川流路、遺物包含Ⅱc層、掘立柱建物、溝
写真図版56　土器（７）溝、土坑
写真図版57　土器（８）土坑
写真図版58　土器（９）土坑
写真図版59　土器（10）土坑、中世、弥生時代
写真図版60　土器（11）弥生時代、平安時代（Ⅱb層）、遺構外、試掘調査、籾痕のある土器片
写真図版61　土製品（１）
写真図版62　土製品（２）
写真図版63　土製品（３）、石製品（１）
写真図版64　石製品（２）、金属製品、鍛冶滓
写真図版65　木製品（１）
写真図版66　木製品（２）
写真図版67　木製品（３）
写真図版68　木製品（４）
写真図版69　木製品（５）
写真図版70　木製品（６）
写真図版71　木製品（７）
写真図版72　木製品（８）
写真図版73　木製品（９）
写真図版74　木製品（10）

# 第Ⅰ章　序　　説

## 第１節　調査に至る経緯

国道403号バイパスの建設工事が行われることとなり、平成24年度に工事予定地内の遺跡の状況を把握するため、平成24年９月24日から10月10日にかけて試掘調査を実施した。

調査地は、沖積地及び五社川により形成された自然堤防上に立地している。層序は地点によって異なるが、大まかに表土（耕作土）、盛土（客土）と、その下に堆積が異なる層を挟んで、基盤層となる青灰色土（粘土・シルト・砂）に至る。遺構・遺物が確認された地点の基盤層は地表下60 ～ 70㎝と周囲より高くなっており、この付近を中心に飛鳥・奈良時代と平安時代の土器や木製品が多数検出された。

遺物包含層は暗青灰色か暗灰色土であり、その直上との漸移層付近からも若干遺物が出土している。南側に地形の落ち込みが確認でき、その部分では包含層が二面確認されたが、それ以外は一面しか確認されなかった。7世紀後半～ 8世紀前半の土師器や須恵器を中心に同時期の木製品と９世紀代の遺物も僅かだが確認された。遺構は包含層下の青灰色土で、土坑、溝、ピットが検出された。部分的に包含層上層でも「踏込痕」と見られるマダラな層の乱れも確認できたが、基本的に遺構確認面は一面と捉えた。

遺跡名を決定するに当たり小字名から「行屋崎遺跡」と命名し、町教委より県教育庁あて遺跡発見通知を提出し、この場所が埋蔵文化財包蔵地と周知化された。このことにより、新潟県教育委員会教育長から新潟県に対して、工事着手前に発掘調査を実施するよう指示が行われたため、文化財保護法の規定により、平成25年２月６日付け三振地第761号で新潟県三条地域振興局長から新潟県教育委員会教育長に埋蔵文化財発掘の通知が提出された。その後、工事予定期間と埋蔵文化財保護の観点から、遺跡の記録保存を図るための事前の発掘調査が必要となり、協議の結果、新潟県より田上町に発掘調査業務が委託され、発掘調査を実施したものである。

埋蔵文化財試掘調査結果報告での層序は、地点ごとに異なるが、大きく表土（耕作土）、盛土（客土）、その直下は地点ごとに堆積が異なる土層を挟み基盤層となる青灰色土（粘土・シルト・砂）となる。五社川以南では基盤層となる青灰色粘土が現在の地表下1.5 ～ 2.0mで確認でき、表土の下にはガツボ層が厚く堆積していた。五社川以北では、10 ～ 19トレンチ付近で同様の傾向にあったが、18 ～ 24トレンチ付近では基盤層が地表下60 ～ 70㎝で確認できるなど、基盤層が高く、この付近を中心に古代の遺構・遺物が多数検出された。

遺物包含層は暗青灰色（暗灰色）土と考えられ、その直上層との漸移層付近からも若干出土している。地形の落ち込みが確認できた24トレンチ以南の26 ～ 31トレンチでは廃棄場としていたためか、遺物包含層が複数面存在している。その他のものについては基本的に一層だと思われる。遺物の大半は7世紀後半の土師器と須恵器である。

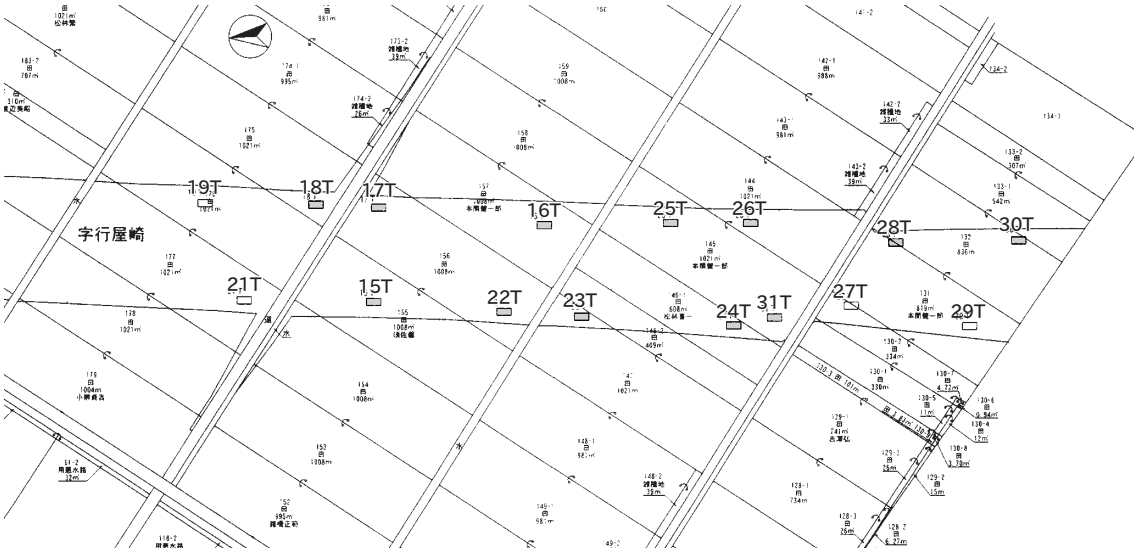
# 第２節　調査の経過

## Ａ　試掘調査

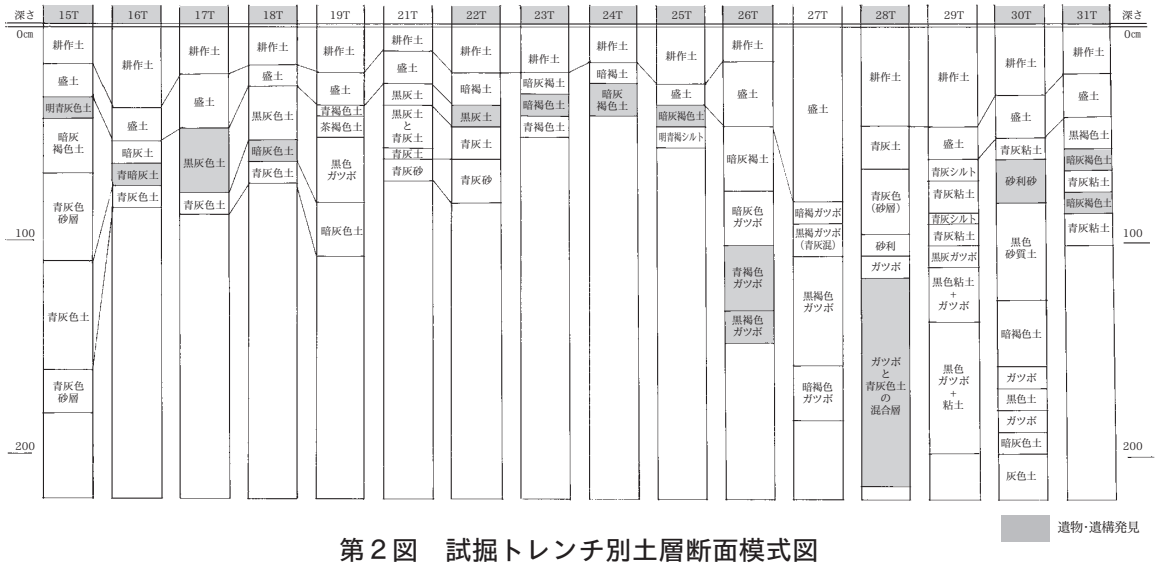
町道中店・後藤1号線から新潟市境界までの工事予定地内18,000㎡を対象に、工事予定地内に任意にト

**第１表　トレンチ別検出遺構・遺物一覧**

| トレンチ№ | 遺　　構 | 土師器 | 須恵器 | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 15 | | 3 片（5g） | | |
| 16 | 土坑、ピット 6 | 95 片（530g） | 7 片（180g） | |
| 17 | 溝 1 | 125 片（1,820g） | 17 片（770g） | 木材 2 片（5g） |
| 18 | | 4 片（20g） | 2 片（5g） | |
| 22 | 溝 1 | 553 片（600g） | 6 片（220g） | |
| 23 | 土坑、ピット 9 | 140 片（850g） | 20 片（760g） | |
| 24 | 土坑、竪穴 1 ？ | 310 片（支脚 2）（2,700g） | 22 片（300g） | |
| 25 | 土坑、ピット 5 | 115 片（700g） | 17 片（240g） | |
| 26 | | 157 片（3,690g） | | 砥石 1 片（550g）<br>木材 2 片<br>種実 3 片（380g） |
| 28 | | 2 片（70g） | | |
| 30 | | 2 片（5g） | | 木材 10 片（150g） |
| 31 | | 644 片（7,820g） | 3 片（60g） | |




第１図　試掘トレンチ位置図　（１：1,500）




第２図　試掘トレンチ別土層断面模式図

レンチを31箇所（面積約700㎡）設定し、平成24年９月24日から10月10日にかけて試掘調査を実施した。その結果、12箇所のトレンチから遺構・遺物が確認された。

須恵器を中心に、同時期ものと考えられる木製品や９世紀代の土師器が確認できた。確認された遺構は包含層下の青灰色土で、土坑、ピット、溝が検出された。16トレンチなどで包含層の上層でも「踏込痕」だと思えるマダラな土層の乱れが確認できたが、基本的に遺構確認面は一層とした。

以上の事から、周辺より基盤層が高くなっている地点に集落が立地していると捉えた。これに加え、24トレンチ以南の26 ～ 31トレンチは、旧五社川の流路の可能性を想定された。また、26 ～ 31トレンチ以南は湿地が広がっている為、遺物の廃棄場所であった可能性も考えられる。

このことから、遺構、遺物が検出された地点を中心に新発見遺跡「行屋崎遺跡」として周知化し、協議の結果、調査は、事業予定地内の遺構、遺物が検出された地点南北160mの範囲で実施することとなった。

## Ｂ　本発掘調査・整理

試掘調査結果をもとに、工事予定地内に調査面積3,740㎡の調査区が設定され、調査準備工事・本発掘調査及び基礎整理は平成25年５月27日から平成26年3月14日、本格的な整理作業及び報告書作成は平成26年５月16日から平成27年２月27日までを要した。以下に作業日報を参照とした調査経過について月ごとに記す。

### １）本発掘調査と基礎整理（平成25年５月27日～平成26年３月14日）

５　月　期：５月27日から調査区確認と覆工板設置など調査準備工事を開始した。

６　月　期：駐車場整備や作業・休憩棟建設を終え、６月12日から25日まで重機による表土除去を実施した。

７　月　期：調査区内の側溝掘削と自然堤防上の遺物包含層掘削を中心に作業を進めた。調査区南側の旧河川流路はⅠa層から４層までを重機で掘削し、それ以下の5a層から７層までは人力で掘削を進めた。

８　月　期：自然堤防上の遺物包含層掘削と溝の掘削調査を中心に作業を進めた。盆前に遺物包含層掘削を終え、遺構確認作業へと移行した。SD291内に２列の平行した杭列が確認され、土層断面観察から４回以上造り替えた水路であることが判明した。

９　月　期：自然堤防上の遺構掘削調査を中心に作業を進めた。多くの炭化物と焼けた獣骨片を含む土坑が多数検出された。出土土器から飛鳥時代の所産とみられる。また、当月から遺物洗浄及び注記作業を開始した。周辺の稲刈り終了後、調査区南側の現道を通行止めにして旧河川流路の掘削拡張を実施した。

10　月　期：旧河川流路の掘削調査を中心に作業を進めた。最下層である７層中から多数の土器と木製品が出土した。流路の西側では土器が意図的に配置されている状況が見てとれた。当月末までに自然堤防上の遺構掘削調査をほぼ終了した。

11　月　期：３日に現地説明会を実施し（来訪者159名）、９日には空撮を実施した。旧河川流路掘削調査を中心に進め、30日に基盤層に打ち込まれた杭の断ち割り調査を以て全ての遺構調査を終えた。

12　月　期：２日から現地撤収作業を開始し、調査区埋め戻しと掘削した南側の現道・暗渠の復旧を中心に進めた。26・27日に作業・休憩棟を撤去し、全ての現地作業を終了した。また、基礎整

理は遺構写真及び遺構図面整理を中心に実施した。

１　月　期：基礎整理は先月に引き続いて遺構の写真及び図面の整理を中心に実施した。

２　月　期：基礎整理は出土した木製品のデータ作成を中心に実施した。また、当月で遺物の注記作業を終了した。

３月上半期：基礎整理は出土した土器・土製品・石製品・金属製品のデータ作成を中心に実施し、14日で作業を終了した。

２）本格的整理と報告書作成（平成26年５月16日～平成27年２月27日）

５～７月期：遺物整理は土器の接合・復元と木製品の実測・トレース及び写真撮影を中心に作業を進めた。遺構整理は写真図版作成と遺構断面図トレースを実施した。

８～10月期：遺物整理は土器・土製品・石製品・金属製品の実測・トレース及び写真撮影を中心に作業を進めた。遺構整理は遺構図面図版作成を実施した。

11･12月期：遺物の写真・図面図版及び観察表と遺構図面図版及び観察表を入稿した。

１　月　期：本文原稿と挿図を入稿し、既に入稿済みのものの校正を重ねた。

２　月　期：第３週に校了とし、印刷・製本を実施した。

## 第３節　調査体制

### Ａ　試掘調査

調査期間　平成24年９月24日～平成24年10月10日

調査主体　田上町教育委員会　教育長　丸山　敬

事 務 局　田上町教育委員会

管　　理　事務局長　今井　登

管理補佐　事務局長補佐　佐藤　正

事　　務　生涯学習係長　大平哲也（田上町教育委員会生涯学習係長）

調査担当　本間秀之（田上町役場町民課住民係長・元埋蔵文化財調査員）

調 査 員　山崎忠良（新潟県教育庁文化行政課埋蔵文化財係主任調査員）

小野本　敦（新潟県教育庁文化行政課埋蔵文化財係文化財調査員）

滝沢規朗（新潟県教育庁文化行政課埋蔵文化財係専門調査員）

### Ｂ　本発掘調査・整理

調査期間　平成25年６月12日～平成25年11月30日

整理期間　平成25年12月１日～平成26年３月14日、平成26年５月16日～平成27年２月27日

調査主体　田上町教育委員会　教育長　丸山　敬

調査指導　新潟県教育庁文化行政課

事 務 局　田上町教育委員会

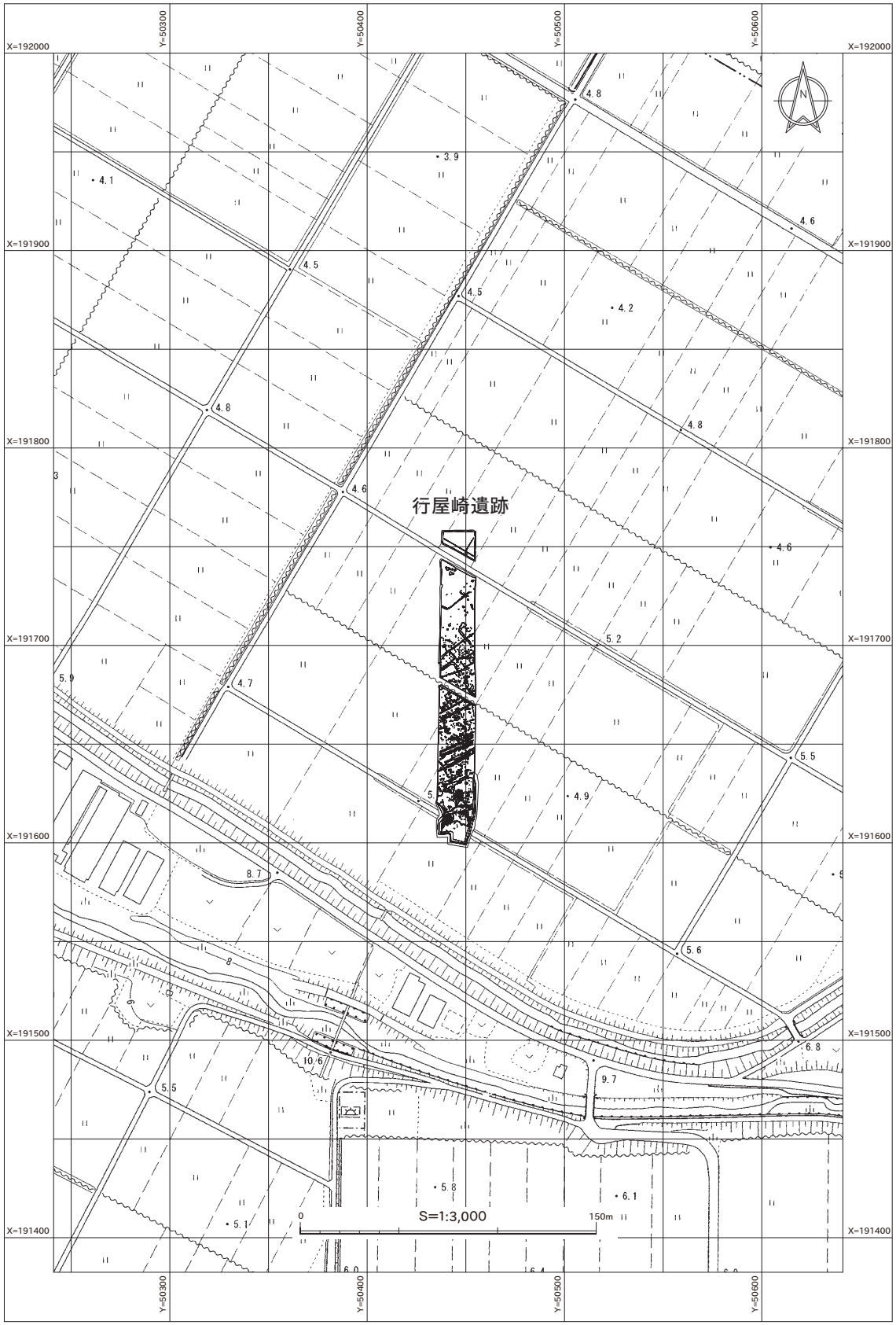
管　　理　事務局長　福井　明

管理補佐　事務局長補佐　佐藤　正

事　　務　生涯学習係長　大平哲也

調査担当　主事　　田畑　弘

支　　援　株式会社　ノガミ
現場代理人　西山英仁　（株式会社ノガミ・埋蔵文化財調査部）
世　話　人　島倉恭彦　（　　同　　）
調 査 指 導　戸根与八郎　（　　同　　調査室長）
調　査　員　武部喜充　（　　同　　調査員）
小泉真悟　（　　同　　調査員　平成25年11月30日まで)
福山俊彰　（　　同　　調査員　平成25年８月１日まで）
渡辺大士　（　　同　　調査員　平成25年８月２日～９月９日）
小野麻人　（　　同　　調査員　平成25年９月13日～ 11月７日）
村端和樹　（　　同　　調査員　平成25年12月１日～同26年３月14日）
秋山真好　（　　同　　調査員　平成25年12月１日～同26年３月14日）
発掘補助員　会田　一　阿部聆子　泉田智子　伊丹広雄　井本良二　榎本　眞　遠藤直人　小野　清
小畑孝子　小柳伸吾　笠原勝雄　柏住子　加藤正夫　金子富士夫　栢森康史　君川忠志
木村勝子　窪田秀耶　熊倉嘉一　古泉秋男　小林和夫　小林信二　小林信行　小林理恵
昆　清　齋藤順子　坂内時雄　笹川玲子　佐藤俊宏　佐藤秀則　佐藤　弘　島倉栄一
下山拓哉　城丸君恵　白井勇　関川博純　関川善久　高橋桂次　高野弘行　高山万里子
田中春雄　田中由秋　田巻弘一　土田真由美　寺尾　清　内藤　隆　長沼　公　中村享祐
前田研亮　松村ジョン正樹　村山孝芳　森田弘助　矢部ヨシ子　山川克仁　山本　誠
山本直子　横木吉美　横山末男　吉田ノブ　吉田美代　渡辺喜枝子　渡辺松男　渡辺ヤマ
整理補助員　井村　潤　永木美佳子　金子かずみ　熊野敦子　佐藤　弘　鈴木恵子　津野里美　二村裕子
福田志穂　松浦冨美子　山口　恵　吉澤由加利




第３図　行屋崎遺跡と周辺の地形図（１/3,000）

# 第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

## 第１節　地理的環境

新潟県中越地方、新潟市と長岡市のほぼ中間に位置する田上町は、東に新津丘陵、西に信濃川、南に加茂川に囲まれ北に新潟平野が広がっている。日本海側最大の沖積平野である新潟平野の地質構造は、白亜紀後期の花崗岩類と新生代第三紀の火山岩類や堆積岩類を基盤にしている。北側の櫛形山脈、五頭連峰は6,400万年前頃の花崗岩類からなり、東側の飯豊連峰、朝日山地は8,200万年前頃の花崗岩や花崗片麻岩類から成り立っている。第三紀中新世の1,500万年前頃から日本海が拡大し、大規模な海底火山活動が始まって泥や砂とともにグリーンタフという火山灰が大量に堆積し、それに伴う地殻変動により褶曲や断層が動いた。地質構造は、第四紀更新世中期に入った50万年前に落ち着いてくるが、現在でも活発な構造として継続しているものもある。

新潟平野は、弥彦・角田山地と平野との境界をなす新潟平野西縁断層と、東縁の月岡断層・長岡平野西縁断層などの活断層で区切られた窪地である。西縁断層が活動し、弥彦・角田山地が隆起して日本海との間を遮ったため、北東縁から村上市に至る砂丘列を形成し、内陸側が隔離され、いくつかの湾や潟湖を造ったものである。新潟平野の北東部側の荒川、胎内川、加治川、阿賀野川は東方向から西方向へ注ぎ、南西部側の信濃川は南西方向から北東方向に注いでいる。

新津丘陵は、北北東から南南西に延び、東西にゆるやかな起状を呈し、新潟平野のほぼ中央に突出する丘陵で東側には阿賀野川の支流の能代川、早出川、西側は信濃川によって形成されたものである。この丘陵のほぼ中央に菩提寺山（248.4m）、高立山（274.9m）、護摩堂山（274m）があり、これらに源を発する小河川が東西に流れ、前述した河川の支流として流れている。丘陵を構成する地形面は矢代田段丘（Yashiroda.T）と蒲ヶ沢段丘（Gamagasawa.T）に区別されており、前者は高位段丘に、後者は中位段丘に対比されている。これらを丘陵の西側で観察すると、信濃川によって形成された沖積低地より一段高い標高10 ～ 40mに比較的広い平坦面が新潟平野沿いに分布し、また、標高100mまでは５～６°の傾斜があるが、部分的には平坦な場所もあり、段丘地形を示唆している。標高100m以上は傾斜が険しく変化のとんだ波状丘陵地形である。

地質構造は、丘陵地帯のほぼ中央から東側では新第三紀層の西山層や第四紀層の灰爪層が分布し、その外側に魚沼層群が分布している。西側はおもに新第三紀層の椎谷層、護摩堂山を中心に分布する火山岩類、魚沼層群が分布し、その外側を平野沿いに第四紀層の矢代田層が分布しているが、東側には存在していない。また、西縁では断続的に分布しており、比高10m前後の段丘地形を構成する蒲ヶ沢層が存在しており、下位の矢代田層とは、不整合な状態で接している。

矢代田層の厚さは90 ～ 100mと推定される。下部におもに硅岩、砂岩、流紋岩、緑色凝灰岩、花崗岩からなる中礫で、一部には風化し、砂礫となっているものも見られる。この砂礫層の上に渇鉄鉱のバンドや淡桃色の粘土層を挟み、黒色の斑点混じりの茶褐色中粒砂層が堆積し、その上面を赤色土と黒褐色の表土が覆っている。

第４図　行屋崎遺跡と周辺の遺跡位置図（1：25,000）

# 第２節　歴史的環境

## Ａ　中世以前

行屋崎遺跡を中心として、周辺に位置する遺跡を第４図に示した。この中で田上町内での発掘調査のほとんどがほ場整備事業による水路と農道等の小規模なものである。表には記載されていないが、縄文時代中期の古屋敷遺跡［中島ほか1976］、縄文時代晩期～中世の保明浦遺跡［田畑1996］、平安時代中期の両面に廂を伴う大型掘立柱建物と石硯が出土した道下遺跡［田畑1994］がある。近隣で詳細な内容が把握できるのは新潟市の大沢谷内北遺跡［前山ほか2010］と大沢谷内遺跡［前山ほか2012］などごくわずかである。特に大沢谷内遺跡は、縄文時代晩期中葉～中世に至る複合遺跡で、飛鳥時代の集落跡の立地が信濃川を上り小河川に入った北側で、新津丘陵と信濃川に挟まれた沖積地に位置することと、県内では希少な飛鳥時代の集落跡と祭祀場の例が確認されているなど本遺跡との共通点が多い遺跡である。

## Ｂ　近世以降

行屋崎遺跡の所在する田上町大字湯川の地名が最初に見えるのは、天正５年（1577）の三条衆給分帳に黒井弥七郎分として「金津保之内遊川」とある。当初から蒲原郡に属し、はじめは新発田藩領であったが寛政年間から幕府領となっている。寛政５年（1793）の加茂組明細帳のよると、寺は曹洞宗安龍寺、宮は五社神社など６社があった。村内に雑木御林山８か所と竹御竹山２か所が置かれ、百姓山には小須戸組の小向・横川浜の２村が入山していた。そのためか山畑開発による境界を争いが多くあり、元禄４年に護摩堂山境界をめぐり田上・橋田・菅沢の３か村が、また寛政２年に大平山境界をめぐり矢代田村・天ヶ沢新田・鎌倉新田が文化２年に鎌倉新田、同３年には天ヶ沢新田とそれぞれ争っている。湯川地内で寛永７年頃まで草水油（石油）が採掘されていたとあり、寛保年間頃まで中通り往還路の人馬継立場で本陣屋敷も置かれていた。

湯川村は明治に入り、明治12年から南蒲原郡に所属し、同22年に田上村の大字となり現在に至っている。明治30年の豪雨で五社川が決壊し、下流の新津郷より1,000人余りが暴動を起こす事件があり、その後いくつかの水害があって昭和42年８月28日未明から29日昼頃にかけての羽越水害の後、大幅な河川改修が行われ、現在の形となったものである。

なお、この羽越水害の後の翌年６月に調査区約300m東側の新津郷土地改良区の水路から、当時重機で井浚いした折り、６世紀後半の椀２点と甕１点が採取されている。現在その時の遺物は、湯川五社神社にて保管されている。

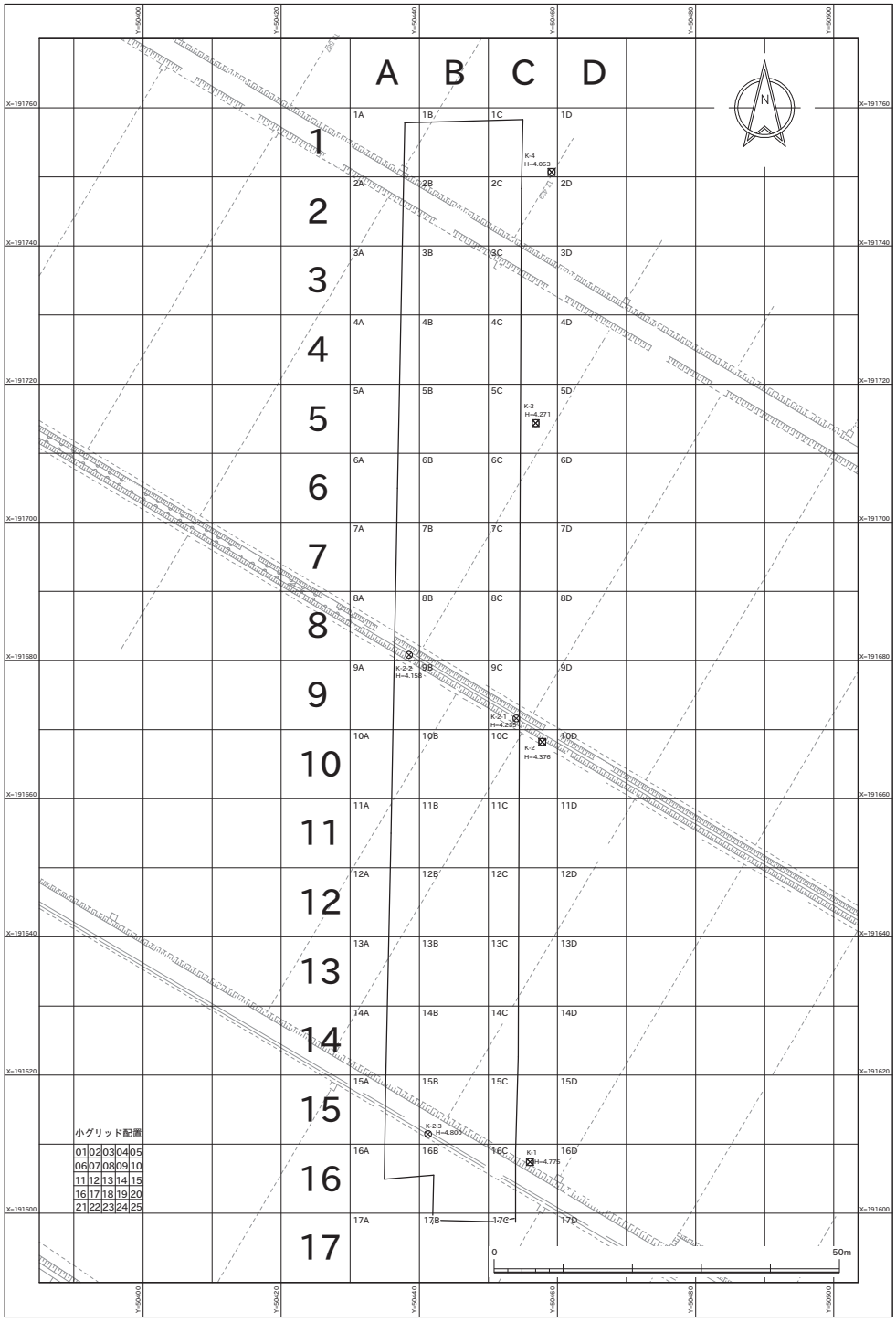
**第２表　行屋崎遺跡周辺の主な遺跡**

| 番号 | 遺跡名 | 市町村 | 時代 | 番号 | 遺跡名 | 市町村 | 時代 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 東腰付 | 新潟市秋葉区 | 古代 | 13 | 館外 | 田上町 | 古代 |
| 2 | 横川浜堤外地 | 〃 | 縄文・古代・中世 | 14 | 三波 | 〃 | 縄文 |
| 3 | 五本田館跡 | 〃 | 中世 | 15 | 土居下 | 〃 | 古代 |
| 4 | 大沢谷内市道 | 〃 | 縄文・古代・中世 | 16 | 下屋敷 | 〃 | 古代 |
| 5 | 大沢谷内北 | 〃 | 縄文・中世 | 17 | 新川 | 〃 | 縄文・古代 |
| 6 | 大沢谷内 | 〃 | 縄文・弥生・古墳・中世 | 18 | 田上館跡 | 〃 | 中世 |
| 7 | 西紙山館跡 | 〃 | 中世 | 19 | 諏訪の前 | 〃 | 古代 |
| 8 | 浦ノ沢 | 〃 | 古代 | 20 | 中轄 | 〃 | 古代 |
| 9 | 六兵衛沢 | 〃 | 古代 | 21 | 二段あげ | 〃 | 古代 |
| **10** | **行屋崎** | **田上町** | **弥生・古墳・古代・中世** | 22 | 館内 | 〃 | 古代 |
| 11 | 山田古銭出土地 | 〃 | 中世 | 23 | 上谷内 | 〃 | 古代 |
| 12 | 糖吐 | 〃 | 縄文・古代・中世 | | | | |

# 第Ⅲ章　調査の概要

## 第１節　グリッドの設定

グリッドの設定については今後の調査継続に伴う復元性を考慮し、道路法線に沿った任意のものではな




測地系：世界測地系　2011　座標系：第Ⅷ系

第５図　グリッド設定図（1：1,000）

く東西座標軸による数字で設定した。

グリッドは、国家座標Ⅷ系に沿って10mの方眼を組み、これを大グリッドとした。大グリッドの呼称は、北から南へアラビア数字で１～17、西から東でアルファベットの大文字でA～Dとした記号を組み合わせ、1A・2A…、1B・2B…、1C・2C…のように呼称した。さらに大グリッド内を25分割し、北西隅を01、北東隅を05、南西隅を21、南東隅を25となるように番号を付して２m四方の小グリッドとし、大グリッド番号との組み合わせで、「４A15」などと表した。調査範囲のほぼ中央に位置する7Bグリッド北西隅の杭の座標はX＝191700.000、Y＝50440.000である。

## 第２節　基本層序

本遺跡は信濃川及びその支流によって形成された沖積地の氾濫平野に立地しており、今回の調査区は支流である五社川右岸の微高となる自然堤防上と五社川の旧河川流路に跨っている。

旧河川流路の基盤層であるⅢ層（灰白色粘質シルト）は、調査区南端から北へ約30mの地点で標高3.20mの川辺となって南へ徐々に標高を下げる。調査区南端では標高は1.20mとなり、川辺から南までの下り勾配は約５°～７°と緩やかであり、それ以南は急勾配となる。旧河川流路の堆積層序は、現水田土壌と昭和40年代に行われた耕地整備時の盛土などをIa～Ic層、中世以降の水田土壌をⅡa・Ⅱa'層、流路の堆積土を１～７層にそれぞれ分層した。小泊産須恵器が出土したSD491（15C07グリッド調査区東壁で観察）は基盤層から約1.2m高い5a層上面から掘り込まれており、平安時代には飛鳥時代の旧川辺との比高はほとんど差がなくなっており、平安時代当時の五社川流路の中心はより南へ移っていたとみられる。5a層以下はいずれも遺物包含層で、とりわけ最下層である７層からは膨大な量の遺物が出土した。

標高3.20mの川辺から北側は最高値4.00mの微高な自然堤防となる。ただし、平安時代以降の水田耕作で若干削平された可能性がある。自然堤防は五社川に沿って東西方向に延びると想定され、本遺跡の調査区3Aライン以北は標高3.10m以下と徐々に標高が下がり、遺構の掘り込みも無くなる。したがって調査区でみられる自然堤防の南北幅は約120mである。現水田面から40～50㎝の深さで自然堤防の基盤であるⅢ層（浅黄色シルト）が確認できる。

この基盤層直上に、自然堤防のほぼ全域にわたって飛鳥時代の包含層であるⅡc層が２～12㎝の厚さで乗り、さらにその直上に、調査区中央と北側の部分的な範囲で平安時代（10世紀代）の遺物包含Ⅱb層が１～３㎝の厚さで確認された。調査区中央は10B01グリッド内の約3㎡、調査区北側は3A06～3B13グリッドにわたり約20㎡と4B20～5C01グリッドにわたる約21㎡の範囲である。水田耕作に関連する堆積土とみられる。

Ⅱa・Ⅱa'層は中世（15世紀代）として捉えた遺構の覆土の色調・土質と酷似していることから、中世以降の堆積層と考える。以下、調査区に共通した基本層序を記述する。

**〔自然堤防上の基本層序〕**

Ⅰa層　暗褐色土（7.5YR3/3）　現代の水田土壌である。粘質である。

Ⅰb層　明褐色砂質土（7.5YR5/6）　洪水によるとみられる粗砂を30％含む。

Ⅰc層　にぶい褐色土（7.5YR5/3）　きめ細かく粘性がある。遺物は確認できなかった。

Ⅱa層　暗オリーブ褐色土（2.5Y3/3）　黒味が強く粘質である。粗砂を５％程含む。

Ⅱa'層　オリーブ黒色土（7.5Y3/2）　黒味が強く粘質である。

Ⅱb層　灰オリーブ色粘質シルト（7.5Y4/2）　調査区北側で部分的に確認できた。層厚は１～３㎝で、10世紀代に帰属する土師器杯が出土している。

Ⅱc層　灰黄色シルト（2.5Y6/2）　層厚は２～12㎝で自然堤防上のほぼ全域に分布する。飛鳥時代に帰属する遺物を含み、本層上面から平安時代の所産である遺構が掘り込まれている。

Ⅲ 層　浅黄色シルト（2.5Y7/3）　基盤層で自然堤防上での飛鳥時代の遺構の確認面である。旧河川流路では粘質が増し、さらに白みを帯びた灰白色粘質シルト（10YR8/1）に性質を変化させている。

**〔旧河川流路の基本層序〕**

１　層　黒色土（10YR2/1）　層厚は45～55㎝。粗砂と植物質を含む。やや粘質で遺物は確認できない。

２　層　緑灰色細砂（7.5GY5/1）　層厚は４～10㎝。洪水による堆積層とみられる。

３　層　褐色土（10YR4/4）　層厚は35～45㎝。やや粘質で遺物は確認できない。

４　層　緑灰色細砂（7.5GY5/1）　層厚は３～７㎝。２層に近似する。洪水による堆積層とみられる。

５ａ層　暗褐色土（10YR3/3）　層厚は20～30㎝。やや粘質で植物質を少量含む。飛鳥時代に帰属する土器や加工材が少量出土している。

５ｂ層　オリーブ灰色細砂（5GY5/1）　層厚は５～15㎜と薄い。当初、火山灰の可能性も考えられたが、洪水による堆積層の可能性が強いという分析結果が得られた。

５ｃ層　黒褐色土（10YR3/2）　層厚は15～20㎝。5a層に近似し、やや粘質で植物質を含む。飛鳥時代に帰属する土器や加工材が少量出土している。

６　層　褐灰色粗砂（10YR4/1）　層厚は15～25㎝。φ１～３㎝大の円礫を５％、黒褐色粘質土塊を10％含む。飛鳥時代に帰属する土器や加工材が少量出土している。

７　層　黒褐色砂質土（10YR3/2）　層厚は35～50㎝。流路の最下層で、多量の植物質を含むガツボ層である。砂質で粗砂を５％程含み、粘性はない。木製品や加工痕のある材と土器を含む。また、トチ・モモ・オニグルミなどの種子を多く含み、とりわけトチは膨大な量が出土している。

# 第３節　調査の基本方針

## A　現場調査での基本方針

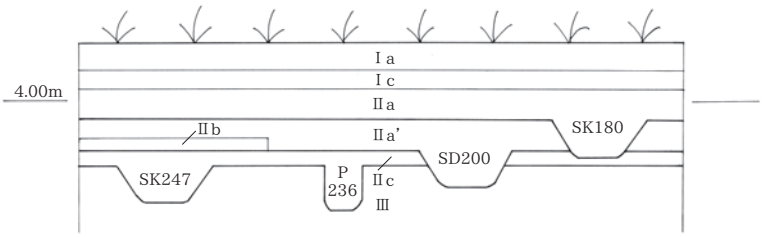
土層注記にあたっては客観性を確保するため、現場調査員間で共通認識を持ち、記載を行った。

**色調**　農林水産省農林水産技術会議事務局・（財）日本色彩研究所監修『新版　標準土色帖』（2002年版）を使用したが、色調は乾燥の度合い、空気に触れた後の酸化の進行によって著しく変化する。可能な限り水分を含んだ新鮮な状態で色調を判断するように心がけた。

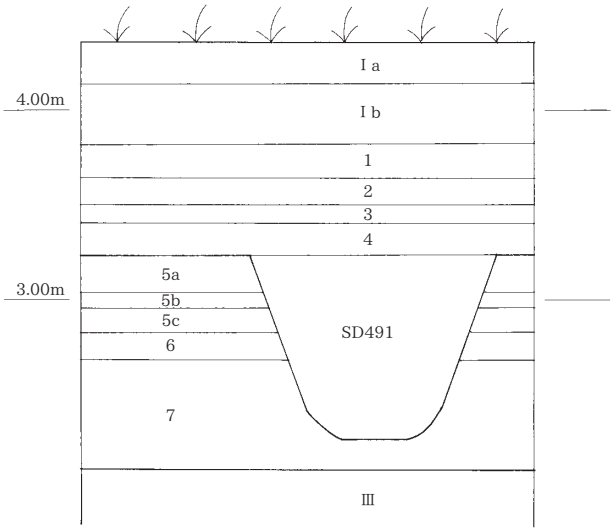
**土質**　本遺跡の土質は基本的にはシルトであるが、より粘性が強く粒子が細かいシルトを粘質、より粘性が弱く粒子が粗いシルトを砂質と区別した。

**粘性・締り**　同じ土質に分類された土層の中で、さらに「強い」、「あり」、「普通」、「弱い」の４段階に分けた。基本層序を基準にし、自然堆積に近い状態のものを「普通」とした。感覚的要素が強く働く項目であるが、調査員が相互に共通認識の構築に努め、記載内容にズレがないように記載した。個別の土層説明の掲載にあたっては「普通」の場合は記述を省略し、これ以外のものについてのみ特記する属性として記述した。

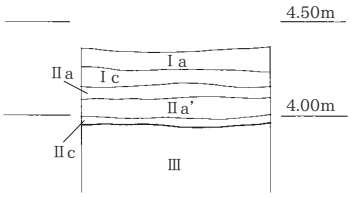
**混入物**　混入物には、炭化物、破砕礫、焼土などが認められた。混入物の含有率は、色調と同様に『新版



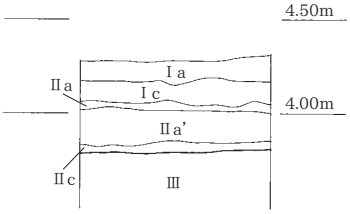

自然堤防上の遺構検出層位模式図



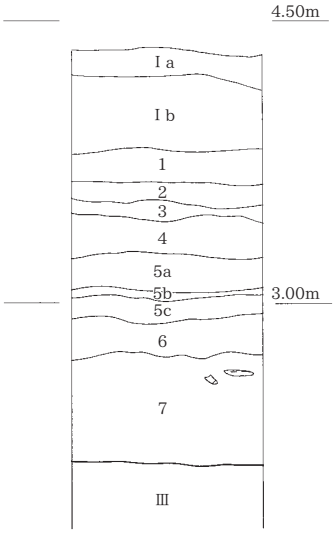

旧河川流路の遺構検出層位模式図



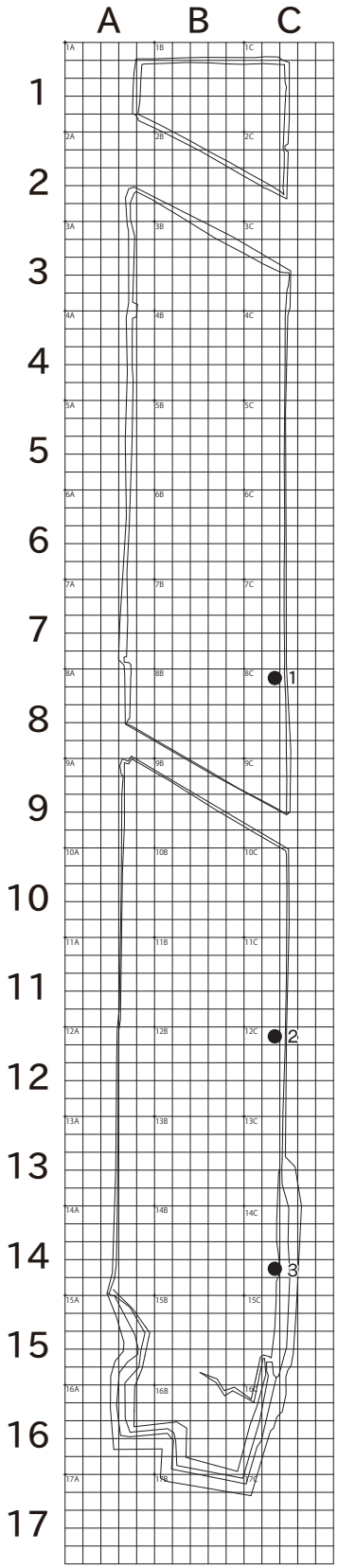

自然堤防上の基本層序１（1：40）
（作図箇所１）




自然堤防上の基本層序２（1：40）
（作図箇所２）




旧河川流路の基本層序（1：40）
（作図箇所３）




基本層序作図箇所

第６図　基本層序と遺構検出層位模式図

標準土色帖』（2002年版）に基づいて判断した。また、１％の半分程の含有率は少量、さらに少量の半分ほどは微量と区別した。

**遺構略号**　現場調査の省力化を図るため、遺構種類別にアルファベットの大文字を用いて以下のように表記した。略号は旧河川流路がSR、掘立柱建物がSB、柵がSA、溝がSD、土坑がSK、ピットがP、杭及び杭列がＫである。遺構番号は遺構略号とアラビア数字で１～５のように付した通し番号を組み合わせて「SK15」などと表した。なお、本書中でもこの遺構番号表記は用いている。

## Ｂ　整理調査での基本方針

**遺構の平面・断面形態及び覆土の堆積形状**　形態と堆積形状を分類するにあたって、新潟県教育委員会・財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団発行の『新潟県埋蔵文化財調査報告書第133集 青田遺跡』［荒川2004］（第８図）と「第Ⅴ章上層の調査 １遺構 Ａ記述の方針」新潟県埋蔵文化財調査報告書第93集［加藤1999］（第７図）に従った。分類は第７図・８図を参照されたい。

**遺構新旧関係の略号**　観察表における遺構新旧関係の略号は本遺構よりも重複する他遺構のほうが新しいが「本遺構＜他遺構」、本遺構よりも重複する他遺構のほうが古いが「本遺構＞他遺構」、本遺構と同時存在で同一機能をもつが「＝」である。

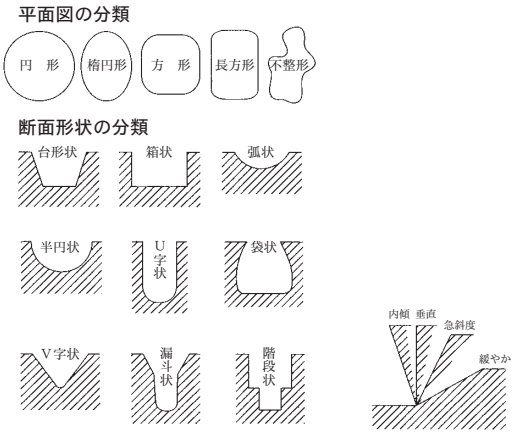
**土器胎土の混入物**　観察表における混入物の略称は長石が「長」、石英が「英」、白色針状粒が「白」、赤色鉱物粒が「赤」、チャートが「チ」、雲母が「雲」、輝石が「輝」である。

**土器焼成**　観察表における焼成の略称は還元が「還」、酸化が「酸」である。硬度は還元焼成として硬質が「硬」、普通が「普」、軟質が「軟」、酸化焼成は２次焼成痕を考慮せずに硬質が「硬」、普通が「普」、軟質が「軟」と区別し、還元焼成で普通の場合は「還普」と組み合わせて表記した。

**本書に使用した地形図**　第３図は新潟県三条地域振興局地域整備部図面1：500より転用、第４図は国土地理院作成「矢代田」1:25,000（平成22年６月１日発行１刷）を使用した。

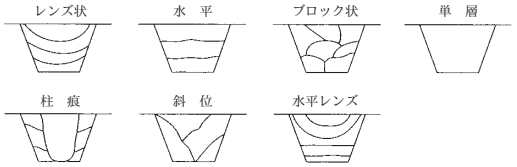
| | |
|---|---|
| 円形 | 直径が短径の1.2倍未満のもの。 |
| 楕円形 | 直径が短径の1.2倍以上のもの。 |
| 方形 | 直径が短径の1.2倍未満のもの。 |
| 長方形 | 直径が短径の1.2倍以上のもの。 |
| 不整形 | 凸凹で一定の平面形を持たないもの |

| | |
|---|---|
| 台形状 | 底部に平坦を持ち、緩やか～急斜度に立ち上がるもの。 |
| 箱状 | 底部に平坦を持ち、ほぼ垂直に立ち上がるもの。 |
| 弧状 | 底部に平坦持たない弧状で、緩やかに立ち上がるもの。 |
| 半円状 | 底部に平坦持たない弧状で、急斜度に立ち上がるもの。 |
| U字状 | 確認面の径よりも深さの値が大きく、ほぼ垂直に立ち上がるもの。 |
| 袋状 | 確認面の径よりも深さの値が大きく、内傾した後に垂直ないし外傾して立ち上がるもの。 |
| V字状 | 点的な底部を持ち、急斜度に立ち上がるもの。 |
| 漏斗状 | 下部がU字状、上部がV字状の二段構造からなるもの。 |
| 階段状 | 階段状の立ち上がりを持つもの。 |




**第７図　遺構の平面・断面形状の分類**（加藤1999から転載・一部改編）

| | |
|---|---|
| レンズ状 | 複数層がレンズ状に堆積する。 |
| 水平 | 複数層が水平に堆積する。 |
| ブロック状 | ブロック状に堆積する。 |
| 単層 | 覆土が単一層のもの。 |
| 柱痕 | 柱痕と思われる土層が堆積するもの。 |
| 斜位 | 斜めに堆積するもの。 |
| 水平レンズ | 覆土下位は水平に、上位はレンズ状に堆積するもの。 |




**第８図　覆土の堆積形状の分類**（荒川2004から転載・一部改編）

# 第Ⅳ章　遺物包含層と遺構

## 第１節　概要

飛鳥時代の遺物包含層が自然堤防上と旧河川流路で確認された。また、平安時代の遺物包含層が自然堤防上に部分的ながら確認された。出土遺物量は圧倒的に飛鳥時代が多い。

検出された遺構は掘立柱建物が16棟、柵が１条、溝が32条、土坑が130基、ピットが427基（うち127基は掘立柱建物を構成する柱穴である）、杭が375本（杭列６条の分も含む）である。

遺構の帰属する時代は飛鳥時代、平安時代、中世である。

個々の遺構の年代については、出土遺物を中心に覆土の色調などを加味して判断した。ただし溝は覆土内の堆積が薄いものも多く、判断に苦慮するものも多かった。前述の要素に加え主軸方向なども年代推定の材料とした。

### Ａ　飛鳥時代の遺物包含層と遺構

飛鳥時代の遺構は調査区の自然堤防上と旧河川流路に立地する、掘立柱建物16棟、溝11条、土坑129基、ピット300基、杭45本（杭列３条を含む）で構成される集落跡である。また、飛鳥時代の遺物包含層は、自然堤防上のⅡc層と旧河川流路の５ａ～５ｃ・６・７層が検出されている。

### Ｂ　平安時代の遺物包含層と遺構

平安時代の遺構は調査区の自然堤防上と旧河川流路上に立地し、柵１条、溝19条、杭330本（杭列３条を含む）から構成される。いずれも水田に関連する水路に伴うものとみられる。また、調査区北側で層厚が薄いながらも10世紀代の遺物包含層であるⅡb層が検出された。黒味の強い灰オリーブ色粘質シルトで水田土壌とみられる。

### Ｃ　中世の遺構

中世の遺構は調査区南側の自然堤防上に一体化して検出された溝２条と土坑１基である。いずれも黒味の強い粘質土を覆土とし、平安時代前期と同様に水田に関連した遺構とみられる。

## 第２節　遺構各説

### Ａ　旧河川流路（第６図）

調査区南端約30mが旧五社川の流路である。基盤層は標高3.20mの川辺から南へ向かって徐々に標高を下げており、調査区南端では流路基盤であるⅢ層（浅黄色粘質シルト）までの標高値は1.20mとなる。川辺から南へ23m（16A～１C）ラインまでは約５°～７°の緩やかな下りだが、それ以南は急勾配になる。

堆積層序は現水田土壌と昭和40年代に行われた耕地整備時の盛土などをⅠａ～ｃ層、中世以降の水田土壌をⅡａ・a'層、旧河川流路の堆積土を１～７層にそれぞれ分層した。小泊産須恵器が出土したSD491（15C07グリッドの調査区東壁で観察）は上面から掘り込まれているが、平安時代の水田耕作が営まれて

いた時期には飛鳥時代の旧川辺との比高はほとんど無く、平安時代当時の五社川流路はより南側だったとみられる。また、流路堆積土の５a･c層から僅少であるが飛鳥時代の土器や木製品が出土している。５b･６層は洪水砂層である。最下層である７層は飛鳥時代の土器や木製品を大量に含む包含層である。600点を超える土器と1,000点を超える木製品や加工された材などが出土した。SR400から出土した土器の総重量は約114㎏で調査区全体の土器総重量の半分近くを占める。また、特筆される遺物として流路北東側で出土した銅製の鈴があげられる。

## Ｂ　自然堤防上の遺物包含Ⅱc層（第６図）

標高3.20mの川辺から北側は最高標高値4.00mの微高な自然堤防となる。古代の集落跡は東西長120mの自然堤防上に見られるが、標高3.10mの調査区北端で遺構は確認できなかった。現水田面から40～110㎝の深さで自然堤防の基盤層であるⅢ層（浅黄色シルト）が存在し、この直上に炭や焼土とともに７世紀後半～８世紀初めの遺物を含むⅡc層（灰黄色シルト）が自然堤防全域に観察された。遺物包含Ⅱc層の厚さは２～12㎝で、３B11～４B05グリッドと７A05～８C12グリッドの２箇所が最も層厚である。Ⅱc層から出土した土器の総重量は約163㎏で調査区全体の土器総重量の半分近くを占める。また、特筆される遺物として人形土製品（２点)･動物形土製品（破片も含めて11点）の出土が８B01～８B25グリッド周辺にみられ、平安時代に帰属する遺構もⅡc層を掘り込んで構築されている。

## Ｃ　自然堤防上の遺物包含Ⅱb層（第６図）

飛鳥時代の遺物包含Ⅱc層直上に10世紀代のロクロ土師器杯を包含するⅡb層が存在する。Ⅱb層は主に調査区北側で１～３㎝の厚さで確認された。３A06～３B13グリッドにかけて約20㎡、４B20～５C01グリッドにかけて約21㎡、10B01グリッドで約3㎡の限定的な範囲である。灰オリーブ色を基調とする粘質シルトで､古代の水田土壌とみられる｡本来は自然堤防上一帯に分布していたが後世の水田耕作によって削平され、部分的に確認されたものと考える。また、４B20グリッドで９世紀前半の所産であるSD4を本層が被覆している状況が確認された。

## Ｄ　掘立柱建物

16棟確認した。掘立柱建物を構成する柱穴の認定にあたっては、柱穴の配置・規模及び底面標高についても考慮し、調査区内で検出された427基のピットのうち127基を柱穴とした。遺物が出土した柱穴を有する建物はSB131・132・198・199・500・506・508・509・511の９棟である。出土量は僅少でいずれも細片であり、掘形内の覆土に混入する状況で出土しており直接帰属時期に繋がる資料ではないが少なくとも飛鳥時代より新しいものは確認されていない。掘形内の覆土と構確認面からいずれも飛鳥時代の所産と考える。

SB131（図面図版３・10、写真図版10）

7A・Ｂグリッドに位置し、P99・P103・P104・P109・P468・P471・P472の７基により構成される２間×２間の側柱建物である。桁行3.80m、梁間2.98mで、東西を主軸とする方位はN48°E、面積は11.32㎡である。柱穴の間隔はP109－P472が2.90m、P472－P104が1.64m、P104－P468が2.04m、P468－P103が0.98m、P103－P471が2.00m、P471－P99が2.20m、P99－P109が1.60m、P361－P101が1.24m、P101－P103が2.28mを測る。重複関係はない。遺物は土師器甕が出土し、柱根が

P104・P109・P361・P468で検出されている。また、位置関係から見て近接するSD100は本遺構の付属施設と考えられる。

SB132（図面図版３・10、写真図版10・11）

６・７Bグリッドに位置し、P44・P45・P83・P126・P357・P368・P482・P492の８基により構成される３間×１間の側柱建物である。桁行5.26m、梁間3.08mで、東西を主軸とする方位はN50°E、面積は16.21㎡である。柱穴の間隔はP44－P492が3.08m、P492－P126が1.64m、P126－P482が1.92m、P482－P83が1.64m、P83－P357が3.08m、P357－P368が1.74m、P368－P45が1.80m、P45－P44が1.72mを測る。重複関係はない。遺物は土師器甕が出土し、柱根がP368で検出されている。

SB198（図面図版３・11、写真図版11）

８Bグリッドに位置し、P97・P147・P446・P451・P679・P684の6基により構成される２間以上×２間の側柱建物である。本遺構東側が調査区外に延びるために残存桁行は3.34m、梁間は3.02m、東西を主軸とする方位はN57°Eである。柱穴の間隔はP147－P97が1.60m、P97－P679が1.42m、P679－P446が1.58m、P446－P451が1.76m、P684－P147が1.57mを測る。重複関係はSD95、SK322よりも新しい。遺物は土師器甕が出土し、柱根がP97・P147・P446・P451で検出されている。

SB199（図面図版２・11、写真図版11）

３C、４B・Cグリッドに位置し、P12・P14・P15・P17・P18・P22・P23・P25の８基により構成される２間×２間の側柱建物である。桁行4.64m、梁間4.44m、南北を主軸とする方位はN39°E、面積は20.60㎡である。柱穴の間隔はP15－P17が2.15m、P17－P18が2.29m、P18－P22が2.26m、P22－P23が2.38m、P23－P25が2.20m、P25－P12が2.22m、P12－P14が2.44m、P14－P15が2.12mを測る。重複関係はないが、出土遺物から飛鳥時代の所産であるSD5は本遺構との関係から、付属施設であると考えられる。柱根がP12・P15・P17・P23・P25で検出されている。

SB500（図面図版３・12、写真図版12）

６Cグリッドに位置し、P39・P50・P54・P59・P438の５基により構成される1間以上×2間の側柱建物である。本遺構東側が調査区外に延びるために残存桁行は1.58m、梁間は3.27m、東西を主軸とする方位はN73°Eである。柱穴の間隔はP39－P59が1.69m、P59－P54が1.58m、P54－P50が1.17m、P438－P39が1.58を測る。重複関係はSD75よりも古い。柱根がP39・P50で検出され、土師器出土。

SB501（図面図版３・12、写真図版12）

８B・Cグリッドに位置し、P121・P129・P489・P538・P541・P556・P571・P576・P630・P631・P641の11基により構成される３間×２間の側柱建物である。桁行5.85m、梁間3.30m、東西を主軸とする方位はN66°E、面積は19.31㎡である。柱穴の間隔はP641－P571が1.81m、P571－P538が1.49m、P538－P631が2.53m、P631－P541が1.49m、P541－P129が1.80m、P129－P489が1.90m、P489－P556が1.37m、P556－P630が1.40m、P630－P121が1.69m、P121－P576が1.25m、P576－P641が1.51mを測る。重複関係はSD117、SK130・558・560より新しい。遺物は出土していない。

SB502（図面図版４・12、写真図版12）

８・９Cグリッドに位置し、P134・P140・P549・P551・P552・P553の６基により構成される２間以上×２間の側柱建物である。本遺構東側が調査区外に延びるために残存桁行は2.20m、梁間は2.00m、東西を主軸とする方位はN58°Wである。柱穴の間隔はP549－P551が0.85m、P551－P140が0.56m、P140－P553が0.60m、P134－P552が1.08m、P552－P549が1.12mを測る。重複関係はなく、遺物

は出土していない。

SB503（図面図版４・13、写真図版12）

10・11Bグリッドに位置し、P219・P222・P229・P233・P251・P431・P454・P564・P608・P612の10基により構成される３間×２間の側柱建物である。桁行4.75m、梁間3.67m、南北を主軸とする方位はN24°E、面積は17.43㎡である。柱穴の間隔はP222－P431が1.67m、P431－P219が2.00m、P219－P229が1.58m、P229－P233が1.28m、P233－P608が1.86m、P608－P564が2.06m、P564－P612が1.60m、P612－P251が1.16m、P251－P454が1.96m、P454－P222が1.63mを測る。重複関係はSK216・246・247より新しい。遺物は出土していない。

SB504（図面図版４・13、写真図版12）

10・11Cグリッドに位置し、P245・P258・P272・P381・P624の５基により構成される３間以上×１間以上の側柱建物である。本遺構東側が調査区外に延びるために残存桁行は2.02m、梁間は4.38m、南北を主軸とする方位はN55°Eである。柱穴の間隔はP624－P272が1.48m、P272－P381が1.50m、P381－P258が1.40m、P258－P245が2.02mを測る。重複関係はSK424より新しい。遺物は出土していない。

SB505（図面図版４・５・14、写真図版12）

10Cグリッドと11B・Cグリッドに位置し、P164・P447・P611・P617・P623・P643・P645の7基により構成される3間×2間の側柱建物である。本遺構東側が調査区外に延びるために残存桁行は4.25m、梁間は4.38m、南北を主軸とする方位はN70°Eである。柱穴の間隔はP643－P623が1.55m、P623－P617が1.40m、P617－P164が1.43m、P164－P611が2.25m、P611－P645が2.00m、P447－P643が2.43mを測る。重複関係はSK277・744より新しい。遺物は出土していない。

SB506（図面図版４・14、写真図版12・13）

10B・Cグリッドと11B・Cグリッドに位置し、P236・P260・P346・P375・P470・P493の６基により構成される２間以上×２間の側柱建物である。本遺構東側が調査区外に延びるために残存桁行は4.80m、梁間は3.67m、東西を主軸とする方位はN78°Wである。柱穴の間隔はP470－P375が2.00m、P375－P346が1.58m、P346－P236が2.36m、P493－P260が2.24m、P260－P470が2.56mを測る。重複関係はSK246・261より新しい。柱根がP346とP493から検出され、須恵器無台杯（103）がP236から出土している。

SB507（図面図版４・15、写真図版12・13）

11B・Cグリッドに位置し、P273・P432・P433・P642・P647・P652・P655の7基により構成される3間以上×2間の側柱建物である。北東隅角のピットは確認できなかった。また、南側がSD291に切られているために残存桁行が3.86m、梁間が3.91m、南北を主軸とする方位はN35°Wである。柱穴の間隔はP432－P647が2.20m、P273－P652が1.80m、P652－P642が1.70m、P655－P433が2.16m、P433－P432が1.70mを測る。重複関係はSK637より新しく、SK280より古い。遺物は出土していない。

SB508（図面図版５・15、写真図版12・13）

11A・Bグリッドと12A・Bグリッドに位置し、P299・P304・P305・P318・P319・P428の６基により構成される３間×２間以上の側柱建物である。本遺跡の西側が調査区外に延びるために桁行4.80m、残存梁間は2.60m、南北を主軸とする方位はN85°Eである。柱穴の間隔はP304－P305が1.60m、P305－P428が1.46m、P428－P319が1.76m、P319－P318が2.40m、P299－P407が2.60mを測る。

重複関係はなく、柱根と須恵器蓋（105）がP305から検出されている。

SB509（図面図版５・16、写真図版13）

12Bグリッドに位置し、P321・P323・P331・P332・P334・P350・P516・P584・P592の９基により構成される３間×３間の側柱建物である。本遺構中央のピットがSD291によって消滅している。桁行5.31m、梁間4.43m、東西を主軸とする方位はN75°W、面積は23.52㎡である。柱穴の間隔はP321－P516が3.11m、P516－P584が1.32m、P584－P332が5.31m、P332－P331が1.26m、P331－P334が1.52m、P334－P350が1.62m、P350－P592が1.78m、P592－P323が1.76m、P323－P321が1.76mを測る。重複関係はSD290・291・341より古く、SK405より新しい。P584から須恵器無台杯（104）が出土している。

SB510（図面図版５・16、写真図版12）

11B・Cグリッドに位置し、P292・P439・P458・P462・P464・P465・P575の7基により構成される３間以上×２間の側柱建物である。本遺構南側がSD291に切られているため、残存桁行は3.26m、梁間は3.83m、主軸方向は南北で方位はN33°W、柱穴の間隔はP439－P458が1.95m、P458－P292が1.88m、P292－P462が1.60m、P462－P464が1.65m、P575－P465が1.62m、P465－P439が1.64mを測る。重複関係はSD307より古く、SK314・717より新しい。遺物は出土していない。

SB511（図面図版５・17、写真図版13・14）

13A・Bグリッドに位置し、P287・P364・P379・P533・P723・P725・P735・P737・P739・P756・P759の11基により構成される4間×2間の側柱建物である。桁行7.18m、梁間3.66m、東西を主軸とする方位はN75°E、面積は26.28㎡である。柱穴の間隔はP759－P364が1.72m、P364－P737が1.94m、P737－P739が1.94m、P739－P287が1.62m、P287－P735が1.74m、P725－P379が1.70m、P379－P533が1.78m、P533－P723が1.78m、P723－P756が1.68m、P756－P759が1.94mを測る。重複関係はSD724より古く、SK394・719・727より新しい。遺物はピット内から土師器杯・甕が出土し、柱根がP364・P723・P756・P759から検出されている。

## E　柵

SA515（図面図版５・17、写真図版12・14）

11B・C、12A・Bグリッドに位置し、打ち込み式の杭ではなく、掘形を持つ小規模な柱穴配列である。P317・P441・P429・P745・P649・P625の６基により構成される。柱穴の芯々間は11～12尺で、柱穴列は直線で並び、方向はN63°Eである。底面標高はほぼ同一で、覆土はいずれもシルトである。柱穴からの遺物出土はなかったが、平安時代の溝と走行方向が一致することから、本柵も当該期の所産と考えられる。

## F　溝

溝は32条検出された。そのうち飛鳥時代に帰属するのは11条、平安時代は19条、中世は２条である。飛鳥時代のものは掘立柱建物を囲むように方形に巡る雨落ち状のものがみられる。平安時代のものは直線的に走行し、走行方位はいずれもN63°～80°Eにおさまるかそれに直行する。溝に堆積した覆土は、飛鳥時代の遺構覆土に比べて粘質でやや黒味が強く、底面に水酸化鉄の沈着を確認したものもみられた。SD291・307・491は覆土中に砂礫層を確認し、とりわけSD291は土層断面で少なくとも4回の造り替え

が観察され、溝と並行する2条の杭列も検出された。また、底面標高を計測すると南西方向へ緩やかな下り勾配となっている。旧五社川に向かう下り勾配であることから、平安時代に帰属する溝は水田の排水路としての機能を持っていたのではないかと考えられる。

中世のものも平安時代と同じく、水田にかかわる水路と考えられる。

SD4（図面図版２・17、写真図版14）

調査区北側の４C06 ～５A05グリッドに跨って直線的に走行し、途中でL字状に折れる。北東側でSD5と重複し、本溝のほうが新しい。長さは18.20m以上、上端幅30 ～ 88㎝、深さ7㎝、走行方位はN50°E、N57°Wである。底面標高は北東端で3.51m、南西端で3.41mである。南西へ10m走行して６㎝下がる勾配である。断面形は弧状で、覆土は暗灰黄色土の単層である。土師器杯、須恵器瓶・甕、石製の土錘が出土しており、本書では須恵器瓶（106）、須恵器甕（107）、土師器杯（108）、土錘（226）を掲載した。出土遺物から、本溝は平安時代（９世紀前半）の所産と考えられる。

SD5（図面図版２・17、写真図版14）

調査区北側の４B09 ～４C11グリッドに跨り、SB199を囲むようにしてL字に走行する。南東側でSD4と重複し、本溝のほうが古い。長さは9.80m、上端幅26 ～ 45㎝、深さ21㎝、走行方位はN52°W、N50°Eである。断面形は弧状で、覆土は灰オリーブ色シルトを基調とした水平堆積である。遺物は土師器甕が出土している。出土遺物から、本溝は飛鳥時代の所産で、SB199の付属施設と考えられる。

SD33（図面図版３・17・18、写真図版14）

調査区北側の５B24 ～６C22グリッドに跨り、Ｌ字に走行する。北側でP699、南東側でSD75と重複しており、本溝のほうが古い。長さは13.98m、上端幅は68 ～ 230㎝、深さ15 ～ 32㎝、走行方位はN51°E、N39°Wである。断面形は弧状であるが、底面の凹凸が激しく、覆土は灰色シルトを基調としたレンズ状堆積である。遺物は土師器甕、須恵器甕が出土しており、本書では須恵器甕（109）を掲載した。出土遺物と重複関係から、本溝は飛鳥時代の所産と考えられる。

SD73（図面図版３・18、写真図版15）

調査区北側の６A20 ～６B22グリッドに跨って直線的に走行する。中央でP47と重複し、本溝のほうが新しい。長さは3.33m、上端幅16 ～ 48㎝、深さ15㎝、走行方位はN73°Wである。断面形は弧状で、覆土は灰色シルトを基調とした水平堆積である。遺物は土師器甕、須恵器甕が出土しており、本書では須恵器甕（110）を掲載した。出土遺物から、本溝は飛鳥時代の所産と考えられる。

SD75（図面図版３・18、写真図版15）

調査区北側の６C07 ～７A20グリッドに跨って直線的に走行する。遺物包含Ⅱc層上面で本溝を確認した。北東側でSD33、P43、SB500を構成するP438と重複し、本溝のほうが新しい。長さは20.10m以上、上端端幅32 ～ 90㎝、深さ10㎝、走行方位はN58°Eである。断面形は弧状で、覆土は暗オリーブ灰色土を基調に２層に分けられ、水平堆積である。遺物は土師器甕、須恵器甕が出土しているが、すべて飛鳥時代帰属のものの流れ込みとみられる。遺構確認面と走行方向から本溝は平安時代の所産で、覆土などから南西側で接するSD532と一体化したものと考えられる。

SD94（図面図版３・18、写真図版15）

調査区北側の７C07 ～７B20グリッドに跨って直線的に走行する。北東側でP450と、南西側でSD95と重複するがP450より古く、SD95よりも新しい。長さは5.52m以上、上端幅は29 ～ 41㎝、深さは11㎝、走行方位はN59°Eである。断面形は弧状で粘質土の単層である。遺物は土師器甕が出土しているが飛鳥

時代帰属のものの流れ込みとみられ、遺構確認面と走行方向から本溝は平安時代の所産と考えられる。

SD95（図面図版３・18）

調査区北側の７B14 ～ ７C17グリッドに跨って直線的に走行する。中央でSD94とP92・105・460・461・679と重複しており、いずれも本溝のほうが古い。長さは9.08m以上、上端幅は39 ～ 101㎝、深さは11㎝、走行方位はN85°Eである。断面形は弧状で、覆土は灰色シルトを基調に２層に分けられ、レンズ状堆積である。遺物は土師器甕である。重複関係と出土遺物から、本溝は飛鳥時代の所産と考えられる。

SD100（図面図版３・18、写真図版15）

調査区中央の７B08 ～ ８A05グリッドに跨り、SB131を囲むようにコ字状に走行する。北東側でP255、SD117と重複するが、P255より古くSD117より新しい。長さ18.14m以上、上端幅36 ～ 50㎝、深さ7㎝、走行方位はN49°E、N42°Wである。断面形は弧状、覆土は灰色シルトを基調としたレンズ状堆積である。遺物は土師器甕・須恵器甕が出土しており、重複関係と出土遺物から、本溝は飛鳥時代の所産でSB131の付属施設と考えられる。

SD111（図面図版３・18、写真図版15）

調査区中央の７B24 ～ ８B05グリッドに跨って直線的に走行する。南東側で接するSD116は、同一の機能を持つ一体化した溝と考える。長さは3.95m、上端幅は19 ～ 49㎝、深さ12㎝、走行方位はN39°Wである。断面形は弧状、覆土は灰色土を基調に２層に分けられ、レンズ状堆積である。遺物は土師器甕が出土しているが、飛鳥時代帰属のものの流れ込みとみられ、覆土と走行方向から本溝は平安時代の所産と考えられる。

SD116（図面図版３・４・18、写真図版15）

調査区中央の７C21 ～ ８A20グリッドに跨り、中央で南へやや膨らむものの概ね直線的に走行する。遺物包含Ⅱc層上面で本溝を確認した。中央でSD117と、東側でP644・648と重複し、いずれも本溝のほうが新しい。また、SD111とは一体化している。長さは18.35m以上、上端幅23 ～ 60㎝、深さ９㎝、走行方向はN65°Eである。断面形は弧状で、暗オリーブ灰色土を基調としたレンズ状堆積である。遺物は土師器甕が出土している。確認面と走行方向から、本溝は平安時代の所産と考えられる。

SD117（図面図版３・18、写真図版15・16）

調査区中央の８A09 ～ ８B14グリッドに跨ってL字状に走行している。基盤層であるⅢ層上面で本溝を確認した。北西側でSD100、P255、SK490と、南東側でSD116、P489・537・556と重複し、いずれも本溝より新しい。長さは12.50m以上、上端幅は50 ～ 120㎝、深さ18㎝、走行方向N58°E、N27°Wである。断面形は弧状で、覆土は灰黄色シルトを基調とした水平堆積である。遺物は土師器高杯・甕、須恵器蓋・甕が出土しており、本書では須恵器蓋（111）、土師器高杯（112）を掲載した。出土遺物から本溝は飛鳥時代の所産と考えられる。

SD141（図面図版４・18、写真図版16）

調査区中央の９C06 ～ 12グリッドに跨って直線的に走行する。南側でSD160と重複し、本溝のほうが古い。長さは3.27m、上端幅は28 ～ 58㎝、深さは10㎝、走行方向はN39°Wである。断面形は弧状で、覆土は炭化物が混じる浅黄色シルトを基調に２層に分けられ、水平堆積である。遺物は土師器甕が出土している。出土遺物から本溝は飛鳥時代の所産と考えられている。

SD160（図面図版４・18、写真図版16）

調査区中央の９C13 ～ 10A14グリッドに跨って直線的に走行する。遺物包含Ⅱc層上面で本溝を確認

した。北東側でSD141、SK403と、中央でP201・202・539と重複し、いずれも本溝のほうが新しい。長さは15.70m以上、上端幅は54 ～ 80㎝、深さ21㎝、走行方向はN60°Eである。断面形は概ね弧状、北東側で部分的に掘り込みが階段状となる。覆土は灰色土を基調に2層に分けられ、レンズ状堆積である。底面標高は北東端が3.80m、南西端が3.69m、南西側に10m向かって７㎝下がる勾配である。遺物は土師器高杯・甕、須恵器杯・甕が出土しているがいずれも飛鳥時代帰属のものの流れ込みとみられ、遺構確認面と走行方向から本溝は平安時代前期の所産と考えられる。なお、2.80mの同じ間隔を持ったままSD200と並行走行しており道の側溝の可能性もあるが、硬化部分は全く確認されなかった。

SD200（図面図版４・18、写真図版16）

調査区中央の９C22 ～ 10A24グリッドに跨って直線的に走行する。遺物包含Ⅱc層上面で本溝を確認した。南西側でSD250、中央でP209と重複し、いずれも本溝のほうが新しい。長さ17.90m以上、上端幅は54 ～ 98㎝、深さ11㎝、走行方向はN60°Eである。断面形は弧状、覆土は灰色土を基調に2層に分けられ、レンズ状堆積である。底面標高は北東端が3.83m、南西端が3.74m、南西側に10m向かって29㎝下がる勾配である。遺物は土師器高杯・甕、須恵器甕が出土しているがいずれも飛鳥時代帰属のものの流れ込みとみられ、遺構確認面と走行方向から本溝は平安時代前期の所産と考えられる。

SD250（図面図版４・５・18、写真図版16・17）

調査区中央の10A19 ～ 11B12グリッドに跨って直線的に走行する。基盤層であるⅢ層上面で本溝を確認した。北側でSD200、南側でP419・620・622・702・703・704・705、SD613と重複しているが、本溝のほうがSD200、P419・620・622・702・703・704・705より古く、SD613より新しい。長さは10.00m以上、上端幅は30 ～ 180㎝、深さは20㎝、走行方向はN27°Wである。断面形は弧状で、覆土は炭化物の混じる灰黄色シルトを基調に２層に分けられ、水平堆積である。遺物は土師器高杯・甕、須恵器甕、砥石が出土しており、本書では須恵器甕（113）、土師器高杯（114）、砥石（274）を掲載した。出土遺物と遺構確認面から、本溝は飛鳥時代の所産と考えられる。

SD290（図面図版５・19、写真図版17）

調査区南側の11C22 ～ 12A19グリッドに跨って直線的に走行する。Ⅱa層上面で本溝を確認した。P586とSB509を構成するP332、SD291と重複し、SD488と接する。本溝よりもSD291、P332・586のほうが古い。また、覆土からSD488は同時存在の遺構と考える。長さは17.96m以上、上端幅は50 ～ 142㎝、深さは19㎝、走行方向はN69°Eである。断面形は台形で、覆土はⅡa・a'層に似て粘性が強く、黒味の強い色調で単層である。底面標高は北東端で3.75m、南西端で3.50m、南西側に10m向かって14㎝下がる勾配である。出土遺物の大半は土師器甕など飛鳥時代に帰属するものであるが、本書ではその中から、２点出土した珠洲焼の擂鉢（197）と甕（198）、飛鳥時代の須恵器杯蓋（205）を掲載した。出土遺物と遺構確認面から、本溝は中世の所産と考えられる。

SD291（図面図版５・19、写真図版17）

調査区南側の11C17 ～ 12A19グリッドに跨って直線的に走行する。遺物包含Ⅱc層上面で本溝を確認した。多くの遺構と重複しており、本溝のほうがSD290・488より古く、中央で重複しているSK330・718、P516・751・752より新しい。本溝は水路として少なくとも4回造り替えられていることが土層観察で判明した。ここでは最後の廃絶時に使用されていた規模から記述する。

廃絶時の長さは18.30m以上、上端幅は298 ～ 410㎝、下端幅は160 ～ 295㎝、深さ48 ～ 61㎝、走行方向はN69°Eである。この走行方向と同じ向きで本溝上端に２条平行して打ち込まれている。護岸用

として打ち込まれた杭は調査区内だけでも総数289本になり、多くは丸木や割材の下端を粗く削っただけのもの（502 ～ 504）である。断面形は台形で、覆土は下層が砂礫層となり底面に水酸化鉄の沈着もみられる。底面標高は北東端が3.71m、南西端が3.59m、南西側に10m向かって７㎝下がる勾配である。

出土遺物の総重量は土師器が7,750g、須恵器が1,660gと膨大であるが、大半は飛鳥時代に帰属する流れ込みのものである。本書では前述した杭のほか、本溝に伴うとみられる須恵器杯（115・116）と流れ込みとみられる飛鳥時代の土師器甕（206・207）、砥石（266）、鉄斧（280）を掲載した。１・２層から出土したもっとも新しい時期の遺物を以て本溝の造営廃絶時期とし、平安時代の所産と考える。

SD307（図面図版５・19、写真図版18）

調査区南側の11B17 ～ 19グリッドに跨って直線的に走行する。SK308・314・717、P462と重複し、いずれも本溝が新しい。長さは3.86m、上端幅は28 ～ 50㎝、深さ6㎝、走行方向はN72°Wである。断面形は弧状、覆土は粗砂を主体とする。底面標高は北西端で3.93m、南東端で3.90mである。遺物は土師器片がわずかに出土した。SD291下層に酷似する覆土から、本溝は平安時代の所産と考えられる。

SD340（図面図版５・19、写真図版18）

調査区南側の12C11 ～ 13A09グリッドに跨って直線的に走行する。多数の遺構と重複し、SD347・724より古く、SK351、P387より新しい。長さは16.98m、上端幅は126 ～ 178㎝、深さ14 ～ 20㎝、走行方向はN65°Eである。断面形は台形で、覆土はシルト質な暗オリーブ色土を基調とした水平堆積である。底面標高は北東端で3.83m、南西端で3.74mである。出土遺物の総量は土師器が1,250g、須恵器が325gである。器種は土師器杯・高杯、須恵器壺蓋・瓶・甕と多種多様で、その他にはカマド形土製品も出土しているが、大半は飛鳥時代のものの流れ込みとみられる。本書では本溝に伴うとみられる須恵器杯（117）・蓋（119）・瓶把手（118）、カマド形土製品（258・259）を掲載した。カマドは飛鳥時代の遺物包含Ⅱc層からの流入とみられる。出土遺物から、本溝は８世紀末から９世紀初めの平安時代の所産と考えられる。

SD341（図面図版5・19、写真図版18）

調査区南側の12C02 ～ 12A25グリッドに跨って直線的に走行する。遺物包含Ⅱc層上面で本溝を確認した。SK405、P350・354と重複し、いずれも本溝のほうが新しい。長さは16.38m以上、上端幅は52 ～ 156㎝、深さは9 ～ 14㎝、走行方向はN64°Eである。断面形は台形、覆土はシルト質な灰色土を基調にした水平堆積である。底面標高は北東端で3.88m、南西端は3.84mでほとんど差がなく、勾配もみられない。遺物は土師器高杯・甕、須恵器杯・甕が出土しているが、大半は飛鳥時代帰属のものの流れ込みとみられる。遺構確認面から、本溝は平安時代の所産と考えられる。

SD347（図面図版５・19、写真図版18）

調査区南側の12C12 ～ 13A09グリッドに跨って直線的に走行する。遺物包含Ⅱc層上面で本溝を確認した。重複関係はSD724より古く、SD340、SK345より本溝のほうが新しい。長さは19.93m以上、上端幅は25 ～ 69㎝、深さは16 ～ 20㎝、走行方向はN65°Eである。断面形は台形、覆土は灰オリーブ色土を基調にしたレンズ状堆積である。底面標高は北東端で3.73m、南西端で3.87m、北東側に10m向かって７㎝下がる勾配である。遺物は土師器、須恵器が多く出土しているが、いずれも飛鳥時代帰属のものの流れ込みとみられる。遺構確認面から、本溝は平安時代の所産と考えられる。

SD374（図面図版４・19、写真図版18）

調査区中央の9B21 ～ 10A09グリッドに跨って直線的に走行する。遺物包含Ⅱc層中位で本溝を確認し

た。SK170と重複し、本溝のほうが古い。長さは4.68m以上、上端幅は26 ～ 39㎝、深さは13㎝、走行方向はN53°Eである。断面形は弧状、覆土は黄褐色シルトを基調にしたレンズ状堆積である。遺物は土師器高杯・甕が出土している。出土遺物と遺構確認面から、本溝は飛鳥時代の所産と考えられる。

SD384（図面図版５・20、写真図版19）

調査区南側の13B08 ～ 14グリッドに跨って直線的に走行する。SK423と重複し、本溝のほうが新しい。長さは1.59m、上端幅は31 ～ 38㎝、深さは11 ～ 14㎝、走行方向はN22°Wである。断面形は弧状、覆土は粘質な浅黄色シルトを基調にしたレンズ状堆積である。遺物は土師器甕が出土している。本溝は水田土壌である粘質土が覆土なことから、平安時代の所産の可能性が高い。

SD412（図面図版５・20、写真図版19）

調査区南側の13C11･12グリッドに位置し、直線的に走行する。遺物包含Ⅱc層上面で本溝を確認した。重複はない。長さは2.12m以上、上端幅は48 ～ 66㎝、深さは42㎝、走行方向はN64°Eである。断面形は箱状、覆土は粘質な灰色土を基調にしたレンズ状堆積である。遺物は土師器高杯･甕が出土しているが、飛鳥時代帰属のものの流れ込みとみられる。遺構確認面から、本溝は平安時代の所産と考えられる。

SD414（図面図版５・20、写真図版19）

調査区南側の13B19 ～ 13C11グリッドに跨って直線的に走行する。SK415・416と重複し、いずれも本溝のほうが新しい。長さは3.60m、上端幅は17 ～ 24㎝、深さは21 ～ 29㎝、走行方向はN62°Eである。断面形はU字状、覆土は粘質な灰色土を基調にした水平堆積である。遺物は土師器甕が出土しているが、飛鳥時代帰属のものの流れ込みと考えられる。覆土と重複関係から、本溝は平安時代の所産と考えられる。

SD488（図面図版５・20）

調査区南側の11B20 ～ 11C21グリッドに跨って直線的に走行する。重複関係はSD291より新しく、SD290とSK280に接合し、同時存在で一体化している。長さは3.10m、上端幅は32 ～ 82㎝、深さは3㎝、走行方向はN20°Wである。断面形は弧状、覆土はSD290と同じくⅡa・Ⅱa'層に似て粘性が強く、黒味が強い色調である。底面標高はSK280と接する北側が3.77m、SD290に繋がる南側は3.60m、SK280からSD290に向かって流下している。本溝に伴う遺物は出土しなかったが、SD290、SK280と覆土が近似し、また位置的に接合することから、同じ中世の所産と考えられる。

SD491（図面図版６・20、写真図版19）

調査区南端の15A20 ～ 15C01グリッドに跨って直線的に走行する。旧河川流路SR400の５a層上面で本溝を確認した。重複関係はSR400遺物包含５a ～ c・６・７層とSK653より本溝のほうが新しい。長さは14.78m以上、上端幅は150 ～ 350㎝、深さは確認面から32 ～ 40㎝。走行方向はN76°Eである。断面形は台形、覆土は砂礫を含む粘質土で５層に分けられている。特に下層は砂礫の含有率が高く、本溝が洪水によって埋没した可能性が高い。本溝の中央部は上端が大きく崩れて広がっている。

出土遺物の総重量は土師器が3,120g、須恵器が740gと多かったが、大半は飛鳥時代帰属のものの流れ込みとみられる。本書では本溝に伴うとみられる須恵器杯（120 ～ 122）、土師器杯（123）を掲載した。出土遺物と遺構確認面から、本溝は平安時代の所産と考えられる。

SD532（図面図版３・20、写真図版19）

調査区北側の7A05 ～ 7B06グリッドに跨って直線的に走行し、南端でSD75と接合している。長さは1.78m、上端幅は22 ～ 29㎝、深さは10㎝、走行方向はN20°Wである。断面形は弧状、覆土は粘質土

で単層である。遺物の出土はなかった。本溝は覆土などから、接するSD75と一体化したものと考えられる。

SD613（図面図版４・18、写真図版17）

調査区南側の11A04～10グリッドに跨って直線に走行する。基盤層であるⅢ層上面で本溝を確認した。南側でSD250と重複し、本溝のほうが古い。長さは2.60m以上、上端幅は42～94㎝、深さは10㎝、走行方向はN65°Eである。断面形は弧状、覆土は灰色シルトで水平堆積である。遺物は土師器高杯・甕が出土しており、出土遺物と遺構確認面から本溝は飛鳥時代の所産と考えられる。

SD668（図面図版４・20、写真図版20）

調査区中央の９C01～12グリッドに跨って直線的に走行する。本溝は遺物包含Ⅱc層上面で確認され、他遺構との重複はない。長さは4.35m、上端幅は26～58㎝、深さは10㎝、走行方向はN21°Wである。断面形は弧状、覆土は粘質土で水平堆積である。遺物は土師器高杯・甕が出土しているが、飛鳥時代帰属のものの流れ込みとみられる。遺構確認面から本溝は平安時代の所産と考えられる。

SD724（図面図版５・20、写真図版20）

調査区南側の12A24～13B16グリッドに跨って直線的に走行する。遺物包含Ⅱc層上面で本溝を確認した。SD340・347、SK665、P523・676、SB511を構成するP287と重複し、いずれも本溝のほうが新しい。長さは9.18m、上端幅は28～62㎝、深さは18～23㎝、走行方向はN32°Wである。断面形は弧状、覆土は粘質な灰黄色土を基調にした水平堆積である。遺物は土師器甕が出土しているが、飛鳥時代帰属のものの流れ込みとみられる。遺構確認面と重複関係から本溝は平安時代の所産と考えられる。

SD768（図面図版５・20、写真図版20）

調査区南側の14A14～13B23グリッドに跨って直線的に走行する。SK720・732・734と重複し、いずれも本溝のほうが新しい。長さは8.73m、上端幅は20～45㎝、深さ21～29㎝、走行方向はN68°Eである。断面形はU字状、覆土は粘質土で水平堆積である。遺物は土師器高杯・甕が出土しているが、飛鳥時代帰属のものの流れ込みとみられる。覆土と重複関係から本溝は平安時代の所産と考えられる。

## G　土坑

今回の調査では130基の土坑が検出された。調査区南側で検出されたSK280は中世の所産で、それ以外は飛鳥時代の所産である。

飛鳥時代の土坑は平面が方形と楕円形の２種に大別され、断面は台形か弧状が主体である。覆土に炭化物と獣骨を含む特徴がある。焼土を含む土坑は少なく、底面が被熱を受けた土坑も３基だけである。獣骨が出土した土坑は飛鳥時代所産の129基のうち42基であるが、この数は土壌水洗後に目視で確認されたものだけなので、魚骨など小骨片を含めたら基数は更に多くなったとみられる。他遺物も土器や土製品などが多数出土し、時期決定の根拠となった。飛鳥時代の土坑の性格は、山三賀遺跡［坂井ほか1989］などの発掘例から集落内のゴミ穴と考えられる。

SK1（図面図版２・20、写真図版20）

３B02グリッドに位置する。平面は方形で、断面は弧状、規模は長径74㎝、短径68㎝、深さ12㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトで水平堆積である。遺物総量は450gで土師器高杯･甕が出土しており、本書では土師器高杯（124）を掲載した。

SK2（図面図版２・21、写真図版20）

３C17グリッドに位置する。平面は不整形で、断面は弧状、規模は長径130㎝、短径98㎝、深さ12㎝

を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は260gで土師器甕、須恵器杯が出土しており、本書では須恵器杯（125）を掲載した。

SK3（図面図版２・20、写真図版20・21）

３A05・３B01グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径100㎝、短径56㎝、深さ12㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトで水平堆積である。遺物総量は220gで土師器甕が出土している。

SK6（図面図版２・20、写真図版21）

３B01グリッドに位置する。平面は不整形で、断面は弧状、規模は長径174㎝、短径120㎝、深さ14㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトで水平堆積である。遺物総量は180gで土師器杯・甕が出土している。

SK7（図面図版２・20、写真図版21）

３B01・02グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径110㎝、短径65㎝、深さ12㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトで水平堆積である。遺物総量は350gで土師器杯・甕が出土している。

SK9（図面図版２・21、写真図版21）

３B08グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径57㎝、短径26㎝、深さ10㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトで水平堆積である。遺物総量は370gで土師器甕、須恵器が出土しており、本書ではコップ形須恵器（126）を掲載した。

SK10（図面図版２・21、写真図版21）

３B03・08グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は残存長径96㎝、短径93㎝、深さ13㎝を測る。覆土は炭化物を極めて多く含むシルトで、とりわけ多く含む２層は遺構のほぼ全面に広がる。遺物総量は320gで、土師器高杯・甕が出土している。

SK11（図面図版２・21、写真図版22）

３B06･07･11･12グリッドに位置する。平面は不整形で、断面は弧状、規模は長径244㎝、短径165㎝、深さ14㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は640gで土師器甕、須恵器甕、円柱支脚が出土している。

SK13（図面図版２・21、写真図版22）

４C22グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径95㎝、短径88㎝、深さ18㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は210gで土師器甕が出土している。

SK16（図面図版２・21、写真図版22）

４C16グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径83㎝、短径67㎝、深さ10㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は80gで土師器甕が出土している。

SK19（図面図版２・21、写真図版22）

５B05グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径119㎝、短径78㎝、深さ12㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトで水平堆積である。遺物総量は140gで土師器杯･甕が出土している。

SK20（図面図版２・21、写真図版22）

５B10グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径64㎝、短径49㎝、深さ9㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトで単層である。遺物総量は210g、土師器甕、須恵器杯が出土して

おり、本書では須恵器杯（127）を掲載した。

SK21（図面図版２・21）

５C06グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径73㎝、短径51㎝、深さ11㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトで水平堆積である。遺物総量は100gで土師器甕が出土している。

SK24（図面図版２・21、写真図版23）

５B15・５C11グリッドに位置する。重複関係はP711より古い。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径74㎝、短径44㎝、深さ10㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトで水平堆積である。遺物総量は70gで土師器高杯・甕が出土している。

SK29（図面図版２・21、写真図版23）

５C02グリッドに位置する。平面は不整形で、断面は弧状、規模は長径87㎝、短径64㎝、深さ12㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトで水平堆積である。遺物総量は180gで土師器高杯・甕が出土している。

SK30（図面図版２・21、写真図版23）

５C02グリッドに位置する。平面は楕円形で断面は箱状、規模は長径104㎝、短径38㎝、深さ8㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトで水平堆積である。遺物総量は60gで土師器甕が出土している。

SK40（図面図版３・22、写真図版23）

５B21･22グリッド、６B01･02グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径93㎝、短径64㎝、深さ14㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトで水平堆積である。遺物総量は680gで土師器高杯・甕、須恵器甕が出土しており、本書では土師器甕（128・129）を掲載した。

SK58（図面図版３・22、写真図版23）

６B01・06グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径89㎝、短径75㎝、深さ10㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトで水平堆積である。遺物総量は320gで土師器杯・甕が出土しており、本書では土師器甕（130・131）を掲載した。

SK74（図面図版３・22、写真図版24）

６A25・７A05グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径164㎝、短径104㎝、深さ24㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は80gで土師器甕、砥石が出土している。本書では砥石（269）を掲載した。

SK85（図面図版３・22、写真図版24）

７C02グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面形は弧状、規模は長径75㎝、短径55㎝、深さ17㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は110gで土師器甕が出土している。

SK88（図面図版３・22、写真図版24）

７B10・７C06グリッドに位置する。平面は方形で断面形は弧状、規模は長径110㎝、短径72㎝、深さ16㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は300gで土師器杯・甕が出土している。

SK89（図面図版３・22、写真図版24）

７C06グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面形は台形状、規模は長径70㎝、短径60㎝、深さ22㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は240gで土師器高杯・甕が出土している。

SK110（図面図版３・22、写真図版24）

７B23・24グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面形は弧状、規模は長径84㎝、短径40㎝、深さ14㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は60gで土師器高杯が出土している。

SK128（図面図版３・22、写真図版24）

８C07・08・12・13グリッドに位置し、東側は調査区外となる。平面は方形で、断面は弧状、規模は残存長径42㎝、短径60㎝、深さ８㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は220gで土師器甕、須恵器甕が出土しており、本書では須恵器甕（132）を掲載した。

SK130（図面図版４・22、写真図版25）

８B15・20グリッドに位置する。重複関係はP541より古い。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径94㎝、短径56㎝、深さ12㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。２層が炭化物を主体とする層になる。SB501を構成するP541に切られているが、炭化物範囲は概ね全面に及ぶ。遺物総量は40gで土師器甕が出土している。

SK135（図面図版４・22、写真図版25）

８B19・24グリッドに位置する。平面は不整形で、断面は弧状、規模は長径140㎝、短径48㎝、深さ14㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は90gで土師器杯・甕が出土している。

SK136（図面図版４・22、写真図版25）

８B18・23グリッドに位置する。重複関係はSK137より古い。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は残存長径102㎝、短径91㎝、深さ10㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は20gで土師器甕が出土している。

SK137（図面図版４・22、写真図版25）

８B17・18・22・23グリッドに位置する。重複関係はSK136より新しい。平面は方形で、断面は弧状、規模は長径147㎝、短径140㎝、深さ10㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトでレンズ状堆積である。２層が炭化物を主体とする。遺物総量は30gで土師器甕が出土している。

SK138（図面図版４・22、写真図版25）

８B17・22グリッドに位置する。重複関係はSK139より古い。平面は方形で、断面は弧状、規模は長径92㎝、短径75㎝、深さ７㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトで水平堆積である。１層が炭化物を主体とし、底面には被熱痕がみられる。遺物総量は110gで土師器甕、須恵器杯・甕、石製紡錘車が出土している。また、2層からは獣骨が出土している。本書では紡錘車（263）を掲載した。

SK139（図面図版４・22、写真図版25）

８B16・17・21・22グリッドに位置する。重複関係はSK138より新しい。平面は不整形で、断面は弧状、規模は長径110㎝、短径84㎝、深さ５㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。１層が炭化物を主体とし、底面には被熱痕がみられる。遺物総量は30gで土師器甕が出土している。

SK150（図面図版４・23、写真図版26）

９B06・07・11・12グリッドに位置する。平面は不整形で、断面は台形状、規模は長径159㎝、短径100㎝、深さ46㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトで水平堆積である。２層が炭化物を主体とする。遺物総量は320gで土師器高杯・甕が出土している。

SK151（図面図版４・23）

９A09グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は箱状、規模は残存長径45㎝、短径45㎝、深さ14㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は230gで土師器甕が出土している。

SK163（図面図版４・23、写真図版26）

９B12・17グリッドに位置する。重複関係はP561より古い。平面は楕円形で、断面は台形状、規模は長径89㎝、短径61㎝、深さ27㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は120gで土師器甕が出土している。北側に深さ６㎝のピット上の掘り込みがある。

SK165（図面図版４・23、写真図版26）

11B05グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は箱状、規模は長径92㎝、短径50㎝、深さ26㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は180gで土師器高杯・甕が出土している。

SK167（図面図版４・23、写真図版26）

9A04・05グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は台形状、規模は長径74㎝、短径57㎝、深さ54㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は80gで土師器甕が出土している。また、1層からは獣骨が出土している。

SK170（図面図版４・23）

９B16・17・21グリッドに位置する。重複関係はP157・444・445より古く、SD374より新しい。平面は不整形で、断面は台形状、規模は長径296㎝、短径200㎝、深さ30㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は680gで土師器杯・高杯、土製円柱支脚が出土している。本書では円柱支脚（232）を掲載した。

SK172（図面図版４・23、写真図版26・27）

９B18・23グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径103㎝、短径82㎝、深さ24㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は540gで土師器高杯・甕、須恵器甕が出土しており、また、２層からは獣骨が出土している。本書では土師器甕（133・134）を掲載した。

SK174（図面図版４・23）

９B22グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径43㎝、短径22㎝、深さ33㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでブロック状堆積である。遺物総量は60gで土師器甕が出土している。

SK180（図面図版４・23、写真図版27）

９B22グリッドに位置する。重複関係はP675より古い。平面は楕円形で断面は、台形状、規模は長径100㎝、短径58㎝、深さ17㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は180gで土師器甕が出土している。

SK182（図面図版４・23、写真図版27）

９B20・25グリッド、９C21グリッドに位置する。重複関係はP329より古い。平面は楕円形で、断面は箱状、規模は長径160㎝、残存短径42㎝、深さ32㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は210gで土師器杯・甕が出土している。

SK190（図面図版４・23、写真図版27）

10B05・10グリッド、10C01・06グリッドに位置する。重複関係はP440より古い。平面は不整形で、断面は弧状、規模は長径179㎝、短径91㎝、深さ13㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積で、

２層は炭化物を主体とする。遺物総量は410gで土師器高杯・甕、須恵器蓋・甕、鞴羽口、凹石が出土しており、本書では土師器甕（135）と凹石（270）を掲載した。

SK197（図面図版４・24、写真図版27）

10B03・08グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径131㎝、短径は77㎝、深さ９㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで単層である。遺物総量は420gで土師器杯・甕、須恵器甕が出土しており、本書では土師器甕（136）を掲載した。

SK207（図面図版４・24、写真図版28）

10A15・20グリッドに位置する。平面は不整形で、断面は弧状、規模は長径130㎝、短径は86㎝、深さ16㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトでレンズ状堆積である。２層が炭化物を主体とする。遺物総量は370gで土師器杯・甕、須恵器甕が出土している。また、２層からは獣骨が出土している。

SK208（図面図版４・24、写真図版28）

10A15・20グリッド、10B11・16グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は台形状、規模は長径130㎝、短径108㎝、深さ63㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトでレンズ状堆積である。４層が炭化物を主体とする。遺物総量は550gで土師器高杯・甕、須恵器杯・甕が出土している。また、３層からは獣骨が４点出土している。

SK210（図面図版４・24、写真図版28）

10B09・14グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は台形状、規模は長径151㎝、短径101㎝、深さ55㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトでレンズ状堆積である。３層が炭化物を主体とする。遺物総量は4,950gで土師器杯・高杯・甕、須恵器甕、鞴羽口、塊状土製品、カマド形土製品が出土している。また、３層からは獣骨が出土している。本書では、須恵器甕（137）、土師器高杯（138）、土師器甕（139）、鞴羽口（241）、塊状土製品（244 ～ 247）を掲載した。

SK215（図面図版４・24、写真図版28）

10B13・18グリッドに位置する。重複関係はSK216より新しい。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径146㎝、短径94㎝、深さ11㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は200gで土師器甕が出土しており、また、2層からは獣骨が出土している。

SK216（図面図版４・24、写真図版29）

10B13・14・18・19グリッドに位置する。重複関係はSK215、P223・408・431より古い。平面は不整形で、断面は弧状、規模は長径214㎝、短径131㎝、深さ10㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は150gで土師器甕が出土しており、また、1層からは獣骨が出土している。

SK234（図面図版４・24、写真図版29）

10C17・18グリッドに位置する。重複関係はP605より新しい。平面は楕円形で、断面は台形状、規模は長径60㎝、短径50㎝、深さ20㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は810gで土師器高杯・鉢・甕が出土しており、また、１層からは獣骨が出土している。本書では土師器甕（140）・鉢（141）を掲載した。

SK237（図面図版４・24）

10C21・22グリッドに位置する。平面は円形で、断面はU字状、規模は長径52㎝、短径45㎝、深さ52㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は420gで土師器高杯・甕、カマド形土製品が出土しており、本書では土師器甕（142）を掲載した。

SK240（図面図版４・24、写真図版29）

10A20・25グリッド、10B21グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径150㎝、短径130㎝、深さ10㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積で、１層は炭化物を主体とする。遺物総量は40gで土師器甕が出土しており、また、1層上面からは獣骨が出土している。

SK244（図面図版24、写真図版29）

11A04グリッドに位置し、西側は調査区外となる。平面は不整形で、断面は弧状、規模は長径134㎝、残存短径64㎝、深さ12㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は190gで土師器甕、鍛冶滓が出土している。

SK246（図面図版４・24、写真図版29）

10B25・10C21・11B05・11C01グリッドに位置する。重複関係はP375・587・608より古い。平面は楕円形で、断面は台形状、規模は長径110㎝、短径107㎝、深さ26㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。３層が炭化物を40%含む。遺物総量は920gで土師器杯・高杯・甕、須恵器甕が出土しており、また、２・３層からは獣骨が出土している。

SK247（図面図版４・25、写真図版29・30）

10B24、11B04･05グリッドに位置する。重複関係はP564より古い。平面は楕円形で、断面は台形状、規模は長径110㎝、短径92㎝、深さ31㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は1,960gで土師器杯・高杯・甕、須恵器杯・甕が出土しており、また、１層からは獣骨が出土している。本書では土師器甕（143）を掲載した。

SK261（図面図版４・25、写真図版30）

11B05グリッドに位置する。重複関係はP467・470より古い。平面は楕円形で、断面は台形状、規模は長径83㎝、短径54㎝、深さ19㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は70gで土師器甕が出土しており、また、２層から獣骨が出土している。本書では土師器甕（144）を掲載した。

SK277（図面図版５・25、写真図版30）

11B10・11C06グリッドに位置する。重複関係はP276・623・746より古い。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径102㎝、短径60㎝、深さ15㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は230gで土師器甕、須恵器杯・甕が出土しており、また、１層からは獣骨が出土している。

SK278（図面図版４・25、写真図版30）

11B08・09グリッドに位置する。重複関係はP797より古い。平面は方形で、断面は弧状、規模は長径87㎝、短径85㎝、深さ18㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は340gで土師器杯・甕が出土している。本書では土師器杯（145）を掲載した。

SK280（図面図版５・31）

11B14・15・19・20グリッド、11C11・12・16グリッドに位置する。重複関係はP70・466・649・655・657、SK281・628・637・744より新しく、SD488と同一遺構。平面は不整形で、断面は台形状、規模は長径600㎝、短径220㎝、深さ16㎝を測る。覆土は粘性が強く、黒味の強い色調の粘質土で水平堆積である。遺物総量は400gで、出土遺物の大半は土師器甕など飛鳥時代に帰属する流れ込みのものである。本書では本土坑に伴うとみられる珠洲焼擂鉢（199）を掲載した。

SK281（図面図版５・25・31、写真図版30）

11C11・16グリッドに位置する。重複関係はSK280、P649より古い。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径102㎝、短径84㎝、深さ28㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は60gで土師器甕が出土しており、また、１層からは獣骨が出土している。

SK282（図面図版５・25、写真図版31）

11B14グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径70㎝、短径40㎝、深さ６㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで単層である。遺物総量は40g、土師器甕と金属製耳環が出土しており、本書では耳環（277）を掲載した。

SK297（図面図版５・25、写真図版31）

11A09・14グリッドに位置する。平面は不整形で、断面は弧状、規模は残存長径80㎝、短径96㎝、深さ７㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は210gで土師器甕が出土しており、また、１層からは獣骨が8点出土している。

SK306（図面図版５・25、写真図版31）

11B12・17グリッドに位置する。重複関係はSK314より新しい。平面は楕円形で、断面は台形状、規模は長径80㎝、短径57㎝、深さ20㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。１層が炭化物を主体とする。遺物総量は80gで土師器甕、須恵器杯が出土している。

SK308（図面図版５・25、写真図版31）

11B13・18・19グリッドに位置する。重複関係はSD307、P462より古く、SK717より新しい。平面は楕円形で、断面は台形状、規模は長径163㎝、短径80㎝、深さ66㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトで水平堆積である。3層が炭化物を主体とする。遺物総量は670gで土師器高杯・甕、須恵器杯・甕が出土している。

SK309（図面図版５・25、写真図版31）

11B16・17グリッドに位置する。重複関係はSK314より新しい。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径125㎝、短径68㎝、深さ18㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は240gで土師器杯・甕が出土しており、また、１層からは獣骨が出土している。

SK311（図面図版４・26、写真図版32）

８B20・25グリッド、８C16グリッドに位置する。平面は長方形で、断面は弧状、規模は長径168㎝、短径97㎝、深さ８㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は1,790gで土師器高杯・甕、須恵器杯・甕が出土しており、本書では土師器甕（146・147）を掲載した。

SK313（図面図版４・26、写真図版32）

８B25グリッド、８C16・21グリッドに位置する。平面は不整形で、断面は弧状、規模は長径245㎝、短径104㎝、深さ12㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は2,010gで土師器高杯・鉢・甕、須恵器杯・甕が出土しており、本書では須恵器杯（148）、土師器鉢（149）、土師器甕（150・151）を掲載した。

SK314（図面図版５・25、写真図版32）

11B17・22グリッドに位置する。重複関係はSK306・309、SD307、P458より古い。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径220㎝、短径150㎝、深さ12㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は80gで土師器甕が出土している。

SK322（図面図版３・26、写真図版32）

７C17・18・22・23グリッドに位置する。重複関係はP684より古い。平面は長方形で、断面は弧状、規模は残存長径106㎝、短径52㎝、深さ16㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は280gで土師器甕、須恵器杯が出土している。

SK330（図面図版５・26、写真図版32・33）

12B09グリッドに位置する。重複関係はSD291より古い。平面は方形で、断面は弧状、規模は残存長径76㎝、短径72㎝、深さ16㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は170gで土師器甕が出土しており、また、１層からは獣骨が出土している。

SK345（図面図版５・26）

12C07・12グリッドに位置する。重複関係はSD347より古い。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径156㎝、短径70㎝、深さ22㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は390gで土師器高杯・甕が出土している。

SK348（図面図版５・26）

12C16グリッドに位置する。重複関係はSK351より古い。平面は長方形で、断面は箱状、規模は長径70㎝、短径62㎝、深さ20㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は660gで土師器杯・高杯・甕が出土している。

SK351（図面図版５・26）

12C16グリッドに位置する。重複関係はSD340より古く、SK348より新しい。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径120㎝、短径90㎝、深さ26㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は430gで土師器高杯・甕、須恵器杯が出土している。本書では須恵器杯（152）を掲載した。

SK370（図面図版５・26、写真図版33）

13B04・05グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径120㎝、短径54㎝、深さ13㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで単層である。遺物総量は710gで土師器高杯・甕が出土している。本書では土師器高杯（153）を掲載した。

SK371（図面図版４・27、写真図版33）

９A25・10A05グリッドに位置する。重複関係はP748より古い。平面は長方形で、断面は弧状、規模は長径110㎝、短径100㎝、深さ41㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は500gで土師器杯・高杯・甕、須恵器甕が出土している。

SK377（図面図版５・27、写真図版33）

13B10・15グリッド、13C06・11グリッドに位置する。重複関係はSK378・413より新しい。平面は楕円形で、断面は台形状、規模は長径180㎝、短径122㎝、深さ62㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトでレンズ状堆積である。３層が炭化物を主体とする。遺物総量は790gで土師器高杯・甕、須恵器甕が出土しており、また、３層からは獣骨が出土している。

SK378（図面図版５・27、写真図版33・34）

13C06グリッドに位置する。重複関係はSK377より古い。平面は楕円形で、断面は台形状、規模は長径100㎝、短径87㎝、深さ29㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は550gで土師器杯・高杯・甕が出土している。

SK382（図面図版５・27、写真図版34）

13B09・14グリッドに位置する。重複関係はSK436より古い。平面は楕円形で、断面は台形状、規模は長径84㎝、短径37㎝、深さ14㎝を測る。覆土は不明である。遺物総量は40gで土師器甕が出土している。

SK383（図面図版５・27、写真図版34）

13B09グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径138㎝、短径84㎝、深さ28㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は80gで土師器甕が出土しており、また、２層から獣骨が出土している。

SK389（図面図版５・27、写真図版34）

13B06･07･12グリッドに位置する。重複関係はSK390･P683より古い。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径130㎝、短径70㎝、深さ14㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は2,670gで土師器高杯・甕が出土しており、また、２層からは獣骨が４点出土している。本書では土師器甕（154 ～ 157）を掲載した。

SK390（図面図版５・27、写真図版34）

13B06・07グリッドに位置する。重複関係はSK719、P389より古い。平面は不整形で、断面は弧状、規模は長径104㎝、短径96㎝、深さ19㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトでレンズ状堆積である。１層上面に顕著な被熱痕がみられた。遺物総量は340gで土師器甕、須恵器甕が出土しており、また、１層からは獣骨が出土している。

SK391（図面図版４・27、写真図版34）

10A05・10グリッドに位置する。平面は長方形で、断面は弧状、規模は長径134㎝、短径94㎝、深さ23㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は290gで土師器甕が出土している。

SK393（図面図版５・28、写真図版35）

13B17グリッドに位置する。重複関係はSK719、P757より古い。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は残存長径74㎝、短径74㎝、深さ16㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトで水平堆積である。遺物総量は780gで土師器杯・高杯が出土しており、また、１層からは獣骨が出土している。

SK394（図面図版５・28、写真図版35）

13B17・18グリッドに位置する。重複関係はSK719・P379より古い。平面は不整形で、断面は弧状、規模は長径172㎝、短径105㎝、深さ46㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトでレンズ状堆積である。１層が炭化物を主体とする。遺物総量は990gで土師器杯･高杯･鉢･甕、カマド形土製品が出土しており、また、３層からは獣骨が出土している。本書では土師器鉢（158）、カマド形土製品（255）を掲載した。

SK398（図面図版５・28）

13B04グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径88㎝、短径63㎝、深さ17㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトで水平堆積である。遺物総量は630gで土師器杯･高杯･甕が出土しており、また、１層からは獣骨が出土している。本書では土師器甕（159）を掲載した。

SK402（図面図版４・26、写真図版32・35）

８B25･８C21･９B05･９C01グリッドに位置する。平面は不整形で、断面は弧状、規模は長径164㎝、短径155㎝、深さ12㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトでレンズ状堆積である。４層は炭化物を主体とする。断面観察から土坑２基重複の可能性あり。遺物総量は2,080gで土師器杯・高杯・甕、須恵

器杯・蓋・甕、円柱支脚が出土しており、本書では土師器甕（160・161）、円柱支脚（230）を掲載した。

SK403（図面図版４・28、写真図版35・36）

９C07・12グリッドに位置する。重複関係はSD160より古い。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は残存長径135㎝、短径72㎝、深さ18㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。１層が炭化物を20％含む。遺物総量は1,250gで土師器高杯・甕、須恵器甕、鞴羽口が出土しており、本書では土師器甕（162 ～ 164）を掲載した。

SK405（図面図版５・28、写真図版36）

12B14・15グリッドに位置する。重複関係はSD341、P350より古い。平面は不整形で、断面は弧状、規模は長径102㎝、短径90㎝、深さ31㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は160gで土師器甕が出土している。

SK409（図面図版５・29、写真図版36）

13B08・09・13・14グリッドに位置する。重複関係はSK423より古い。平面は不整形で、断面は弧状、規模は長径126㎝、短径50㎝、深さ16㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は40gで土師器甕が出土している。

SK413（図面図版５・27、写真図版36）

13B15・13C11グリッドに位置する。重複関係はSK377より古い。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径107㎝、短径65㎝、深さ12㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は240gで土師器甕、須恵器甕、鞴羽口が出土しており、また、1層からは獣骨が出土している。

SK415（図面図版５・29、写真図版36）

13B20･13C16グリッドに位置する。重複関係はSD414､P527より古い。平面は長方形で､断面は弧状、規模は長径122㎝、短径82㎝、深さ18㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。１層は炭化物を主体とする。遺物総量は180gで土師器高杯・甕が出土しており、また、１層から獣骨が出土している。

SK416（図面図版５・29、写真図版36）

13B20・25グリッドに位置する。重複関係はSD414より古い。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径146㎝、短径100㎝、深さ20㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。4層が炭化物を主体とする。遺物総量は110gで土師器杯・甕が出土している。

SK417（図面図版５・29、写真図版37・43）

13B19･24グリッドに位置する。重複関係はP530、SK741より古い。平面は楕円形で、断面は台形状、規模は長径148㎝、短径100㎝、深さ29㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は1,230gで土師器杯・甕、須恵器杯が出土しており、また、１層からは獣骨が出土している。

SK418（図面図版４・30、写真図版37）

10B01グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径105㎝、短径58㎝、深さ10㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。３層が炭化物を20％含む。遺物総量は210gで土師器甕が出土しており、また、１層からは獣骨が出土している。

SK420（図面図版３・30、写真図版37）

７C07グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径102㎝、短径56㎝、深さ20㎝を測る。覆土は不明である。遺物総量は130gで土師器高杯・甕が出土している。

SK421（図面図版５・29、写真図版37・38・43）

13B23・24グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は箱状、規模は長径83㎝、短径71㎝、深さ29㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。１層が炭化物を20％含む。遺物総量は2,640gで土師器杯・高杯・甕、須恵器杯、円筒形土製品、砥石とみられる石製品が出土しており、本書では土師器甕（165・166）、円筒形土製品（243）、砥石（273）を掲載した。

SK423（図面図版５・29、写真図版37）

13B13・14グリッドに位置する。重複関係はSD384、P401・406より古く、SK409より新しい。平面は長方形で、断面は弧状、規模は長径200㎝、短径112㎝、深さ34㎝を測る。覆土は炭化物を多く含むシルトでレンズ状堆積である。５層が炭化物を主体とする。遺物総量は2,070gで土師器杯・高杯・椀・甕、須恵器甕、カマド形土製品が出土しており、本書では土師器椀（167）、甕（168）、カマド形土製品（257）を掲載した。

SK424（図面図版５・30、写真図版37）

11C07・12グリッドに位置する。重複関係はP624より古い。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径97㎝、短径63㎝、深さ19㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。２層が炭化物を主体とする。遺物総量は40gで土師器甕が出土しており、また、２層から獣骨が出土している。

SK425（図面図版４・30）

10C06・07・11・12グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径76㎝、短径38㎝、深さ12㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。２層が炭化物を20％含む。遺物総量は90gで土師器甕が出土している。

SK426（図面図版５・30、写真図版38）

13B23・24グリッド、14B03・04グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径73㎝、短径47㎝、深さ16㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は70gで土師器杯・甕が出土している。

SK430（図面図版４・30）

10B25グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径92㎝、短径42㎝、深さ15㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は130gで土師器高杯・甕が出土している。

SK436（図面図版５・27）

13B09・10・14・15グリッドに位置する。重複関係はSK382より新しい。平面は楕円形で、断面は台形状、規模は長径100㎝、短径34㎝、深さ８㎝を測る。覆土は不明である。遺物総量は70gで土師器杯・甕が出土している。

SK437（図面図版４・30、写真図版38）

10B06・11グリッドに位置する。平面は不整形で、断面は弧状、規模は長径144㎝、短径126㎝、深さ24㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。２層が炭化物を20％含む。遺物総量は380gで土師器杯・甕、須恵器瓶が出土している。

SK452（図面図版６・30、写真図版38）

14A04・09グリッドに位置する。平面は方形で、断面は台形状、規模は長径70㎝、短径60㎝、深さ34㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでブロック状堆積である。遺物総量は30gで土師器甕が出土している。

SK490（図面図版３・30、写真図版38）

８A04・05・09・10グリッドに位置する。重複関係はSD117より新しく、P521・526・529より古い。平面は方形で、断面は弧状、規模は長径135㎝、短径93㎝、深さ11㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は220gで土師器杯・甕が出土している。

SK547（図面図版３・30、写真図版38）

８C01グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は台形状、規模は長径54㎝、短径44㎝、深さ21㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は80gで土師器甕が出土している。

SK557（図面図版４・31、写真図版38）

８C11・16グリッドに位置する。重複関係はSK558より古い。平面は不整形で、断面は弧状、規模は残存長径98㎝、短径66㎝、深さ12㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は20gで土師器甕が出土している。

SK558（図面図版４・31、写真図版38）

８C11・16グリッドに位置する。重複関係はSK557より新しく、P631より古い。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径119㎝、短径55㎝、深さ20㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は90gで土師器高杯・甕が出土している。

SK559（図面図版４・31、写真図版39）

８B15・20・８C16グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径72㎝、短径56㎝、深さ14㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は110gで土師器甕、須恵器杯・甕が出土している。

SK560（図面図版３・４・31、写真図版39）

８C12グリッドに位置する。重複関係はP538より古い。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径84㎝、短径80㎝、深さ12㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は100gで土師器甕が出土している。

SK574（図面図版３・31、写真図版39）

８C07グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径53㎝、短径45㎝、深さ17㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は30gで土師器甕が出土している。

SK628（図面図版５・31）

11C12グリッドに位置する。重複関係はSK280より古く、SK637より新しい。平面は円形で、断面は弧状、規模は長径84㎝、短径82㎝、深さ28㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は50gで土師器甕と紡錘車未成品と思われる石製品が出土しており、また、１層からは獣骨が出土している。本書では紡錘車未成品か（264）を掲載した。

SK637（図面図版５・31）

11C12グリッドに位置する。重複関係はSK280・628、P642より古い。平面は楕円形で、断面は台形状、規模は長径80㎝、短径67㎝、深さ34㎝を測る。覆土は不明である。遺物総量は40gで土師器甕が出土している。

SK653（図面図版６・32、写真図版39）

15B10・15グリッド、15C11グリッドに位置する。重複関係はSD491より古い。確認面は旧河川流路遺物包含７層下位である。平面は長方形で、断面は段差のある階段状、規模は長径222㎝、短径180㎝、

深さ65㎝を測る。覆土は多量の材と炭化物を含む粗砂と黄灰色シルト塊で、ブロック状堆積である。遺物総量（土器のみ）は450g、土師器甕と角材や割材が多量に出土しており、本書では杭（501）を掲載した。

SK665（図面図版５・32、写真図版39）

12A24・12B04グリッドに位置する。重複関係はSD724より古い。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径105㎝、短径82㎝、深さ16㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は150gで土師器杯・甕が出土しており、また、１層から獣骨が出土している。

SK717（図面図版５・25、写真図版40）

11B18・19・23・24グリッドに位置する。重複関係はSD307、SK308、P464より古く、SK718より新しい。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径196㎝、短径84㎝、深さ33㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。３層が炭化物を主体とする。遺物総量は170gで土師器高杯・甕が出土しており、また、１層からは獣骨が出土している。

SK718（図面図版５・25、写真図版40）

11B24グリッドに位置する。重複関係はSD291、SK717より古い。平面は楕円形で、断面は半円状、規模は残存長径86㎝、短径53㎝、深さ34㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は90gで土師器甕が出土している。

SK719（図面図版５・28、写真図版35・40）

13B17・18・22グリッドに位置する。重複関係はP533・536、SK727より古く、SK393・SK394より新しい。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径165㎝、短径86㎝、深さ26㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。１層が炭化物を20％含む。遺物総量は8,180gで、膨大な量の土器が坑底に接した横位の状況で出土している。土師器杯・椀・高杯・甕、須恵器甕、カマド形土製品が出土しており、本書では土師器椀（169）・高杯（170・171）・甕（172 ～ 175）・カマド形土製品（253）を掲載した。

SK720（図面図版５・28、写真図版35・40・41）

13B21・22グリッドに位置する。重複関係はP542、SK727より新しく、SD768より古い。平面は楕円形で、断面は台形状、規模は長径104㎝、短径95㎝、深さ36㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。①層が炭化物を20％含む。遺物総量は1,140gで土師器高杯・甕が出土しており、本書では土師器甕（176）を掲載した。

SK726（図面図版５・32、写真図版41）

13A20グリッドに位置する。平面は不整形で、断面は弧状、規模は長径94㎝、短径40㎝、深さ16㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は400gで土師器高杯・甕が出土しており、また、1層から獣骨が出土している。

SK727（図面図版５・28、写真図版35・41）

13B21・22グリッドに位置する。重複関係はP536、SK720、P723より古く、SK719より新しい。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径156㎝、短径74㎝、深さ26㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は960gで土師器杯･椀･高杯･甕が出土しており、本書では土師器椀（178）･甕（179）を掲載した。

SK730（図面図版６・33、写真図版41・42）

14B02・07グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径158㎝、短径96㎝、深さ

22㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は140gで土師器甕が出土しており、また、2層から獣骨が出土している。

SK731（図面図版６・33、写真図版42）

14B01･02･06･07グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径188㎝、短径158㎝、深さ14㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。炭化層を２層が10％、４層が20％含む。遺物総量は1,090gで土師器杯・甕、須恵器甕、円筒形土製品が出土している。

SK732（図面図版５・33、写真図版42）

14A05・14B01グリッドに位置する。重複関係はSK734、P763、SD768より古い。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径180㎝、短径143㎝、深さ14㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は3,860g、土師器杯・椀・甑・甕、須恵器蓋・鉢・瓶・甕が出土しており、本書では須恵器瓶（180）、土師器甕（181）・甑把手（182）を掲載した。

SK733（図面図版６・33、写真図版42）

14B06・07・11・12グリッドに位置する。重複関係はP706より古い。また、南側をSR400によって削平されている。平面は楕円形で、断面は箱状、規模は残存長径118㎝、短径138㎝、深さ40㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は5,410gで土師器杯・高杯・甕、須恵器甕・横瓶が出土しており、また、1層では獣骨が出土している。本書では土師器甕（183 ～ 185）、須恵器横瓶（190）、カマド把手（250）を掲載した。

SK734（図面図版６・33、写真図版43）

14A05･10グリッド､14B01･06グリッドに位置する。重複関係はSK732より新しく､SD768より古い。平面は不整形で、断面は台形状、規模は長径148㎝、短径128㎝、深さ17㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は2,120gで土師器高杯・甕、須恵器甕が出土しており、また、1層からは獣骨が出土している。本書では土師器甕（186）を掲載している。

SK741（図面図版５・29、写真図版43）

13B24グリッドに位置する。重複関係はSK417より新しい。平面は長方形で、断面は台形状、規模は長径154㎝、短径92㎝、深さ22㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。３層が炭化物を主体とする。遺物総量は140gで土師器甕が出土している。

SK744（図面図版５・25・31、写真図版43）

11B15・11C11グリッドに位置する。重複関係はSK280、P643より古い。平面は楕円形で、断面は台形状、規模は長径105㎝、短径68㎝、深さ14㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は180gで土師器甕が出土している。

SK755（図面図版６・32、写真図版43・44）

14A10グリッドに位置する。平面は方形で、断面は弧状、規模は長径114㎝、短径98㎝、深さ12㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は3,040gで土師器杯・高杯・鉢・甕、須恵器甕が出土しており、本書では土師器杯（187）・甕（188・189）を掲載した。

SK764（図面図版６・32、写真図版44）

14A09グリッドに位置する。平面は楕円形で、断面は弧状、規模は長径80㎝、短径60㎝、深さ21㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は100gで土師器杯･甕が出土しており、また、１層から獣骨が出土している。

SK765（図面図版６・32、写真図版44）

14A09・14グリッドに位置する。平面は長方形で、断面は台形状、規模は長径97㎝、短径64㎝、深さ14㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトでレンズ状堆積である。遺物総量は430gで土師器甕、円筒形土製品、鉄斧が出土しており、また、１層からは獣骨が出土している。本書では円筒形土製品（242）、鉄斧（297）を掲載した。

SK767（図面図版６・33、写真図版44）

14A10・14B06グリッドに位置する。平面は長方形で、断面は箱状、規模は長径140㎝、短径120㎝、深さ11㎝を測る。覆土は炭化物を含むシルトで水平堆積である。遺物総量は7,280gで土師器杯･高杯･椀･甕、須恵器甕が出土しており、本書では土師器高杯（191・192）・甕（193 ～ 196）を掲載した。

## Ｈ　ピット（図面図版34 ～ 38、写真図版45・46）

調査区内で総数427基のピットが検出され、そのうち16棟の掘立柱建物を構成するピットが127基である。ピットは径30 ～ 50㎝の比較的小形のものが大半で、掘り形はU字状が多い。覆土はSA515以外シルトを主体とする。

柱筋が通らず、単独のピットとして扱ったものが300基あったが、柱根が残っていたり柱痕が確認できたものが多数あり、16棟以上の建物が存在した可能性がある。遺構確認面がⅢ層上面及びⅡc層下位であることと覆土がシルトであることから、ピットは飛鳥時代の所産と考える。また、ピット内から僅少ではあるが遺物が出土しており、そのうち土器は飛鳥時代より新しいものは出土していない。

## Ｉ　杭・杭列（図面図版39、写真図版46・47）

調査区内の杭の総数は375本である。単独で打ち込まれた杭や、直線的に並ぶ杭列が検出されたがそのうちの大半は平安時代の所産であるSD291に打ち込まれたもので、その数は289本である。水路の護岸用に溝上端部に2条の杭列が配されている。26本並ぶK108も上述したSD291と同様に径3.0 ～ 5.5㎝の細長いものが用いられ、杭列の方向や打ち込み面から、平安時代以降の水田耕作に関連するものとみられる。

旧河川流路の基盤層に打ち込まれた杭は45本で、径10㎝前後の太く長いものばかりである。土器や木製品が多く出土した南西側と、岸辺に近い北東側の２箇所に杭の打ち込みが偏在している。

# 第Ⅴ章　遺　　物

## 第１節　概要

遺物出土分布は調査区のほぼ全域に及ぶが、調査区南側の８～15グリッドが多い（第12図）。自然堤防上と旧河川流路内の遺物包含層と溝や土坑などの遺構内から満遍なく出土しており、種別は土器・土製品・石製品・金属製品・木製品・植物遺体（種子）・獣骨である。そのうち土器・土製品・石製品・金属製品は収納箱（54×34×10㎝）で総数142箱、重量に換算すると約417kg分が出土し、木製品や加工痕のある材が大形槽（136×90×20㎝）で総数22箱、点数に換算すると約1,100点が出土した。遺物の帰属する時代は弥生時代・古墳時代後期・飛鳥時代・平安時代・中世である。とりわけ飛鳥時代の遺物出土量が多く、全量の9割以上を占める。

出土遺物の種別は、土器を主体に土製品・石製品・鉄製品・銅製品・鉄生産関連遺物・木製品が出土した。この他、種実及び土器に付着した炭化米や籾痕も検出されている。各遺物包含層および遺構種別ごとの土器出土量は重量に換算すると旧河川流路SR400遺物包含層が約114kg、自然堤防上の遺物包含Ⅱc層が約163kg、遺物包含Ⅱb層が約1kg、溝が約50kg、土坑が約83kg、ピットが6kgである（第12図）。木製品は大半が旧河川流路SR400遺物包含層からの出土である。掲載にあたって、土器は出土遺構ごとの掲載を優先し、これ以外のものについては遺構の内外を問わず種別ごとに掲載した。

## 第２節　土器

今回の調査で弥生時代・古墳時代後期・飛鳥時代・平安時代・中世に帰属する土器が出土した。なかでも飛鳥時代の須恵器、土師器の出土量が多く、他の遺物と同様に全量の９割以上を占める。

### A　土器の分類

古墳時代後期・飛鳥時代・平安時代の土器について分類をした（９～11図）。分類は春日真実氏の研究で示された分類案［春日2006］を参考として、特徴的な部位で大別（A～E）、細別（１～３、a～d）とし、調整痕で細々別（Ⅰ～Ⅲ）を行った。

### 須恵器（古墳時代後期・飛鳥時代）

食膳具と貯蔵具がある。食膳具には無台杯・有台杯・杯身・杯蓋・高杯・コップ形・鉢、貯蔵具には平瓶・長頸瓶・瓶・横瓶・甕がある。

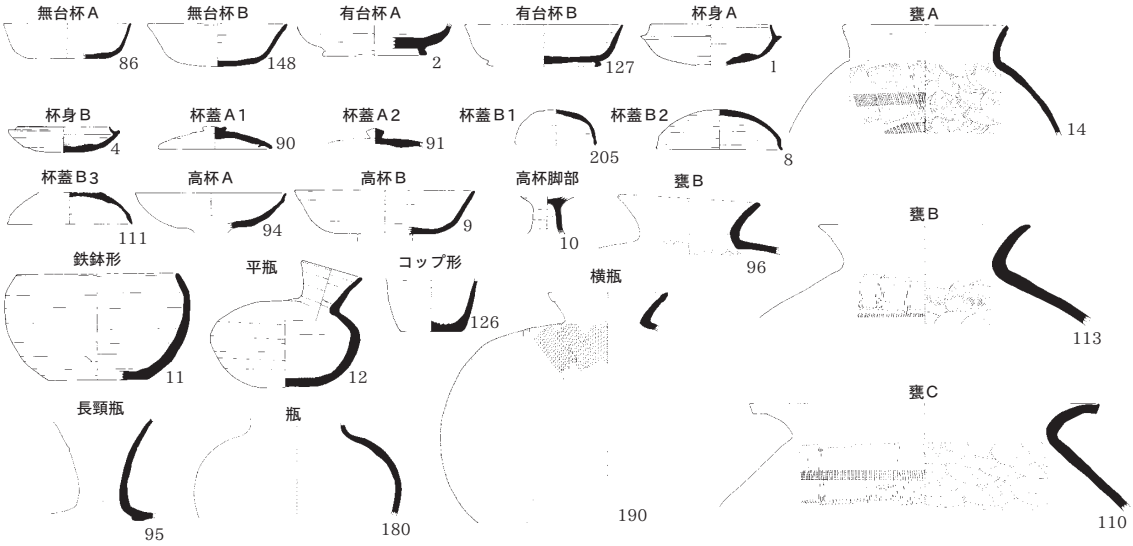
**無台杯**　A：底部が平坦なもの（５・85・125）、B：底部が丸みを帯びるもの（148）がある。

**有台杯**　A：底部が平坦なもの（２）、B：底部が丸みを帯びるもの（127・152）がある。

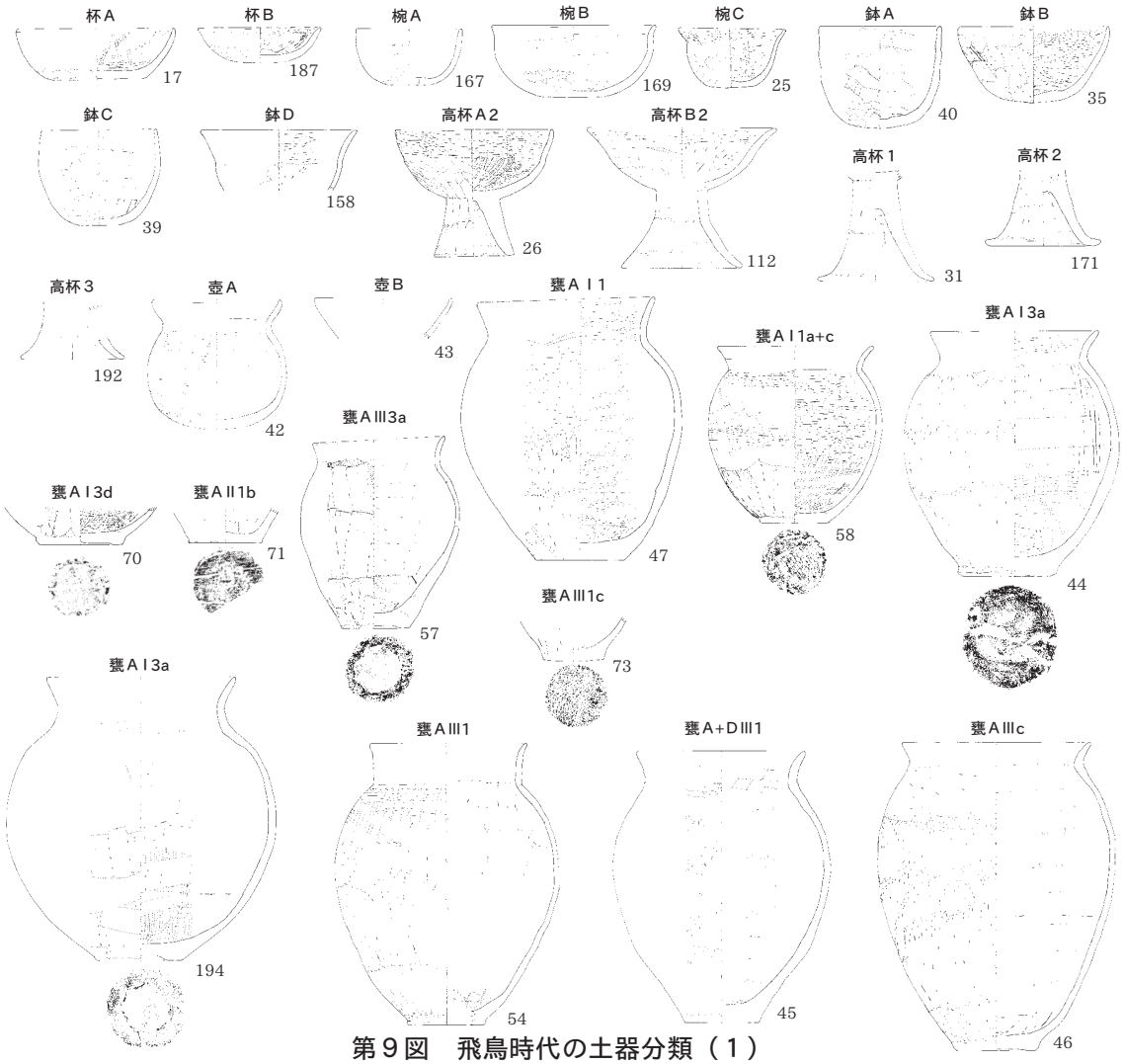
**杯身**　かえりを持つ杯身を一括した。A：口縁部が直線的に長いもの（１）とB：全体に扁平な形状となるものがある。

**杯蓋**　杯身とセットになるもので、A：かえりを持ち全体に扁平なもの、B：かえりを持たないものがあ

【須恵器】

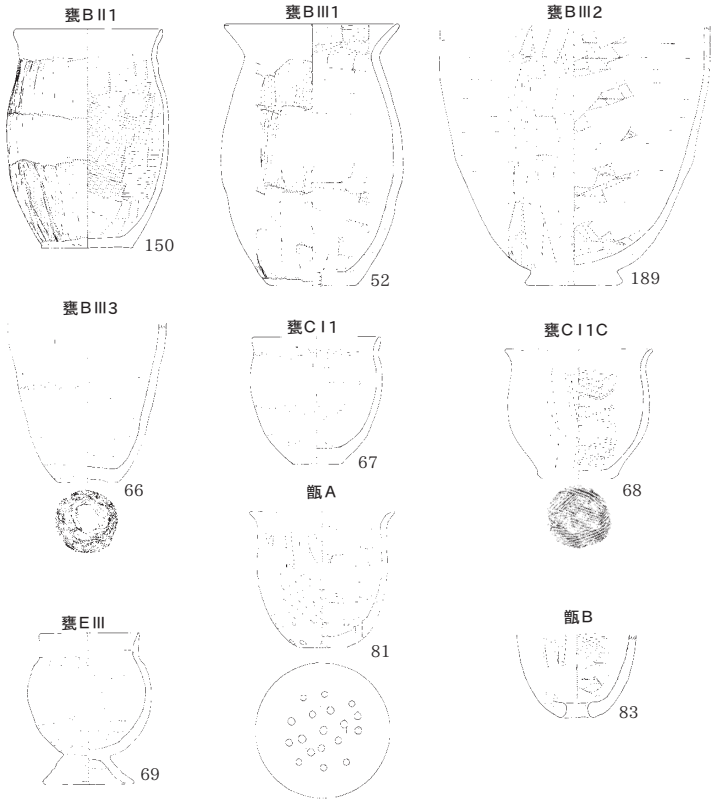



【土師器】

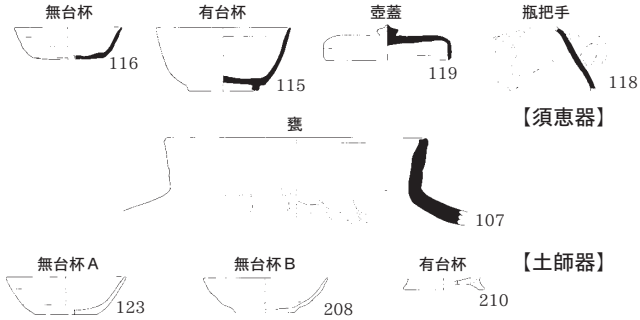



第９図　飛鳥時代の土器分類（１）

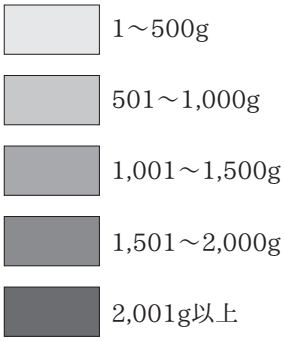
【土師器】

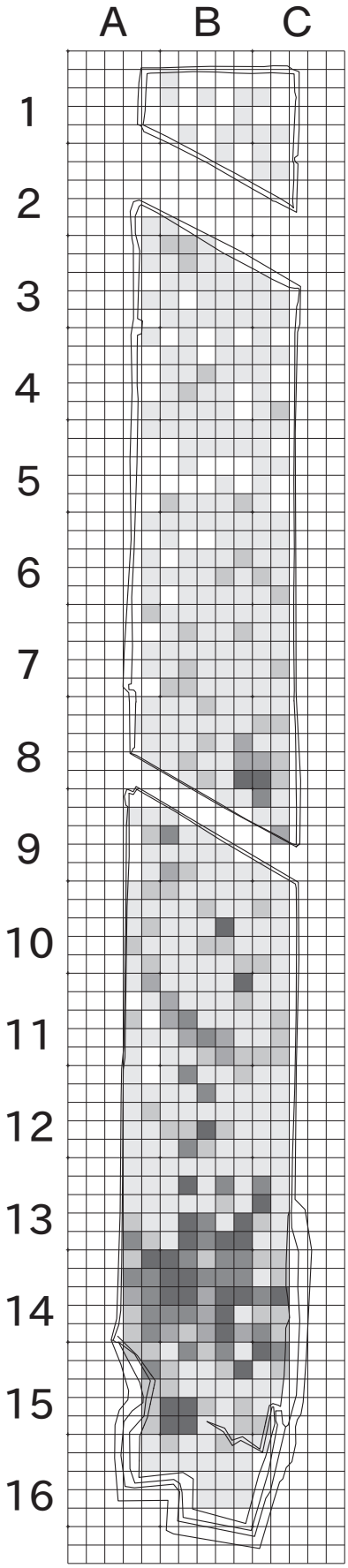



第10図　飛鳥時代の土器分類（２）




第11図　平安時代の土器分類




第12図　飛鳥時代の土器分布図

る。更にA類は１：つまみが扁平なもの（87～90）、２：つまみが擬宝珠状のもの（91）、B類を1：器形が半球形のもの（205）、2：端部が外反するもの（8）、3：天井部が平坦なもの（111）がある。

**高杯**　杯部の形態はＡ：内湾して立ち上がるもの（94）、Ｂ：腰部に丸みを持ち、直線的に立ち上がるもの（９）がある。脚部（10）は短脚気味である。

**コップ形**　１点（126）のみのため、細分は行っていない。

**鉢**　１点だけ旧河川流路遺物包含5a層から出土した。体部が内湾する鉄鉢形（11）である。

**瓶**　平瓶（12）、長頸瓶（95）、瓶（180）、横瓶（190）がある。土器数が少ないため細別は行っていない。

**甕**　口縁部形態ではＡ：口縁部の外反が弱いもの（14）、Ｂ：口縁部の外反がやや強いもの（16・96・113）、C類：口縁部の外反が強いもの（110）がある。

## 土師器（飛鳥時代）

食膳具と貯蔵具、煮炊具がある。前者には杯･椀･鉢･高杯が、後者には壺が、煮炊具には甕･甑がある。

**杯**　器形ではＡ：底部が平坦なもの（17 ～ 19）、Ｂ：底部が丸みを帯びるもの（187）がある。いずれも内面は丁寧に磨かれる。

**椀**　杯よりも器高があり、底部に丸みを持つものをまとめた。A:体部が直立気味に立ち上がるもの(167)、Ｂ：口唇部が僅かに外反・内斜するもの（21・169・178）、Ｃ：口縁部が強く外反するもの（24・25）がある。

**鉢**　椀よりも更に器高の数値が大きいものをまとめた。Ａ：体部が垂直気味に立ち上がるもの（40・141）、B:体部が斜めに直線的に立ち上がるもの（35 ～ 38）、C:体部が若干内湾するもの（39･41）、D:口縁部が若干外反して立ち上がるもの（149・158）がある。

**高杯**　破片で出土したものが多く、杯部と脚部に分けて分類した。杯部はＡ：内湾し、口縁部で一段稜を持つもの（26）、Ｂ：杯部内湾し、口縁部で外反するもの（112・138・170）がある。脚部は１：脚が長いもの（31・112・153）、２：脚の短いもの（26・32・33・171）がある。さらに３：脚部に方形の透かし窓を持つもの（192）もみられる。いずれも杯部内面は丁寧に磨かれ、内面黒色処理されているものが多い。

**壺**　Ａ：口縁部が内湾気味のもの（42）、Ｂ：口縁部が長く直線的に開くもの（43）がある。

**甕**　最も多様性がみられる器種のため、細分を試みた。

Ａ：胴部が大きく膨らむもの（44・47など）、Ｂ：胴部の膨らみが弱いもの（52・66）、Ｃ：胴部の膨らみが弱く小形のもの（67･68）、D:肩部に段を持つもの（45）、E:脚部がついた台付甕（69）がある。内面の調整技法ではⅠ:最終調整が磨きのもの（44･47など）、Ⅱ:最終調整が刷毛目のもの（150）、Ⅲ:最終調整が箆撫でのもの（45・46など）が認められる。底部形態に特長があるため、１：平坦で張り出さないもの（47・48・52・58など）、２：外方に張り出すもの（76・189）、３：底部中央が窪み周縁だけ盛りあがる上げ底状のもの（46・57など）に区分した。底部外面の調整痕をa：周縁に砂痕のあるもの（44・57）、b：木葉痕・笹痕のあるもの（71・185）、c：刷毛目痕のあるもの（68）、d：幾何学的な条線の刻まれたもの（70）が認められる。

**甑**　底部がA：多孔のもの（81・82）、B：単孔のもの（83・207）がある。

### 須恵器（平安時代）

食膳具と貯蔵具がある。食膳具には無台杯・有台杯が、貯蔵具には壺蓋・瓶・甕がある。

**無台杯**　底部回転篦切り離し後は無調整（116）である。

**有台杯**　腰部に丸みを帯びる（115）。

**壺蓋**　短頸壺の蓋で、つまみは擬宝珠状（119）である。

**瓶**　瓶の把手部分（118）である。

**甕**　口縁部は短く、垂直気味に立ち上がる（107）。

### 土師器（平安時代）

食膳具があり、ロクロ成形の無台杯と有台杯がある。貯蔵具と煮炊具は出土していない。

**無台杯**　A：体部が直線的に立ち上がり、口径と底径の比率が２：１以内のもの（123）、B：体部が内湾気味に立ち上がり、口径と底径の比率が２：１に収まらず、口径が底径に対して大きくなるもの（208・209）がある。いずれも底部は回転糸切り離し後は無調整である。

**有台杯**　底部回転糸切り離し後、高台を貼り付けている（210）。

## B　古墳時代後期の土器（図面図版40、写真図版50）

旧河川流路の遺物包含７層から１点のみ出土した。１の須恵器無台杯身A類で、TK43段階に比定されるとみられる。当該期の遺物と確認したのはこれ１点のみで遺構も確認されていないが、昭和43年に実施された水路掘削の際に６世紀後半の土師器甕・椀が出土している。

## C　飛鳥時代の土器

出土した土器において、数量としては圧倒的に土師器が多い。器種構成は杯・椀・高杯・甕・甑の基本的なものに加えて鉢・壺もあり、また、杯・椀・高杯には少数ではあるが有段のものが確認されている。内面は丁寧なヘラ磨き後に黒色処理されるものが多い。例外的に高杯の脚部が短く方形透かし窓を有する３類があり、これは7世紀代の会津地方の影響を受けたものと考えられる（新潟大学大学院安達俊一氏のご教示による）。甕は長胴化し、口縁部は横撫で、胴外面は縦位の刷毛目、胴内面は篦撫で調整される特徴がある。また、肩に僅かな段を有する甕D類も見られた。

須恵器の器種構成は杯・蓋・高杯・甕・瓶の基本的なものに加えて、鉄鉢形やコップ形、無紐蓋と有反身の組み合わせや扁平紐有反蓋、底部のやや膨らんだ有台杯が見られる。瓶は横瓶・平瓶・広口瓶があり、広口瓶には外面にカキメが施されているのが確認できた。

１）旧河川流路SR400遺物包含5a、７層（２～84）（図面図版40～43、写真図版50～55）

当該期の土器は７層から出土しているものが大半で、他層からは僅少である。掲載した土器では11が5a層から出土しているのみである。

２は須恵器有台杯A類、３・４は無台杯身B類で口縁部が稜を持って内湾して立ち上がる。無台杯A類の５は底部に土器融着、６は判読不明な墨痕がみられる。７・８は須恵器蓋で、７はかえりを有するA類である。９・10は須恵器高杯、11は鉄鉢形須恵器である。鉄鉢形は遺物包含5a層からの出土で、ロクロ切り離し後、底部と体部下端を回転篦削りで調整している。

12の須恵器平瓶は、15B21・22グリッドにて横位で出土した。基盤であるⅢ層に接地し、他土器とと

もに等間隔に直線的に配置されている状態で出土した。

13・15は須恵器瓶、14・16は須恵器甕である。14はA類で外面が平行叩き後カキメ、内面が同心円あて具痕である。

17～19・22・23・28～30は土師器無台杯で全形が確認できるものはA類である（17・19・28）。17以外は内面に丁寧な磨きが施され、なかには22・23・28 ～ 30のように外面にも磨きが及ぶものもみられる。また、22・28・29は内面黒色処理されている。

20・21・24・25は土師器椀である。21はB類、24・25はC類で、外面刷毛目、内面篦撫で調整する21以外は磨きで調整される。

26・27、31～34は土師器高杯である。26の杯部は内面黒色処理され、丁寧な磨きも施されている。31～34は脚部で31は１類（長脚）、32・33は２類（短脚）である。

35～41は土師器鉢である。A類（37～41）とB類（35・36）に分かれる。体部の立ち上がりに多様性がみられ、35・36は斜めに直線的、37～40は垂直気味に、41は内湾気味にそれぞれ立ち上がる。また、37・38・41は外面に磨きが施される。

42・43は土師器壺である。A類（42）とB類（43）に分かれる。43は口縁部のみで、磨きが施される。

44 ～ 80は土師器甕である。大形・中形が多いが67 ～ 69は小形で、69は台が付く。44・47・54・58・68・70は器面に磨きが施されたⅠ類で、とりわけ58は内外面とも磨きを施す。磨きを有する土師器甕はいずれも2次焼成痕がみられず、煮炊き用には使用されなかったものとみられる。45・58・59はD類（肩部に段有り）、44・54・70・76は底部外端が張り出す特徴がみられる。また、底部圧痕に多種多様な様相がみられる。57・65・66・70・77は輪台状に底部外周が盛り上がる３類である。58は砂底成形のあと刷毛目調整を施している。70はd類（底部に幾何学的な線刻と十字の縄掛痕）、71はb類（笹痕）がみられる。73の底部内面に炭化した穀物痕があり、粒径から脱穀した米粒とみられる。

81～84は土師器甑である。81・82はA類（多孔式）、83はB類（単孔式）、84は把手である。

２）自然堤防上の遺物包含Ⅱc層（85～102）（図面図版44、写真図版55）

85・86は須恵器無台杯A類である。外面は底部から体部下端にかけて回転篦削り調整である。

87～93は須恵器杯蓋である。回転篦削り調整後天井部につまみが貼り付けられる87～90はA1類、91はA2類である。また、87～90、92・93にかえりがみられた。

94は須恵器高杯のA類、95は須恵器長頸瓶である。

96 ～ 101は須恵器甕である。口縁部が残存する96はB類である。外面は平行叩き、内面に同心円のあて具痕がみられる。100・101は外面叩き後、ボタン状貼付文を施文する。

102は土師器甕である。外面は刷毛目調整で煤付着がみられる。

３）掘立柱建物（103 ～ 105）（図面図版44、写真図版55）

掘立柱建物を構成する127基のピット内から土師器・須恵器・土製品（219）が出土した。出土量は僅少で、いずれも細片である。掘形内の埋め土に混入する状況で出土しており、直接帰属時期に繋がる資料ではないが少なくとも飛鳥時代より新しいものは確認されなかった。本書では復元実測が可能であった須恵器３点を掲載した。

SB506（103）

103は須恵器無台杯A類である。底部は篦切り離し無調整である。P236の掘形内から出土。

SB509（104）

104は須恵器無台杯である。P584の掘形内から出土。

SB508（105）

105は須恵器蓋A類で、天井部は回転篦削り調整後つまみを貼り付けている。P305の掘形内から出土。

４）溝（106～118）（図面図版44・55、写真図版55・56）

当該期の溝は出土遺物からSD5・33・73・95・100・117・141・250・374・384・613の11条である。

SD33（109）

109は須恵器甕の胴部分で外面は平行叩き、内面は同心円あて具痕である。

SD73（110）

110は須恵器甕C類である。口縁部は大きく外反し、2条の沈線が施される。外面は平行叩き、内面は同心円あて具痕である。

SD117（111・112）

111は須恵器蓋B3類である。天井部は回転篦切り離し後無調整である。112は土師器高杯B1類である。内面は丁寧に磨かれ、黒色処理が施されている。

SD250（113・114）

113は須恵器甕B類である。口縁部は外反し、外面は平行叩きとカキメ、内面は同心円あて具痕である。114は土師器高杯である。杯部は外面篦削り、内面は磨き後黒色処理、脚部は外面篦削り調整である。

SD340（118）

118は須恵器瓶の把手である。外面は自然釉、内面は同心円あて具痕である。８世紀末に帰属するSD340内に流入したものとみられる。

５）土坑（124～196）（図面図版45～49、写真図版56～59）

当該期の土坑は129基である。大半の土坑はφ１～５㎜大の炭化物を覆土内に含み、そのうち42基から被熱を受けた獣骨片を目視で確認した。また、前述の遺物とともに土器が多く出土し、時期決定の根拠となった。

SK1（124）

124は土師器高杯である。杯部内面は磨き後黒色処理され、脚部は裾が大きく開く短脚とみられる。

SK2（125）

125は須恵器無台杯A類である。底部と体部下端を回転篦削り調整している。

SK9（126）

126はコップ形須恵器である。底部はロクロ切り離し後回転篦削り調整が施されており、他須恵器胎土と違い明るい灰白色で混入物が少なく精緻である。搬入品の可能性がある。

SK20（127）

127は須恵器有台杯B類である。底部を回転篦削り調整後、内端接地の高台を貼り付けている。

SK40（128・129）

128・129は土師器甕B類である。128は口縁部がほとんど外反しない。129は128より外反する。128・129共外面刷毛目、内面篦撫で調整である。

SK58（130・131）

130・131は土師器甕である。130はD類（肩部に段）で、外面刷毛目後肩部から胴部中位にかけて磨きにも似た器面を押し付けるような幅細い篦削り調整を施す。

SK128（132）

132は須恵器甕である。胴部片で外面平行叩き、内面に同心円あて具痕。

SK172（133・134）

133・134は土師器甕である。133は口縁部内面に横位の磨きが施される。

SK190（135）

135は土師器甕A類である。胴部外面中位から下半にかけて縦位の磨きが施される。

SK197（136）

136は土師器甕C類である。内外面とも刷毛目調整である。

SK210（137 ～ 139）

137は須恵器甕である。胴部片で外面平行叩き後カキメ、内面に同心円あて具痕。138は土師器高杯B類である。杯部は口縁部で強く外反する。内面は丁寧な磨きで2次焼成が著しい。139は土師器甕B類である。口縁部は強く外反し、外面は刷毛目、内面は篦撫で調整。

SK234（140・141）

140は土師器甕B類である。胴は張らず、口縁部は短く緩やかに外反する。141は土師器鉢A類である。外面刷毛目、内面篦撫で調整である。

SK237（142）

142は土師器甕B類である。口縁部の外反は緩やか、内外面とも刷毛目調整である。

SK247（143）

143は土師器甕C類である。外面篦削り、内面は篦撫で調整である。

SK261（144）

144は土師器甕である。外面は刷毛目後下端を篦削り、内面は刷毛目後下半を篦撫で調整である。底部は外面の周縁が輪台状に盛り上がる。

SK278（145）

145は土師器杯である。外面は刷毛目後、疎らな篦削り、内面は丁寧な磨き調整である。

SK311（146・147）

146・147は土師器甕である。146はB類、147はA類である。いずれも外面刷毛目、内面は篦撫で調整である。

SK313（148 ～ 151）

148は須恵器無台杯B類である。底部はロクロ切り離し後回転篦削り調整である。149は土師器鉢D類で外面刷毛目、内面篦撫で調整、底部外面は周縁が輪台状に盛り上がる。150・151は土師器甕である。150はBⅡ1類で内外面とも刷毛目調整、151は外面篦削り、内面篦撫で調整である。

SK351（152）

152は須恵器有台杯B類である。底部中央は接地するぐらいまで下がる。

SK370（153）

153は土師器高杯である。杯部はほとんど欠損し、内面は磨き後黒色処理が判る程度である。脚部は1類（長脚）で外面は丁寧で幅細な篦削り、内面は篦撫で調整である。

SK389（154 ～ 157）

154 ～ 157はいずれも土師器甕である。154は肩部に段を有するD類である。154・156・157は口縁

部がやや強めに外反し、155は短く緩やかに外反する。155はA類、156・157はB類である。

SK394（158）

158は土師器鉢D類である。外面は刷毛目後篦削り、内面は丁寧な磨き後黒色処理されている。

SK398（159）

159は土師器甕A+D類である。肩部に段を有し胴の張りが強く、口縁部は短く外反する。外面は刷毛目後上半を斜位の篦削り、内面は篦撫で調整である。

SK402（160・161）

160･161は土師器甕である。160は口縁部が緩やかに外反し、外面は篦削り、内面は篦撫で調整である。161は長胴で胴の張りは弱く、外面は刷毛目、内面は篦撫で調整である。

SK403（162 ～ 164）

162 ～ 164は土師器甕である。162は口縁部が短く強く外反し、163はD類で肩部に段を有し緩やかな外反である。164は胴部下半のみであるが、胴の張りは強いとみられる。162は内外面とも刷毛目後、内面のみ部分的に篦撫で。163は外面が刷毛目、内面は篦撫で。164は外面が刷毛目後下半を篦削り、内面は篦撫で調整である。

SK421（165・166）

165・166は土師器甕である。165はC類で、外面は刷毛目、内面は刷毛目後篦撫で調整である。166は胴部最大径が下半にあり、外面は刷毛目後に疎らな篦削り、内面は刷毛目後篦撫で調整である。

SK423（167・168）

167は土師器椀である。外面篦削り調整である。168は土師器甕で内外面とも刷毛目調整である。

SK719（169 ～ 175）

169は土師器椀A類である。丸底で口縁部は短く外反し､内面に稜を有する。内斜口縁に近い形状となる。外面は刷毛目後磨きに近い篦削り、内面は篦撫で調整である。170・171は土師器高杯である。170はB類で、杯部で外面は刷毛目後篦削り、内面は丁寧な磨き後黒色処理が施される。171は脚部で外面に縦位篦削り、内面は篦撫で調整である。170・171は接合できなかったが同一個体の可能性もある。172 ～ 175は土師器甕である。172は小形で口縁部の外反はほとんどみられず、外面は刷毛目、内面は刷毛目後篦撫で調整である。173 ～ 175はB類で173・174は外面が刷毛目、内面は刷毛目後篦撫で、175は内外面とも刷毛目調整である。

SK720（176）

176は土師器甕C類である。小形で、口縁部が短く強く外反する。外面は刷毛目後篦削り、内面は篦撫で調整である。

SK726（177）

177は土師器高杯で、杯部内面は丁寧な磨き後黒色処理、脚部は外面篦削り、内面は篦撫で調整である。

SK727（178・179）

178は土師器椀B類である。口縁部は短く外反し、内面に稜を有する。内斜口縁に近い形状である。外面は刷毛目後篦削り、内面は丁寧な磨き後黒色処理が施される。179は土師器甕である。口縁部の外反は弱く胴の張りは少ない。外面は刷毛目、内面は刷毛目後下半に篦撫で調整である。

SK732（180 ～ 182）

180は須恵器瓶である。胴部外面にカキメを有する。181は土師器甕A類である。口縁部は短く緩やか

に外反し、胴部は大きく膨らみ外面は篦削り、内面は篦撫で調整である。182は土師器甑の把手である。

SK733（183 ～ 185、190）

183・185は土師器甕である。183はAⅢ類で口縁部が短く緩やかに外反し、胴部の最大径を下半に有する。外面が刷毛目篦削り後、胴部上半に磨きに似た幅細な篦削り調整し、内面は篦撫で調整である。185は小形で底部に木葉痕を有する。184は鉢A類で、口縁部の外反弱く、外面が篦削り、内面は篦無しで調整である。190は須恵器横瓶である。外面は平行叩きとカキメ、内面は同心円あて具痕である。

SK734（186）

186は土師器甕である。小形であるが器肉は厚く、口縁部は短く外反する。外面は刷毛目、内面は刷毛目後篦撫で調整である。

SK755（187 ～ 189）

187は土師器無台杯B類である。外面は篦削り、内面は丁寧な磨き後黒色処理が施される。188・189は土師器甕である。188は外面が刷毛目後下端篦削り、内面は刷毛目調整である。189は底部外端が張り出す２類で、外面は刷毛目、内面は刷毛目後篦撫で調整で輪積痕が明瞭である。

SK767（191 ～ 196）

191・192は土師器高杯である。191は杯部に外面篦削り、内面は磨き後黒色処理、脚部は外面篦削り、内面は篦撫で調整である。192は脚部のみで５窓の方形透かしを有する。外面は篦削り、内面は篦撫でである。193 ～ 196は土師器甕である。193はC類で口縁部が緩やかに外反する。内外面とも刷毛目調整である。194はA類、輪台状に底部外周が盛り上がる３類である。外面は刷毛目後篦削り、内面は刷毛目後篦撫でし下半を棒状工具で磨き調整をしている。195は胴の張りが弱く、２次焼成によって器面剥離が著しい。196は胴が張り、外面は刷毛目後に下端篦削り、内面は刷毛目後篦撫で調整である。

６）ピット

調査区内で総数427基のピットが検出され、掘形内の覆土に混入する状況で土師器・須恵器・土製品が僅少ではあるが出土した。

## D　平安時代の土器

土器は須恵器・土師器ともほぼ同じぐらいの割合である。出土量全体の3％に過ぎず、遺構数と比較しても土器の出土は極端に少量で、とりわけ煮炊き用の器種は皆無である。須恵器は無台杯と有台杯が主体で、小泊産のものが確認されている。土師器も無台杯と有台杯が主体であり、無台杯は回転糸切り無調整のものである。

帰属時期は２時期に分かれ、両時期はやや間が空く。８世紀末～９世紀中頃は継続性が見られ、遺構に伴って出土している。10世紀代は調査区北側だけに残っていた厚さ１～３㎝の遺物包含Ⅱb層中から土師器杯が総重量1,000g程出土している。

１）溝（106 ～ 123）（図面図版44・45、写真図版55・56）

SD4（106 ～ 108）

106は須恵器瓶の底部である。107は須恵器甕である。口辺部に2条の沈線を有し、外面は平行叩き、内面は同心円あて具痕がある。108は土師器無台杯で、底部は回転糸切り離し無調整である。

SD291（115・116）

115・116は須恵器有台杯である。いずれも体部下端はやや丸みを帯び、緩やかに直線的に立ち上がる。

２点とも胎土から小泊産とみられる。

SD340（117・119）

117は須恵器有台杯である。体部下端はやや丸みを帯びる。119は短頸壺の須恵器蓋である。つまみは宝珠で、体部が直線的に屈曲する。８世紀末の所産とみられる。

SD491（120 ～ 123）

120 ～ 122は須恵器杯で121は無台、122は有台である。122は体部下端にやや丸みを持つ。123は土師器無台杯である。底部は回転糸切り離し無調整である。

２）自然堤防上の遺物包含Ⅱb層（208 ～ 210）（図面図版49、写真図版60）

208 ～ 210は土師器杯で、208・209は無台、210は有台である。208・209は回転糸切り離し無調整、210は回転糸切り離し後に高台を貼り付けている。

## E　中世の土器（図面図版49、写真図版59）

珠洲焼が３点出土している。いずれも15世紀代の所産とみられる。

SD290（197・198）

197は珠洲焼擂鉢である。口唇部は平縁で、11条の摺目である。198は珠洲焼甕である。外面叩きが綾杉状となる。

SK280（199）

199は珠洲焼擂鉢である。体部下端で摺目がみられる。

## F　弥生時代の土器（図面図版49、写真図版59・60）

当該期の遺構は確認されなかったが、飛鳥時代以降の遺物包含層や遺構内への流入という出土状態で8点確認され、本書には5点掲載した。

200 ～ 203は深鉢形土器である。いずれも弥生時代前期の所産とみられる。200・201は口縁部に沈線による変形工字文が施される。地文は200・201がLR斜縄文、202がRL斜縄文である。203は口縁部片で内外面とも磨きが施される。204は壺形土器で、弥生時代後期の天王山式に比定される。胴部片で平行沈線間に交互刺突を施し、地文はLR斜縄文である。

## G　遺構外の土器（図面図版49、写真図版60）

所産よりも新しい時代の遺構に流入したもので、ここでは中世の遺構と平安時代前期の遺構に流入していた飛鳥時代の土器3点を掲載した。

205は須恵器杯蓋B1類である。天井部外面を回転篦削り調整している。206は土師器甕ＡⅠ類である。胴部が特に膨らみ、口縁部は屈曲する。外面篦削り後疎らな磨き、内面は篦撫で後疎らな磨き調整である。207は土師器甑である。B類（単孔式）で、外面は篦削り、内面は篦撫で調整である。

## H　試掘調査時の土器（図面図版49、写真図版60）

試掘調査時に出土した土器を２点掲載した。いずれも飛鳥時代の所産で26トレンチから出土した。出土場所は第１図及び第１表を参照されたい。

211･212は土師器甕である。211はA類で、最大径が中位よりやや上である。外面は刷毛目後下半篦削り、

内面は篦撫で調整である。212はC類の小形品で胴の張りが弱く、口縁部は強く外反する。外面は刷毛目、内面は篦撫で調整である。

## 第３節　土製品（図面図版50 ～ 52、写真図版61 ～ 63）

今回の調査では祭祀遺物とみられるミニチュア土器・手捏ね土器・人形・動物形、漁労具として使ったとみられる土錘、糸紡ぎに使ったとみられる紡錘車、カマド支脚に使ったとみられる板状・円柱支脚と円筒形土製品、鍛冶工房で使ったとみられる鞴羽口、用途不詳の塊状土製品、炊事道具とみられるカマド形土製品など多種多様な土製品が出土している。なお、土錘は平安時代前期に帰属するが他は全て飛鳥時代に帰属するものである。

**ミニチュア土器**（213）

半分ほどの残存で、全体に丁寧な篦削り調整である。

**手捏ね土器**（214）

全体に粗い手捏ね成形だがほぼ完形品で、内面は篦削り調整である。

**人形**（215・216）

215は頭部で、表情は耳鼻をつまみ上げて隆起させ、目と口を先の尖った工具で刺突することで形造られており、216は手と胴体を表現しているとみられている。215・216のいずれも手捏ね成形である。215は自然堤防上の遺物包含Ⅱc層の5B05グリッド、216は同層の８B06グリッドからそれぞれ出土している。距離としては32m離れているが、胎土・色調が酷似しているため同一個体の可能性もある。

**動物形**（217 ～ 224）

調査区内で11点出土し、本書ではそのうち8点を掲載した。いずれも破片で手捏ね成形である。完形に復元できなかったため判然としないが、土馬の可能性が強い。217は胴と足、218・219は頭部、220・221・224は胴部、222・223は足の部分とみられる。219はSB199を構成するP12内、他は遺物包含Ⅱc層から出土している。

**紡錘車**（225）

1/4残存の破片で厚さ2.0㎝、復元上端径4.2㎝、下端径3.0㎝、紡茎孔径6㎜を測り、全面篦削り調整である。旧河川流路SR400遺物包含７層の14Bグリッドから出土している。

**土錘**（226）

径８㎜の棒に巻きつけて手捏ね成形している。９世紀前半に比定される土器が出土したSD4の１層の4C06グリッドから出土している。

**板状土製品**（227・228）

227は刷毛目調整され、228は両側面に型詰め痕、表裏は篦削り調整である。カマド支脚とみられるが、いずれも明瞭な2次焼成痕はみられない。

**円柱支脚**（229 ～ 240）

カマド支脚とみられ、229 ～ 238には被熱を受けた顕著な2次焼成痕がみられる。外面の整形は229 ～ 232、236 ～ 239は篦削り、233 ～ 235は篦撫でである。240だけ手捏ね成形のままである。

**鞴羽口**（241）

炉挿入部は欠損、外面は篦削り、内面は篦撫で調整である。SK210の３層から出土しており、同土坑

からは他に17点の羽口片と、後述する塊状土製品も出土している。

**円筒形土製品**（242・243）

いずれも外面は刷毛目、内面は輪積痕が顕著である。243は２次焼成痕がみられる。

**塊状土製品**（244 ～ 247）

調査区内で８点出土し本書ではそのうち4点掲載した。全てSK210の3層からの出土である。いずれも布に包みオニギリ形に手捏ね成形しており、胎土は夾雑物を含まない水簸粘土とみられる。

**カマド形土製品**（248 ～ 262）

可動式カマドの破片が多数出土している。出土地点は調査区南側に偏っており、とりわけ遺物包含Ⅱc層の12B18グリッド付近に集中している。248は遺物包含Ⅱc層の12B18グリッドから出土し、胎土・色調･調整痕が同じとみられるものを同一個体として復元実測した。口径28.7㎝、頸部（掛口）内径22.3㎝、基底部外径29.6㎝、器高27.4㎝、焚口基底部幅22.8㎝、焚口高15.0㎝を測る。胴の張りはなく、肉厚な基底部からやや斜めに直線的に立ち上がり､肩部からくびれて口縁部が湾曲気味に外反する。外面は斜位･縦位の刷毛目、内面は横位の刷毛目調整である。焚口は丸みを帯びた台形に刳りぬき、疵はみられない。基底部片と焚口部片に2次焼成痕がみられる。

以下は別個体のカマドとなる。249は口縁部片、250は胎土と内面の横位刷毛目調整からカマドの把手として扱った。251 ～ 254は焚口上部片、260は焚口下部片、255は胴部片、256 ～ 259・261は基底部片である。また、252・261、253 ～ 257、258・259はそれぞれ同一個体だが復元はできなかった。

カマドの破片数は総数で89点、重量総数で2,350gである。胎土・調整痕から考えると少なくても9個体はあるとみられる。上述したカマド胴部の器肉は1.2 ～ 1.8㎝で、土師器甕の胴部に比べるとやや厚めになっているが、基底部片である262は器肉が6㎜と薄く被熱痕はみられない。調整も密な刷毛目であることからカマドのミニチュア品とみられる。

## 第４節　石製品（図面図版52・53、写真図版63・64）

本遺跡は大河川である信濃川とその支流である五社川に近く、調査区内にも旧五社川流路を確認しているが、その割には河川礫（川原石）の出土は僅少である。基盤層が砂質のシルトで、石を含んでいないことに起因するとみられる。旧河川流路と土坑内から使用痕のない河川礫が数個確認されたが、いずれも人為的に運ばれ土器などとともに投棄されたものとみられる。本節では石製品と使用痕が観察された石材について掲載した。いずれも飛鳥時代に伴う出土状況である。

**紡錘車**（263）

断面台形の紡輪で、紡茎を差し込む孔径は７㎜である。ほぼ完形で、全面に丁寧な研磨が施されている。重量は55g、石材は流紋岩である。SK138の１層から出土している。

**紡錘車未成品か**（264）

断面は台形、側面は粗い研磨で製作途中とみられる。重量は52g、石材は凝灰岩である。SK628の１層から出土している。

**権状錘**（265）

６面丁寧に成形研磨され、上端に径２㎜の穿孔がある。重量は62g、石材は凝灰岩である。遺物包含Ⅱc層の９C02グリッドから出土している。

**砥石**（266 ～ 269、271 ～ 275）

主に凝灰岩や砂岩を用い、扁平な礫の表面に使用の結果残された磨面（砥面）が認められるものである。266は短冊形に切り出した石材の４面を砥面としている。267は刃物痕が顕著な筋砥石で、筋幅は概ね５㎜前後深さ4㎜で、断面形はＶ字状である。266 ～ 269、271・272は岩石粒子が滑らかできめ細かく、仕上げ砥や中砥として使用されたとみられる。273 ～ 275は岩石粒子が粗く、荒砥として使用されたとみられる。石材は266が流紋岩、267・269 ～ 272が凝灰岩、268が砂岩、273・275が輝石安山岩、274が花崗岩である。

**凹石**（270）

両面に2箇所の凹みがあり、両端と側面に敲打痕が認められる。縄文時代の所産のものが流入したものとみられる。飛鳥時代に帰属するSK190の１層から出土している。

## 第５節　金属製品（図面図版53、写真図版64）

今回の調査で出土した金属製品は銅製の鈴・耳環、鉄製の鏃・斧（２点）・鑿で、総数6点である。他に椀形鍛冶滓が9点出土している。いずれも出土状況から飛鳥時代の所産と考える。

**鈴**（276）

径2.1㎝の球形で、帯を含むと外形は2.5㎝、重量は８gである。鈕は可動式で端を鈴体内で互い違いに折り曲げている。銅板の厚さは約0.3㎜で、体内に１㎝大の小石が入れられている。旧河川流路SR400遺物包含7層の15C01グリッドから出土している。

**耳環**（277）

断面は径５㎜の環状、外形は2.7㎝×2.4㎝とやや歪み、重量は11gである。表面の腐食が激しく、鍍金は確認できない。SK282の１層中から出土している。

**雁又鏃**（278）

身部が二又になり、内側に鋭角な刃部が形成され、茎部は断面四角形、重量は14gである。遺物包含Ⅱc層の９C02グリッドから出土している。

**斧**（279・280）

いずれも形状は同じで、柄部装着の袋部を形成し、刃部は肉厚で尖端は鋭角である。279は完形で重量は70g、280は279の半分ほどの残存状況で重量は52gである。279はSK765 １層の14A09グリッドから、280はSD291 ２層の11C21グリッドからそれぞれ出土している。

**鑿**（281）

断面は方形で先端の幅は徐々に窄まり刃部は鈍角、完形で重量は240gである。遺物包含Ⅱc層の４B22グリッドから出土している。

**椀形鍛冶滓**（282・283）

鍛冶滓は調査区内で総数９点出土したが、本書ではそのうち２点を掲載した。鍛冶滓分布は鞴羽口の出土したSK210東側の遺物包含Ⅱc層の10C01・06グリッドに集中がみられる。掲載した鍛冶滓はいずれも破片で上面が平坦、下面は炉底に接した部分で丸みを持ち発泡が顕著である。282は重量160gで遺物包含Ⅱc層の10C06グリッド、283は重量35gでSK765の１層からそれぞれ出土している。

## 第６節　木製品（図面図版54 ～ 63、写真図版65 ～ 73）

掲載した木製品の大半は五社川の旧河川流路SR400の遺物包含７層から出土したものである。284 ～ 462は旧河川流路SR400、それ以降はピットなどからの出土となる。また、木製品の分類・呼称については『木器集成図録　近畿原始篇』［上原ほか1985］、『木器集成図録　近畿古代篇』［上原ほか1993］国立奈良文化財研究所に従った。

**直柄平鍬**（284・285）

284は身の長さ15.7㎝、幅18.1㎝、厚さ2.7㎝で全面削り出している。柄は芯持で径2.1㎝に面取りされているが、残存は5.1㎝のみで持ち手側の大半が欠損している。木取りは柾目であるが、一般的な木取りとは逆になり、鍬として使用するには耐久性に劣るとみられ、柄振りの可能性もある。樹種は身がアサダ、柄がエゴノキ属である。285は現地調査時に損傷が著しく実測図として掲載することはできなかったが、身の削り出し及び木取りも284と同じである。

**一木平鋤**（286）

長さ137.0㎝、幅21.5㎝、厚さ7.5㎝で一木作りの未成品である。全面粗い削り出しであるが、柄は形造られている。樹種はアサダである。

**柄**（287 ～ 293）

何らかの柄であろうというものをまとめた。287は片方を断面四角形に削り出し、もう一方は円錐形に尖らせるように面取りされている。288は片方を円形に面取りし、もう片方を断面四角形に削り出し、途中に径0.6 ～ 0.8㎝の木釘が入る。木取りは芯持である。289は断面八面体に削り出し、一端に四角い孔がある。290は芯去で円錐形に削り出しており、栓の可能性もある。291は刀子形に似た形状に削り出しており、片側が若干薄く削り出されている。292は丁寧に削り出しており、一端が欠損している。293は側面と端部を削り出している。樹種はスギ、タラノキ、トチノキなど多様である。

**竪杵**（294）

半分欠損している。側面は丁寧な削り出し、搗き部はやや摩耗している。木取りは芯持丸木で、樹種はツバキ属である。

**糸車の横木**（295）

全面削り出し、中央に径2.8㎝の孔がある。樹種はコナラ属アカガシ亜属である。

**田下駄**（296）

左半分が欠損している。厚さは0.9㎝と薄く、孔が２箇所あけられている。木取りは板目である。樹種はスギである。

**大足の横桟**（297）

両端が凸形に削り出され、差し込まれる形状である。樹種はスギである。

**櫂**（298・299）

いずれも身、柄とも丁寧な削り出しである。いずれも木取りは柾目で樹種はケンポナシ属である。

**弓状木製品**（300 ～ 310）

丸木弓に似ており、樹種も同じイヌガヤのため、便宜上弓状木製品の名称を用いたが用途は不明である。漁労具であるU字形網枠の未成品の可能性もある。本遺跡では11本が出土している。いずれも芯持丸木で幹の面取りがなされ、300・302・303・307は両端を粗く削り出している。310は一端が弭のように

削り込まれた形跡はあるが判然としないので弓状木製品に含めた。完成品の長さを測ると56 ～ 60㎝の短いものと146 ～ 149㎝の長いものの２種に大別される。

**用途不明木製品**（311 ～ 317）

311・312は現地調査の段階でかなり破損しており状態が悪いものの一木刳物として確認した。丸木舟の可能性も考えたが、本書では用途不明木製品として掲載した。樹種はいずれもトネリコ属シオジ節である。

313は芯持丸木材で幹・両端とも削り出している。314は厚さ5.1㎝の板状に三角形を削り出している。315は半割材を円柱の半分に削り込んでいる。幹・両端とも丁寧な削り出しで、中央側面に臍穴がある。316は断面三角形で全面丁寧に削り出している。317は多面に削り出し塊状を形成している。

**丸木弓**（318 ～ 324）

端に弭が削り出されたものを丸木弓とした。いずれも弓幹は丁寧な面取りがされており、樹種はイヌガヤである。318は長さ118.6㎝の大形品、319は長さ93.7㎝の小形品でいずれも完形である。

**槽**（325・326）

325は一木刳物で把手は片側だけ残存している。また、上面の両端中央にV字の切込みがみられる。326も一木刳物とみられる。樹種は325がケヤキ、326がカツラである。

**板材**（327 ～ 335）

現地調査段階で、上述した把手付槽の近くでコの字状に組まれた細長い板材が確認され、ここでは他の板材とは分けて記載した。樹種はいずれもカヤで、両端と四面を削り出している。コの字状に組まれていたのは332 ～ 335で、327 ～ 331は14B15グリッドでまとまった状態で出土している。

**曲物**（336 ～ 345）

336 ～ 343は底板、344・345は綴じ樹皮である。底板が円形のものが336 ～ 340、方形か楕円形とみられるのが341 ～ 343である。樹種はスギで、木取りはいずれも柾目である。綴じ樹皮である344・345は樺皮とみられる。

**皿**（346・347）

346は一木椀物、347は一本刳物で、いずれも樹種はケヤキである。347は内外面とも細かな削り痕がみられる。346は口径20.9㎝、器高2.0㎝と小形である。347は口径31.6㎝、器高2.6㎝と大形で、5c層から出土した。

**俎板か**（348）

楕円形とみられ、面は削り出している。当初用途不明木製品としたが形状が似ていたことからこの名称で記載したが、刃物痕は確認できなかった。樹種はキハダである。

**俎板**（349）

羽子板を半分に切った形状である。面は削り出しで、柄は厚く、身に刃物痕がみられる。樹種はトネリコ属シオジ節である。

**物差し**（350）

扁平な細板に刻線で１寸刻みの目盛を打っているが、１寸が2.75 ～ 3.03㎝とばらつきがあり、平均は2.85㎝である。仮に長さ１尺の物差しとすれば、真ん中と両端が欠損している。また、５寸を表す目盛に米印を刻んでいる。刻みの深さは0.4 ～ 1.0㎜で片側面にも刻線が確認できた。なお、寸の計測値は側面の刻みを測った。柾目材を用い、削りの丁寧な仕上げである。樹種はスギである。

**斎串**（351 ～ 358）

薄板を削り出して斎串の形状としている。351は両端を鋭利な三角状に削り出している。352は一端を斜め、もう一端を二又に削り出している。353は一端を三角状に、354 ～ 356は両端を斜めに削り出している。357と358は同一個体の可能性もあるが出土場所が離れているため個別に扱った。いずれも4側面を削り出して扁平な板に仕上げている。357は両側面に２対のＶ字状の切込みがある。樹種は351がケヤキ、352・357・358がカヤ、353 ～ 356がスギである。

**火鑽杵**（359・360）

細長い棒の一端に焦げがみられる。断面は楕円形である。359は芯持削り出し、360は芯去削り出しである。樹種はいずれもイヌガヤである。

**焚付け木**（361）

割材の一端が焦げている。火をともして灯りをとったものか。

**二又材**（362 ～ 367）

二又に分かれる材で、加工痕があるものを扱った。362・363は全体にわたって丁寧な削り出しがされ、自在鈎の可能性も考えられる。364 ～ 366は幹の面取りを行ない、366は下端が鋭く削られ杭状となる。367は小形で、形状はハサ掛け状となる。削り出しの状態からこれで完形と考える。

**板材**（368 ～ 370・385 ～ 409・424）

板状に扁平に削り出されたものをまとめた。368は直角三角形の形状で木取りは柾目である。369・370は扁平な板状である。386・389は薄板で一端を斜めに削り出している。長い板材も確認され、396は203.6㎝、397は124.0㎝を測る。400は面を丁寧に削り出している。木取りは板目で、曲物の底板部分の可能性がある。409は5a層から出土したもので、長さ156.0㎝、幅18.5㎝、厚さ3.0㎝を測る。一端の側面には対になった縄掛け状の削り込みがある。424は一端の側面をV字状に削り出している。

**角棒**（371 ～ 384）

断面が方形で１～２㎝四方の細長い棒状のものを角棒の名称でまとめた。いずれも面は丁寧に削り出している。373のように一端が斜めに削られているものもみられる。

**角材**（410 ～ 418・420・421・423・425・426・430）

断面が方形で、上述した角棒より太いものを角材としてまとめた。410・411は面を丁寧に削り出しており、柄として使われた可能性がある。412は上端が欠損しているものの、おそらく臍穴を刳り貫いていたものとみられる。また、下端は削って尖らせ、杭状にしている。416・417は面を粗く削り出している。

**割材**（419・422・427 ～ 429・431 ～ 443・445）

断面が三角形で細長く割り裂いただけの材を割材としてまとめた。上述した角材のように、面を削り出すような加工は施されていない。431は長さが219.1㎝あり、片端が杭状に削られている。

**建築部材**（456・457）

いずれも芯持丸木を加工したもので、臍穴もあることから建築部材とした。456は幹側面を面取りし、片端を削り出して側面を凹形に刳り貫いている。457は幹側面に6.0×4.0㎝、深さ8.0㎝の四角い穴がある。

**用途不明材**（458 ～ 462）

458・459は短く割った材の片面のみを削り出し、460・461は短い芯持材を多面に削り出している。462は短い半割材を現代のドアストッパーのような形状に削り出している。

**柱根**（463 ～ 482）

柱穴状のピット内に柱下端が遺存していたものをまとめた。柱材として芯持材と半割材に大別される。いずれも幹側面を面取りし、下端も削り出している。

**杭**（444・446 ～ 455・483 ～ 504）

杭は調査区全域で375本検出され、そのうち旧河川流路基盤層に打ち込まれたものが45本、K108が26本、SD291内に護岸用として打ち込まれたものが289本ある。

旧河川流路基盤層に打ち込まれた杭は太く長いもので、芯持材、割材、角材の下端を削り出して尖らせている。K108やSD291内の護岸用に打ち込まれたものは径3.0 ～ 5.5㎝の細長いものが大半で、樹皮がついたままの丸木や角棒材の下端を粗く削り出して尖らせている。

## 第７節　植物遺体（種子）

トチなどの種子が五社川旧河川流路SR400遺物包含7層から大量に出土した。流路最下層である7層からは木製品も多く出土し、出土頻度は流路西側に偏在する傾向がみられるが、種子は流路東側にやや偏る。種子の総量はコンテナ4箱（60×45×15㎝）分となり、内訳けは90％がトチ、7％がオニグルミとモモ、残り3％をほかの種子が占める。トチは偏在傾向が強く、トチ総量の６割が流路（SR400）16B10・15、16C06グリッドからの出土であった。また、大きなサルノコシカケが流路東側15B20・15C11・15C16に跨る２ｍ四方の７層中から７個集中して出土している。詳細については第Ⅵ章―第４節・第７節を参照されたい。

## 第８節　獣骨

調査区全域で獣骨が82点出土している。大半が土坑からの出土で70点、他は旧河川流路SR400遺物包含７層から12点である。遺構掘削中に目視で確認した出土骨の層土のみ採取･洗浄を行なった結果であり、実際にはそれ以上の骨片が存在していたとみられる。土坑から出土した獣骨は全て熱を受けて白色化して硬くなっており、炭化物を多く含む土坑から出土する割合が多かった。ニホンジカ、イヌ科の獣骨が出ている。各遺構の獣骨出土状況は観察表の獣骨出土一覧表を参照されたい。

それに対し旧河川流路から出土した獣骨は被熱を受けておらず、イノシシ犬歯・シカ角やネコ、カモ類の獣骨が確認された。獣骨が出土した土坑と旧河川流路SR400遺物包含７層は、いずれも飛鳥時代の所産である。詳細については第Ⅵ章―第１節を参照されたい。

## 第９節　その他（写真図版60）

上述した遺物の他に、籾痕のある土師器甕片が飛鳥時代の所産であるSK150の2層中から出土している。長さ7.8㎜、最大幅3.7㎜、最大厚3.2㎜を測り、短粒米とみられる。本遺跡では旧河川流路SR400遺物包含7層から出土した土師器甕（73）の底部内面から、脱穀した米とみられる炭化物が確認されている。また、飛鳥時代の遺物包含Ⅱc層の4C16グリッドからアスファルト塊（長さ2.6㎝×幅1.5㎝×厚さ1.0㎝×重量10g）が出土している。

# 第Ⅵ章　自然科学分析

## 第１節　出土獣骨

生物考古学研究所　楢崎修一郎

### はじめに

行屋崎遺跡は、新潟県南蒲原郡田上町大字湯川字行屋崎に所在する。国道 403 バイパス建設工事に伴う発掘調査が、田上町教育委員会により実施された。本遺跡は、飛鳥時代（７世紀後半）及び平安時代（８世紀末～９世紀中頃）の集落が中心で、掘立柱建物・柵・溝・土坑等が検出されている。本遺跡の土坑及び河川流路跡から、獣骨が出土したので以下に報告する。

### １　SKシリーズ

SK シリーズは、土坑から出土している。これらの土坑は、側面及び底面に被熱痕が認められ、炭化物も認められている。出土した骨は、一様に白色を呈しており、被熱を受けたことが推定される。しかしながら、明確に人骨であると同定されたものはなく、すべてが獣骨と推定される。これら、土坑の性格は不明である。なお、時代は、出土遺物から７世紀後半に比定されている。残念ながら、多くが骨片であるため明確な同定が可能であったのは、以下の３点である。

**（１）SK172**［9B18・23グリッド・２層・2013年10月９日出土］

・出土種：ニホンジカ（*Cervus nippon*）であると推定される。

・出土部位：中手骨あるいは中足骨の遠位端部片であると推定される。破片であるため、中手骨か中足骨かの部位同定及び左右は明確に同定できなかった。

・性別：性別は、不明である。

・死亡年齢：骨端部は癒合しているので、死亡年齢は、恐らく成獣であると推定される。

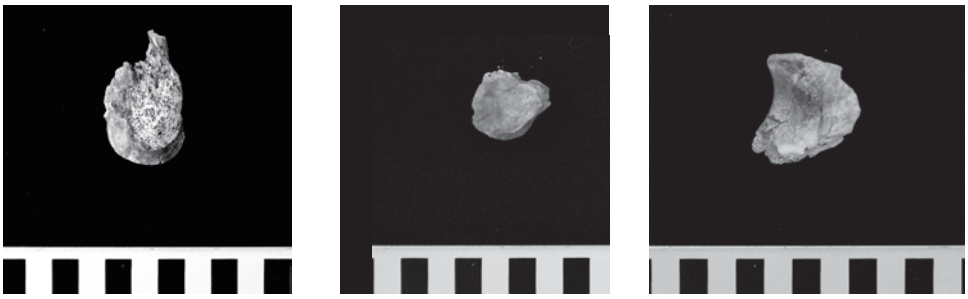
**（２）SK207**［10A15・20グリッド・2013年10月２日出土］

・出土種：ニホンジカ（*Cervus nippon*）であると推定される。

・出土部位：左第２+３手根骨であると推定される。

・性別：性別は、不明である。

・死亡年齢：骨端部は癒合しているので、死亡年齢は、恐らく成獣であると推定される。



**第13図　SK172（左）、207（中）、665（右）出土獣骨写真**

### （３）SK665［12A24、13A04グリッド・２層・2013年10月15日出土］

・出土種：イヌ（*Canis familiaris*）であると推定される。但し、野生のオオカミ（*Canis lupus*）か家畜化されたイヌであるかの正確な同定は不可能である。したがって、イヌ科（Canidae）としておく方が妥当である。

・出土部位：左尺骨の遠位部の滑車切痕部片であると推定される。

・性別：性別は、不明である。

・死亡年齢：死亡年齢は、恐らく成獣であると推定される。

## ２　SRシリーズ

SRシリーズは、旧河川流路SR400の最下層である７層から出土している。出土した獣骨は、すべて、茶色を呈しており、長い間水に浸かった事を示している。残念ながら、時代の特定は困難である。しかしながら、14B20グリッド出土獣骨は７層から出土している。この７層は、７世紀後半に比定されている。

### （１）SR400

SR400出土獣骨では、14B20グリッド・14B23グリッド・15C02グリッド・15C06グリッド出土獣骨の４点が同定された。

#### ①14B20グリッド出土獣骨

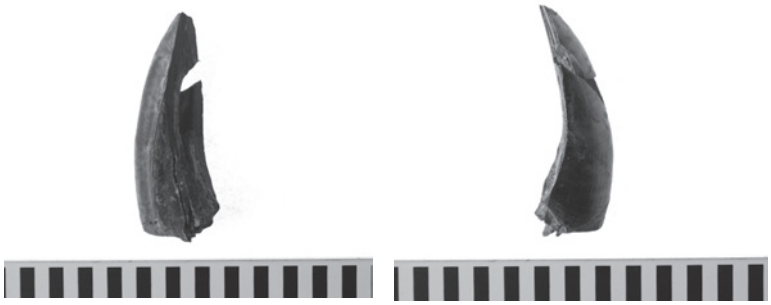
・出土種：イノシシ（*Sus scrofa*）であると推定される。イノシシを家畜化したブタの可能性もあるが、出土した犬歯が非常に大きいため恐らく野生のイノシシであると推定される。

・出土部位：下顎左犬歯であると推定される。

・性別：一部破損しているが、犬歯のサイズが大きいため、恐らくオスであると推定される。

・死亡年齢：他の歯が出土していれば、その咬耗度で推定することが可能である。今回は下顎犬歯しか出土していないため、死亡年齢の推定は困難である。しかしながら、恐らく成獣であると推定される。

・その他：カットマークは、認められなかった。



第14図　旧河川流路SR400（14B20グリッド）出土獣骨写真

第15図　旧河川流路SR400（14B19グリッド）出土獣骨部位図

#### ②14B23グリッド出土獣骨

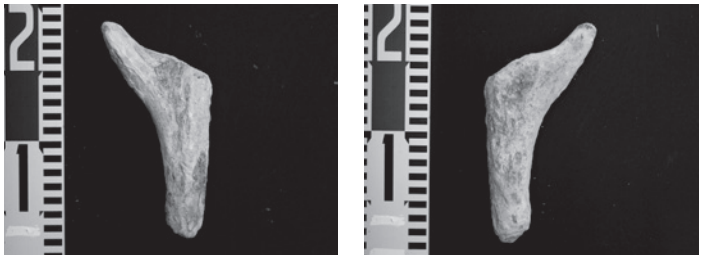
・出土種：ニホンジカ（*Cervus nippon*）であると推定される。

・出土部位：シカの角（鹿角）の右第２分岐部であると推定される。

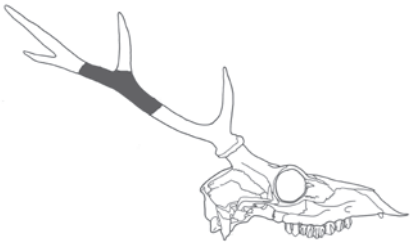
・性別：シカの角は、オスだけにあるので、オスであると推定される。

・死亡年齢：シカの角は１歳では１枝または２枝、２歳では２～３枝または小型の４枝であり、６歳前後で大きい４枝の角が完成するという。本個体は、ある程度太く大きいので、恐らく、幅を持たせて、約４歳～８歳であると推定される。

・その他：第２枝の基部は、切断されている。恐らく、何かの骨角器に使用するために切断したのであろう。



第16図　旧河川流路SR400（14B23グリッド）出土獣骨写真



第17図　旧河川流路SR400（14B23グリッド）出土獣骨部位図

### ③15C02グリッド出土獣骨

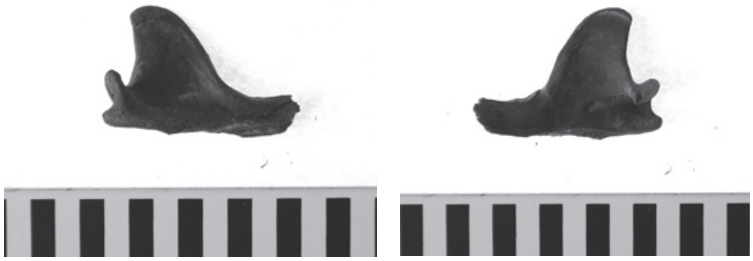
・出土種：ネコ（*Felis catus*）と推定された。ネコは、元々、国内にはいなかった。しかし、南西諸島にはイリオモテヤマネコというネコ科の固有種が生息していた。現在、国内で確認されたものとしては、長崎県壱岐市のカラカミ遺跡から弥生時代のネコが出土している。但し、そのネコがその後本州に持ち込まれたかどうかは不明である。本格的には、奈良時代になって主に経典を食べるネズミから守るために中国から持ち込まれたというのが通説である。本報告者の経験則ではあるが、ネコはイヌと異なり、遺跡から出土する確率は非常に低い。実際、（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団で過去に報告された出土獣骨を調べても、１例しかない。恐らく、常に人の周りにいて死亡した場合は丁寧に埋葬されるイヌと異なり、ネコは外で死亡し埋葬される事例が少ないためであると本報告者は推定している。

・出土部位：右下顎骨破片の、筋突起部・下顎頭部・歯槽部である。

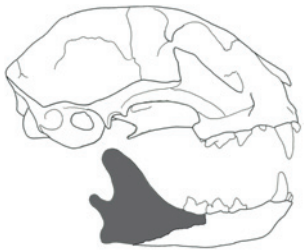
・性別：性別は不明である。

・死亡年齢：歯は出土していないが歯槽部は完成しているので、成獣であると推定される。

・その他：カットマークは、認められなかった。



第18図　旧河川流路SR400（15C02グリッド）出土獣骨写真



第19図　旧河川流路SR400（15C02グリッド）出土獣骨部位図

### ④15C06グリッド出土獣骨

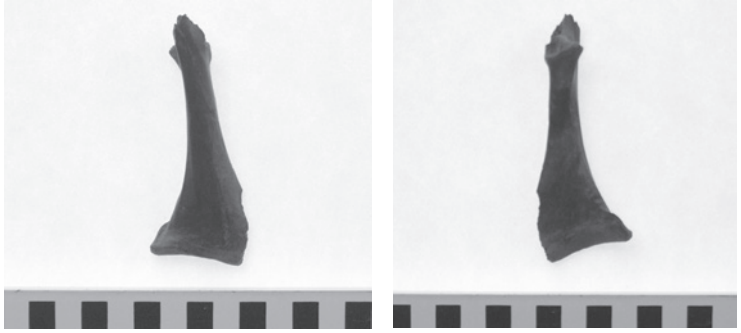
・出土種：カモ科（Anatidae）であると推定される。正確な種名を同定するのは、困難である。

・出土部位：左烏口骨であると推定される。

・性別：性別は、不明である。

・死亡年齢：恐らく、成鳥であると推定される。

・その他：カットマークは、認められなかった。



第20図　旧河川流路SR400（15C06グリッド）出土獣骨写真

15C06グリッド出土獣骨：カモ科

第21図　旧河川流路SR400
（15C06グリッド）
出土獣骨部位図
〔図はカモではなくハト〕

## まとめ

新潟県南蒲原郡田上町大字湯川字行屋崎に所在する、行屋崎遺跡の土坑及び旧河川流路跡より、獣骨が出土した。いずれも、飛鳥時代（７世紀後半）及び平安時代（８世紀末～９世紀中頃）に形成された集落に伴うと推定される。土坑出土獣骨は、いずれも被熱を受けており白色を呈している。イヌ及びニホンジカが同定された。旧河川流路跡出土獣骨は、いずれも長い間水に浸かった状態で茶色を呈している。イノシシ・ニホンジカ・ネコ・カモ科が同定された。表３表に、まとめを示した。

表３表　行屋崎遺跡出土獣骨のまとめ

| 遺構名 | グリッド名 | 動物種名 | 学名 | 出土部位 | 性別 | 死亡年齢 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK172 | 9B23 | ニホンジカ | *Cervus nippon* | 中手骨か中足骨 | 不明 | 成獣 | 被熱 |
| SK207 | 10A23 | ニホンジカ | *Cervus nippon* | 左第 2+3 手根骨 | 不明 | 成獣 | 被熱 |
| SK665 | 12A04 | イヌ科 | *Canidae* | 左尺骨 | 不明 | 成獣 | 被熱 |
| SR400 | 14B19 | イノシシ | *Sus scrofa* | 下顎左犬歯 | オス | 成獣 | 無し |
| | 14B23 | ニホンジカ | *Cervus nippon* | 右角 | オス | ４歳～８歳 | 切断痕 |
| | 15C02 | ネコ | *Felis catus* | 右下顎骨 | 不明 | 成獣 | 無し |
| | 15C06 | カモ科 | *Anatidae* | 左烏口骨 | 不明 | 成鳥 | 無し |

# 第２節　珪藻化石群集

藤根　久（パレオ･ラボ）

## １　はじめに

珪藻は、10 ～ 500μmほどの珪酸質殻を持つ単細胞藻類で、殻の形や刻まれた模様などから多くの珪藻種が調べられ、現生の生態から特定環境を指標する珪藻種群が設定されている［小杉1988］、［安藤1990］。一般的に、珪藻の生育域は海水域から淡水域まで広範囲に及び、中には河川や沼地などの水成環境以外の陸地においても、わずかな水分が供給されるジメジメとした陸域環境（例えばコケの表面や湿った岩石の表面など）に生育する珪藻種が知られている。こうした珪藻群集の性質を利用して、堆積物中の珪藻化石群集の解析から、過去の堆積物の堆積環境について知ることができる。

行屋崎遺跡は、田上町湯川地内の護摩堂山地と信濃川に挟まれた沖積低地に立地する。調査では、飛鳥時代（７世紀後半）と平安時代前期（９世紀代）の建物跡、土器、木製品が多数発見された。旧五社川の流路だったと思われる場所では、大型の槽、板材、加工途中の鋤、銅製の鈴、木製の食器や曲物などが検出された。

ここでは、流路跡の堆積物および基盤層中の珪藻化石群集を調べ、堆積環境について検討した。

## ２　試料と方法

試料は、流路跡の堆積物および基盤層の８点である（第４表）。各試料について以下の処理を行い、珪藻分析用プレパラートを作製した。

**第４表　分析を行なった試料とその詳細**

| 分析 No. | 遺構 | 位置 | 時期 | 特徴 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | SR400 | １層 | | 黒色（10YR2/1）泥炭質粘土質シルト |
| 2 | | ２層 | | 緑灰色（10Y4/4）泥炭質粘土質シルト |
| 3 | | ３層 | | 褐色（10YR4/4）泥炭質粘土質シルト |
| 4 | | ４層 | | 緑灰色（7.5GY5/1）泥炭質粘土質シルト |
| 5 | | 5a 層 | ７世紀後半 | 暗褐色（10YR3/3）泥炭 |
| 6 | | ６層 | | 褐灰色（10YR4/1）シルト混じり砂 |
| 7 | | ７層 | ７世紀後半 | 黒褐色（10YR3/2）泥炭 |
| 8 | 基盤層 | Ⅲ層 | | 灰白色（2.5Y7/1）粘土質シルト |

（１）湿潤重量約１gを取り出し、秤量した後ビーカーに移して30%過酸化水素水を加え、加熱・反応させ､有機物の分解と粒子の分散を行った。（２）反応終了後､水を加え１時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てる。この作業を５回ほど繰り返した。（３）懸濁残渣を遠心管に回収し、マイクロピペットで適量取り、カバーガラスに滴下し乾燥させた。乾燥後は、マウントメディアで封入しプレパラートを作製した。

作製したプレパラートは顕微鏡下600倍および1500倍で観察し、珪藻化石200個体以上について同定・計数した。なお、珪藻化石の少ない試料はプレパラート全面を観察した。珪藻殻は、完形と非完形（原則として半分程度残っている殻）に分けて計数し、完形殻の出現率として示した。また、試料の処理重量とプレパラート上の計数面積から堆積物１g当たりの殻数を計算した。

## ３　珪藻化石の環境指標種群

珪藻化石の環境指標種群は、主に［小杉1988］および［安藤1990］が設定した環境指標種群に基づいた。なお、環境指標種群以外の珪藻種については、淡水種は広布種（W）として、海水～汽水種は不明種（？）としてそれぞれ扱った。また、破片のため属レベルの同定にとどめた分類群は、その種群を不明（？）として扱った。以下に、［小杉1988］が設定した海水～汽水域における環境指標種群と［安藤1990］が設定した淡水域における環境指標種群の概要を示す。

［外洋指標種群（A）］：塩分濃度が35パーミル以上の外洋水中を浮遊生活する種群である。

［内湾指標種群（B）］：塩分濃度が26 ～ 35パーミルの内湾水中を浮遊生活する種群である。

［海水藻場指標種群（C1）］：塩分濃度が12 ～ 35パーミルの水域の海藻や海草（アマモなど）に付着生活する種群である。

［海水砂質干潟指標種群（D1）］：塩分濃度が26 ～ 35パーミルの水域の砂底（砂の表面や砂粒間）に付着生活する種群である。この生育場所には、ウミニナ類、キサゴ類、アサリ、ハマグリ類などの貝類が生活する。

［海水泥質干潟指標種群（E1）］：塩分濃度が12 ～ 30パーミルの水域の泥底に付着生活する種群である。この生育場所には、イボウミニナ主体の貝類相やカニなどの甲殻類相が見られる。

［汽水藻場指標種群（C2）］：塩分濃度が4 ～ 12パーミルの水域の海藻や海草に付着生活する種群である。

［汽水砂質干潟指標種群（D2）］：塩分濃度が5 ～ 26パーミルの水域の砂底（砂の表面や砂粒間）に付着生活する種群である。

［汽水泥質干潟指標種群（E2）］：塩分濃度が2 ～ 12パーミルの水域の泥底に付着生活する種群である。淡水の影響により、汽水化した塩性湿地に生活するものである。

［上流性河川指標種群（J）］：河川上流部の渓谷部に集中して出現する種群である。これらは、殻面全体で岩にぴったりと張り付いて生育しているため、流れによってはぎ取られてしまうことがない。

［中～下流性河川指標種群（K）］：河川の中～下流部、すなわち河川沿いで河成段丘、扇状地および自然堤防、後背湿地といった地形が見られる部分に集中して出現する種群である。これらの種には、柄またはさやで基物に付着し、体を水中に伸ばして生活する種が多い。

［最下流性河川指標種群(L)］:最下流部の三角州の部分に集中して出現する種群である。これらの種には、水中を浮遊しながら生育している種が多い。これは、河川が三角州地帯に入ると流速が遅くなり、浮遊生の種でも生育できるようになるためである。

［湖沼浮遊生指標種群（M）］：水深が約1.5m以上で、岸では水生植物が見られるが、水底には植物が生育していない湖沼に出現する種群である。

［湖沼沼沢湿地指標種群（N）］：湖沼における浮遊生種としても、沼沢湿地における付着生種としても優勢な出現が見られ、湖沼・沼沢湿地の環境を指標する可能性が大きい種群である。

［沼沢湿地付着生指標種群（O）］：水深1m内外で、一面に植物が繁殖している所および湿地において、付着の状態で優勢な出現が見られる種群である。

［高層湿原指標種群（P）］：尾瀬ケ原湿原や霧ケ峰湿原などのように、ミズゴケを主とした植物群落および泥炭層の発達が見られる場所に出現する種群である。

［陸域指標種群（Q）］：上述の水域に対して、陸域を生息地として生活している種群である（陸生珪藻と

呼ばれている)。

## ４ 結果および考察

堆積物から検出された珪藻化石は、海水種が17分類群15属９種、海～汽水種が５分類群３属５種、汽水種が10分類群５属10種、淡水種が130分類群31属108種４変種であった。これらの珪藻化石は、海水域における４環境指標種群（A、B、C1、E1)、汽水域における１環境指標種群（E2)、淡水域における５環境指標種群（K、L、N、O、Q）に分類された（第５表)。これら珪藻化石群集の特徴および汽水種の出現傾向からⅠ～Ⅴ帯に分帯された。分帯において汽水種の出現傾向に注目した理由としては、遺構面の標高が約４m程度であり、海水の溯上域と考えられるためである。

以下では、各珪藻帯における珪藻化石の特徴と堆積環境について述べる。

### Ⅰ帯（分析No.8：Ⅲ層）

堆積物1g中の珪藻殻数は$7.7\times10^{4}$個、完形殻の出現率は30.9%である。全体としては淡水種が多いが、海～汽水種を約31%含む。環境指標種群では、外洋指標種群（A)、内湾指標種群（B)、中～下流性河川指標種群（K)、沼沢湿地付着生指標種群（O）などが検出された。

環境指標種群の特徴から、海水の影響を受ける河川～沼沢湿地環境が推定される。この基盤層は、鮮新～更新統の魚沼層群相当層に対応する［日本の地質「中部地方Ⅰ」編集委員会編1990]。

### Ⅱ帯（分析No.7：7層）

堆積物１g中の珪藻殻数は$3.0\times10^{5}$個、完形殻の出現率は68.2%である。全体としては淡水種が多いが、汽水種がやや多く出現した。環境指標種群では、中～下流性河川指標種群（K）と沼沢湿地付着生指標種群（O）が多く、陸域指標種群（Q）などを伴う。

こうしたことから、汽水の影響を僅かに受ける河川～沼沢湿地環境が推定される。

### Ⅲ帯（分析No.3 ～ 6：3 ～ 6層）

堆積物１g中の珪藻殻数は$5.4\times10^{4}$個～ $3.0\times10^{6}$個、完形殻の出現率は47.0% ～ 65.8%である。全体としては淡水種が多いが、海～汽水種を約12% ～ 26%含む。環境指標種群では、中～下流性河川指標種群（K）と沼沢湿地付着生指標種群（O）が多い。

こうした環境指標種群の特徴から、海～汽水の影響を受ける河川～沼沢湿地環境が推定される。

### Ⅳ帯（分析No.2：2層）

堆積物１g中の珪藻殻数は$1.4\times10^{6}$個、完形殻の出現率は57.3%である。全体としては淡水種が多い。環境指標種群では、中～下流性河川指標種群（K）が多く、沼沢湿地付着生指標種群（O）や湖沼沼沢湿地指標種群（N）を伴う。

こうした環境指標種群の特徴から、沼沢湿地を伴う河川環境が優勢である。

Ｖ帯（分析No.1：１層）

堆積物1g中の珪藻殻数は7.0×$10^5$個、完形殻の出現率は44.1%である。全体としては淡水種が多い。環境指標種群では、沼沢湿地付着生指標種群（Ｏ）がやや多く、中～下流性河川指標種群（Ｋ）や湖沼沼沢湿地指標種群（Ｎ）を伴う。

こうした環境指標種群の特徴から、河川を伴う沼沢湿地環境が優勢である。

## ５　おわりに

SR400の流路堆積物および基盤層の珪藻化石群集について調べた。その結果、基盤層（Ｉ帯）は、海水の影響を受ける河川～沼沢湿地環境が推定された。

流路は、汽水の影響を僅かに受ける河川～沼沢湿地環境（Ⅱ帯）、海～汽水の影響を受ける河川～沼沢湿地環境（Ⅲ帯）、沼沢湿地を伴う河川環境（Ⅳ帯）、河川を伴う沼沢湿地環境（Ｖ帯）に変化したことが推定された。

**第５表　堆積物中の珪藻化石産出表（種群は、［小杉 1988］および［安藤 1990］による）**

| No. | 分類群 | | 種群 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | *Actinocyclus* | *ingens* | A | | | 1 | 4 | 4 | | 1 | 6 |
| 2 | *A.* | spp. | ? | | | | 1 | 1 | 1 | | 2 |
| 3 | *Actinoptychus* | *senarius* | ? | | | | | | | | 3 |
| 4 | *Arachonoidiscus* | spp. | ? | | | | | | | | 2 |
| 5 | *Chaetocerous* | spp. | ? | | | | | | | | 1 |
| 6 | *Coscinodiscus* | *marginatus* | A | | | | | | | | 3 |
| 7 | *C.* | spp. | ? | 1 | | | 2 | | | | 5 |
| 8 | *Denticulopsis* | spp. | ? | | | | 1 | | | 1 | 5 |
| 9 | *Diploneis* | *smithii* | E1 | | | | | | | | 1 |
| 10 | *Grammatophora* | spp. | ? | | | | 1 | | | | |
| 11 | *Palaria* | *sulcata* | B | 1 | | | 2 | 1 | | | 5 |
| 12 | *Navicula* | *formenterae* | ? | | 1 | | | | | | |
| 13 | *Nitzschia* | *commutatoides* | ? | | | 1 | | 2 | | | |
| 14 | *Stephanopyxis* | spp. | ? | | | | | | 1 | | |
| 15 | *Synedra* | *tabulata* | C1 | | | 1 | 1 | | | | |
| 16 | *Thalassionema* | *nitzschioides* | A | | 2 | 2 | | | | | 6 |
| 17 | *Thalassiosira* | spp. | ? | | | | | | | | 2 |
| 1 | *Amphora* | *normanii* | ? | | 3 | | 1 | 1 | | | |
| 2 | *Navicula* | *digitoradiata* | ? | | 2 | 7 | 6 | | | | |
| 3 | *N.* | *peregrina* | ? | | | 20 | 12 | 7 | 17 | | 3 |
| 4 | *Nitzschia* | *plana* | ? | 2 | | 8 | 7 | 1 | 4 | 1 | |
| 5 | *N.* | *sigma* | ? | 2 | | 4 | 1 | 1 | | | |
| 1 | *Achnanthes* | *brevipes* | ? | | | 2 | | 1 | 1 | 2 | 3 |
| 2 | *Hantzschia* | *spectabilis* | ? | 1 | | | | | | | |
| 3 | *Navicula* | *erifuga* | ? | | 6 | | 2 | | 3 | 7 | |
| 4 | *N.* | *menisculus* | E2 | 1 | 3 | 2 | 2 | | | 1 | |
| 5 | *Nitzschia* | *constricta* | ? | 1 | | | | | | | |
| 6 | *N.* | *dubia* | ? | | 1 | 4 | 3 | 2 | 1 | 2 | |
| 7 | *N.* | *levidensis* | ? | 1 | 5 | 3 | 4 | | | | |
| 8 | *N.* | *lorenziana* | ? | | | 1 | 3 | | | | |
| 9 | *N.* | *scalaris* | ? | | | | | 1 | 1 | | |
| 10 | *Synedra* | *pulchella* | ? | | | | | 3 | 6 | 9 | |
| 1 | *Achnanthes* | *exigua* | W | 3 | 2 | | | | | | |
| 2 | *A.* | *inflata* | W | | | | | | 1 | 2 | |
| 3 | *A.* | *lanceolata* | K | 1 | 9 | 5 | | 9 | 6 | 8 | |
| 4 | *Amphora* | *ovalis* | W | 27 | 12 | 6 | 9 | 8 | 3 | 3 | |
| 5 | *Anomoeoneis* | *sphaerophora* | W | 14 | 4 | 5 | 14 | 1 | 4 | | |
| 6 | *A.* | *vitrea* | W | | 1 | | | | | | |
| 7 | *Aulacosira* | *distans* | N | | | | | | | | 1 |
| 8 | *A.* | *granulata* | M | | | | | | | | 2 |
| 9 | *A.* | *italica* | N | | | | | | | | 2 |
| 10 | *A.* | spp. | ? | | | | | | | | 1 |
| 11 | *Bacillaria* | *paradoxa* | W | | | 5 | 15 | 5 | 2 | 2 | |
| 12 | *Caloneis* | *bacillum* | W | 2 | 4 | 2 | 4 | 2 | 1 | | |
| 13 | *C.* | *lauta* | W | 1 | | | 3 | | | 2 | |
| 14 | *C.* | *silicula* | W | 8 | 2 | | 7 | 2 | 4 | | |
| 15 | *Ceratoneis* | *arcus* | K | 1 | 1 | | | | | | 2 |

| No. | 分類群 | | 種群 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 16 | *Cocconeis* | *placentula* | W | 1 | 2 | 2 | 2 | 15 | 41 | 31 | 2 |
| 17 | *Cyclotella* | *meneghiniana* | L | | | | | | | 1 | |
| 18 | *C.* | spp. | ? | | | | | | | | 2 |
| 19 | *Cymatopleura* | *solea* | W | | 13 | 11 | 7 | 1 | | | |
| 20 | *Cymbella* | *affinis* | W | | | | | | 1 | 1 | 1 |
| 21 | *C.* | *aspera* | O | | | 1 | | | | | |
| 22 | *C.* | *cuspidata* | W | | | | 1 | | | | |
| 23 | *C.* | *ehrenbergii* | O | 3 | | 1 | 1 | | | | |
| 24 | *C.* | *leptoceros* | W | | | | | | 1 | | |
| 25 | *C.* | *naviculiformis* | W | 1 | | | | 1 | 1 | 1 | |
| 26 | *C.* | *pusilla* | W | 1 | 1 | | | | | | |
| 27 | *C.* | *silesiaca* | W | 1 | | 1 | 1 | | | | 1 |
| 28 | *C.* | *sinuata* | K | | 2 | | | 1 | | | 1 |
| 29 | *C.* | *tumida* | W | | 3 | 6 | | 4 | 9 | 4 | 7 |
| 30 | *C.* | *turgidula* | K | | 17 | 3 | 2 | | | | 2 |
| 31 | *C.* | spp. | ? | 1 | | | | | 1 | 3 | |
| 32 | *Diploneis* | *finnica* | W | | | | 1 | | | | |
| 33 | *D.* | *ovalis* | W | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | |
| 34 | *D.* | *parma* | W | | | 4 | 5 | 1 | 1 | | |
| 35 | *D.* | spp. | ? | 1 | | | 1 | | 1 | | |
| 36 | *Epithemia* | spp. | ? | | | | | | | 2 | |
| 37 | *Eunotia* | *biareofera* | W | | | | | 1 | | 1 | |
| 38 | *E.* | *bilunaris* | W | 1 | | | | 1 | 2 | 5 | |
| 39 | *E.* | *formica* | W | | | | | | | | 3 |
| 40 | *E.* | *implicata* | W | | | | | 2 | 3 | 1 | |
| 41 | *E.* | *pectinalis var. minor* | O | 1 | | | | 6 | 6 | 9 | |
| 42 | *E.* | *pectinalis var. undulata* | O | | | | | | | 2 | 2 |
| 43 | *E.* | *praerupta* | W | | 1 | | | 1 | 1 | 1 | 5 |
| 44 | *E.* | *praerupta var. bidens* | O | | | | 1 | 1 | 1 | 2 | 7 |
| 45 | *E.* | *siolii* | W | | | | | | | 2 | 1 |
| 46 | *E.* | spp. | ? | 1 | | | | 1 | 3 | 4 | 2 |
| 47 | *Fragilaria* | *brevistriata* | N | 3 | 5 | | | | | | |
| 48 | *F.* | *construens* | N | | | 1 | | | | | |
| 49 | *F.* | *pinnata* | N | 2 | 3 | 2 | | | | | |
| 50 | *F.* | spp. | ? | 8 | 3 | 1 | | | | | |
| 51 | *Frustulia* | *vulgaris* | W | | 2 | | | 2 | 1 | 1 | |
| 52 | *F.* | *spp.* | ? | | | | | | | | 2 |
| 53 | *Gomphonema* | *acuminatum* | O | | | | | 2 | | 3 | |
| 54 | *G.* | *augur* | W | | | | | | 2 | | |
| 55 | *G.* | *constrictum* | W | | | | | 5 | | 3 | |
| 56 | *G.* | *grovei* | W | | | | | 1 | | | |
| 57 | *G.* | *minutum* | W | | 4 | 1 | | 3 | 3 | 6 | |
| 58 | *G.* | *olivaceum* | W | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | | 1 | |
| 59 | *G.* | *parvulum* | W | 1 | 3 | 1 | 1 | 9 | 15 | 3 | 2 |
| 60 | *G.* | spp. | ? | | | 1 | 1 | 4 | 9 | 5 | 13 |
| 61 | *Gyrosigma* | spp. | ? | 24 | 12 | 10 | 24 | 5 | 4 | 1 | 2 |
| 62 | *Hantzschia* | *amphioxys* | Q | 1 | 2 | 2 | 4 | 3 | 1 | 4 | 1 |
| 63 | *Meridion* | *circulae var. constricta* | K | 1 | 3 | | | 4 | 3 | 3 | 2 |
| 64 | *Melosira* | *varians* | K | | 1 | 3 | 4 | 2 | | 9 | |
| 65 | *M.* | *undulata* | W | | | 1 | | | | | |
| 66 | *Navicula* | *americana* | W | | | | 2 | 2 | | | |
| 67 | *N.* | *angusta* | W | | 5 | 1 | | | 1 | | |
| 68 | *N.* | *bacillum* | W | | 2 | | 2 | 1 | 1 | 1 | |
| 69 | *N.* | *cincta* | W | | | | | | | 3 | |
| 70 | *N.* | *confervacea* | W | | | | 1 | | | | |
| 71 | *N.* | *cryptotenella* | W | 2 | | 1 | | | | | |
| 72 | *N.* | *cuspidata* | W | 2 | | 1 | | | | | |
| 73 | *N.* | *elginensis* | O | | | | | 5 | | | |
| 74 | *N.* | *exigua* | W | 2 | 4 | 10 | 11 | | | | |
| 75 | *N.* | *hasta* | W | | 2 | | | | | | |
| 76 | *N.* | *integra* | W | | 1 | | | | | | |
| 77 | *N.* | *kotschyi* | W | 1 | 4 | | | | 3 | | |
| 78 | *N.* | *lanceolata* | W | | 2 | | 3 | | 1 | 2 | 1 |
| 79 | *N.* | *mutica* | Q | | | | 2 | | 1 | 2 | |
| 80 | *N.* | *oppugnata* | W | | | 3 | | | | | |
| 81 | *N.* | *pupula* | W | | | 1 | | 1 | 3 | | |
| 82 | *N.* | *radiosa* | W | | 1 | 1 | 1 | | 1 | | |
| 83 | *N.* | *riparia* | W | | 1 | | | | | | |
| 84 | *N.* | *rhynchocephala* | W | | | | | | 1 | | |
| 85 | *N.* | *veneta* | W | 1 | 5 | 2 | | | | 2 | |
| 86 | *N.* | *viridula* | W | 3 | 4 | 1 | 1 | 6 | 2 | 2 | |
| 87 | *N.* | spp. | ? | 2 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 2 | |
| 88 | *Neidium* | *affine* | W | | | | | | | 1 | |
| 89 | *N.* | *ampliatum* | W | | 1 | | 1 | | | | |
| 90 | *N.* | *iridis* | O | 3 | | 4 | 5 | 4 | | | 2 |

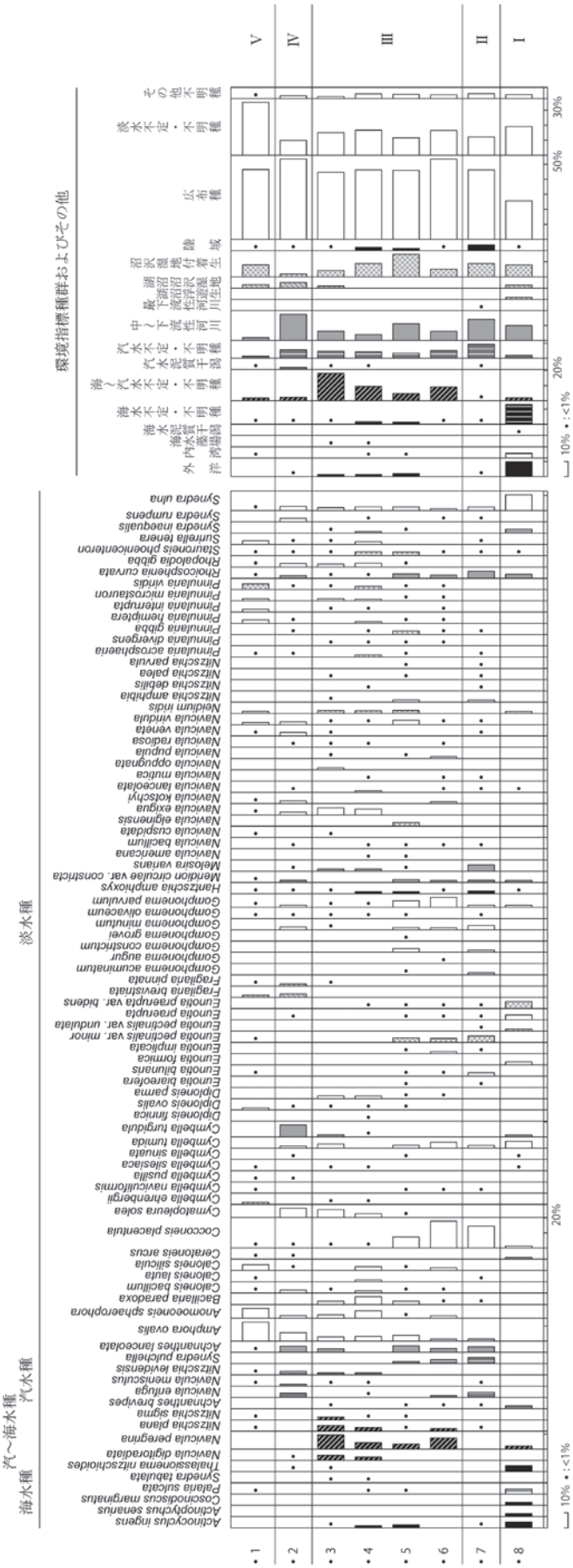
| No. | 分類群 | | 種群 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 91 | *N.* | spp. | ? | | | | | 1 | | | 2 |
| 92 | *Nitzschia* | *amphibia* | W | | | 1 | | 3 | | 3 | |
| 93 | *N.* | *debilis* | W | | | | 1 | | | 1 | |
| 94 | *N.* | *palea* | W | | | 2 | | 1 | | 2 | |
| 95 | *N.* | *parvula* | W | | | | | 1 | | 2 | |
| 96 | *N.* | *sinuata* | W | | | | | 1 | | | |
| 97 | *N.* | *tryblionella* | W | | | 1 | | | | | |
| 98 | *N.* | spp. | ? | 2 | | 9 | 10 | 6 | 3 | 5 | |
| 99 | *Pinnularia* | *acrosphaeria* | O | 1 | 1 | | 4 | 2 | | 1 | |
| 100 | *P.* | *brandelii* | W | | | | | | 1 | | |
| 101 | *P.* | *braunii* | W | | | | | | 1 | | |
| 102 | *P.* | *divergens* | W | | | 1 | 2 | 1 | 2 | | |
| 103 | *P.* | *gibba* | O | | 1 | | 1 | 5 | 1 | 1 | |
| 104 | *P.* | *globiceps* | W | | 1 | 4 | 1 | | | | |
| 105 | *P.* | *hemiptera* | W | 5 | 1 | | 3 | 2 | 1 | | |
| 106 | *P.* | *interrupta* | W | 4 | | 2 | 1 | | 1 | | |
| 107 | *P.* | *maior* | W | | | | 2 | | | | |
| 108 | *P.* | *microstauron* | W | 3 | | 3 | 3 | 1 | 2 | | |
| 109 | *P.* | *rupestris* | W | | | | | | 1 | | |
| 110 | *P.* | *subcapitata* | Q | | | | | | | 2 | |
| 111 | *P.* | *viridis* | O | 8 | 1 | 2 | 6 | 1 | 2 | | |
| 112 | *P.* | spp. | ? | 27 | 4 | 6 | 8 | 6 | 13 | 4 | 1 |
| 113 | *Pliocaenicus* | spp. | ? | | | | | | | | 2 |
| 114 | *Rhoicosphenia* | *curvata* | K | 1 | 4 | 1 | 2 | 6 | 5 | 10 | 4 |
| 115 | *Rhopalodia* | *gibba* | W | 1 | 5 | 4 | 7 | 2 | | | |
| 116 | *R.* | spp. | ? | 3 | 1 | 2 | 1 | | | | |
| 117 | *Stauroneis* | *acuta* | W | 3 | | | | | | | |
| 118 | *S.* | *anceps* | W | 1 | | | 1 | 1 | | | |
| 119 | *S.* | *phoenicenteron* | O | 1 | 1 | 1 | 7 | 5 | 2 | 1 | 1 |
| 120 | *S.* | *smithii* | W | | 1 | | 1 | | | 2 | |
| 121 | *S.* | spp. | ? | 4 | | | | | 1 | | 1 |
| 122 | *Surirella* | *angusta* | W | | 1 | | | | | | |
| 123 | *S.* | *gracilis* | W | | | 1 | | | | | |
| 124 | *S.* | *robusta* | W | | | 1 | | | | | |
| 125 | *S.* | *tenera* | W | 5 | 1 | 2 | 5 | | | 1 | |
| 126 | *S.* | spp. | ? | 2 | | 1 | 1 | | 1 | | 1 |
| 127 | *Synedra* | *capucina* | W | | 5 | | | | 1 | | |
| 128 | *S.* | *inaequalis* | K | | | 1 | 3 | 1 | | | 4 |
| 129 | *S.* | *rumpens* | W | | 5 | | 2 | | 1 | 2 | |
| 130 | *S.* | *ulna* | W | 1 | 6 | 4 | 7 | 5 | 3 | 5 | 16 |
| 131 | | Unknown | ? | 2 | 4 | 3 | 9 | 6 | 6 | 7 | 4 |
| 1 | 外　洋 | | A | | 2 | 3 | 4 | 4 | | 1 | 15 |
| 2 | 内　湾 | | B | 1 | | | 2 | 1 | | | 5 |
| 3 | 海水藻場 | | C1 | | | 1 | 1 | | | | |
| 4 | 海水泥質干潟 | | E1 | | | | | | | | 1 |
| 5 | 海水不定・不明種 | | ? | 1 | 1 | 1 | 5 | 3 | 2 | 1 | 20 |
| 6 | 海～汽水不定・不明種 | | ? | 4 | 5 | 39 | 27 | 10 | 21 | 1 | 3 |
| 7 | 汽水泥質干潟 | | E2 | 1 | 3 | 2 | 2 | | | 1 | |
| 8 | 汽水不定・不明種 | | ? | 3 | 12 | 10 | 12 | 7 | 12 | 20 | 3 |
| 9 | 中～下流性河川 | | K | 4 | 37 | 13 | 11 | 23 | 14 | 30 | 15 |
| 10 | 最下流性河川 | | L | | | | | | | 1 | |
| 11 | 湖沼浮遊生 | | M | | | | | | | | 2 |
| 12 | 湖沼沼沢湿地 | | N | 5 | 8 | 3 | | | | | 3 |
| 13 | 沼沢湿地付着生 | | O | 17 | 4 | 9 | 25 | 31 | 12 | 19 | 12 |
| 14 | 陸　域 | | Q | 1 | 2 | 2 | 6 | 3 | 2 | 8 | 1 |
| 15 | 広布種 | | W | 99 | 114 | 95 | 130 | 95 | 123 | 99 | 39 |
| 16 | 淡水不定・不明種 | | ? | 75 | 21 | 32 | 47 | 24 | 38 | 26 | 29 |
| 17 | その他不明種 | | ? | 2 | 4 | 3 | 9 | 6 | 6 | 7 | 4 |
| | 海水種 | | | 2 | 3 | 5 | 12 | 8 | 2 | 2 | 41 |
| | 海～汽水種 | | | 4 | 5 | 39 | 27 | 10 | 21 | 1 | 3 |
| | 汽水種 | | | 4 | 15 | 12 | 14 | 7 | 12 | 21 | 3 |
| | 淡水種 | | | 201 | 186 | 154 | 219 | 176 | 189 | 183 | 101 |
| | 合　計 | | | 213 | 213 | 213 | 281 | 207 | 230 | 214 | 152 |
| | 完形殻の出現率 (%) | | | 44.1 | 57.3 | 60.1 | 65.8 | 58.5 | 47.0 | 68.2 | 30.9 |
| | 堆積物 1g 当たり殻数 ( 個 ) | | | 7.0E+05 | 1.4E+06 | 3.0E+06 | 7.1E+05 | 7.5E+05 | 5.4E+04 | 3.0E+05 | 7.7E+04 |

引用文献

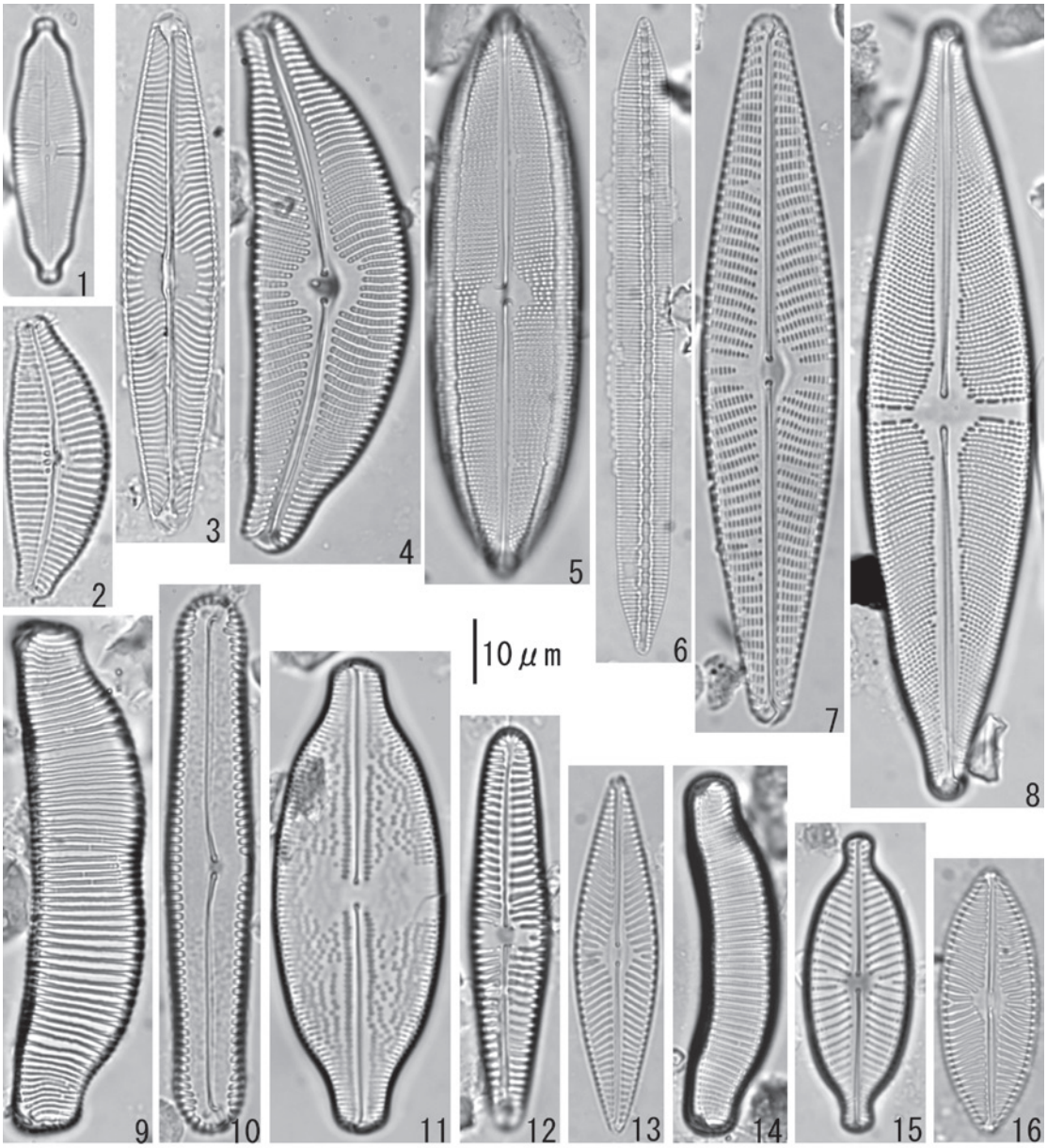
安藤一男 1990 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理，42，73-88.

小杉正人 1988 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用．第四紀研究，27，1-20.

日本の地質「中部地方Ｉ」編集委員会編 1990 日本の地質4「中部地方Ｉ」，共立出版，332p.




第22図　堆積物中の珪藻化石分布図（主な分類群を表示）




**第23図　堆積物中の珪藻化石の顕微鏡写真**

1. *Navicula integra* (No. 2)　2. *Cymbella turgidula* (No. 2)　3. *Navicula lanceolata* (No. 2)

4. *Cymbella tumida* (No. 2)　5. *Neidium iridis* (No. 4)　6. *Bacillaria paradoxa* (No. 3)

7. *Navicula peregrina* (No. 4)　8. *Stauroneis phoenicenteron* (No. 3)

9. *Eunotia praerupta* var.*bidens* (No. 8)　10. *Pinnularia acrosphaeria* (No. 1)

11. *Anomoeoneis sphaerophora* (No. 4)　12. *Gomphonema olivaceum* (No. 2)

13. *Navicula cryptotenella* (No. 1)　14. *Eunotia praerupta* (No. 2)

15. *Navicula exigua* (No. 1)　16. *Navicula digitoradiata* (No. 2)

# 第３節　花粉分析とプラント・オパール分析

森　将志（パレオ・ラボ）

## １ はじめに

新潟県田上町に所在する行屋崎遺跡において、7世紀後半の遺物が出土する旧河川跡が検出されている。古植生を検討するために、この流路内堆積物から花粉分析用とプラント・オパール分析用の試料が採取された。以下では、花粉分析とプラント･オパール分析の結果を示し、遺跡周辺の古植生について検討した。

## ２ 試料と方法

分析試料は､旧五社川の流路（SR400）から採取された8点の堆積物である（第６表）。流路の基盤層（Ⅲ層）の上には泥炭（5a層と７層）が堆積しており、これらの泥炭層からは7世紀後半の遺物が出土している。さらに、泥炭の間には砂やシルト層（６層と5b層）が観察されている。泥炭層（5a層）の上部には泥炭質粘土質シルト（１～４層）が重なる。これらの試料を用いて、以下の手順に従って分析を行った。

**第６表　旧河川流路SR400堆積物分析試料一覧**

| 遺構 | 層位 | 土層 | 出土遺物 |
|---|---|---|---|
| 旧五社川流路（SR400） | 1 | 黒色（10YR2/1）泥炭質粘土質シルト | - |
| | 2 | 緑灰色（7.5GY5/1）泥炭質粘土質シルト | |
| | 3 | 褐色（10YR4/4）泥炭質粘土質シルト | |
| | 4 | 緑灰色（7.5GY5/1）泥炭質粘土質シルト | |
| | 5a | 暗褐色（10YR3/3）泥炭 | 土器・木製品（７世紀後半） |
| | 6 | 褐灰色（10YR4/1）シルト混じり砂 | （７世紀後半） |
| | 7 | 黒褐色（10YR3/2）泥炭 | 土器・木製品（７世紀後半） |
| 基盤層 | Ⅲ | 灰白色（2.5Y7/1）粘土質シルト | - |

### ２－１ 花粉分析

試料（湿重量約２～３g）を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え１時間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理（無水酢酸９：濃硫酸１の割合の混酸を加え20分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。各プレパラートは樹木花粉が200を超えるまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。また、保存状態の良好な花粉化石を選んで単体標本（PLC.1298 ～ 1306）を作製し、写真を第26図に載せた。

### ２－２ プラント・オパール分析

秤量した試料を乾燥後、再び秤量する（絶対乾燥重量測定）。別に試料約１g（秤量）をトールビーカーにとり、約0.02gのガラスビーズ（直径約0.04mm）を加える。これに30%の過酸化水素水を約20 ～ 30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により0.01mm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体に由来するプラント・オパールについてガラスビーズが300個に達するまで行った。また、保存状態の良好な植物珪酸体を選んで、写真を第27図に載せた。

## ３　結果

### ３－１　花粉分析

検鏡の結果、８試料から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉35、草本花粉26、形態分類のシダ植物胞子２の総計63である。これらの花粉・胞子の一覧表を第７表に、分布図を第24図に示した。図表においてハイフン（－）で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。また、クワ科とバラ科、マメ科の花粉には樹木起源と草本起源のものがあるが、各々に分けるのが困難なため、便宜的に草本花粉に一括して入れてある。

樹木花粉では、スギ属とハンノキ属の産出が目立ち、スギ属は８～31%、ハンノキ属は４～33%の産出率を示す。また、スギ属は上位層に向かって増加傾向にあり、ハンノキ属は上位層で減少傾向にある。その他では、サワグルミ属-クルミ属やクマシデ属-アサダ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、トチノキ属、トネリコ属などが数％～十数％の産出率を示している。草本花粉では、イネ科とカヤツリグサ科の産出が目立ち、イネ科は６～34%、カヤツリグサ科は２～14％の産出率である。その他では､好湿性のガマ属（１,２,5a,６,７,Ⅲ層）やサジオモダカ属（１,２,5a層)､オモダカ属（１,２,３,5a層)、ミズアオイ属（２,３,６層)、アヤメ属（Ⅲ層)、コウホネ属（７層)、スイレン属（７層)、ツリフネソウ属（３,5a,７層)､ミツガシワ属（６層)､アサザ属（１層)､ゴキヅル属－アマチャヅル属（６,７,Ⅲ層）などがわずかに産出している。

### ３－２　プラント・オパール分析

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から求めた試料1g当りの各プラント・オパール個数を第８表に、それらの分布を第25図に示した。以下に示す各分類群のプラント・オパール個数は、試料1g当りの検出個数である。

検鏡の結果、イネとネザサ節型、ササ属型、他のタケ亜科、ヨシ属、キビ族、ウシクサ族の７種類の機動細胞珪酸体が確認できた。イネ機動細胞珪酸体は４,６,Ⅲ層以外の試料から産出しており、2,600 ～ 39,300個である。ネザサ節型機動細胞珪酸体は１,３,４層から産出しており、2,600 ～ 5,500個である。ササ属型機動細胞珪酸体は２層以外の試料から産出しており、1,500 ～ 21,800個である。他のタケ亜科は２層で産出しており、2,000個である。ヨシ属機動細胞珪酸体は全ての試料で産出しており、1,500 ～ 49,900個である。キビ族機動細胞珪酸体は６層以外の試料で産出しており、3,100 ～ 53,000個である。ウシクサ族機動細胞珪酸体は６,７層以外の試料で産出しており､1,600 ～ 22,200個である。その他には、イネの籾殻で形成される植物珪酸体（イネ穎破片）や棒状珪酸体、ポイント型珪酸体、イネ型短細胞珪酸体などの産出が見られた。

## ４　考察

まず、花粉分析の結果であるが、5a ～Ⅲ層と、それより上位の1 ～ 4層とで樹木組成が異なっている。5a ～Ⅲ層について見ると、スギ属や落葉広葉樹林要素（コナラ属コナラ亜属、ブナ属、サワグルミ属-クルミ属、クマシデ属-アサダ属、ニレ属-ケヤキ属、トチノキ属など)、照葉樹林要素（コナラ属アカガシ亜属など)、湿地林要素（ハンノキ属、トネリコ属など）の分類群が産出している。これらの産出から考

えると、遺跡周辺の丘陵部などにスギ林やコナラ属コナラ亜属をはじめとする落葉広葉樹林が広がっていたと思われる。落葉広葉樹林の中でも、サワグルミ属-クルミ属やニレ属-ケヤキ属、トチノキ属などは、沢沿いや河川周辺の水分条件の良好な場所に生育していたであろう。また、コナラ属アカガシ亜属の産出から照葉樹林の存在も推測できる。さらに、遺跡周辺の低地にはハンノキ属やトネリコ属などからなる湿地林が広がっていたと思われる。草本花粉においても5a ～Ⅲ層では好湿性の分類群が多く産出しており、ガマ属（5a,６,７,Ⅲ層）やサジオモダカ属（5a層）、オモダカ属（5a層）、ミズアオイ属（６層）、アヤメ属（Ⅲ層）、コウホネ属（７層）、スイレン属（７層）、ツリフネソウ属（5a,７層）、ミツガシワ属（６層）、ゴキヅル属－アマチャヅル属（６,７,Ⅲ層）などが低湿地林周辺に生育していたと考えられる。プラント・オパール分析では、ヨシ属（5a,６,７,Ⅲ層）の産出が湿地的環境を示唆している。こうした場所に河川が流れるようになり、泥炭が形成されたと考えられる。

１～４層になると、トネリコ属が減少しており、ハンノキ属も４層～２層にかけて減少が見られる。よって、これらの層の堆積時期には遺跡周辺に広がる低湿地林が分布を狭めていたと考えられる。草本花粉においても変化が見られ、イネ科とカヤツリグサ科が増加している（イネ科については5a層から）。泥炭であった場所に泥質堆積物が溜まるようになり、イネ科やカヤツリグサ科の草本類が分布を広げていたと思われる。プラント・オパール分析の結果では、ヨシ属やキビ族、ウシクサ族の機動細胞珪酸体が1 ～ 5a層で産出を増加させていた傾向があり、イネ科花粉と同様の産出傾向を示している。よって、この時期に分布を広げていたイネ科としてはヨシ属やキビ族、ウシクサ族などが考えられる。抽水植物のヨシ属については河川周辺に生育していたであろう。キビ族という分類階級には栽培種と野生種が含まれるが、機動細胞珪酸体の形態で両者を区別するのは難しい。ウシクサ族という分類階級については乾燥的環境に生育する種と湿地的環境に生育する種が含まれるが、機動細胞珪酸体の形態で両者を区別するのは難しい。ただし、ヨシ属の産出と同調している点から考えると、オギなどの湿地的環境に生育する種由来の機動細胞珪酸体を含んでいる可能性が高いと思われる。また、樹木花粉ではスギ属花粉が増加しており、この時期は遺跡周辺でスギ林が分布を広げていたと考えられる。スギの生育には降水量が強く影響を及ぼすため、この時期の環境変化の要因として、降水量の増加が可能性の１つとして指摘できる。その他の落葉広葉樹林要素や照葉樹林要素の分類群については顕著な変化が見られないため、この時期においても5a層以下の堆積時期と同様に分布を広げていたであろう。

最後にイネについて検討する。プラント・オパール分析の結果では、１,２,３,5a,７層においてイネ機動細胞珪酸体の産出が確認できた。流路内堆積物の最下層である７層では、イネ機動細胞珪酸体とともにイネ穎破片も産出しており、この時期から遺跡周辺にイネが存在していたと考えられる。ただし、４層と６層ではイネ機動細胞珪酸体の産出が認められず、これらの層では、水田雑草を含む分類群であるサジオモダカ属やオモダカ属、ミズアオイ属も産出しない傾向にある（ミズアオイ属については６層でわずかに産出している）。さらに、イネ科花粉の産出傾向を見ると、増減を繰り返しつつも全体的に上位層に向かって増加傾向を示しているが、産出が減少する層準（４,６,Ⅲ層）ではイネ機動細胞珪酸体の産出が見られない。

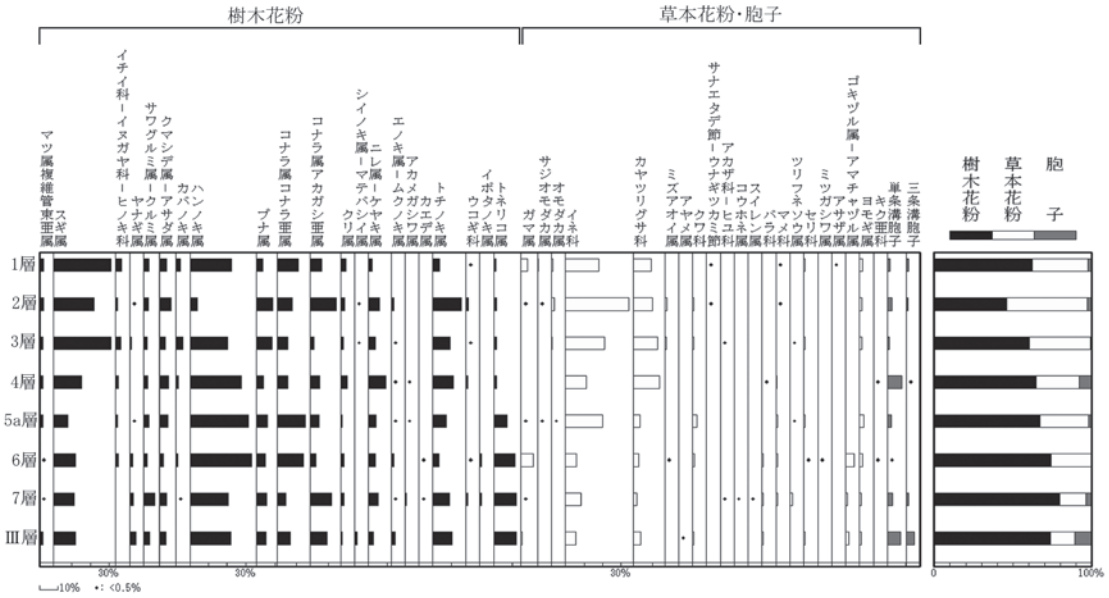
このように、イネ機動細胞珪酸体が産出しない層準では稲作に関わりのある花粉も産出が少ない傾向にあるため、遺跡周辺で絶えず稲作が行われていた訳ではないと考えられる。例えば、６層は砂層であるため、洪水などのイベントが起こり、その影響で水田稲作の中止を余儀なくされたなどの可能性が考えられる。

## 第７表　産出花粉胞子一覧表

| 学名 | 和名 | １層 | ２層 | ３層 | ４層 | 5a 層 | ６層 | ７層 | Ⅲ層 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 樹木 | | | | | | | | | |
| *Tsuga* | ツガ属 | - | 2 | - | 2 | - | - | - | - |
| *Pinus subgen. Diploxylon* | マツ属複維管束亜属 | 5 | 5 | 4 | 4 | 4 | 1 | 1 | 4 |
| *Pinus subgen. Haploxylon* | マツ属単維管束亜属 | - | - | - | - | - | - | 1 | - |
| *Sciadopitys* | コウヤマキ属 | - | 1 | - | - | 2 | - | - | 2 |
| *Cryptomeria* | スギ属 | 64 | 47 | 67 | 33 | 17 | 25 | 25 | 26 |
| Taxaceae − Cephalotaxaceae − Cupressaceae | イチイ科−イヌガヤ科−ヒノキ科 | 6 | 2 | 6 | 3 | 2 | 3 | - | - |
| *Salix* | ヤナギ属 | - | 1 | 2 | - | 1 | 3 | 4 | 7 |
| *Pterocarya − Juglans* | サワグルミ属−クルミ属 | 6 | 5 | 4 | 5 | 6 | 4 | 13 | 7 |
| *Carpinus − Ostrya* | クマシデ属−アサダ属 | 8 | 14 | 7 | 11 | 10 | 5 | 9 | 8 |
| *Betula* | カバノキ属 | 5 | - | 8 | 3 | - | 2 | 1 | - |
| *Alnus* | ハンノキ属 | 46 | 9 | 44 | 60 | 68 | 70 | 46 | 47 |
| *Fagus* | ブナ属 | 7 | 19 | 18 | 8 | 13 | 10 | 12 | 11 |
| *Quercus subgen. Lepidobalanus* | コナラ属コナラ亜属 | 23 | 17 | 12 | 12 | 32 | 29 | 10 | 15 |
| *Quercus subgen. Cyclobalanopsis* | コナラ属アカガシ亜属 | 13 | 30 | 5 | 12 | 11 | 7 | 26 | 20 |
| *Castanea* | クリ属 | 6 | 5 | 3 | 8 | 2 | 4 | 4 | 2 |
| *Castanopsis − Pasania* | シイノキ属−マテバシイ属 | - | 1 | 1 | - | - | - | - | 3 |
| *Ulmus − Zelkova* | ニレ属−ケヤキ属 | 4 | 13 | 8 | 21 | 9 | 8 | 12 | 6 |
| *Celtis − Aphananthe* | エノキ属−ムクノキ属 | - | 3 | 1 | 1 | 1 | 3 | 1 | 5 |
| *Cercidiphyllum* | カツラ属 | - | - | 1 | - | - | - | - | - |
| *Phellodendron* | キハダ属 | - | - | - | 2 | - | - | - | 1 |
| *Mallotus* | アカメガシワ属 | - | - | - | 1 | 1 | - | 2 | - |
| *Rhus − Toxicodendron* | ヌルデ属−ウルシ属 | - | 1 | - | 1 | - | 1 | 1 | - |
| *Ilex* | モチノキ属 | - | - | - | - | 1 | - | 1 | 1 |
| *Acer* | カエデ属 | - | - | - | - | - | 1 | 1 | - |
| *Aesculus* | トチノキ属 | 8 | 33 | 20 | 24 | 16 | 7 | 20 | 22 |
| Rhamnaceae | クロウメモドキ科 | 1 | - | - | - | 1 | - | 1 | - |
| *Tilia* | シナノキ属 | - | - | - | 1 | - | - | - | - |
| *Camellia* | ツバキ属 | - | - | - | - | 1 | - | - | - |
| *Elaeagnus* | グミ属 | - | - | - | 1 | - | - | - | - |
| Araliaceae | ウコギ科 | 1 | 3 | 1 | 2 | - | 1 | 2 | - |
| *Cornus* | ミズキ属 | - | - | 1 | - | - | - | - | - |
| *Styrax* | エゴノキ属 | - | - | - | - | 1 | - | - | - |
| *Ligustrum* | イボタノキ属 | - | - | - | - | - | 2 | 2 | - |
| *Fraxinus* | トネリコ属 | 2 | 3 | 3 | 3 | 15 | 24 | 27 | 26 |
| *Weigela* | タニウツギ属 | - | - | - | - | 1 | - | - | - |
| 草本 | | | | | | | | | |
| *Typha* | ガマ属 | 11 | 1 | - | - | 1 | 18 | 1 | 2 |
| *Alisma* | サジオモダカ属 | 2 | 1 | - | - | 1 | - | - | - |
| *Sagittaria* | オモダカ属 | 2 | 6 | 2 | - | 1 | - | - | - |
| Gramineae | イネ科 | 59 | 159 | 75 | 38 | 64 | 17 | 24 | 16 |
| Cyperaceae | カヤツリグサ科 | 31 | 48 | 46 | 48 | 11 | 8 | 5 | 11 |
| *Monochoria* | ミズアオイ属 | - | 6 | 3 | - | - | 1 | - | - |
| *Iris* | アヤメ属 | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| Moraceae | クワ科 | - | 3 | 3 | - | 8 | 3 | - | 2 |
| *Polygonum sect. Persicaria − Echinocaulon* | サナエタデ節−ウナギツカミ節 | 1 | 1 | - | - | - | - | - | - |
| Chenopodiaceae − Amaranthaceae | アカザ科−ヒユ科 | - | - | 1 | - | - | - | 1 | - |
| *Nuphar* | コウホネ属 | - | - | - | - | - | - | 1 | - |
| *Nymphaea* | スイレン属 | - | - | - | - | - | - | 1 | - |
| *Thalictrum* | カラマツソウ属 | - | - | - | - | 1 | - | - | - |
| Ranunculaceae | キンポウゲ科 | - | 1 | 1 | 1 | - | - | - | - |
| Brassicaceae | アブラナ科 | - | 2 | - | 2 | - | - | - | - |
| Rosaceae | バラ科 | - | - | - | 1 | - | 2 | 2 | 2 |
| Leguminosae | マメ科 | 1 | 1 | - | 2 | 2 | 2 | 2 | - |
| *Impatiens* | ツリフネソウ属 | - | - | 1 | - | 1 | - | 4 | - |
| Apiaceae | セリ科 | 2 | - | 2 | - | 2 | 1 | - | 2 |
| *Menyanthes* | ミツガシワ属 | - | - | - | - | - | 1 | - | - |
| *Nymphoides* | アサザ属 | 1 | - | - | - | - | - | - | - |
| *Plantago* | オオバコ属 | - | 1 | - | - | - | - | - | - |
| *Actinostemma − Gynostemma* | ゴキヅル属−アマチャヅル属 | - | - | - | - | - | 13 | 3 | 5 |
| *Ambrosia − Xanthium* | ブタクサ属−オナモミ属 | 1 | - | - | - | - | - | - | - |
| *Artemisia* | ヨモギ属 | 5 | 6 | 4 | - | 7 | 5 | 3 | 3 |
| Tubuliflorae | キク亜科 | - | - | - | 1 | - | 1 | - | - |
| シダ植物 | | | | | | | | | |
| monolete type spore | 単条溝胞子 | 5 | 12 | 4 | 26 | 7 | 1 | 8 | 20 |
| trilete type spore | 三条溝胞子 | 4 | 3 | - | 1 | - | - | 3 | 12 |
| Arboreal pollen | 樹木花粉 | 205 | 214 | 216 | 218 | 215 | 210 | 222 | 213 |
| Nonarboreal pollen | 草本花粉 | 116 | 236 | 138 | 93 | 99 | 72 | 47 | 44 |
| Spores | シダ植物胞子 | 9 | 15 | 4 | 27 | 7 | 1 | 11 | 32 |
| Total Pollen & Spores | 花粉・胞子総数 | 330 | 465 | 358 | 338 | 321 | 283 | 280 | 289 |
| Unknown pollen | 不明花粉 | 11 | 6 | 2 | 4 | 7 | 9 | 2 | 8 |

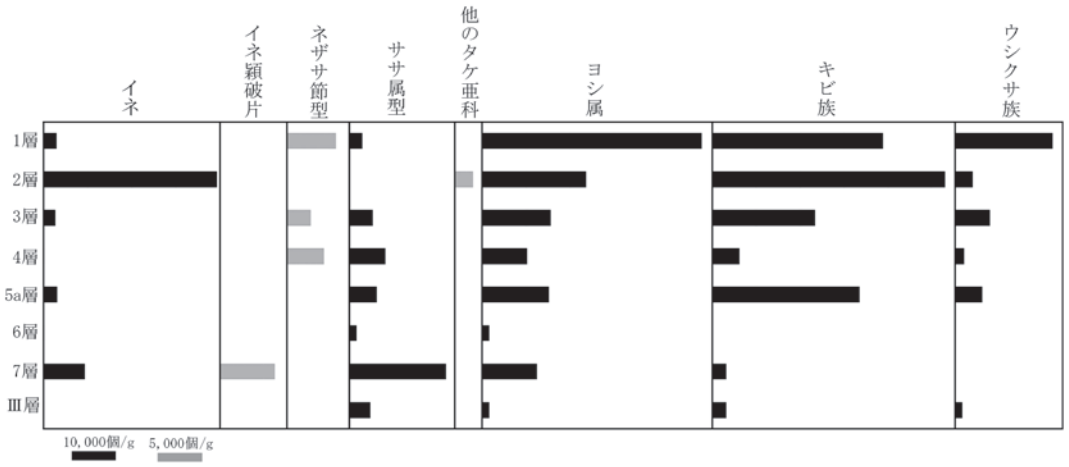
## 第８表　試料1g当りのプラント・オパール個数

| | イネ（個／ｇ） | イネ穎破片（個／ｇ） | ネザサ節型（個／ｇ） | ササ属型（個／ｇ） | 他のタケ亜科（個／ｇ） | ヨシ属（個／ｇ） | キビ族（個／ｇ） | ウシクサ族（個／ｇ） | 棒状珪酸体（個／ｇ） | ポイント型珪酸体（個／ｇ） | イネ型短細胞珪酸体（個／ｇ） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １層 | 2,800 | 0 | 5,500 | 2,800 | 0 | 49,900 | 38,800 | 22,200 | 13,900 | 2,800 | 0 |
| ２層 | 39,300 | 0 | 0 | 0 | 2,000 | 23,600 | 53,000 | 3,900 | 9,800 | 2,000 | 2,000 |
| ３層 | 2,600 | 0 | 2,600 | 5,200 | 0 | 15,600 | 23,300 | 7,800 | 7,800 | 0 | 0 |
| ４層 | 0 | 0 | 4,100 | 8,100 | 0 | 10,100 | 6,100 | 2,000 | 8,100 | 0 | 0 |
| 5a 層 | 3,000 | 0 | 0 | 6,100 | 0 | 15,200 | 33,400 | 6,100 | 12,100 | 0 | 0 |
| ６層 | 0 | 0 | 0 | 1,500 | 0 | 1,500 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ７層 | 9,300 | 6,200 | 0 | 21,800 | 0 | 12,400 | 3,100 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Ⅲ層 | 0 | 0 | 0 | 4,700 | 0 | 1,600 | 3,100 | 1,600 | 0 | 0 | 0 |

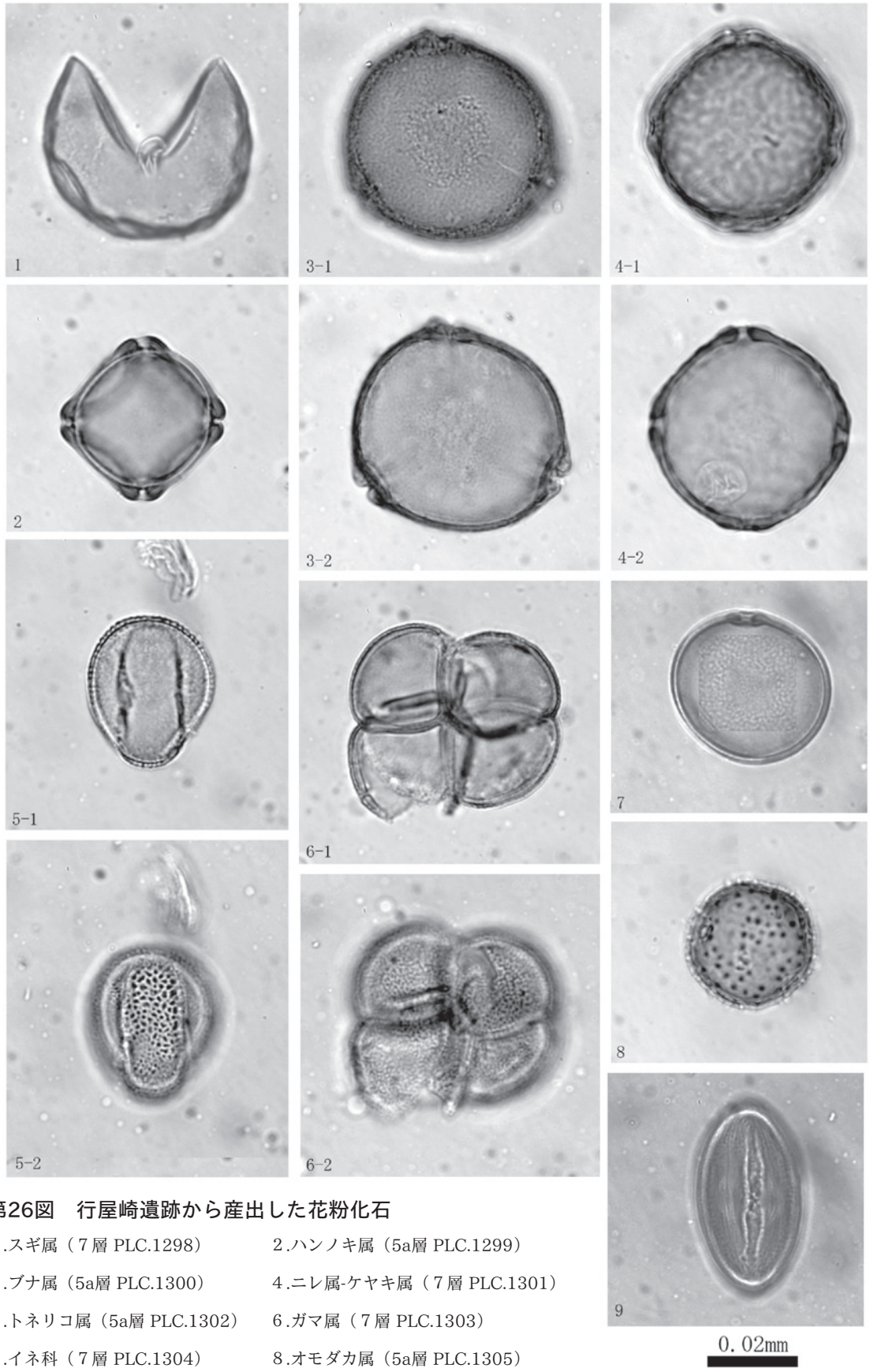



第24図　行屋崎遺跡における花粉分布図

樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・胞子は産出花粉胞子総数を基数として百分率で産出した。




第25図　行屋崎遺跡における植物珪酸体分布図




**第26図　行屋崎遺跡から産出した花粉化石**

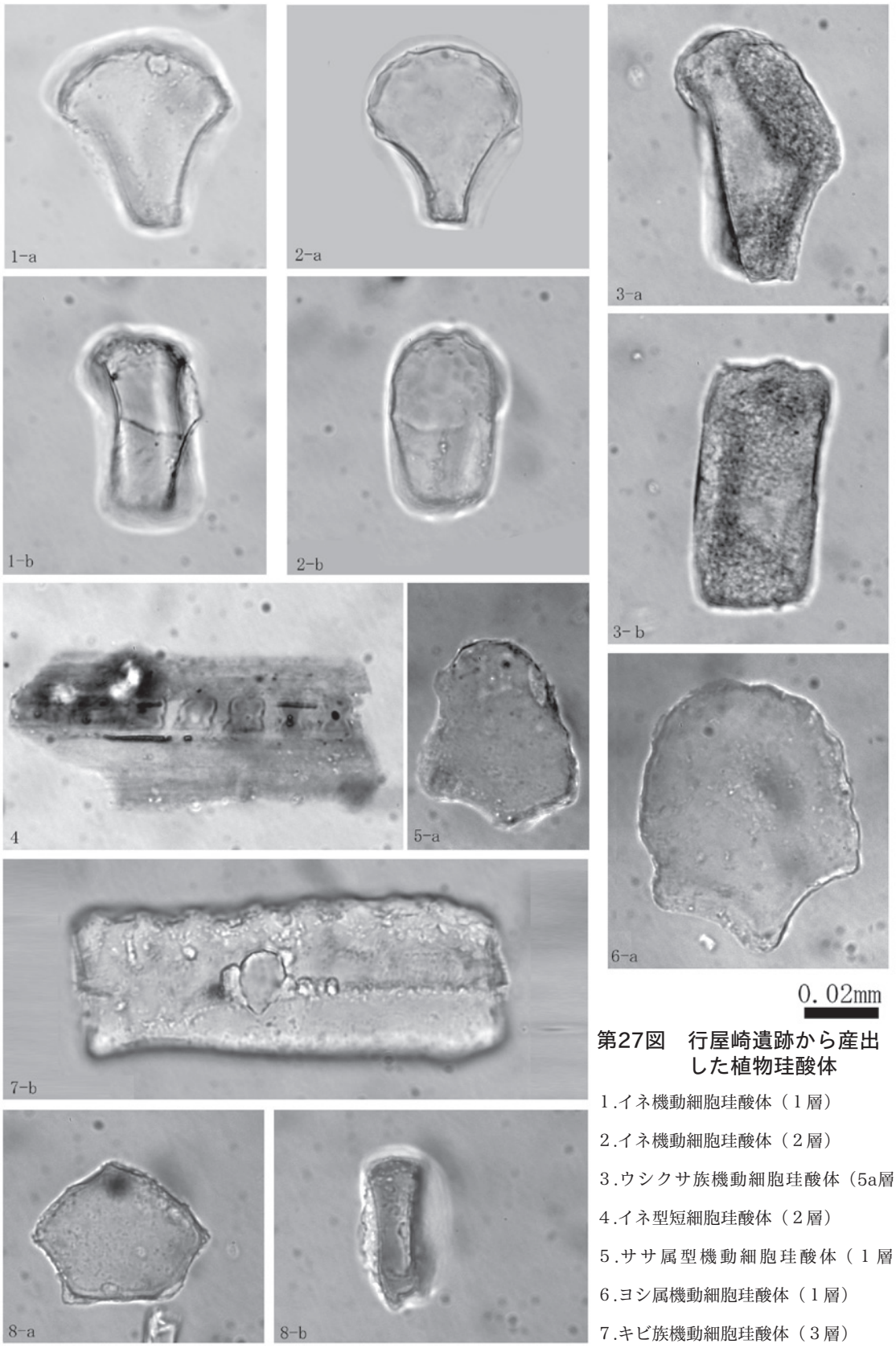
1.スギ属（７層 PLC.1298）　2.ハンノキ属（5a層 PLC.1299）

3.ブナ属（5a層 PLC.1300）　4.ニレ属-ケヤキ属（７層 PLC.1301）

5.トネリコ属（5a層 PLC.1302）　6.ガマ属（７層 PLC.1303）

7.イネ科（７層 PLC.1304）　8.オモダカ属（5a層 PLC.1305）

9.ゴキヅル属-アマチャヅル属（７層 PLC.1306）




**第27図　行屋崎遺跡から産出した植物珪酸体**

1.イネ機動細胞珪酸体（1層）

2.イネ機動細胞珪酸体（2層）

3.ウシクサ族機動細胞珪酸体（5a層）

4.イネ型短細胞珪酸体（2層）

5.ササ属型機動細胞珪酸体（1層）

6.ヨシ属機動細胞珪酸体（1層）

7.キビ族機動細胞珪酸体（3層）

8.ササ属型機動細胞珪酸体（5a層）

a：断面　b：側面

# 第４節　出土大型植物遺体

佐々木由香・バンダリ スダルシャン（パレオ・ラボ）

## １　はじめに

行屋崎遺跡は、飛鳥時代（７世紀後半）と平安時代前期（９世紀代）の集落遺跡である。ここでは、旧河川流路跡から出土した大型植物遺体の同定を行い、食用などに利用された種実や周辺の植生について検討した。

## ２　試料と方法

試料は、五社川の旧河川流路跡であるSR400の最下層である７層から目視で回収された大型植物遺体数十試料である。７層からは、７世紀後半に比定される土器が出土している。

大型植物遺体の抽出・同定・計数は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても１個体とみなせるものは完形として数え、１個体に満たないものは破片とした。同定された試料は、田上町教育委員会に保管されている。

## ３　結果

同定した結果、木本植物では広葉樹のオニグルミ核と、クリ果実、ブナ殻斗、ミズナラ殻斗・殻斗付果実、ミズナラ－ナラガシワ幼果、コナラ属アカガシ亜属幼果、モモ核、スモモ核、トチノキ未熟果･種子、エゴノキ核の10分類群、草本植物ではオニバス種子とコウホネ種子、ヒシ属果実の3分類群の、計13分類群が見いだされた。この他に、サルノコシカケ類と菌類の子実体がみられた。同定結果を第９表に示す。

産出数は、コウホネとトチノキが比較的多かったが、この他の分類群は産出数が10点以下であった。オニグルミは、ネズミ類の動物食痕をもつ個体が1点、人為的な打撃痕をもつ個体が１点、半割が３点得られた。

次に、大型植物遺体の記載を行い、第28図に写真を示して同定の根拠とする。

（１）オニグルミ　*Juglans mandshurica* Maxim. var. *sieboldiana*（Maxim.）Makino

核　クルミ科

黄褐色で、壁は緻密で硬く、ときどき空隙がある。上面観は両凸レンズ形、側面観は広卵形。表面に縦方向の縫合線があり、浅い溝と凸凹が不規則に入る。また、微細な皺がある。計測可能な４点の大きさは、高さ27.7 ～ 36.1（平均29.4±3.9）㎜、

**第９表　出土した大型植物遺体（括弧内は破片数）**

| | 遺構名 | SR400 |
|---|---|---|
| | 遺構 | 旧河川流路跡 |
| | 層位 | ７層 |
| 分類群 | 時期 | ７世紀後半 |
| オニグルミ | 核（動物食痕） | 1 |
| | 核（打撃痕） | （1） |
| | 核（半割） | （3） |
| クリ | 果実 | 1 |
| ブナ | 殻斗 | 5 |
| ミズナラ | 殻斗 | 2 |
| | 殻斗付果実 | 1 |
| ミズナラ－ナラガシワ | 幼果 | 2 |
| コナラ属アカガシ亜属 | 幼果 | 1 |
| モモ | 核 | 4 |
| スモモ | 核 | 2 |
| トチノキ | 未熟果 | 8（1） |
| | 種子 | 4 |
| エゴノキ | 核 | 6 |
| オニバス | 種子 | 7 |
| コウホネ | 種子 | 5（10） |
| ヒシ属 | 果実 | （4） |
| サルノコシカケ類 | 子実体 | 1 |
| 菌類 | 子実体 | 1 |

幅25.5 ～ 26.5（平均25.9±0.5）㎜。

（２）クリ　*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.　果実　ブナ科

黒褐色～黒色で、光沢がある。完形ならば広卵形。断面は薄く湾曲しているため、「しいな」か。表面は平滑で、細く浅い縦方向の筋が密にみられる。殻斗着痕は果実幅と同じ程度に幅広で、不規則で微細な丘状の突起が密にある。残存高16.9㎜、幅20.㎜、厚さ13.6㎜。

（３）ブナ　*Fagus crenata* Blume　殻斗　ブナ科

暗褐色で、楕円体。割れると同じ大きさの４片の殻斗片に分かれる。裂片は高さ10㎜以上で柄は短い。裂片上部には太い鱗片の痕が目立つ。高さ21.7㎜、幅16.0㎜。

（4）ミズナラ　*Quercus crispula* Blume　殻斗・殻斗付果実　ブナ科

暗褐色で、殻斗の表面は広卵形の燐片で覆われる。鱗片基部はふくらみがある。形状はコナラよりも深く、ナラガシワよりは深い椀状。殻斗の先端が直立し、壁が薄い。高さ14.8㎜、幅20.2㎜。殻斗付果実は、殻斗内部に暗褐色の未熟果があり、未熟果の頂部は失われている。残存高18.7㎜、幅18.2㎜。

（5）ミズナラ－ナラガシワ　*Quercus crispula* Blume – *Q. aliena* Blume　幼果　ブナ科

暗褐色で、広椀形。表面は広卵形の燐片で覆われる。鱗片基部はふくらみがあり、壁は厚い。殻斗が小さく、ミズナラかナラガシワかの同定には至らなかった。高さ7.3㎜、幅11.2㎜。

（6）コナラ属アカガシ亜属　*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*　幼果　ブナ科

褐灰色で、深い椀形。鱗片は輪状。単体で産出する。太い柱頭を持つ果実が穀斗の内部にあるため、イチイガシ以外のアカガシ亜属である。高さ7.5㎜、幅6.9㎜。

（7）モモ　*Amygdalus persica* L.　核　バラ科

黄褐色～茶褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形で先が尖る。下端に大きな着点がある。表面には不規則な深い皺があり、片側側面には縫合線に沿って深い溝が入る。産出した4点の大きさは、長さ21.8 ～ 22.6（平均22.3±0.4）㎜、幅18.8 ～ 21.3（平均20.4±1.1）㎜、厚さ15.2 ～ 17.5（平均16.3±0.9）㎜。

（8）スモモ　*Prunus salicina* Lindl.　核　バラ科

赤褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は紡錘形。縫合線に沿ってやや深い溝が入る。表面は平滑だが、臍付近に縦方向の不規則な皺がある。長さ15.3㎜、幅11.0㎜、厚さ7.6㎜。

（9）トチノキ　*Aesculus turbinata* Blume　未熟果・種子　トチノキ科

未熟果は暗褐色で、上面観はいびつな円形、側面観は円形。表面はざらつく。中央先端がわずかに突出する。3片に分かれる構造をもつ。長さ23.0㎜、幅16.2㎜。種子は、ゆがんだ楕円形。下半部は暗褐色で光沢がなく、上半部は黒褐色で光沢がややある。上下の境目の下に少し突出した着点がある。種皮は薄くやや硬い。種皮は3層からなり、各層で細胞の配列方向が異なる。種皮表面には指紋状の微細模様が密にある。長さ29.9㎜、幅37.5㎜、厚さ33.2㎜。

（10）エゴノキ　*Styrax japonica* Siebold et Zucc.　核　エゴノキ科

暗褐色で、上面観は円形、側面観は倒卵形になる。下端に黄褐色の大きな着点がある。頂部から3本の浅い溝が走る。壁は厚く硬い。長さ10.9㎜、幅6.9㎜。

（11）オニバス　*Euryale ferox* Salisb.　種子　スイレン科

黒褐色で、球形。一端に楕円形の発芽口（臍）があり、その横に円形の珠孔がある。表面に独特の顆粒状突起が網目状に配列する。なお、表面の顆粒状突起がめくれると、その下には、蜂の巣状の網目紋が配

列する。これは、オニバスの厚い壁面の最外層が柵状となっているためである。長さ12.4㎜、幅11.8㎜。

（12）コウホネ　*Nuphar japonica* DC.　種子　スイレン科

黒褐色で、ゆがんだ倒卵形。一端に円形の臍がある。表面は平滑で光沢がある。臍の隣に珠孔があり、そこから低い稜線が種子中部まで縦に走る。長さ5.0㎜、幅3.4㎜。

（13）ヒシ属　*Trapa* sp.　果実　ヒシ科

茶褐色で、不整三角形。細く先端が尖った角が２方向にのびる。上位角は太く鋭い。長さ13.8㎜、残存幅13.6㎜、厚さ10.1㎜。

（14）サルノコシカケ類　Polyporaceae　子実体

明褐色で、いわゆる「サルノコシカケ」型の大型･硬質の子実体（きのこ）を形成する。柔らかな肉質。孔口は不明瞭。残存長56.1㎜、残存幅46.3㎜。

（14）菌類　Spore　子実体

上面観は円形で､中央部がやや凹む。側面観は低いドーム型。表面はざらつく。幅13.4mm､厚さ7.2mm。

## ４　考察

旧河川流路跡であるSR400の最下層である７層（７世紀後半）から、栽培植物としてはモモとスモモが得られた。出土遺物から、遺構の用途として律令祭祀的な性格が考えられており、モモやスモモが祭祀に伴って利用された可能性もある。

また、食用可能な種実としては、オニグルミとクリ、ブナ、ミズナラ、ミズナラ－ナラガシワ、コナラ属アカガシ亜属、トチノキ、ヒシ属が得られた。このうち、確実に利用された痕跡をもつ種類は、打撃痕をもつ個体がみられたオニグルミのみであった。クリは形状から判断すると「しいな」とみられ、しいな以外は利用された可能性がある。ブナやミズナラ、ミズナラ－ナラガシワ、コナラ属アカガシ亜属は、利用できない殻斗や幼果であり、流路周辺に生育していた樹木から落下したと考えられる。流路は、護摩堂山の山裾から信濃川へ流下する五社川の旧河川と考えられている。遺跡は海抜4m前後の低地に立地するため、比較的標高が高い場所に生育するブナやミズナラは、護摩堂山周辺に生育していて、そこから遺跡周辺に流れてきた可能性がある。また、止水域に生育するオニバスやコウホネ、ヒシ属が産出しており、7層の堆積時には池のような水溜まりがあったと推定される。

他に、サルノコシカケ類がわずかにみられた。サルノコシカケ類は樹木に寄生する腐朽病害菌であり、種類によって宿主が異なる。ある程度大型であるため、遺跡内あるいは周辺に生育していた樹木に寄生していたと考えられる。

調査時には､コンテナ約4箱分の種実が取り上げられており､90％をトチノキ､７％をオニグルミとモモ、３％を他の種実が占めていた。今回検討した試料中のトチノキは、未熟果と完形の種子で、利用された痕跡は見いだされなかった。トチノキは河畔林に生育する樹種であり、流路のごく近くに生育していたと考えられる。また調査時にサルノコシカケ類が３点確認されているため、今回検討した試料から産出した1点を含めると4点出土している。今回産出した１点は状態が悪く同定に至らなかったが、サルノコシカケ類も種の同定をおこなうと、周辺の植生をより詳細に解析可能である。

旧河川流路跡の７層は、多量の種実や木材を含む層であり、堆積物に含まれる微小な種実も合わせて検討すれば、当時の栽培状況や植生がより明らかになると期待される。

## 第10表　出土グリッドごとの大型植物遺体（括弧内は破片数）

| | | グリッド | 15A04 | 15A05 | 15C01 | 15C06 | 15C11 | 15C12 | C-15-12 | 15C15 | - |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 遺構 | | | | | SR400 | | | | |
| | | 層位 | | | | | 7 層 | | | | |
| 分類群 | | 時期 | | | | 7 世紀後半～ 8 世紀初頭 | | | | | |
| オニグルミ | 核 ( 動物食痕 ) | | | | | | | 1 | | | |
| | 核 ( 打撃痕 ) | | | | | | | (1) | | | |
| | 核 ( 半割 ) | | | | | | | (3) | | | |
| クリ | 果実 | | | | | 1 | | | | | |
| ブナ | 殻斗 | | 5 | | | | | | | | |
| ミズナラ | 殻斗 | | | | | 2 | | | | | |
| | 殻斗付果実 | | | | | 1 | | | | | |
| ミズナラ－ナラガシワ | 幼果 | | | | | 2 | | | | | |
| コナラ属アカガシ亜属 | 幼果 | | | | | 1 | | | | | |
| モモ | 核 | | | | | | | | | | 4 |
| スモモ | 核 | | | 2 | | | | | | | |
| トチノキ | 未熟果 | | | | | 5 | 3 | | | (1) | |
| | 種子 | | | | | | 4 | | | | |
| エゴノキ | 核 | | | | | | | 6 | | | |
| オニバス | 種子 | | | | 7 | | | | | | |
| コウホネ | 種子 | | | | | | | | 5 (10) | | |
| ヒシ属 | 果実 | | | | (4) | | | | | | |
| サルノコシカケ類 | 子実体 | | | | | | 1 | | | | |
| 菌類 | 子実体 | | | | | 1 | | | | | |

スケール 1-15,17-19:5mm,16:1mm

**第28図　行屋崎遺跡から出土した大型植物遺体**

１．オニグルミ核（動物食痕）、２．オニグルミ核（打撃痕）、３．オニグルミ核（半割）、４．クリ果実、５．ブナ殻斗、６．ミズナラ殻斗、７．ミズナラ殻斗付果実、８．ミズナラ－ナラガシワ幼果、９．コナラ属アカガシ亜属幼果、10．モモ核、11．スモモ核、12．トチノキ未熟果、13．トチノキ種子、14．エゴノキ核、15．オニバス種子、16．コウホネ種子、17．ヒシ属果実、18．サルノコシカケ類子実体、19．菌類子実体

# 第５節　出土木材の樹種同定

小林克也（パレオ・ラボ）

## １　はじめに

田上町湯川字行屋崎地内に位置する行屋崎遺跡では、出土した木材の樹種同定を行なった。

## ２　試料と方法

試料は、グリッド15B17の旧河川跡から出土した木材１点である。旧河川跡からは、7世紀後半の遺物が出土している。

樹種同定では、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリで薄い切片を切り出し、ガムクロラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行なった。

## ３　結果

同定の結果、試料は広葉樹樹皮であった。同定結果を第11表に示す。

次に、同定された材の特徴を記載し、図版に光学顕微鏡写真を示す。

**第11表　出土木材の樹種同定結果**

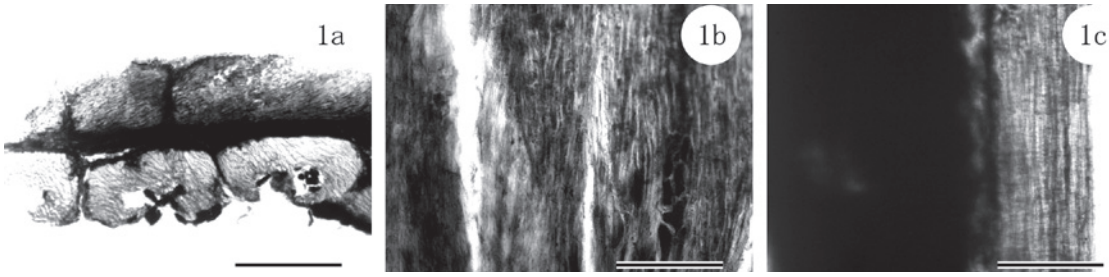
| 試料 No. | グリッド | 出土遺構 | 樹種 |
|---|---|---|---|
| 1 | 15B17 | 旧河川 | 広葉樹樹皮 |

（１）広葉樹樹　Broadleaf-wood Bark　第29図　1a-1c（No.1）

師管要素と放射組織で構成される広葉樹の樹皮である。放射組織は単列である。対象標本が少なく、同定には至っていない。

## ４　考察

試料は、広葉樹の樹皮であった。樹皮は対照標本が少ないことから、詳細な同定が行えなかった。試料の肉眼観察では加工痕等は確認できないため、自然木であった可能性が高い。７世紀後半の行屋崎遺跡近辺では広葉樹が生育していたと考えられるが、どの様な樹種が成育しているか、などは確認できなかった。




**第29図　行屋崎遺跡出土木材の光学顕微鏡写真**　1a-1c.広葉樹樹皮（No.1）

a : 横断面（スケール=500 μm）、b : 接線断面（スケール=200 μm）、c : 放射断面（スケール=200 μm）

# 第６節　旧河川流路SR400の5b層中のシルト

藤根　久（パレオ・ラボ）

## １　はじめに

行屋崎遺跡は、田上町湯川地内の護摩堂山地と信濃川に挟まれた沖積低地に立地する。調査では、飛鳥時代～奈良時代（７世紀後半）と平安時代前期（９世紀代）の建物跡、土器、木製品が多数発見された。旧五社川の流路だったと思われる場所では、大型の槽、板材、加工途中の鋤、銅製の鈴、木製の食器や曲物などが検出された。

ここでは、流路SR400の5b層において灰オリーブ色のシルト層が検出され、テフラの可能性が指摘されたことから、テフラについて検討した。5b層の時期は、上位の5a層や下位の７層から出土した土器から、飛鳥時代（７世紀後半）と考えられる。

## ２　試料と方法

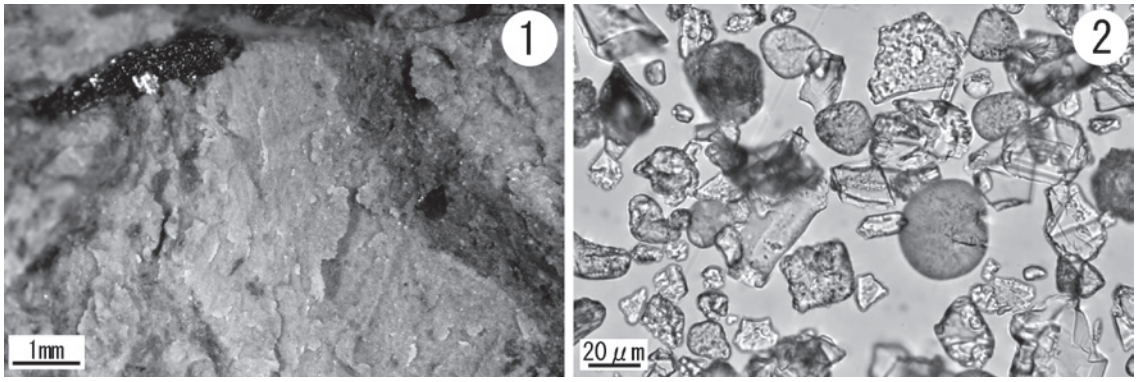
試料は、5b層の灰オリーブ色（5Y4/2）泥炭混じりシルトである（第30図）。このシルト層は、厚さ0.5～1.5㎜程度である。分析は、シルト部分を約8g程度採取し、トールビーカーに入れて水を加え、超音波洗浄機を用いて分散した。30分程度してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てた。この作業を５回ほど繰り返してシルト分を回収した。

シルト分は、スポイトで採取し、スライドグラスに展開して顕微鏡で観察した。

## ３　結果

顕微鏡で観察した結果、火山ガラスは非常に少なく、石英、長石類、珪藻化石殻、プラント･オパール、骨針化石、黄色粒子などが見られた（第30図2）。

観察した結果から、5b層のシルト層は、テフラではなく、基盤層などのシルト分が二次的に堆積した可能性が考えられる。なお、少量含まれる火山ガラスは、この基盤層中に含まれている火山ガラスと考えられる。




**第30図　旧河川流路SR400の5b層中のシルト**

１.平面の実体顕微鏡写真　２.シルト分の顕微鏡写真

# 第７節　出土木製品・加工木の樹種同定

黒沼保子・バンダリ スダルシャン（パレオ・ラボ）

## １　はじめに

南蒲原郡田上町に所在する行屋崎遺跡から出土した木製品および植物遺体について、樹種同定を行った。

## ２　試料と方法

試料は、掘立柱建物SB131、SB198、SB511から出土した柱材が4点と、五社川旧河川流路SR400から出土した77点の木製品および加工木計81点と、五社川旧河川流路SR400から大量に出土した植物遺体（サルノコシカケ類）のうちの2点である。発掘時の所見から、遺構の時期はいずれも飛鳥・奈良時代から平安時代前期と推測されている。

木製品および加工木は、剃刀を用いて３断面（横断面・接線断面・放射断面）の切片を採取し、ガムクロラールで封入してプレパラートを作製した。これを光学顕微鏡で観察し、写真撮影を行った。

植物遺体は肉眼観察および実体顕微鏡で観察し、写真撮影を行った。

## ３　結果

樹種同定の結果、針葉樹ではスギ、イヌガヤ、カヤの３分類群、広葉樹ではオニグルミ、アサダ、スダジイ、コナラ属アカガシ亜属（以下、アカガシ亜属）、コナラ属コナラ節（以下、コナラ節）、ケヤキ、クスノキ科、カツラ、ツバキ属、ナシ亜科、サクラ属、ユズリハ属、キハダ、カエデ属、トチノキ、ケンポナシ属、クマノミズキ類、タラノキ、エゴノキ属、トネリコ属シオジ節（以下、シオジ節）の20分類群、計23分類群が確認された。

植物遺体（サルノコシカケ類）は、コフキサルノコシカケであった。

結果の一覧を木製品観察表の樹種欄、遺構別の樹種構成を第12表に示す。

遺構別では、掘立柱建物のSB131でオニグルミとシオジ節、SB198でコナラ節、SB511でサクラ属が確認された。旧河川流路SR400では、イヌガヤとスギ、カヤが多く、その他にケヤキ、シオジ節、アサダ、ツバキ属、カツラ、ケンポナシ属、スダジイ、アカガシ亜属、クスノキ科、ナシ亜科、ユズリハ属、キハダ、カエデ属、トチノキ、クマノミズキ類、タラノキ、エゴノキ属と、コフキサルノコシカケが確認された。

以下に、同定根拠となった木材組織および植物遺体の特徴を記載し、光学顕微鏡写真と試料写真を図版に示す。

**第12表　遺構別の樹種構成**

| 分類群／遺構 | SB131 | SB198 | SB511 | SR400 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| スギ | | | | 18 | 18 |
| イヌガヤ | | | | 19 | 19 |
| カヤ | | | | 10 | 10 |
| オニグルミ | 1 | | | | 1 |
| アサダ | | | | 3 | 3 |
| スジダイ | | | | 1 | 1 |
| コナラ属アカガシ亜科 | | | | 1 | 1 |
| コナラ属コナラ節 | | 1 | | | 1 |
| ケヤキ | | | | 5 | 5 |
| クスノキ科 | | | | 1 | 1 |
| カツラ | | | | 2 | 2 |
| ツバキ属 | | | | 3 | 3 |
| ナシ亜科 | | | | 1 | 1 |
| サクラ属 | | | 1 | | 1 |
| ユズリハ属 | | | | 1 | 1 |
| キハダ | | | | 1 | 1 |
| カエデ属 | | | | 1 | 1 |
| トチノキ | | | | 1 | 1 |
| ケンポナシ属 | | | | 2 | 2 |
| クマノミズキ類 | | | | 1 | 1 |
| タラノキ | | | | 1 | 1 |
| エゴノキ属 | | | | 1 | 1 |
| トネリコ属シオジ節 | 1 | | | 4 | 5 |
| コフキサルノコシカケ | | | | 2 | 2 |
| 計 | 2 | 1 | 1 | 79 | 83 |

（１）スギ　*Cryptomeria japonica* (L.f.) D.Don　スギ科　第31図　1a-1c（No.12）

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急である。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔は大型のスギ型で、1分野に通常2個並ぶ。

スギは暖帯から温帯下部に生育する常緑高木である。材は比較的軽軟で、切削加工は容易であり、割裂性は大きい。

（２）イヌガヤ　*Cephalotaxus harringtonia* (Knight ex Forbes) K. Koch　イヌガヤ科　第31図　2a-2c（No.17）

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。仮道管は薄壁で、晩材部の幅は非常に狭い。樹脂細胞は早材～晩材を通じて均等に分布する。放射組織は単列で２～５細胞高、分野壁孔はトウヒ型で1分野に1～2個存在する。仮道管にらせん肥厚がある。

イヌガヤは岩手県以南の暖帯から温帯に生育する常緑の低木または小高木である。材は堅硬および緻密である。

（３）カヤ　*Torreya nucifera* (L.) Siebold et Zucc.　イチイ科　第31図　3a-3c（No.47）

仮道管と放射組織からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭い。仮道管壁に２本対のらせん肥厚がある。分野壁孔はヒノキ型で、１分野に４個程度存在する。

カヤは宮城県以南の温帯から暖帯に分布する常緑高木である。材は木理直通で緻密であり、弾性および耐久力が強く、水湿にも強い。

（４）オニグルミ　*Juglans mandshurica* Maxim. var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino　クルミ科　第31図　4a-4c（No.81）

やや大型の道管が、単独もしくは放射方向に数個複合して散在し、晩材部で径を減ずる半環孔材である。軸方向柔組織は線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織はほぼ同性で、１～４列幅である。

オニグルミは温帯～暖帯に分布する落葉高木で、川沿いなど湿気の多いところに生育する。材の重さおよび硬さは中庸で保存性はあまりないが、粘りがあり、狂いが少なく加工容易である。

（５）アサダ　*Ostrya japonica* Sarg.　カバノキ科　第31図　5a-5c（No.3）

径が中型の道管が、単独あるいは放射方向に数個複合して、ややまばらに分布する散孔材である。軸方向柔組織は短接線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、１～４列幅である。

アサダは温帯の山地に生育する落葉高木である。材は極めて重硬であり、切削加工および割裂は困難である。

（６）スダジイ　*Castanopsis sieboldii* (Makino) Hatus. ex T.Yamaz. et Mashiba　ブナ科　第31・32図　6a-6c（No.25）

環孔性の放射孔材で、年輪のはじめの道管は単独でやや大きいが、接線方向に連続しない。晩材部では徐々に径を減じた小型で薄壁の小道管が集団をなして火炎状に配列する。道管の穿孔は単一である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。放射組織は単列同性である。

スダジイは福島県と新潟県佐渡以南の暖帯に生育する常緑高木である。材はやや重硬で、割裂性や耐朽性は中庸だが、狂いが出やすい。

（７）コナラ属アカガシ亜属　*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*　ブナ科　第32図　7a-7c（No.11）

円形でやや大型の道管が、単独で放射方向に配列する放射孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織がある。

アカガシ亜属は主に暖帯に分布する常緑高木で、アカガシやシラカシ、ツクバネガシ、アラカシなど8種がある。イチイガシ以外は木材組織からは識別困難なため、イチイガシを除いたアカガシ亜属とする。材は、きわめて堅硬および強靱で、水湿に強い。

（８）コナラ属コナラ節　*Quercus* sect. *Prinus*　ブナ科　第32図　8a-8c（No.82）

大型の道管が年輪のはじめに1列程度並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の２種類がある。

コナラ節は温帯下部および暖帯に分布する落葉高木で、カシワとミズナラ、コナラ、ナラガシワがある。材は全体的に重硬で、加工困難である。

（９）ケヤキ　*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino　ニレ科　第32図　9a-9c（No.41）

大型の道管が年輪のはじめに１列に並び、晩材部では小道管が集団をなして接線状から斜線状に配列する環孔材である。道管の穿孔は単一で、小道管にはらせん肥厚がみられる。放射組織は３～５列幅程度の異性で、上下端の細胞に大きな結晶をもつ。

ケヤキは暖帯下部に分布する落葉高木で、肥沃地や渓畔によく生育する。材は重硬だが、加工はそれほど困難ではなく、保存性が高い。

（10）クスノキ科　Lauraceae　第32図　10a-10c（No.74）

やや小型の道管が、単独ないし２～４個複合してまばらに分布する散孔材である。軸方向柔組織は周囲状～翼状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は異性で、１～３列幅である。

クスノキ科は熱帯から温帯に分布する常緑または落葉の高木もしくは低木である。ニッケイ属やタブノキ属、クロモジ属など８属がある。

（11）カツラ　*Cercidiphyllum japonicum* Siebold et Zucc. ex Hoffm. et Schult.　カツラ科　第32・33図　11a-11c（No.85）

小型で角張った道管が、ほぼ単独で密に分布する散孔材である。道管の穿孔は階段状で、30段程度となる。放射組織は１～３列幅で、平伏細胞と方形細胞からなる異性である。

カツラは温帯から暖帯に分布する落葉高木である。材は軽軟で靱性があり、加工は容易である。

（12）ツバキ属　*Camellia*　ツバキ科　第33図　12a-12c（No.75）

小径の道管がほぼ単独で密に分布する散孔材で、晩材に向けてやや道管径を減じる。道管の穿孔は10段程度の横棒からなる階段状である。放射組織は方形もしくは直立細胞が上下に２～４細胞連なる異性で、１～３列幅程度、多列部が単列部と同じ大きさである。円形に著しくふくれた大型の結晶が単列部に認められる。

ツバキ属は温帯から暖帯に生育する常緑高木もしくは低木である。ヤブツバキやサザンカ、チャノキなどがある。材は重硬および緻密で、切削加工および割裂は困難であるが、強靱で耐朽性は大きい。

（13）ナシ亜科　*Subfam. Maloideae*　バラ科　第33図　13a-13c（No.9）

小型の道管が、ほぼ単独で均等に分布する散孔材である。軸方向柔組織が短線状となる。道管の穿孔は単一である。軸方向柔組織および放射組織中に大型の結晶が連なる。放射組織は異性で、１～２列幅となる。

ナシ亜科にはサンザシ属やビワ属、カナメモチ属、ナナカマド属、リンゴ属など12の属が存在する。

（14）サクラ属（広義）　*Prunus* s.l.　バラ科　第33図　14a-14c（No.83）

やや小型の道管が、単独あるいは斜め方向に２～３個複合する散孔材である。道管の穿孔は単一で、内

壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、１～５列幅である。

サクラ属は温帯に生育する落葉または常緑の高木または低木である。サクラ属はさらにサクラ亜属やスモモ亜属、モモ亜属、ウワズミザクラ亜属などに分類され、25種がある。木材組織からはモモとバクチノキ以外は識別困難なため、この２種を除いたサクラ属とする。材は比較的重硬および緻密だが、加工容易である。

（15）ユズリハ属　*Daphniphyllum*　ユズリハ科　第33図　15a-15c（No.31）

小型で角張った道管が、ほぼ単独で均等に分布する散孔材である。年輪界はやや不明瞭である。道管の穿孔は20～40段程度の階段状となる。軸方向柔組織は短接線状となる。放射組織は異性で、１～３列幅である。

ユズリハ属は温帯～亜熱帯に生育する常緑の高木または低木で、ユズリハやエゾユズリハ、ヒメユズリハなどがある。材はやや重硬である。

（16）キハダ　*Phellodendron amurense* Pupr.　ミカン科　第33図　16a-16c（No.60）

大型で丸い道管が早材部に配列し、晩材ではごく小型で薄壁の小道管が集団をなして帯状～斜線状に配列する環孔材である。道管に赤褐色の樹脂が見られ、穿孔は単一である。放射組織はほぼ同性、１～6列幅できれいな紡錘形となる。

キハダは温帯に分布する落葉高木である。材はやや軽軟で加工容易だが、水湿に強い。

（17）カエデ属　*Acer*　カエデ科　第34図　17a-17c（No.73）

径が中型の道管が、単独もしくは放射方向に数個複合して分布する散孔材である。横断面において木部繊維の壁厚の違いによる雲紋状の模様がみられる。道管の穿孔は単一で、道管壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織はほぼ同性で、１～６列幅である。

カエデ属は主に温帯に分布する落葉高木で、オオモミジやハウチワカエデ、イタヤカエデなど26種がある。材は全体的に緻密で靭性がある。

（18）トチノキ　*Aesculus turbinata* Blume　トチノキ科　第34図　18a-18c（No.4-2）

やや小型の道管が、単独もしくは放射方向に数個複合して均等に分布する散孔材である。道管の穿孔は単一である。放射組織は単列で、すべて平伏細胞で構成される同性である。接線断面において放射組織は層界状に配列する。

トチノキは温帯から暖帯に分布する落葉高木で、やや湿り気のある肥沃な土地の深い谷間や中腹の緩傾斜地によく生育する。材は柔らかく緻密であるが、保存性は低い。

（19）ケンポナシ属　*Hovenia*　クロウメモドキ科　第34図　19a-19c（No.14）

やや大型の道管が年輪のはじめに配列し、晩材部では厚壁で小型の道管が単独もしくは２～３個複合して散在する環孔材である。道管の穿孔は単一である。放射組織は異性で、１～３列幅である。

ケンポナシ属は温帯から暖帯に分布する落葉高木で、ケンポナシとケケンポナシの２種がある。材は重さと堅さが中庸で、切削加工は容易で狂いや割れは少ない。

（20）クマノミズキ類　*Swida* cf. *macrophylla* (Wall.) Soják　ミズキ科　第34図　20a-20c（No.8）

やや小型で丸い道管が、単独で分布する散孔材である。道管の穿孔は20段程度の階段状である。放射組織は３～４列幅で、縁辺部に方形もしくは直立細胞が２～４細胞ある異性である。以上の特徴からクマノミズキかヤマボウシと思われるが、これ以上の同定は困難であるため、クマノミズキ類とした。

クマノミズキおよびヤマボウシは温帯から暖帯に分布する落葉中高木である。材はやや硬いが、一般に

加工は容易である。

（21）タラノキ　*Aralia elata (Miq.)* Seem.　ウコギ科　第34図　21a-21c（No.4-1）

年輪のはじめにやや大型の道管が数列並び、晩材部では小道管が単独もしくは数個複合して接線状に配列する環孔材である。道管の穿孔は単一である。放射組織は３～５列幅の異性で、不完全な鞘細胞がみられる。

タラノキは温帯から暖帯に分布する落葉低木である。材の強度は中庸である。

（22）エゴノキ属　*Styrax*　エゴノキ科　第34・35図　22a-22c（No.1-2）

小型の道管が、放射方向に数個複合して分布する散孔材で、晩材部で道管が小型になり、数も減る。軸方向柔組織は短接線状となる。道管の穿孔は10段程度の階段状である。放射組織は１～４列幅で、異性である。

エゴノキ属は温帯から熱帯にかけて分布する落葉小高木で、エゴノキやハクウンボク、コハクウンボクの3種がある。材はやや重硬で緻密である。

（23）トネリコ属シオジ節　*Fraxinus* sect. *Fraxinaster*　モクセイ科　第35図　23a-23c（No.27）

年輪のはじめに大型の道管が数列並ぶ環孔材で、晩材部では厚壁の小道管が単独もしくは放射方向に２～３個複合して散在する。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、１～３列幅である。

シオジ節は温帯に分布する落葉高木で、シオジとヤチダモがある。材はやや重硬で粘りがあり、加工性および保存性は中庸である。

（24）コフキサルノコシカケ　*Ganoderma applanatum*　マンネンタケ科　第35図　24（No.86）、25（No.87）

「サルノコシカケ」型の大型および硬質の子実体（きのこ）を形成する。顕微鏡下で、無色の外壁と、褐色で突起を帯びた内壁の2重構造をもつように見える、マンネンタケ型の胞子を持つ。有柄で先端付近が分岐する褐色の菌糸を持つ。口径は１㎜あたり５個前後である。大きさは、長さ16.5㎝、幅12.0㎝、厚さ1.8㎝（No.86）と、長さ12.9㎝、幅13.2㎝、厚さ8.8㎝（No.87）であった。

**第13表　器種別の樹種構成**

| 器種分類 | 建築材 | | | 農耕土木具 | | | | | | 紡績具 | 運搬具 | | 漁労具 | 武器 | 容器 | | | | | | 調理加工具 | | 祭祀具 | | 文房具 | 施設材 | | 土木材 | 加工木その他 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 分類群　器種 | 柱根 | 直柄平鍬 | 一木平鍬（未製品） | 竪杵 | 柄 | 木釘？ | 田下駄 | 大足の横桟 | 糸車の横木 | 丸木舟か | 櫂 | 棒状の漁労具か | 丸木弓 | 皿 | 盤 | 曲物 | 曲物底板 | 把手付槽 | 槽か | まな板 | まな板？ | 斎串 | 斎串か | 物差し | 木樋 | 木樋か | 杭材 | 板 | 焚付材 | 加工木 | 不明木製品 | 計 |
| スギ | | | | | 2 | | 1 | 1 | | | | | | | | 2 | 1 | | | | | 1 | 3 | 1 | | | 1 | 1 | | 3 | 1 | 18 |
| イヌガヤ | | | | | | | | | | | | 10 | 7 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | 19 |
| カヤ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 1 | | 4 | 3 | | | | | | 10 |
| オニグルミ | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| アサダ | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 3 |
| スダジイ | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| コナラ属アカガシ亜属 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| コナラ属コナラ節 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| ケヤキ | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | 5 |
| クスノキ科 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| カツラ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | 2 |
| ツバキ属 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | 3 |
| ナシ亜科 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| サクラ属 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| ユズリハ属 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| キハダ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| カエデ属 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| トチノキ | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| ケンポナシ属 | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| クマノミズキ類 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| タラノキ | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| エゴノキ属 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| トネリコ属シオジ節 | 1 | | | | 1 | | | | | | 2 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 5 |
| 計 | 4 | 1 | 1 | 1 | 7 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 11 | 7 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 | 4 | 1 | 4 | 3 | 3 | 1 | 2 | 3 | 3 | 81 |

## ４ 考察

木製品・加工木全体では、イヌガヤが19点で最も多く、スギが18点、カヤが10点、ケヤキとシオジ節が５点、アサダとツバキ属が３点、カツラとケンポナシ属が２点、それ以外の樹種は各１点で、針葉樹が過半数を占める結果となった。イヌガヤが多く使用されていたのは漁労具と丸木弓であり、これらの分析点数が多いためにイヌガヤの出現率も高くなっている。スギが多いのは、新潟県を含む日本海側の地域が木製品にスギを多用するスギ文化圏であり［鈴木2012］、地域における木材利用傾向に沿った結果であると推測される。

木製品の器種別による樹種構成を第13表に示し、以下に木材利用について考察する。

針葉樹のスギは、柄、田下駄、大足の横桟、曲物、斎串（および斎串か）、物差し、杭材、板、加工木、不明木製品で確認された。スギの材は軽軟で割裂性が大きく、製材および加工が容易な材であるため、板状に加工した製品が多くみられた。

針葉樹のイヌガヤは小高木だが、日本海側地域の多雪地帯にはイヌガヤの変種で低木のハイイヌガヤも分布している［平井1996］。漁労具と丸木弓に多く利用されており、靭性のある材質を選択的に利用したと思われる。全国的にも弓や杭材など丸木での利用が多く、新潟県でも青田遺跡や蔵ノ坪遺跡、平田遺跡などで弓の素材として確認されており［伊東・山田編2012］、周辺遺跡にみられる用材利用傾向とも一致する。

針葉樹のカヤは斎串（および斎串か）と木樋（および木樋か）で確認された。斎串にはスギの使用も確認されていたが、木樋ではカヤのみが確認された。カヤの材は保存性が高く、特に水湿に強いため［平井1996］、水場で用いられる木樋に選択的に利用されたと推測される。

広葉樹は20の分類群が確認されたが、各分類群はすべて10点以下の出現数であった。

柱根は、オニグルミとコナラ節、サクラ属、シオジ節であった。これらの樹種は、硬さは重硬もしくは中庸程度だが、いずれも粘りのある材質である［平井1996］。したがって、柱材には強度と靭性のある材が選択的に利用されていたと推測される。

農耕土木具の鍬にはアサダが用いられていた。アサダは非常に硬堅な材で、緻密で割れにくく、耐久性も高い［平井1996］。竪杵に使用されていたツバキ属も重硬な材である。柄では、スギとナシ亜科、クマノミズキ類、タラノキ、エゴノキ属、シオジ節が確認され、あまり材質にこだわらず様々な樹種が利用されていたと思われる。また、タラノキの柄に付属していた木釘？は、トチノキであった。トチノキの材は軽軟であり、加工容易な素材を用いたと推測される。

容器では、皿と盤、把手付槽といった挽物や刳物にケヤキが利用されていた。また、槽？はカツラであった。ケヤキは重硬だが加工は困難ではなく、挽物として漆器木地などにも多用される［平井1996］。また、ケヤキの芯材は保存性が非常に高いため、水場で利用する槽の素材としても有用であったと思われる。槽？のカツラは、軽軟なため加工性は良いが、保存性はあまり良くない。大径木になり、加工しやすいため、大型の木材を要する木製品の素材として選ばれた可能性が考えられる。

植物遺体のサルノコシカケ類は、2点ともコフキサルノコシカケであった。コフキサルノコシカケは、広葉樹の切り株などに発生して樹木を腐朽させる種で、全国に広く分布するもっとも一般的な種の一つである。食用ではないが、民間薬として用いられることがある［木村康一・木村孟淳1996］。［服部・佐々木2006］によれば、通常新鮮な状態で基質（材）から詳細するのは稀であるが、行屋崎遺跡のSR400か

ら出土したサルノコシカケ類は、いずれも基質から外れた状態で大量に出土していた。したがって、何らかの用途に使用する目的で意図的に集められた可能性がある。

引用文献

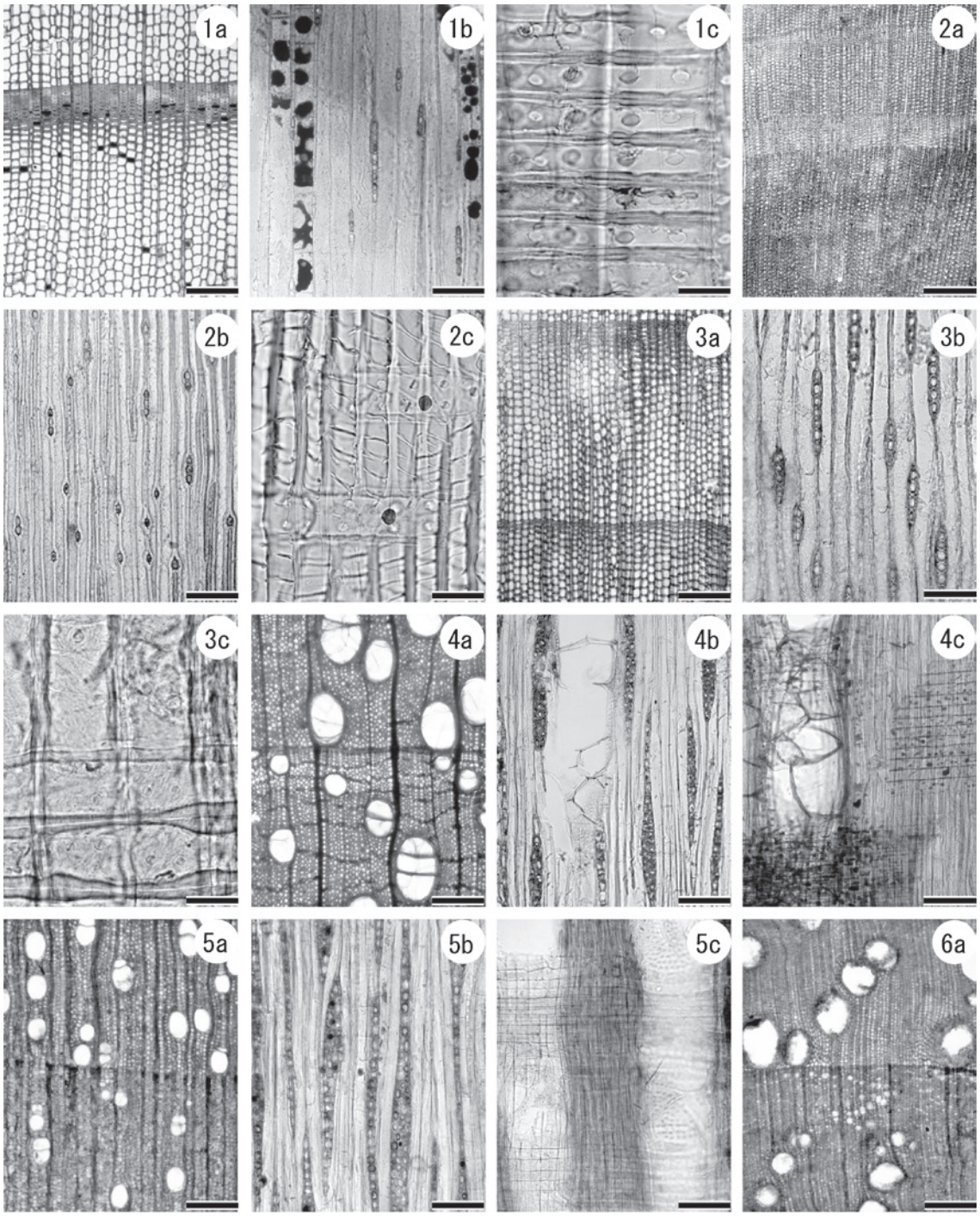
平井信二 1996 木の大百科．394p，朝倉書店．

服部　力・佐々木由香 2006 サルノコシカケ類の同定．下宅部遺跡調査団編「下宅部遺跡Ⅰ」：352-357，東村山市遺跡調査会．

伊東隆夫・山田昌久編 2012 木の考古学－出土木製品用材データベース－．449p，海青社．

木村康一・木村孟淳 1996 原色日本薬用植物図鑑．345p，保育社．

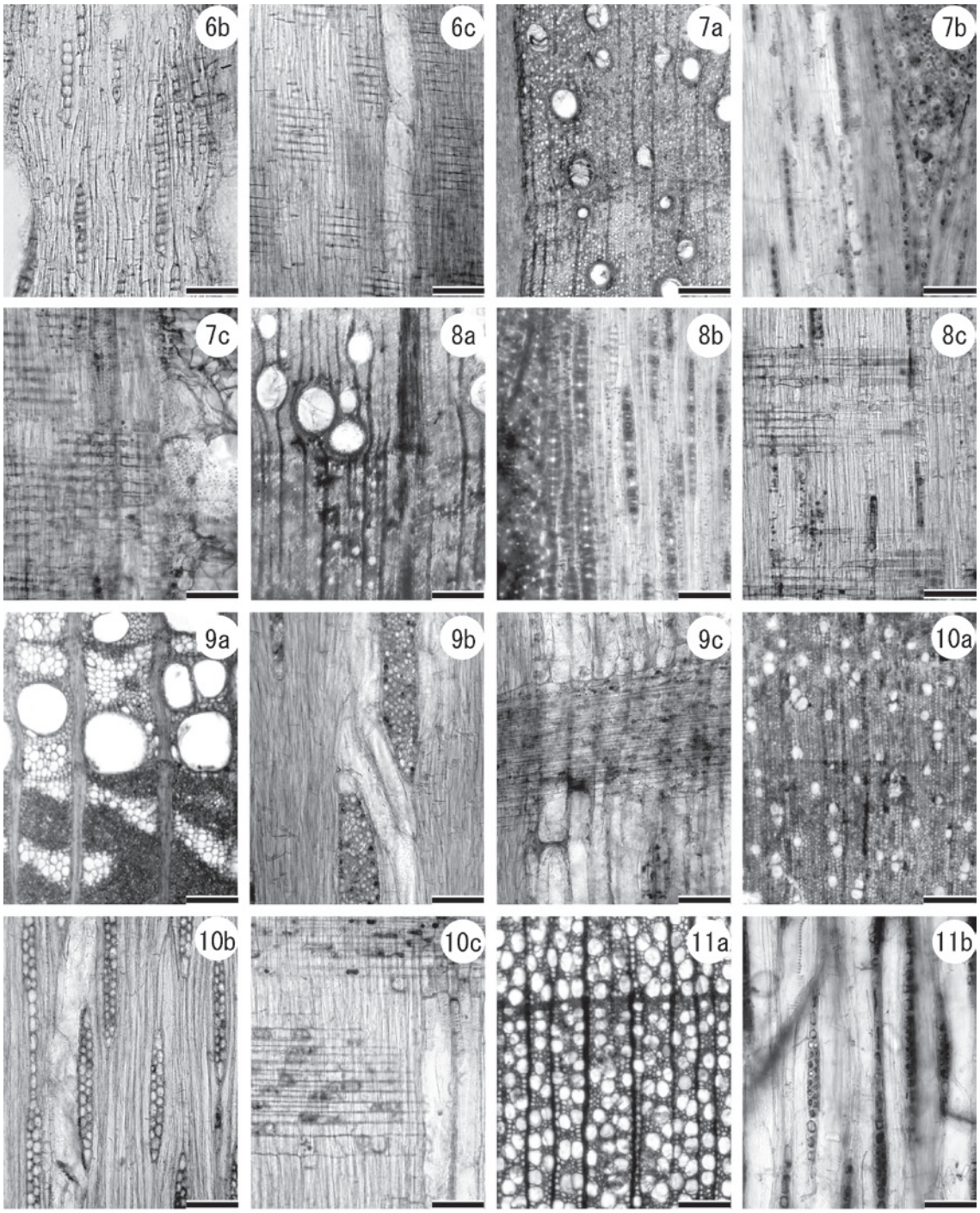
鈴木三男 2012 出土木製品利用樹種の時代的変遷．伊東隆夫・山田昌久編「木の考古学－出土木製品用材データベース－」：81-102，海青社．




**第31図　行屋崎遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（1）**

1a-1c．スギ（No.12）、2a-2c．イヌガヤ（No.17）、3a-3c．カヤ（No.47）、4a-4c．オニグルミ（No.81）、5a-5c．アサダ（No.3）、6a．スダジイ（No.25）

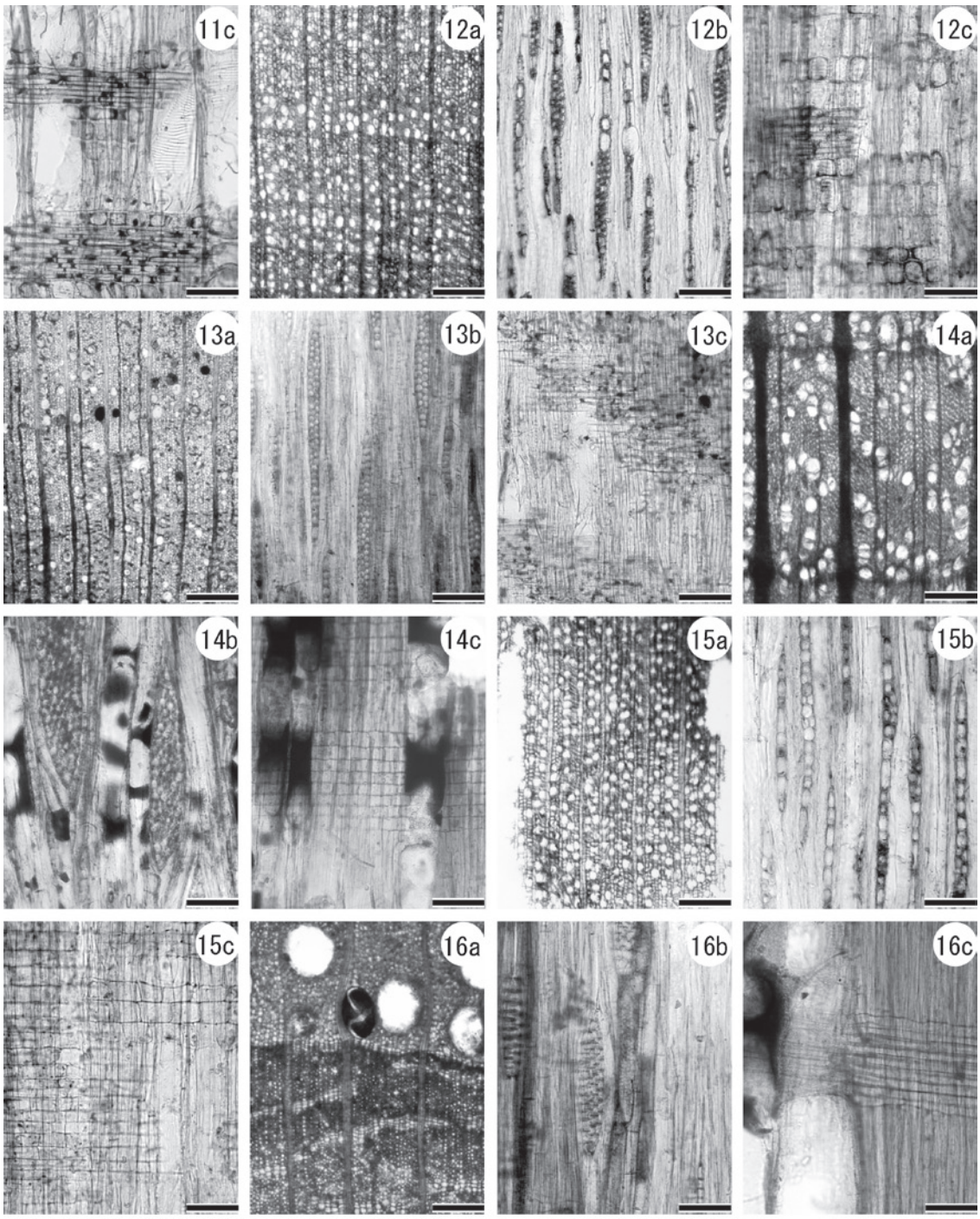
a：横断面（スケール=250μm）、b：接線断面（スケール=100μm）、c：放射断面（スケール=1-3：25μm、4-5:100μm）




**第32図　行屋崎遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（２）**

6b-6c．スダジイ（No.25）、7a-7c．コナラ属アカガシ亜属（No.11）、8a-8c．コナラ属コナラ節（No.82）、9a-9c．ケヤキ（No.41）、10a-10c．クスノキ科（No.74）、11a-11b．カツラ（No.85）

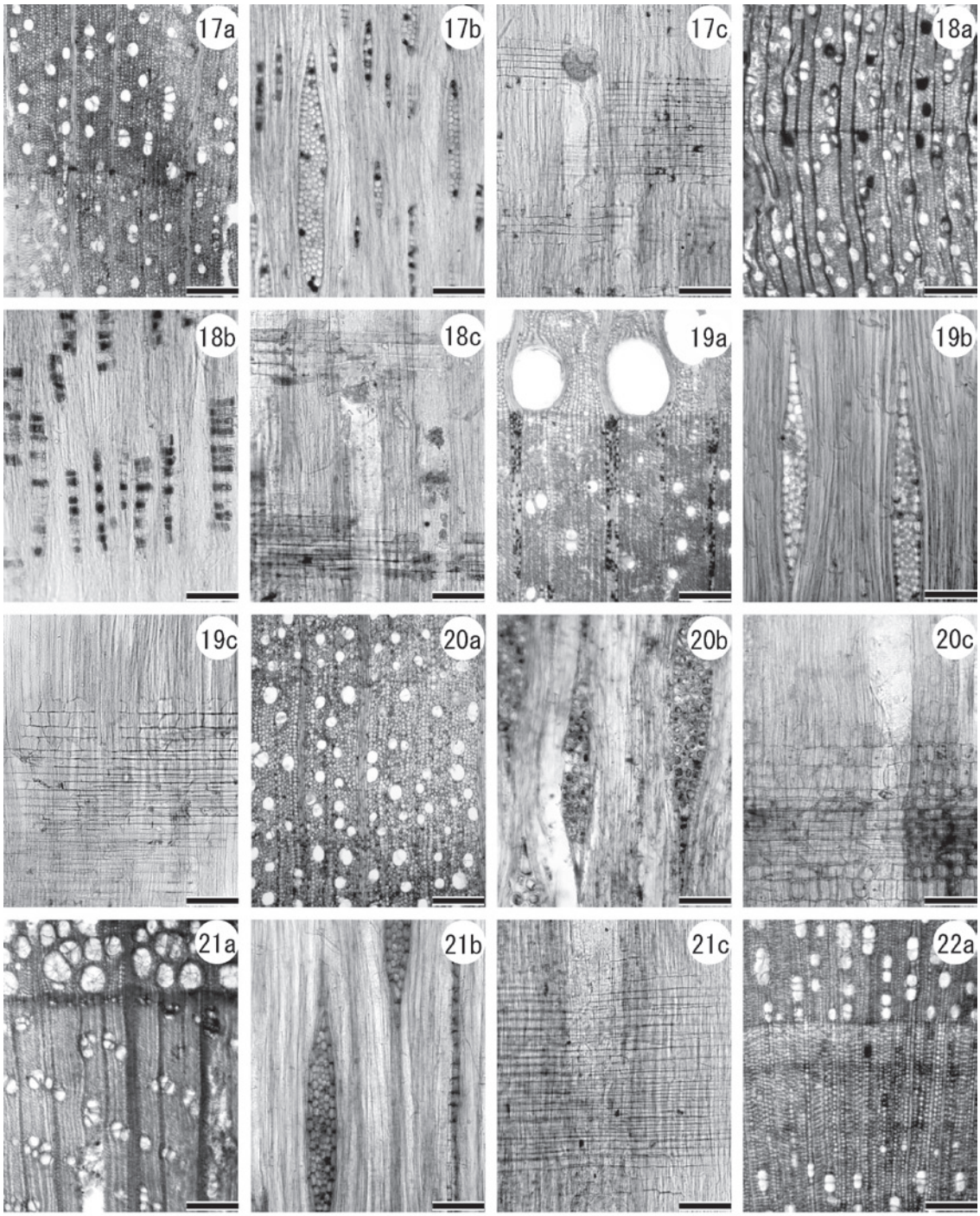
a：横断面（スケール=250μm）、b：接線断面（スケール=100μm）、c：放射断面（スケール=100μm）




**第33図　行屋崎遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（３）**

11c．カツラ（No.85）、12a-12c．ツバキ属（No.75）、13a-13c．ナシ亜科（No.9）、14a-14c．サクラ属（No.83）、15a-15c．ユズリハ属（No.31）、16a-16c．キハダ（No.60）

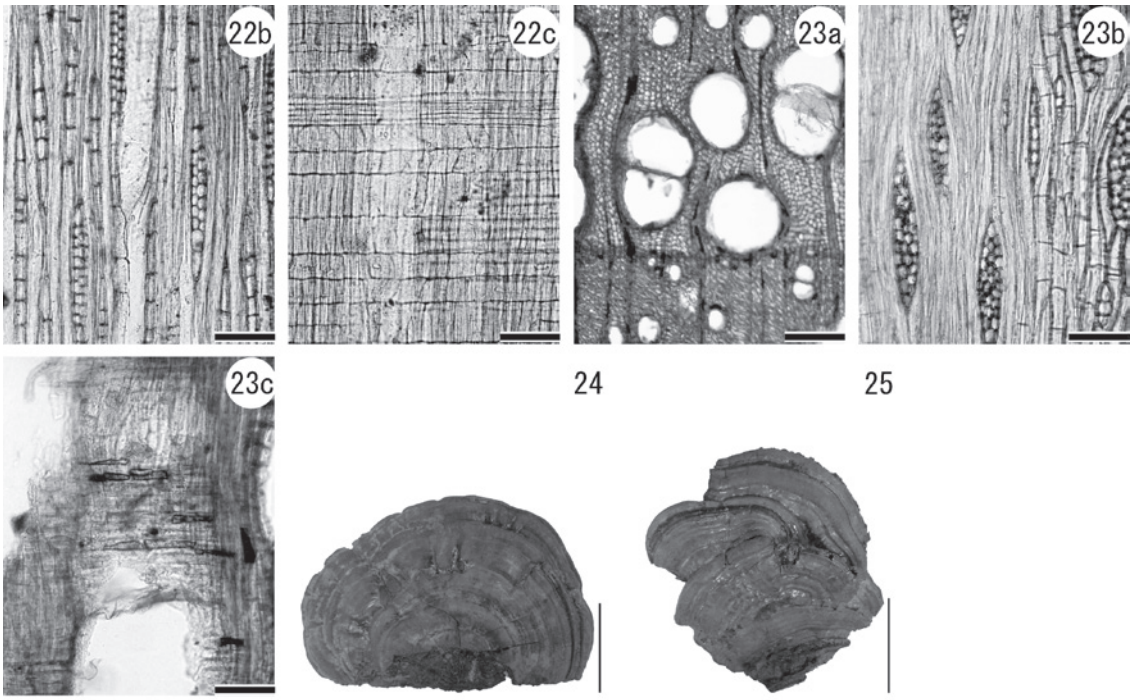
a：横断面（スケール=250μm）、b：接線断面（スケール=100μm）、c：放射断面（スケール=100μm）




**第34図　行屋崎遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（４）**

17a-17c．カエデ属（No.73）、18a-18c．トチノキ（No.4-2）、19a-19c．ケンポナシ属（No.14）、20a-20c．クマノミズキ類（No.8）、21a-21c．タラノキ（No.4-1）、22a．エゴノキ属（No.1-2）

a：横断面（スケール=250μm）、b：接線断面（スケール=100μm）、c：放射断面（スケール=100μm）




**第35図　行屋崎遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（５）および試料写真**
22b-22c．エゴノキ属（No.1-2）、23a-23c．トネリコ属シオジ節（No.27）、24．コフキサルノコシカケ（No.86）、25．コフキサルノコシカケ（No.87）
a：横断面（スケール=250μm）、b：接線断面（スケール=100μm）、c：放射断面（スケール=100μm）
24、25：スケール=5㎝

# 第Ⅶ章　ま　と　め

今回確認された遺物の時期は飛鳥時代が約９割以上と圧倒的に多く、それ以外に弥生時代・古墳時代、平安時代及び中世がある。確認された遺構もほぼ同様で、飛鳥時代を中心に平安時代･中世のものがある。以下では、主体となる飛鳥時代を中心に、前後の時代の３区分で遺跡の特徴を記す。

## 第１節　行屋崎遺跡の総括

### １　弥生時代～古墳時代後期

弥生時代の土器と古墳時代後期でも６世紀後半の須恵器が出土しているにとどまり､遺構は明確でない。弥生時代で今回図示したものは5点で、いずれも直接遺構に伴う形で出土しておらず、流入した状態で確認されている。4点が弥生前期の深鉢形土器の小片で、残りの１点は弥生時代後期天王山式に比定される壺形土器の胴部片である。

古墳時代後期の土器は、流路の7層から6世紀後半の須恵器無台杯身が1点確認されている。この周辺で製作されたものではないと考えられる。当該期の遺物はこの1点のみだが、調査区から約300ｍ北東側で昭和43年6月に前年の羽越水害で埋まった用水を重機で井浚いした折、川の中（底）から上がった残土中に6世紀後半の土師器の甕が１点と椀２点（１点は内黒）が、偶然見つかり、現在は湯川五社神社に保管されている。遺跡の北東側に６世紀後半段階の集落が存在していた可能性も考えられる。

### ２　飛鳥時代

#### Ａ　出土遺物

（１）土　器

須恵器と土師器があるが、圧倒的に土師器が多い。流路出土は７世紀第Ⅲ四半期（藤原編年の飛鳥Ⅱ様式新段階から飛鳥Ⅲ様式のもの、飛鳥Ⅳ様式まで下るものも定量ある）が殆どで、隣接する新潟市秋葉区大沢谷内遺跡［前山ほか2012］より古い段階のものが多い。7世紀後半でも古い時期の県内資料は上越地方や長岡市（旧和島村）に見られるが、蒲原地域ではほぼ初めての出土例であり、県内での類例が少ないものが纏まる。

須恵器の器種構成は、杯・蓋・高杯・甕・瓶・鉢である。中に仏教関連の鉄鉢形（11）や度量衡に用いられるコップ形（126）が見られる。現在この時期の須恵器窯は、蒲原地域に限らず越後でも確認されていない。出土量から、周辺地域で須恵器生産が始まった可能性を考慮する必要がある。

土師器の器種構成は、杯・椀・高杯・甕・鉢・壺・甑である。なかでも甕に多様性が見られ、肩部に僅かな段を有するもの（45・59など）、底部が外方に張り出すもの、底部周縁だけが盛りあがる上げ底状のものがある。甕は長胴化し、口縁部は横ナデ、胴部外面は縦位のハケメ、胴部内面はヘラナデ調整が施

される傾向が見られるほか、底部に砂痕、笹・木葉痕、ハケメ痕が見られた。３類に分類した脚部が短い高杯の中に陸奥地方・会津地方・出羽地方に出土例のある方形の透かし孔を有するものが3個体以上確認されたが、今回図示したのは1点（192）のみである。これと同様の器種は、舘ノ内遺跡［会津坂下町教委1988］、油田遺跡［会津美里町教委 2007］、味噌根2号墳［高畠町教委1997］、西台畑遺跡［工藤ほか2012］などに見られる。このように土師器の製作技法が多様である点は、7世紀第3四半期に突如出現する本遺跡の成り立ちを考える上で重要であり、多方面から移住してきた人々の手により開発が行われたことも想定される。

（２）土製品・石製品・金属製品

人形（215・216）、動物形（215 ～ 224）、紡錘車（225）、板状・円柱状支脚（227 ～ 240）、カマド芯材の可能性が指摘されている円筒形（242・243）、鞴羽口（241）、カマド形土製品（248 ～ 262）、塊状土製品（244 ～ 247）などの土製品が出土している。このうち人形・動物形は県内では類例に乏しいもので、飛鳥時代のものとすると今のところ富山県にも類例が確認されていない。

石製品には紡錘車（263）、権状錘（265）、砥石（267 ～ 269・271 ～ 275）、凹石（270）が出土している。このうち権状錘は、西部遺跡［湯原ほか2010］、山木戸遺跡［小池ほか2006］、林付遺跡［相田ほか2012］、上浦A遺跡［川上1997］、馬越遺跡［伊藤2005］などに出土例がある。本遺跡出土品は、形状的に台形の範疇に入る。

金属製品には祭祀儀礼を連想される銅製鈴（276）、鉄製の雁又鏃（278）や銅製耳環（277）と、生産に伴う道具としての鉄斧が２点（279・280）、鉄製の鑿（281）が出土している。このうち銅製鈴は上越市延命寺遺跡［山崎ほか2008］に続き、県内２例目の出土例となる。

土製品・石製品・金属製品は祭祀関連、生産関連、日常の道具等に区分が可能であるが、祭祀関連品は県内の集落遺跡では類例に乏しい優品が多い。生産関連では鞴羽口の存在から鍛冶等の作業が想定される。

（３）木製品

今回掲載している木製品の殆ど（284 ～ 462）が流路からの出土である。このうち7世紀後半の皿（346）は、全国的にも出土例が希少な製品である。また、祭祀儀礼を連想される槽、弓（半弓か）などが出土している。槽の用途は両端の刻みから浅後谷南遺跡［黒坪ほか2000］などと同じ導水施設として行われた水辺の祭祀とも考えられる。なお、この木樋タイプは古墳時代中期に多く見られる。物差し（350）は、スギの柾目材を用い長さが1尺だとすれば両端が欠損しており、扁平な細板に2.75 ～ 3.03㎝と間隔は均一ではないが、目盛が刻まれている。

（４）度量衡関係遺物（126・265・350）

今回の調査でいずれも飛鳥時代に帰属する度量衡に関わる物差し、コップ形須恵器、権状錘が出土している。物差しは扁平な細板に2.75 ～ 3.03㎝と間隔にばらつきはあるものの、１寸刻みに丁寧な仕上げで目盛が彫られている。平均を取ると2.85㎝となり、現代の1寸幅が3.03㎝なのでこの長さが基本であったと考えられる。また、刻線５本毎に米印があり、目安としたものと想定される。コップ形須恵器は完形ではないため、底部内径が5.1㎝、残存高が6.1㎝だが、仮に器高が9.0㎝だとすれば、容積が0.28リットルとなり唐の小升と容量が合致する。権状錘の材質は凝灰岩で、上部に径２㎜の穿孔があり６面を丁寧に研磨された台形を呈し、重量は62.0ｇである。これらの遺物は、鉄鍛冶や糸を噤んで織物を織ったり木製品を製作しているなど、この集落の生業に関わっているのかも知れない。

（５）動植物関係

SK172、SK207からニホンジカ、SK665からイヌ科の被熱を帯びた骨が出土している。また、SR400からイノシシ、ニホンジカ、ネコが、SR407からカモ科の骨片がそれぞれ出土しているが、被熱痕はみられない。

この中で第Ⅵ章に述べているとおりネコの骨は右下顎骨の筋突起部・下顎頭部・歯槽部で、イエネコのものである可能性が高い。ネコ科の骨自体は縄文時代の貝塚等から見つかっているが、ウンピョウのものではないかと推測されている。イエネコの発掘調査事例も少なく、当遺跡より古い事例として2004年度から2007年度に調査された長崎県壱岐市のカラカミ遺跡［中上 2012］の弥生時代中期のものが最古である。また、姫路市見野６号墳［南部・丸山ほか2011］からネコの足痕が付いた６世紀末～７世紀初頭の須恵器坏身が見つかっている。なお、文献における動物としてのネコに関する初見は、平安時代初期成立の『日本現報善悪霊異記/日本国現報善悪霊異記』にみられるが、直接「猫」という言葉では表現されておらず､｢狸｣という文字で表されている。生態や行動の様子からタヌキよりネコに相応しいと考えられ、ネコの存在自体が平安時代以降になりやっと広く認識されるようになったものと考えられる。

植物の種子は流路内からコンテナ約４箱分出土しており、その内90％をトチの実、７％をオニグルミとモモが占めている。また、サルノコシカケのように漢方薬などに用いるものも出土している。

## Ｂ　遺　構

調査区の自然堤防上と流路内に所在している。掘立柱建物、溝、土坑、ピット、杭列などが確認されている。

掘立柱建物は調査区外へ延びる建物もあることから一概に言えないが、床面積でSB131の11.32㎡からSB511の26.28㎡までの16棟が確認された。建物を構成するピット堀形内から遺物が出土しているものは、SB131・132・198・199・500・506・508・509・511の9棟である。

溝にはSD5・33・73・95・100・117・141・250・374・384・613の11条である。

土坑は129基確認されている。飛鳥時代の土坑は、隣接する大沢谷内遺跡［前山ほか 2012］と比べて多く見つかっている。平面形が方形のものと楕円形のものの2種類があり、断面形状は台形と弧状を主体としている。炭化物と被熱を受けた獣骨が混入しているものが42基確認されている。なお、焼土が混入している土坑もわずかだが見つかっており、底面に被熱を受けているものは3基確認されている。これら炭化物が混入しているものは、山三賀遺跡［坂井ほか 1989］などの事例からも不要物を廃棄したゴミ穴ではないかと推測される。

流路は調査区南端に旧五社川と思われる流路が1条確認された。標高3.20ｍの川辺から南へ緩やかに傾斜し、南へ23ｍ位から勾配が急となる。流路内の堆積層を7層に分けたが、遺物が確認できるのは5a層からである。その中に5a層上面から掘り込まれている砂礫混じりのSD491は東西に流れる平安時代前期の溝である。砂層（6層）を挟み最下層である7層へと到達する。5a ～ c層内出土遺物は僅少だが7層内からは600点を超える土器と1,000点を超える木製品が出土している。

土器は内外面ともヘラミガキ調整が施されて頸がくびれた形をしており、煮炊用として用いられた甕とは考えづらく、貯蔵用の壺として代用していたものと推測される。また、高杯、鉢、椀、杯などの出土数も量的に多く感じる。

木製品は槽、弓、櫂、竪杵、物差し、鋤、鍬（柄振りか）など豊富に見られ、祭祀的な遺物は多く見ら

れるが、明確な農具や漁具は少ない。

図面図版８に示したように、7世紀後半に河川の縁辺で槽（325）を中心として土器を配置（35－72－19、47－12－62、51－36など）し、周辺から弓（半弓）が７本見つかっているなど水辺の祭祀を行っていた可能性が考えられる。なお、図面図版８では確認できないが、西側に槽を固定したとみられる杭（写真図版７）があり、槽の下に移動手段として置かれたものか槽と直交する形で角材が３本確認できた。北側はＳＤ491に削平されて高低差はあるものの木樋？と思われる先端両側が固定されたコの字形に板状の木片を組んだものがあり、導水施設の一部とも考えられる。また、別の用途として水を流して槽の上面両端中央にＶ字の切込みがあることから、槽内に水を注ぎ不純物を沈殿させた施設とも考えられる。

### Ｃ　地震痕跡の噴砂脈

今回の調査で古代だと想定される地震の痕跡が二箇所確認された。13Ａ24から13Ｃ２（図面図版26、写真図版48）まで延びる約16ｍと12Ｃ16（図面図版17・19）で、地震の時期については、７世紀後半の遺構（SK394など）を切り、９世紀代の遺構（SD347）の覆土内には痕跡が見られないため、平安時代前期以前のものと考えて貞観11年（869）の貞観地震を下限とし、それ以前のものを検討した。

時期を決定するにあたり、加藤学が越後平野における発掘調査で確認された９世紀後半に発生した地震痕跡を纏めているので参考にした［加藤2013］。今回検出した噴砂痕跡が、８世紀代以前の可能性もあるため、加藤が記している以外で関連するものを『日本三大實録』から上げると、出羽国地震（850）、鳥海山噴火（708－715、717、810－824）、鳥海山地震（806）、蔵王山噴火（773）がある。遺物包含層も薄く、検出した8世紀代以降の遺構は稲作に伴う溝と考えられ、土坑も中世のものが１基確認されたのみである。また、遺構同様、遺物の出土量も飛鳥時代と比較してあまりにも少ないため、どの事例が該当するのか判断しがたい。ただ、越後平野に多大な影響を与えたことからも、貞観５年（863）の越中・越後地震の可能性が最も高いが、これ以前の可能性も考えられる。

## ３　平安時代・中世

### Ａ　出土遺物

平安時代は８世紀末～９世紀中頃、10世紀代の土器が出土している。前者は継続性がみられ、遺構に伴い出土している。後者は調査区北側の遺物包含Ⅱb層中からのみ出土している。須恵器と土師器の割合はほぼ同じで、全体量としても出土した土器の3％に過ぎず、遺構数と比較しても量的には極端に少ない。本来あってしかるべき煮炊用の器種は皆無であった。須恵器は８世紀末～９世紀中頃の蓋と無台杯・有台杯が出土しており、佐渡小泊窯群産と推定され、９世紀前半を中心としている。土師器も無台杯と有台杯が確認されており、調査区北側の遺物包含Ⅱb層中からは10世紀代のものも3点出土している。

中世は調査区南側部分から珠洲焼が3点出土しており、器種は甕1点（198）と擂鉢2点（197・199）である。甕は外面に綾杉状の叩きが施されている。擂鉢のうち197の口縁部は平縁で擂目が11条である。199は体部下端で擂目が見られる。15世紀代のものと考える。この他に平安時代前期に帰属する土錘（226）が出土している。

### B　遺　構

平安時代に伴うものは、SD4・75・94・111・116・160・200・291・307・340・341・347・412・414・491・532・668・724・768の19条確認されている。水田跡は検出できなかったが、平安前期になり一定方向に走行する溝・柵・杭列で構成される稲作関連の遺構群が確認されているが、遺物量は飛鳥時代と比較して明らかに僅少となる。

中世においても溝（SD290・488）２条、土坑（SK280）１基と遺構数は少ない。土坑の平面は不整形で覆土は粘性が強く、遺構の重複関係から遺物のほとんどが別時期の混入と見られる。いずれも平安時代と同様に稲作関連に伴うものと考える。

## 第２節　飛鳥時代における行屋崎遺跡の性格

本遺跡の主体となる時代は、大化改新（645年）直後の7世紀後半である。出土遺物から本遺跡が集落として機能していた時期は７世紀第３四半期を主体の30 ～ 40年前後の短期間だと考えられる。本遺跡成立直前には蝦夷征討のため渟足柵（647年）が、翌年磐舟柵の造営の記述が知られる。越後では頸城（上越市地域）を除いて７世紀前半の遺跡がほとんど確認されていないが、７世紀後半には本遺跡に加えて約２㎞北側に大沢谷内遺跡［前山ほか2012］が成立していることから、７世紀後半にはこの周辺地域でも開発が始まったことが推測される。

当初、本遺跡で想定される生業は自然堤防上の微高地に掘立柱建物を主体とする集落を造成し、新田開発を担っていたと考えていたが、発掘調査が進むにつれ農業に関係する遺物が少ないことから、稲作を基盤とした集落とは考えづらいという結論に至った。

このように行屋崎遺跡は、集落として機能していた期間は短く、銅製鈴、雁又鏃、槽、弓などの出土遺物から祭祀儀礼を行っていることが分かる。また、鉄斧や鑿を用いて製品を加工したり、紡錘車で糸を紡いだり、鞴羽口や鉄滓の出土から鉄鍛冶などをしていたことが分かる。以上のことからも一般的な集落遺跡とは考えられない。土師器の製作技法が多様のため、居住者も渟足柵や磐舟柵の造営時に他の地方から移住してきた柵戸ではなかったかと想定される。

行屋崎遺跡は信濃川を上り小河川に入り、新津丘陵から延びた沖積地の自然堤防上の北側に立地している。隣接する大沢谷内遺跡と立地や成立時期が酷似しており、出土遺物にも祭祀的なものなど共通するものが見られる。祭祀遺物は律令祭祀的な要素が目立つ大沢谷内遺跡よりも古い段階の古墳時代(槽や人形･動物形土製品など）的なものが本遺跡では目立っており、土器の時期からも若干の時期差があることが分かる。行屋崎遺跡の7世紀後半時期の性格や時代背景を考える上で、行屋崎遺跡単独で捉えるのではなく、大沢谷内遺跡と一体のものとして検討していく必要がある。まだ新潟市側で調査が行われる可能性を残していることからも、大沢谷内遺跡の調査成果を踏まえて検討していく必要があろう。一方で、これまで判然としなかった渟足柵造営後の蒲原地域の動向が、今回の調査により確認された意義は大きい。行屋崎遺跡は越後における古代の始まりを象徴するものであり、蒲原地域のみならず、新潟県や東日本・北日本において重要な情報が得られたと考える。

# 要　約

1　行屋崎遺跡は、新潟県南蒲原郡田上町大字湯川字行屋崎131 ～ 177に所在する。遺跡名は小字名から命名された。遺跡は五社川右岸標高4.30ｍ前後の自然堤防上と旧五社川流路に立地している。

2　発掘調査は一般国道403号（小須戸田上バイパス）道路改築事業に伴い、平成25年６月12日から平成25年11月30日まで実施した。調査面積は3,740㎡である。

3　今回の調査で検出された遺構は掘立柱建物が16棟、柵が１条、溝が32条、土坑が130基、ピットが300基、杭375本である。遺構の帰属する時代は飛鳥時代、平安時代、中世である。

4　飛鳥時代（７世紀後半）の遺構群は、掘立柱建物が16棟･溝が11条･土坑が129基･ピットが300基･杭が45本から構成される集落跡である。ほかに遺物包含層は旧河川流路遺物包含5a ～ c・６・７層と自然堤防上の遺物包含Ⅱc層が確認された。

5　平安時代（８世紀末～９世紀前半、10世紀）は、柵が１条、溝が19条、杭が330本から構成される水田関連の遺構群である。また、水田土壌とみられる遺物包含Ⅱb層が確認された。

6　中世の遺構は調査区南側に偏在し、溝が2条、土坑が1基で構成されている。いずれも黒味の強い粘質土を覆土とし、平安時代と同様に水田に関連した遺構とみられる。

7　調査区南側で東西に走行する噴砂脈を確認した。噴砂脈は飛鳥時代の所産であるSK393・394を切り、平安時代前期（９世紀前半）の所産であるSD347に切られている状態で確認された。本遺跡で確認された噴砂脈は７世紀後半から９世紀前半までの間に発生した地震に起因する液状化現象とみられる。図面図版17・19・26、写真図版48を参照されたい。

8　飛鳥時代に帰属する遺物が多量に出土したが、そのなかでも土師器甕に多様性がみられ、土器分類で細分を試みた。形態の特徴として肩部に段をもつもの、底部が外方に張り出すもの、底部周縁だけが盛りあがる上げ底状のもの、器面調整の特徴として内面の磨きと底部の砂痕、笹・木葉痕、刷毛目痕があげられる。また、土師器高杯で３類に分けた短脚で方形透し窓を有する東北地方南部に由来する土器も見られる。

9　図面図版８に示したように、旧河川流路内で遺物が直線的に等間隔で配置された状況で確認された。遺物の大半は土師器で、基盤層であるⅢ層直上の位置で甕など正位に置かれている。水辺の祭祀の可能性も考えられる出土状況である。

10　自然堤防上の飛鳥時代の遺物包含Ⅱc層から人形と動物形の土製品が出土した。上述した旧河川流路の遺物出土状況とは異なった祭祀が行なわれていた可能性も考えられる。

# 引用・参考文献


相田泰臣　2004「越後における古墳時代後期を中心とした土器の一様相・頚城・魚沼地域の土師器を中心として」『新潟考古』15号

相田泰臣　2012『林付遺跡』新潟市立潟東南小学校体育館改築事業　新潟市教育委員会

会津坂下町教育委員会　1988『舘ノ内遺跡・細田遺跡』会津坂下町文化財調査報告書第14集　会津坂下町教育委員会

会津美里町教育委員会　2007『油田遺跡』会津美里町教育委員会

荒川隆史・石丸和正・猪狩俊哉・加藤　学ほか　2004『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅴ　青田遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第133集　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

石川考古学研究会・北陸古代土器研究会　1988『シンポジウム北陸の土器研究の現状と課題』資料編

伊藤秀和　1996『川船河遺跡―新潟経営大学建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』田上町教育委員会

伊藤秀和・平岡和夫ほか　2000『加茂市文化財調査報告（10）丸潟遺跡・新通遺跡―国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書―』加茂市教育委員会・山武考古学研究所

伊藤秀和　2001『加茂市文化財調査報告（13）鬼倉遺跡―国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書―』加茂市教育委員会

伊藤秀和　2005『馬越遺跡―国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書―』加茂市教育委員会

上原真人・町田　章・田中　琢・佐原　眞ほか　1984「木器集成図録　近畿古代篇（図版・解説）」『奈良国立文化財研究所史料第27冊』奈良国立文化財研究所

上原真人・田中　琢・佐原　眞・猪熊兼勝・工楽善通・山中敏史ほか　1993「木器集成図録　近畿原始篇（図版・解説）」『奈良国立文化財研究所史料第36冊』奈良国立文化財研究所

大西　顕　2008『七尾市　小島西遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書』石川県教育委員会・（財）石川県埋蔵文化財センター

太田好治・鈴木京子　1999『西畑屋遺跡発掘調査報告書』浜松市教育委員会・（財）浜松市文化協会

春日真実　2001「横瓶の制作方法」『須恵器貯蔵具を考えるⅡ　つぼとかめのつくり方　北陸古代土器研究』第9号　北陸古代土器研究会

春日真実　2003a「越後出土の円筒形土製品・板状土製品について」『富山大学考古学研究室論集　蜃気楼―秋山進午先生古稀記念―』（有）六一書房

春日真実　2003b「越後出土の多孔式土器について」『新潟考古』第14号　新潟県考古学会

春日真実　2006「越後における７世紀の土器編年」『新潟考古』第17号　新潟県考古学会

加藤　学・荒川隆史　1999『上信越自動車道関係発掘調査報告書Ⅴ　和泉A遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第93集　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財事業団

加藤　学　2004「新潟県域における北方系の土師器甕―事例紹介と問題提起―」『越後阿賀北地域の古代土器様相』新潟古代土器研究会

加藤　学　2013『研究紀要』第7号「貞観五年越中・越後地震に関する一考察」財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

角川書店　1989『角川日本地名大辞典』―15　新潟県―　角川書店

金子裕之　1988「律令期祭祀遺物集成」律令祭祀研究会

金子裕之　1996「まじないの世界I」『日本の美術』360　至文堂

神谷佳明・笹澤泰史　2008「出土度量衡遺物について」『研究紀要26』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団

栢森秀之　1997 『田上町文化財調査報告書第９集　向田遺跡　県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 田上町教育委員会

川上貞雄　1997 『上浦Ａ遺跡』新津市工業団地第2期工事地内発掘調査報告書　新津市教育委員会

工藤信一郎ほか　2010 『西台畑遺跡第１・２次調査』－仙台市あすと長町土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅴ　仙台市教育委員会・都市再生機構

黒坪一樹ほか　2000 『京都府遺跡調査概報　第93冊』国営農地（丹後東部地区）関係遺跡関係平成11年度発掘調査報告書「(1) 浅後谷南遺跡」財団法人京都府埋蔵文化財センター

小池邦明ほか　2004 『新潟市山木戸遺跡』 新潟市教育委員会

坂井秀弥ほか　1984 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第35集　上新バイパス関係遺跡発掘調査報告書I　今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』 新潟県教育委員会

坂井秀弥ほか　1986 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第40集　北陸自動車道上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅱ　一之口遺跡西地区』 新潟県教育委員会

坂井秀弥ほか　1989 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第53集　新新バイパス関係発掘調査報告書　山三賀Ⅱ遺跡』 新潟県教育委員会・建設省新潟国道工事事務所

坂井秀弥　1993 「古代越後の環境・生産力・特性」『新潟考古学談話会会報』第12号　新潟考古学談話会

坂井秀弥　1994 「加茂市青海神社遺跡の土器」『新潟考古学談話会会報』第14号　新潟考古学談話会

坂井秀弥　1996 「水辺の古代官衙遺跡―越後平野の内水面・舟運・漁業―」『越と古代の北陸　古代王権と交流３』 名著出版

坂井秀弥　1999 「第4章―第1節　総論」『新潟県の考古学』 高志書院

笹澤正史　2001 「須恵器瓶類の口縁頸部接合痕跡」『須恵器貯蔵具を考えるⅡ　つぼとかめのつくり方　北陸古代土器研究』第９号　北陸古代土器研究会

関　雅之　2001 「新潟県新発田市馬見坂遺跡出土の土師器―阿賀北地域の7世紀の土器様相とその意義―」『北越考古学第12号』 北越考古学研究会

関　雅之　2013 「考古学から見た阿賀北地方の 7 世紀―古代城柵期前後の遺跡調査の現状と課題―」『越佐研究』第70集　新潟県人文研究会

高橋　保ほか　1993 『和島村埋蔵文化財調査報告書第２集　八幡林遺跡』 和島村教育委員会

高畠町教育委員会　1997 『合津窯跡の調査；味噌根2号墳の調査；高安窯跡の調査他』町内遺跡発掘調査報告書　高畠町教育委員会

巽　淳一郎　1996 「まじないの世界Ⅱ」『日本の美術』361　至文堂

田中広明　2003 『地方の豪族と古代の官人―考古学が解く古代社会の権力構造―』KASHIWA学術ライブラリー01　柏書房

田中　靖・桑原陽一　1992 『和島村埋蔵文化財調査報告書第1集　遺跡発掘事前総合調査に係る埋蔵文化財調査報告書　八幡林遺跡』 和島村教育委員会

田中　靖・桑原陽一ほか　1994 『和島村埋蔵文化財調査報告書第3集　八幡林遺跡』 和島村教育委員会

田中　靖　1995 『和島村埋蔵文化財調査報告書第4集　県営圃場整備事業（桐原地区）に伴う埋蔵文化財調査報告書　門新遺跡』 和島村教育委員会

田中　靖　1996 『和島村埋蔵文化財調査報告書第５集　県営圃場整備事業（桐原地区）に伴う埋蔵文化財調査報告書　門新遺跡　外割田遺跡』 和島村教育委員会

田中　靖　　1999 『和島村埋蔵文化財調査報告書第８集　下ノ西遺跡Ⅱ』 和島村教育委員会

田中　靖　　2003 『和島村埋蔵文化財調査報告書第14集　下ノ西遺跡Ⅳ―県営圃場整備事業（桐島桐原地区）に伴う埋蔵文化財調査報告書―』 和島村教育委員会

田辺早苗・土生朗治　　2001 『神林村埋蔵文化財報告第９　衣田遺跡　道上遺跡』 神林村教育委員会・山武考古学研究所

田畑　弘　　1993a 『保明浦遺跡―新潟県営高生産性大区画ほ場整備事業〔田上郷地区〕埋蔵文化財緊急発掘調査報告書―』 田上町埋蔵文化財調査報告書第３集　田上町教育委員会

田畑　弘　　1994b 「第一編　原始・古代・中世の田上郷　第一章　原始時代の田上　第二節　縄文時代の田上二. 田上町の遺跡　学術調査された保明浦遺跡」『田上町史』通史編　田上町

田畑　弘　　1994 『田上町埋蔵文化財調査報告書第４集　大正川筋小規模河川改修事業及び道路新設事業埋蔵文化財緊急発掘調査報告書　道下・白地遺跡』 田上町教育委員会

田畑　弘･風間　力　　1995 『田上町文化財調査報告書第５集　新潟県営高生産性大区画ほ場整備事業〔田上郷地区〕埋蔵文化財緊急発掘調査報告書　田上館跡』 田上町教育委員会

田畑　弘　　1996 『保明浦遺跡Ⅱ―埋蔵文化財緊急発掘調査報告書―』 田上町文化財調査報告書第8集　田上町教育委員会

田畑　弘　　1997 『田上町文化財調査報告書第10集　新潟県営高生産性大区画ほ場整備事業〔田上郷地区〕埋蔵文化財緊急発掘調査報告書　大坪遺跡』 田上町教育委員会

田畑　弘　　1999 『田上町文化財調査報告書第12集　新潟県営高生産性大区画ほ場整備事業〔田上郷地区〕埋蔵文化財緊急発掘調査報告書　小清水沢遺跡　吉田上谷内遺跡　村浦遺跡』 田上町教育委員会

田畑　弘　　2003 『田上町文化財調査報告書第20集　新潟県営高生産性大区画ほ場整備事業〔田上郷地区〕埋蔵文化財緊急発掘調査報告書　保明浦遺跡Ⅲ』 田上町教育委員会

田畑　弘　　2004 『保明浦遺跡Ⅳ―新潟県営湛水防除事業〔田上郷地区〕埋蔵文化財緊急発掘調査報告書―』 田上町教育委員会

中上理沙　2012 『アテンダントーク』Ｖｏｌ．５ 「Ｐｉｃｋ ｕｐ　カラカミ遺跡」 壱岐市立一支国博物館

中島栄一　　1976 『中店遺跡』 田上町文化財調査報告第1集　田上町教育委員会

中島栄一　　1976 『古屋敷遺跡』 田上町文化財調査報告第2集　田上町教育委員会

南部裕樹・丸山真史ほか　2011 『姫路市見野古墳群発掘調査報告書』「7 須恵器に残された動物の足跡」立命館大学文学部学芸員課程研究報告　第13冊　立命館大学文学部

布施智也・平岡和夫　　2000 『吉田町文化財調査報告書第6集　江添D遺跡―吉田町米納津地内国営排水路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』 吉田町教育委員会・山武考古学研究所

前山精明　　2005 「水辺の営み」『地域と文化の考古学I』 六一書房

前山精明　　2009 「大沢谷内遺跡」『平成20年度　新潟市遺跡発掘調査報告会資料』 新潟市埋蔵文化財センター

前山精明　　2010 「大沢谷内遺跡」『平成21年度　新潟市遺跡発掘調査報告会資料』 新潟市埋蔵文化財センター

前山精明　折井　敦　伊比博和ほか　　2010 『大沢谷内北遺跡第3次発掘調査報告書』 新潟市教育委員会

前山精明　細野高伯　伊比博和　相沢　央ほか　　2012 『大沢谷内遺跡第２・４・６・７・９次発掘調査報告書』 新潟市教育委員会

牧山直樹・中野知幸　　2010 『寺家遺跡発掘調査報告書　総括編』 羽咋市教育委員会

松島悦子　　2001 『燕市埋蔵文化財発掘調査報告書第1集　三角田遺跡　国営新荒井川排水路工事に伴う埋蔵文化財

発掘調査報告書』 燕市教育委員会・吉田町教育委員会

水野正好　1983 「馬・馬・馬　その語りの考古学」『文化財學報』第二集

山崎　天・草間　裕・田村典雄・土　任隆　2004 『能代川関係発掘調査報告書Ⅲ　新田遺跡』 五泉市教育委員会・国際航業株式会社文化財事業部

山崎　天・鈴木　進・湯原勝美・土生朗治　2004 『能代川関係発掘調査報告書Ⅴ　筧下遺跡』 五泉市教育委員会・（有）山武考古学研究所

山崎　天・草間　裕・田村大器・金内　元・真壁鈴子　2004 『能代川関係発掘調査報告書Ⅶ　巳ノ明遺跡』 五泉市教育委員会・（株）野上建設興業

湯原勝美・秋山真好・長谷川一郎ほか　2010 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第206集　西部遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団・

吉岡康暢　1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館

渡邊朋和・小田由美子・上沼　茂　1997 『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅱ―居村遺跡Ｅ・Ａ・Ｃ地点、大入遺跡Ａ地点』 新津市教育委員会

## 行屋崎遺跡　遺構観察表（１）掘立柱建物（SB）

### SB131

| グリッド | 7A、7B | | 掘立柱建物（側柱建物） | 桁行（m） | 3.80 | 梁間（m） | 2.98 | 床面積（㎡） | 11.32 | 時期 | 7 世紀後半 | 主軸方向 | 東西 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 柱穴番号 | 平面形 | 断面形 | 長径（cm） | 短径（cm） | 確認高（m） | 底面高（m） | 深さ（m） | 柱穴間隔 | 距離（m） | 方位 | | N48° E | |
| P109 | 楕円形 | U 字状 | 29 | 25 | 3.64 | 3.20 | 0.44 | 109-472 | 2.90 | 切り合い関係 | | | |
| P472 | 楕円形 | 漏斗状 | 40 | 28 | 3.74 | 3.30 | 0.44 | 472-104 | 1.64 | SD100 は付属施設か<br>SD75 ＞ SB131（SD100）＞ SD117 | | | |
| P104 | 円形 | U 字状 | 32 | 30 | 3.74 | 3.16 | 0.58 | 104-468 | 2.04 | | | | |
| P468 | 円形 | U 字状 | 36 | 34 | 3.74 | 3.31 | 0.43 | 468-103 | 0.98 | 出土遺物 | | | |
| P103 | 楕円形 | V 字状 | 24 | 18 | 3.72 | 3.54 | 0.18 | 103-471 | 2.00 | 柱根：P104・P109・P361・P468<br>土師器甕 | | | |
| P471 | 楕円形 | U 字状 | 42 | 39 | 3.66 | 3.14 | 0.52 | 471-99 | 2.20 | | | | |
| P99 | 円形 | 漏斗状 | 37 | 24 | 3.70 | 3.20 | 0.50 | 99-109 | 1.60 | | | | |

### SB132

| グリッド | 6B、7B | | 掘立柱建物（側柱建物） | 桁行（m） | 5.26 | 梁間（m） | 3.08 | 床面積（㎡） | 16.21 | 時期 | 7 世紀後半 | 主軸方向 | 東西 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 柱穴番号 | 平面形 | 断面形 | 長径（cm） | 短径（cm） | 確認高（m） | 底面高（m） | 深さ（m） | 柱穴間隔 | 距離（m） | 方位 | | N50° E | |
| P44 | 楕円形 | U 字状 | 33 | 24 | 3.69 | 3.34 | 0.35 | 44-492 | 3.08 | 切り合い関係 | | | |
| P492 | 円形 | 漏斗状 | 28 | 26 | 3.69 | 3.44 | 0.25 | 492-126 | 1.64 | なし | | | |
| P126 | 円形 | U 字状 | 22 | 20 | 3.68 | 3.48 | 0.20 | 126-482 | 1.92 | | | | |
| P482 | 楕円形 | 漏斗状 | 26 | 22 | 3.68 | 3.33 | 0.35 | 482-83 | 1.64 | 出土遺物 | | | |
| P83 | 円形 | 漏斗状 | 28 | 26 | 3.70 | 3.46 | 0.24 | 83-357 | 3.08 | 柱根：P368<br>土師器甕 | | | |
| P357 | 楕円形 | U 字状 | 25 | 24 | 3.71 | 3.37 | 0.34 | 357-368 | 1.74 | | | | |
| P368 | 方形 | U 字状 | 26 | 22 | 3.69 | 3.35 | 0.34 | 368-45 | 1.80 | | | | |
| P45 | 楕円形 | U 字状 | 30 | 26 | 3.70 | 3.35 | 0.35 | 45-44 | 1.72 | | | | |

### SB198

| グリッド | 8B | | 掘立柱建物（側柱建物） | 桁行（m） | （3.34） | 梁間（m） | 3.02 | 床面積（㎡） | 10.01+ α | 時期 | 7 世紀後半 | 主軸方向 | 東西 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 柱穴番号 | 平面形 | 断面形 | 長径（cm） | 短径（cm） | 確認高（m） | 底面高（m） | 深さ（m） | 柱穴間隔 | 距離（m） | 方位 | | N57° E | |
| P147 | 楕円形 | U 字状 | 32 | 26 | 3.74 | 3.22 | 0.52 | 147-97 | 1.60 | 切り合い関係 | | | |
| P97 | 楕円形 | 階段状 | 40 | 34 | 3.78 | 3.26 | 0.52 | 97-679 | 1.42 | SB198 ＞ SD95、SK322 | | | |
| P679 | 楕円形 | U 字状 | 48 | 34 | 3.68 | 3.20 | 0.48 | 679-446 | 1.58 | | | | |
| P446 | 楕円形 | U 字状 | 38 | 31 | 3.80 | 3.35 | 0.45 | 446-451 | 1.76 | 出土遺物 | | | |
| P451 | 不整形 | U 字状 | 36 | 34 | 3.78 | 3.30 | 0.48 | 684-147 | 1.57 | 柱根：P97・P147・P446・P451、土師器甕 | | | |
| P684 | 楕円形 | U 字状 | 30 | 28 | 3.60 | 3.26 | 0.34 | | | | | | |

### SB199

| グリッド | 3C、4B、4C | | 掘立柱建物（側柱建物） | 桁行（m） | 4.64 | 梁間（m） | 4.44 | 床面積（㎡） | 20.60 | 時期 | 7 世紀後半 | 主軸方向 | 南北 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 柱穴番号 | 平面形 | 断面形 | 長径（cm） | 短径（cm） | 確認高（m） | 底面高（m） | 深さ（m） | 柱穴間隔 | 距離（m） | 方位 | | N39° E | |
| P15 | 不整形 | 漏斗状 | 36 | 34 | 3.44 | 3.06 | 0.38 | 15-17 | 2.15 | 切り合い関係 | | | |
| P17 | 円形 | 漏斗状 | 36 | 34 | 3.54 | 2.98 | 0.56 | 17-18 | 2.29 | SD4<br>SD5は付属施設か | | | |
| P18 | 楕円形 | U 字状 | 42 | 13 | 3.52 | 3.05 | 0.47 | 18-22 | 2.26 | | | | |
| P22 | 円形 | U 字状 | 36 | 32 | 3.55 | 3.02 | 0.53 | 22-23 | 2.38 | 出土遺物 | | | |
| P23 | 円形 | 漏斗状 | 45 | 40 | 3.53 | 3.08 | 0.45 | 23-25 | 2.20 | 柱根：P12・P15・P17・P23・P25 | | | |
| P25 | 楕円形 | U 字状 | 34 | 20 | 3.60 | 3.10 | 0.50 | 25-12 | 2.22 | | | | |
| P12 | 楕円形 | U 字状 | 44 | 36 | 3.56 | 3.08 | 0.48 | 12-14 | 2.44 | | | | |
| P14 | 楕円形 | U 字状 | 38 | 30 | 3.50 | 3.10 | 0.40 | 14-15 | 2.12 | | | | |

### SB500

| グリッド | 6C | | 掘立柱建物（側柱建物） | 桁行（m） | （1.58） | 梁間（m） | 3.27 | 床面積（㎡） | 5.17+ α | 時期 | 7 世紀後半 | 主軸方向 | 東西 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 柱穴番号 | 平面形 | 断面形 | 長径（cm） | 短径（cm） | 確認高（m） | 底面高（m） | 深さ（m） | 柱穴間隔 | 距離（m） | 方位 | | N73° E | |
| P39 | 楕円形 | U 字状 | 39 | 36 | 3.66 | 3.24 | 0.42 | 39-59 | 1.69 | 切り合い関係 | | | |
| P59 | 楕円形 | U 字状 | 35 | 25 | 3.62 | 3.24 | 0.38 | 59-54 | 1.58 | SD75 ＞ SB500 | | | |
| P54 | 楕円形 | U 字状 | 33 | 25 | 3.60 | 3.19 | 0.41 | 54-50 | 1.17 | 出土遺物 | | | |
| P50 | 楕円形 | U 字状 | 23 | 22 | 3.63 | 3.18 | 0.45 | 438-39 | 1.58 | 柱根：P39・P50、土師器甕 | | | |
| P438 | 円形 | U 字状 | 32 | 32 | 3.58 | 3.27 | 0.31 | | | | | | |

### SB501

| グリッド | 8B、8C | | 掘立柱建物（側柱建物） | 桁行（m） | 5.85 | 梁間（m） | 3.30 | 床面積（㎡） | 19.31 | 時期 | 7 世紀後半 | 主軸方向 | 東西 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 柱穴番号 | 平面形 | 断面形 | 長径（cm） | 短径（cm） | 確認高（m） | 底面高（m） | 深さ（m） | 柱穴間隔 | 距離（m） | 方位 | | N66° E | |
| P641 | 楕円形 | U 字状 | 38 | 29 | 3.76 | 3.52 | 0.24 | 641-571 | 1.81 | 切り合い関係 | | | |
| P571 | 楕円形 | U 字状 | 20 | 16 | 3.78 | 3.30 | 0.48 | 571-538 | 1.49 | SB501 ＞ SD117、SK130、SK558、SK560 | | | |
| P538 | 楕円形 | U 字状 | 28 | 21 | 3.80 | 3.40 | 0.40 | 538-631 | 2.53 | | | | |
| P631 | 円形 | U 字状 | 39 | 36 | 3.76 | 3.43 | 0.33 | 631-541 | 1.49 | | | | |
| P541 | 円形 | U 字状 | 29 | 28 | 3.78 | 3.30 | 0.48 | 541-129 | 1.80 | | | | |
| P129 | 楕円形 | 台形 | 60 | 45 | 3.80 | 3.29 | 0.51 | 129-489 | 1.90 | 出土遺物 | | | |
| P489 | 方形 | V 字状 | 35 | 34 | 3.68 | 3.30 | 0.38 | 489-556 | 1.37 | なし | | | |
| P556 | 円形 | U 字状 | 45 | 45 | 3.71 | 3.18 | 0.53 | 556-630 | 1.40 | | | | |
| P630 | 楕円形 | U 字状 | 38 | 25 | 3.78 | 3.36 | 0.42 | 630-121 | 1.69 | | | | |
| P121 | 円形 | U 字状 | 24 | 22 | 3.75 | 3.30 | 0.45 | 121-576 | 1.25 | | | | |
| P576 | 楕円形 | U 字状 | 23 | 19 | 3.76 | 3.28 | 0.48 | 576-641 | 1.51 | | | | |

## SB502

| グリッド | 8C、9C | | 掘立柱建物（側柱建物） | 桁行（m） | (2.20) | 梁間（m） | 2.00 | 床面積（㎡） | 4.40+ α | 時期 | 7 世紀後半 | 主軸方向 | 東西 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 柱穴番号 | 平面形 | 断面形 | 長径（cm） | 短径（cm） | 確認高（m） | 底面高（m） | 深さ（m） | 柱穴間隔 | 距離（m） | 方位 | | N58° W | |
| P549 | 楕円形 | U 字状 | 33 | 30 | 3.85 | 3.30 | 0.55 | 549-551 | 0.85 | 切り合い関係 | | | |
| P551 | 楕円形 | U 字状 | 25 | 21 | 3.85 | 3.38 | 0.47 | 551-140 | 0.56 | なし | | | |
| P140 | 楕円形 | 台形状 | 42 | 28 | 3.84 | 3.55 | 0.29 | 140-553 | 0.60 | | | | |
| P553 | 楕円形 | U 字状 | 20 | 18 | 3.85 | 3.40 | 0.45 | 134-552 | 1.08 | 出土遺物 | | | |
| P134 | 楕円形 | U 字状 | 22 | 18 | 3.88 | 3.50 | 0.38 | 552-549 | 1.12 | なし | | | |
| P552 | 円形 | U 字状 | 29 | 29 | 3.85 | 3.33 | 0.52 | | | | | | |

## SB503

| グリッド | 10B、11B | | 掘立柱建物（側柱建物） | 桁行（m） | 4.75 | 梁間（m） | 3.67 | 床面積（㎡） | 17.43 | 時期 | 7 世紀後半 | 主軸方向 | 南北 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 柱穴番号 | 平面形 | 断面形 | 長径（cm） | 短径（cm） | 確認高（m） | 底面高（m） | 深さ（m） | 柱穴間隔 | 距離（m） | 方位 | | N24° E | |
| P222 | 不整形 | U 字状 | 54 | 42 | 3.91 | 3.28 | 0.63 | 222-431 | 1.67 | 切り合い関係 | | | |
| P431 | 楕円形 | U 字状 | 44 | 36 | 3.91 | 3.33 | 0.58 | 431-219 | 2.00 | SK215、SK216、SK246、SK247、SK430 ＜ SB503 | | | |
| P219 | 楕円形 | U 字状 | 40 | 38 | 3.92 | 3.28 | 0.64 | 219-229 | 1.58 | | | | |
| P229 | 円形 | U 字状 | 49 | 28 | 3.94 | 3.32 | 0.62 | 229-233 | 1.28 | 出土遺物 | | | |
| P233 | 楕円形 | 階段状 | 22 | 18 | 3.82 | 3.30 | 0.52 | 233-608 | 1.86 | なし | | | |
| P608 | 楕円形 | U 字状 | 22 | 21 | 3.83 | 3.34 | 0.49 | 608-564 | 2.06 | | | | |
| P564 | 楕円形 | U 字状 | 34 | 24 | 3.96 | 3.30 | 0.66 | 564-612 | 1.60 | | | | |
| P612 | 楕円形 | U 字状 | 35 | 30 | 3.98 | 3.37 | 0.61 | 612-251 | 1.16 | | | | |
| P251 | 楕円形 | U 字状 | 42 | 37 | 3.92 | 3.28 | 0.64 | 251-454 | 1.96 | | | | |
| P454 | 楕円形 | U 字状 | 32 | 28 | 3.91 | 3.34 | 0.57 | 454-222 | 1.63 | | | | |

## SB504

| グリッド | 10C、11C | | 掘立柱建物（側柱建物） | 桁行（m） | (2.02) | 梁間（m） | 4.38 | 床面積（㎡） | 8.85+ α | 時期 | 7 世紀後半 | 主軸方向 | 南北 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 柱穴番号 | 平面形 | 断面形 | 長径（cm） | 短径（cm） | 確認高（m） | 底面高（m） | 深さ（m） | 柱穴間隔 | 距離（m） | 方位 | | N55° E | |
| P624 | 円形 | U 字状 | 40 | 38 | 3.92 | 3.32 | 0.60 | 624-272 | 1.48 | 切り合い関係 | | | |
| P272 | 楕円形 | U 字状 | 44 | 34 | 3.92 | 3.30 | 0.62 | 272-381 | 1.50 | SB504 ＞ SK424 | | | |
| P381 | 楕円形 | U 字状 | 42 | 32 | 3.94 | 3.35 | 0.59 | 381-258 | 1.40 | 出土遺物 | | | |
| P258 | 楕円形 | U 字状 | 65 | 39 | 3.91 | 3.24 | 0.67 | 258-245 | 2.02 | なし | | | |
| P245 | 楕円形 | 階段状 | 42 | 40 | 3.96 | 3.26 | 0.70 | | | | | | |

## SB505

| グリッド | 10C、11B・C | | 掘立柱建物（側柱建物） | 桁行（m） | (4.25) | 梁間（m） | 4.38 | 床面積（㎡） | 18.62+ α | 時期 | 7 世紀後半 | 主軸方向 | 南北 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 柱穴番号 | 平面形 | 断面形 | 長径（cm） | 短径（cm） | 確認高（m） | 底面高（m） | 深さ（m） | 柱穴間隔 | 距離（m） | 方位 | | N70° E | |
| P643 | 楕円形 | U 字状 | 40 | 35 | 3.86 | 3.54 | 0.32 | 643-623 | 1.55 | 切り合い関係 | | | |
| P623 | 楕円形 | U 字状 | 28 | 22 | 4.00 | 3.59 | 0.41 | 623-617 | 1.40 | SB504 ＞ SK261、SK277、SK424、SK744 | | | |
| P617 | 楕円形 | U 字状 | 66 | 45 | 4.02 | 3.57 | 0.45 | 617-164 | 1.43 | | | | |
| P164 | 楕円形 | U 字状 | 27 | 21 | 4.02 | 3.56 | 0.46 | 164-611 | 2.25 | 出土遺物 | | | |
| P611 | 楕円形 | U 字状 | 65 | 40 | 3.97 | 3.53 | 0.44 | 611-645 | 2.00 | なし | | | |
| P645 | 楕円形 | 階段状 | 40 | 29 | 3.98 | 3.58 | 0.40 | 447-643 | 2.43 | | | | |
| P447 | 楕円形 | 階段状 | 24 | 23 | 4.01 | 3.58 | 0.43 | | | | | | |

## SB506

| グリッド | 10B・C、11B・C | | 掘立柱建物（側柱建物） | 桁行（m） | (4.80) | 梁間（m） | 3.58 | 床面積（㎡） | 17.18+ α | 時期 | 7 世紀後半 | 主軸方向 | 東西 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 柱穴番号 | 平面形 | 断面形 | 長径（cm） | 短径（cm） | 確認高（m） | 底面高（m） | 深さ（m） | 柱穴間隔 | 距離（m） | 方位 | | N78° W | |
| P470 | 楕円形 | 漏斗状 | 16 | 12 | 3.97 | 3.31 | 0.66 | 470-375 | 2.00 | 切り合い関係 | | | |
| P375 | 楕円形 | U 字状 | 22 | 18 | 3.87 | 3.34 | 0.53 | 375-346 | 1.58 | SB506 ＞ SK246、SK261 | | | |
| P346 | 楕円形 | U 字状 | 50 | 34 | 3.92 | 3.29 | 0.63 | 346-236 | 2.36 | | | | |
| P236 | 楕円形 | U 字状 | 48 | 31 | 3.93 | 3.34 | 0.59 | 493-260 | 2.24 | 出土遺物 | | | |
| P493 | 円形 | U 字状 | 28 | 28 | 3.91 | 3.33 | 0.58 | 260-470 | 2.56 | 柱根：P346・P493、須恵器杯 | | | |
| P260 | 円形 | U 字状 | 12 | 12 | 3.94 | 3.30 | 0.64 | | | | | | |

## SB507

| グリッド | 11B・C | | 掘立柱建物（側柱建物） | 桁行（m） | (3.86) | 梁間（m） | 3.91 | 床面積（㎡） | 15.01+ α | 時期 | 7 世紀後半 | 主軸方向 | 南北 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 柱穴番号 | 平面形 | 断面形 | 長径（cm） | 短径（cm） | 確認高（m） | 底面高（m） | 深さ（m） | 柱穴間隔 | 距離（m） | 方位 | | N35° W | |
| P432 | 楕円形 | U 字状 | 30 | 24 | 3.86 | 3.22 | 0.64 | 432-647 | 2.20 | 切り合い関係 | | | |
| P647 | 楕円形 | 台形状 | 68 | 45 | 3.98 | 3.32 | 0.66 | 273-652 | 1.80 | SK280、SD291 ＞ SB507 ＞ SK637、P626 | | | |
| P273 | 楕円形 | U 字状 | 51 | 31 | 3.86 | 3.34 | 0.52 | 652-642 | 1.70 | | | | |
| P652 | 楕円形 | 階段状 | 28 | (26) | 3.88 | 3.30 | 0.58 | 655-433 | 2.16 | | | | |
| P642 | 楕円形 | U 字状 | 36 | 26 | 3.90 | 3.35 | 0.55 | 433-432 | 1.70 | 出土遺物 | | | |
| P655 | 円形 | U 字状 | 29 | 24 | 3.77 | 3.24 | 0.53 | | | なし | | | |
| P433 | 楕円形 | 漏斗状 | 46 | 40 | 3.86 | 3.12 | 0.74 | | | | | | |

## SB508

| グリッド | 11A・B、12A・B | | 掘立柱建物（側柱建物） | 桁行（m） | 4.80 | 梁間（m） | (2.60) | 床面積（㎡） | (12.48+α) | 時期 | 7 世紀後半 | 軸方向 | 南北 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 柱穴番号 | 平面形 | 断面形 | 長径（cm） | 短径（cm） | 確認高（m） | 底面高（m） | 深さ（m） | 柱穴間隔 | 距離（m） | 方位 | | N85° E | |
| P304 | 楕円形 | U 字状 | 47 | 38 | 4.00 | 3.56 | 0.44 | 304-305 | 1.60 | 切り合い関係 | | | |
| P305 | 楕円形 | U 字状 | 45 | 33 | 3.96 | 3.52 | 0.44 | 305-428 | 1.46 | SB508 ＞ P148、P658 | | | |
| P428 | 不整形 | 弧状 | 60 | 53 | 3.98 | 3.78 | 0.20 | 428-319 | 1.76 | 出土遺物 | | | |
| P319 | 楕円形 | 漏斗状 | 62 | 46 | 3.96 | 3.59 | 0.37 | 319-318 | 2.40 | 柱根：P305<br>須恵器蓋 | | | |
| P318 | 円形 | U 字状 | 36 | 34 | 3.92 | 3.50 | 0.42 | 299-407 | 2.60 | | | | |
| P299 | 楕円形 | U 字状 | 44 | 35 | 4.00 | 3.62 | 0.38 | | | | | | |

## SB509

| グリッド | 12B | | 掘立柱建物（側柱建物） | 桁行（m） | 5.31 | 梁間（m） | 4.43 | 床面積（㎡） | 23.52 | 時期 | 7 世紀後半 | 主軸方向 | 東西 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 柱穴番号 | 平面形 | 断面形 | 長径（cm） | 短径（cm） | 確認高（m） | 底面高（m） | 深さ（m） | 柱穴間隔 | 距離（m） | 方位 | | N75° W | |
| P321 | 楕円形 | U 字状 | 33 | 27 | 4.06 | 3.46 | 0.60 | 321-516 | 3.11 | 切り合い関係 | | | |
| P516 | 楕円形 | U 字状 | 21 | 18 | 3.64 | 3.50 | 0.14 | 516-584 | 1.32 | SD290、SD291、SD341 ＞ SB509 ＞ SK405 | | | |
| P584 | 楕円形 | U 字状 | 40 | 38 | 4.06 | 3.48 | 0.58 | 584-332 | 5.31 | | | | |
| P332 | 楕円形 | U 字状 | 27 | 22 | 3.75 | 3.52 | 0.23 | 332-331 | 1.26 | | | | |
| P331 | 楕円形 | U 字状 | 40 | 32 | 4.00 | 3.52 | 0.48 | 331-334 | 1.52 | 出土遺物 | | | |
| P334 | 円形 | U 字状 | 28 | 28 | 4.02 | 3.50 | 0.52 | 334-350 | 1.62 | 須恵器杯、土師器甕 | | | |
| P350 | 楕円形 | U 字状 | 55 | 40 | 3.82 | 3.48 | 0.34 | 350-592 | 1.78 | | | | |
| P592 | 不整形 | U 字状 | 36 | 34 | 4.00 | 3.48 | 0.52 | 592-323 | 1.76 | | | | |
| P323 | 不整形 | U 字状 | 40 | 32 | 4.02 | 3.52 | 0.50 | 323-321 | 1.76 | | | | |

## SB510

| グリッド | 11B・C | | 掘立柱建物（側柱建物） | 桁行（m） | （3.26） | 梁間（m） | 3.83 | 床面積（㎡） | 12.49+ α | 時期 | 7 世紀後半 | 主軸方向 | 南北 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 柱穴番号 | 平面形 | 断面形 | 長径（cm） | 短径（cm） | 確認高（m） | 底面高（m） | 深さ（m） | 柱穴間隔 | 距離（m） | 方位 | | N33° W | |
| P439 | 円形 | U 字状 | 27 | 26 | 4.02 | 3.48 | 0.54 | 439-458 | 1.95 | 切り合い関係 | | | |
| P458 | 楕円形 | 漏斗状 | 47 | 38 | 3.93 | 3.45 | 0.48 | 458-292 | 1.88 | SD291、SD307 ＞ SB501 ＞ SK314、SK717、P577 | | | |
| P292 | 楕円形 | U 字状 | 30 | 26 | 3.98 | 3.46 | 0.52 | 292-462 | 1.60 | | | | |
| P462 | 円形 | U 字状 | 27 | 27 | 3.94 | 3.47 | 0.47 | 462-464 | 1.65 | | | | |
| P464 | 円形 | U 字状 | 25 | 24 | 3.66 | 3.45 | 0.21 | 575-465 | 1.62 | 出土遺物 | | | |
| P575 | 円形 | U 字状 | 27 | 23 | 4.02 | 3.50 | 0.52 | 465-439 | 1.64 | なし | | | |
| P465 | 楕円形 | U 字状 | 34 | 27 | 4.00 | 3.49 | 0.51 | | | | | | |

## SB511

| グリッド | 13A・13B | | 掘立柱建物（側柱建物） | 桁行（m） | 7.18 | 梁間（m） | 3.66 | 床面積（㎡） | 26.28 | 時期 | 7 世紀後半 | 主軸方向 | 東西 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 柱穴番号 | 平面形 | 断面形 | 長径（cm） | 短径（cm） | 確認高（m） | 底面高（m） | 深さ（m） | 柱穴間隔 | 距離（m） | 方位 | | N75° E | |
| P759 | 楕円形 | U 字状 | 34 | 32 | 3.60 | 3.21 | 0.39 | 759-364 | 1.72 | 切り合い関係 | | | |
| P364 | 楕円形 | U 字状 | 40 | 36 | 3.66 | 3.12 | 0.54 | 364-737 | 1.94 | SK393、SK394、SK719、SK720、SK727 ＜ SB511 ＜ SD724 | | | |
| P737 | 楕円形 | U 字状 | 38 | 28 | 3.82 | 3.16 | 0.66 | 737-739 | 1.94 | | | | |
| P739 | 楕円形 | U 字状 | 34 | 29 | 3.82 | 3.23 | 0.59 | 739-287 | 1.62 | | | | |
| P287 | 楕円形 | U 字状 | 36 | 32 | 3.86 | 3.23 | 0.63 | 287-735 | 1.74 | | | | |
| P735 | 楕円形 | U 字状 | 42 | 36 | 3.91 | 3.29 | 0.62 | 725-379 | 1.70 | | | | |
| P725 | 円形 | U 字状 | 30 | 30 | 3.65 | 3.14 | 0.51 | 379-533 | 1.78 | 出土遺物 | | | |
| P379 | 楕円形 | U 字状 | 30 | 24 | 3.60 | 3.16 | 0.44 | 533-723 | 1.78 | 柱根：P364、P723、P756、P759、土師器杯・甕 | | | |
| P533 | 円形 | U 字状 | 32 | 30 | 3.44 | 3.12 | 0.32 | 723-756 | 1.68 | | | | |
| P723 | 楕円形 | U 字状 | 36 | 28 | 3.64 | 3.08 | 0.56 | 756-759 | 1.94 | | | | |
| P756 | 楕円形 | U 字状 | 34 | 30 | 3.64 | 3.14 | 0.50 | | | | | | |

# 行屋崎遺跡　遺構観察表（２）　柵（SA）

## SA515

| グリッド | 11B・C、12A・B | | 柱列 | 桁行（m） | 18.20 | 梁間（m） | ― | 床面積(㎡) | ― | 時期 | 9 世紀代 | 主軸方向 | 東西 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 柱穴番号 | 平面形 | 断面形 | 長径（cm） | 短径（cm） | 確認高（m） | 底面高（m） | 深さ（m） | 柱穴間隔 | 距離（m） | 方位 | | N63° E | |
| P317 | 円形 | U 字状 | 28 | 26 | 3.91 | 3.60 | 0.31 | 317-441 | 3.61 | 切り合い関係 | | | |
| P441 | 円形 | U 字状 | 26 | 25 | 3.92 | 3.56 | 0.36 | 441-429 | 3.32 | SK280 ＞ SA515 | | | |
| P429 | 円形 | U 字状 | 25 | 22 | 3.94 | 3.62 | 0.32 | 429-745 | 3.74 | | | | |
| P745 | 楕円形 | U 字状 | 32 | 24 | 3.94 | 3.69 | 0.25 | 745-649 | 3.81 | 出土遺物 | | | |
| P649 | 円形 | U 字状 | 26 | 26 | 3.60 | 3.43 | 0.17 | 649-625 | 3.72 | なし | | | |
| P625 | 楕円形 | U 字状 | 24 | 18 | 3.91 | 3.70 | 0.21 | | | | | | |

# 行屋崎遺跡　遺構観察表（３）　溝（SD）

| 遺構番号 | グリッド | 長さ（m） | 幅（m） | 深さ（cm） | 平面形 | 断面形 | 覆土 | 方位 | 出土遺物 | 切り合い関係 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SD4 | 4B15・18・19・20・22・23、4C06・11、5A04・05、5B01・02 | 18.20 以上 | 0.30 ～ 0.88 | 7 | L 字 | 弧状 | 単層 | N50° E<br>N57° W | 土師器杯<br>須恵器瓶・甕<br>土錘 | SD5 ＜ SD4 |
| SD5 | 4B04・05・09・10・15、4C11、3B20・25 | 9.80 | 0.26 ～ 0.45 | 21 | L 字 | 弧状 | 水平 | N50° E<br>N52° W | 土師器甕 | SD5 ＜ SD4<br>SB199 の付属施設か |
| SD33 | 5B24・25、5C21、6B04・05・09・10・14・15・20、6C16・21・22 | 13.98 | 0.68 ～ 2.30 | 15 ～ 32 | L 字 | 弧状 | レンズ | N51° E<br>N39° W | 土師器甕、須恵器甕 | SD75、P699 ＞ SD33 |
| SD73 | 6A20、6B16・17・21・22 | 3.33 | 0.16 ～ 0.48 | 15 | 直線 | 弧状 | 水平 | N73° W | 土師器甕、須恵器甕 | P47 ＜ SD73 |
| SD75 | 6B19・20・23・24・25、6C07・11・12・16、7A10・14・15・19・20、7B02・03・.06・07 | 20.10 以上 | 0.32 ～ 0.90 | 10 | 直線 | 弧状 | 水平 | N58° E | 土師器甕、須恵器甕 | SD33、P438 ＜ SD75 ＝ SD532 ＜ P43 |
| SD94 | 7B15・20、7C07・11・12 | 5.52 以上 | 0.29 ～ 0.41 | 11 | 直線 | 弧状 | 単層 | N59° E | 土師器甕 | SD95 ＜ SD94 ＜ P450 |
| SD95 | 7B14・15・18・19・20、7C11・12・16・17 | 9.08 以上 | 0.39 ～ 1.01 | 11 | 直線 | 弧状 | レンズ | N85° E | 土師器甕 | SD94、P92・105・460・461・679 ＞ SD95 |
| SD100 | 7A15・19・20・7B06・07・12・13・17・18・21・22、8A05、8B01 | 18.14 以上 | 0.36 ～ 0.50 | 7 | コ字 | 弧状 | レンズ | N49° E<br>N42° W | 土師器甕、須恵器甕 | P255 ＞ SD100 ＞ SD117<br>SB131 の付属施設か |
| SD111 | 7B24・25、8B05 | 3.95 | 0.19 ～ 0.49 | 12 | 直線 | 弧状 | レンズ | N39° W | 土師器甕 | SD116 ＝ SD111 |
| SD116 | 7C21・22・23、8A14・15・19・20、8B05・07・08・09・10・11・12・13、8C01 | 18.35 以上 | 0.23 ～ 0.60 | 9 | 直線 | 弧状 | レンズ | N65° E | 土師器甕 | SD117、P644・648 ＜ SD116 ＝ SD111 |
| SD117 | 7B21・22・23、8A04・05・09・10、8B01・03・08・09・14 | 12.50 以上 | 0.50 ～ 1.20 | 18 | L 字 | 弧状 | 水平 | N58° E<br>N27° W | 土師器高杯・甕<br>須恵器蓋・甕 | SD100・116、P255・489・537・556、SK490 ＞ SD117 |
| SD141 | 9C06・07・12 | 3.27 | 0.28 ～ 0.58 | 10 | 直線 | 弧状 | 水平 | N39° W | 土師器甕 | SD160 ＞ SD141 |

| 遺構番号 | グリッド | 長さ（m） | 幅（m） | 深さ（cm） | 平面形 | 断面形 | 覆土 | 方位 | 出土遺物 | 切り合い関係 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SD160 | 9B20・23・24・25、9C12・13、10A09・10・14、10B01・02・03・06 | 15.70 以上 | 0.54 ～ 0.80 | 21 | 直線 | 弧状～階段状 | レンズ | N60° E | 土師器高杯・甕、須恵器杯・甕 | SD141、P201・202・539、SK403 ＜ SD160 |
| SD200 | 9C21・22、10A19・20・24・25、10B05・07・08・09・10・11・12・13・16、10C01・02 | 17.90 以上 | 0.54 ～ 0.98 | 11 | 直線 | 弧状 | レンズ | N60° E | 土師器高杯・甕、須恵器甕 | SD200 ＞ P209 ＞ SD250 |
| SD250 | 10A19・20・25、11A05・10・15、11B01・06・11・12 | 10.00 以上 | 0.30 ～ 1.80 | 20 | 直線 | 弧状 | 水平 | N27° W | 土師器高杯・甕<br>須恵器甕<br>砥石 | SD613 ＜ SD250 ＜ SD200、P419・620・622・702・703・704・705 |
| SD290 | 11C21・22、12A14・15・19・20、12B04・05・06・07・08・09・11、12C01・02 | 17.96 以上 | 0.50 ～ 1.42 | 19 | 直線 | 台形状 | 単層 | N69° E | 土師器甕<br>須恵器杯蓋<br>珠洲焼擂鉢・甕 | P332・586、SD291 ＜ SD290=S D 488 |
| SD291 | 11B23・24・25、11C16・17・21・22、12A02・09・10・14・15・19・20、12B03・04・05・06・07・08・09・10・11・12、12C01・02 | 18.30 以上 | 2.98 ～ 4.10 | 48 ～ 61 | 直線 | 台形状 | 斜め | N69° E | 須恵器杯、土師器甕・甑、砥石、鉄斧 | SD290・488 ＞ SD291 ＞ SK330・718、P516・751・752 |
| SD307 | 11B17・18・19 | 3.86 | 0.28 ～ 0.50 | 6 | 直線 | 弧状 | 単層 | N72° W | 土師器 | SD307 ＞ SK308・314、P462、SK717 |
| SD340 | 12B18・19・20・22・23・24・25、12C11・12・16、13B01・02・03、13A04・05・09 | 16.98 | 1.26 ～ 1.78 | 14 ～ 20 | 直線 | 台形状 | 水平 | N65° E° | 須恵器杯・蓋 | SD347・724 ＞ SD340 ＞ SK351・P387 |
| SD341 | 12A25、12B13・14・15・16・17・18・19・20・21・22・23、12C06・07・11 | 16.38 以上 | 0.52 ～ 1.56 | 9 ～ 14 | 直線 | 台形状 | 水平 | N64° E | 須恵器杯・甕、土師器高杯・甕 | SD341 ＞ P350・354、SK405 |
| SD347 | 12B19・20・22・23・24・25、12C11・12・16、13A05・09・10、13B01・02 | 19.93 以上 | 0.25 ～ 0.69 | 16 ～ 20 | 直線 | 台形状 | レンズ | N65° E | 須恵器甕<br>土師器甕 | SD724 ＞ SD347 ＞ SD340、SK345 |
| SD374 | 9A25、9B21、10A04・05・09、10B01 | 4.68 以上 | 0.26 ～ 0.39 | 13 | 直線 | 弧状 | レンズ | N53° E | 土師器高杯・甕 | SK170 ＞ SD374 |
| SD384 | 13B08・09・14 | 1.59 | 0.31 ～ 0.38 | 11 ～ 14 | 直線 | 弧状 | レンズ | N22° W | 土師器甕 | SK423 ＜ SD384 |
| SD412 | 13C11・12 | 2.12 以上 | 0.48 ～ 0.66 | 42 | 直線 | 箱状 | レンズ | N64° E | 土師器高杯・甕 | なし |
| SD414 | 13B19・20、13C11・16 | 3.60 | 0.17 ～ 0.24 | 21 ～ 29 | 直線 | U 字状 | 水平 | N62° E | 土師器甕 | SK415・416 ＜ SD414 |
| SD488 | 11B20、11C16・21 | 3.10 | 0.32 ～ 0.82 | 3 | 直線 | 弧状 | 単層 | N20° W | なし | SD488 ＝ SK280、SD290 ＞ SD291（SK280・SD290 は一体の施設と考えられる） |
| SD491 | 15A15・20、15B03・04・05・06・07・08・09・10・11・12・13・14・15、15C01・02・06・07 | 14.78 以上 | 1.50 ～ 3.50 | 32 ～ 40 | 直線 | 台形状 | 5 層 | N76° E | 土師器杯、須恵器杯 | SD491 ＞ SK653、SR400 |
| SD532 | 7A05・10、7B01・06 | 1.78 | 0.22 ～ 0.29 | 10 | 直線 | 弧状 | 単層 | N20° W | なし | SD75 ＝ SD532 |
| SD613 | 11A04・05・09・10 | 2.60 以上 | 0.42 ～ 0.94 | 10 | 直線 | 弧状 | 水平 | N65° E | 土師器高杯・甕 | SD250 ＞ SD613 |
| SD668 | 9C01・06・07・11・12 | 4.35 以上 | 0.26 ～ 0.58 | 10 | 直線 | 弧状 | 水平 | N21° W | 土師器高杯・甕 | なし |
| SD724 | 12A24、13A04・05・10・15、13B06・11・16 | 9.18 以上 | 0.28 ～ 0.62 | 18 ～ 23 | 直線 | 弧状 | 水平 | N32° W | 土師器甕 | SD340・347、SK665、P287・523・676 ＜ SD724 |
| SD768 | 13B06・22・23、14A04、14B01・02 | 8.73 以上 | 0.20 ～ 0.45 | 21 ～ 29 | 直線 | U 字状 | 水平 | N68° E | 土師器高杯・甕 | SK720・732・734 ＜ SD768 |

## 行屋崎遺跡　遺構観察表（４）　旧河川流路（SR）

| 遺構番号 | グリッド | 長さ（m） | 幅（m） | 深さ（cm） | 平面形 | 断面形 | 覆土 | 方位 | 出土遺物 | 切り合い関係 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SR400 | 13B・C、14A・B・C、15A・B・C、16A・B・C | 16.00 以上 | 28.00 以上 | 0.60 以上 | 不明 | 不明 | 水平 | 不明 | 杯・蓋・高杯・甕、円筒形土製品、鞴羽口、紡錘車、砥石、鈴、耳環、直柄平鍬・柄・丸木弓など | SD491 ＞ SR400 |

## 行屋崎遺跡　遺構観察表（５）　土坑（SK）

| 遺構番号 | グリッド | 平面形 | 断面形 | 長径（cm） | 短径（cm） | 深さ（cm） | 底面高（m） | 覆土 | 出土遺物 | 切り合い関係 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK1 | 3B02 | 方形 | 弧状 | 74 | 68 | 12 | 3.37 | 水平 | 土師器高杯・甕 | |
| SK2 | 3C17 | 不整形 | 弧状 | 130 | 98 | 12 | 3.38 | レンズ | 土師器甕、須恵器杯 | |
| SK3 | 3A05、3B01 | 楕円形 | 弧状 | 100 | 56 | 12 | 3.34 | 水平 | 土師器甕 | |
| SK6 | 3B01 | 不整形 | 弧状 | 174 | 120 | 14 | 3.36 | 水平 | 土師器杯・甕 | |
| SK7 | 3B01・02 | 楕円形 | 弧状 | 110 | 65 | 12 | 3.37 | 水平 | 土師器杯・甕 | |
| SK9 | 3B08 | 楕円形 | 弧状 | 57 | 26 | 10 | 3.40 | 水平 | 土師器甕・コップ形須恵器 | |
| SK10 | 3B03・08 | 楕円形 | 弧状 | (96) | 93 | 13 | 3.36 | 水平 | 土師器高杯・甕 | |
| SK11 | 3B06・07・08・11・12 | 不整形 | 弧状 | 244 | 165 | 14 | 3.38 | レンズ | 土師器甕、須恵器甕、円柱支脚 | |
| SK13 | 4C22 | 楕円形 | 弧状 | 95 | 88 | 18 | 3.45 | 水平 | 土師器甕 | |
| SK16 | 4C16 | 楕円形 | 弧状 | 83 | 67 | 10 | 3.52 | 水平 | 土師器甕 | |
| SK19 | 5B05 | 楕円形 | 弧状 | 119 | 78 | 12 | 3.51 | 水平 | 土師器杯・甕 | |
| SK20 | 5B10 | 楕円形 | 弧状 | 64 | 49 | 9 | 3.52 | 単層 | 土師器甕、須恵器杯 | |
| SK21 | 5C06 | 楕円形 | 弧状 | 73 | 51 | 11 | 3.51 | 水平 | 土師器甕 | |
| SK24 | 5B15、5C11 | 楕円形 | 弧状 | 74 | 44 | 10 | 3.54 | 水平 | 土師器高杯・甕 | P711 ＞ SK24 |
| SK29 | 5C02 | 不整形 | 弧状 | 87 | 64 | 12 | 3.50 | 水平 | 土師器高杯・甕 | |
| SK30 | 5C02 | 楕円形 | 箱状 | 104 | 38 | 8 | 3.50 | 水平 | 土師器甕 | |
| SK40 | 5B21・22、6B01・02 | 楕円形 | 弧状 | 93 | 64 | 14 | 3.50 | 水平 | 土師器高杯・甕、須恵器甕 | |
| SK58 | 6B01・06 | 楕円形 | 弧状 | 89 | 75 | 10 | 3.57 | 水平 | 土師器杯・甕 | |
| SK74 | 6A25、7A05 | 楕円形 | 弧状 | 164 | 104 | 24 | 3.40 | レンズ | 土師器甕、砥石 | |
| SK85 | 7C02 | 楕円形 | 弧状 | 75 | 55 | 17 | 3.55 | レンズ | 土師器甕 | |
| SK88 | 7B10、7C06 | 方形 | 弧状 | 110 | 72 | 16 | 3.54 | レンズ | 土師器杯・甕 | |
| SK89 | 7C06 | 楕円形 | 台形状 | 70 | 60 | 22 | 3.52 | 水平 | 土師器高杯・甕 | |
| SK110 | 7B23・24 | 楕円形 | 弧状 | 84 | 40 | 14 | 3.60 | レンズ | 土師器高杯 | |
| SK128 | 8C07・08・12・13 | 方形 | 弧状 | (42) | 60 | 8 | 3.72 | レンズ | 土師器甕、須恵器甕 | |
| SK130 | 8B15・20 | 楕円形 | 弧状 | 94 | 56 | 12 | 3.68 | 水平 | 土師器甕 | P541 ＞ SK130 |
| SK135 | 8B19・24 | 不整形 | 弧状 | 140 | 48 | 14 | 3.70 | 水平 | 土師器杯・甕 | |
| SK136 | 8B18・23 | 楕円形 | 弧状 | (102) | 91 | 10 | 3.72 | レンズ | 土師器甕 | SK137 ＞ SK136 |

| 遺構番号 | グリッド | 平面形 | 断面形 | 長径（cm） | 短径（cm） | 深さ（cm） | 底面高（m） | 覆土 | 出土遺物 | 切り合い関係 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK137 | 8B17・18・22・23 | 方形 | 弧状 | 147 | 140 | 10 | 3.72 | レンズ | 土師器甕 | SK136＜SK137 |
| SK138 | 8B17・22 | 方形 | 弧状 | 92 | 75 | 7 | 3.74 | 水平 | 土師器甕、須恵器杯・甕、石製紡錘車、獣骨 | SK139＞SK138 |
| SK139 | 8B16・17・21・22 | 不整形 | 弧状 | 110 | 84 | 5 | 3.72 | 水平 | 土師器甕 | SK138＜SK139 |
| SK150 | 9B06・07・11・12 | 不整形 | 台形状 | 159 | 100 | 46 | 3.37 | 水平 | 土師器高杯・甕 | |
| SK151 | 9A09 | 楕円形 | 箱状 | (45) | 45 | 14 | 3.69 | 水平 | 土師器甕 | |
| SK163 | 9B12・17 | 楕円形 | 台形状 | 89 | 61 | 27 | 3.58 | レンズ | 土師器甕 | P561＞SK163 |
| SK165 | 11B05 | 楕円形 | 箱状 | 92 | 50 | 26 | 3.68 | 水平 | 土師器高杯・甕 | |
| SK167 | 9A04・05 | 楕円形 | 台形状 | 74 | 57 | 54 | 3.29 | 水平 | 土師器甕、獣骨 | |
| SK170 | 9B16・17・21 | 不整形 | 台形状 | 296 | 200 | 30 | 4.30 | レンズ | 土師器杯・高杯、土製円柱支脚 | SD374＜SK170＜P157・444・445 |
| SK172 | 9B18・23 | 楕円形 | 弧状 | 103 | 82 | 24 | 3.66 | レンズ | 土師器高杯・甕、須恵器甕、獣骨 | |
| SK174 | 9B22 | 楕円形 | 弧状 | 43 | 22 | 33 | 3.53 | ブロック | 土師器甕 | |
| SK180 | 9B22 | 楕円形 | 台形状 | 100 | 58 | 17 | 3.67 | 水平 | 土師器甕 | P675＞SK180 |
| SK182 | 9B20・25、9C21 | 楕円形 | 箱状 | 160 | (42) | 32 | 3.60 | 水平 | 土師器杯・甕 | P329＞SK182 |
| SK190 | 10B05・10、10C01・06 | 不整形 | 弧状 | 179 | 91 | 13 | 3.82 | 水平 | 土師器高杯・甕、須恵器蓋・高杯・甕、鞴羽口、凹石 | P440＞SK190 |
| SK197 | 10B03・08 | 楕円形 | 弧状 | 131 | 77 | 9 | 3.82 | 単層 | 土師器杯・甕、須恵器甕 | |
| SK207 | 10A15・20 | 不整形 | 弧状 | 130 | 86 | 16 | 3.73 | レンズ | 土師器杯・甕、須恵器甕、獣骨 | |
| SK208 | 10A15・20、10B11・16 | 楕円形 | 台形状 | 130 | 108 | 63 | 3.23 | レンズ | 土師器高杯・甕、須恵器杯・甕、獣骨 | |
| SK210 | 10B09・14 | 楕円形 | 台形状 | 151 | 101 | 55 | 3.36 | レンズ | 土師器杯・高杯・甕、須恵器甕、鞴羽口、塊状土製品、カマド形土製品、獣骨 | |
| SK215 | 10B13・18 | 楕円形 | 弧状 | 146 | 94 | 11 | 3.81 | 水平 | 土師器甕、獣骨 | SK216＜SK215 |
| SK216 | 10B13・14・18・19 | 不整形 | 弧状 | 214 | 131 | 10 | 3.81 | 水平 | 土師器甕、獣骨 | SK215、P223・408・431＞SK216 |
| SK234 | 10C17・18 | 楕円形 | 台形状 | 60 | 50 | 20 | 3.74 | 水平 | 土師器高杯・鉢・甕、獣骨 | |
| SK237 | 10C21・22 | 円形 | U字状 | 52 | 45 | 52 | 3.46 | レンズ | 土師器高杯・甕、カマド型土製品 | |
| SK240 | 10A20・25、10B21 | 楕円形 | 弧状 | 150 | 130 | 10 | 3.86 | レンズ | 土師器甕、獣骨 | |
| SK244 | 11A04 | 不整形 | 弧状 | 134 | (64) | 12 | 3.83 | レンズ | 土師器甕、鍛冶滓 | |
| SK246 | 10B25、10C21、11B05、11C01 | 楕円形 | 台形状 | 110 | 107 | 26 | 3.72 | レンズ | 土師器杯・高杯・甕、須恵器甕、獣骨 | P375・587・608＞SK246 |
| SK247 | 10B24・11B04・05 | 楕円形 | 台形状 | 110 | 92 | 31 | 3.67 | レンズ | 土師器杯・高杯・甕、須恵器杯・甕、獣骨 | P564＞SK247 |
| SK261 | 11B05 | 楕円形 | 台形状 | 83 | 54 | 19 | 3.75 | レンズ | 土師器甕、獣骨 | P467・470＞SK261 |
| SK277 | 11B10、11C06 | 楕円形 | 弧状 | 102 | 60 | 15 | 3.80 | 水平 | 土師器甕、須恵器杯・甕、獣骨 | P276・623・746＞SK277 |
| SK278 | 11B08・09 | 方形 | 弧状 | 87 | 85 | 18 | 3.82 | レンズ | 土師器杯・甕 | |
| SK280 | 11B14・15・19・20、11C11・12・16 | 不整形 | 台形状 | 600 | 220 | 16 | 3.85 | 水平 | 珠洲焼擂鉢 | P70・466・649・655・657、SK281・628・637・744＜SK280=SD488 |
| SK281 | 11C11・16 | 楕円形 | 弧状 | 102 | 84 | 28 | 3.60 | 水平 | 土師器甕、獣骨 | SK280、P649＞SK281 |
| SK282 | 11B14 | 楕円形 | 弧状 | 70 | 40 | 6 | 3.89 | 単層 | 土師器甕、金属製耳環 | |
| SK297 | 11A09・14 | 不整形 | 弧状 | (80) | 96 | 7 | 3.90 | 水平 | 土師器甕、獣骨 | |
| SK306 | 11B12・17 | 楕円形 | 台形状 | 80 | 57 | 20 | 3.76 | レンズ | 土師器甕、須恵器杯 | SK314＜SK306 |
| SK308 | 11B13・18・19 | 楕円形 | 台形状 | 163 | 80 | 66 | 3.32 | 水平 | 土師器高杯・甕、須恵器杯・甕 | SD307＞SK308＞SK717 |
| SK309 | 11B16・17 | 楕円形 | 弧状 | 125 | 68 | 18 | 3.80 | レンズ | 土師器杯・甕、獣骨 | SK314＜SK309 |
| SK311 | 8B20・25、8C16 | 長方形 | 弧状 | 168 | 97 | 8 | 3.66 | レンズ | 土師器高杯・甕、須恵器杯・甕 | |
| SK313 | 8B25、8C16・21 | 不整形 | 弧状 | 245 | 104 | 12 | 3.64 | レンズ | 土師器高杯・鉢・甕、須恵器杯・甕 | |
| SK314 | 11B17・22 | 楕円形 | 弧状 | 220 | 150 | 12 | 3.86 | レンズ | 土師器甕 | SK306・309、SD307、P458＞SK314 |
| SK322 | 7C17・18・22・23 | 長方形 | 弧状 | (106) | 52 | 16 | 3.60 | レンズ | 土師器甕、須恵器杯 | P684＞SK322 |
| SK330 | 12B09 | 方形 | 弧状 | (76) | 72 | 16 | 3.82 | 水平 | 土師器甕、獣骨 | SD291＞SK330 |
| SK345 | 12C07・12 | 楕円形 | 弧状 | 156 | 70 | 22 | 3.72 | 水平 | 土師器高杯・甕 | SD347＞SK345 |
| SK348 | 12C16 | 長方形 | 箱状 | 70 | 62 | 20 | 3.80 | 水平 | 土師器杯・高杯・甕 | SK351＞SK348 |
| SK351 | 12C16 | 楕円形 | 弧状 | 120 | 90 | 26 | 3.70 | レンズ | 土師器高杯・甕、須恵器杯 | SK348<SK351<SD340 |
| SK370 | 13B04・05 | 楕円形 | 弧状 | 120 | 54 | 13 | 3.87 | 単層 | 土師器高杯・甕 | |
| SK371 | 9A25、10A05 | 長方形 | 弧状 | 110 | 100 | 41 | 3.33 | レンズ | 土師器杯・高杯・甕、須恵器甕 | P748＞SK371 |
| SK377 | 13B10・15、13C06・11 | 楕円形 | 台形状 | 180 | 122 | 62 | 3.30 | レンズ | 土師器高杯・甕、須恵器甕、獣骨 | SK378・413＜SK377 |
| SK378 | 13C06 | 楕円形 | 台形状 | 100 | 87 | 29 | 3.62 | レンズ | 土師器杯・高杯・甕 | SK377＞SK378 |
| SK382 | 13B09・14 | 楕円形 | 台形状 | 84 | 37 | 14 | 3.84 | 不明 | 土師器甕 | SK436＞SK382 |
| SK383 | 13B09 | 楕円形 | 弧状 | 138 | 84 | 28 | 3.68 | レンズ | 土師器甕、獣骨 | |
| SK389 | 13B06・07・12 | 楕円形 | 弧状 | 130 | 70 | 14 | 3.86 | レンズ | 土師器高杯・甕、獣骨 | SK390、P683＞SK389 |
| SK390 | 13B06・07 | 不整形 | 弧状 | 104 | 96 | 19 | 3.99 | レンズ | 土師器甕、須恵器甕、獣骨 | SK389＜SK390＜P680・681 |
| SK391 | 10A05・10 | 長方形 | 弧状 | 134 | 94 | 23 | 3.56 | レンズ | 土師器甕 | |
| SK393 | 13B17 | 楕円形 | 弧状 | (74) | 74 | 16 | 3.44 | 水平 | 土師器杯・高杯、獣骨 | SK719、P757＞SK393 |
| SK394 | 13B17・18 | 不整形 | 弧状 | 172 | 105 | 46 | 3.21 | レンズ | 土師器杯・高杯・鉢・甕、カマド形土製品、獣骨 | SK394＜SK719、P379 |
| SK398 | 13B04 | 楕円形 | 弧状 | 88 | 63 | 17 | 3.83 | 水平 | 土師器杯・高杯・甕、獣骨 | |
| SK402 | 8B25、8C21、9B05、9C01 | 不整形 | 弧状 | 164 | 155 | 12 | 3.74 | レンズ | 土師器杯・高杯・甕、須恵器杯・蓋・甕、円柱支脚 | |
| SK403 | 9C07・12 | 楕円形 | 弧状 | (135) | 72 | 18 | 3.70 | 水平 | 土師器高杯・甕、須恵器甕、鞴羽口 | SD160＞SK403 |
| SK405 | 12B14・15 | 不整形 | 弧状 | 102 | 90 | 31 | 3.68 | 水平 | 土師器甕 | |
| SK409 | 13B08・09・13・14 | 不整形 | 弧状 | 126 | 50 | 16 | 3.78 | レンズ | 土師器甕 | SK423＞SK409 |
| SK413 | 13B15、13C11 | 楕円形 | 弧状 | 107 | 65 | 12 | 3.78 | 水平 | 土師器甕、須恵器甕、鞴羽口、獣骨 | SK377＞SK413 |
| SK415 | 13B20、13C16 | 長方形 | 弧状 | 122 | 82 | 18 | 3.33 | 水平 | 土師器高杯・甕、獣骨 | SD414、P527＞SK415 |
| SK416 | 13B20・25 | 楕円形 | 弧状 | 146 | 100 | 20 | 3.40 | 水平 | 土師器杯・甕 | SD414＞SK416 |
| SK417 | 13B19・24 | 楕円形 | 台形状 | 148 | 100 | 29 | 3.20 | レンズ | 土師器杯・甕、須恵器杯、獣骨 | P530、SK741＞SK417 |

| 遺構番号 | グリッド | 平面形 | 断面形 | 長径（cm） | 短径（cm） | 深さ（cm） | 底面高（m） | 覆土 | 出土遺物 | 切り合い関係 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK418 | 10B01 | 楕円形 | 弧状 | 105 | 58 | 10 | 3.73 | レンズ | 土師器甕、獣骨 | |
| SK420 | 7C07 | 楕円形 | 弧状 | 102 | 56 | 20 | 3.52 | 不明 | 土師器高杯・甕 | |
| SK421 | 13B23・24 | 楕円形 | 箱状 | 83 | 71 | 29 | 3.16 | レンズ | 土師器杯・高杯・甕、須恵器杯、円筒形土製品、砥石 | |
| SK423 | 13B13・14 | 長方形 | 弧状 | 200 | 112 | 34 | 3.60 | レンズ | 土師器杯・高杯・椀・甕、須恵器甕、カマド形土製品 | SK409＜SK423＜SD384、P401・406 |
| SK424 | 11C07・12 | 楕円形 | 弧状 | 97 | 63 | 19 | 3.68 | 水平 | 土師器甕、獣骨 | P624＞SK424 |
| SK425 | 10C06・07・11・12 | 楕円形 | 弧状 | 76 | 38 | 12 | 3.78 | 水平 | 土師器甕 | |
| SK426 | 13B23・24、14B03・04 | 楕円形 | 弧状 | 73 | 47 | 16 | 3.30 | レンズ | 土師器杯・甕 | |
| SK430 | 10B25 | 楕円形 | 弧状 | 92 | 42 | 15 | 3.80 | 水平 | 土師器高杯・甕 | |
| SK436 | 13B09・10・14・15 | 楕円形 | 台形状 | 100 | 34 | 8 | 3.78 | 不明 | 土師器杯・甕 | SK436＞SK382 |
| SK437 | 10B06・11 | 不整形 | 弧状 | 144 | 126 | 24 | 3.60 | レンズ | 土師器杯・甕、須恵器瓶 | |
| SK452 | 14A04・09 | 方形 | 台形状 | 70 | 60 | 34 | 3.21 | ブロック | 土師器甕 | |
| SK490 | 8A04・05・09・10 | 方形 | 弧状 | 135 | 93 | 11 | 3.70 | レンズ | 土師器杯・甕 | SD117＜SK490＜P521・526・529 |
| SK547 | 8C01 | 楕円形 | 台形状 | 54 | 44 | 21 | 3.59 | レンズ | 土師器甕 | |
| SK557 | 8C11・16 | 不整形 | 弧状 | (98) | 66 | 12 | 3.64 | レンズ | 土師器甕 | SK558＞SK557 |
| SK558 | 8C11・16 | 楕円形 | 弧状 | 119 | 55 | 20 | 3.56 | 水平 | 土師器高杯・甕 | SK557＜SK558＜P631 |
| SK559 | 8B15・20、8C16 | 楕円形 | 弧状 | 72 | 56 | 14 | 3.61 | レンズ | 土師器甕、須恵器杯・甕 | |
| SK560 | 8C12 | 楕円形 | 弧状 | 84 | 80 | 12 | 3.68 | 水平 | 土師器甕 | P538＞SK560 |
| SK574 | 8C07 | 楕円形 | 弧状 | 53 | 45 | 17 | 3.66 | レンズ | 土師器甕 | |
| SK628 | 11C12 | 円形 | 弧状 | 84 | 82 | 28 | 3.60 | 水平 | 土師器甕、紡錘車未成品か、獣骨 | SK280＞SK628＞SK637 |
| SK637 | 11C12 | 楕円形 | 台形状 | 80 | 67 | 34 | 3.48 | 不明 | 土師器甕 | |
| SK653 | 15B10・15、15C11 | 長方形 | 階段状 | 222 | 180 | 65 | 1.90 | ブロック | 土師器甕角材・割材杭 | SD491＞SK653 |
| SK665 | 12A24、12B04 | 楕円形 | 弧状 | 105 | 82 | 16 | 3.70 | 水平 | 土師器杯・甕、獣骨 | SD724＞SK665 |
| SK717 | 11B18・19・23・24 | 楕円形 | 弧状 | 196 | 84 | 33 | 3.63 | 水平 | 土師器高杯・甕、獣骨 | SD307、SK308、P464＞SK717＞SK718 |
| SK718 | 11B24 | 楕円形 | 半円状 | (86) | 53 | 34 | 3.62 | レンズ | 土師器甕 | SD291、SK717＞SK718 |
| SK719 | 13B17・18・22 | 楕円形 | 弧状 | 165 | 86 | 26 | 3.30 | 水平 | 土師器杯・椀・高杯・甕、須恵器甕、カマド形土製品 | P533・536、SK727＞SK719＞SK393・394 |
| SK720 | 13B21・22 | 楕円形 | 台形状 | 104 | 95 | 36 | 3.22 | レンズ | 土師器高杯・甕 | P542、SK727＜SK720＜SD768 |
| SK726 | 13A20 | 不整形 | 弧状 | 94 | 40 | 16 | 3.51 | レンズ | 土師器高杯・甕、獣骨 | |
| SK727 | 13B21・22 | 楕円形 | 弧状 | 156 | 74 | 26 | 3.28 | 水平 | 土師器杯・椀・高杯・甕 | P536、SK720、P723＞SK727＞SK719 |
| SK730 | 14B02・07 | 楕円形 | 弧状 | 158 | 96 | 22 | 3.12 | レンズ | 土師器甕、獣骨 | |
| SK731 | 14B01・02・06・07 | 楕円形 | 弧状 | 188 | 158 | 14 | 3.34 | レンズ | 土師器杯・甕、須恵器甕、円筒形土製品 | |
| SK732 | 14A05、14B01 | 楕円形 | 弧状 | 180 | 143 | 14 | 3.46 | 水平 | 土師器杯・椀・甑・甕、須恵器蓋・鉢・瓶・甕 | SK734、P763、SD768＞SK732 |
| SK733 | 14B06・07・11・12 | 楕円形 | 箱状 | (118) | 138 | 40 | 3.22 | 水平 | 土師器杯・高杯・甕、須恵器甕・横瓶、獣骨 | P706＞SK733 |
| SK734 | 14A05・10、14B01・06 | 不整形 | 台形状 | 148 | 128 | 17 | 3.35 | 水平 | 土師器高杯・甕、須恵器甕、獣骨 | SK732＜SK734＜SD768 |
| SK741 | 13B24 | 長方形 | 台形状 | 154 | 92 | 22 | 3.28 | 水平 | 土師器甕 | SK417＜SK741 |
| SK744 | 11B15、11C11 | 楕円形 | 台形状 | 105 | 68 | 14 | 3.80 | レンズ | 土師器甕 | SK280、P643＞SK744 |
| SK755 | 14A10 | 方形 | 弧状 | 114 | 98 | 12 | 3.42 | レンズ | 土師器杯・高杯・鉢・甕、須恵器甕 | |
| SK764 | 14A09 | 楕円形 | 弧状 | 80 | 60 | 21 | 3.36 | レンズ | 土師器杯・甕、獣骨 | |
| SK765 | 14A09・14 | 長方形 | 台形状 | 97 | 64 | 14 | 3.38 | レンズ | 土師器甕、円筒形土製品、鉄斧、獣骨 | |
| SK767 | 14A10、14B06 | 長方形 | 箱状 | 140 | 120 | 11 | 3.40 | 水平 | 土師器杯・高杯・椀・甕、須恵器甕 | |

## 行屋崎遺跡　土器観察表

計測数値の単位：cm

| 番号 | 種類 | 器形 | 遺構名 | グリッド | 層位 | 遺存度 | 口径×器高×底径（cm） | 調整（外面） | 調整（内面） | 焼成 | 胎土 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器 | 杯 | SR400 | 15C | 7 | 1/4 | 12.7×4.3×— | 底部回転ヘラケズリ | ロクロナデ | 還硬 | 細砂 | N6/　灰 | 6世紀後半 |
| 2 | 須恵器 | 有台杯 | SR400 | 14C12 | 7 | 1/4 | (16.2)×(3.0)×11.0 | ロクロナデ | ロクロナデ | 還硬 | 細砂 | N6/　灰 | |
| 3 | 須恵器 | 無台杯 | SR400 | 14C01 | 7 | 1/2 | 11.4×2.6×6.8 | 底部回転ヘラケズリ | ロクロナデ | 還硬 | 細砂 | 10YR7/1 灰白 | |
| 4 | 須恵器 | 無台杯 | SR400 | 14B08 | 7 | 1/2 | 9.8×2.6×4.4 | 底部回転ヘラケズリ | ロクロナデ | 還硬 | 細砂 | N5/　灰 | |
| 5 | 須恵器 | 無台杯 | SR400 | 14B13 | 7 | 3/4 | 14.1×7.7×4.7 | ロクロナデ | ロクロナデ | 還硬 | 英 | N6/　灰 | 重ね焼き痕 |
| 6 | 須恵器 | 無台杯 | SR400 | 14B | 7 | 1/3 | 12.7×3.3×8.0 | ロクロナデ | ロクロナデ | 還硬 | 長 | 5Y6/1　灰 | 底部外面墨痕 |
| 7 | 須恵器 | 蓋 | SR400 | 14B02 | 7 | 1/4 | 15.2×(2.1)×— | ロクロナデ | ロクロナデ、かえり有り | 還硬 | 長 | 2.5Y6/2 灰黄 | |
| 8 | 須恵器 | 蓋 | SR400 | 14A20 | 7 | 2/3 | 13.4×4.2×— | 天井ヘラケズリ | ロクロナデ | 還硬 | 長 | 2.5Y7/1 灰白 | |
| 9 | 須恵器 | 高杯 | SR400 | 14C | 7 | 1/4 | 19.0×(4.5)×— | ロクロナデ | ロクロナデ | 還硬 | 長 | N6/　灰 | |
| 10 | 須恵器 | 高杯 | SR400 | 16B03 | 7 | 1/6 | —×(3.8)×— | ロクロナデ | ロクロナデ | 還硬 | 長 | N6/　灰 | |
| 11 | 須恵器 | 鉄鉢形 | SR400 | 14C07・12 | 5a | 1/3 | 17.0×11.1×10.4 | 底～体下半回転ヘラケズリ後調整 | ロクロナデ | 還硬 | 長 | N5/　灰 | |
| 12 | 須恵器 | 平瓶 | SR400 | 15B21・22 | 7 | ほぼ完形 | 6.6×13.3×4.9 | 体部下半回転ヘラケズリ | ロクロナデ | 還硬 | 長 | 5PB4/1 暗青灰 | |
| 13 | 須恵器 | 瓶 | SR400 | 14C16 | 7 | 1/3 | (11.8)×(2.8)×7.0 | 底部回転ヘラケズリ | ロクロナデ | 還硬 | 長 | 2.5Y6/2 灰黄 | |
| 14 | 須恵器 | 甕 | SR400 | 14C11 | 7 | 1/4 | 17.1×(11.5)×— | 平行タタキ後カキメ | 同心円アテ具 | 還普 | 長 | N8/　灰白 | |
| 15 | 須恵器 | 瓶 | SR400 | 14B | 7 | 1/10 | 16.0×(3.8)×— | ロクロナデ | ロクロナデ | 還普 | 細砂 | 10YR8/1 灰白 | |
| 16 | 須恵器 | 甕 | SR400 | 14A05 | 7 | 1/10 | 40.4×(5.6)×— | ロクロナデ、斜位連続沈線 | ロクロナデ | 還硬 | 長 | 10YR7/1 灰白 | |
| 17 | 土師器 | 無台杯 | SR400 | 15B21 | 7 | 4/5 | 16.8×5.3×9.8 | 体部下端 ヘラケズリ | ヨコナデ | 酸軟 | 長、英、雲、白 | 7.5YR6/4 にぶい橙 | |

| 番号 | 種類 | 器形 | 遺構名 | グリッド | 層位 | 遺存度 | 口径×器高×底径（cm） | 調整（外面） | 調整（内面） | 焼成 | 胎土 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 18 | 土師器 | 無台杯 | SR400 | 15B21 | 7 | 1/4 | 17.4 ×（5.7）×— | ハケメ後ヘラケズリ・ミガキ | ミガキ | 酸軟 | 長、英 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | |
| 19 | 土師器 | 無台杯 | SR400 | 15A25 | 7 | 1/2 | 14.3 × 5.3 × 7.6 | 底～体部下半ヘラケズリ | ミガキ | 酸軟 | 長、雲、英 | 10YR8/3 浅黄橙 | |
| 20 | 土師器 | 椀 | SR400 | 14B09 | 7 | 1/3 | 13.7 × 6.1 × 5.5 | ハケメ | ミガキ | 酸軟 | 英、長 | 10YR8/1 灰白 | |
| 21 | 土師器 | 椀 | SR400 | 14B14 | 7 | 2/5 | 12.4 ×（6.8）×— | ハケメ | ヘラナデ | 酸普 | 長、雲 | 10YR3/1 黒褐 | |
| 22 | 土師器 | 無台杯 | SR400 | 15C01 | 7 | 1/5 | 15.4 ×（5.7）×— | 体部上半疎らなミガキ | ミガキ後黒色処理 | 酸軟 | 長、雲 | 10YR4/1 褐灰 | 被熱痕著しい |
| 23 | 土師器 | 無台杯 | SR400 | 15C06 | 7 | 1/5 | 17.0 ×（5.0）×— | ミガキ | ミガキ | 酸軟 | 英、長、雲 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | |
| 24 | 土師器 | 椀 | SR400 | 14B14 | 7 | 1/8 | 13.4 ×（5.3）×— | ミガキ | ミガキ後黒色処理 | 酸普 | 長 | 2.5Y7/2 灰黄 | |
| 25 | 土師器 | 椀 | SR400 | 14B19 | 7 | 2/3 | 11.4 × 6.2 × 5.0 | ヘラケズリ後口縁部ミガキ | ミガキ | 酸軟 | 英、白 | 10YR5/4 にぶい黄褐 | |
| 26 | 土師器 | 高杯 | SR400 | 15C01 | 7 | 4/5 | 16.9 × 13.4 × 8.6 | 杯部口縁ミガキ、下半ヘラケズリ、脚部ヘラケズリ | 杯部ミガキ後黒色処理、脚部ヘラナデ | 酸普 | 雲 | 2.5Y7/2 灰黄 | 杯部外面稜有り |
| 27 | 土師器 | 高杯 | SR400 | 14A14・24 | 7 | 1/2 脚部欠損 | 16.0 ×（5.9）×— | ヘラケズリ | ミガキ後黒色処理 | 酸軟 | 長 | 外 10YR7/2 にぶい黄橙、内 10YR2/1 黒 | |
| 28 | 土師器 | 無台杯 | SR400 | 15B21 | 7 | 1/4 | 18.0 ×（5.1）×— | ヘラケズリ後ミガキ | ミガキ後黒色処理 | 酸普 | 長 | 2.5YR7/3 浅黄 | |
| 29 | 土師器 | 無台杯 | SR400 | 15C01 | 7 | 1/6 | 13.8 ×（4.6）×— | ヘラケズリ後疎らなミガキ | ミガキ後黒色処理 | 酸普 | 長 | 2.5Y6/3 にぶい黄 | |
| 30 | 土師器 | 無台杯 | SR400 | 14A20 14B16 | 7 | 1/7 | 20.6 ×（4.3）×— | ヘラケズリ後ミガキ | ミガキ | 酸軟 | 英 | 5YR8/3 淡橙 | |
| 31 | 土師器 | 高杯 | SR400 | 14C12 | 7 | 1/3 杯部欠損 | —×（11.7）× 12.5 | ヘラケズリ | 杯部ミガキ後黒色処理 | 酸軟 | 長、英 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 長脚 |
| 32 | 土師器 | 高杯 | SR400 | 14B12 | 7 | 1/4 | （10.2）×（7.5）×（6.4） | ハケメ | 杯部ミガキ、脚部ヘラナデ | 酸軟 | 長、英、粗砂 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 短脚 |
| 33 | 土師器 | 高杯 | SR400 | 14B17 | 7 | 1/5 杯部欠損 | —× 11.6 × 6.4 | ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸普 | 長、英、雲、白 | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 短脚 |
| 34 | 土師器 | 高杯 | SR400 | 14B18 | 7 | 1/5 | （9.2）×（8.5）×（10.4） | ヘラケズリ | 杯部ミガキ、脚部ヘラナデ | 酸軟 | 長、英 | 7.5YR6/2 灰褐 | ２次焼成痕顕著 |
| 35 | 土師器 | 鉢 | SR400 | 15B16 | 7 | 2/3 | 15.6 × 8.1 ×— | ハケメ後ヘラケズリ | ミガキ | 酸軟 | 長、英 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | |
| 36 | 土師器 | 鉢 | SR400 | 15B16・17 | 7 | ほぼ完形 | 13.6 × 5.8 ×— | ヘラケズリ | 丁寧なヘラケズリ | 酸軟 | 長、英 | 2.5YR6/8 橙 | |
| 37 | 土師器 | 小鉢 | SR400 | 14B15 | 7 | 3/4 | 7.9 × 6.2 × 2.4 | 縦位のミガキ | ミガキ？ | 酸軟 | 長 | 2.5YR6/8 橙 | ２次焼成痕顕著 |
| 38 | 土師器 | 鉢 | SR400 | 14A15 15B21 | 7 | 2/3 | 12.6 × 7.2 ×— | ヘラケズリ後ミガキ | ミガキ | 酸普 | 長、白 | 2.5Y5/1 黄灰 | |
| 39 | 土師器 | 鉢 | SR400 | 15B11 | 7 | 1/3 | 12.2 × 10.2 × 4.2 | ヘラケズリ | ハケメ後ヘラナデ | 酸軟 | 長 | 10YR8/2 灰白 | |
| 40 | 土師器 | 鉢 | SR400 | 14B18 | 7 | 3/4 | 12.7 × 10.9 ×— | ハケメ後ヘラケズリ | ハケメ後ヘラナデ | 酸普 | 長、雲、英 | 7.5YR6/4 にぶい橙 | |
| 41 | 土師器 | 鉢 | SR400 | 15B21 | 7 | 1/4 | 9.8 ×（10.0）×— | ミガキ | ヘラナデ後上半ミガキ | 酸軟 | 長、英、白 | 2.5Y6/3 にぶい黄 | 胴下半に炭化物 |
| 42 | 土師器 | 壺 | SR400 | 14B20 | 7 | 3/4 | 13.6 × 12.8 ×— | ハケメ後下半ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸軟 | チ | 10YR8/3 浅黄橙 | |
| 43 | 土師器 | 壺 | SR400 | 14B24 | 7 | 1/5 | 14.8 ×（4.8）×— | ヨコナデ | ミガキ | 酸普 | 英、雲、白 | 10YR8/2 灰白 | 口縁部のみ |
| 44 | 土師器 | 甕 | SR400 | 15B17・22 | 7 | 4/5 | 17.9 × 26.3 × 9.0 | ハケメ後ヘラケズリ | ヘラナデ後ミガキ | 酸軟 | 長、白 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 2次焼成痕なし。甕A Ⅰ$_{3a}$ |
| 45 | 土師器 | 甕 | SR400 | 14C21 | 7 | 4/5 | 17.8 × 29.1 × 8.0 | ハケメ後ヘラケズリ | ハケメ後ヘラナデ | 酸普 | 長、英、白 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 甕A+DⅢ$_{1}$ |
| 46 | 土師器 | 甕 | SR400 | 15B12 | 7 | 4/5 | 20.0 × 32.9 × 8.2 | ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、英、白 | 7.5YR8/1 灰白 | 甕AⅢ$_{c}$ |
| 47 | 土師器 | 甕 | SR400 | 15B17 | 7 | 4/5 | 19.1 × 28.2 × 9.6 | ハケメ後ヘラケズリ | ヘラケズリ後ミガキ | 酸普 | 長、雲、白 | 7.5YR8/2 灰白 | 2次焼成痕なし。甕A Ⅰ$_{1}$ |
| 48 | 土師器 | 甕 | SR400 | 15B15 | 7 | 1/2 | 13.0 × 36.0 × 9.4 | ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、白 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 底部剥離を漆で接着した痕跡有り。甕AⅢ$_{1}$ |
| 49 | 土師器 | 甕 | SR400 | 14C06 | 7 | 1/6 | 22.0 ×（8.3）×— | ハケメ | ヨコナデ | 酸普 | 長、雲 | 7.5YR6/2 灰褐 | 甕AⅢ |
| 50 | 土師器 | 甕 | SR400 | 14B05 14C21 15C | 7 | 1/5 | 16.2 ×（15.2）×— | ハケメ後ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、英 | 7.5YR8/1 灰白 | 甕AⅢ |
| 51 | 土師器 | 甕 | SR400 | 15B17 | 7 | 2/3 | 19.8 × 12.9 × 29.0 | ハケメ後下半ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸普 | 長、英、チ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 甕AⅢ |
| 52 | 土師器 | 甕 | SR400 | 14C11 | 7 | 2/5 | 18.5 × 27.7 × 9.6 | ハケメ | ハケメ後ヘラナデ | 酸軟 | 長、英 | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 甕BⅢ$_{1}$ |
| 53 | 土師器 | 甕 | SR400 | 14A15 | 7 | 1/5 | 15.2 ×（11.0）×— | ハケメ | ハケメ後ヘラナデ | 酸軟 | 長、英 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 甕BⅢ |
| 54 | 土師器 | 甕 | SR400 | 15C01 | 7 | 4/5 底部一部欠損 | 16.5 × 30.1 × 8.0 | ヘラケズリ後疎らなミガキ | ヘラケズリ | 酸普 | 長、英、雲 | 7.5YR7/3 にぶい橙 | ２次焼成痕なし･甕AⅢ$_{1}$ |
| 55 | 土師器 | 甕 | SR400 | 14B17 | 7 | 1/6 | 25.0 ×（7.8）×— | ハケメ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、英 | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 甕BⅢ |
| 56 | 土師器 | 甕 | SR400 | 14B24 | 7 | 1/3 | 22.0 ×（11.8）×— | ハケメ後ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸普 | 長、英 | 2.5Y8/2 灰白 | 底部から青色顔料出土 |
| 57 | 土師器 | 甕 | SR400 | 15B02 | 7 | 4/5 | 14.2 × 20.0 × 7.3 | ハケメ後下端ヘラケズリ | ハケメ後ヘラナデ | 酸軟 | 長、英、白 | 7.5YR6/3 にぶい褐 | 甕BⅢ$_{3a}$ |
| 58 | 土師器 | 甕 | SR400 | 14B14 15B21 | 7 | 2/3 | 16.8 × 18.3 × 7.2 | ハケメとヘラケズリ後肩と中位ミガキ、砂底後ハケメ | ヘラナデ後ミガキ | 酸普 | 長 | 10YR8/2 灰白 | 2次焼成痕なし･甕A Ⅰ$_{1a+c}$ |
| 59 | 土師器 | 甕 | SR400 | 15A20 | 7 | 1/4 | 18.4 ×（14.7）×— | ハケメ | ヘラナデ | 酸普 | 長 | 5YR8/3 淡橙 | 甕B+DⅢ |
| 60 | 土師器 | 甕 | SR400 | 14C17 | 7 | 1/6 | 21.0 ×（8.4）×— | ハケメ後ヘラケズリ | ヘラナデ後口縁部ミガキ | 酸軟 | 長、雲、白 | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 甕A Ⅰ |
| 61 | 土師器 | 甕 | SR400 | 14C17 | 7 | 1/6 | 16.0 ×（6.5）×— | ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、チ | 7.5YR8/1 灰白 | 甕BⅢ |
| 62 | 土師器 | 甕 | SR400 | 14B05 | 7 | 1/6 | 19.6 ×（10.2）×— | ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、チ | 7.5YR8/2 灰白 | 甕B+DⅢ |

| 番号 | 種類 | 器形 | 遺構名 | グリッド | 層位 | 遺存度 | 口径×器高×底径（cm） | 調整（外面） | 調整（内面） | 焼成 | 胎土 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 63 | 土師器 | 甕 | SR400 | 15B16 | 7 | 1/6 | 17.8 ×（5.6）×— | ハケメ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、粗砂 | 10YR6/2 灰黄褐 | 甕BⅢ |
| 64 | 土師器 | 甕 | SR400 | 14B19 | 7 | 1/3 | 17.0 ×（20.3）×— | ハケメ | ハケメ後上半ヘラナデ | 酸軟 | 長、英、雲 | 7.5YR8/4 にぶい橙 | 甕AⅢ |
| 65 | 土師器 | 甕 | SR400 | 15B17 | 7 | 2/3 | —×（16.6）× 6.4 | ハケメ | ハケメ後上半ヘラナデ | 酸軟 | 長、チ | 5YR6/6　橙 | 甕BⅢ3a |
| 66 | 土師器 | 甕 | SR400 | 15B10 | 7 | 1/3 | —×（16.7）× 6.5 | ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、チ | 10YR8/2 灰白 | 甕BⅢ3 |
| 67 | 土師器 | 小甕 | SR400 | 14C07 | 7 | 2/3 | 13.5 × 13.3 × 5.3 | ヘラケズリ | ヘラナデ後口縁部ミガキ | 酸軟 | 長、英 | 7.5YR7/3 にぶい橙 | 甕CⅠ1 |
| 68 | 土師器 | 小甕 | SR400 | 15B21 | 7 | 2/3 | 15.6 × 13.6 × 7.2 | ハケメ | ヘラナデ後ミガキ | 酸普 | 長、英、白 | 10YR8/2 灰白 | 2次焼成痕なし 甕CⅠ1c |
| 69 | 土師器 | 台付甕 | SR400 | 14B13・14 | 7 | 4/5 | 10.3 × 15.8 × 9.3 | ヘラケズリ後肩部ミガキ | ヘラナデ | 酸普 | 長、英 | 2.5Y8/1 灰白 | 甕EⅢ |
| 70 | 土師器 | 甕 | SR400 | 14B18 | 7 | 1/6 | —×（3.9）× 8.8 | ハケメ後ヘラケズリ、底部幾何学的な線刻と縄掛け痕 | ミガキ | 酸普 | 長、英 | 10YR8/1 灰白 | 2次焼成痕なし 甕AⅠ3d |
| 71 | 土師器 | 甕 | SR400 | 14B24 | 7 | 1/6 | —×（3.2）× 8.0 | ヘラケズリ、底部笹痕有り | ハケメ | 酸軟 | 長、英 | 10YR8/2 灰白 | 甕AⅡ1b |
| 72 | 土師器 | 甕 | SR400 | 15B21 16B01 | 7 | 1/6 | —×（3.8）× 6.2 | ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、英 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 甕AⅢ3a |
| 73 | 土師器 | 甕 | SR400 | 15C11 | 7 | 1/6 | —×（4.3）× 6.5 | ハケメ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、英、白 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 内面に炭化した穀物痕有り 甕AⅢ1c |
| 74 | 土師器 | 甕 | SR400 | 14B13 | 7 | 1/6 | —×（4.4）× 7.0 | ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、チ、英 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 甕AⅢ3 |
| 75 | 土師器 | 甕 | SR400 | 14B24 | 7 | 1/6 | —×（5.1）× 7.4 | ハケメ後ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、雲、白 | 10YR8/2 灰白 | 甕AⅢ1 |
| 76 | 土師器 | 甕 | SR400 | 14B09 | 7 | 1/6 | —×（2.9）× 8.2 | ハケメ | ハケメ | 酸普 | 長、チ、英 | 10YR8/1 灰白 | 甕A+DⅡ2 |
| 77 | 土師器 | 甕 | SR400 | 14B25 | 7 | 1/5 | —×（7.0）× 6.0 | ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、英、白 | 2.5Y7/2 灰黄 | 甕BⅢ3 |
| 78 | 土師器 | 甕 | SR400 | 13C | 7 | 1/6 | —×（3.6）× 9.0 | ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、英 | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 甕AⅢ3 |
| 79 | 土師器 | 甕 | SR400 | 13B | 7 | 1/6 | —×（3.0）× 8.6 | ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸普 | 長、英 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 甕BⅢ1 |
| 80 | 土師器 | 甕 | SR400 | 14A19 | 7 | 1/6 | —×（4.6）× 9.0 | ハケメ、底部ヘラケズリ | ヘラケズリ | 酸軟 | 長、英 | 2.5Y7/3 浅黄 | 甕BⅢ1 |
| 81 | 土師器 | 甑 | SR400 | 15B21 15C01 | 7 | 3/5 | 15.3 × 14.3 × 5.0 | ハケメ後ヘラケズリ | ハケメ後ヘラナデ、中位ミガキ、底部多孔、口縁部ヨコナデ | 酸軟 | 長、英、白 | 7.5YR7/3 にぶい橙 | |
| 82 | 土師器 | 甑 | SR400 | 14B17 | 7 | 1/6 | —×（2.5）× 7.0 | ヘラケズリ | 底部多孔 | 酸軟 | 長 | 7.5YR7/6 橙 | |
| 83 | 土師器 | 甑 | SR400 | 14B16 | 7 | 1/3 | —×（8.7）×— | ハケメ下端ヘラケズリ | ハケメ、底部単孔 | 酸軟 | 長、英 | 7.5YR7/3 にぶい橙 | |
| 84 | 土師器 | 甑把手 | SR400 | 14B21 | 7 | | 3.0 × 4.7 ×— | 手捏ね成形後ヘラケズリ | | 酸軟 | 長 | 5YR7/4 にぶい橙 | |
| 85 | 須恵器 | 無台杯 | | 13C | Ⅱc | 1/4 | 13.0 × 3.7 × 8.0 | 底～体部下端回転ヘラケズリ | ロクロナデ | 還普 | 長 | N5/ 灰 | |
| 86 | 須恵器 | 無台杯 | | 12B | Ⅱc | 1/3 | 13.4 × 3.6 × 8.6 | 底～体部下端回転ヘラケズリ | ロクロナデ | 還普 | 長 | N5/　灰 | |
| 87 | 須恵器 | 蓋 | | 4B17 | Ⅱc | 1/3 | 13.2 × 2.9 ×— | 天井部回転ヘラケズリ後つまみ貼付け | ロクロナデ、かえり有り | 還普 | 長 | 2.5Y8/1 灰白 | |
| 88 | 須恵器 | 蓋 | | 4C | Ⅱc | 1/3 | 18.0 × 3.4 ×— | 天井部回転ヘラケズリ後つまみ貼付け | かえり有り | 還普 | 長、チ | 2.5Y7/1 灰白 | |
| 89 | 須恵器 | 蓋 | | 7B | Ⅱc | 1/3 | 13.6 × 2.2 ×— | 天井部回転ヘラケズリ後つまみ貼付け | かえり有り | 還普 | 長、チ | 10YR7/1 灰白 | |
| 90 | 須恵器 | 蓋 | | 4B17 | Ⅱc | 1/2 | 12.0 × 2.1 ×— | 天井部回転ヘラケズリ後つまみ貼付け | かえり有り | 還普 | 細砂 | N7/　灰白 | |
| 91 | 須恵器 | 蓋 | | 9C | Ⅱc | 1/6 | (10..0) ×（1.9）×— | 天井部回転ヘラケズリ後つまみ貼付け | ロクロナデ | 還硬 | 長 | 10YR6/1 褐灰 | |
| 92 | 須恵器 | 蓋 | | 10C16 | Ⅱc | 1/6 | 18.2 ×（2.1）×— | 天井部回転ヘラケズリ | かえり有り | 還普 | 長、細砂 | 2.5Y6/2 灰黄 | |
| 93 | 須恵器 | 蓋 | | 10B | Ⅱc | 1/8 | 13.0 ×（1.7）×— | ロクロナデ | かえり有り | 還硬 | 長、細砂 | 10YR7/1 灰白 | |
| 94 | 須恵器 | 高杯 | | 12A08 | Ⅱc | 1/4 | 16.0 ×（4.2）×— | ロクロナデ | ロクロナデ | 還硬 | 長 | 5RP6/1 青灰 | |
| 95 | 須恵器 | 長頸瓶 | | 12B | Ⅱc | 1/4 | —×（10.7）×— | ロクロナデ | ロクロナデ | 還硬 | 長 | 5RP7/1 明紫灰 | |
| 96 | 須恵器 | 甕 | | 11B | Ⅱc | 1/5 | 14.6 ×（5.9）×— | 平行タタキ | 同心円アテ具 | 還硬 | 長 | N5/ 灰 | |
| 97 | 須恵器 | 甕 | | 13C | Ⅱc | 胴部片 | | 平行タタキ | 同心円アテ具 | 還硬 | 長 | 10Y6/　灰 | |
| 98 | 須恵器 | 甕 | | 11B | Ⅱc | 胴部片 | | 平行タタキ | 同心円アテ具 | 還硬 | 長 | 10Y7/　灰 | |
| 99 | 須恵器 | 甕 | | 4B14 | Ⅱc | 胴部片 | | 平行タタキ | 同心円アテ具 | 還硬 | 長 | 10Y7/　灰白 | |
| 100 | 須恵器 | 甕 | | 6B | Ⅱc | 肩部片 | | ボタン状貼付文、平行タタキ | 同心円アテ具 | 還普 | 長 | N6/ 灰 | |
| 101 | 須恵器 | 甕 | | 5C | Ⅱc | 肩部片 | | ボタン状貼付文、平行タタキ | 同心円アテ具 | 還普 | 長 | N6/ 灰 | |
| 102 | 土師器 | 甕 | | 11A | Ⅱc | 1/4 | 17.8 ×（9.1）×— | ハケメ | ハケメ後ヘラケズリ | 酸軟 | 長、英、白、チ | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 外面煤付着 |
| 103 | 須恵器 | 無台杯 | SB506 | 10C17 | 2 | 1/6 | | 回転ヘラ切り離し無調整 | ロクロナデ | 還硬 | 長 | N6/　灰 | P236 |
| 104 | 須恵器 | 無台杯 | SB509 | 12B02 | 1 | 1/5 | | ロクロナデ | ロクロナデ | 還硬 | 長 | 10YR8/2 灰白 | P584 |
| 105 | 須恵器 | 蓋 | SB508 | 11B16 | 2 | 1/6 | | 天井部回転ヘラケズリ調整後つまみ貼付け | ロクロナデ | 還硬 | 長 | N6/　灰 | P305 |
| 106 | 須恵器 | 瓶 | SD4 | 4C06 | 1 | 1/8 底部のみ | —×（2.1）× 10.2 | ロクロナデ | ロクロナデ | 還硬 | 長 | N6/　灰 | |

| 番号 | 種類 | 器形 | 遺構名 | グリッド | 層位 | 遺存度 | 口径×器高×底径（cm） | 調整（外面） | 調整（内面） | 焼成 | 胎土 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 107 | 須恵器 | 甕 | SD4 | 4C06 | 1 | 1/6 | 27.2 ×（9.2）×— | 平行タタキ | 同心円アテ具 | 還硬 | 細砂 | 2.5Y7/1<br>灰黄 | |
| 108 | 土師器 | 無台杯 | SD4 | 4C06 | 1 | 1/5 | —×（1.5）× 7.6 | 底部回転糸切り離し無調整 | ロクロナデ | 酸軟 | 長、英、白 | 2.5Y8/1<br>灰白 | |
| 109 | 須恵器 | 甕 | SD33 | 6B04 | 1 | 胴部片 | | 平行タタキ | 同心円アテ具 | 還硬 | 長 | N7/ 灰白 | |
| 110 | 須恵器 | 甕 | SD73 | 6B16 | 1 | 1/6 | 36.8 ×（8.2）×— | 平行タタキ | 同心円アテ具 | 還軟 | 長 | 2.5Y8/1<br>灰白 | |
| 111 | 須恵器 | 蓋 | SD117 | 7B22 | 1 | 完形 | 13.2 × 3.3 × 6.4 | 天井部回転ヘラ切り離し後無調整 | ロクロナデ | 還硬 | 長 | 5Y7/1　灰白 | |
| 112 | 土師器 | 高杯 | SD117 | 8B08 | 1 | 1/2 | 20.0 × 15.0 × 12.6 | 杯部ハケメ後ヘラケズリ、脚部ヘラケズリ | 杯部ミガキ後黒色処理、脚部ヘラナデ | 酸普 | 長、英、白 | 10YR8/2<br>灰白 | |
| 113 | 須恵器 | 甕 | SD250 | 10A19 | 2 | 1/5 | 22.3 ×（10.6）×— | 平行タタキ | 同心円アテ具 | 還普 | 長 | 2.5Y7/2<br>灰黄 | |
| 114 | 土師器 | 高杯 | SD250 | 10A19 | 1 | 1/5 | —×（4.3）×— | ヘラケズリ | ミガキ後黒色処理 | 酸軟 | 長、白 | 10YR7/3<br>にぶい黄橙 | |
| 115 | 須恵器 | 有台杯 | SD291 | 11B25 | 2 | 1/2 | 14.2 × 6.7 × 7.4 | 底～体部下端回転ヘラケズリ後、高台貼付け | ロクロナデ | 還硬 | 長 | N6/　灰 | 小泊産 |
| 116 | 須恵器 | 有台杯 | SD291 | 11C16・21 | 2 | 1/5 | 11.0 × 3.3 × 7.4 | 底部回転ヘラ切り離し | ロクロナデ | 還硬 | 細砂 | N6/　灰 | 小泊産 |
| 117 | 須恵器 | 有台杯 | SD340 | 12B18 | 2 | 1/5　底部 | —×（2.4）× 8.5 | 高台貼付け | ロクロナデ | 還硬 | 細砂 | 5Y7/1　灰白 | |
| 118 | 須恵器 | 瓶把手 | SD340 | 12B23 | 1 | 肩部 | | 自然釉 | 同心円アテ具 | 還硬 | 細砂 | 10YR8/2<br>灰白 | |
| 119 | 須恵器 | 蓋 | SD340 | 12B19 | 3 | 1/4 | 12.8 × 3.6 ×— | 天井部回転ヘラケズリ後つまみ貼付け、天井自然釉 | ロクロナデ | 還硬 | 長 | 7.5Y7/1<br>灰白 | 短頸壺の蓋 |
| 120 | 須恵器 | 杯 | SD491 | 14B14 | 5 | 1/8 | 12.8 ×（3.2）×— | ロクロナデ | ロクロナデ | 還硬 | 細砂、緻密 | 5Y5/1　灰 | |
| 121 | 須恵器 | 無台杯 | SD491 | 15B12 | 5 | 1/4 | （11.4）×（2.0）× 7.0 | 底部回転ヘラ切り離し無調整 | ロクロナデ | 還普 | 長 | 5Y6/1　灰 | |
| 122 | 須恵器 | 有台杯 | SD491 | 14B04 | 5 | 1/4 | （8.0）×（2.1）× 5.6 | 底部回転ヘラケズリ後高台貼付け | ロクロナデ | 還硬 | 長 | 10Y6/1　灰 | |
| 123 | 土師器 | 無台杯 | SD491 | 15B12 | 5 | 1/4 | 12.6 × 3.8 × 6.4 | 底部回転糸切り離し無調整 | ロクロナデ | 酸普 | 長 | 10YR7/3<br>にぶい黄橙 | |
| 124 | 土師器 | 高杯 | SK1 | 3B02 | 1 | 1/8 | —×（4.2）×— | ヘラケズリ | 杯部ミガキ後黒色処理脚部ヘラナデ | 酸軟 | 長、雲、英 | 10YR8/3<br>浅黄橙 | 短脚か |
| 125 | 須恵器 | 無台杯 | SK2 | 3C17 | 1 | 1/5 | 13.0 × 4.2 × 7.0 | 底～体部下端回転ヘラケズリ | ロクロナデ | 還硬 | 緻密 | 2.5Y8/1<br>灰白 | |
| 126 | 須恵器 | コップ形 | SK9 | 3B09 | 1 | 1/2 | —×（5.5）× 6.4 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ調整 | ロクロナデ | 還硬 | 長、英 | 5Y8/1　灰白 | |
| 127 | 須恵器 | 有台杯 | SK20 | 5B10 | 1 | 1/2 | 16.4 × 4.4 × 12.0 | 底部回転ヘラケズリ後高台貼付け | ロクロナデ | 還硬 | 長、緻密 | 7.5Y7/1<br>灰白 | |
| 128 | 土師器 | 甕 | SK40 | 5B21 | 1 | 1/4 | 15.8 ×（13.9）×— | ハケメ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、雲、チ | 2.5Y8/1<br>灰白 | 甕BⅢ |
| 129 | 土師器 | 甕 | SK40 | 6B01 | 1 | 1/8 | 27.0 ×（14.4）×— | ハケメ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、雲、英 | 7.5YR8/2<br>灰白 | 甕BⅢ |
| 130 | 土師器 | 甕 | SK58 | 6B01 | 1 | 1/2 | 19.6 × 31.3 × 6.9 | ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸普 | 長、雲、チ | 7.5YR7/3<br>にぶい橙 | 甕A+DⅢ1 |
| 131 | 土師器 | 甕 | SK58 | 6B01・06 | 1 | 1/6 | —×（6.6）× 6.6 | ハケメ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、雲 | 5YR8/<br>淡橙 | 甕AⅢ1 |
| 132 | 須恵器 | 甕 | SK128 | 8C12 | 1 | 胴部片 | —×（6.8）×— | 平行タタキ | 同心円アテ具 | 還硬 | 長 | 7.5Y7/1<br>灰白 | |
| 133 | 土師器 | 甕 | SK172 | 9B18 | 2 | 1/7 | 13.0 ×（4.0）×— | ヨコナデ | ヨコナデ後疎らなミガキ | 酸軟 | 長、白 | 2.5Y7/2<br>灰黄 | 甕CⅠ |
| 134 | 土師器 | 甕 | SK172 | 9B18 | 2 | 1/6 | —×（4.8）×（7.6） | ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、白、英 | 10YR8/3<br>浅黄橙 | 甕AⅢ1 |
| 135 | 土師器 | 甕 | SK190 | 10B05 | 2 | 1/2 | —×（15.6）×— | ハケメ・ヘラケズリ後下半ミガキ | ヘラナデ | 酸普 | 長、白 | 5YR6/6<br>橙 | 甕AⅢ |
| 136 | 土師器 | 小甕 | SK197 | 10B08 | 2 | 1/5 | 16.2 ×（9.1）×— | ハケメ | ハケメ | 酸軟 | 長、雲、白 | 10YR7/3<br>にぶい黄橙 | 甕CⅡ |
| 137 | 須恵器 | 甕 | SK210 | 10B09 | 3 | 胴部片 | —×（18.8）×— | 平行タタキ後カキメ | 同心円アテ具 | 還硬 | 長 | N7/　灰白 | |
| 138 | 土師器 | 高杯 | SK210 | 10B14 | 3 | 1/4 | 19.0 ×（7.8）×— | ヘラケズリ | ミガキ | 酸軟 | 長、雲、赤 | 7.5YR8/2<br>灰白 | ２次焼成痕顕著 |
| 139 | 土師器 | 甕 | SK210 | 10B14 | 3 | 1/5 | 19.6 ×（8.5）×— | ハケメ | ヘラナデ | 酸軟 | 砂粒多い、長 | 2.5Y8/1<br>灰白 | 甕BⅢ |
| 140 | 土師器 | 甕 | SK234 | 10C17 | 2 | 1/6 | 17.8 ×（8.3）×— | ハケメ | ハケメ | 酸軟 | 長、英 | 7.5YR8/3<br>浅黄橙 | 甕BⅡ |
| 141 | 土師器 | 鉢 | SK234 | 10C17 | 2 | 2/3 | 13.0 × 9.8 × 4.0 | ハケメ | ヘラナデ | 酸軟 | 長 | 5YR8/3<br>淡橙 | |
| 142 | 土師器 | 甕 | SK237 | 10C21 | 1 | 2/3 | 15.2 × 30.0 × 7.0 | ハケメ | ハケメ | 酸軟 | 長、英 | 7.5YR7/3<br>にぶい橙 | 甕BⅡ |
| 143 | 土師器 | 小甕 | SK247 | 11B04 | 1 | 1/7 | 15.8 ×（8.0）×— | ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸軟 | 雲 | 7.5YR8/2<br>灰白 | 甕CⅢ |
| 144 | 土師器 | 甕 | SK261 | 11B05 | 2 | 1/3 | —×（12.7）× 8.4 | ハケメ後下端ヘラケズリ | ハケメ後ヘラナデ | 酸軟 | 長 | 7.5YR8/4<br>浅黄橙 | 甕BⅢ3 |
| 145 | 土師器 | 杯 | SK278 | 11B08 | 2 | 1/4 | 12.8 ×（4.8）×— | ハケメ後疎らなヘラケズリ | ミガキ | 酸軟 | 長、雲、英 | 2.5Y8/2<br>灰白 | |
| 146 | 土師器 | 甕 | SK311 | 8C16 | 2 | 1/6 | 18.2 ×（5.6）×— | ハケメ | ヘラナデ | 酸軟 | 英、輝、白 | 7.5YR8/3<br>浅黄橙 | 甕BⅢ |
| 147 | 土師器 | 甕 | SK311 | 8C16 | 1 | 1/6 | 16.2 ×（8.3）×— | ハケメ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、白 | 5YR7/6　橙 | 甕AⅢ |
| 148 | 須恵器 | 無台杯 | SK313 | 8C21 | 2 | 1/2 | 14.8 × 4.5 ×— | 底～体部下端回転ヘラケズリ | ロクロナデ | 還硬 | 長 | 7.5Y7/1<br>灰白 | |
| 149 | 土師器 | 鉢 | SK313 | 8C21 | 1 | 1/2 | 16.4 × 11.3 × 7.1 | ハケメ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、白 | 7.5YR8/3<br>浅黄橙 | |
| 150 | 土師器 | 甕 | SK313 | 8C21 | 1 | 1/2 | 15.7 × 23.1 × 9.4 | ハケメ | ハケメ | 酸軟 | 長、英、雲 | 10YR8/2<br>灰白 | 甕BⅡ1 |
| 151 | 土師器 | 甕 | SK313 | 8C21 | 2 | 1/5 | —×（5.8）× 12.7 | ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、白 | 10YR8/2<br>灰白 | 甕AⅢ1 |

| 番号 | 種類 | 器形 | 遺構名 | グリッド | 層位 | 遺存度 | 口径×器高×底径（cm） | 調整（外面） | 調整（内面） | 焼成 | 胎土 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 152 | 須恵器 | 有台杯 | SK351 | 12C16 | 2 | 1/8 | ―×（3.4）× 8.2 | 底部高台貼付け | ロクロナデ | 還硬 | 細砂 | N7/　灰白 | |
| 153 | 土師器 | 高杯 | SK370 | 13B05 | 1 | 1/5 | ―×（9.6）× 10.0 | ヘラケズリ | 杯部ミガキ後黒色処理脚部ヘラナデ | 酸普 | 英、チ | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 長脚 |
| 154 | 土師器 | 甕 | SK389 | 13B07 | 1 | 1/7 | 20.4 ×（11.3）×― | ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、英、チ | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 甕B+DⅢ |
| 155 | 土師器 | 甕 | SK389 | 13B07 | 1 | 1/6 | 15.8 ×（11.2）×― | ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、チ | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 甕AⅢ |
| 156 | 土師器 | 甕 | SK389 | 13B07 | 1 | 1/8 | 21.9 ×（7.8）×― | ハケメ | ヘラナデ | 酸軟 | 英、輝、白 | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 甕BⅢ |
| 157 | 土師器 | 甕 | SK389 | 13B07 | 1 | 1/6 | 20.0 ×（7.9）×― | ハケメ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、英、チ | 10YR8/2 灰白 | 甕BⅢ |
| 158 | 土師器 | 鉢 | SK394 | 13B17 | 2 | 1/8 | 16.4 ×（6.4）×― | ハケメ後ヘラケズリ | ミガキ後黒色処理 | 酸普 | 英 | 10YR8/1 灰白 | |
| 159 | 土師器 | 甕 | SK398 | 14B02 | 2 | 1/3 | 21.6 ×（21.5）×― | ハケメ後上半ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、雲、チ | 2.5Y6/1 黄灰 | 甕A+DⅢ |
| 160 | 土師器 | 甕 | SK402 | 9B05 | 3 | 1/3 | 22.2 ×（9.1）×― | ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、英 | 10YR8/2 灰白 | 甕AⅢ |
| 161 | 土師器 | 甕 | SK402 | 9B05 | 2 | 2/3 | ―×（21.1）× 6.8 | ハケメ | ヘラナデ | 酸軟 | 長 | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 甕BⅢ1 |
| 162 | 土師器 | 甕 | SK403 | 9C07 | 2 | 1/8 | 20.6 ×（8.3）×― | ハケメ | ハケメ後ヘラナデ | 酸軟 | 長、英 | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 甕BⅡ |
| 163 | 土師器 | 甕 | SK403 | 9C07・12 | 1 | 1/5 | 15.8 ×（11.4）×― | ハケメ | ヘラナデ | 酸普 | 長 | 7.5YR8/2 灰白 | 甕B+DⅢ |
| 164 | 土師器 | 甕 | SK403 | 9C07・12 | 2 | 1/5 | ―×（7.4）× 9.0 | ハケメ後下半ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、白、チ | 10YR8/1 灰白 | 甕AⅢ1 |
| 165 | 土師器 | 甕 | SK421 | 13B24 | 2 | 1/4 | 20.4 ×（10.5）×― | ハケメ | ハケメ後ヘラナデ | 酸軟 | 長、チ | 7.5YR7/3 にぶい橙 | 甕BⅢ |
| 166 | 土師器 | 甕 | SK421 | 13B24 | 1 | 1/4 | ―×（25.4）× 9.9 | ハケメ後ヘラケズリ | ハケメ後疎らなヘラナデ | 酸普 | 長、雲、英 | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 甕AⅢ1 |
| 167 | 土師器 | 椀 | SK423 | 13B14 | 2 | 1/4 | 11.5 × 6.0 ×― | ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、白 | 10YR5/1 褐灰 | |
| 168 | 土師器 | 甕 | SK423 | 13B13 | 2 | 1/4 | ―×（17.6）×― | ハケメ | ハケメ | 酸軟 | 長、英、輝、白 | 5YR6/3 にぶい橙 | 甕BⅡ |
| 169 | 土師器 | 椀 | SK719 | 13B17 | 3 | 2/5 | 17.4 × 7.7 ×― | ハケメ後ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸普 | 長、雲、英 | 7.5YR7/3 にぶい橙 | |
| 170 | 土師器 | 高杯 | SK719 | 13B17 | 1 | 1/4　杯部 | 18.8 ×（5.7）×― | ハケメ後ヘラケズリ | ミガキ後黒色処理 | 酸普 | 長、白、英 | 10YR8/2 灰白 | |
| 171 | 土師器 | 高杯 | SK719 | 13B17 | 3 | 1/3　脚部 | ―×（8.0）× 12.3 | ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸普 | 長、白 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | |
| 172 | 土師器 | 小甕 | SK719 | 13B17 | 2 | 1/2 | 10.6 ×（12.2）×― | ハケメ | ハケメ後ヘラナデ | 酸軟 | 長、雲、白 | 2.5Y8/1 灰白 | 甕CⅢ |
| 173 | 土師器 | 甕 | SK719 | 13B22 | 3 | 3/5 | 16.8 × 24.8 × 8.4 | ハケメ | ハケメ後ヘラナデ | 酸軟 | 粗砂、英 | 5YR8/1 灰白 | 焼成痕顕著 甕BⅢ3 |
| 174 | 土師器 | 甕 | SK719 | 13B17 | 2 | 1/6 | 17.0 ×（11.2）×― | ハケメ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、英 | 10YR8/1 灰白 | 甕BⅢ |
| 175 | 土師器 | 甕 | SK719 | 13B17 | 3 | 1/3 | ―×（15.5）× 7.1 | ハケメ | ハケメ | 酸普 | 英 | 10YR8/2 灰白 | 甕BⅡ |
| 176 | 土師器 | 甕 | SK720 | 13B22 | 3 | 1/5 | 15.2 × 8.1 ×― | ハケメ後ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、白、英 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 甕CⅢ |
| 177 | 土師器 | 高杯 | SK726 | 13A20 | 1 | 1/4 | ―×（7.3）×― | 脚部ヘラケズリ | 杯部ミガキ後黒色処理、脚部ヘラナデ | 酸普 | 長、英、白、チ | 10YR8/1 灰白 | |
| 178 | 土師器 | 椀 | SK727 | 13B21 | 2 | 1/7 | 14.2 ×（5.3）×― | ハケメ後ヘラケズリ | ミガキ後黒色処理 | 酸軟 | 長、雲、白 | 2.5Y7/4 浅黄 | 内斜口縁 |
| 179 | 土師器 | 甕 | SK727 | 13B21 | 2 | 1/7 | 19.0 ×（10.5）×― | ハケメ | ハケメ後下半ヘラナデ | 酸軟 | 長、雲、チ | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 甕BⅢ |
| 180 | 須恵器 | 瓶 | SK732 | 14B01 | 1 | 1/2 | ―×（10.0）×― | 胴部カキメ | ロクロナデ | 還硬 | 長 | N6/　灰 | |
| 181 | 土師器 | 甕 | SK732 | 14B01 | 1 | 1/6 | 27.6 ×（8.6）×― | ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、白、英 | 5YR7/6　橙 | 甕AⅢ |
| 182 | 土師器 | 甑把手 | SK732 | 14A05 | 2 | 胴部片 | | 手捏ね | 手捏ね | 酸軟 | 長、チ | 7.5YR6/4 にぶい橙 | |
| 183 | 土師器 | 甕 | SK733 | 14B12 | 1 | 4/5 | 18.0 ×（30.1）×― | ハケメ・ヘラケズリ後上半幅細ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、チ | 7.5YR8/2 灰白 | 甕内底部に炭化物付着 甕AⅢ |
| 184 | 土師器 | 鉢 | SK733 | 14B06 | 1 | 1/10 | 15.8 ×（7.1）×― | ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、英 | 7.5YR8/6 浅黄橙 | |
| 185 | 土師器 | 小甕 | SK733 | 14B06 | 1 | 1/5 | ―×（1.8）× 4.7 | ヘラケズリ、底部木葉痕 | ヘラナデ | 酸軟 | 輝、白 | 7.5YR7/3 にぶい橙 | 甕CⅢ1b |
| 186 | 土師器 | 小甕 | SK734 | 14A05 | 2 | 2/3 | 13.8 × 19.3 × 6.5 | ハケメ | ハケメ後ヘラナデ | 酸軟 | 長、英、チ | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 甕C+DⅢ1 |
| 187 | 土師器 | 無台杯 | SK755 | 14A10 | 1 | 4/5 | 13.0 × 3.7 ×― | ヘラケズリ | ミガキ後黒色処理 | 酸普 | 英、白 | 7.5YR8/3 浅黄橙 | |
| 188 | 土師器 | 甕 | SK755 | 14A10 | 1 | 1/5 | ―×（4.5）× 8.8 | ハケメ後下端ヘラケズリ | ハケメ | 酸軟 | 長、チ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 甕BⅡ1 |
| 189 | 土師器 | 甕 | SK755 | 14A10 | 2 | 2/3 | ―×（27.4）× 10.4 | ハケメ | ハケメ後ヘラナデ、輪積痕明瞭 | 酸軟 | 長 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 甕BⅢ2 |
| 190 | 須恵器 | 横瓶 | SK733 | 14B12 | 1 | 1/2 | 12.6 ×（24.3）×― | 平行叩き後カキメ | 同心円アテ具 | 還硬 | 長 | N6/　灰 | |
| 191 | 土師器 | 高杯 | SK767 | 14A10 | 2 | 1/5 | ―×（6.4）×― | 杯・脚部ヘラケズリ | 杯部ミガキ後黒色処理脚部ヘラナデ | 酸普 | 長、英、白 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | |
| 192 | 土師器 | 高杯 | SK767 | 14B06 | 1 | 1/4　脚部のみ | ―×（6.0）× 11.0 | ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、雲、白 | 2.5Y7/1 灰白 | 東北系方形透かし５孔 |
| 193 | 土師器 | 甕 | SK767 | 14B06 | 1 | 1/6 | 13.0 ×（7.0）×― | ハケメ | ハケメ | 酸普 | 長、雲 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 甕CⅡ |
| 194 | 土師器 | 甕 | SK767 | 14B06 | 1 | 1/3 | 20.1 × 30.1 × 9.0 | ハケメ後ヘラケズリ | ハケメ・ヘラナデ後、下半ミガキ | 酸軟 | 長、英 | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 甕AⅠ3a |
| 195 | 土師器 | 甕 | SK767 | 14B06 | 1 | 1/5 | ―×（6.0）× 7.4 | ２次焼成で器面剥離顕著 | ２次焼成で器面剥離顕著 | 酸軟 | 長、チ | 10YR5/2 灰黄褐 | 甕C |
| 196 | 土師器 | 甕 | SK767 | 14B06 | 1 | 1/6 | ―×（4.8）× 7.5 | ハケメ後下半ヘラケズリ | ハケメ後ヘラナデ | 酸軟 | 長、チ | 2.5Y7/2 灰黄 | 甕AⅡ1 |
| 197 | 珠洲焼 | 擂鉢 | SD290 | 12B07 | 1 | | ―×（6.2）×― | | 摺目 11 条 | 還普 | 砂粒 | 10YR8/1 灰白 | |
| 198 | 珠洲焼 | 甕 | SD290 | 12B05 | 1 | 胴部片 | ―×（5.3）×― | 綾杉状に平行タタキ | | 還普 | 砂粒 | N7/　灰白 | |
| 199 | 珠洲焼 | 擂鉢 | SK280 | 11C11 | 1 | 体部下端破片 | ―×（3.9）×― | | 摺目有 | 還普 | 砂粒 | 7.5Y5/1　灰 | |

| 番号 | 種類 | 器形 | 遺構名 | グリッド | 層位 | 遺存度 | 口径×器高×底径（㎝） | 調整（外面） | 調整（内面） | 焼成 | 胎土 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 200 | 弥生土器 | 深鉢 | | 7B04 | Ⅱc | | ―×（4.4）×― | 口縁沈線による変形工字文、地文 LR の斜縄文 | ヘラナデ | 酸軟 | 長、英 | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 弥生前期 |
| 201 | 弥生土器 | 深鉢 | SK377 | 13B10 | 2 | | ―×（5.6）×― | 口縁沈線による変形工字文、地文 LR の斜縄文 | ミガキ | 酸軟 | 長、チ | 2.5Y7/3 浅黄 | 弥生前期 |
| 202 | 弥生土器 | 深鉢 | | 8B02 | Ⅱc | 胴部片 | ―×（3.9）×― | 地文 RL の斜縄文 | ヘラナデ | 酸軟 | 長、英 | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 弥生前期 |
| 203 | 弥生土器 | 深鉢 | | 9C01 | Ⅱc | | ―×（3.3）×― | ミガキ | ミガキ | 酸軟 | 長、白、輝 | 5Y5/1　灰 | 弥生前期 |
| 204 | 弥生土器 | 壺 | | 10B02 | Ⅱc | 胴部片 | ―×（4.9）×― | 平行沈線間に交互刺突文、地文 LR の斜縄文 | ヘラナデ | 酸軟 | 長、英 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 弥生後期 天王山式 |
| 205 | 須恵器 | 蓋 | SD290 | 12B07 | 1 | 1/3 | 8.5 × 3.7 ×― | 天井回転ヘラケズリ | ロクロナデ | 還硬 | 細砂、緻密 | N4/　灰 | |
| 206 | 土師器 | 甕 | SD291 | 12B04 | 5 | 1/4 | 17.6 × 28.0 × 9.8 | ヘラケズリ後疎らなミガキ | ヘラナデ後疎らなミガキ | 酸普 | 礫、長、雲 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 甕AⅠ1 |
| 207 | 土師器 | 甑 | SD291 | 11C16 | 2 | 1/5 | ―×（5.6）×― | ヘラケズリ、底部単孔 | ヘラナデ | 酸軟 | 長、英 | 7.5YR6/4 にぶい橙 | |
| 208 | 土師器 | 無台杯 | | 4C21 | Ⅱb | 2/3 | 12.8 × 3.6 × 6.2 | 底部回転糸切り離し無調整 | ロクロナデ | 酸軟 | 細砂 | 7.5YR7/6 橙 | 10世紀代 |
| 209 | 土師器 | 無台杯 | | 3B06 | Ⅱb | 1/4 | 12.4 × 3.5 × 4.8 | 底部回転糸切り離し無調整 | ロクロナデ | 酸軟 | 細砂 | 7.5YR8/1 灰白 | 10世紀代 |
| 210 | 土師器 | 有台杯 | | 10B01 | Ⅱb | 1/8 | ―×（1.2）× 8.4 | 底部回転糸切り離し後高台貼付け | ロクロナデ | 酸普 | 雲 | 10YR8/2 灰白 | 10世紀代 |
| 211 | 土師器 | 甕 | | 26 トレンチ | | 1/2 | 22.3 × 29.6 × 12.3 | ハケメ後下半ヘラケズリ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、白、輝 | 2.5Y7/3 浅黄 | 試掘調査時出土。甕AⅢ1 |
| 212 | 土師器 | 甕 | | 26 トレンチ | | 1/3 | 18.2 ×（10.8）×― | ハケメ | ヘラナデ | 酸軟 | 長、白、輝 | 10YR7/2 浅黄橙 | 試掘調査時出土。甕CⅢ |

## 行屋崎遺跡　土製品観察表

| 番号 | 種類 | 遺構名 | グリッド | 層位 | 遺存度 | 長さ×幅×厚さ（㎝）×重量（g） | 成・整形 | 焼成 | 胎土 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 213 | ミニチュア土器 | | 8C | Ⅱc | 1/2 | 4.2 ×―× 2.0 × 30 | 体～底部外面ヘラケズリ | 酸軟 | 英、白 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | |
| 214 | 手捏ね土器 | | 8B13 | Ⅱc | ほぼ完形 | 6.2 × 5.8 × 3.5 × 70 | 手捏ね、内面ヘラケズリ | 酸軟 | 長、英、輝 | 7.5YR7/6 橙 | |
| 215 | 人形（頭部） | | 5B05 | Ⅱc | 1/5 | 3.8 × 2.6 × 1.8 × 30 | 頭部を手捏ねしてから耳と鼻を隆起させ、目と口は先が尖った工具で刺突 | 酸軟 | 長、英 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | |
| 216 | 人形（胴部） | | 8B06 | Ⅱc | 1/3 | 7.5 × 4.8 × 1.9 × 50 | 手捏ね。首・胴・片手か | 酸軟 | 長、英 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | |
| 217 | 動物形 | | 4C16 | Ⅱc | 1/2 | 5.3 × 4.2 × 5.5 × 52 | 手捏ね。胴と足か | 酸軟 | 長、英 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 土馬か |
| 218 | 動物形 | | 5B05 | Ⅱc | 小破片 | 4.1 × 2.2 × 1.5 × 20 | 手捏ね。頭部か | 酸軟 | 長、英 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 土馬か |
| 219 | 動物形 | P12 | 4B09 | 1 | 小破片 | 5.4 × 2.6 × 2.4 × 60 | 手捏ね。頭部か | 酸軟 | 長、英 | 7.5YR7/3 にぶい橙 | 土馬か |
| 220 | 動物形 | | 9B16 | Ⅱc | 小破片 | 8.0 × 2.2 × 1.5 × 40 | 手捏ね。胴部か | 酸軟 | 長、英 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 土馬か |
| 221 | 動物形 | | 5A20 | Ⅱc | 小破片 | 3.3 × 3.6 × 2.0 × 40 | 手捏ね。胴部か | 酸軟 | 長、英 | 7.5YR6/4 にぶい橙 | 土馬か |
| 222 | 動物形 | | 4C16 | Ⅱc | 小破片 | 2.5 × 3.4 × 1.7 × 15 | 手捏ね。足か | 酸軟 | 長、英 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 土馬か |
| 223 | 動物形 | | 4C16 | Ⅱc | 小破片 | 2.5 × 2.0 × 1.0 × 10 | 手捏ね。足か | 酸軟 | 長、英 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 土馬か |
| 224 | 動物形 | | 8B04 | Ⅱc | 小破片 | 4.2 × 2.5 × 2.6 × 30 | 手捏ね。胴部か | 酸軟 | 長、英 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 土馬か |
| 225 | 紡錘車 | SR400 | 14B | 7 | 1/4 | （4.2）×（3.0）× 2.0 × 18 | ヘラケズリ、復元上端径 4.2㎝・下端径 3.0㎝・紡茎孔径6㎜ | 酸軟 | 長、英、チ | 7.5YR6/4 にぶい橙 | |
| 226 | 土錘 | SD4 | 4C06 | 1 | 完形 | 7.8 × 2.3 × 2.0 × 62 | 径 8㎜の棒に巻きつけて手捏ね | 酸軟 | 長、英、輝 | 2.5YR5/1 赤灰 | |
| 227 | 板状土製品 | SR400 | 14B25 | 7 | 1/4 | （9.8）× 4.6 ×（2.6）× 132 | ハケメ | 酸普 | 長、英、輝 | 10YR6/2 灰黄褐 | |
| 228 | 板状土製品 | SD291 | 11B25 | 3 | 1/2 | （7.0）× 6.0 × 2.2 × 170 | 両側面に型詰め痕、表裏はヘラケズリ | 酸普 | 長、輝 | 10YR6/4 にぶい黄橙 | |
| 229 | 円柱支脚 | | 11B | Ⅱc | 完形 | 10.1 × 4.7 × 4.3 × 265 | ヘラケズリ | 酸軟 | 長、英、チ | 2.5YR7/4 淡赤橙 | 2 次焼成痕顕著 |
| 230 | 円柱支脚 | SK402 | 9C01 | 2 | ほぼ完形 | 9.9 × 4.4 × 4.4 × 285 | ヘラケズリ | 酸軟 | 長、英、チ | 2.5YR6/3 にぶい橙 | 2 次焼成痕顕著 |
| 231 | 円柱支脚 | | 10B | Ⅱc | 2/3 | 6.7 × 3.7 × 3.6 × 115 | ヘラケズリ | 酸軟 | 長、英 | 2.5YR6/4 にぶい橙 | 2 次焼成痕顕著 |
| 232 | 円柱支脚 | SK170 | 9B16 | 1 | 完形 | 9.5 × 4.0 × 3.7 × 190 | ヘラケズリ | 酸軟 | 長、英、チ | 2.5YR6/4 にぶい橙 | 2 次焼成痕顕著 |
| 233 | 円柱支脚 | SK11 | 3B07 | 2 | 3/4 | 6.5 × 4.0 × 3.5 × 120 | ヘラナデ | 酸軟 | 長、英 | 2.5YR4/3 にぶい赤褐 | 2 次焼成痕顕著 |
| 234 | 円柱支脚 | SR400 | 14B | 7 | 4/5 | 8.3 × 4.2 × 4.3 × 185 | ヘラナデ | 酸軟 | 長、英、チ | 2.5YR6/6 橙 | 2 次焼成痕顕著 |
| 235 | 円柱支脚 | SR400 | 14B15 | 7 | 3/4 | 8.3 × 5.5 × 5.1 × 270 | ヘラナデ | 酸軟 | 長、英 | 2.5YR4/3 にぶい赤褐 | 2 次焼成痕顕著 |
| 236 | 円柱支脚 | SR400 | 14B07 | 7 | 1/3 | 5.0 × 5.7 × 5.3 × 220 | ヘラケズリ | 酸軟 | 長、英、輝 | 2.5YR6/4 にぶい橙 | 2 次焼成痕顕著 |
| 237 | 円柱支脚 | SR400 | 14B | 7 | 2/3 | 7.0 × 3.8 × 3.7 × 140 | ヘラケズリ | 酸軟 | 長、英、輝 | 2.5YR7/4 淡赤橙 | 2 次焼成痕顕著 |
| 238 | 円柱支脚 | SK11 | 3B07 | 2 | 2/3 | 7.0 × 5.4 × 4.3 × 185 | ヘラケズリ | 酸軟 | 長、英、輝 | 10YR6/4 にぶい赤橙 | 2 次焼成痕顕著 |
| 239 | 円柱支脚 | | 8B04 | Ⅱc | 2/3 | 6.4 × 3.3 × 3.2 × 90 | ヘラケズリ | 酸軟 | 長、英、チ、輝 | 2.5YR4/2 灰赤 | |
| 240 | 円柱支脚 | SK755 | 14A10 | 7 | 完形 | 11.0 × 3.6 × 2.5 × 170 | 手捏ね | 酸軟 | 長、英、輝 | 2.5YR7/4 淡赤橙 | |

| 番号 | 種類 | 遺構名 | グリッド | 層位 | 遺存度 | 長さ×幅×厚さ（㎝）×重量（g） | 成・整形 | 焼成 | 胎土 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 241 | 鞴羽口 | SK210 | 10B14 | 3 | 3/4 | (9.8) × 8.2 × 7.8 × 490 | 炉挿入部欠損、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ | 酸軟 | 長、輝、白 | 5YR7/4 にぶい橙 | |
| 242 | 円筒形土製品 | SK765 | 14A09 | 1 | 3/4 | (15.3) × 10.4 × 8.7 × 1080 | 外面ハケメ、内面輪積痕顕著 | 酸軟 | 長、英 | 7.5YR6/2 灰褐 | |
| 243 | 円筒形土製品 | SK421 | 13B24 | 1 | 1/3 | (10.2) × 8.2 ×—× 290 | 外面ハケメ、内面輪積痕顕著 | 酸軟 | 長、英、チ | 10R6/6 赤橙 | 2 次焼成痕あり |
| 244 | 塊状土製品 | SK210 | 10B14 | 3 | 完形 | 5.5 × 5.0 × 4.2 × 120 | 布に包んでオニギリ形に手捏ね成形 | 酸軟 | 細砂 | 5YR8/1 灰白 | |
| 245 | 塊状土製品 | SK210 | 10B14 | 3 | 3/4 | 6.5 × 5.5 × 3.0 × 130 | 布に包んでオニギリ形に手捏ね成形 | 酸軟 | 細砂 | 5YR8/1 灰白 | |
| 246 | 塊状土製品 | SK210 | 10B14 | 3 | 3/4 | 6.7 × 5.5 × 4.9 × 170 | 布に包んでオニギリ形に手捏ね成形 | 酸軟 | 細砂 | 5YR8/1 灰白 | |
| 247 | 塊状土製品 | SK210 | 10B14 | 3 | 4/5 | 6.5 × 3.5 × 3.5 × 60 | 布に包んでオニギリ形に手捏ね成形 | 酸軟 | 細砂 | 5YR8/1 灰白 | |
| 248 | カマド | | 12B18 | Ⅱc | 1/5 | 口径(28.7)×器高(27.4)×下端径(29.6) | 内外面ハケメ | 酸軟 | 長、英、チ | 10YR8/2 灰白 | 同一個体と見られる破片で図上復元を行なった |
| 249 | カマド | | 12B18 | Ⅱc | 口縁片 | | 内外面ハケメ | 酸軟 | 長、英、チ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | |
| 250 | カマド（把手） | SK733 | 14B12 | 1 | 胴部片 | 下端径 2.5 ×突出長 2.2㎝の円錐形の把手 | 内面ハケメ | 酸軟 | 長、英、チ、輝 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | |
| 251 | カマド | | 9B21 | Ⅱc | 焚口上部片 | | 内外面ハケメ | 酸軟 | 長、英、白 | 10YR7/6 明黄褐 | |
| 252 | カマド | | 13B | Ⅱc | 焚口上部片 | | 内外面ハケメ | 酸軟 | 長、英、輝 | 10YR8/2 浅黄橙 | 261 と同一個体 |
| 253 | カマド | SK719 | 13B17 | 2 | 焚口上部片 | | 内外面ハケメ | 酸軟 | 長、英、白 | 7.5YR6/2 灰褐 | 253 ～ 257 同一個体 |
| 254 | カマド | | 13B22 | Ⅱc | 焚口上部片 | | 内外面ハケメ | 酸軟 | 長、英、白 | 7.5YR6/2 灰褐 | 〃 |
| 255 | カマド | | 13B22 | Ⅱc | 胴部片 | | 内外面ハケメ | 酸軟 | 長、英、白 | 7.5YR6/2 灰褐 | 〃 |
| 256 | カマド | SK394 | 13B18 | 1 | 基底部片 | | 内外面ハケメ | 酸軟 | 長、英、白 | 7.5YR6/2 灰褐 | 〃 |
| 257 | カマド | SR400 | 15B04 | 7 | 基底部片 | | 内外面ハケメ | 酸軟 | 長、英、白 | 7.5YR7/3 にぶい橙 | 〃 |
| 258 | カマド | SK423 | 13B14 | 2 | 基底部片 | | 内外面ハケメ | 酸軟 | 長、英、白 | 7.5YR7/3 にぶい橙 | 259 と同一個体 |
| 259 | カマド | | 12B22 | Ⅱc | 基底部片 | | 内外面ハケメ | 酸軟 | 長、英、白 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 258 と同一個体 |
| 260 | カマド | SD341 | 12B18 | 1 | 焚口下部片 | | 内外面ハケメ | 酸軟 | 長、英、白 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | |
| 261 | カマド | | 11C | Ⅱc | 基底部片 | | 外面ハケメ | 酸軟 | 長、英、白 | 10YR8/4 浅黄橙 | 252 と同一個体 |
| 262 | カマド（ミニチュア） | | 9C | Ⅱc | 基底部片 | | 内面ハケメ | 酸軟 | 長、英、輝 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | |

## 行屋崎遺跡　石製品観察表

| 番号 | 種類 | 遺構名 | グリッド | 層位 | 遺存度 | 長さ×幅×厚さ（㎝）×重量（g） | 成・整形、使用痕 | 石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 263 | 紡錘車 | SK138 | 8C22 | 1 | ほぼ完形 | 4.8 × 4.7 × 1.7 × 55 | 紡茎径 7㎜、全面丁寧な研磨 | 流紋岩 | |
| 264 | 紡錘車未成品か | SK628 | 11C12 | 1 | 製作途中 | 4.9 × 4.4 × 2.9 × 52 | 側面は荒い研磨 | 凝灰岩 | |
| 265 | 権状錘 | | 9C02 | Ⅱc | 完形 | 4.4 × 3.1 × 2.1 × 62 | 6 面丁寧に成形、上端に 2㎜の穿孔あり | 凝灰岩 | |
| 266 | 砥石 | SD291 | 11B25 | 5 | 1/3 | (3.8) × 2.9 × 2.0 × 38 | 4 面が砥面 | 流紋岩 | |
| 267 | 筋砥石 | SR400 | 14B25 | 7 | 1/4 | 11.3 × 9.3 × 5.4 × 330 | 両面が砥面、片面に深さ 4㎜の刃による筋あり | 凝灰岩 | |
| 268 | 砥石 | SR400 | 14A24 | 7 | 2/3 | 17.2 × 10.7 × 4.6 × 1080 | 両面が砥面 | 砂岩 | |
| 269 | 砥石 | SK74 | 7A05 | 1 | 完形 | 17.5 × 7.8 × 6.5 × 860 | 2 面が砥面 | 凝灰岩 | |
| 270 | 凹石 | SK190 | 10C01 | 1 | 完形 | 12.9 × 6.8 × 5.0 × 575 | 両面に 2 箇所の凹みあり、両端と側面に敲打痕 | 凝灰岩 | 縄文時代所産か |
| 271 | 砥石 | | 4B13 | Ⅱc | 2/3 か | 12.7 × 11.0 × 4.8 × 1030 | 3 面が砥面 | 凝灰岩 | |
| 272 | 砥石 | SR400 | 14B14 | 7 | 完形 | 17.3 × 12.5 × 3.8 × 1170 | 両面と片側面の 3 面が砥面、刃物痕あり、片面中央に窪み | 凝灰岩 | |
| 273 | 砥石か | SK421 | 13B24 | 1 | 1/2 | (6.6) × 5.1 × (3.8) × 42 | 3 面に砥面とみられる使用痕あり | 輝石安山岩 | |
| 274 | 砥石 | SD250 | 11B06 | 1 | 1/2 | (3.1) × (4.3) × (2.6) × 40 | 2 面が砥面 | 花崗岩 | |
| 275 | 砥石か | | 10B | Ⅱc | 1/2 | (6.1) × (8.2) × (4.1) × 60 | 2 面に砥面とみられる使用痕あり | 輝石安山岩 | |

## 行屋崎遺跡　金属製品観察表

| 番号 | 種類 | 遺構名 | グリッド | 層位 | 遺存度 | 長さ×幅×厚さ（㎝）×重量（g） | 成・整形 | 材質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 276 | 鈴 | SR400 | 15C01 | 7 | 完形 | 2.1 × 2.1（帯含むと 2.5）× 2.1 × 8 | 鈕は可動式で、端を鈴体内で互い違いに折り曲げる。体内に小石、銅板厚さは約 0.3㎜ | 銅 | |
| 277 | 耳環 | SK282 | 11B14 | 1 | 完形 | 2.7 × 2.4 × 0.5 × 11 | 断面径 5㎜の環状 | 白銅 | |
| 278 | 雁又鏃 | | 9C02 | Ⅱc | 4/5 | 9.2 × 2.7 × 0.4 × 14 | 身部二又になり、内側に鋭角な刃部、茎部は断面四角形 | 鉄 | |
| 279 | 斧 | SK765 | 14A09 | 1 | 完形 | 7.5 × 3.4 × 1.9 × 70 | 柄装着の袋部形成。刃部肉厚で尖端鋭角 | 鉄 | |
| 280 | 斧 | SD291 | 11C21 | 2 | 1/2 | (6.6) × (3.2) × (1.9) × 52 | 柄装着の袋部形成。刃部肉厚 | 鉄 | |
| 281 | 鑿 | | 4B22 | Ⅱc | 完形 | 25.4 × 2.4 × 1.0 × 240 | 先端幅窄まり、刃部鈍角 | 鉄 | |
| 282 | 椀形鍛冶滓 | | 10C06 | Ⅱc | 破片 | (4.8) × (4.6) × 2.0 ～ 3.0 × 160 | 上面平坦、下面丸みを持ち発砲顕著、側面 3 面破面、1 面炉底上がり気味 | 鉄 | |
| 283 | 椀形鍛冶滓 | SK765 | 14A09 | 1 | 破片 | (3.1) × (2.6) × 1.2 ～ 2.0 × 35 | 上面平坦、下面丸みを持ち発砲顕著、側面 4 面破面 | 鉄 | |

## 行屋崎遺跡　木製品観察表

| 番号 | 種類 | 遺構名 | グリッド | 層位 | 遺存度 | 長さ×幅×厚さ（㎝） | 成・整形 | 木取り | 樹種 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 284 | 直柄平鍬 | SR400 | 15B21 | 7 | 柄両端欠損 | (身)15.7 × 18.1 × 2.7(柄)5.1 × 2.2 ×径 2.1 | 身全面削り出し、柄面取り | 柾目、芯持削出 | アサダエゴノキ属 | 柄振りとして使用か |
| 285 | 直柄平鍬 | SR400 | 15B17 | 7 | 欠損顕著 | (身) —×—× 3.0（柄）—× 2.3 × 2.1 | 身全面削り出し、柄面取り | 柾目、芯持削出 | | 欠損著しく、図上復元できず |
| 286 | 一木平鋤 | SR400 | 15B24・25 | 7 | 未成品完存 | 137.0 × 21.5 × 7.5 | 全面粗い削り出し | 柾目 | アサダ | |
| 287 | 柄 | SR400 | 14B23 | 7 | 一端欠損 | 32.6 × 2.9 × 2.1 | 片方断面円形に面取りし、もう片方は四角形に削り出し、先端尖らせる | | | |

| 番号 | 種類 | 遺構名 | グリッド | 層位 | 遺存度 | 長さ×幅×厚さ（㎝） | 成・整形 | 木取り | 樹種 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 288 | 柄 | SR400 | 15B17 | 7 | 両端欠損 | 24.9 × 3.9 × 2.8（木釘）2.3 × 0.8 × 0.6 | 片方断面四角形に削り出し、もう片方は円形に面取り。両端欠損 | | タラノキトチノキ | |
| 289 | 柄 | SR400 | 14C12 | 7 | 一端欠損 | 21.5 × 1.4 × 1.5 | 削り出して八角形に成形 | 芯去削出 | スギ | |
| 290 | 柄 | SR400 | 14C12 | 7 | 完形 | 9.8 × 2.5 × 2.4 | 円錐形に削り出し | 芯去削出 | スギ | 栓の可能性有り |
| 291 | 柄 | SR400 | 14B14 | 7 | 先端欠損 | 21.0 × 4.3 × 2.9 | 刀子形に削り出し | 柾目 | トネリコ属シオジ節 | |
| 292 | 柄 | SR400 | 14B19 | 7 | 片端欠損 | 23.4 × 3.4 × 2.0 | 丁寧な削り出し | 芯去削出 | クマノミズキ類 | |
| 293 | 柄 | SR400 | 13B25 | 7 | 片端欠損 | 7.7 × 2.0 × 1.2 | 側面と端部削り出し | 芯持丸木 | ナシ亜科 | |
| 294 | 竪杵 | SR400 | 15C01 | 7 | 半分欠損 | 30.1 × 69.2 × 8.8 | 側面丁寧な削り出し、搗き部やや摩耗 | 芯持丸木 | ツバキ属 | |
| 295 | 糸車の横木 | SR400 | 15A25 | 7 | 一端欠損 | 45.1 × 6.6 × 4.9 | 全面削り出し、中央に 2.8㎝の孔有り | 芯去削出 | コナラ属アカガシ亜属 | |
| 296 | 田下駄 | SR400 | 14B17 | 7 | 左半分欠損 | 27.3 × 5.8 × 0.9 | 孔 2 箇所有り | 板目 | スギ | |
| 297 | 大足の横桟 | SR400 | 14B15 | 7 | 完形 | 52.8 × 3.0 × 1.5 | 両端凸形 | 芯去削出 | スギ | |
| 298 | 櫂 | SR400 | 16B01 | 7 | 柄欠損 | 59.4 × 7.3 × 1.9 | 身丁寧な削り出し | 柾目 | ケンポナシ属 | |
| 299 | 櫂 | SR400 | 14B23 | 7 | 柄一端欠損 | 75.0 × 8.8 × 2.0 | 柄・身とも丁寧な削り出し | 柾目 | ケンポナシ属 | |
| 300 | 弓状木製品 | SR400 | 14C03 | 7 | 完形 | 60.0 × 2.4 × 20.0 | 幹面取り、両端削り | 芯持丸木 | イヌガヤ | |
| 301 | 弓状木製品 | SR400 | 14B20 | 7 | 一端欠損 | 86.7 × 2.4 × 1.7 | 幹面取り、一端削り | 芯持丸木 | イヌガヤ | |
| 302 | 弓状木製品 | SR400 | 15B22 | 7 | 完形 | 146.0 × 2.8 × 2.7 | 幹面取り、両端削り、部分的に焦げ | 芯持丸木 | イヌガヤ | |
| 303 | 弓状木製品 | SR400 | 15B16・17・21 | 7 | 完形 | 149.0 × 3.0 × 2.2 | 幹面取り、両端削り | 芯持丸木 | イヌガヤ | |
| 304 | 弓状木製品 | SR400 | 15A15 15B11 | 7 | 一端欠損 | 145.5 × 4.0 × 4.5 | 幹面取り、一端削り | 芯持丸木 | イヌガヤ | |
| 305 | 弓状木製品 | SR400 | 15B21 | 7 | 一端欠損 | 101.2 × 2.7 × 2.2 | 幹面取り、一端削り | 芯持丸木 | イヌガヤ | |
| 306 | 弓状木製品 | SR400 | 15B19 | 7 | 完形 | 55.8 × 2.4 × 2.0 | 幹面取り、一端削り | 芯持丸木 | イヌガヤ | |
| 307 | 弓状木製品 | SR400 | 16B01 | 7 | 一端欠損 | 61.4 × 2.4 × 1.8 | 幹面取り及び削り、両端削り | 芯持丸木 | イヌガヤ | |
| 308 | 弓状木製品 | SR400 | 15B17・22 | 7 | 一端欠損 | 52.7 × 2.8 × 2.0 | 幹面取り、一端削り | 芯持丸木 | イヌガヤ | |
| 309 | 弓状木製品 | SR400 | 15B16・21 | 7 | 一端欠損 | 86.4 × 3.7 × 3.2 | 幹面取り、一端削り | 芯持丸木 | イヌガヤ | |
| 310 | 弓状木製品 | SR400 | 14A25 | 7 | 一端のみ | 14.2 × 1.2 × 1.0 | 幹面取り、一端削り | 芯持丸木 | イヌガヤ | 丸木弓の可能性あり |
| 311 | 用途不明木製品 | SR400 | 13B17 | 7 | 1/4 | 331.0 × 60.0 × 8.0 | 一木刳物 | 板目 | トネリコ属シオジ節 | 丸木舟の可能性有り |
| 312 | 用途不明木製品 | SR400 | 15C21 | 7 | 1/4 | 220.0 × 63.0 × 13.0 | 一木刳物 | 板目 | トネリコ属シオジ節 | 丸木舟の可能性有り |
| 313 | 用途不明木製品 | SR400 | 14C12 | 7 | 完形 | 11.2 × 8.5 × 7.4 | 幹・両端削り出し | 芯持・丸木 | | |
| 314 | 用途不明木製品 | SR400 | 14A25 | 7 | 完形 | 8.9 × 5.4 × 5.1 | 三角形に削り出し | | アサダ | |
| 315 | 用途不明木製品 | SR400 | 14C6・11 | 7 | 1/2 | 14.5 × 9.8 × 5.1 | 幹・両端丁寧な削り出し、中央側面に臍穴有り | 半割 | ユズリハ属 | |
| 316 | 用途不明木製品 | SR400 | 15B20 | 7 | 完形 | 27.2 × 3.4 × 1.7 | 削り出して三角形に成形 | ミカン割り | スギ | |
| 317 | 用途不明木製品 | SR400 | 15C11 | 7 | 完形 | 15.5 × 15.6 × 7.9 | 塊状に削り出し | | カツラ | |
| 318 | 丸木弓 | SR400 | 14B20 | 7 | 完形 | 118.6 × 2.2 × 2.1 | 両端に弭、弓幹丁寧な面取り | 芯持丸木 | イヌガヤ | |
| 319 | 丸木弓 | SR400 | 14B24 | 7 | 完形 | 93.7 × 1.2 × 1.0 | 両端に弭、弓幹丁寧な面取り | 芯持丸木 | イヌガヤ | |
| 320 | 丸木弓 | SR400 | 14B24 | 7 | 2/3 | 78.5 × 1.7 × 2.0 | 一端に弭 | 芯持丸木 | イヌガヤ | |
| 321 | 丸木弓 | SR400 | 16B01 | 7 | 1/2 | 51.2 × 1.3 × 1.2 | 一端に弭 | 芯持丸木 | イヌガヤ | |
| 322 | 丸木弓 | SR400 | 14B20 | 7 | 1/3 | 34.2 × 1.3 × 1.3 | 一端に弭 | 芯持丸木 | イヌガヤ | |
| 323 | 丸木弓 | SR400 | 14B20 | 7 | 1/2 | 48.0 × 1.4 × 1.3 | 一端に弭 | 芯持丸木 | イヌガヤ | |
| 324 | 丸木弓 | SR400 | 14B15 | 7 | 1/6 | 15.7 × 1.5 × 1.0 | 一端に弭 | 芯持丸木 | イヌガヤ | |
| 325 | 把手付槽 | SR400 | 15B16・21 | 7 | ほぼ完形 | 188.0（うち把手 16.0）× 57.0 × 11.3 | 一木刳物、片側把手残存 | 板目 | ケヤキ | |
| 326 | 槽 | SR400 | 15B14 | 7 | 1/6 | 48.0 × 17.8 × 5.1 | 一木刳物 | 板目 | カツラ | |
| 327 | 板材（木樋か） | SR400 | 14B15 | 7 | 完形 | 94.7 × 1.5 × 1.5 | 両端・4 側面削り出し | 角材 | カヤ | |
| 328 | 板材（木樋か） | SR400 | 14B15 | 7 | 完形 | 85.6 × 2.0 × 0.7 | 両端・4 側面削り出し | 角材 | カヤ | |
| 329 | 板材（木樋か） | SR400 | 14B15 | 7 | 完形 | 96.0 × 2.5 × 1.5 | 両端・4 側面削り出し | 角材 | カヤ | |
| 330 | 板材（木樋か） | SR400 | 14B15 | 7 | 完形 | 39.0 × 1.7 × 1.0 | 両端・4 側面削り出し | 角材 | カヤ | |
| 331 | 板材（木樋か） | SR400 | 14B15 | 7 | 完形 | 37.7 × 1.4 × 0.5 | 両端・4 側面削り出し | 角材 | カヤ | |
| 332 | 板材（木樋か） | SR400 | 15B16 | 7 | 完形 | 97.3 × 3.1 × 2.0 | 両端・4 側面削り出し | 角材 | カヤ | |
| 333 | 板材（木樋か） | SR400 | 15B16 | 7 | 完形 | 94.3 × 2.4 × 1.5 | 両端・4 側面削り出し | 角材 | カヤ | |
| 334 | 板材（木樋か） | SR400 | 15B16 | 7 | 完形 | 81.8 × 2.3 × 1.8 | 両端・4 側面削り出し | 角材 | カヤ | |
| 335 | 板材（木樋か） | SR400 | 15B16 | 7 | 完形 | 94.8 × 3.3 × 1.8 | 両端・4 側面削り出し | 角材 | カヤ | |
| 336 | 曲物底板 | SR400 | 15A04 | 7 | 完形 | 16.3 × 16.8 × 0.9 | 円形、面削り出し | 芯去削出 | スギ | |
| 337 | 曲物底板 | SR400 | 14B13 | 7 | 1/2 | 16.1 × 7.5 × 0.8 | 円形、面削り出し | 柾目 | スギ | |
| 338 | 曲物底板 | SR400 | 14B17 | 7 | 1/2 | 17.3 × 6.2 × 0.6 | 円形、面削り出し | 柾目 | | |
| 339 | 曲物底板 | SR400 | 15B07 | 7 | 1/4 | 18.2 × 5.4 × 0.5 | 円形、面削り出し | 柾目 | スギ | |
| 340 | 曲物底板 | SR400 | 14B08 | 7 | 1/3 | 15.9 × 5.6 × 0.5 | 円形、面削り出し | 柾目 | | |

| 番号 | 種類 | 遺構名 | グリッド | 層位 | 遺存度 | 長さ×幅×厚さ（㎝） | 成・整形 | 木取り | 樹種 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 341 | 曲物底板 | SR400 | 14B17 | 7 | 1/4 | 21.4 × 6.0 × 0.8 | 方形か、面削り出し | 柾目 | | |
| 342 | 曲物底板 | SR400 | 14C11 | 7 | 1/3 | 20.4 × 4.5 × 0.7 | 方形か、面削り出し、穴４か所 | 柾目 | スギ | |
| 343 | 曲物底板 | SR400 | 14B14 | 7 | 1/6 | (25.1) × (6.2) × 1.2 | 楕円形か、面削り出し | 柾目 | | |
| 344 | 曲物綴じ樹皮 | SR400 | 14C | 7 | － | －× 1.1 ×－ | | － | | 樺皮か |
| 345 | 曲物綴じ樹皮 | SR400 | 14B18 | 7 | － | －× 3.9 ×－ | | － | | 樺皮か |
| 346 | 皿 | SR400 | 16B19 | 7 | 1/2 | (20.9) × (17.4) × 2.0 | 一木挽物 | 横木取り | ケヤキ | |
| 347 | 皿 | SR400 | 16B03 | 5c | 1/2 | | 一木刳物 | 横木取り | ケヤキ | |
| 348 | 俎板か | SR400 | 15C06・11 | 7 | 1/3 | 12.1 × 14.2 × 3.0 | 楕円形か、面削り出し | 柾目 | キハダ | |
| 349 | 俎板 | SR400 | 14C12 | 7 | 1/2 | 40.7 × 14.4 ×（柄）3.8 | 面削り出し、柄厚く身に刃物痕 | 板目 | トネリコ属シオジ節 | |
| 350 | 物差し | SR400 | 14B08 | 7 | 1/2 | (13.2) × 1.3 × 0.5 | 扁平な細板に刻線で一寸刻みの目盛 | 柾目 | スギ | |
| 351 | 斎串 | SR400 | 15B13 | 7 | 完形 | 16.1 × 1.8 × 0.8 | 両端尖る、面削り出し | 板目 | ケヤキ | |
| 352 | 斎串 | SR400 | 15B16・21 | 7 | 完形 | 21.1 × 3.3 × 0.7 | 片端二又に尖る、面削り出し | 板目 | カヤ | |
| 353 | 斎串 | SR400 | 15B20 | 7 | 完形 | 15.4 × 2.1 × 0.4 | 片端尖る、面削り出し | 板目 | スギ | |
| 354 | 斎串 | SR400 | 15B17 | 7 | 完形 | 24.8 × 1.2 × 0.5 | 両端尖る、面削り出し | 削出 | スギ | |
| 355 | 斎串 | SR400 | 14B18 | 7 | 完形 | 8.5 × 3.0 × 0.4 | 両端尖る、面削り出し | 板目 | スギ | |
| 356 | 斎串 | SR400 | 16C01 | 7 | 完形 | 35.2 × 2.4 × 0.6 | 両端尖る、面削り出し | 柾目 | スギ | |
| 357 | 斎串 | SR400 | 15A25<br>15B20 | 7 | 1/2 | 42.6 × 4.6 × 0.3 | 上部側面、両側からのＶ字状の切込み２対 | 板目 | カヤ | 358 と同一個体か |
| 358 | 斎串 | SR400 | 15B22 | 7 | 1/2 | 34.2 × 4.5 × 0.2 | 扁平な板、面削り出し | 板目 | カヤ | 357 と同一個体か |
| 359 | 火鑽杵 | SR400 | 15B22 | 7 | 一端欠損 | 40.5 × 1.9 × 1.2 | 断面楕円形、一端に焦げ痕 | 芯持削出 | イヌガヤ | |
| 360 | 火鑽杵 | SR400 | 15C21 | 7 | 一端欠損 | 16.7 × 1.0 × 0.7 | 断面楕円形、一端に焦げ痕 | 芯去 | イヌガヤ | |
| 361 | 焚付け木 | SR400 | 15B16 | | 完形 | 22.6 × 3.3 × 2.4 | 細い割材、一端に焦げ痕 | 芯持削出 | | |
| 362 | 二又材 | SR400 | 15C06 | 7 | 両端欠損 | 11.2 × 7.5 × 3.6 | 丁寧な削り出し | 芯持丸木 | ツバキ属 | 自在鈎か |
| 363 | 二又材 | SR400 | 14C | 7 | 両端欠損 | 11.7 × 4.4 × 4.0 | 丁寧な削り出し | 芯持丸木 | カエデ属 | 自在鈎か |
| 364 | 二又材 | SR400 | 15B16 | 7 | 両端欠損 | 33.7 × 5.6 × 5.5 | 幹面取り | 芯持丸木 | クスノキ科 | |
| 365 | 二又材 | SR400 | 15B20・21<br>16B01 | 7 | 両端欠損 | 55.5 × 5.7 × 5.0 | 幹面取り | 芯持削出 | ツバキ属 | |
| 366 | 二又材 | SR400 | 15B16 | 7 | 上端欠損 | 57.6 × 6.0 × 5.2 | 幹面取り | 芯持削出 | スギ | |
| 367 | 二又材 | SR400 | 15B16 | 7 | 完形 | 9.4 × 0.9 × 0.8 | ハサ掛け状 | 芯持削出 | | |
| 368 | 板材 | SR400 | 14B14 | 7 | 完形 | 7.0 × 3.4 × 1.0 | 面削り出し | 柾目 | | |
| 369 | 板材 | SR400 | 14C06 | 7 | 片側欠損 | 3.2 × 2.9 × 0.5 | 板状、面削り出し | 柾目 | | |
| 370 | 板材 | SR400 | 15B17 | 7 | 片側欠損 | 8.9 × 3.0 × 0.5 | 板状、扁平な細板、面削り出し | 柾目 | | |
| 371 | 角棒 | SR400 | 15B21 | 7 | 片側欠損 | 14.2 × 1.3 × 0.4 | 片端尖る、面削り出し | 板目 | | |
| 372 | 角棒 | SR400 | 14B14 | 7 | 片側欠損 | 16.6 × 1.7 × 0.9 | 片端尖る、面削り出し | 板目 | | |
| 373 | 角棒 | SR400 | 14B15 | 7 | 片側欠損 | 26.8 × 1.8 × 1.0 | 片端尖る、面削り出し | 板目 | | |
| 374 | 角棒 | SR400 | 14B18 | 7 | 両端欠損 | (29.5) × 1.1 × 1.5 | 面削り出し | 柾目 | | |
| 375 | 角棒 | SR400 | 15B05 | 7 | 両端欠損 | (24.3) × 1.5 × 1.0 | 面削り出し | 柾目 | | |
| 376 | 角棒 | SR400 | 14B19 | 7 | 両端欠損 | (11.0) × 1.5 × 1.4 | 面削り出し | 板目 | | |
| 377 | 角棒 | SR400 | 14A24 | 7 | 両端欠損 | (8.9) × 1.5 × 1.1 | 面削り出し | 柾目 | | |
| 378 | 角棒 | SR400 | 14C06 | 7 | 両端欠損 | (4.7) × 1.6 × 1.3 | 面削り出し | 板目 | | |
| 379 | 角棒 | SR400 | 14B23 | 7 | 片側欠損 | (8.6) × 2.5 × 1.9 | 面削り出し | 柾目 | | |
| 380 | 角棒 | SR400 | 14B15 | 7 | 両端欠損 | (20.3) × 1.8 × 0.8 | 面削り出し | 板目 | | |
| 381 | 角棒 | SR400 | 15B17 | 7 | 両端欠損 | (18.4) × 1.3 × 2.0 | 面削り出し | 板目 | | |
| 382 | 角棒 | SR400 | 14C11 | 7 | 両端欠損 | (23.3) × 1.3 × 0.6 | 面削り出し | 板目 | | |
| 383 | 角棒 | SR400 | 14B15 | 7 | 両端欠損 | (27.0) × 1.8 × 1.0 | 面削り出し | 板目 | | |
| 384 | 角棒 | SR400 | 15B22 | 7 | 両端欠損 | (33.8) × 1.7 × 1.6 | 面削り出し | 板目 | | |
| 385 | 板材 | SR400 | 14B23 | 7 | 両端欠損 | (22.0) × 3.0 × 1.1 | 面削り出し | 柾目 | | |
| 386 | 板材 | SR400 | 15A15 | 7 | 完形 | 60.6 × 3.7 × 1.0 | 面削り出し | 板目 | | |
| 387 | 板材 | SR400 | 15B25 | 7 | 両端欠損 | (30.7) × 4.9 × 1.0 | 扁平な細板、片端尖る、面削り出し | 板目 | | |
| 388 | 板材 | SR400 | 16C01 | 7 | 両端欠損 | (35.3) × 2.4 × 0.9 | 扁平な板、面削り出し | 板目 | | |
| 389 | 板材 | SR400 | 14C11 | 7 | 完形 | 21.6 × 8.0 × 0.7 | 扁平な細板、面削り出し | 板目 | | |
| 390 | 板材 | SR400 | 15C21 | 7 | 片端欠損 | (54.6) × 3.4 × 0.9 | 扁平な細板、片端尖る、面削り出し | 板目 | | |
| 391 | 板材 | SR400 | 15B22 | 7 | 両端欠損 | (16.5) × 2.7 × 0.8 | 扁平な板、面削り出し | 板目 | | |
| 392 | 板材 | SR400 | 15B01 | 7 | 両端欠損 | (41.9) × 5.1 × 1.1 | 扁平な板、面削り出し | 柾目 | | |
| 393 | 板材 | SR400 | 14A20 | 7 | 片端欠損 | (15.4) × 3.4 × 0.4 | 扁平な板、面削り出し | 柾目 | | |
| 394 | 板材 | SR400 | 15B02 | 7 | 両端欠損 | (14.2) × 3.1 × 0.9 | 扁平な板、面削り出し | 柾目 | | |
| 395 | 板材 | SR400 | 14B14 | 7 | 片側欠損 | (7.7) × 2.8 × 0.8 | 片端尖る、面削り出し | 板目 | | |
| 396 | 板材 | SR400 | 14C21 | 7 | 両端欠損 | (203.6) × 14.4 × 5.5 | 扁平な長板、面削り出し | 柾目 | | |
| 397 | 板材 | SR400 | 14B25 | 7 | 片端欠損 | (124.0) × 3.2 × 0.5 | 扁平な長板、面削り出し | 板目 | | |
| 398 | 板材 | SR400 | 14B17 | 7 | 両端欠損 | (20.4) × 3.6 × 1.2 | 扁平な板、面削り出し | 板目 | | |

| 番号 | 種類 | 遺構名 | グリッド | 層位 | 遺存度 | 長さ×幅×厚さ（㎝） | 成・整形 | 木取り | 樹種 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 399 | 板材 | SR400 | 14B08 | 7 | 両端欠損 | （10.8）× 2.9 × 0.7 | 扁平な板、面削り出し | 柾目 | | |
| 400 | 板材 | SR400 | 14B19 | 7 | 完形 | 24.1 × 2.6 × 0.8 | 扁平な板、面丁寧な削り出し | 板目 | | 曲物底板部分の可能性有り |
| 401 | 板材 | SR400 | 15C11 | 7 | 両端欠損 | （41.1）× 5.3 × 0.7 | 扁平な板、面削り出し | 柾目 | | |
| 402 | 板材 | SR400 | 14C11 | 7 | 片側欠損 | （23.5）× 7.2 × 1.3 | 扁平な板、表裏面削り出し | 板目 | | |
| 403 | 板材 | SR400 | 15C01 | 7 | 両端欠損 | （21.7）× 3.8 × 1.9 | 扁平な板、面削り出し | 板目 | | |
| 404 | 板材 | SR400 | 15B20 | 7 | 両端欠損 | （10.3）× 2.7 × 0.8 | 扁平な板、面削り出し | 板目 | | |
| 405 | 板材 | SR400 | 15C21 | 7 | 両端欠損 | （37.6）× 9.4 × 3.5 | 扁平な板、面削り出し | 柾目 | | |
| 406 | 板材 | SR400 | 15C11 | 7 | 両端欠損 | （48.4）× 6.7 × 2.7 | 扁平な板、面削り出し | 板目 | | |
| 407 | 板材 | SR400 | 14B14 | 7 | 両端欠損 | （64.4）× 5.8 × 1.1 | 扁平な板、面削り出し | 板目 | | |
| 408 | 板材 | SR400 | 14B14 | 7 | 両端欠損 | （63.9）× 6.1 × 1.2 | 扁平な板、面削り出し | 板目 | | |
| 409 | 板材 | SR400 | 15B14 | 5a | 片端欠損 | （156.0）× 18.5 × 3.0 | 側面に対になった縄掛け状の削り込み | 板目 | | |
| 410 | 角材 | SR400 | 14B17 | 7 | 両端欠損 | （33.3）× 2.2 × 1.9 | 断面方形、面丁寧な削り出し | 板目 | | |
| 411 | 角材 | SR400 | 14A25 | 7 | 完形か | 42.6 × 3.2 × 3.0 | 断面方形、面丁寧な削り出し | 芯去 | スギ | |
| 412 | 角材 | SR400 | 14B20 | 7 | 片端欠損 | （99.8）× 6.7 × 5.4 | 臍穴か、片端杭状に尖る | 柾目 | スギ | |
| 413 | 角材 | SR400 | 15C11 | 7 | 片側欠損 | （12.0）× 4.6 × 3.4 | 断面方形、面削り出し | 板目 | | |
| 414 | 角材 | SR400 | 14B14 | 7 | 完形か | 49.7 × 3.0 × 2.8 | 片端鋭く削り出し | 板目 | | |
| 415 | 角材 | SR400 | 14B17 | 7 | 両端欠損 | （7.3）× 2.4 × 2.1 | 断面方形、面削り出し | 板目 | | |
| 416 | 角材 | SR400 | 14B14 | 7 | 両端欠損 | （46.4）× 3.3 × 4.7 | 断面方形、面削り出し | 板目 | | |
| 417 | 角材 | SR400 | 15B06 | 7 | 両端欠損 | （74.0）× 10.4 × 10.1 | 断面方形、面粗く削り出し | 柾目 | | |
| 418 | 角材 | SR400 | 14B23 | 7 | 完形 | 235.7 × 5.6 × 6.2 | 断面方形、面粗く削り出し | 板目 | | |
| 419 | 割材 | SR400 | 14B14 | 7 | 両端欠損 | （37.9）× 3.7 × 4.0 | 断面三角形、面削り出し | 板目 | | |
| 420 | 角材 | SR400 | 14B09 | 7 | 両端欠損 | （44.4）× 3.4 × 2.8 | 断面方形、面削り出し | 板目 | | |
| 421 | 角材 | SR400 | 14B15 | 7 | 完形 | 38.5 × 1.6 × 1.3 | 断面方形、面削り出し | 芯持 | | |
| 422 | 割材 | SR400 | 14B19 | 7 | 両端欠損 | （73.6）× 4.4 × 4.0 | 面削り出し | 四方柾 | | |
| 423 | 角材 | SR400 | 16B01 | 7 | 両端欠損 | （69.1）× 7.0 × 4.5 | 断面方形 | 板目 | | |
| 424 | 板材 | SR400 | 14C02 | 7 | 完形 | 29.8 × 6.9 × 2.9 | 一端削り出して尖らす | 柾目 | | |
| 425 | 角材 | SR400 | 14B20 | 7 | 両端欠損 | （104.0）× 6.9 × 5.5 | 断面方形 | 板目 | | |
| 426 | 角材 | SR400 | 14B14 | 7 | 両端欠損 | （43.0）× 10.8 × 6.5 | 断面方形、径 3.0 ㎝の孔 | 柾目 | | |
| 427 | 割材 | SR400 | 15B16 | 7 | 両側欠損 | （62.7）× 23.6 × 7.4 | 断面三角形 | 柾目 | | |
| 428 | 割材 | SR400 | 15B17 | 7 | 片端欠損 | （45.7）× 6.5 × 6.5 | 断面三角形、片端尖らす | 板目 | | |
| 429 | 割材 | SR400 | 16B01 | 7 | 片端欠損 | （28.3）× 7.4 × 5.7 | 断面方形 | 柾目 | | |
| 430 | 角材 | SR400 | 14B20 | 7 | 両端欠損 | （72.5）× 9.4 × 5.7 | 断面方形 | 板目 | | |
| 431 | 割材 | SR400 | 15B19 | 7 | 両端欠損 | （219.1）× 10.2 × 4.8 | 断面方形 | 柾目 | | |
| 432 | 割材 | SR400 | 15B11 | 7 | 片側欠損 | （16.3）× 9.1 × 4.4 | 断面三角形 | 柾目 | | |
| 433 | 割材 | SR400 | 15C11 | 7 | 両端欠損 | （84.0）× 10.3 × 5.0 | 断面方形 | 柾目 | | |
| 434 | 割材 | SR400 | 16A05 | 7 | 両端欠損 | （123.1）× 14.5 × 10.6 | 断面方形 | 芯去 | | |
| 435 | 割材 | SR400 | 14B20 | 7 | 両端欠損 | （91.5）× 6.9 × 6.0 | 断面方形 | 板目 | | |
| 436 | 割材 | SR400 | 15B23 | 7 | 両端欠損 | （61.3）× 11.5 × 4.7 | 断面三角形 | 板目 | | |
| 437 | 割材 | SR400 | 14B14 | 7 | 片側欠損 | （15.1）× 6.8 × 3.2 | 杭状割材 | 柾目 | | |
| 438 | 割材 | SR400 | 15B09 | 7 | 両端欠損 | （72.1）× 7.6 × 4.7 | 半割材 | 芯去 | | |
| 439 | 割材 | SR400 | 14B15 | 7 | 両端欠損 | （56.2）× 7.8 × 5.8 | 断面三角形 | 芯去 | | |
| 440 | 割材 | SR400 | 14B13 | 7 | 両端欠損 | （46.8）× 6.9 × 5.5 | 断面三角形 | 芯去 | | |
| 441 | 割材 | SR400 | 15C11 | 7 | 両端欠損 | （39.7）× 9.4 × 5.4 | 割材で削り出しは無い | 柾目 | | |
| 442 | 割材 | SR400 | 15B11 | 7 | 両端欠損 | （46.0）× 10.0 × 7.5 | 片端だけ尖らす | 芯去 | | |
| 443 | 割材 | SR400 | 15A20 | 7 | 完形 | 82.1 × 3.7 × 3.6 | 片端鋭く尖らす | 芯去 | | |
| 444 | 杭 | SR400 | 14C11 | 7 | 片端欠損 | （17.3）× 1.4 × 0.9 | 片端が尖がる | 芯去 | | |
| 445 | 割材 | SR400 | 14B17 | 7 | 両端欠損 | （9.7）× 2.7 × 1.9 | 細い割材で削り出しは無い | 芯去 | | |
| 446 | 杭 | SR400 | 14C11 | 7 | 片側欠損 | （14.0）× 4.1 × 2.5 | 片端鋭く尖る | 芯去 | | |
| 447 | 杭 | SR400 | 14A25 | 7 | 完形 | 27.5 × 3.3 × 3.3 | 幹削り出し、片端尖る | 芯去 | | |
| 448 | 杭 | SR400 | 15B16 | 7 | 片端欠損 | （33.7）× 5.8 × 5.2 | 片端粗く削り出し尖る | 芯持 | | |
| 449 | 杭 | SR400 | 15B21 | 7 | 片端欠損 | （57.4）× 7.8 × 6.9 | 片端斜めに粗く削り出し | 芯持 | | |
| 450 | 杭 | SR400 | 16A05 | 7 | 片端欠損 | （60.3）× 6.0 × 4.9 | 片端粗く削り出し尖る | 芯持 | | |
| 451 | 杭 | SR400 | 15B15 | 7 | 片端欠損 | （54.4）× 7.2 × 6.3 | 片端粗く削り出し尖る | 芯持 | | |
| 452 | 杭 | SR400 | 14C11 | 7 | 片端欠損 | （32.8）× 9.8 × 9.1 | 片端粗く削り出し尖る | 芯持 | | |
| 453 | 杭 | SR400 | 15B16 | 7 | 片端欠損 | （24.1）× 8.2 × 4.5 | 片端粗く削り出し尖る | 芯持 | | |
| 454 | 杭 | SR400 | 15B16 | 7 | 片端欠損 | （59.5）× 7.8 × 7.2 | 片端粗く削り出し尖る | 芯持 | | |
| 455 | 杭 | SR400 | 14B14 | 7 | 片端欠損 | （57.3）× 9.5 × 9.1 | 片端粗く削り出し尖る | 芯持 | | |

| 番号 | 種類 | 遺構名 | グリッド | 層位 | 遺存度 | 長さ×幅×厚さ（㎝） | 成・整形 | 木取り | 樹種 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 456 | 建築部材 | SR400 | 16A09・10 | 5c | 片端欠損 | （80.5）× 7.4 × 6.7 | 丸木利用の建材で一端に臍あり | 芯持 | | |
| 457 | 建築部材 | SR400 | 15B16 | 7 | 両端欠損 | （141.8）× 11.4 × 9.0 | 中央に 6.0 × 4.0 ㎝の方形で深さ 8.0㎝の孔有り | 芯持 | | |
| 458 | 用途不明材 | SR400 | 14B19 | 7 | 完形 | 27.3 × 21.8 × 8.6 | 片面を削り出し | 芯去 | | |
| 459 | 用途不明材 | SR400 | 14B13 | 7 | 完形 | 21.0 × 10.1 × 5.0 | 表面を弧状に丁寧に、裏面を水平に粗く削り出し | 柾目 | | |
| 460 | 用途不明材 | SR400 | 14B09 | 7 | 完形 | 34.0 × 10.1 × 5.0 | 両端と側面粗く削り出し | 芯持 | | |
| 461 | 用途不明材 | SR400 | 14C12 | 7 | 完形 | 32.6 × 20.7 × 19.5 | 両端と側面粗く削り出し | 芯持丸木 | ケヤキ | |
| 462 | 用途不明材 | SR400 | 14C11 | 7 | 完形 | 16.1 × 7.8 × 3.2 | 半割材を削り出し | 芯去 | | |
| 463 | 柱根 | P472 | 7B17 | 7 | 柱上部欠損 | （26.3）× 10.2 × 8.5 | 柱底面粗く削り出し | 芯持丸木 | トネリコ属シオジ節 | SB131 |
| 464 | 柱根 | P104 | 7B17 | | 柱上部欠損 | （40.6）× 16.5 × 12.2 | 柱底面粗く削り出し | 芯持丸木 | オニグルミ | SB131 |
| 465 | 柱根 | P451 | 7C12 | | 柱上部欠損 | （21.3）× 8.1 × 7.1 | 柱底面粗く削り出し | 芯持丸木 | コナラ属コナラ節 | SB198 |
| 466 | 柱根 | P645 | 10C22 | | 柱上部欠損 | （22.5）× 11.4 × 5.8 | 半割材、朽ちて柱底面の成形不明 | 芯去 | | SB505 |
| 467 | 柱根 | P364 | 13A19 | | 柱上部欠損 | （20.6）× 21.1 × 20.2 | 柱底面粗く削り出し | 芯持丸木 | サクラ属 | SB511 |
| 468 | 柱根 | P107 | 7A24 | | 柱上部欠損 | （27.0）× 9.4 × 5.8 | 半割材、朽ちて柱底面の成形不明 | 芯去 | | |
| 469 | 柱根 | P25 | 4B10 | | 柱上部欠損 | （41.8）× 14.1 × 7.8 | 半割材、柱底面粗く削り出し | 芯去 | | SB199 |
| 470 | 柱根 | P193 | 10C06 | | 柱上部欠損 | （24.7）× 21.3 × 11.6 | 半割材、柱底面粗く削り出し | 芯去 | | |
| 471 | 柱根 | P231 | 10B20 | | 柱上部欠損 | （35.7）× 22.1 × 9.6 | 半割材、柱底面粗く削り出し | 芯去 | | |
| 472 | 柱根 | P434 | 13B17 | | 柱上部欠損 | （38.5）× 9.3 × 8.4 | 柱底面斜めに削り出し | 芯持 | | |
| 473 | 柱根 | P531 | 13A25 | | 柱上部欠損 | （47.4）× 21.4 × 10.8 | 半割材、柱底面粗く削り出し | 芯去 | | |
| 474 | 柱根 | P699 | 6B05 | | 柱上部欠損 | （9.4）× 16.8 × 7.6 | 半割材、柱底面粗く削り出し | 芯去 | | |
| 475 | 柱根 | P629 | 8B09 | | 柱上部欠損 | （29.6）× 11.0 × 7.0 | 半割材、柱幹断面方形、底面粗く削り出し | 芯去 | | |
| 476 | 柱根 | P702 | 11B06 | | 柱上部欠損 | （47.7）× 16.5 × 9.0 | 半割材、柱底面粗く削り出し | 芯去 | | |
| 477 | 柱根 | P23 | 4C11 | | 柱上部欠損 | （42.1）× 15.4 × 14.1 | 半割材、柱底面粗く削り出し | 芯去 | | SB199 |
| 478 | 柱根 | P743 | 13B06 | | 柱上部欠損 | （31.8）× 16.6 × 16.8 | 柱幹と底面粗く削り出し | 芯持 | | |
| 479 | 柱根 | P230 | 10B15 | | 柱上部欠損 | （19.0）× 22.0 × 10.2 | 半割材、柱底面粗く削り出し | 芯去 | | |
| 480 | 柱根 | P191 | 9B24<br>10B04 | 2 | 柱上部欠損 | （31.5）× 18.3 × 8.4 | 半割材、柱底面粗く削り出し | 芯去 | | |
| 481 | 柱根 | P355 | 10C12・17 | | 柱上部欠損 | （47.4）× 15.6 × 8.8 | 半割材、柱底面粗く削り出し | 芯去 | | |
| 482 | 柱根 | P15 | 3C21 | | 柱上部欠損 | （37.4）× 14.5 × 10.3 | 半割材、柱底面粗く削り出し | 芯去 | | SB199 |
| 483 | 杭 | K686 | 13C21 | | 杭上部欠損 | （18.0）× 6.5 × 4.5 | 下端粗く削り出し | 芯去 | | |
| 484 | 杭 | K686 | 13C21 | | 杭上部欠損 | （13.2）× 9.3 × 4.5 | 下端鋭く削り出し | 芯去 | | |
| 485 | 杭 | SK653 | 15B10・15 | | 杭上部欠損 | （13.0）× 5.9 × 3.3 | 下端鋭く削り出し | 芯去 | | |
| 486 | 杭 | K654 | 15B14 | | 杭上部欠損 | （33.5）× 11.0 × 9.2 | 下端粗く削り出し | 芯持 | | |
| 487 | 杭 | K28 | 4B11 | | 杭上部欠損 | （36.3）× 4.9 × 5.8 | 割材、下端鋭く削り出し | 柾目 | | |
| 488 | 杭 | K392 | 10B10・15 | | 杭上部欠損 | （45.3）× 6.4 × 4.0 | 丸木、下端鋭く削り出し | 芯持 | | |
| 489 | 杭 | K770 | 15A20 | | 杭上部欠損 | （91.5）× 11.7 × 6.5 | 割材、下端粗く削り出し | 板目 | | |
| 490 | 杭 | K775 | 14B19 | | 杭上部欠損 | （76.4）× 10.5 × 6.7 | 割材、下端粗く削り出し | 板目 | | |
| 491 | 杭 | K712 | 15A20 | | 杭上部欠損 | （97.7）× 12.0 × 8.6 | 割材、下端鋭く削り出し | 芯去 | | |
| 492 | 杭 | K263 | 10C12・13 | | 杭上部欠損 | （24.5）× 3.7 × 3.2 | 丸木、下端鋭く削り出し | 芯持 | | |
| 493 | 杭 | K767 | 15A20 | | 杭上部欠損 | 45.6 × 4.6 × 4.4 | 丸木、下端鋭く削り出し | 芯持 | | |
| 494 | 杭 | K344 | 9A19 | | 杭上部欠損 | 76.6 × 5.0 × 4.4 | 丸木、下端鋭く削り出し | 芯持 | | |
| 495 | 杭 | K700 | 15B21 | | 杭上部欠損 | 60.0 × 10.0 × 8.0 | 丸木、下端粗く削り出し | 芯持 | | |
| 496 | 杭 | K776 | 14B15 | | 杭上部欠損 | 91.7 × 9.7 × 8.5 | 丸木、下端鋭く削り出し | 芯持 | | |
| 497 | 杭 | K779 | 14B19 | | 杭上部欠損 | 83.8 × 10.8 × 7.7 | 丸木、下端鋭く削り出し | 芯持 | | |
| 498 | 杭 | K779 | 14B19 | | 杭上部欠損 | 43.4 × 7.7 × 8.1 | 丸木、下端粗く削り出し | 芯持 | | |
| 499 | 杭 | K780 | 15B16 | | 杭上部欠損 | 50.6 × 7.3 × 6.7 | 丸木、下端粗く削り出し | 芯持 | | |
| 500 | 杭 | K701 | 15B21 | | 杭上部欠損 | 89.2 × 8.8 × 7.4 | 丸木、下端鋭く削り出し | 芯持 | | |
| 501 | 杭 | SK653 | 15B10・15<br>15C11 | | 杭上部欠損 | 24.4 × 5.8 × 5.3 | 丸木、下端粗く削り出し | 芯持 | | |
| 502 | 杭 | SD291 | 12B02 | 6 | 杭上部欠損 | 47.7 × 7.3 × 3.8 | 割材、下端鋭く削り出し | 板目 | | |
| 503 | 杭 | SD291 | 11C21 | 6 | 杭上部欠損 | 21.0 × 6.2 × 2.6 | 割材、下端鋭く削り出し | 板目 | | |
| 504 | 杭 | SD291 | 12B07 | 6 | 杭上部欠損 | 56.1 × 7.0 × 6.3 | 丸木、下端鋭く削り出し | 芯持 | | |

## 行屋崎遺跡　獣骨等出土一覧表

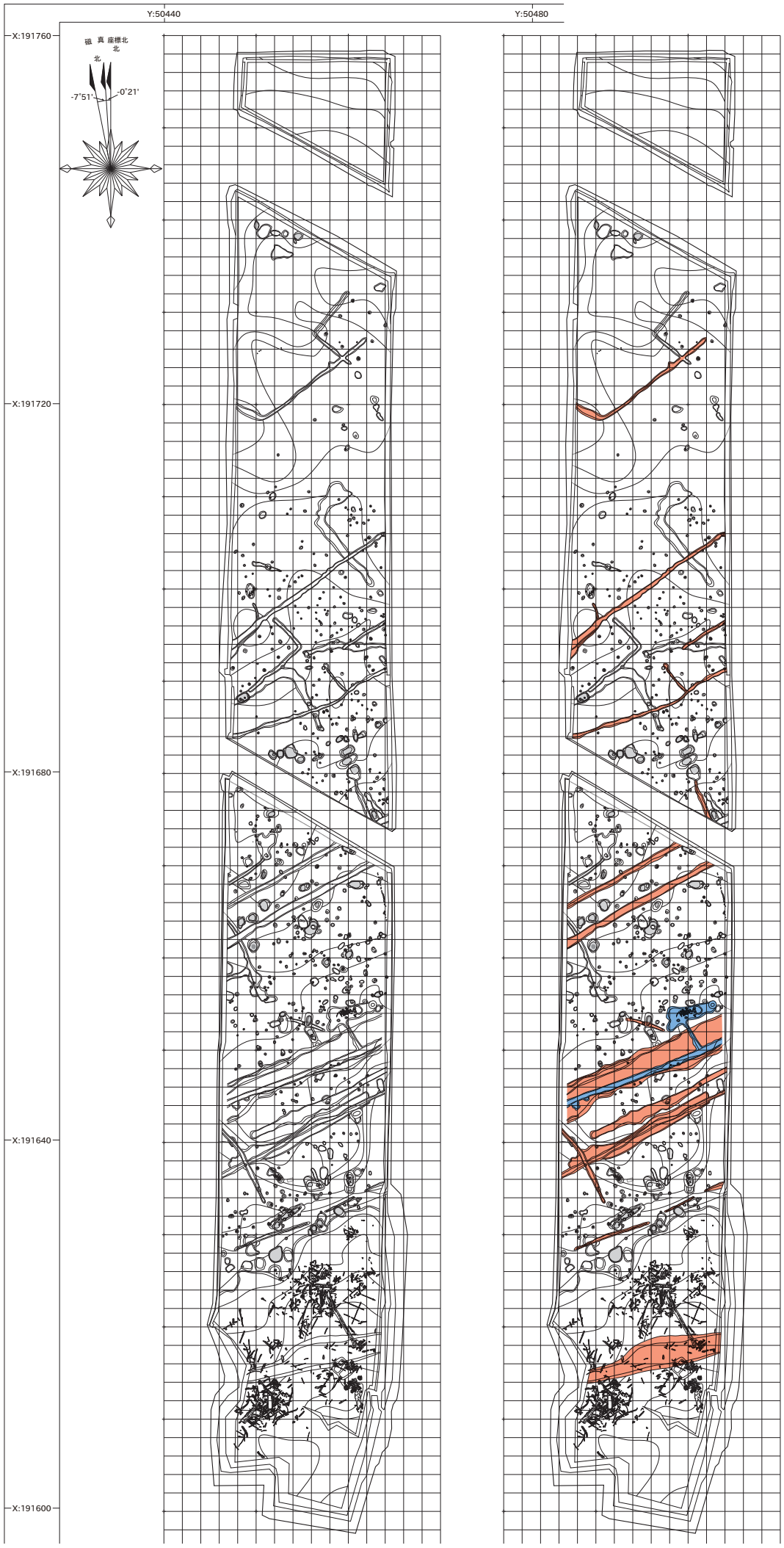
| 遺構名 | グリッド | 層位 | 状態 | 種別 |
|---|---|---|---|---|
| SR400 | 13B17 | 7層 | | |
| SR400 | 14B02 | 7層 | | |
| SR400 | 14B19 | 7層 | | イノシシ犬歯 |
| SR400 | 14B23 | 7層 | | シカ角 |
| SR400 | 14B25 | 7層 | | |
| SR400 | 14C11 | 7層 | | |
| SR400 | 15C02 | 7層 | | ネコ |
| SR400 | 15C06 | 7層 | | カモ類 |
| SR400 | 15C11 | 7層 | | |
| SR400 | 16B01 | 7層 | | |
| SR400 | 16B07 | 7層 | | |
| SR400 | 15C07 | 7層 | | |
| SK58 | 6B01・06 | 1層 | 被熱 | |
| SK138 | 8B17・22 | 1層 | 被熱 | |
| SK167 | 9A05 | | 被熱 | |
| SK167 | 9A05 | | 被熱 | |
| SK172 | 9B18・23 | 2層 | 被熱 | ニホンジカ |
| SK172 | 9B23 | | 被熱 | |
| SK207 | 10A15・20 | | 被熱 | ニホンジカ |
| SK207 | 10A20 | | 被熱 | |
| SK208 | 10A20 | | 被熱 | |
| SK208 | 10A15 | | 被熱 | |
| SK208 | 10A15 | | 被熱 | |
| SK210 | 10B09・14 | 3層 | 被熱 | |
| SK215 | 10B13・18 | | 被熱 | |
| SK216 | 10B18・19 | | 被熱 | |
| SK234 | 10C17・18 | 3層 | 被熱 | |
| SK234 | 10C17・18 | 3層 | 被熱 | |
| SK240 | 10A25、10B21 | | 被熱 | |
| SK246 | 11B05 | | 被熱 | |
| SK246 | 11B05 | | 被熱 | |
| SK246 | 11B05 | | 被熱 | |
| SK246 | 11C21 | | 被熱 | |
| SK246 | 11C21 | | 被熱 | |
| SK246 | 不明 | | 被熱 | |
| SK247 | 11B04 | 2層 | 被熱 | |
| SD250 | 14A19 ～ 11B22 | 2層 | 被熱 | |

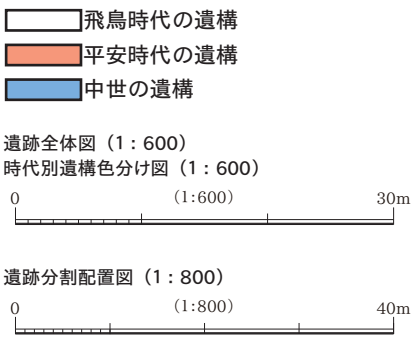
| 遺構名 | グリッド | 層位 | 状態 | 種別 |
|---|---|---|---|---|
| SK261 | 11B05 | 1層 | 被熱 | |
| SK277 | 11B10、11C06 | 1層 | 被熱 | |
| SK281 | 11C11・16 | 1層 | 被熱 | |
| SK297 | 11A09・14 | 1層 | 被熱　総数8点 | |
| SK309 | 11B16・17 | 1層 | 被熱 | |
| SK330 | 12B09 | | 被熱 | |
| SK377 | 13C11 | 1層 | 被熱 | |
| SK377 | 13C11 | 1層 | 被熱 | |
| SK383 | 13B09 | | 被熱 | |
| SK389 | 13B07 | | 被熱 | |
| SK389 | 13B07 | | 被熱 | |
| SK389 | 13B07 | | 被熱 | |
| SK389 | 13B07 | | 被熱 | |
| SK390 | 13B06・07 | | 被熱 | |
| SK393 | 13B17 | 1層 | 被熱 | |
| SK394 | 13B18 | 2層 | 被熱 | |
| SK397 | 11C01・02 | 上層 | 被熱 | |
| SK398 | 13B04 | | 被熱 | |
| SK413 | 13B15 | | 被熱 | |
| SK413 | 13B15 | | 被熱 | |
| SK415 | 13B20、13C16 | | 被熱 | |
| SK417 | 13B24 | | 被熱 | |
| SK417 | 13B24 | | 被熱　総数2点 | |
| SK418 | 10B01 | | 被熱 | |
| SK418 | 10B01 | | 被熱 | |
| SK424 | 11C12 | | 被熱 | |
| SK628 | 11C12 | 1層 | 被熱 | |
| SK665 | 12A24、13A04 | 2層 | 被熱 | イヌ科 |
| SK717 | 11B18・19・23・24 | | 被熱 | |
| SK717 | 11B18 | 2層 | 被熱 | |
| SK726 | 13A20 | 1層 | 被熱 | |
| SK730 | 14B07 | | 被熱 | |
| SK733 | 14B11 | | 被熱 | |
| SK734 | 14A05 | | 被熱 | |
| SK764 | 14A09 | | 被熱 | |
| SK765 | 14A09・14 | | 被熱 | |
| | | | | |

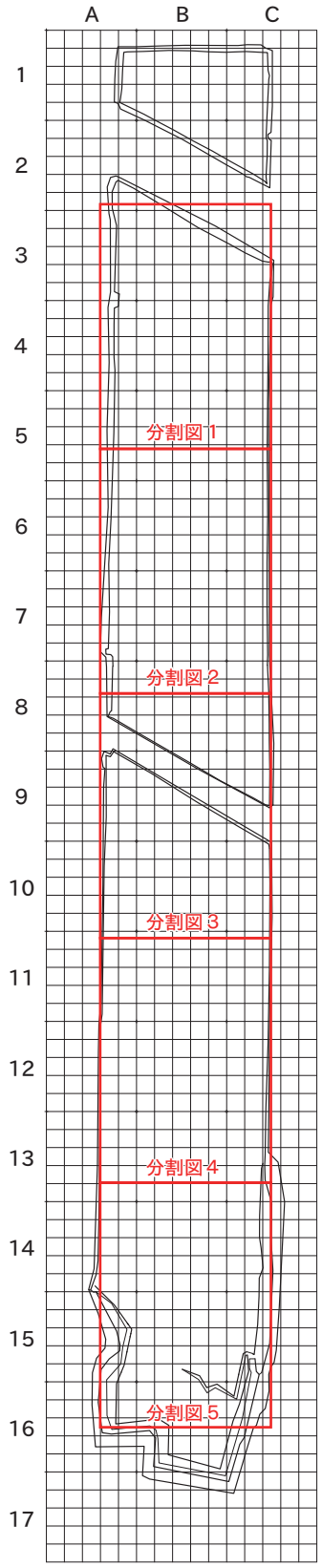
# 図 面 図 版

## 凡 例

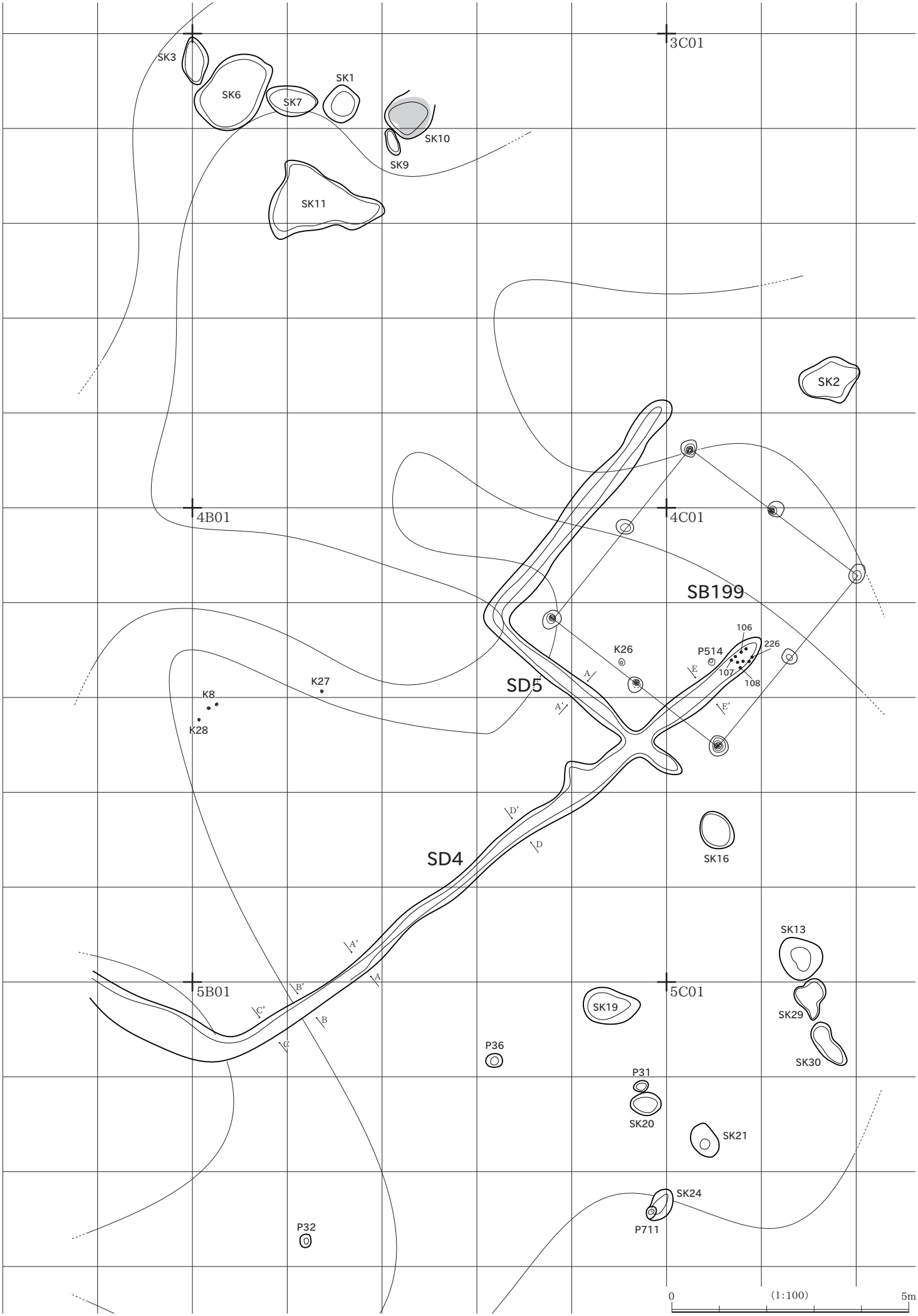
1 遺構平面で使用したスクリーントーンは以下の通りである。
　炭化物範囲
　地山が変質（変色）したと考えられる範囲
2 遺構断面図で使用したスクリーントーンは以下の通りである。
　炭化物の混入が20％以上、もしくは主体とする堆積層
3 遺物図版で使用したスクリーントーンの凡例は実測図とともに個別に示した。
4 土器は須恵器を断面塗りつぶしとし、これ以外は白抜きとした。
5 土器に黒色処理された部分の範囲
6 遺物写真図版の縮尺は図面図版と概ね同じである。

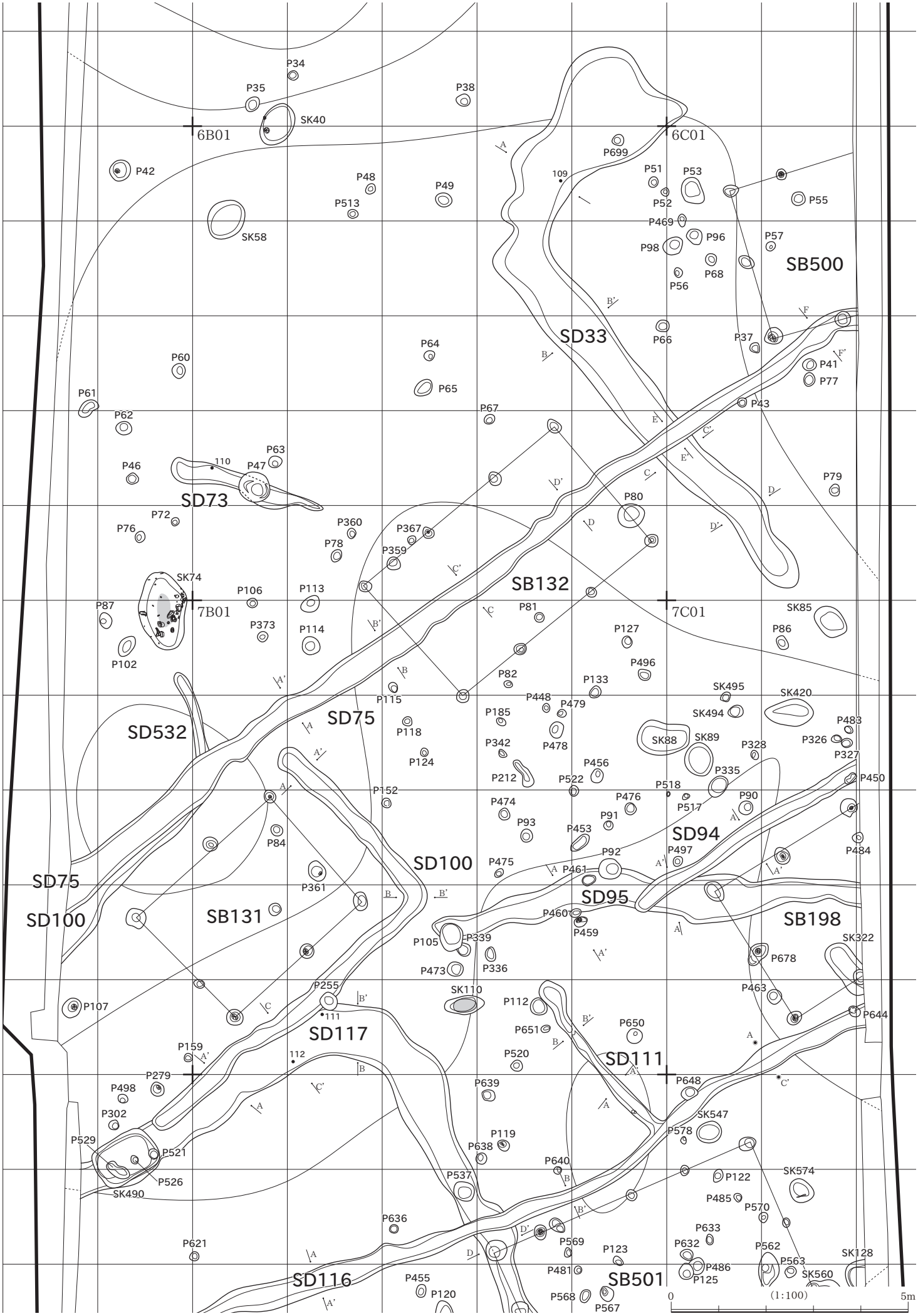

Y:50440
Y:50480
X:191760
X:191720
X:191680
X:191640
X:191600
磁北
真北
座標北
-7°51'
-0°21'

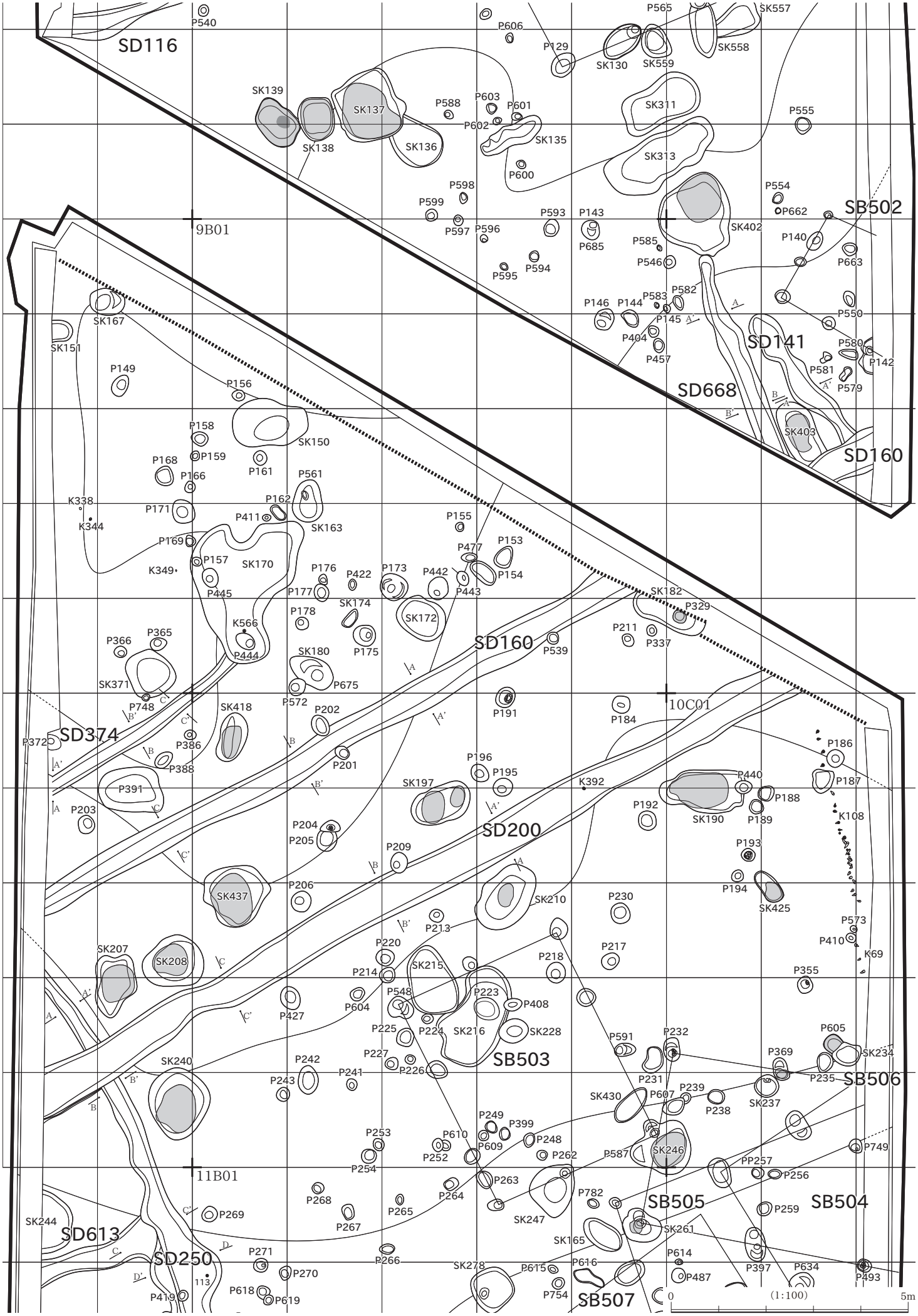

飛鳥時代の遺構
平安時代の遺構
中世の遺構
遺跡全体図（1：600）
時代別遺構色分け図（1：600）
0
(1:600)
30m
遺跡分割配置図（1：800）
0
(1:800)
40m

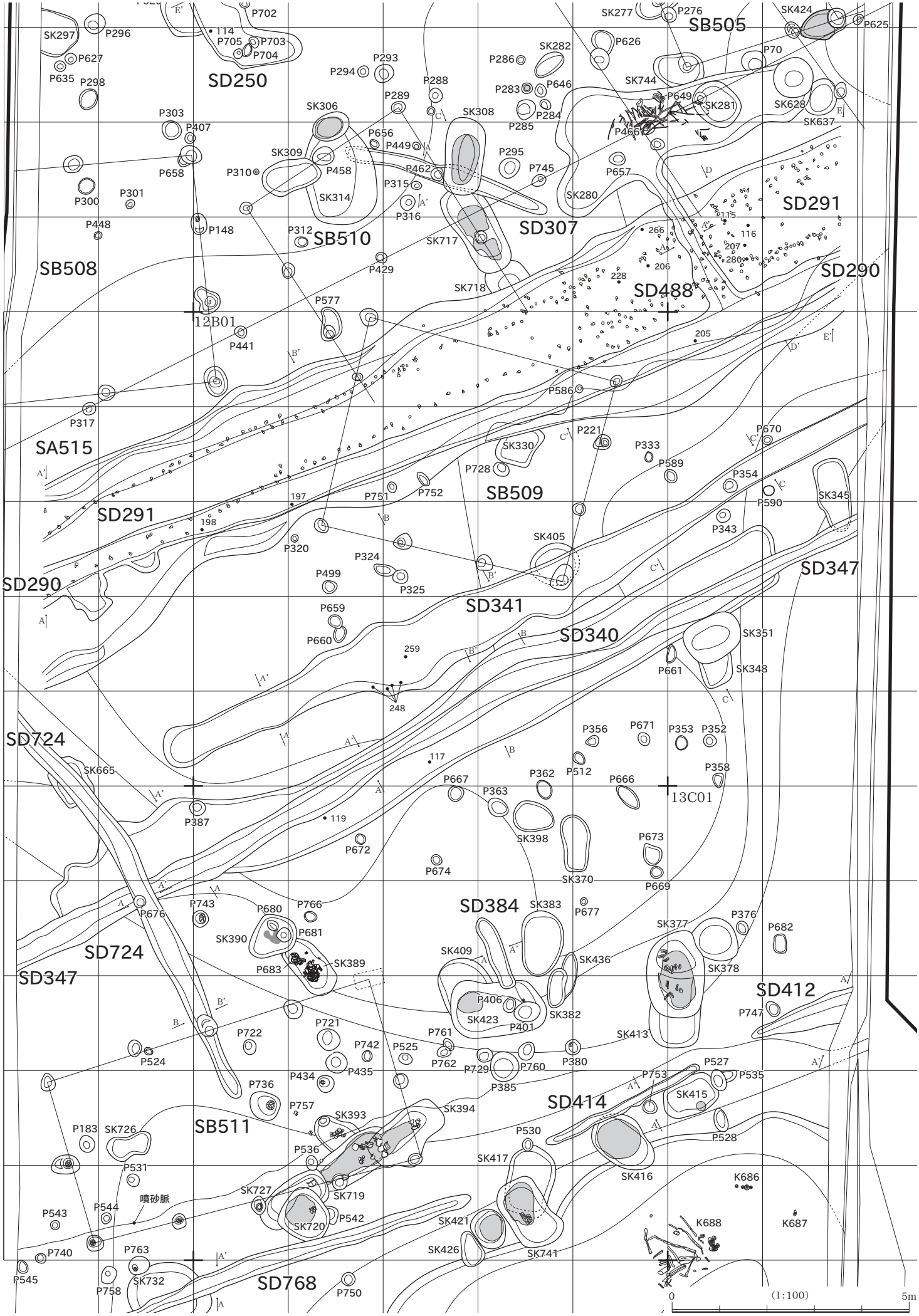

A
B
C
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
分割図 1
分割図 2
分割図 3
分割図 4
分割図 5

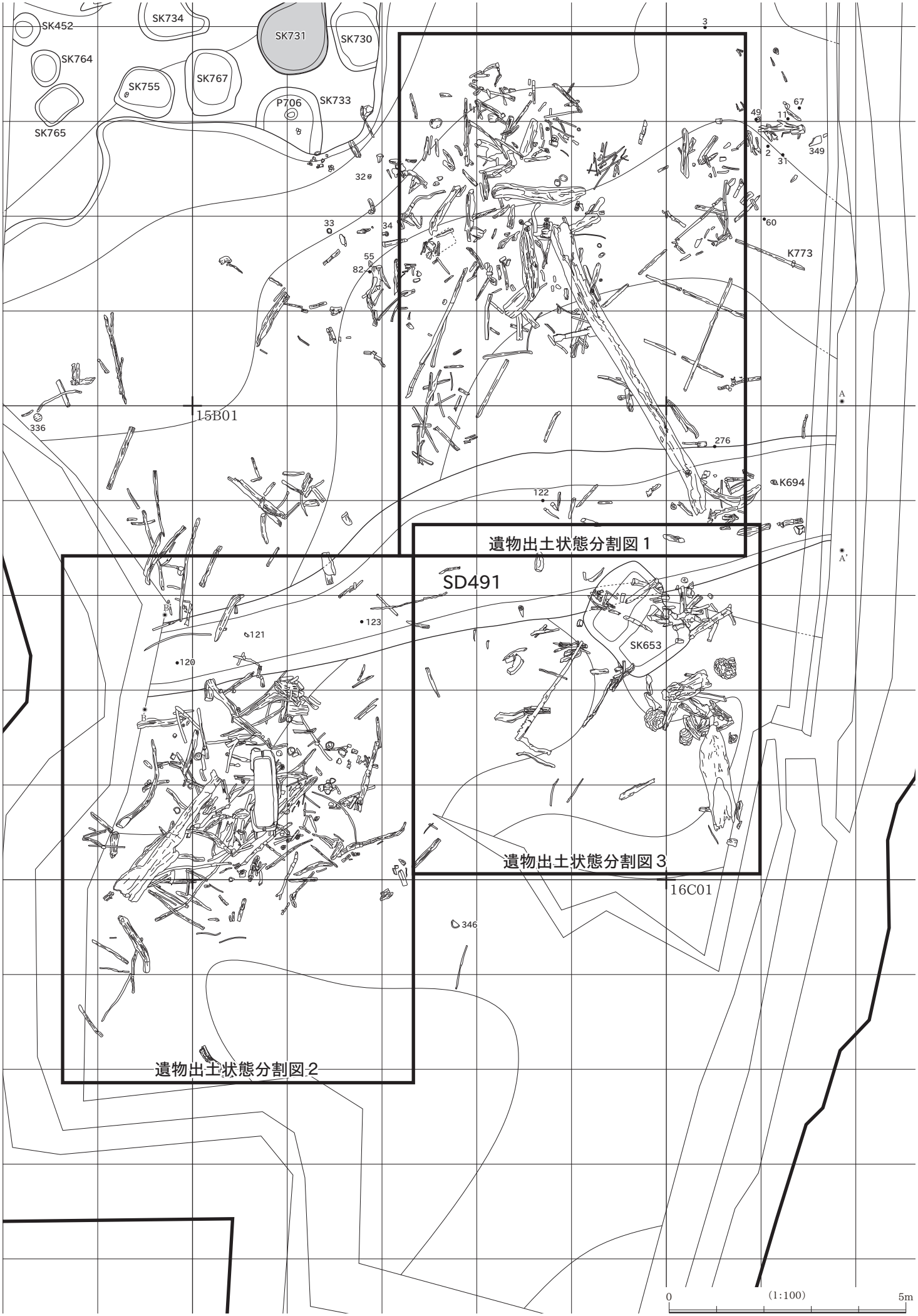
遺跡分割図 1

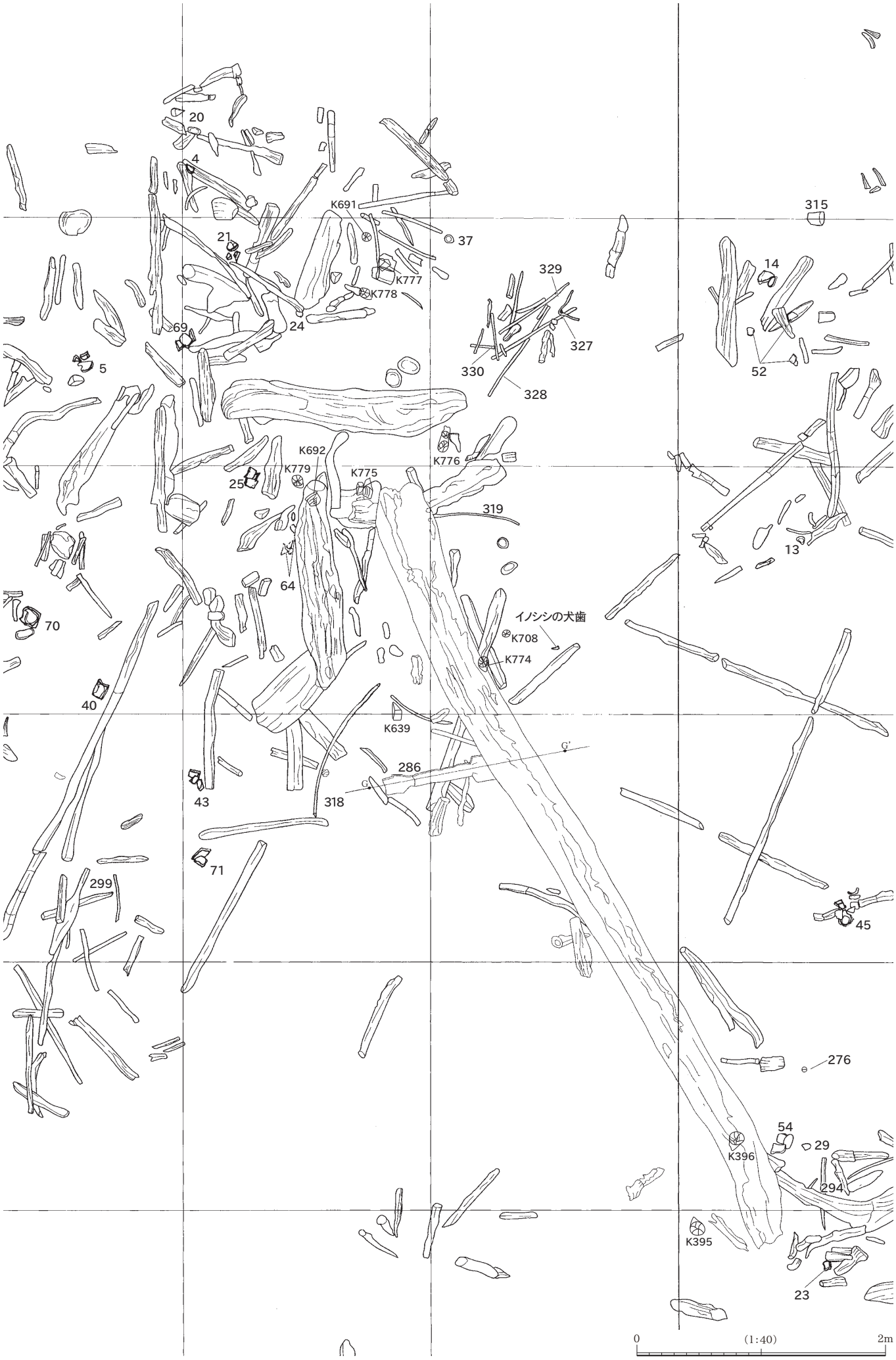

3C01
4B01
4C01
5B01
5C01
SK3
SK6
SK7
SK1
SK10
SK9
SK11
SK2
SB199
SD5
SD4
K26
P514
106
226
107
108
K27
K8
K28
SK16
SK13
SK29
SK30
SK19
P36
P31
SK20
SK21
SK24
P711
P32
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
0
(1:100)
5m


6B01
6C01
7B01
7C01
SB500
SD33
SD73
SB132
SD532
SD75
SD100
SB131
SD94
SD95
SB198
SD117
SD111
SD116
SB501
SK40
SK58
SK74
SK85
SK495
SK420
SK494
SK88
SK89
SK110
SK322
SK547
SK574
SK490
SK560
SK128
P34
P35
P38
P42
P48
P49
P513
P699
P51
P53
P52
P55
P469
P96
P98
P57
P68
P56
P66
P37
P41
P77
P43
P64
P65
P60
P61
P62
P67
P63
P46
P47
P79
P80
P72
P76
P360
P367
P78
P359
P106
P113
P87
P373
P114
P102
P81
P127
P86
P496
P82
P133
P115
P448
P479
P185
P118
P342
P478
P124
P456
P212
P522
P335
P328
P326
P327
P483
P450
P152
P518
P476
P517
P90
P474
P93
P91
P453
P84
P92
P497
P484
P475
P461
P361
P460
P459
P105
P339
P473
P336
P678
P463
P644
P107
P255
P112
P651
P650
P159
P520
P279
P648
P498
P639
P302
P529
P521
P119
P638
P640
P526
P537
P122
P485
P570
P636
P633
P621
P569
P632
P562
P123
P486
P563
P481
P125
P455
P120
P568
P567
0
(1:100)
5m

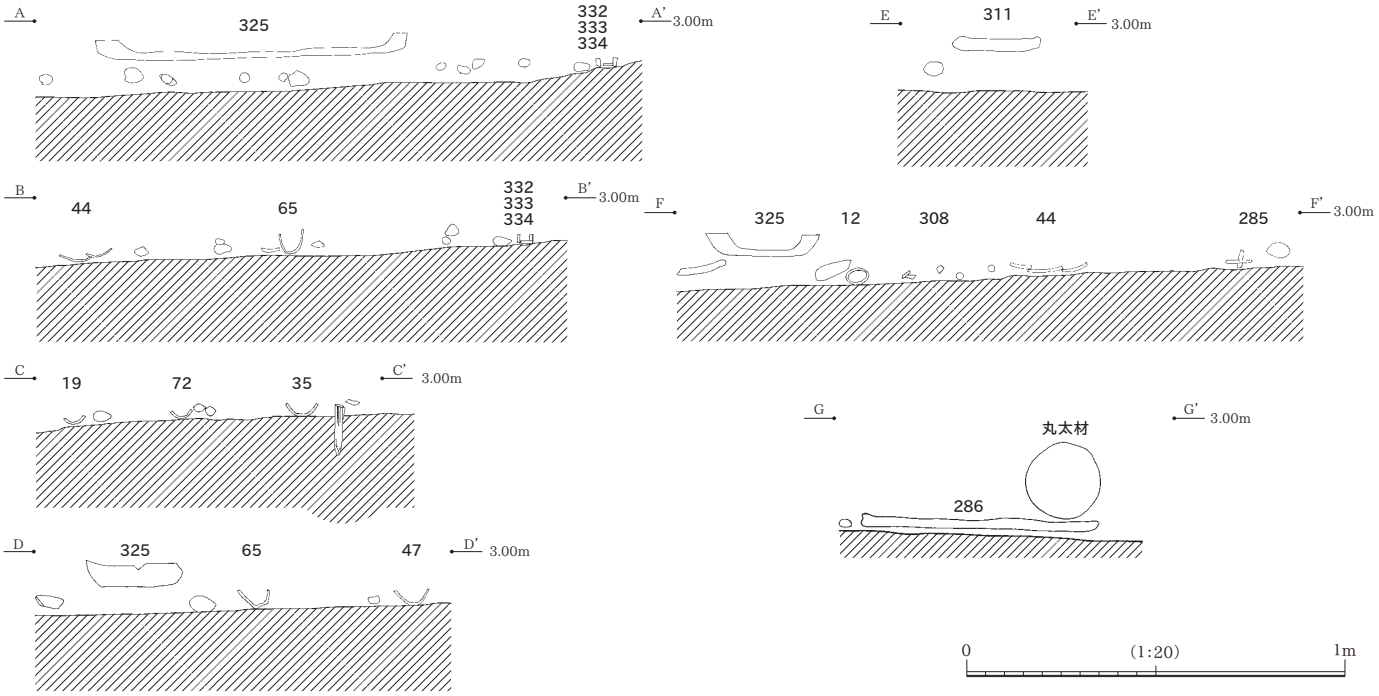

SD116
SB502
SD141
SD668
SD160
SD374
SD200
SB503
SB506
SB505
SB504
SD613
SD250
SB507
9B01
10C01
11B01
(1:100)
0
5m

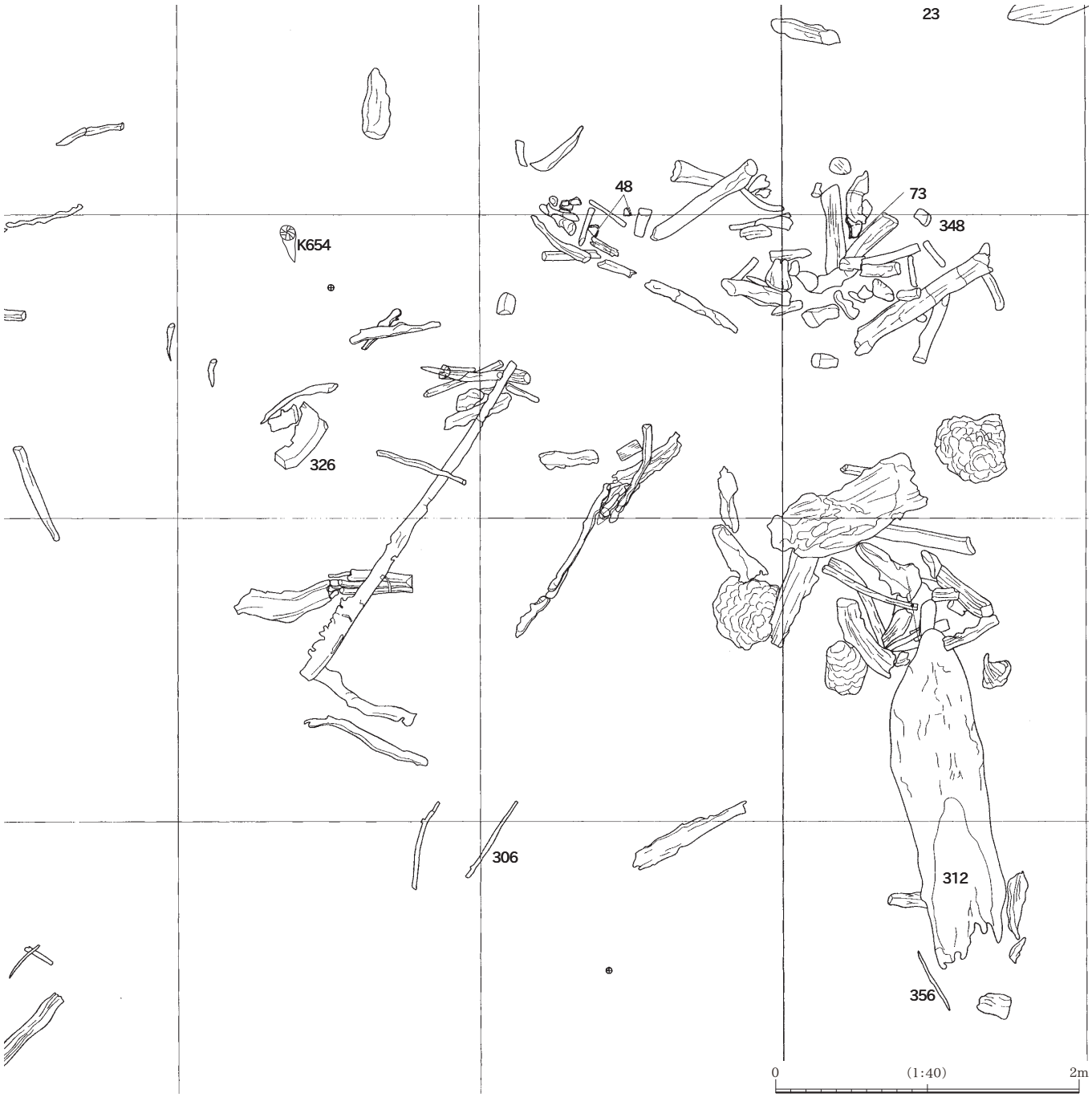

SD250
SB505
SD291
SD307
SB510
SB508
SD290
SD488
SA515
SB509
SD347
SD341
SD340
SD724
SD384
SD412
SB511
SD414
SD768
噴砂脈
12B01
13C01
0
(1:100)
5m

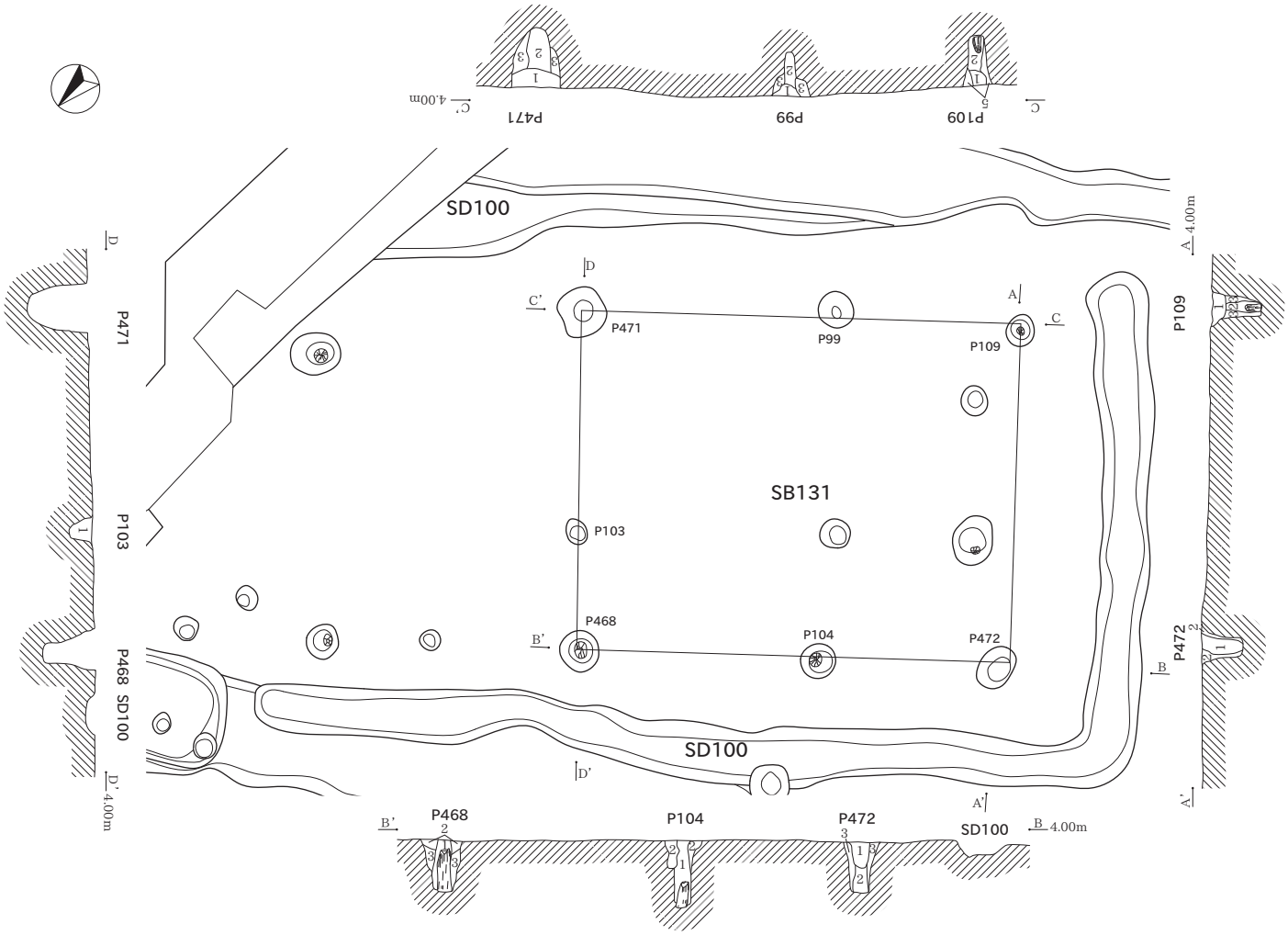

SK452
SK734
SK731
SK730
SK764
SK755
SK767
P706
SK733
SK765
3
49
11
67
2
31
349
32
33
34
60
K773
55
82
15B01
336
276
K694
122
遺物出土状態分割図 1
SD491
123
121
120
SK653
遺物出土状態分割図 3
16C01
346
遺物出土状態分割図 2
A
A'
B
B'
0
(1:100)
5m


20
4
K691
37
315
21
K777
K778
329
14
69
24
327
5
330
52
328
K692
K776
K779
K775
25
319
13
64
イノシシの犬歯
70
K708
K774
40
K639
G'
286
G
43
318
71
299
45
276
54
29
K396
294
K395
23
0
(1:40)
2m

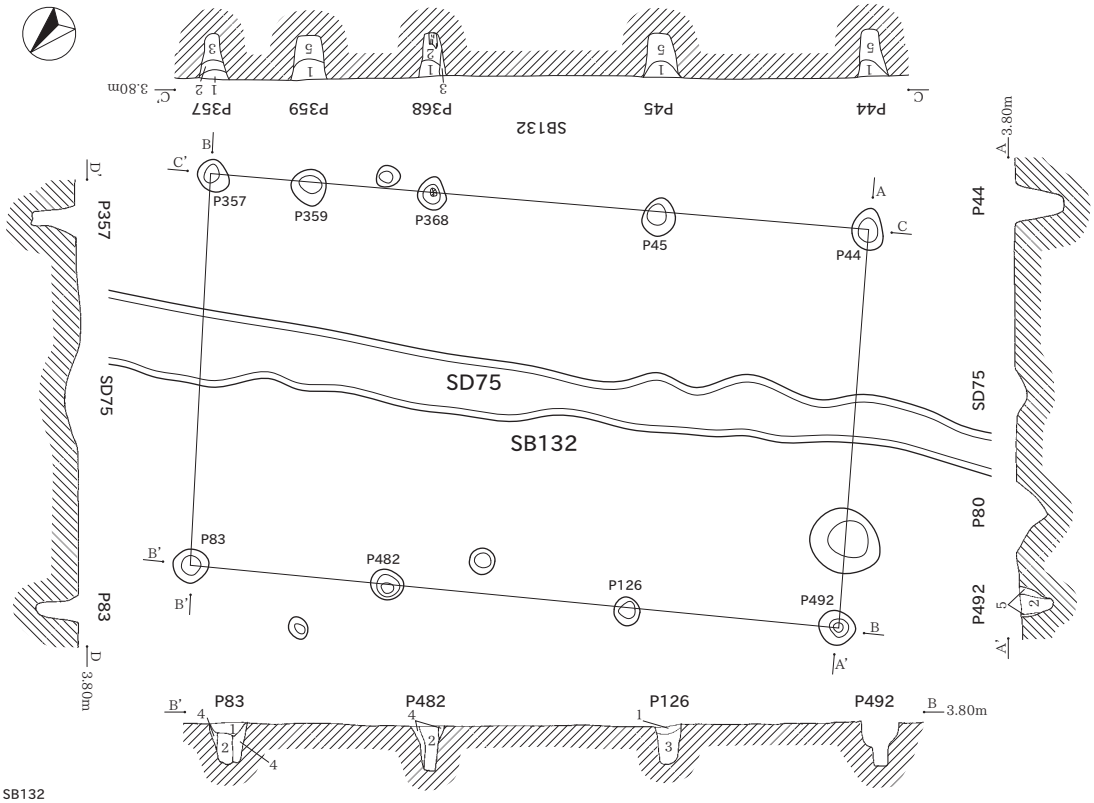
旧河川流路SR400遺物出土状態分割図２（1：40）


A
325
332
333
334
A'
3.00m
E
311
E'
3.00m
B
44
65
332
333
334
B'
3.00m
F
325
12
308
44
285
F'
3.00m
C
19
72
35
C'
3.00m
G
丸太材
286
G'
3.00m
D
325
65
47
D'
3.00m
0
(1:20)
1m


23
48
73
348
K654
326
306
312
356
0
(1:40)
2m

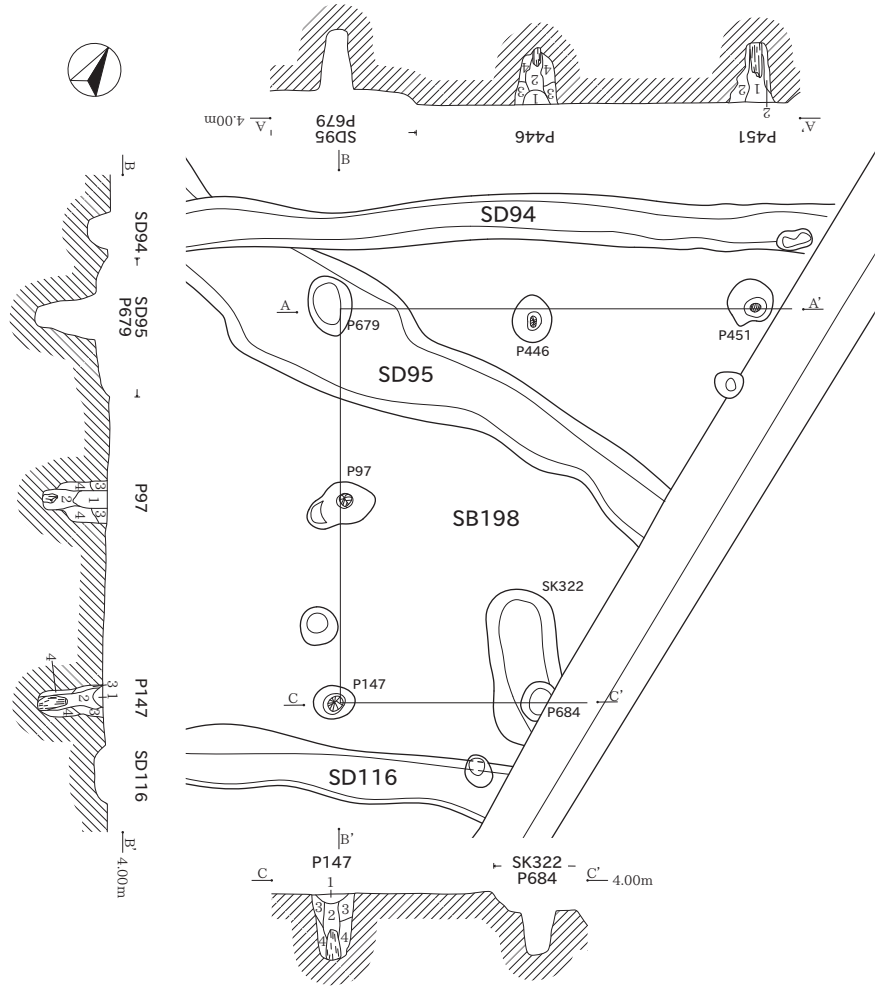



SB131
1．暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を５％
2．灰オリーブ色（5Y6/2）シルト　柱痕で締りなく炭化物を少量
3．灰色（5Y6/1）シルト　締りあり地山塊を主体
4．黄灰色（2.5Y6/1）シルト　締りあり地山塊を20％
5．浅黄色（2.5Y7/3）シルト　締りあり地山塊を30％



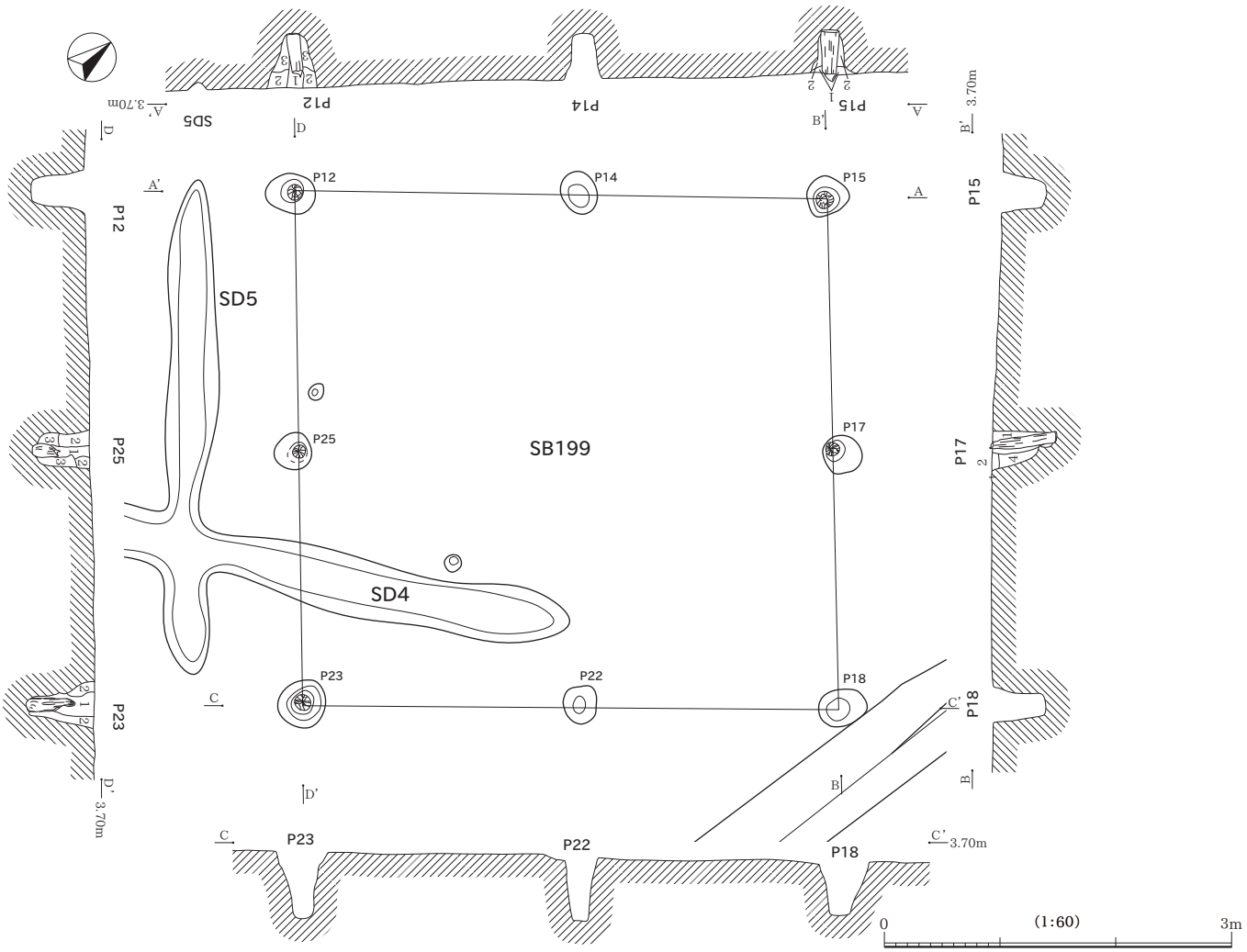

SB132
1．暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を10％
2．暗オリーブ色（5Y4/3）シルト　柱痕で締りなく炭化物を少量
3．浅黄色（2.5Y7/3）シルト　締りあり地山塊を40％
4．灰色（5Y6/1）シルト　締りあり地山塊を20％
5．灰黄色（2.5Y6/2）シルト　締りあり地山塊を30％

0　(1:60)　3m

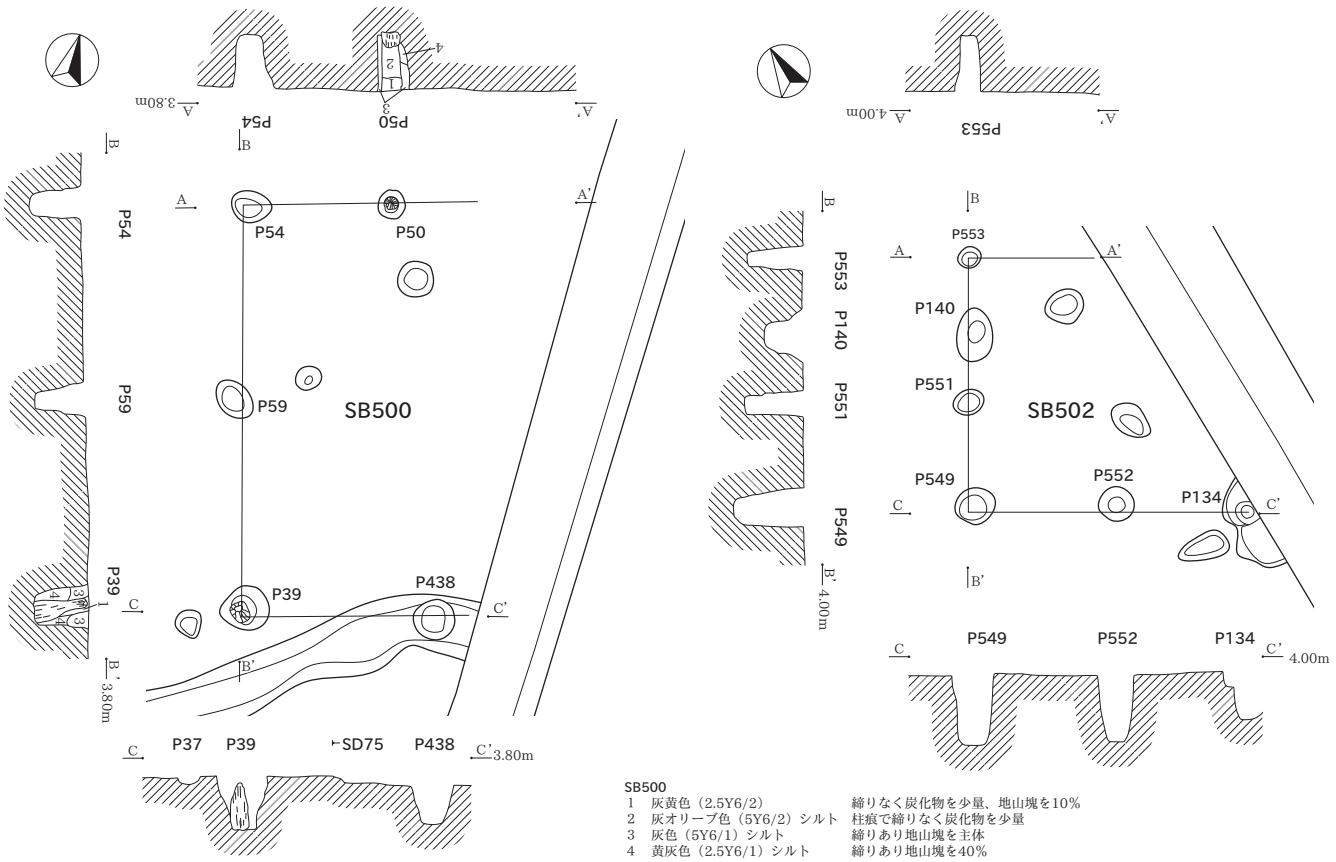



SB198
1　灰黄色（2.5Y6/2）シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を5%
2　灰黄褐色（10YR6/2）シルト　柱痕で締りなく炭化物を少量
3　黄灰色（2.5Y6/1）シルト　締りあり地山塊を主体
4　灰色（5Y6/1）シルト　締りあり地山塊を40%

SB199
1　暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を10%
2　黄褐色（2.5Y5/3）シルト　柱痕で締りなく炭化物を少量
3　浅黄色（2.5Y7/3）シルト　締りあり地山塊を40%
4　黄灰色（2.5Y6/1）シルト　締りあり地山塊を20%

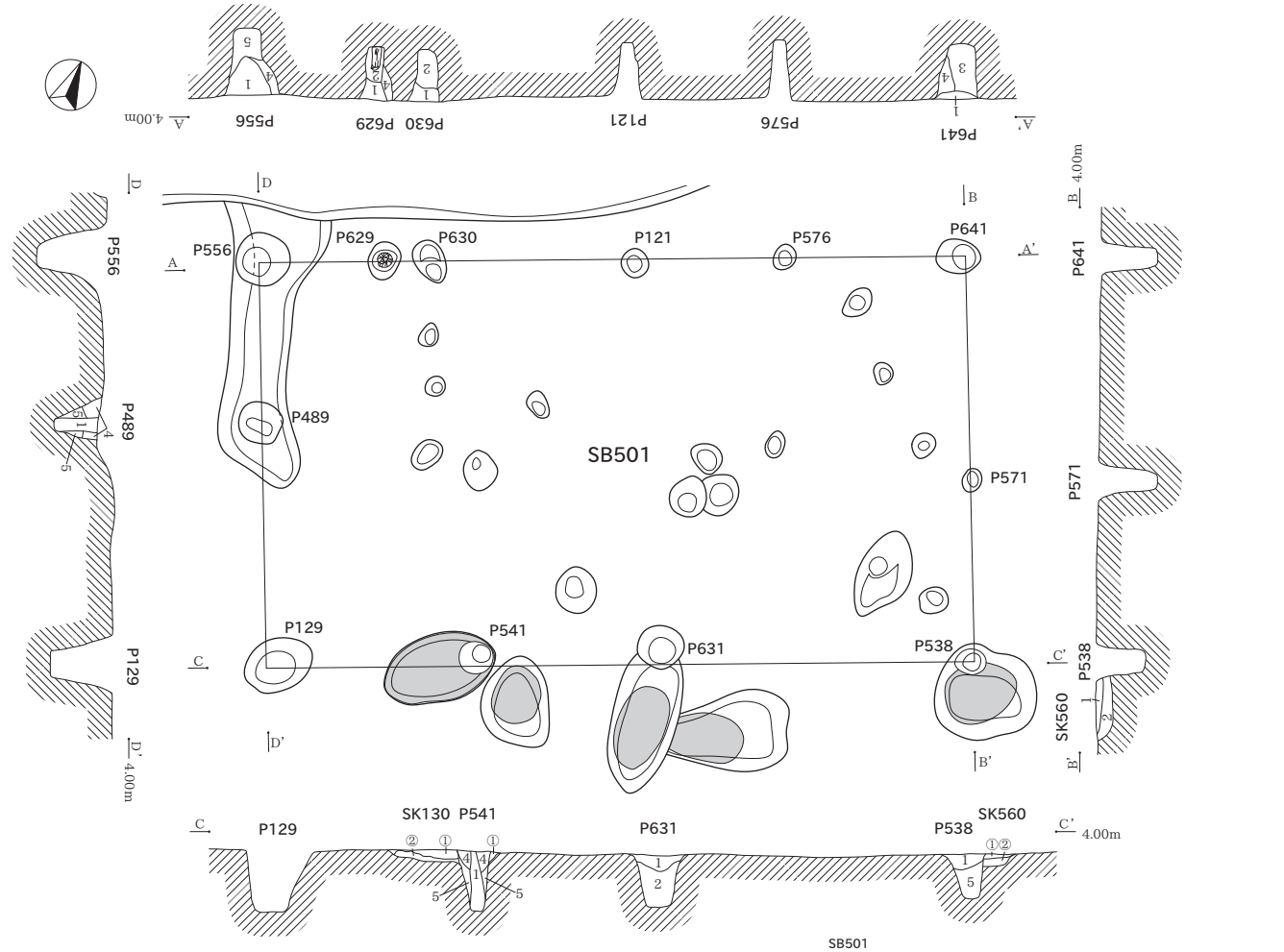


SB500・501・502（1：60）




SB500

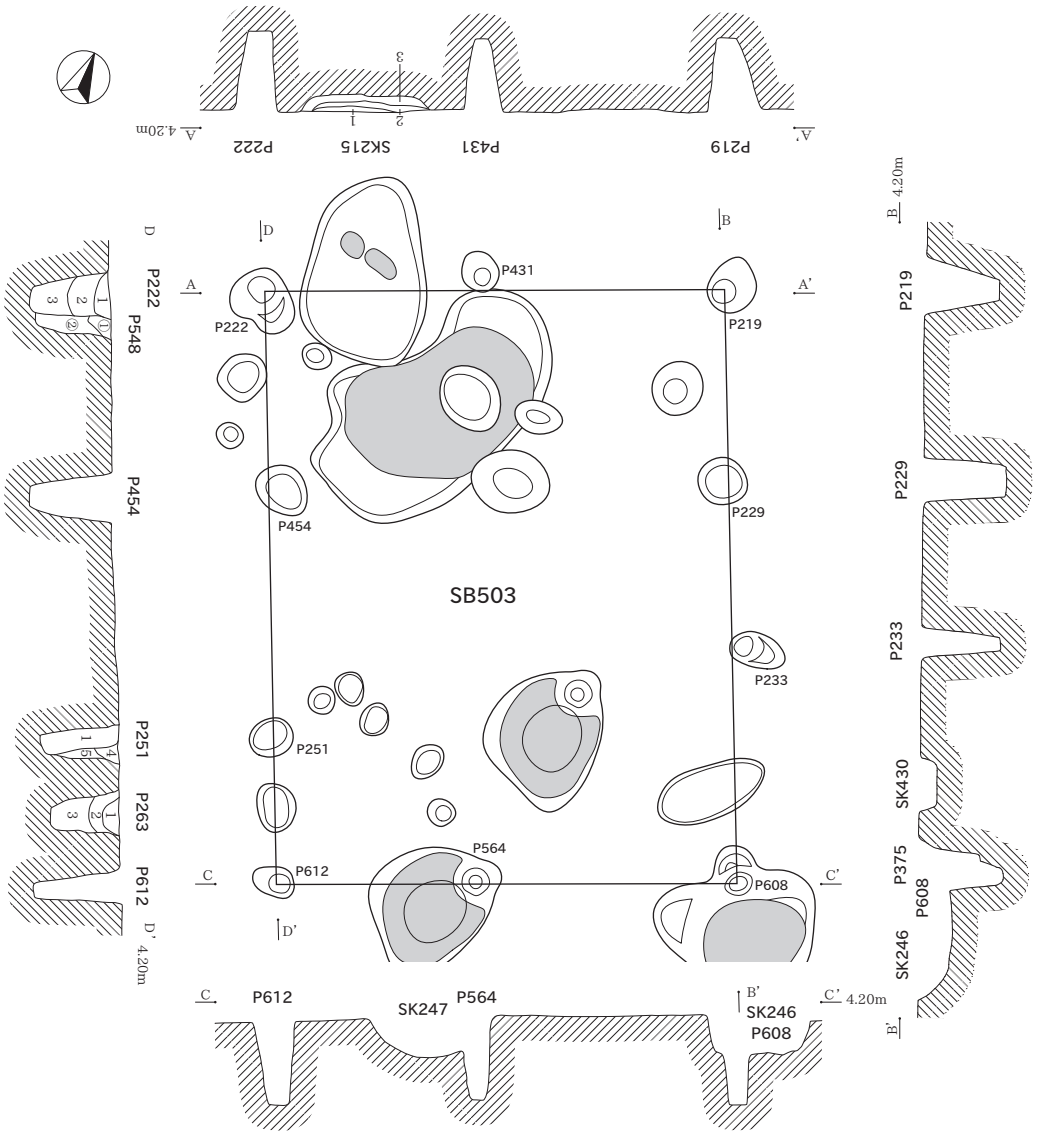
| | | |
|---|---|---|
| 1 | 灰黄色（2.5Y6/2） | 締りなく炭化物を少量、地山塊を10% |
| 2 | 灰オリーブ色（5Y6/2）シルト | 柱痕で締りなく炭化物を少量 |
| 3 | 灰色（5Y6/1）シルト | 締りあり地山塊を主体 |
| 4 | 黄灰色（2.5Y6/1）シルト | 締りあり地山塊を40% |

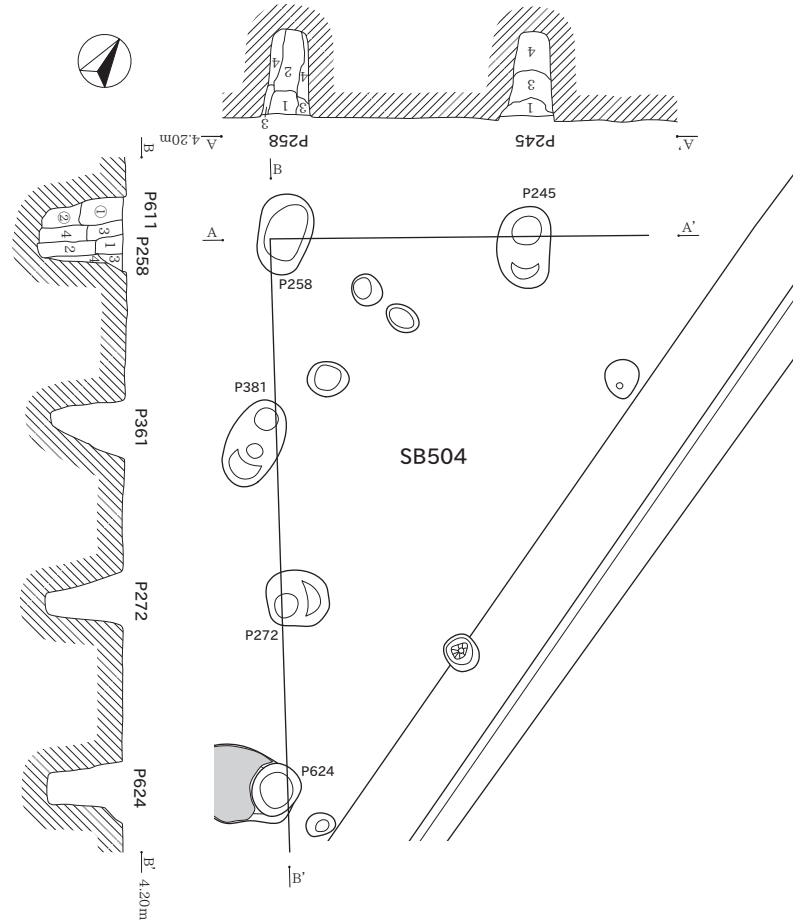



SB501

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト | 締りなく炭化物を少量、地山塊を5% |
| 2 | 暗オリーブ色（5Y4/3）シルト | 柱痕で締りなく炭化物を少量 |
| 3 | 灰オリーブ色（5Y6/2）シルト | 柱痕で締りなく炭化物を5% |
| 4 | 浅黄色（2.5Y7/3）シルト | 締りあり地山塊を主体 |
| 5 | 灰黄色（2.5Y6/2）シルト | 締りあり地山塊を40% |

0 (1:60) 3m




SB503

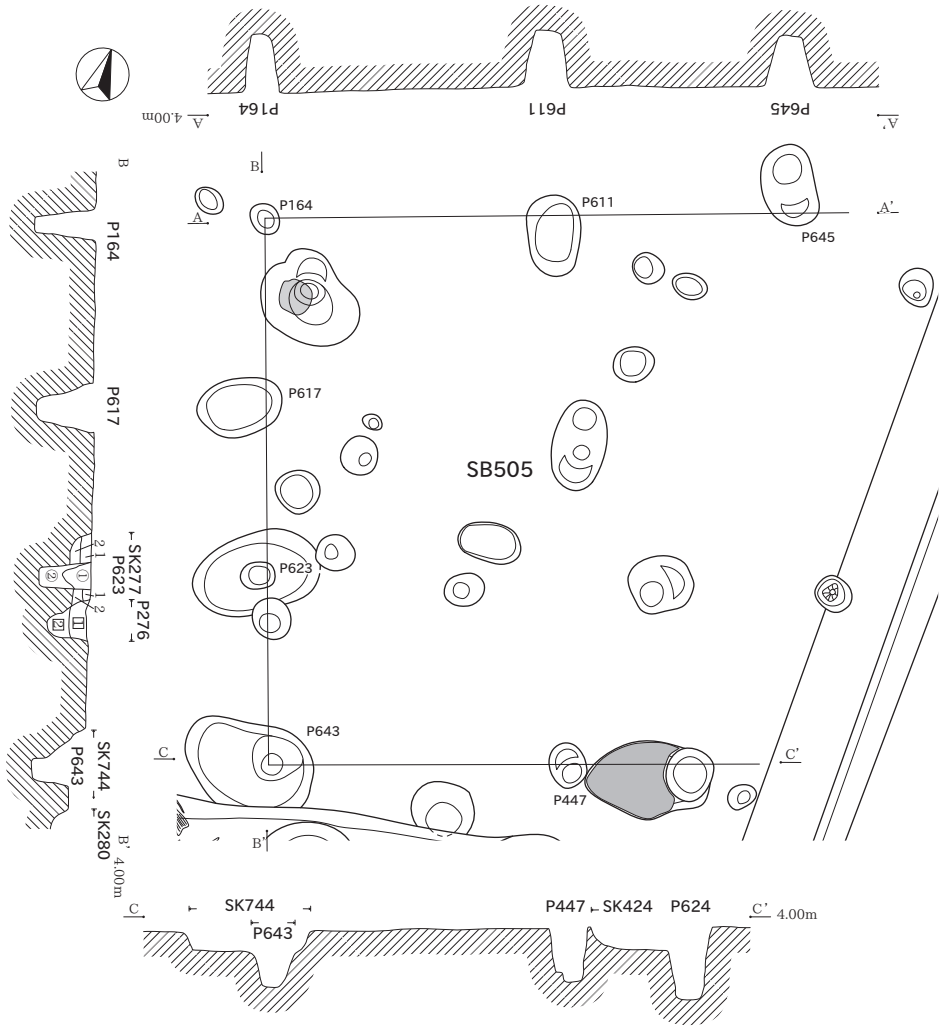
| | | |
|---|---|---|
| 1 | 灰黄色（2.5Y6/2）シルト | 締りなく炭化物を少量、地山塊を5% |
| 2 | 灰黄褐色（10YR6/2）シルト | 締りなく炭化物を少量、地山塊を10% |
| 3 | 暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト | 柱痕で締りなく炭化物を少量 |
| 4 | 浅黄色（2.5Y7/3）シルト | 締りあり地山塊を主体 |
| 5 | 灰黄色（2.5Y6/1）シルト | 締りあり地山塊を40% |
| ① | 黄灰色（2.5Y6/1）シルト | 締りあり地山塊を20% |
| ② | 灰色（5Y6/1）シルト | 締りあり地山塊を30% |

SB504

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 灰黄褐色（10YR6/2）シルト | 締りなく炭化物を少量、地山塊を5% |
| 2 | 暗オリーブ色（5Y4/3）シルト | 柱痕で締りなく炭化物を少量 |
| 3 | 灰色（5Y6/1）シルト | 締りあり地山塊を主体 |
| 4 | 黄灰色（2.5Y6/1）シルト | 締りあり地山塊を40% |
| ① | 黄灰色（2.5Y6/1）シルト | 締りあり地山塊を40% |
| ② | 浅黄色（2.5Y7/3）シルト | 締りあり地山塊を30% |

0　(1:60)　3m

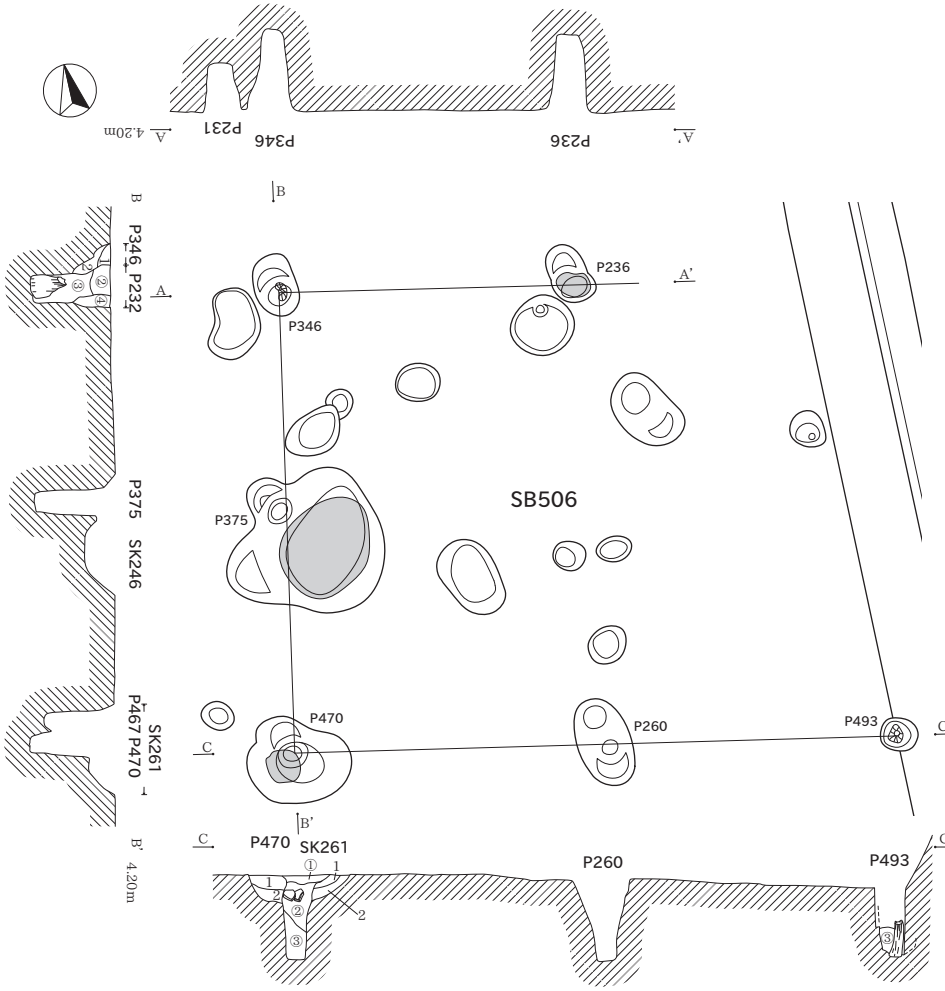
SB505・506（1：60）




P623
① 暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を10%
② 黄灰色（2.5Y6/1）シルト　締りあり地山塊を40%

SB505
P276
1 灰色（5Y6/1）シルト　締りあり地山塊を主体
2 黄灰色（2.5Y6/1）シルト　締りあり地山塊を30%

SK277
1 オリーブ灰色（10Y6/2）シルト　φ1～5㎜の炭化物を5%
2 浅黄色（2.5Y7/3）シルト　φ1～2㎜の炭化物を1%

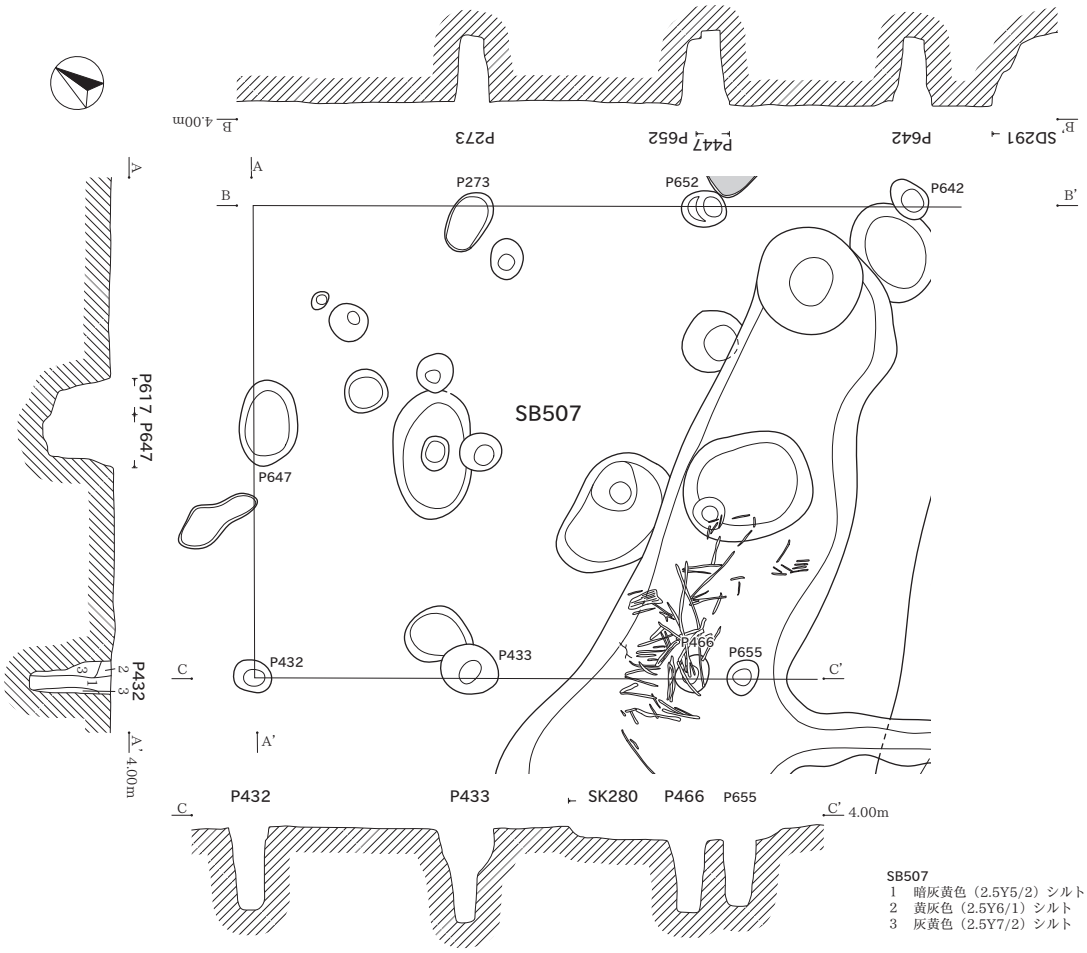



SB506
① 灰黄褐色（10YR6/2）シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を5%
② 暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト　柱痕で締りなく炭化物を5%
③ 暗オリーブ色（5Y4/3）シルト　柱痕で締りなく炭化物を少量
④ 灰色（5Y6/1）シルト　締りあり地山塊を40%

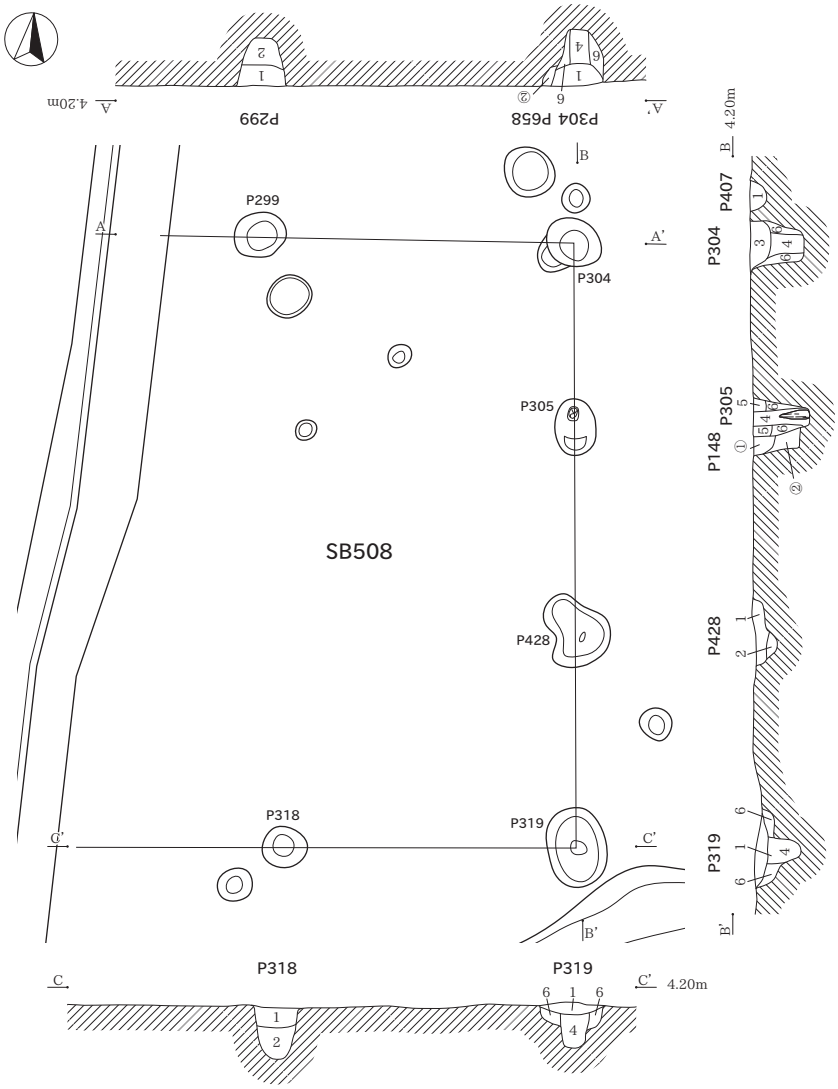
P232
1 浅黄色（2.5Y7/3）シルト　締りあり地山塊を主体
2 黄灰色（2.5Y6/1）シルト　締りあり地山塊を40%

SK261
1 灰褐色（7.5YR6/2）シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%
2 暗褐色（10YR3/3）シルト　φ1～5㎜大の炭化物を1%

0　(1:60)　3m

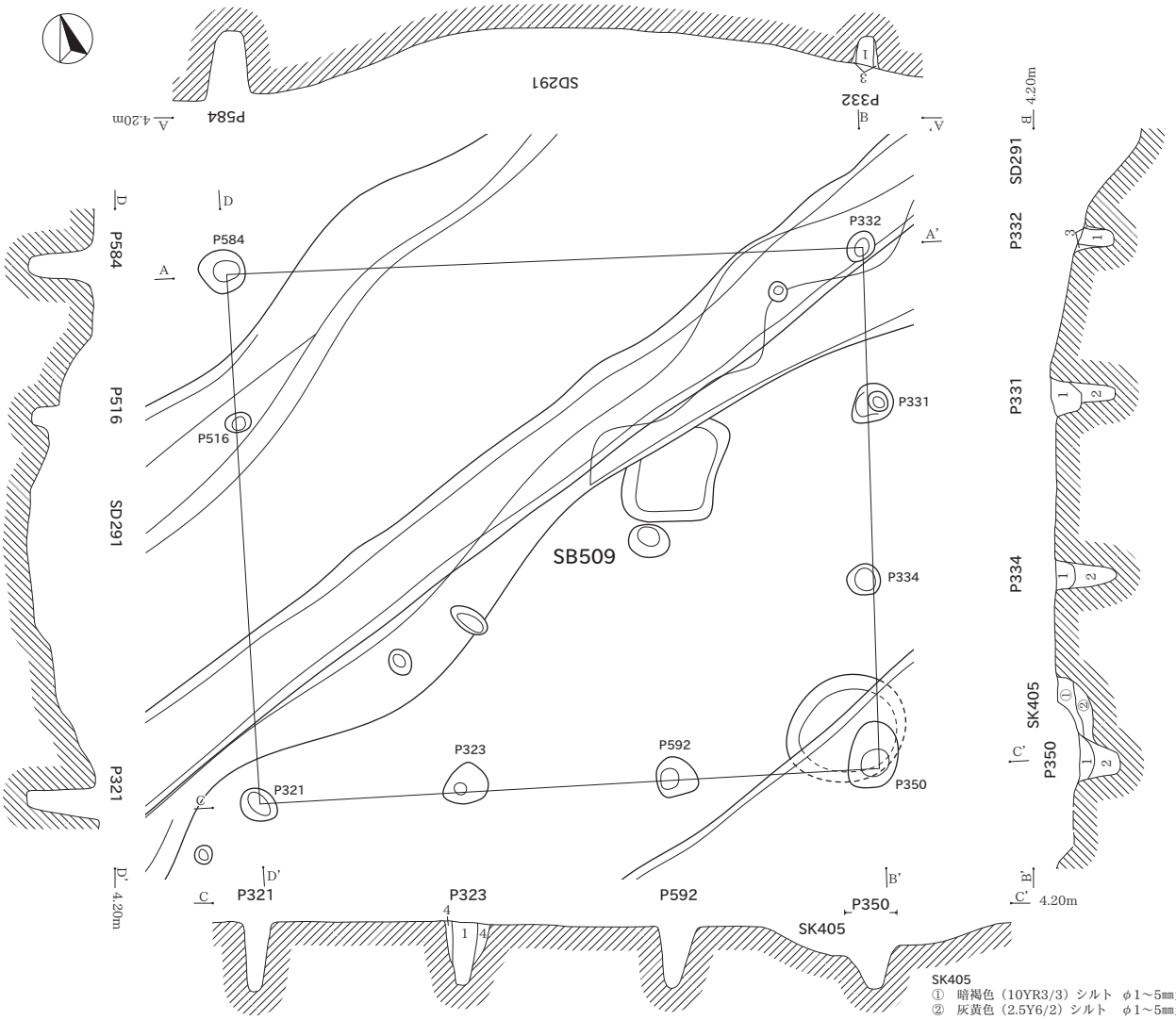



SB507
1　暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト　柱痕で締りなく炭化物を少量
2　黄灰色（2.5Y6/1）シルト　締りあり地山塊を主体
3　灰黄色（2.5Y7/2）シルト　締りあり地山塊を40%



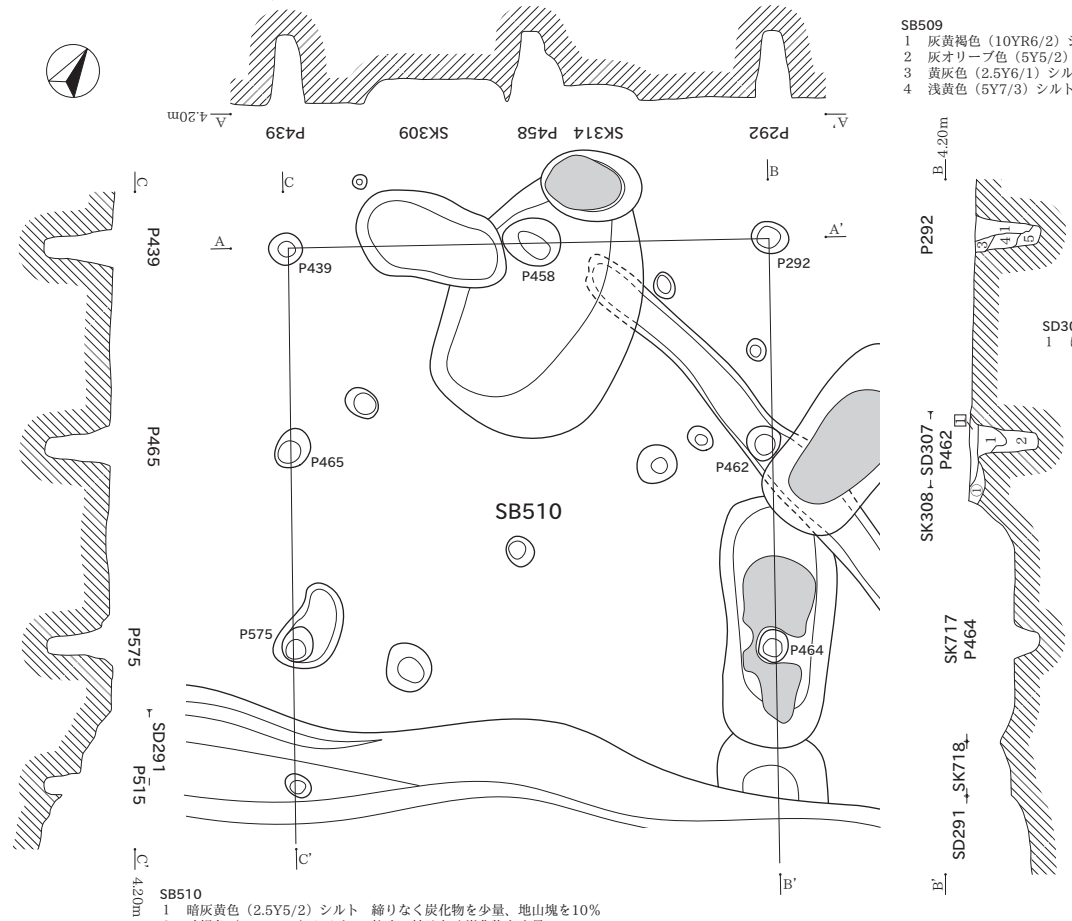

SB508
1　黄灰色（2.5Y5/1）シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を5%
2　暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を10%
3　灰オリーブ色（5Y5/2）シルト　柱痕で締りなく炭化物を少量
4　暗オリーブ色（5Y4/3）シルト　柱痕で締りなく炭化物を少量
5　浅黄色（5Y7/3）シルト　締りあり地山塊を主体
6　にぶい黄色（2.5Y6/3）シルト　締りあり地山塊を20%
①　黄灰色（2.5Y6/1）シルト　締りあり地山塊を40%
②　灰黄色（2.5Y7/2）シルト　締りあり地山塊を主体

0　(1:60)　3m




SK405
① 暗褐色（10YR3/3）シルト φ1～5㎜大の炭化物を5%
② 灰黄色（2.5Y6/2）シルト φ1～5㎜大の炭化物を1%

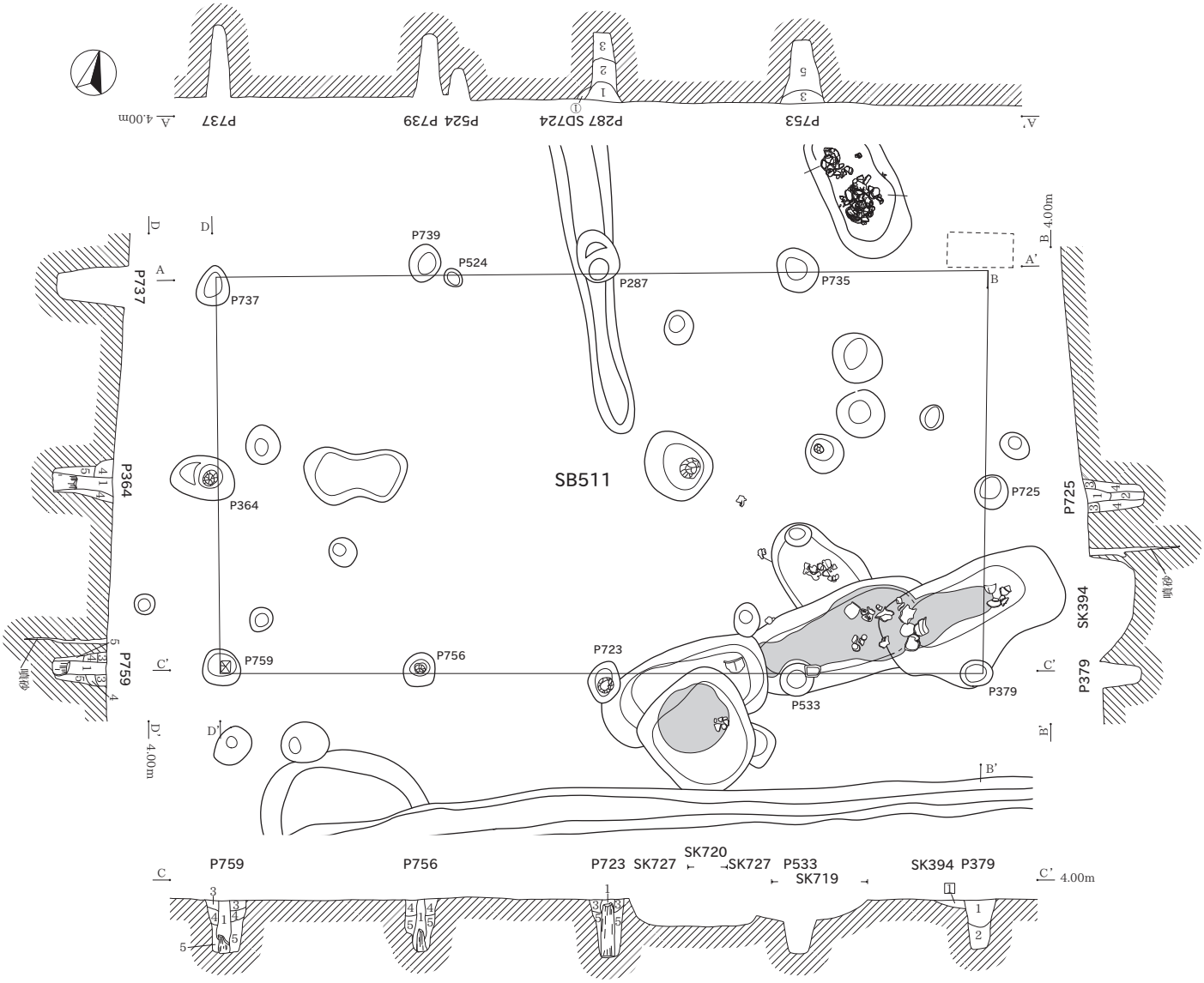
SB509
1 灰黄褐色（10YR6/2）シルト 締りなく炭化物を少量、地山塊を5%
2 灰オリーブ色（5Y5/2）シルト 柱痕で締りなく炭化物を少量
3 黄灰色（2.5Y6/1）シルト 締りあり地山塊を主体
4 浅黄色（5Y7/3）シルト 締りあり地山塊を40%




SD307
1 にぶい黄褐色粗砂、粘質な暗灰黄色土塊を30%

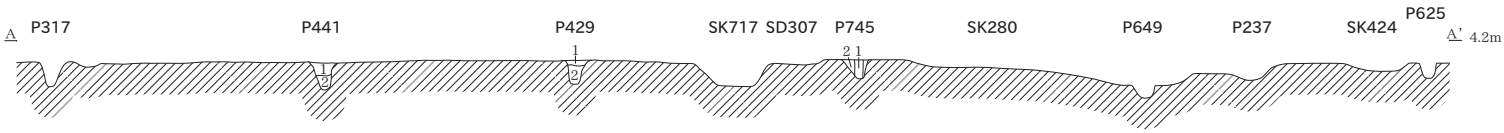
SB510
1 暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト 締りなく炭化物を少量、地山塊を10%
2 暗褐色（10YR3/3）シルト 柱痕で締りなく炭化物を少量
3 黄灰色（2.5Y6/1）シルト 締りあり地山塊を主体
4 浅黄色（5Y7/3）シルト 締りあり地山塊を30%
5 灰黄色（2.5Y6/2）シルト 締りあり地山塊を40%

0 (1:60) 3m

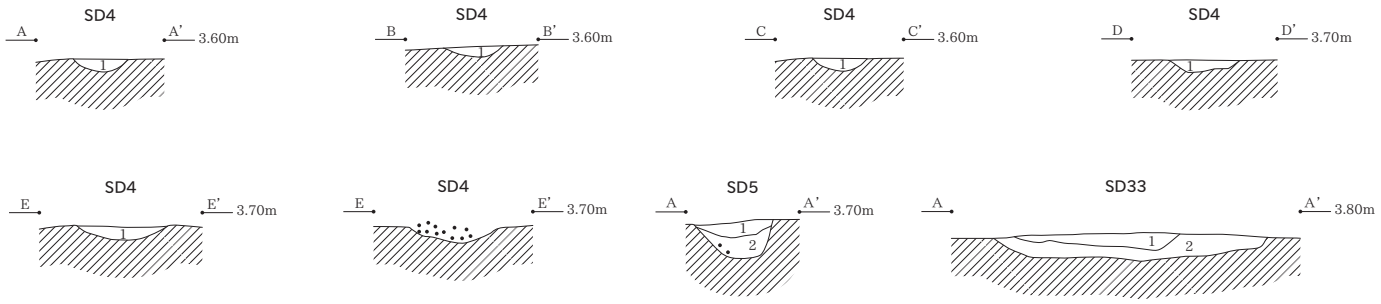



SB511
1　暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を5%
2　暗オリーブ色（5Y4/3）シルト　柱痕で締りなく炭化物を少量
3　灰黄色（2.5Y6/2）シルト　締りあり地山塊を主体
4　灰色（5Y6/1）シルト　締りあり地山塊を30%
5　浅黄色（2.5Y7/3）シルト　締りあり地山塊を主体

SD724
①　暗灰色土　粘質でφ1～3㎜大の炭化物を微量




SA515
1　浅黄色（2.5Y7/3）シルト　締りあり地山塊を20%
2　灰黄色（2.5Y6/2）シルト　締りあり地山塊を30%



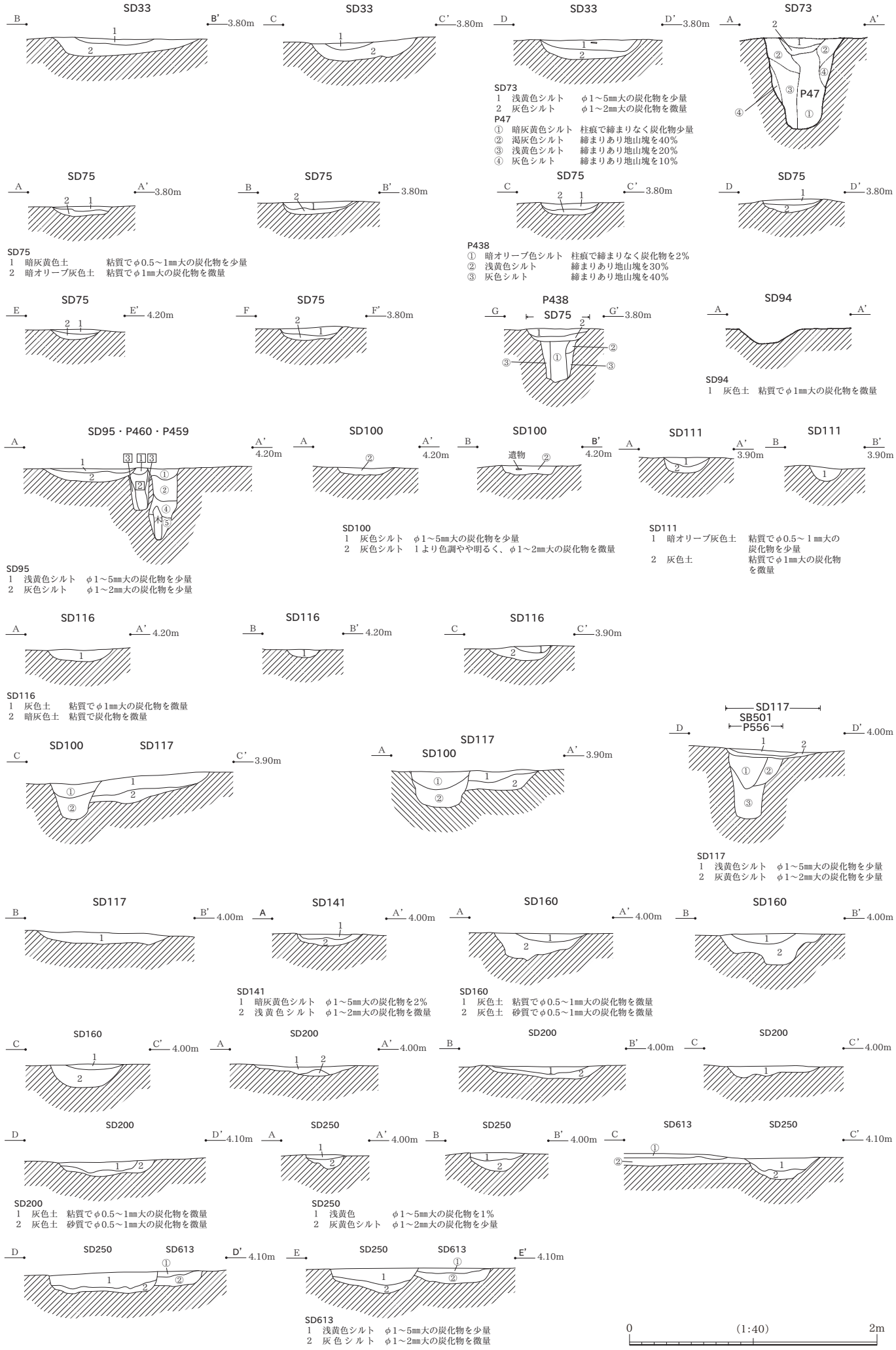

SD4
1　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を2%

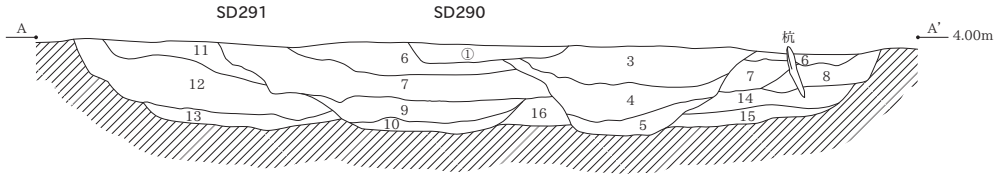
SD5
1　暗オリーブ色土　粘質でφ1～2㎜大の炭化物を少量
2　灰オリーブ色土　粘質でφ1～2㎜大の炭化物を微量

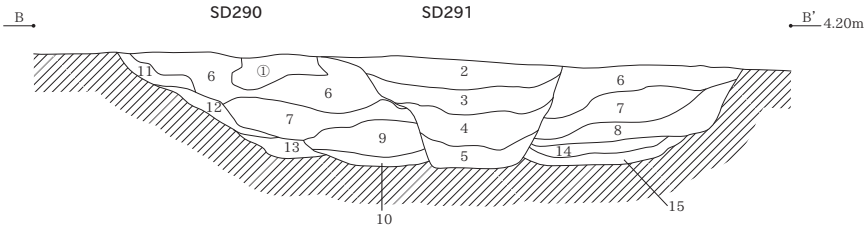
SD33
1　浅黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を少量
2　灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を微量

0　(1:40)　2m
0　(1:60)　3m
0　(1:80)　4m

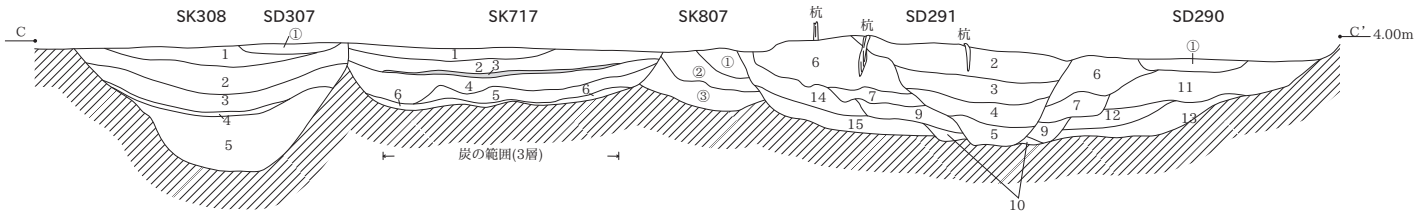
# SD33・73・75・94・95・100・111・116・117・141・160・200・250・613、P438・459・460・556（1：40）

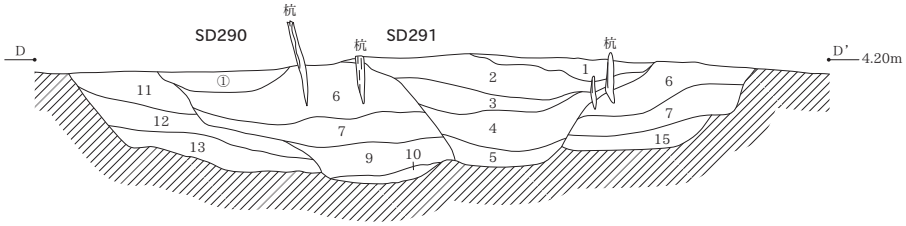




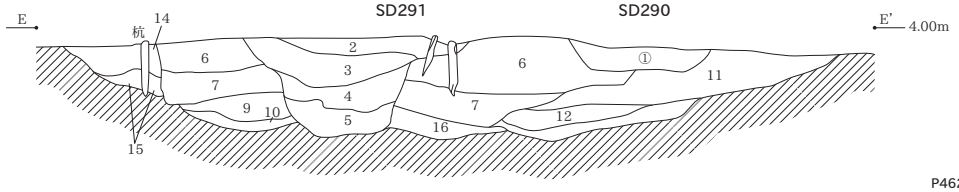



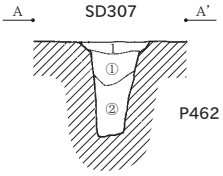

SD290
① オリーブ黒色土　粘性強くφ1㎜大の炭化物を少量
SD291
1　にぶい黄橙色土　粘性強くφ1～5㎜大の炭化物を2%
2　灰黄褐色土　粘質で砂利を2%、φ1～5㎜大の炭化物を少量
3　灰色土　粘質で砂利を5%
4　黄灰色土　砂利を10%、水酸化鉄の沈着顕著
5　黄褐色土　砂利とφ5～20㎜大の円礫を20%
6　浅黄色土　砂質で砂利を5%
7　明緑灰色土　粘質で砂利を少量
8　灰オリーブ色土　シルト質で砂利を少量
9　灰白色土　粘質で砂利を1%
10　灰黄色土　砂利とφ5～20㎜大の円礫を10%
11　緑灰色土　粘質で砂利を1%
12　黄褐色土　砂利とφ5～20㎜大の円礫を30%
13　オリーブ灰色土　粘質で砂利を2%
14　黄灰色土　粘質で砂利を5%
15　灰色土　砂利とφ5～10㎜大の円礫を10%
16　緑灰色土　シルト質で砂利を2%



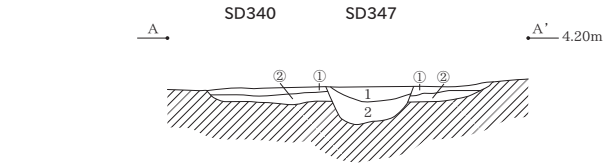



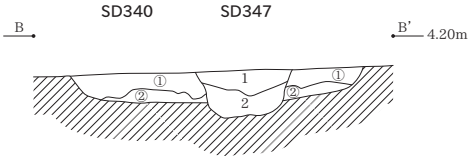

SD307
1　にぶい黄褐色粗砂　粘質な暗灰黄色土塊を30%
SD340
① 暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を2%
② 暗オリーブ色土　粘質でφ01㎜大の炭化物を1%
SD341
1　暗灰黄色シルト　φ1㎜大の炭化物を1%
2　灰色土　粘質でφ1㎜大の炭化物を少量
SD347
1　灰オリーブ色土　粘質でφ1㎜大の炭化物を少量
2　灰色土　粘質でφ1㎜大の炭化物を微量
SD374
1　暗灰黄色土　粘質でφ1㎜大の炭化物を少量
2　黄褐色土　粘質でφ0.5㎜大の炭化物を微量

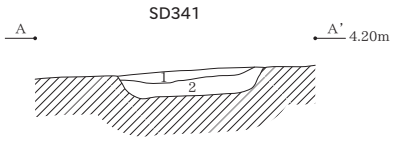


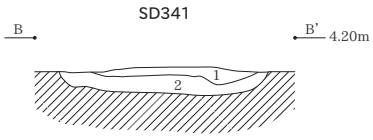



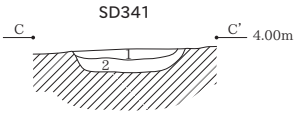

P462
① 暗灰色シルト　締りなくφ1～5㎜大の炭化物を3%
② 浅黄色シルト　締りあり地山塊を20%

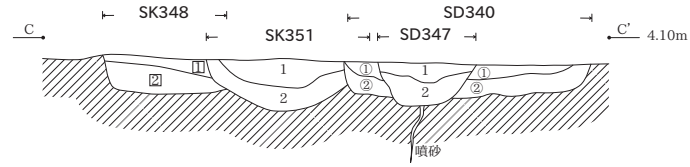


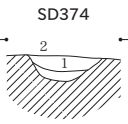



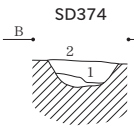



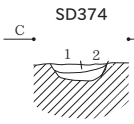



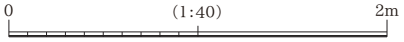



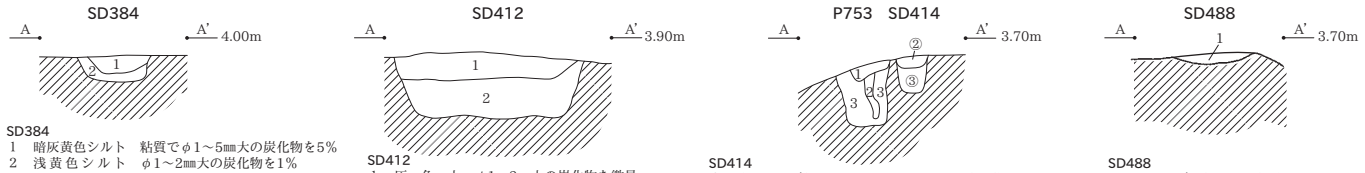



# SD384・412・414・488・491・532・668・724・768、SK1・3・6・7、P753（1：40）

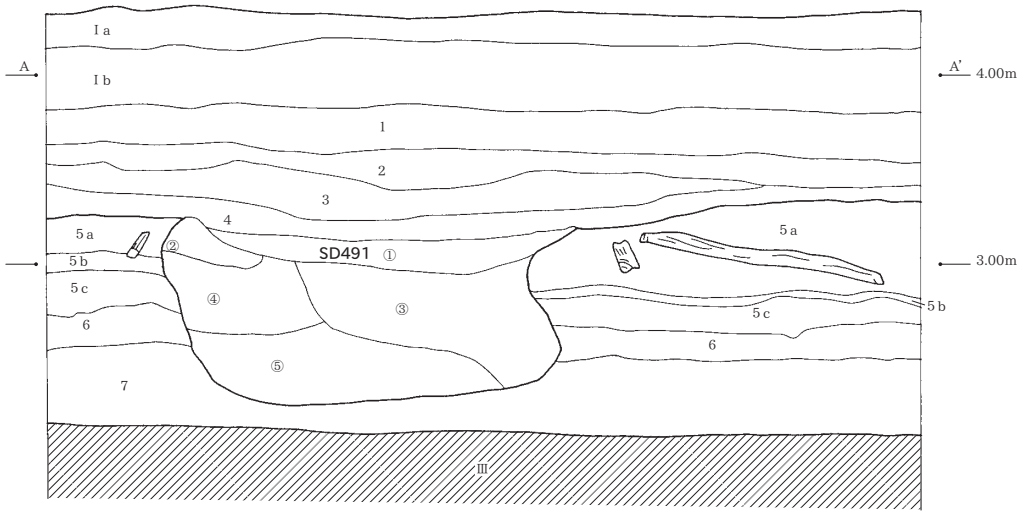


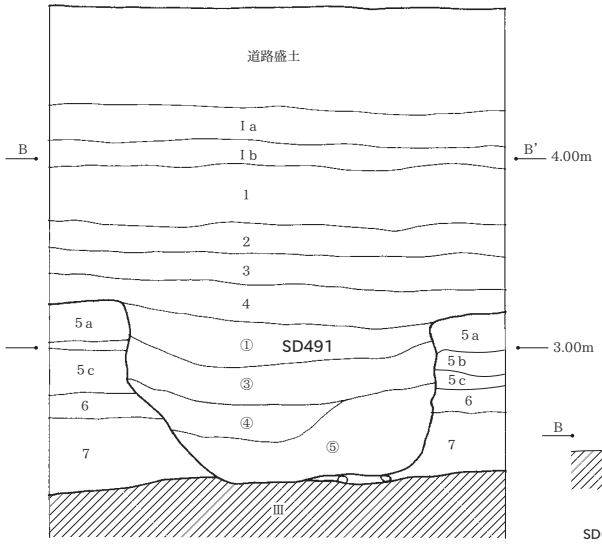

SD384
1　暗灰黄色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を5%
2　浅黄色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を1%

SD412
1　灰色土　φ1～3㎜大の炭化物を微量
2　暗灰黄色土　φ1㎜大の炭化物を少量

SD414
①　暗オリーブ色土　粘質でφ1～3㎜大の炭化物を少量
②　暗灰黄色土　φ1㎜大の炭化物を少量
③　灰色土　粘質でφ1㎜大の炭化物を微量

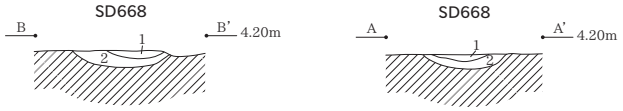
SD488
1　オリーブ黒色土　粘性強くφ1㎜大の炭化物を少量



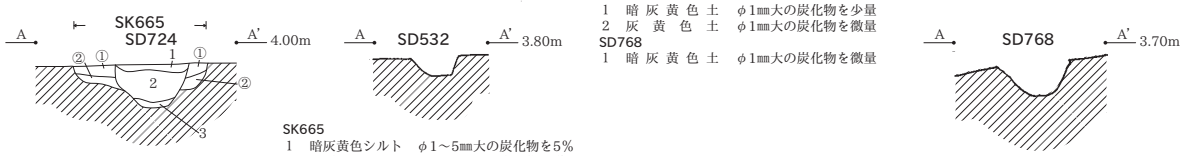

P753
1　灰黄色シルト　φ1～3㎜大の炭化物を3%
2　黄褐色シルト　φ1～3㎜大の炭化物を1%
3　灰色シルト　φ1㎜大の炭化物を1%

SD491
①　にぶい黄褐色砂礫　φ1～4㎝大の円礫を主体
②　灰褐色砂礫　1より砂礫細かく、粘質土を20%
③　灰オリーブ色土　粘質で旧河川流路SR400の5a層の崩落したものか
④　黄灰色砂礫　2より砂礫細かく、粘質土を5%
⑤　暗灰黄色土　粘質でφ1～2㎝大の円礫と粗砂を30%




SD668
1　暗灰黄色土　φ1㎜大の炭化物を少量
2　灰黄色土　φ1㎜大の炭化物を微量

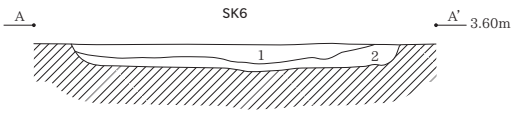
SD768
1　暗灰黄色土　φ1㎜大の炭化物を微量

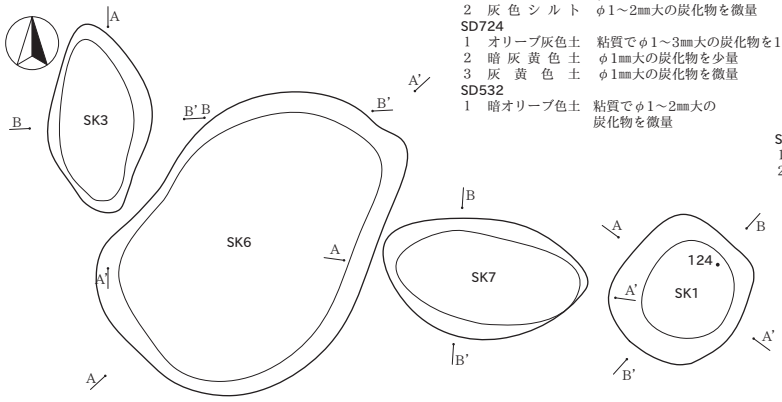



SK665
1　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%
2　灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を微量

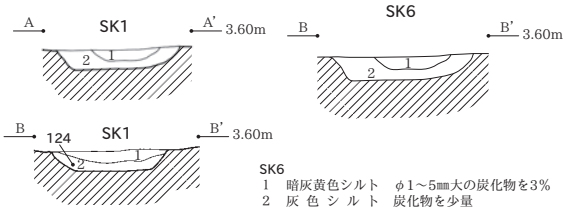
SD724
1　オリーブ灰色土　粘質でφ1～3㎜大の炭化物を1%
2　暗灰黄色土　φ1㎜大の炭化物を少量
3　灰黄色土　φ1㎜大の炭化物を微量

SD532
1　暗オリーブ色土　粘質でφ1～2㎜大の炭化物を微量

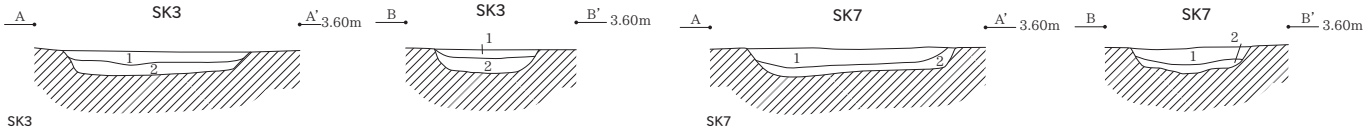



SK1
1　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を2%
2　灰黄色シルト　φ1㎜大の炭化物を少量



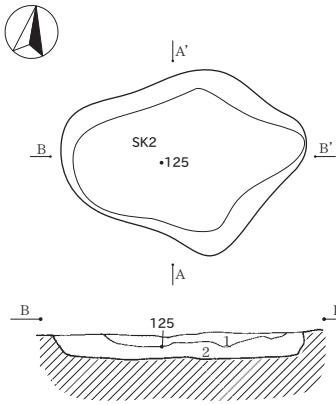

SK6
1　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を3%
2　灰色シルト　炭化物を少量



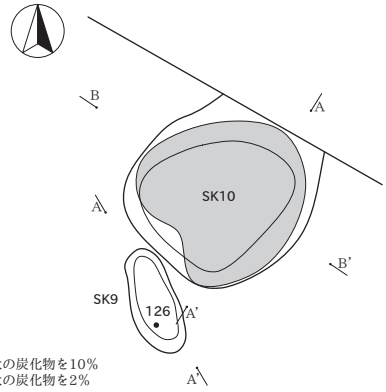

SK3
1　灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を少量
2　灰オリーブ色シルト　炭化物を微量

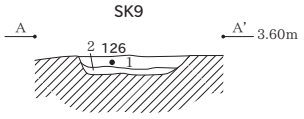
SK7
1　暗灰黄色シルト　φ1～10㎜大の炭化物を10%
2　灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を2%

0　(1:40)　2m

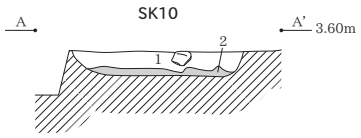


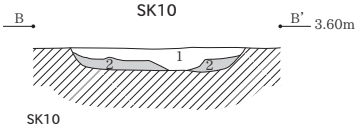

SK2
1　暗オリーブ色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を10%
2　灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を2%



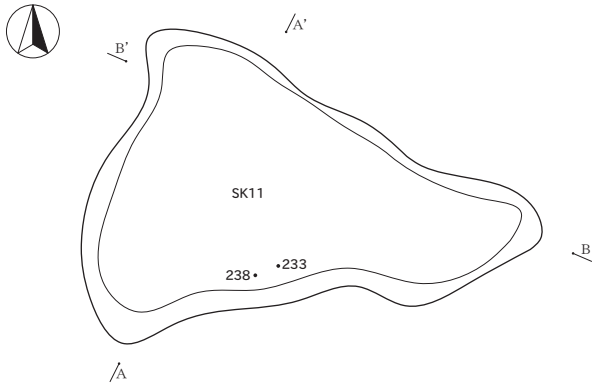



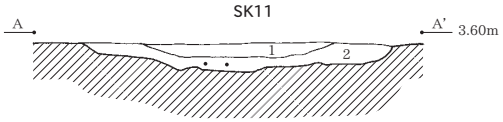

SK9
1　暗灰黄色シルト　φ1～10㎜大の炭化物を10%
2　灰オリーブ色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を1%

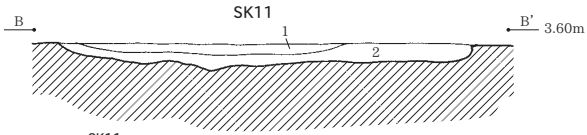


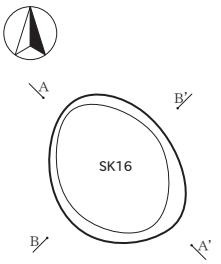

SK10
1　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%
2　灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を30%



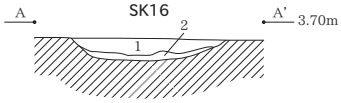



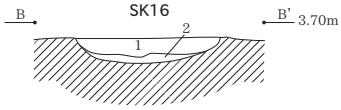



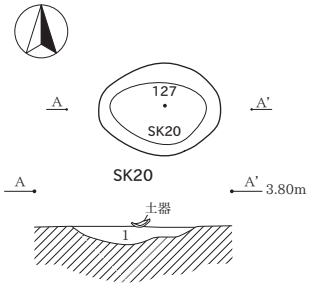

SK11
1　暗灰黄色シルト　砂質でφ1～5㎜大の炭化物を3%
2　灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を少量

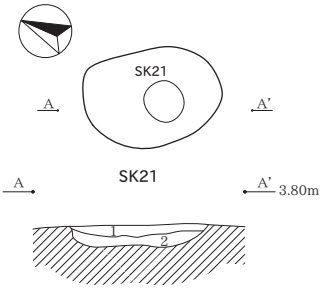



SK16
1　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%
2　暗灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を3%



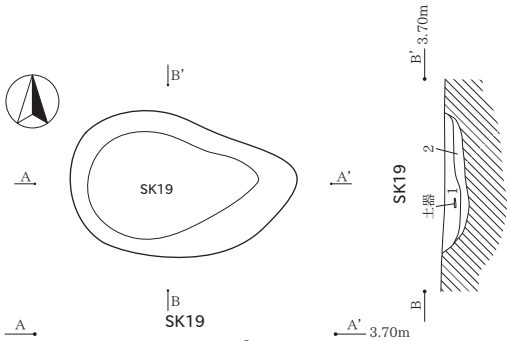



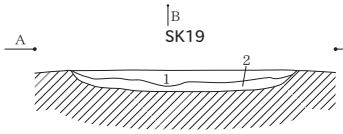



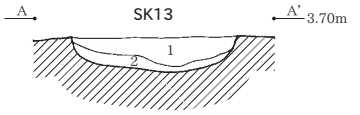

SK20
1　灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を3%
2　灰オリーブ色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を微量

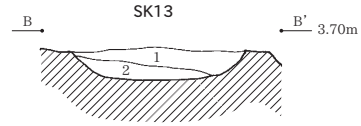
SK21
1　黄灰色シルト　砂質でφ1～5㎜大の炭化物を3%
2　灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を1%



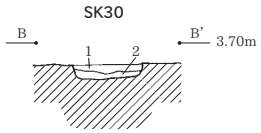



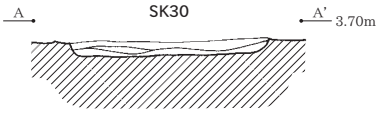

SK19
1　灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を少量



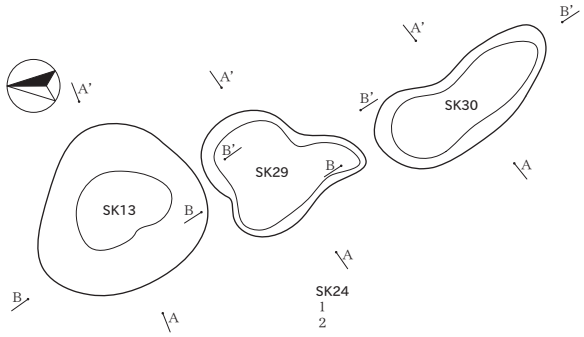



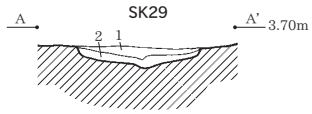

SK13
1　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を1%
2　灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を少量

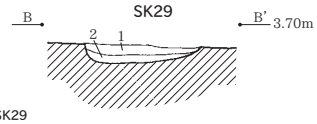


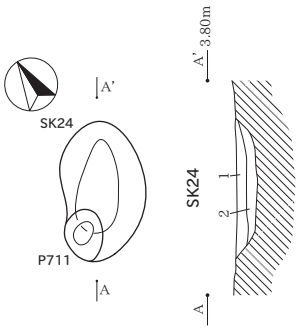

SK30
1　灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を2%
2　灰色シルト　1より色調明るく砂質



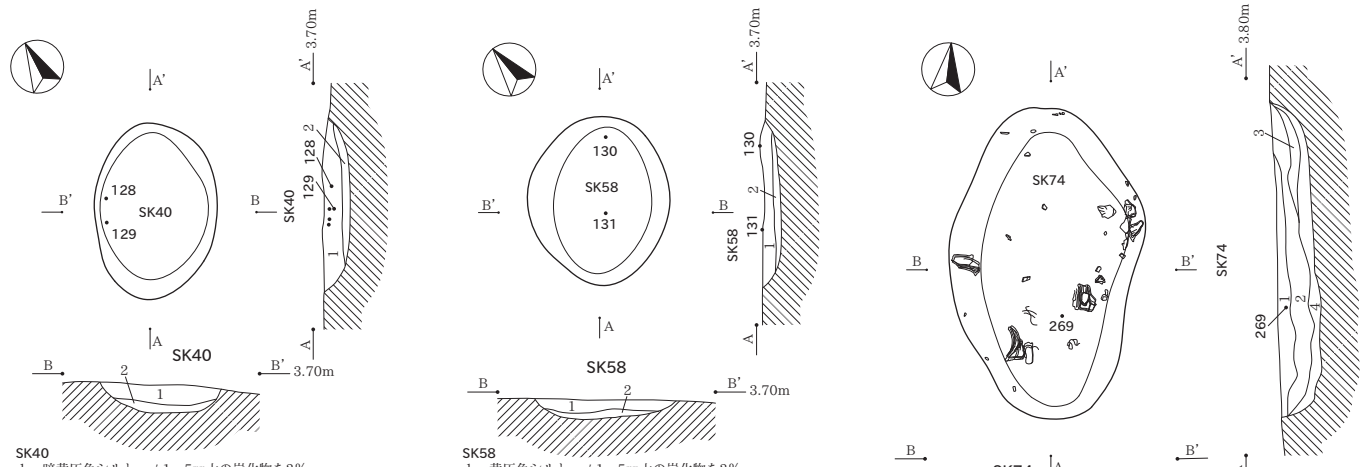




SK29
1　暗灰黄色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を3%
2　灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を1%




0　(1:40)　2m

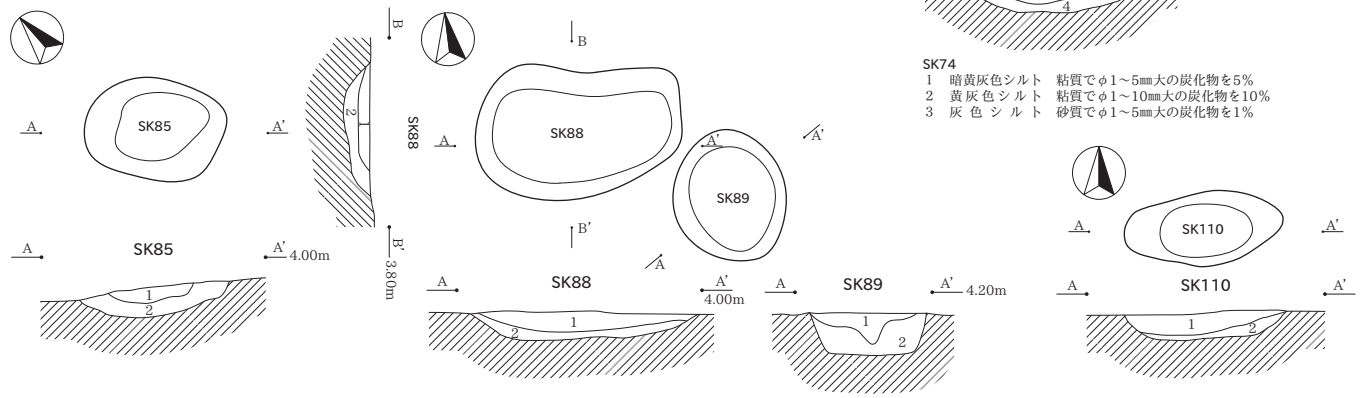
SK40・58・74・85・88・89・110・128・130・135・136・137・138、P541（1：40）




SK40
1　暗黄灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を3%
2　灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を少量

SK58
1　黄灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を3%
2　灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を1%

SK74
1　暗黄灰色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を5%
2　黄灰色シルト　粘質でφ1～10㎜大の炭化物を10%
3　灰色シルト　砂質でφ1～5㎜大の炭化物を1%

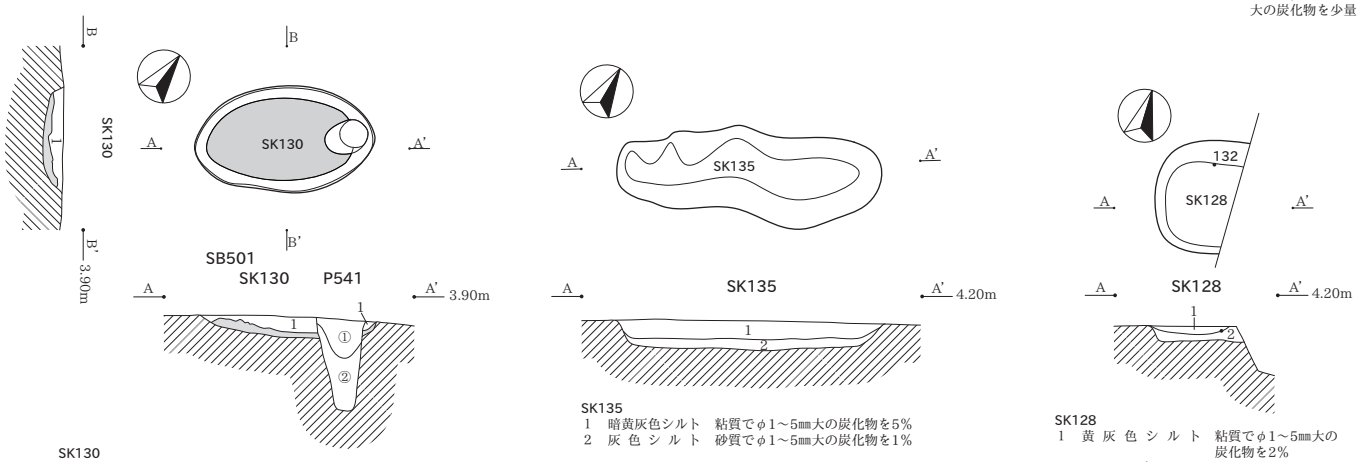



SK85
1　暗黄灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を3%
2　灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を微量

SK88
1　暗黄灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を1%
2　オリーブ灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を微量

SK89
1　暗黄灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を1%
2　灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を少量

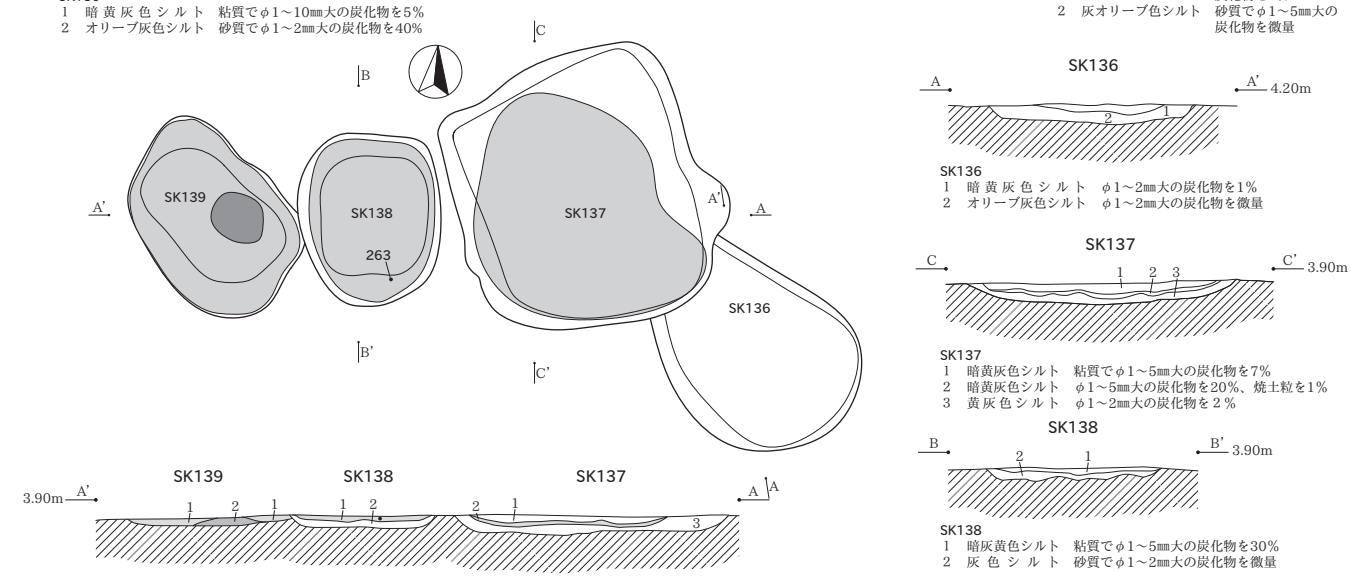
SK110
1　暗灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%
2　にぶい黄褐色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を少量




SK130
1　暗黄灰色シルト　粘質でφ1～10㎜大の炭化物を5%
2　オリーブ灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を40%

SK135
1　暗黄灰色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を5%
2　灰色シルト　砂質でφ1～5㎜大の炭化物を1%

SK128
1　黄灰色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を2%
2　灰オリーブ色シルト　砂質でφ1～5㎜大の炭化物を微量



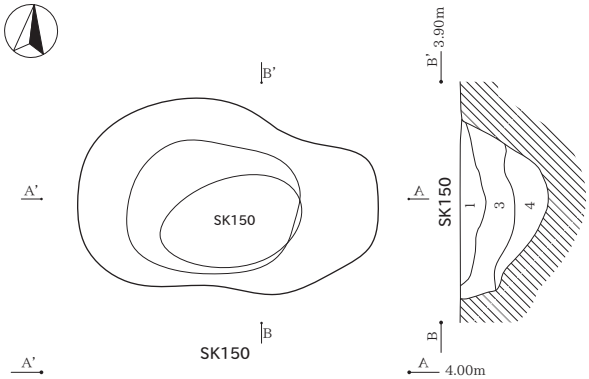

SK136
1　暗黄灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を1%
2　オリーブ灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を微量

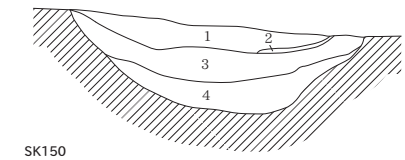
SK137
1　暗黄灰色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を7%
2　暗黄灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を20%、焼土粒を1%
3　黄灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を2%

SK138
1　暗灰黄色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を30%
2　灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を微量

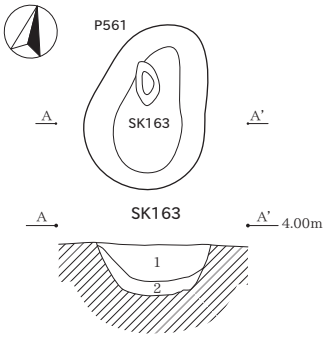
SK139
1　浅黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を30%
2　浅橙色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を微量、焼土を20%

0　(1:40)　2m

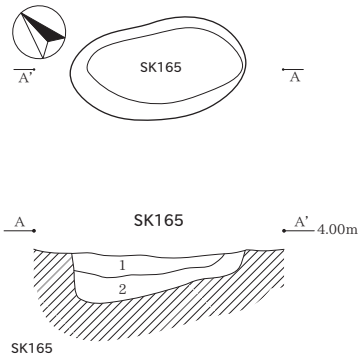


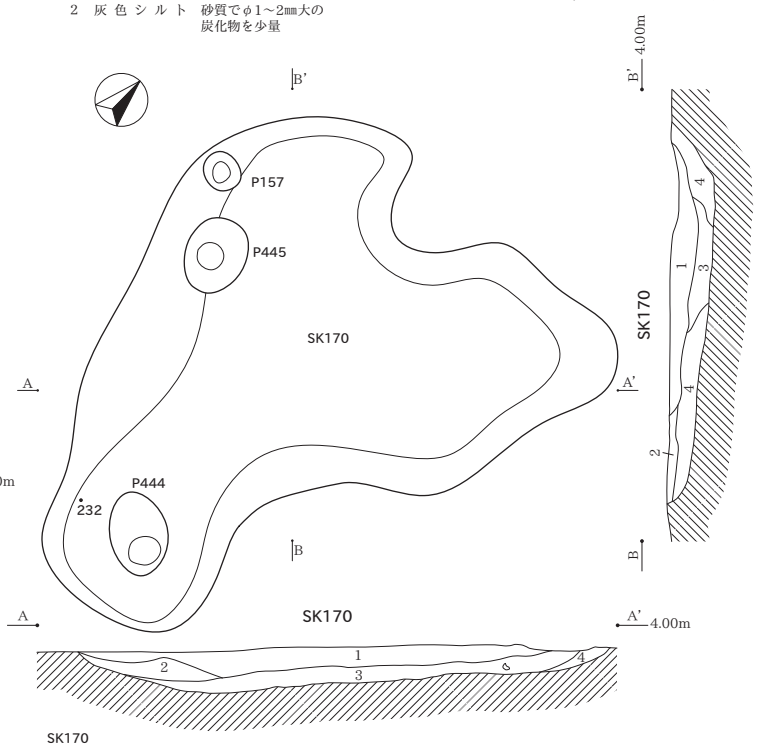

SK150
1　暗灰黄色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を10%、焼土2%
2　暗オリーブ色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を10%
3　オリーブ黄色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を3%
4　灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を1%



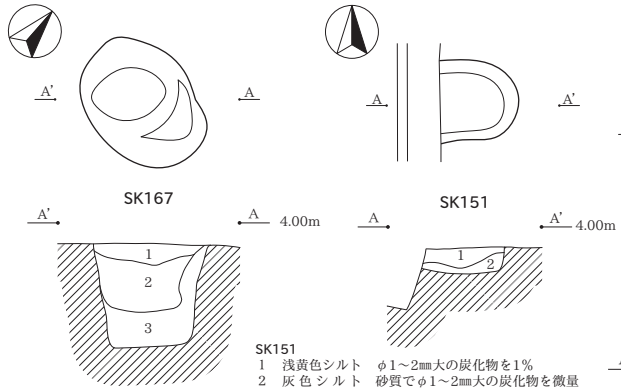

SK163
1　暗灰黄色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を3%
2　灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を少量




SK165
1　浅黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を1%
2　灰オリーブ色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を微量

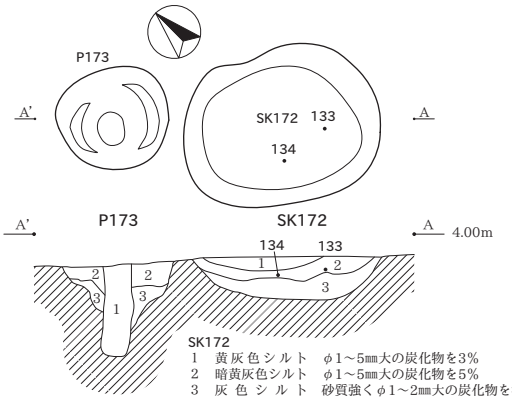



SK170
1　暗灰黄色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を5%
2　浅黄色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を2%
3　灰オリーブ色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を少量
4　灰色シルト　粘質でφ1～2㎜大の炭化物を微量



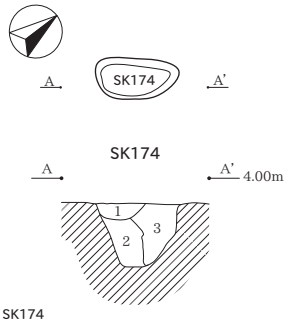

SK151
1　浅黄色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を1%
2　灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を微量

SK167
1　浅黄色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を3%
2　灰色シルト　粘質でφ1～2㎜大の炭化物を1%
3　灰オリーブ色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を微量

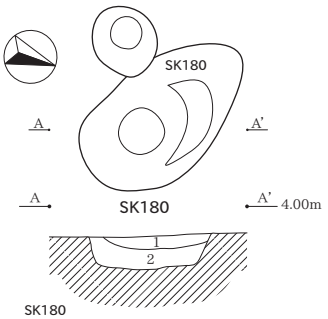



SK172
1　黄灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を3%
2　暗黄灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%
3　灰色シルト　砂質強くφ1～2㎜大の炭化物を微量

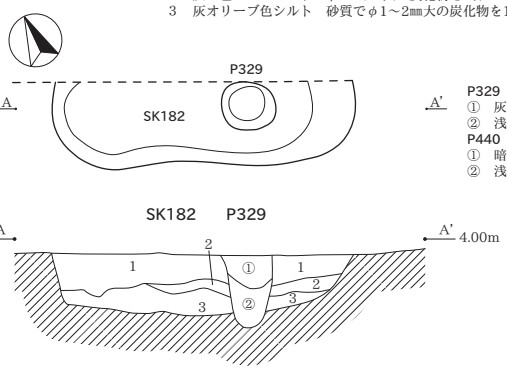
P173
1　オリーブ黄色シルト　柱痕で締りなくφ1～5㎜大の炭化物を5%
2　灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を2%
3　灰オリーブ色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を1%




SK174
1　暗灰黄色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を3%
2　浅黄色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を1%
3　灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を微量



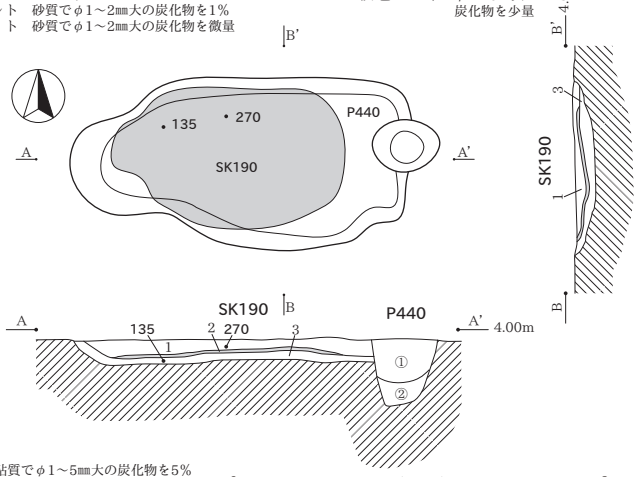

SK180
1　浅黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を1%
2　灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を少量




P329
①　灰色シルト
②　浅黄色シルト
P440
①　暗灰色シルト
②　浅黄色シルト

SK182　P329

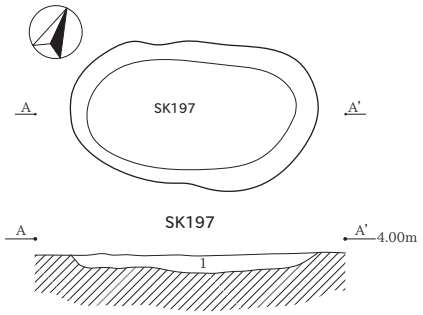
SK182
1　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%
2　浅黄色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を少量
3　オリーブ灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を微量



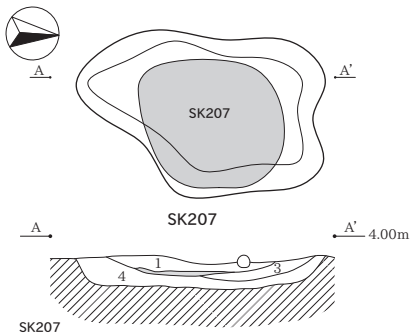

SK190
1　暗灰黄色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を5%
2　オリーブ黒色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を40%
3　オリーブ灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を3%

0　(1:40)　2m

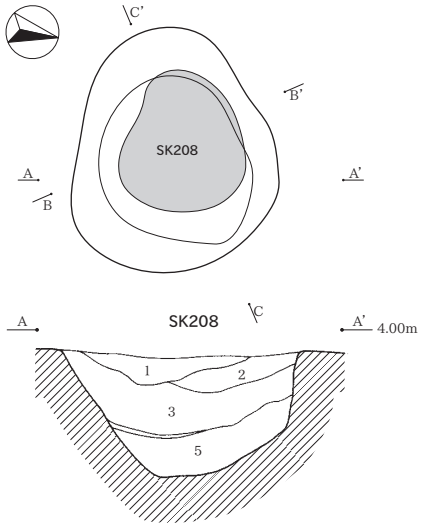
# SK197・207・208・210・215・216・234・237・240・244・246、P223・375・587・605・608（1：40）

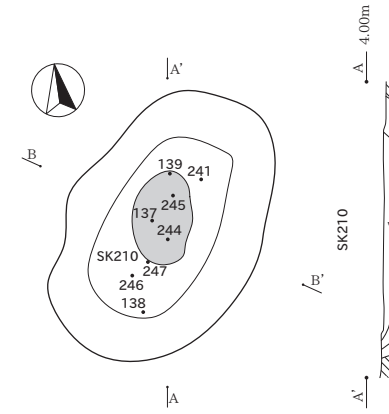



SK197
1　灰色シルト　砂質でφ1～5㎜大の炭化物を少量

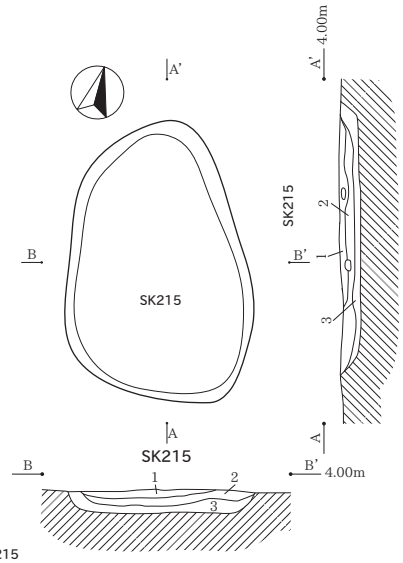



SK207
1　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%、焼土を1%
2　オリーブ黒色シルト　φ1～20㎜大の炭化物を40%
3　灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を3%
4　灰オリーブシルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を少量

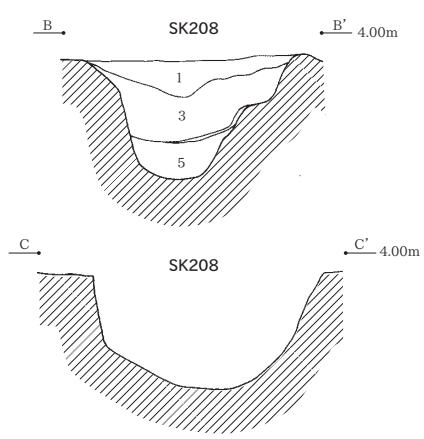


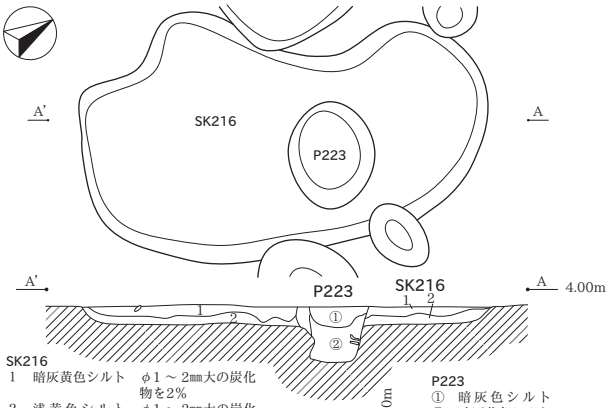

SK210
1　浅黄色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を1%
2　暗灰黄色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を5%
3　暗オリーブ色シルト　φ1～10㎜大の炭化物を30%
4　灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を1%
5　灰色シルト　4よりも色調明るく砂質も強い




SK215
1　暗オリーブ色シルト　φ1～10㎜大の炭化物を20%
2　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%
3　オリーブ灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を1%
4　灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を微量

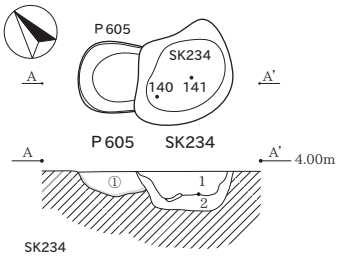



SK208
1　浅黄色シルト　粘質でφ1～2㎜大の炭化物を2%
2　灰オリーブシルト　φ1～5㎜大の炭化物を1%
3　暗灰黄色シルト　粘質でφ1～10㎜大の炭化物を5%
4　オリーブ黒色シルト　φ5～20㎜大の炭化物を40%
5　灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を微量




SK216
1　暗灰黄色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を2%
2　浅黄色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を微量

P223
①　暗灰色シルト
②　暗灰黄色シルト

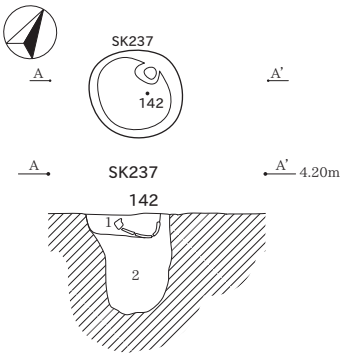


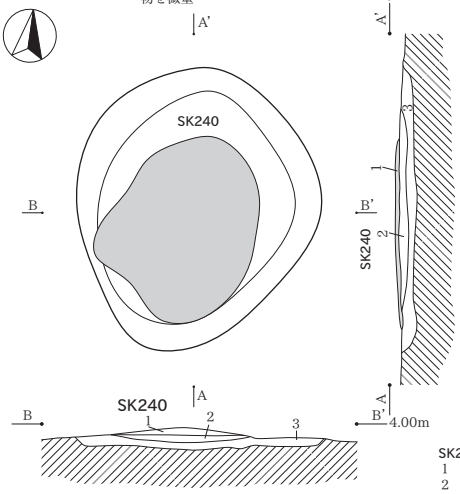

SK234
1　暗灰黄色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を3%
2　灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を少量

SK236
1　浅黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を5%
2　灰色シルト　締りあり地山塊を主体

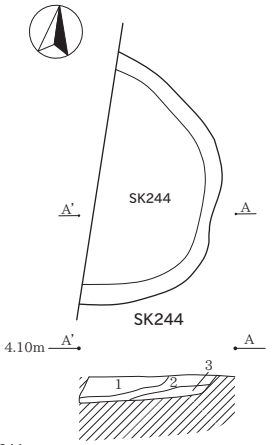
SK237
1　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を1%
2　灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を微量

P605
①　浅黄色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を1%

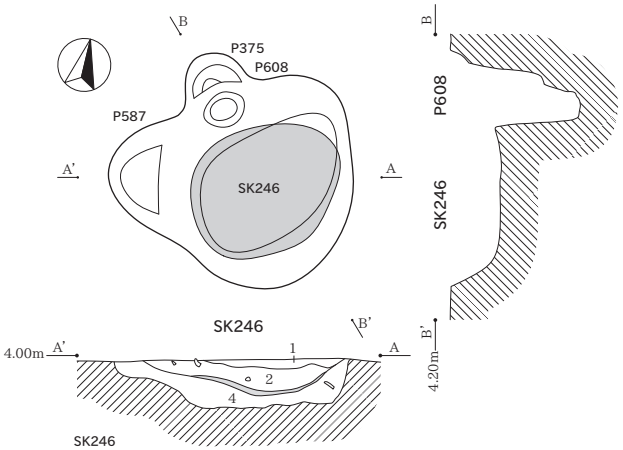



SK240
1　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を20%
2　浅黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を少量
3　灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を微量



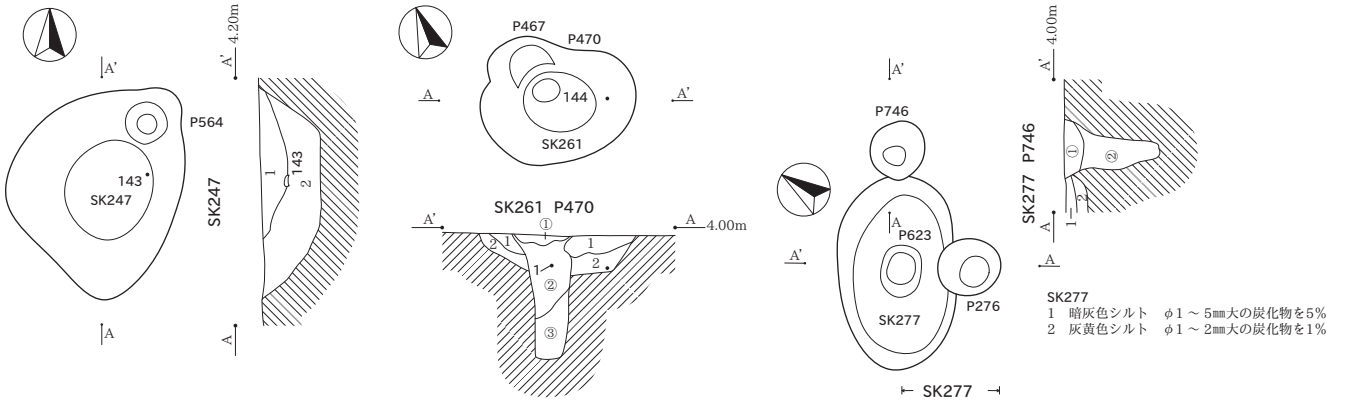

SK244
1　暗灰黄色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を20%
2　黄灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を1%
3　灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を微量



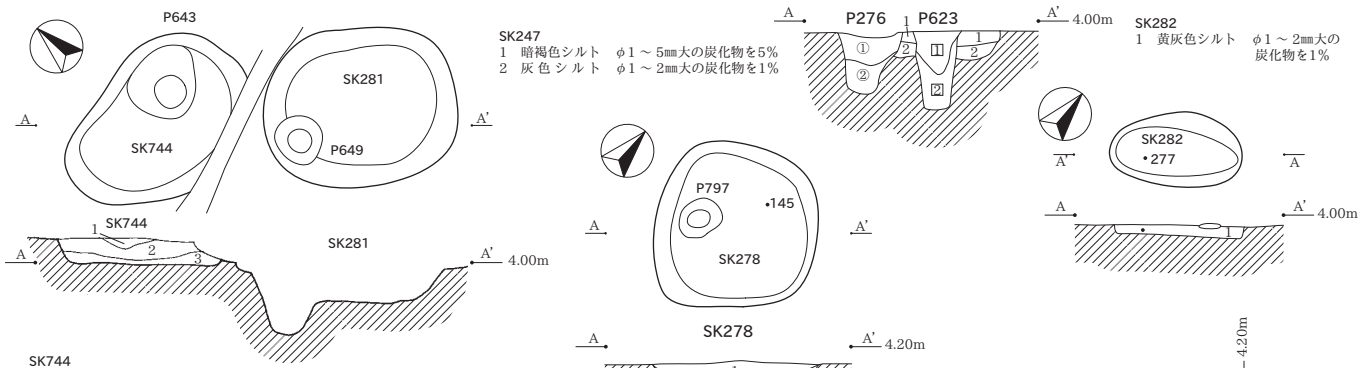

SK246
1　浅黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を1%
2　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%
3　オリーブ黒色シルト　φ1～10㎜大の炭化物を40%
4　灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を少量

0　(1：40)　2m

# SD307、SK247・261・277・278・281・282・297・306・308・309・314・717・744、P276・458・464・467・470・564・623・643・649・746・797（1：40）



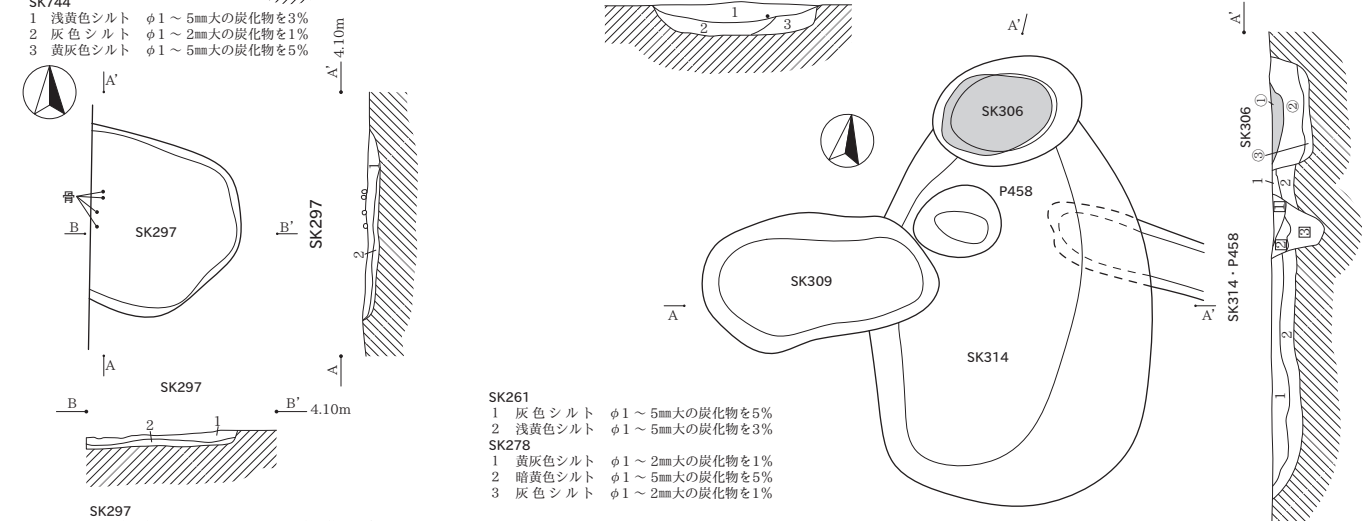

SK277
1　暗灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%
2　灰黄色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を1%




SK247
1　暗褐色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%
2　灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を1%

SK282
1　黄灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を1%

SK744
1　浅黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を3%
2　灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を1%
3　黄灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%



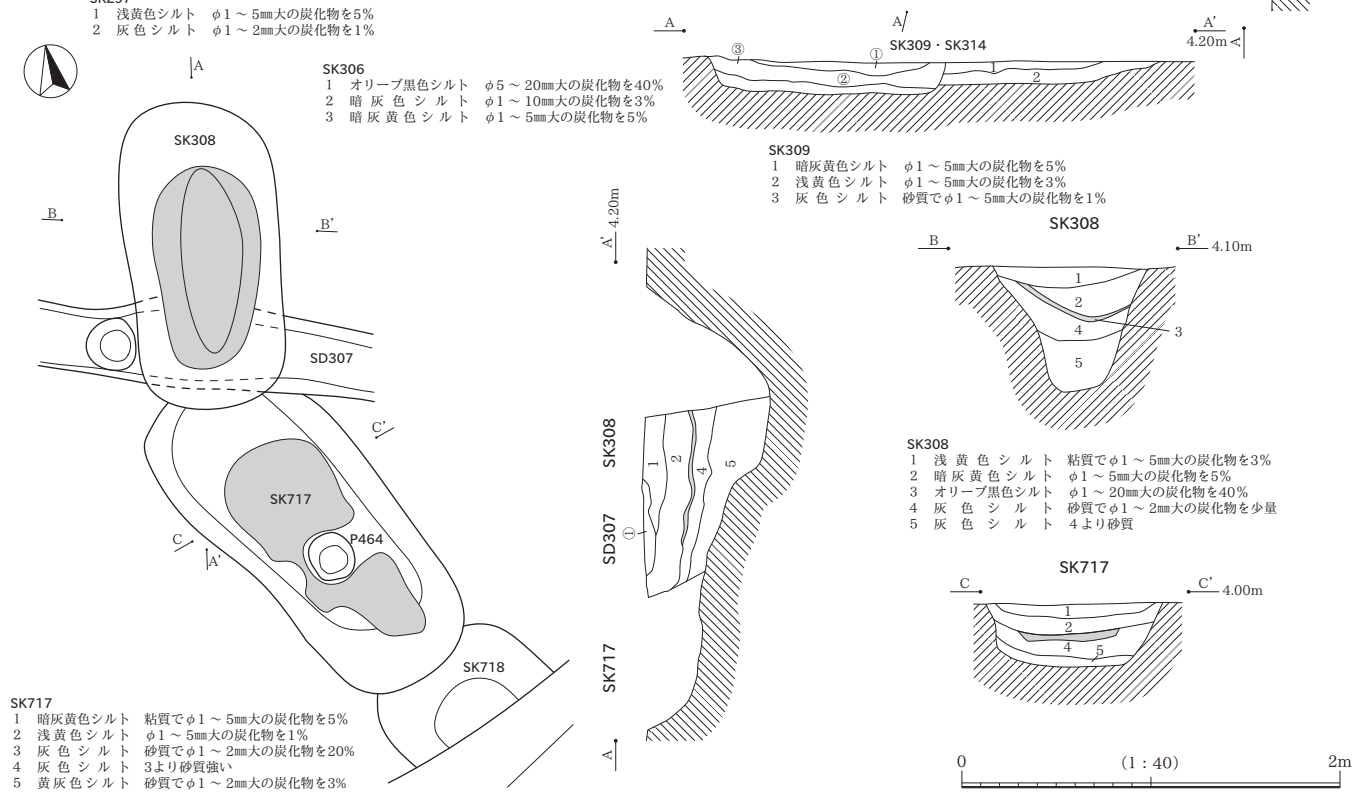

SK261
1　灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%
2　浅黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を3%

SK278
1　黄灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を1%
2　暗黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%
3　灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を1%

SK297
1　浅黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%
2　灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を1%

SK306
1　オリーブ黒色シルト　φ5～20㎜大の炭化物を40%
2　暗灰色シルト　φ1～10㎜大の炭化物を3%
3　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%

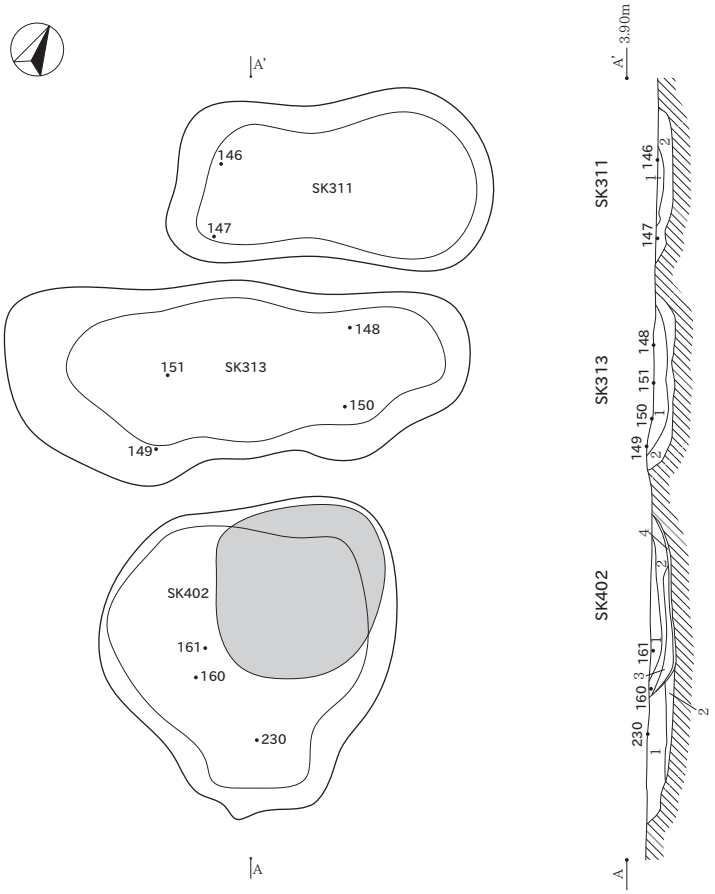
SK309
1　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%
2　浅黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を3%
3　灰色シルト　砂質でφ1～5㎜大の炭化物を1%




SK308
1　浅黄色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を3%
2　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%
3　オリーブ黒色シルト　φ1～20㎜大の炭化物を40%
4　灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を少量
5　灰色シルト　4より砂質

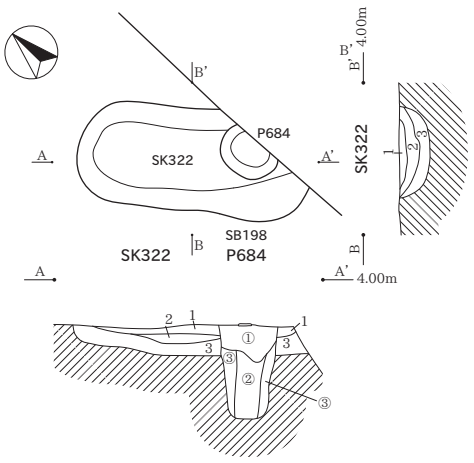
SK717
1　暗灰黄色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を5%
2　浅黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を1%
3　灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を20%
4　灰色シルト　3より砂質強い
5　黄灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を3%

# SD291・340・347、SK311・313・322・330・345・348・351・370・402、P684・728（1：40）

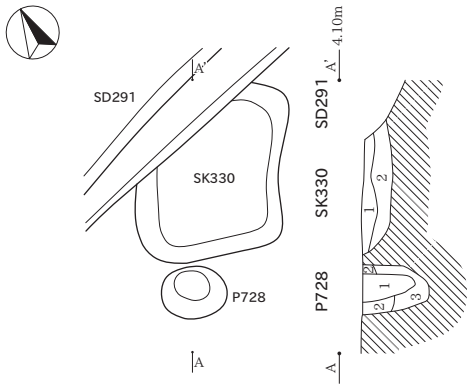



SK311
1　黄灰色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を10%
2　灰色シルト　粘質でφ1～2㎜大の炭化物を5%
SK313
1　浅黄色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を10%
2　灰色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を3%

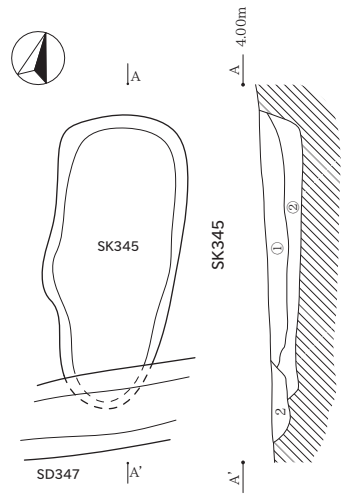
SK402
1　浅黄色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を1%
2　灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を少量
3　暗黄灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%
4　暗灰色シルト　φ3～10㎜大の炭化物を40%



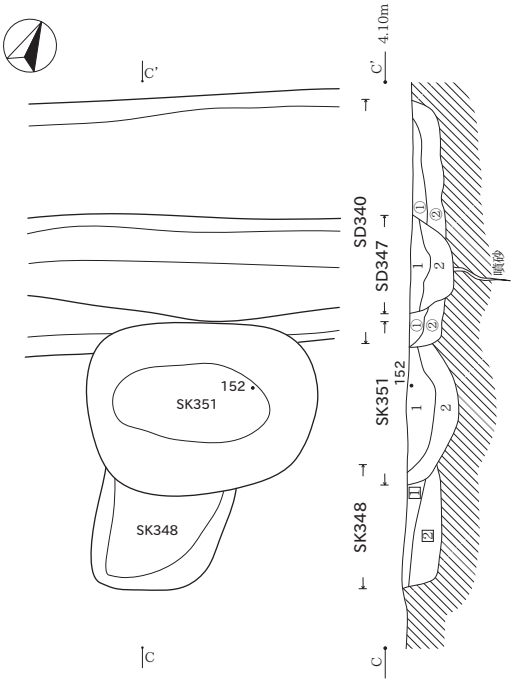

SK322
1　暗灰黄色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を5%
2　黄灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を3%
3　灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を微量
P684
①　暗灰色シルト　締りなく炭化物を2%
②　暗灰黄色シルト　柱痕で締りなく炭化物を少量
③　浅黄色シルト　締りあり地山塊を主体

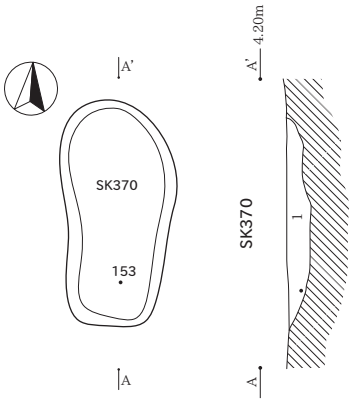



SK330
1　暗灰色シルト　粘質でφ1～10㎜大の炭化物を5%
2　灰色シルト　砂質でφ1～5㎜大の炭化物を1%
P728
1　暗灰黄色シルト　柱痕で締りなく炭化物を2%
2　褐色シルト　締りあり地山塊を主体
3　浅黄色シルト　締りあり地山塊を20%



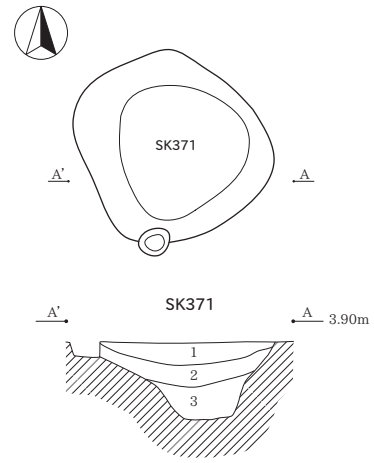

SK345
①　浅黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を1%
②　灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を3%



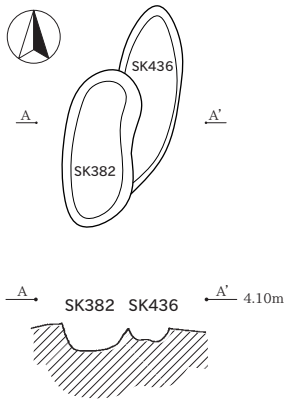



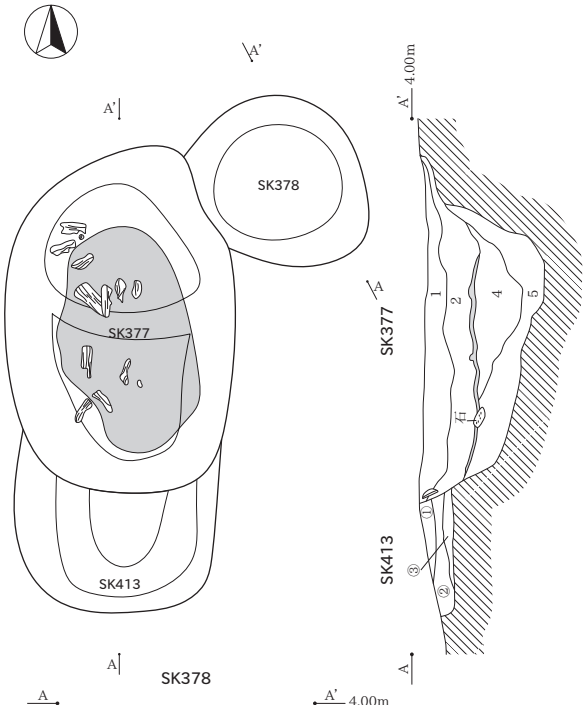

SK348
1　暗黄灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%
2　黄灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を1%
SK351
1　灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を1%
2　浅黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を少量
SK370
1　灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を1%

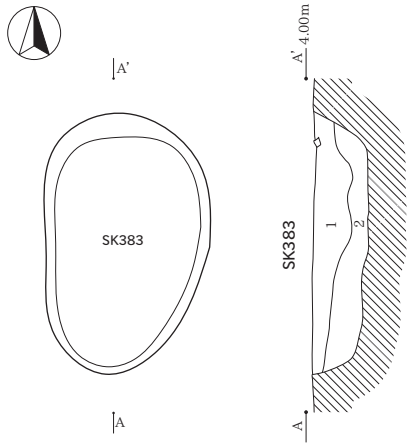
0　(1：40)　2m




SK371
1　暗灰黄色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を5%
2　浅黄色シルト　粘質でφ1～2㎜大の炭化物を1%
3　灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を微量




SK383
1　暗灰黄色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を5%
2　黄灰色シルト　砂質でφ1～5㎜大の炭化物を1%

P680
1　暗灰黄色シルト　柱痕で締りなくφ1～5㎜大の炭化物を1%
2　黄褐色シルト　締りあり地山塊を主体
3　黄灰色シルト　締りあり地山塊を30%

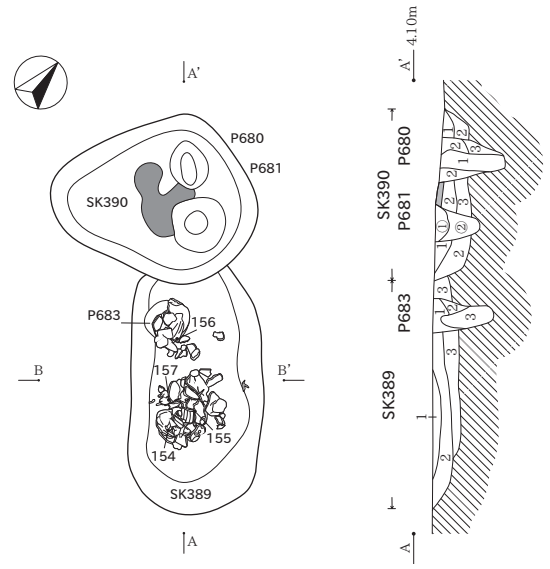
P681
①　黄褐色シルト　締りあり地山塊を20%
②　黄灰色シルト　締りあり地山塊を40%

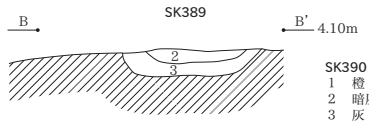
P683
1　暗灰黄色シルト　締りあり地山塊を10%
2　浅黄色シルト　締りあり地山塊を主体
3　暗灰色シルト　柱痕で締りなく炭化物を少量

SK377
1　浅黄色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を3%
2　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%
3　暗オリーブ色シルト　φ1～10㎜大の炭化物を30%
4　オリーブ灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を1%
5　灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を少量

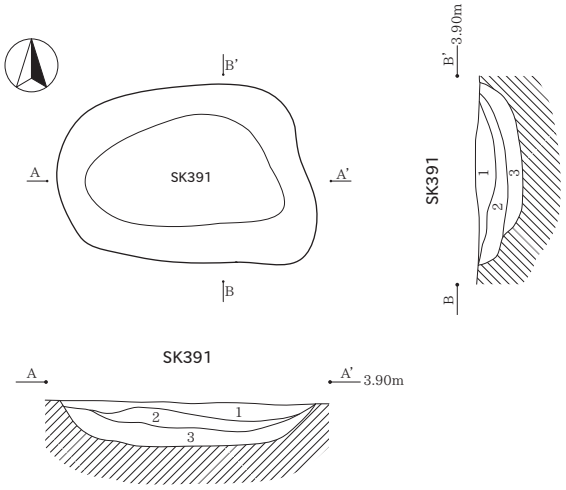
SK378
1　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を3%
2　オリーブ灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を少量
3　灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を微量

SK413
①　灰色シルト　粘質でφ1～2㎜大の炭化物を1%
②　黄灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を少量
③　浅黄灰色シルト　砂質でφ1～5㎜大の炭化物を微量



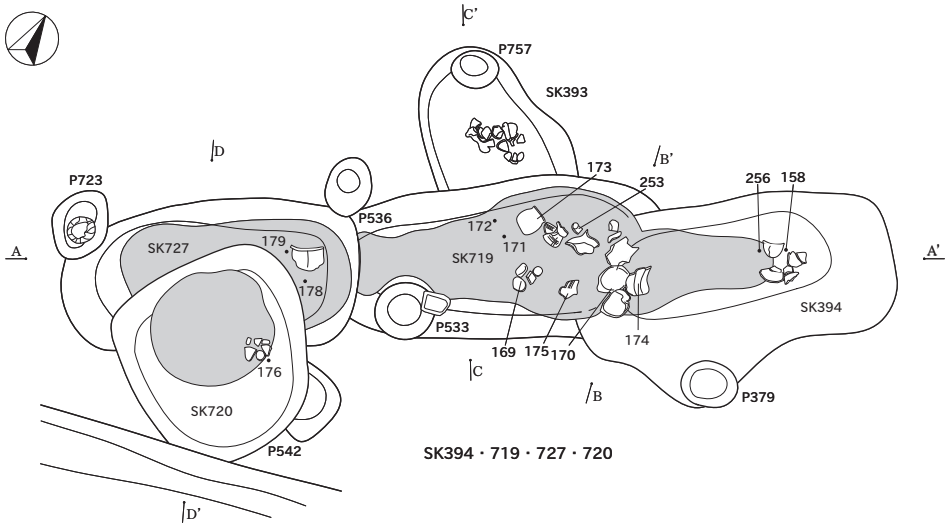

SK390
1　橙色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を5%焼土を20%
2　暗灰黄色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を1%
3　灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を少量



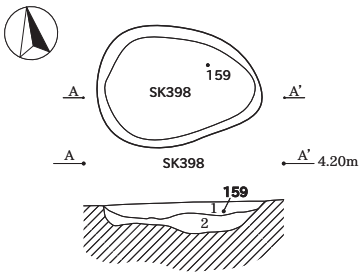

SK391
1　暗灰色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を3%
2　浅黄色シルト　砂質でφ1～5㎜大の炭化物を1%
3　灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を少量

SK389
1　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%
2　黄灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を3%、焼土を少量
3　灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を1%、土器を多く混入

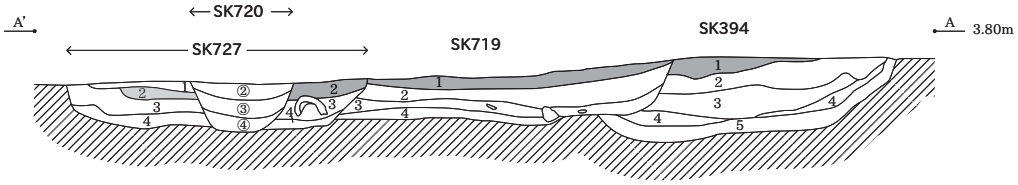
0　(1:40)　2m




SK394・719・727・720



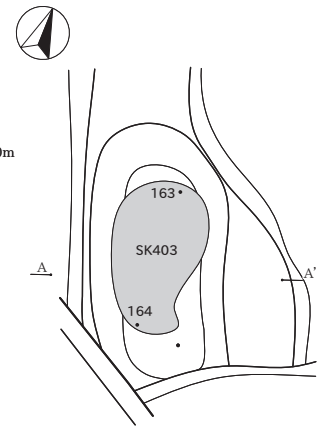

SK398
1　暗オリーブ色シルト　φ3～10㎜大の炭化物を5％
2　浅黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を3％

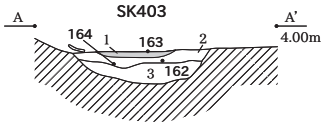



SK719
1　暗灰色シルト　φ1～8㎜大の炭化物を20%
2　暗オリーブ色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を少量
3　灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を3％
4　浅黄色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を1％

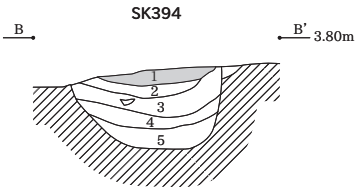
SK720
①　浅黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を20%
②　にぶい黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を3%
③　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%
④　黄灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を微量

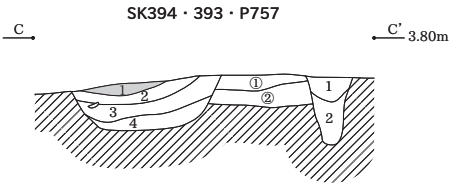
SK727
1　浅黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を3%
2　黄灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を20%
3　暗灰黄色シルト　φ1～10㎜大の炭化物を10%
4　灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を少量




SK403
1　暗灰色シルト　φ5～20㎜大の炭化物を20%
2　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を3%
3　灰黄色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を1%

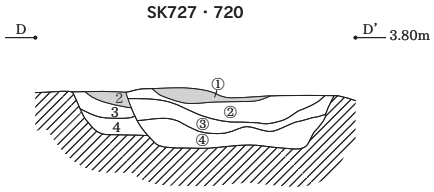


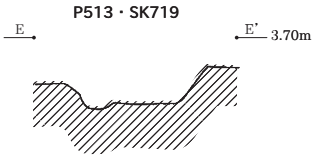



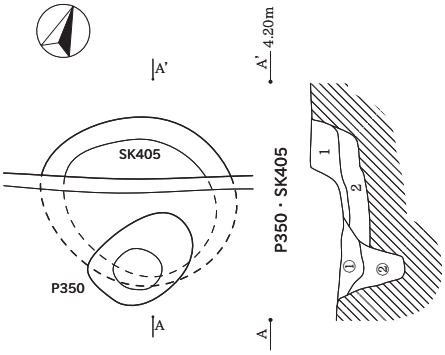

SK394
1　暗灰黄色シルト　φ3～10㎜大の炭化物を30%
2　灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5％
3　灰オリーブ色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を3％
4　浅黄色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を微量
5　灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を少量

P757
1　暗灰色シルト　締りなく炭化物を1％
2　浅黄色シルト　締りあり炭化物を少量

SK393
①　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5％
②　灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を少量



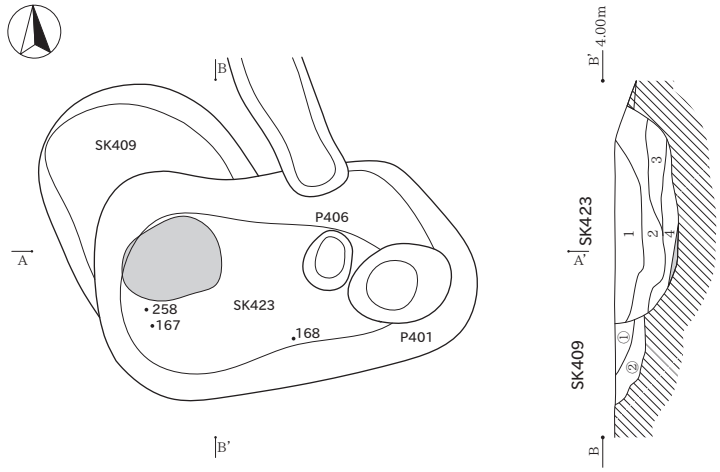



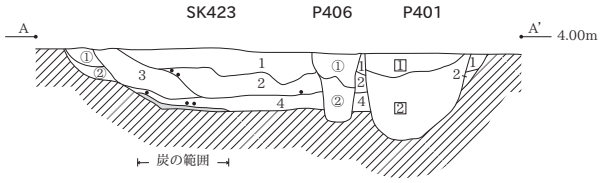




SK405
1　浅黄色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を5％
2　暗灰黄色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を少量

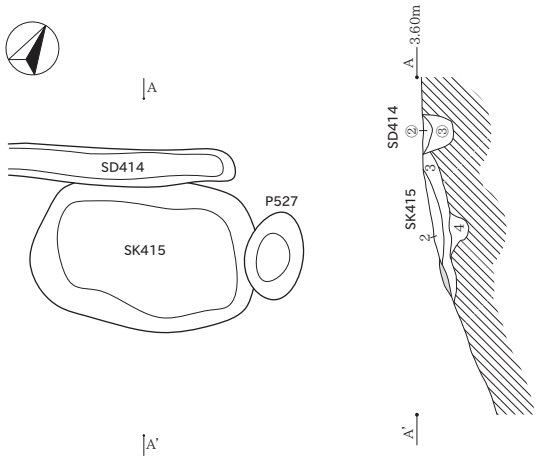
P350
①　暗灰色シルト　砂質で締りなくφ1～2㎜大の炭化物を少量
②　灰色シルト　やや粘質で締りあり

0　(1:40)　2m

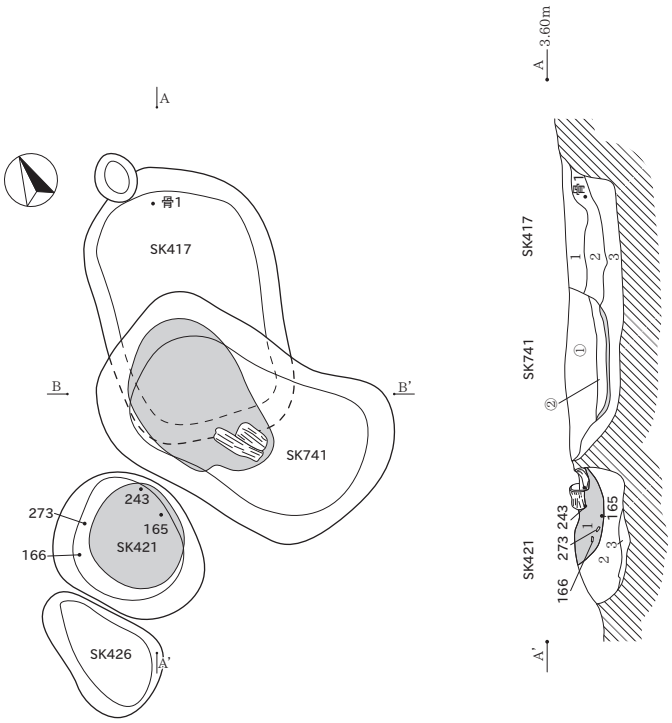


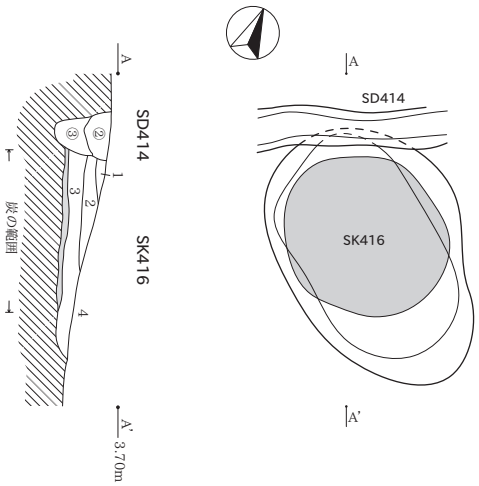




SK409
1　暗灰黄色シルト　粘質でφ1～5mm大の炭化物を1%
2　灰色シルト　砂質でφ1～2mm大の炭化物を微量
SK423
1　黄灰色シルト　粘質でφ1～2mm大の炭化物を3%
2　浅黄色シルト　φ1～5mm大の炭化物を1%
3　暗灰黄色シルト　φ1～5mm大の炭化物を少量
4　暗オリーブ褐色シルト　砂質でφ1～5mm大の炭化物を5%
5　暗灰黄色シルト　φ1～5mm大の炭化物を40%
P401
1　暗灰色シルト　やや締りありφ1～5mm大の炭化物を少量
2　浅黄色シルト　締りあり地山塊を20%
P406
①　浅黄色シルト　締りあり地山塊を主体
②　灰色シルト　締りあり地山塊を20%

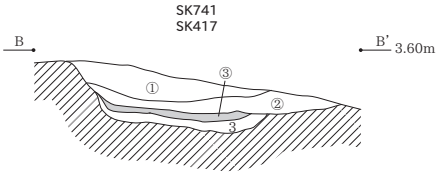



SK415
1　浅黄色シルト　φ1～5mm大の炭化物を3%
2　黄灰色シルト　φ1～5mm大の炭化物を1%
3　暗灰黄色シルト　φ1～5mm大の炭化物を5%
4　灰色シルト　砂質でφ1～2mm大の炭化物を少量



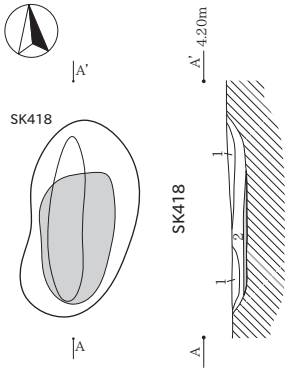

SK416
1　にぶい黄色シルト　φ1～5mm大の炭化物を5%
2　浅黄色シルト　φ1～5mm大の炭化物を3%
3　灰色シルト　φ1～5mm大の炭化物を1%
4　暗オリーブ色シルト　φ1～20mm大の炭化物を30%



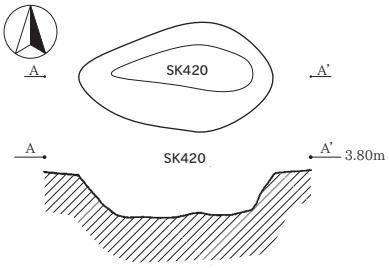

SK417
1　浅黄色シルト　φ1～2mm大の炭化物を1%
2　灰黄色シルト　φ1～5mm大の炭化物を1%
3　暗灰黄色シルト　φ1～5mm大の炭化物を3%
SK421
1　暗灰黄色シルト　φ1～5mm大の炭化物を20%
2　灰黄色シルト　φ1～5mm大の炭化物を1%
3　灰色シルト　砂質でφ1～2mm大の炭化物を微量
SK741
①　黄灰色シルト　φ1～5mm大の炭化物を3%
②　暗灰黄色シルト　φ1～5mm大の炭化物を5%
③　暗オリーブ色シルト　φ1～10mm大の炭化物を30%

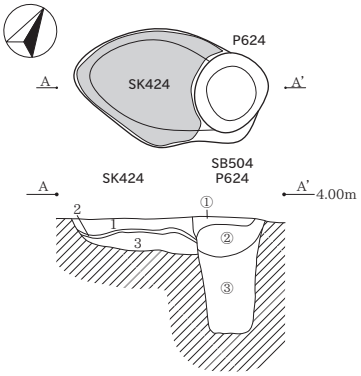
0　(1：40)　2m

# SK418・420・424・425・426・430・437・452・490・547、P521・529・624（1：40）

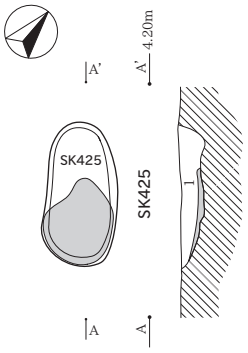



SK418
1　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を1%
2　灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を少量
3　黒灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を20%

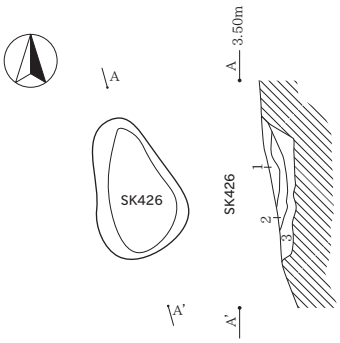


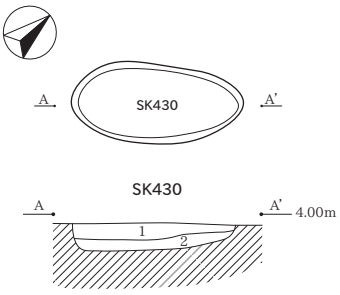

SK424
1　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%
2　オリーブ黒色シルト　φ1～20㎜大の炭化物を40%
3　灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を1%
P624
①　にぶい褐色シルト　やや締りあり炭化物を少量
②　灰黄色シルト　締りあり地山塊を10%
③　灰色シルト　締りあり地山塊を20%



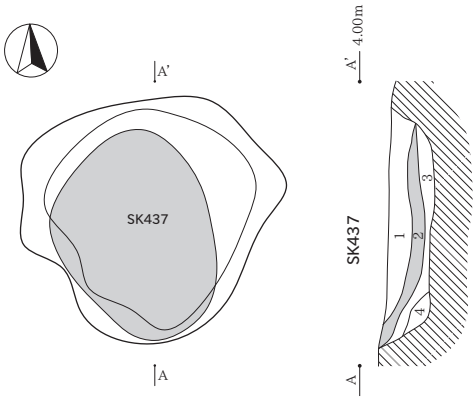

SK425
1　灰黄色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を1%
2　黒灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を20%



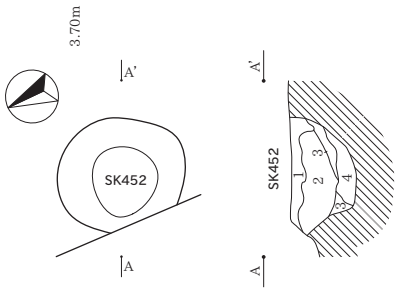

SK426
1　黄灰色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を3%
2　にぶい黄色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を1%
3　灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を微量



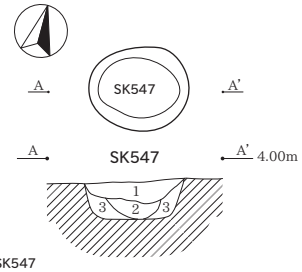

SK430
1　浅黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を1%
2　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%



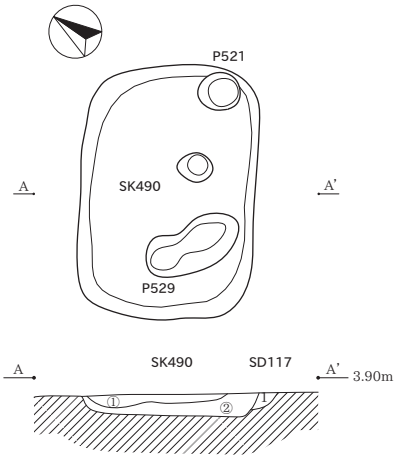

SK437
1　灰色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を5%
2　にぶい黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を20%
3　黄灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を少量
4　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%




SK452
1　オリーブ黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を3%
2　浅黄色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を1%
3　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%
4　灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を微量

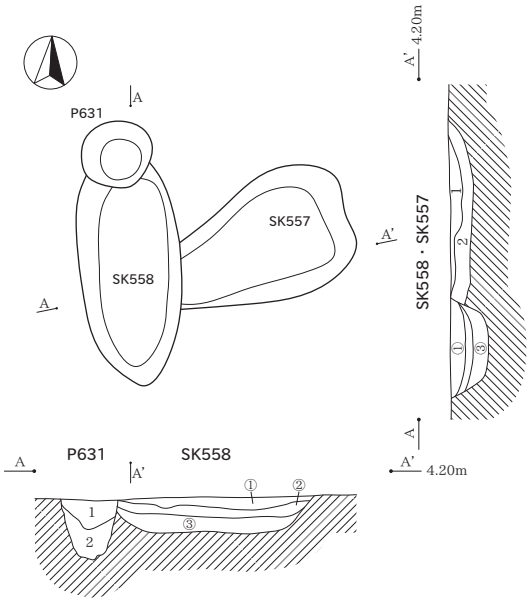


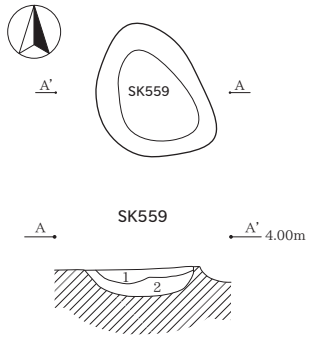

SK547
1　灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を3%
2　にぶい黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を1%
3　灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%

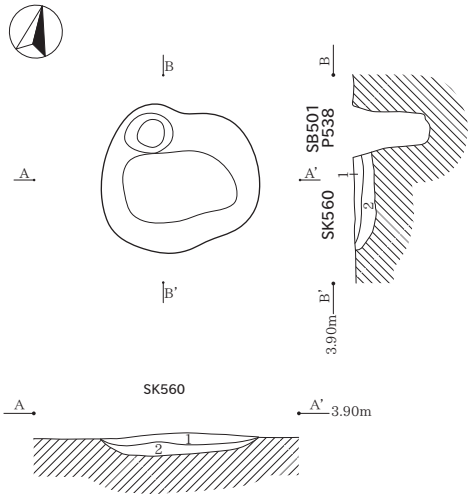



SK490
①　灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を3%
②　灰オリーブ色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を1%

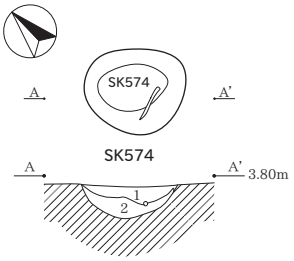
0　(1：40)　2m



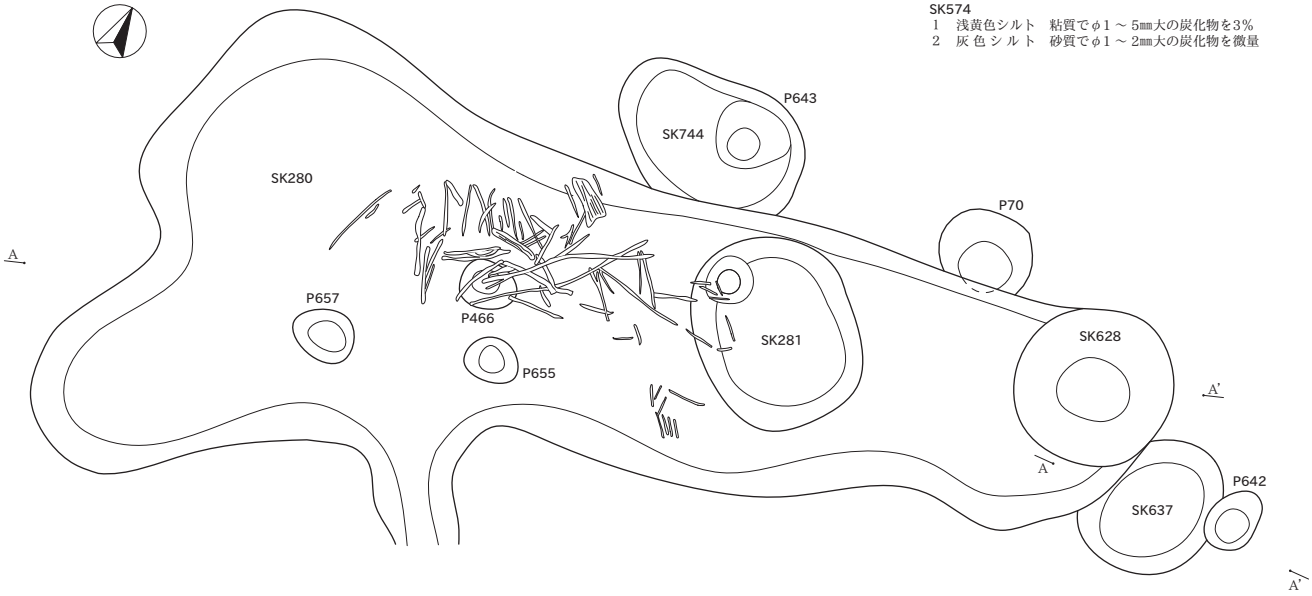



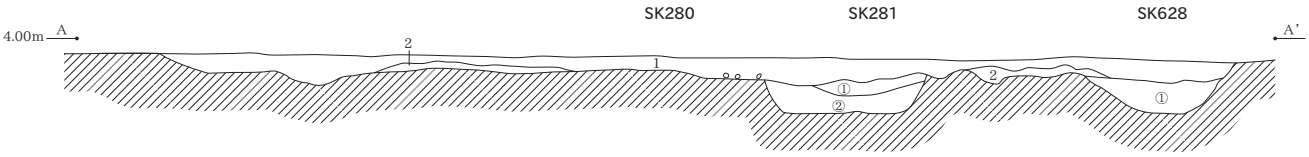



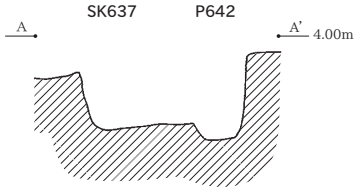

SK557
1　浅黄色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を3%
2　にぶい黄色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を微量
SK558
1　灰黄色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を3%
2　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%
3　オリーブ黄色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を少量
SK559
1　黄灰色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を1%
2　灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を少量
SK560
1　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を3%
2　黄灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を微量




SK574
1　浅黄色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を3%
2　灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を微量



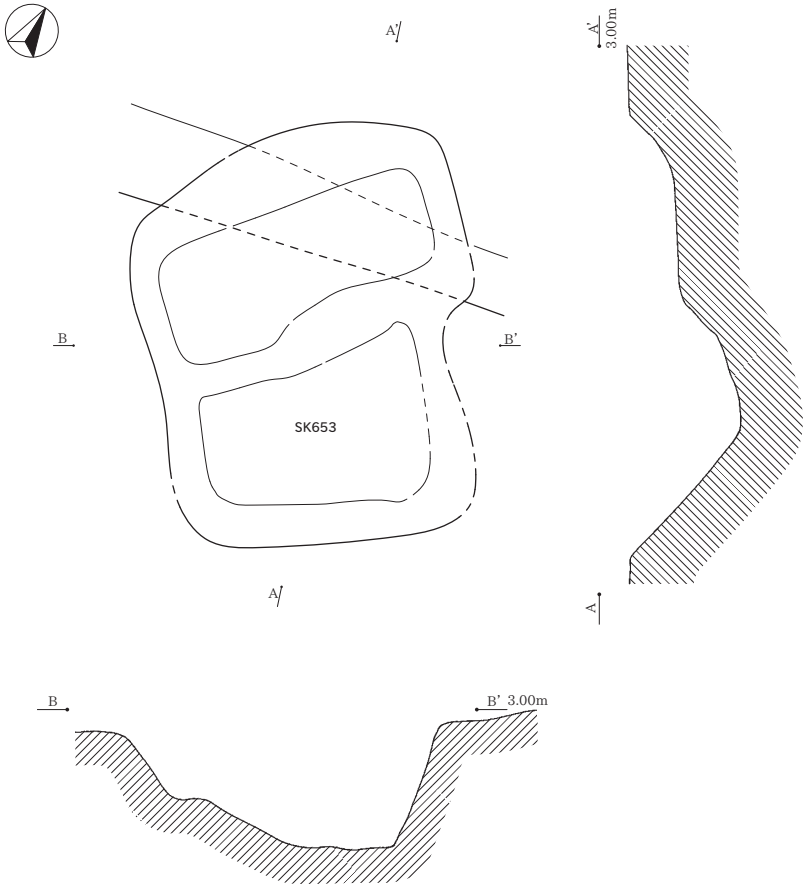



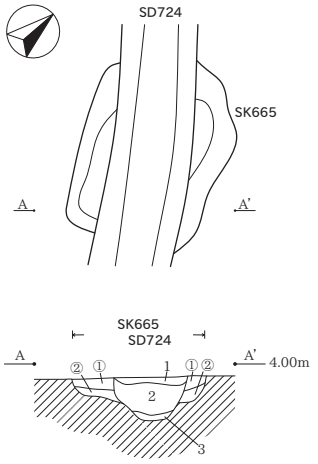




SK628
1　灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を微量
SK280
1　暗灰黄色土　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を少量
2　灰オリーブ色土　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を1%
SK281
1　暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を3%
2　灰色シルト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を少量

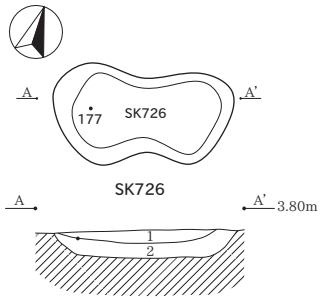
0　(1：40)　2m

# SD724、SK653・665・726・755・764・765（1：40）

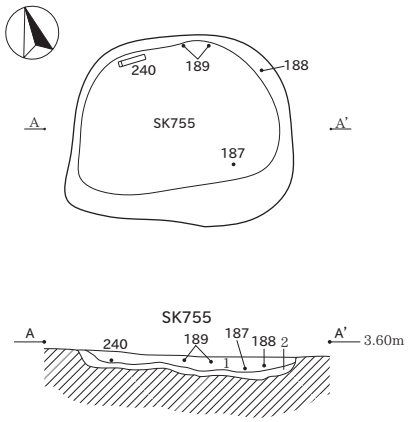


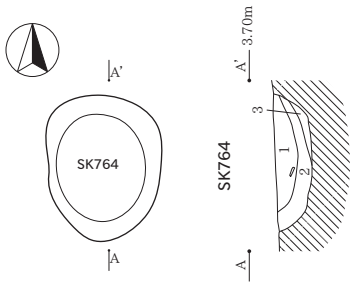

SK665
① 暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%
② 灰 色 シ ル ト　φ1～2㎜大の炭化物を微量
SD724
1　オリーブ灰色土　粘質でφ1～3㎜大の炭化物を1%
2　暗 灰 黄 色 土　φ1㎜大の炭化物を少量
3　灰　黄　色　土　φ1㎜大の炭化物を微量



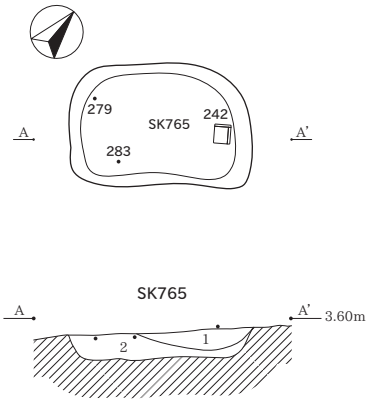

SK726
1　灰オリーブ色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を3%
2　浅 黄 色 シ ル ト　φ1～2㎜大の炭化物を1%




SK755
1　オリーブ黄色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を少量
2　にぶい黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を3%

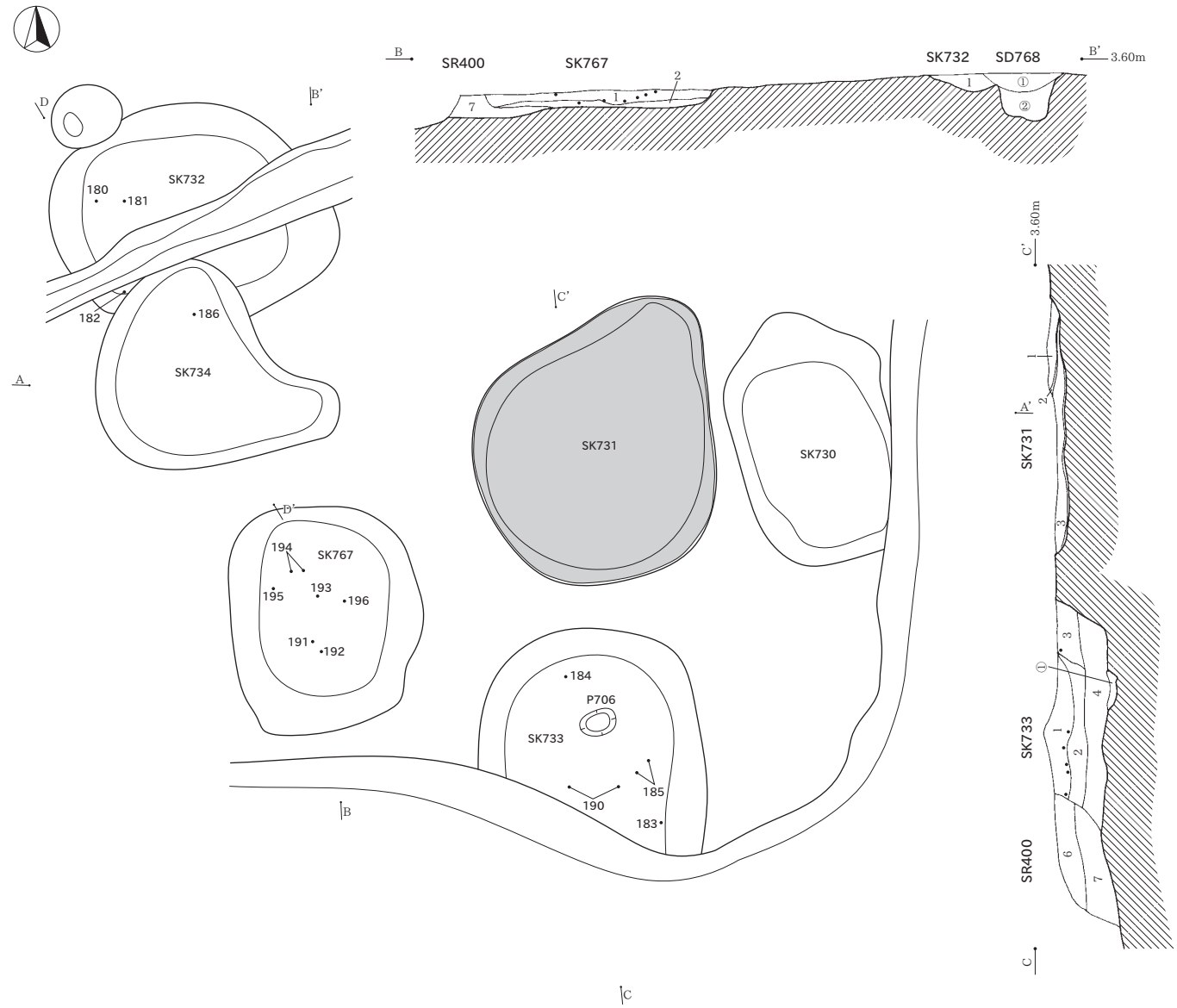


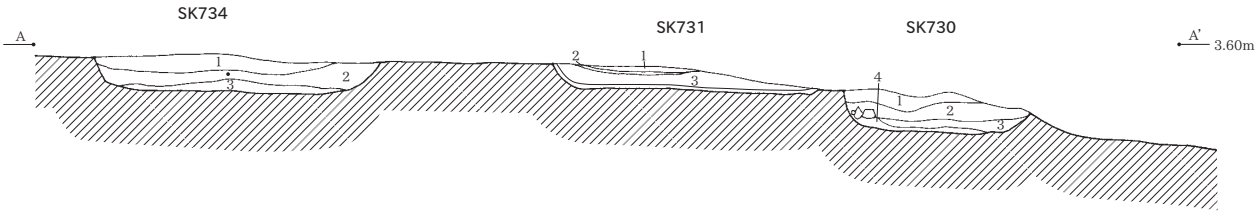

SK764
1　暗灰黄色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を5%
2　黄灰色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を3%
3　灰 色 シ ル ト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を少量

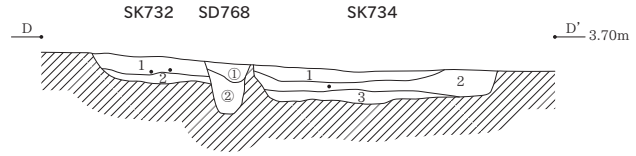



SK765
1　オリーブ黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を3%
2　黄 灰 色 シ ル ト　砂質でφ1～2㎜大の炭化物を少量

0　(1:40)　2m




SD768
① 暗灰黄色土　粘質でφ1～2㎜大の炭化物を少量
② 暗灰色土　粘質でφ1㎜大の炭化物を微量

SK730
1 浅黄色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を1%
2 灰黄色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を少量
3 暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%
4 灰色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を3%

SK731
1 暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%
2 黒褐色シルト　粘質でφ1～10㎜大の炭化物を10%
3 灰色シルト　砂質でφ1～5㎜大の炭化物を2%
4 暗灰色シルト　φ3～20㎜大の炭化物を20%

SK732
1 浅黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を1%
2 暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%

SK733
1 暗灰黄色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を5%
2 オリーブ褐色シルト　粘質でφ1～5㎜大の炭化物を3%
3 暗灰黄色シルト　粘質でφ1～10㎜大の炭化物を10%
4 暗オリーブ色シルト　粘質でφ1～10㎜大の炭化物を30%

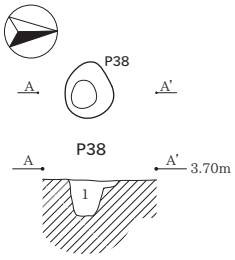
P706
① 黒褐色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%

SK734
1 暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%
2 黄灰色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を1%
3 灰黄色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を微量

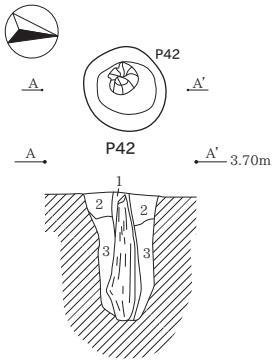
SK767
1 暗灰黄色シルト　φ1～5㎜大の炭化物を5%
2 浅黄色シルト　φ1～2㎜大の炭化物を少量

0　(1：40)　2m

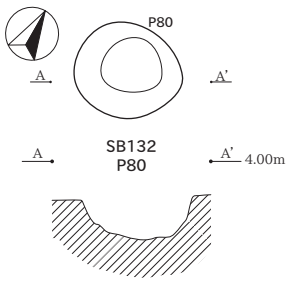
P38・42・80・90・92・93・96・98・105・107・120・125・134・142・143・146・685（1：40）

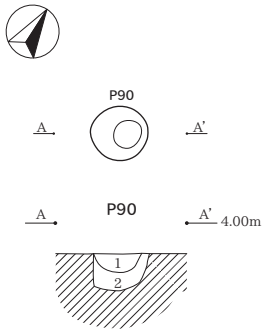



P38
1　暗灰黄色シルト　締りあり地山塊を 20%

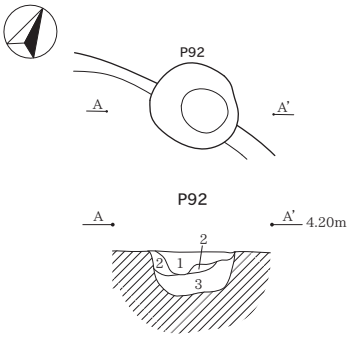



P42
1　暗オリーブ色シルト　柱根残存、柱痕で締りなく炭化物を 5%
2　灰 黄 色 シ ル ト　締りあり地山塊を主体
3　灰 色 シ ル ト　締りあり地山塊を 40%

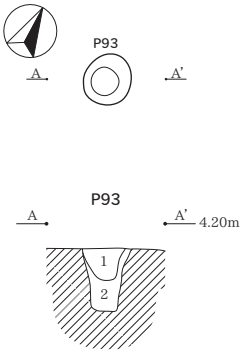


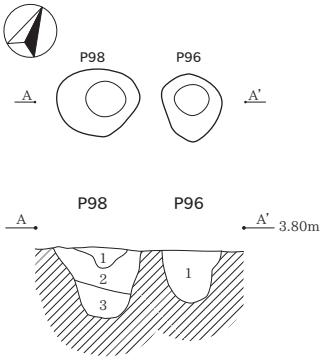

P90
1　灰黄色シルト　締りあり地山塊を主体
2　黄灰色シルト　締りあり地山塊を 30%



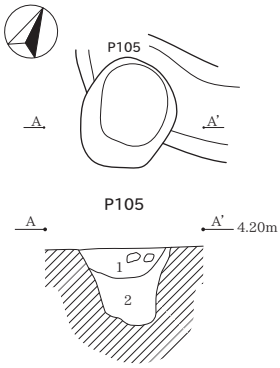

P92
1　暗灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を 10%
2　浅黄色シルト　締りあり地山塊を主体
3　灰黄色シルト　締りあり地山塊を 40%



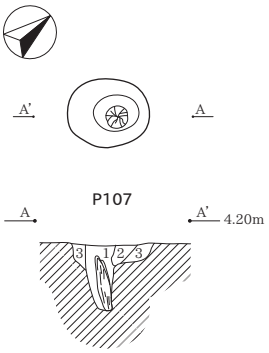

P93
1　暗灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を 5%
2　灰 色 シ ル ト　締りあり地山塊を 30%



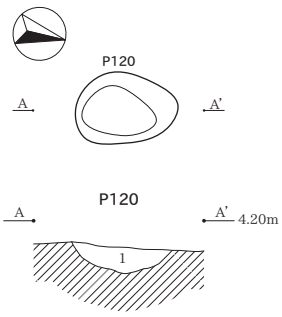

P96
1　灰 黄 色 シ ル ト　締りあり地山塊を 30%
P98
1　暗灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を 5%
2　灰 色 シ ル ト　締りあり地山塊を主体
3　灰黄色シルト　締りあり地山塊を 20%



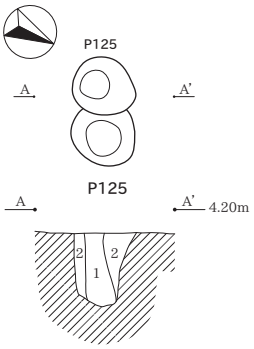

P105
1　暗灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を 5%
2　浅黄色シルト　締りあり地山塊を 40%



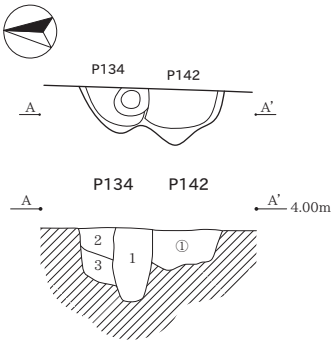

P107
1　暗オリーブ色シルト　柱根残存、柱痕で締りなく炭化物を少量
2　灰 黄 色 シ ル ト　締りあり地山塊を主体
3　浅 黄 色 シ ル ト　締りあり地山塊を 40%



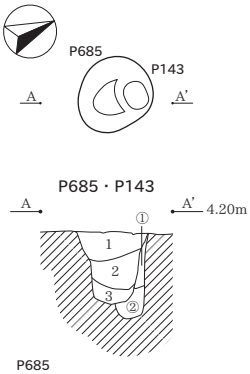

P120
1　暗灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を 5%



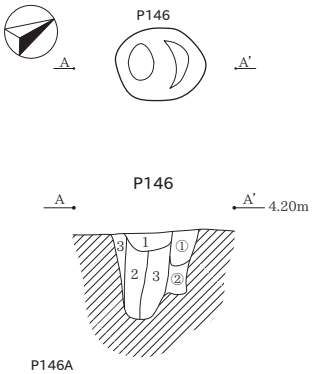

P125
1　暗灰黄色シルト　柱痕で締りなく炭化物を 5%
2　灰 色 シ ル ト　締りあり地山塊を主体




P142
①　黄灰色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を 5%
P143
①　暗灰黄色シルト　締りあり地山塊を 20%
②　褐灰色シルト　締りあり地山塊を 30%

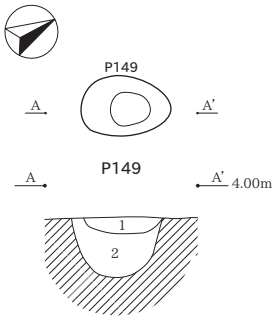



P685
1　灰黄色シルト　締りあり地山塊を主体
2　浅黄色シルト　締りあり地山塊を 30%
3　灰 色 シ ル ト　締りあり地山塊を 40%
P134
1　暗灰黄色シルト　柱痕で締りなく炭化物を 5%
2　灰黄色シルト　締りあり地山塊を主体
3　灰 色 シ ル ト　締りあり地山塊を 40%

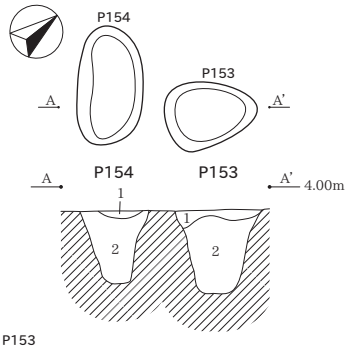



P146A
1　暗灰黄色シルト　柱痕で締りなく炭化物を少量
2　褐灰色シルト　柱痕で締りなく炭化物を 5%
3　黄灰色シルト　締りあり地山塊を 30%
P146B
①　灰 色 シ ル ト　締りあり地山塊を 40%
②　灰黄色シルト　締りあり地山塊を 30%

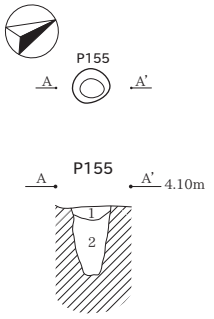
0　(1:40)　2m



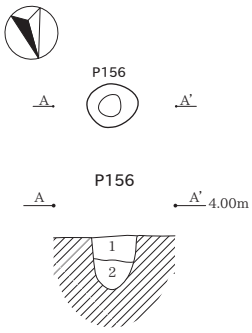

P149
1　浅黄色シルト　締りあり地山塊を主体
2　灰色シルト　締りあり地山塊を30%



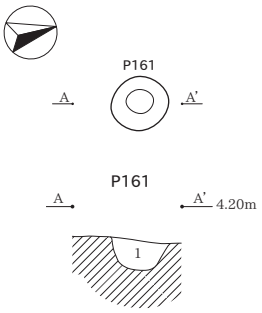

P153
1　暗灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を5%
2　浅黄色シルト　締りあり地山塊を40%
P154
1　灰褐色シルト　締りあり地山塊を20%
2　灰黄色シルト　締りあり地山塊を30%



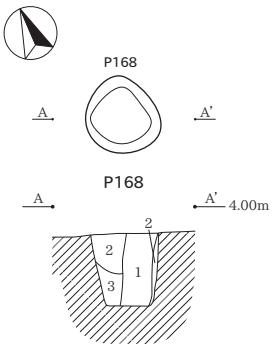

P155
1　浅黄色シルト　締りあり地山塊を20%
2　灰色シルト　締りあり地山塊を40%



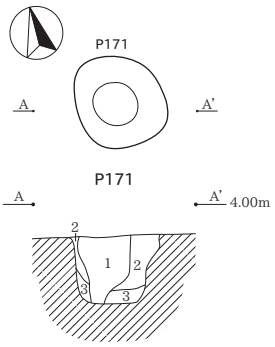

P156
1　浅黄色シルト　締りあり地山塊を主体
2　灰黄色シルト　締りあり地山塊を40%



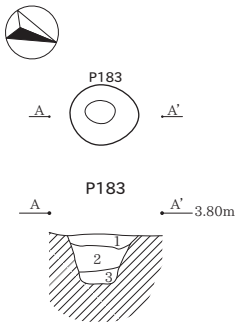

P161
1　浅黄色シルト　締りあり地山塊を40%



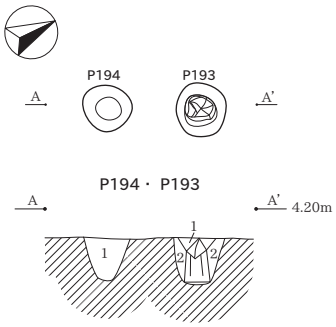

P168
1　暗灰黄色シルト　柱痕で締りなく炭化物を少量
2　浅黄色シルト　締りあり地山塊を30%
3　灰黄色シルト　締りあり地山塊を40%



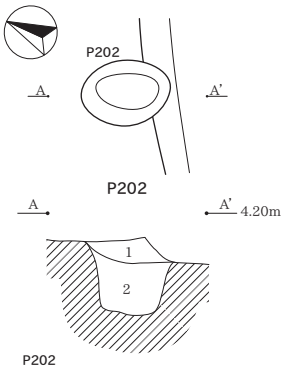

P171
1　暗灰黄色シルト　柱痕で締りなく炭化物を5%
2　灰色シルト　締りあり地山塊を主体
3　灰黄色シルト　締りあり地山塊を20%40%



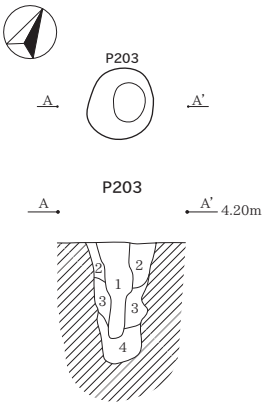

P183
1　浅黄色シルト　締りあり地山塊を20%
2　灰色シルト　締りあり地山塊を主体
3　黄灰色シルト　締りあり地山塊を40%



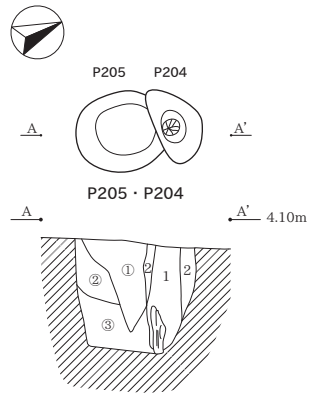

P193
1　暗灰黄色シルト　柱根残存、柱痕で締りなく炭化物を5%
2　灰色シルト　締りあり地山塊を40%
P194
1　浅黄色シルト　締りあり地山塊を20%



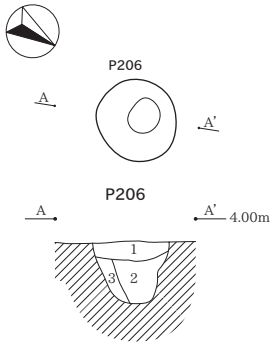

P202
1　浅黄色シルト　締りあり地山塊を40%
2　暗灰黄色シルト　締りあり地山塊を20%



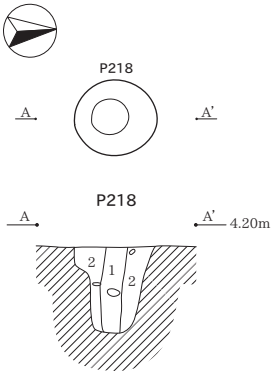

P203
1　オリーブ灰色シルト　柱痕で締りなく炭化物を5%
2　灰色シルト　締りあり地山塊を主体
3　灰黄色シルト　締りあり地山塊を40%
4　浅黄色シルト　締りあり地山塊を30%



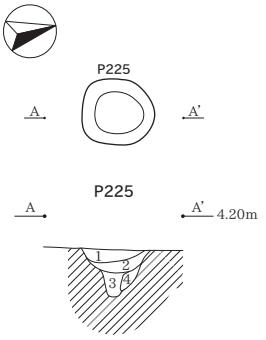

P204
1　暗オリーブ色シルト　柱根残存、柱痕で締りなく炭化物を5%
2　浅黄色シルト　締りあり地山塊を40%
P205
①　暗灰黄色シルト　柱痕で締りなく炭化物を5%
②　黄灰色シルト　締りあり地山塊を主体
③　灰色シルト　締りあり地山塊を40%




P206
1　暗灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を55%
2　灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を10%
3　灰色シルト　締りあり地山塊を40%



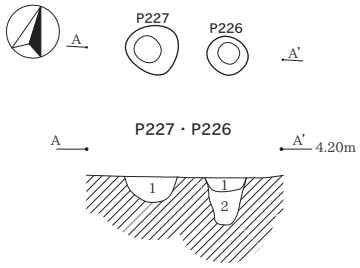

P218
1　暗オリーブ色シルト　柱痕で締りなく炭化物を少量
2　浅黄色シルト　締りあり地山塊を主体



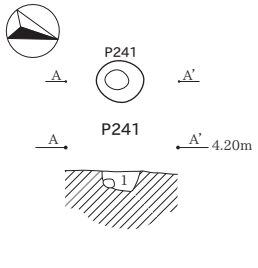

P225
1　灰色シルト　締りあり地山塊を20%
2　浅黄色シルト　締りあり地山塊を40%
3　暗灰黄色シルト　柱痕で締りなく炭化物を少量
4　灰黄色シルト　締りあり地山塊を30%

0　(1:40)　2m

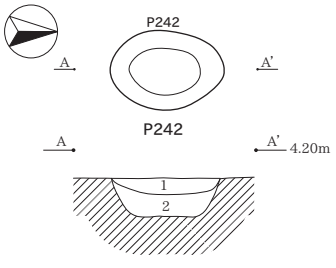
# 図面図版 36　P226・227・241・242・252・253・254・266・275・279・295・296・304・312・316・320・323・325・335・407・610（1：40）



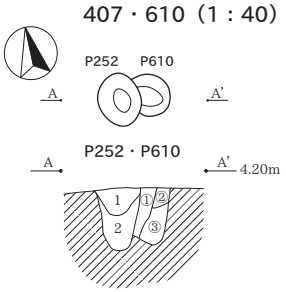

P226
1　暗灰黄色シルト　柱痕で締りなく炭化物を少量
2　灰色シルト　締りあり地山塊を40%
3　浅黄色シルト　締りあり地山塊を20%
P227
1　浅黄灰色シルト　締りあり地山塊を20%



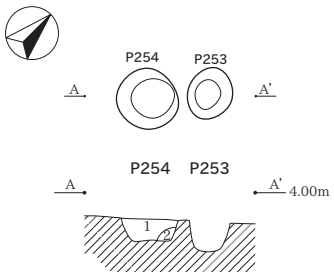

P241
1　灰色シルト　締りあり地山塊を10%



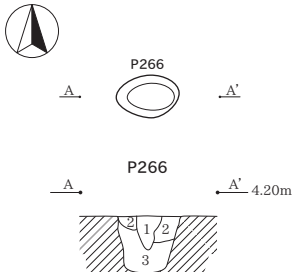

P242
1　暗灰色シルト　締りなく炭化物を少量
2　灰色シルト　締りなく炭化物を微量



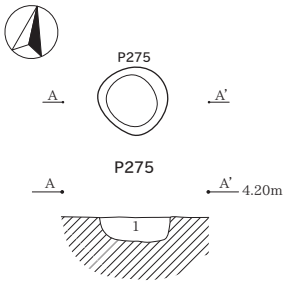

P252
1　暗灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を10%
2　浅黄色シルト　締りあり地山塊を主体
P610
①　暗オリーブ色シルト　柱痕で締りなく炭化物を少量
②　浅黄色シルト　締りあり地山塊を主体
③　灰色シルト　締りあり地山塊を40%



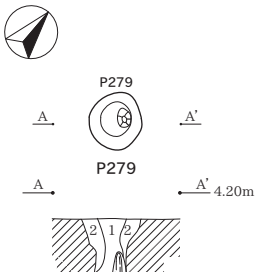

P254
1　灰色シルト　締りあり炭化物を少量
2　浅黄色シルト　締りあり地山塊を主体



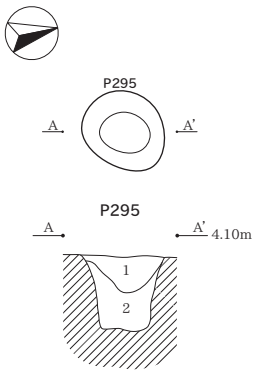

P266
1　暗灰色シルト　締りなく炭化物を2%
2　灰色シルト　締りあり地山塊を主体
3　浅黄色シルト　締りあり地山塊を20%



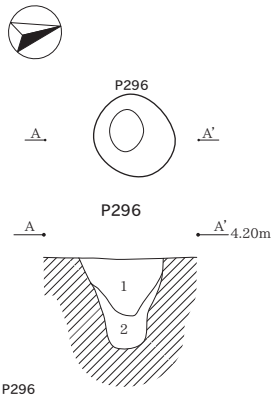

P275
1　灰黄色シルト　締りあり地山塊を20%



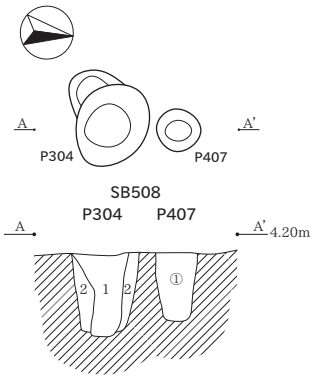

P279
1　灰オリーブ色シルト　柱根残存、柱痕で締りなく炭化物を少量
2　浅黄色シルト　締りあり地山塊を主体



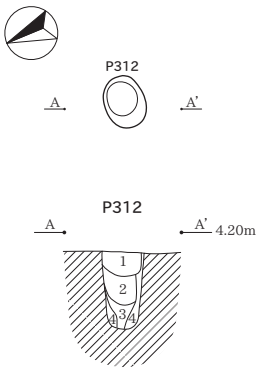

P295
1　暗灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を10%
2　浅黄色シルト　締りあり地山塊を30%



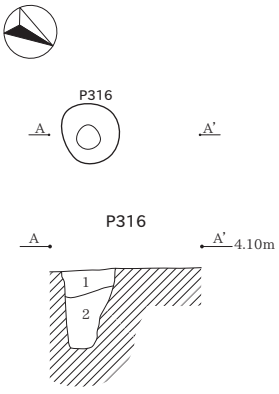

P296
1　黄灰色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を5%
2　灰色シルト　締りあり地山塊を40%



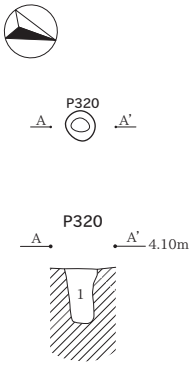

P304
1　黄褐色シルト　柱痕で締りなく炭化物を少量
2　黄灰色シルト　締りあり地山塊を40%
P407
1　暗灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を10%



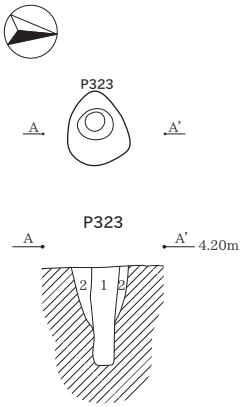

P312
1　灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を5%
2　暗灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を10%
3　灰オリーブ色シルト　柱痕で締りなく炭化物を5%
4　灰色シルト　締りあり地山塊を主体



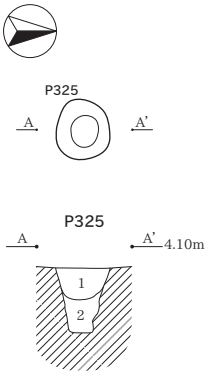

P316
1　浅黄色シルト　締りあり地山塊を主体
2　灰黄色シルト　締りあり地山塊を40%



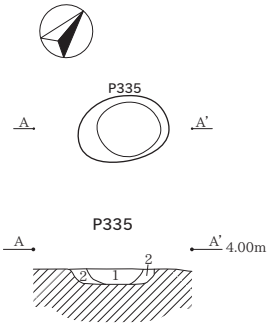

P320
1　暗灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を10%




P323
1　暗オリーブ色シルト　柱痕で締りなく炭化物を少量
2　浅黄色シルト　締りあり地山塊を主体

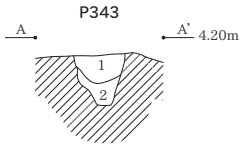



P325
1　浅黄色シルト　締りあり地山塊を30%
2　灰色シルト　締りあり地山塊を40%

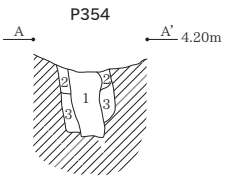



P335
1　暗灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を5%
2　浅黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を10%

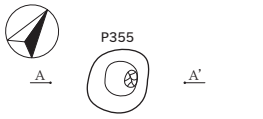
0　(1：40)　2m

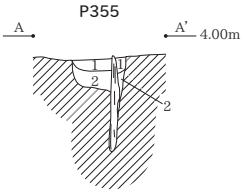



P343
1　黄灰色シルト　締りなく炭化物を少量
2　浅黄色シルト　締りあり地山塊を 20%

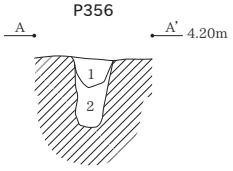



P354
1　暗灰色シルト　締りなく炭化物を少量
2　灰色シルト　締りあり地山塊を 30%
3　浅黄色シルト　締りあり地山塊を 10%

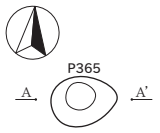


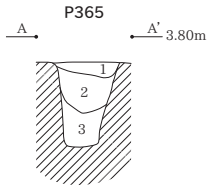




P355
1　浅黄色シルト　締りあり地山塊を 30%
2　灰色シルト　締りあり地山塊を 40%

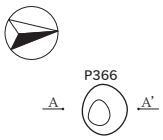


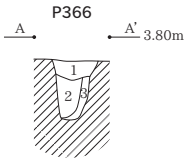

P356
1　暗灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を 10%
2　灰黄色シルト　締りあり地山塊を 30%



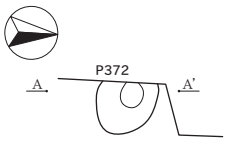



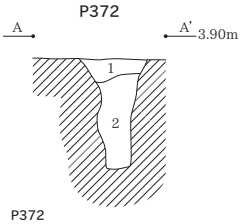

P365
1　浅黄色シルト　締りあり地山塊を 20%
2　灰黄色シルト　締りあり地山塊を 30%
3　黄灰色シルト　締りあり地山塊を 40%



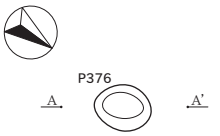



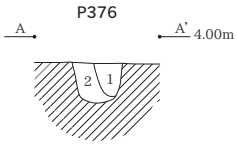

P366
1　暗灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を 10%
2　暗オリーブ色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を 5%
3　浅黄色シルト　締りあり地山塊を主体



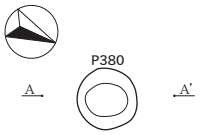



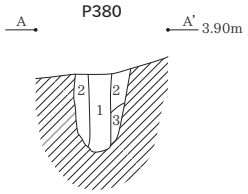

P372
1　浅黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を 5%
2　暗灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を 10%



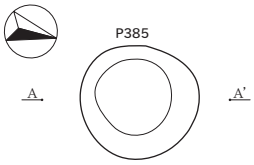



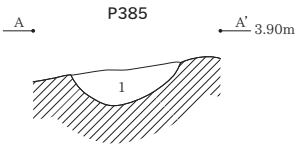

P376
1　暗灰黄色シルト　柱痕で締りなく炭化物を少量
2　灰黄色シルト　締りあり地山塊を 40%



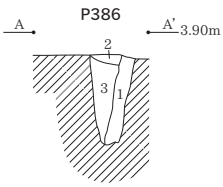




P380
1　灰オリーブ色シルト　柱痕で締りなく炭化物を少量
2　浅黄色シルト　締りあり地山塊を主体
3　灰黄色シルト　締りあり地山塊を 40%

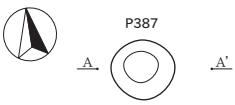


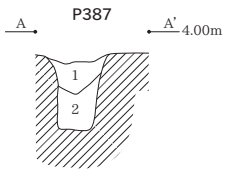




P385
1　暗灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を 10%

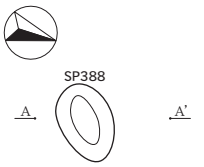


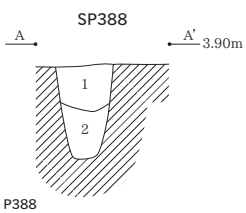

P386
1　暗灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を 5%
2　浅黄色シルト　締りあり地山塊を 30%
3　黄灰色シルト　締りあり地山塊を 40%



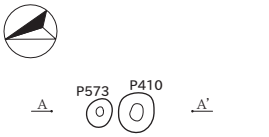



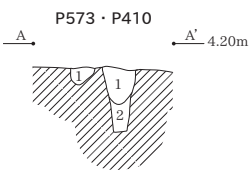

P387
1　浅黄色シルト　締りあり地山塊を 20%
2　灰色シルト　締りあり地山塊を 30%



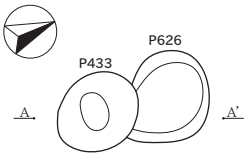

P388
1　浅黄色シルト　締りあり地山塊を 30%
2　黄灰色シルト　締りあり地山塊を 40%

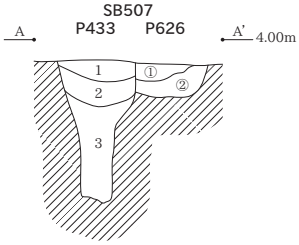



P410
1　暗灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を 10%
2　浅黄色シルト　締りあり地山塊を 20%

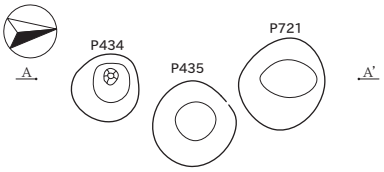
P573
1　浅黄色シルト　締りあり地山塊を 20%

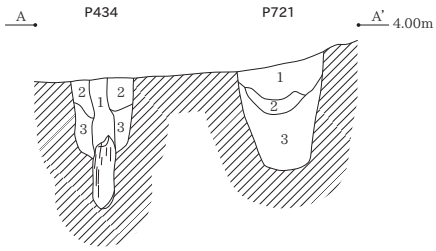



P433
1　浅黄色シルト　締りあり地山塊を 20%
2　灰黄色シルト　締りあり地山塊を 30%
3　暗灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を 10%

P626
①　灰オリーブ色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を 5%
②　暗灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を 10%

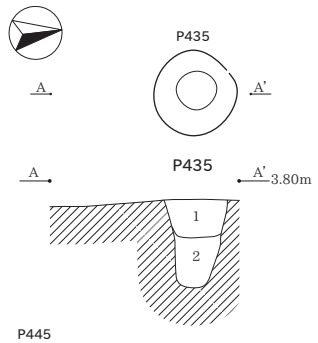


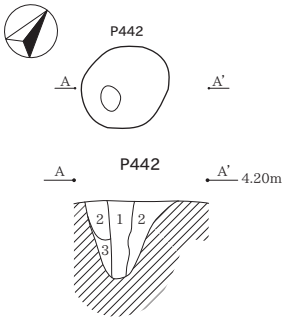

P434
1　暗オリーブ色シルト　柱根残存、締りなく炭化物を少量
2　浅黄色シルト　締りあり地山塊を主体
3　灰色シルト　締りあり地山塊を 40%

P721
1　浅黄色シルト　締りあり地山塊を 30%
2　灰色シルト　締りあり地山塊を主体
3　灰黄色シルト　締りあり地山塊を 40%

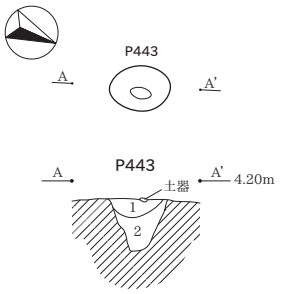
# 図面図版 38　P435・442・443・473・474・476・525・562・629・630・650・725・735・736・738・743・746・750（1：40）



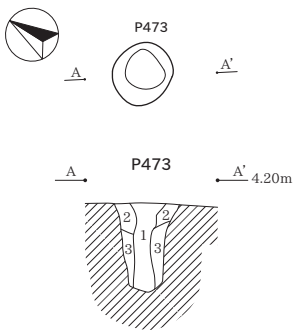

P445
1　浅黄色シルト　締りあり炭化物を少量
2　暗灰色シルト　締りあり炭化物を微量



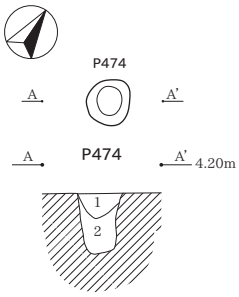

P442
1　暗オリーブ色シルト　締りなく炭化物を少量
2　浅黄色シルト　締りあり地山塊を主体
3　灰色シルト　締りあり地山塊を 20%



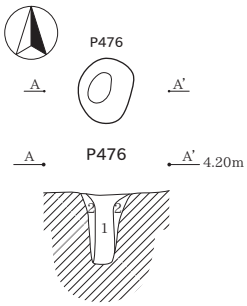

P443
1　暗灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を 10%
2　灰黄色シルト　締りあり地山塊を 40%



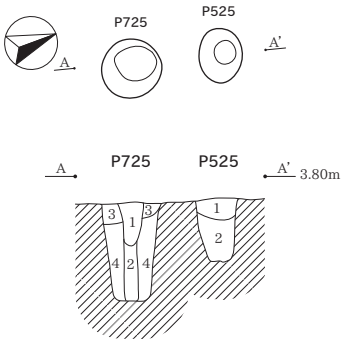

P473
1　暗オリーブ色シルト　柱痕で締りなく炭化物を少量
2　浅黄色シルト　締りあり地山塊を主体
3　黄灰色シルト　締りあり地山塊を 40%




P474
1　暗灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を 5%
2　浅黄色シルト　締りあり地山塊を主体

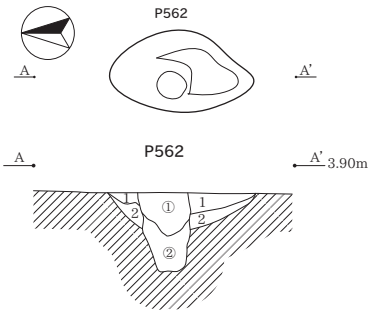



P476
1　灰黄褐色シルト　締りなく炭化物を少量
2　灰色シルト　締りあり地山塊を主体



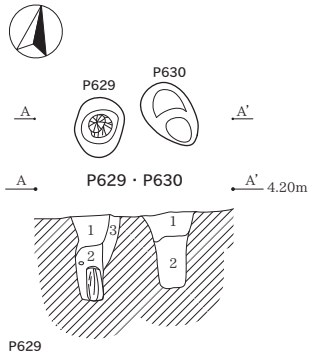

P525
1　浅黄色シルト　締りあり地山塊を 30%
2　黄灰色シルト　締りあり地山塊を 40%

P725
1　浅黄色シルト　締りなく炭化物を少量
2　暗灰色シルト　締りなく炭化物を 5%
3　灰色シルト　締りあり地山塊を 10%
4　灰黄色シルト　締りあり地山塊を 5%



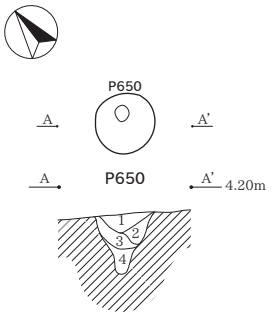

P562A
①　暗灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を 10%
②　灰色シルト　締りあり地山塊を 30%

P562B
1　浅黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を 5%
2　灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を 10%

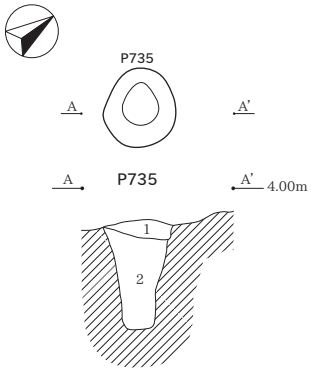



P629
1　暗灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を 10%
2　オリーブ黒色シルト　柱根残存、柱痕で締りなく炭化物を 5%
3　浅黄灰色シルト　締りあり地山塊を 40%

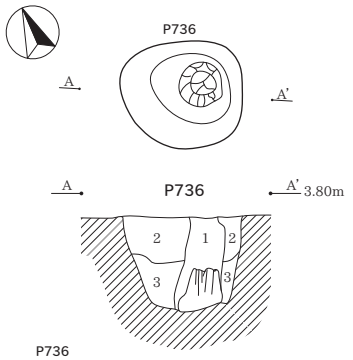
P630
1　灰色シルト　締りあり地山塊を主体
2　浅黄色シルト　締りあり地山塊を 40%



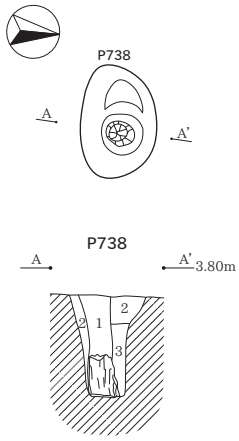

P650
1　暗灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を 10%
2　灰黄色シルト　締りあり地山塊を 20%
3　灰色シルト　締りあり地山塊を 30%
4　暗灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量、地山塊を 5%



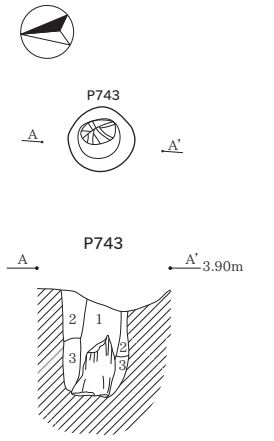

P735
1　灰黄色シルト　締りなく炭化物を少量
2　灰色シルト　締りあり地山塊を 10%



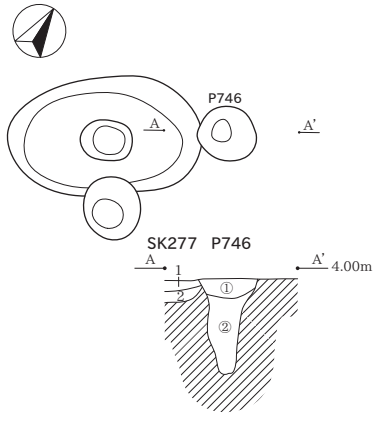

P736
1　暗オリーブ色シルト　柱根残存、柱痕で締りなく炭化物を少量
2　灰色シルト　締りあり地山塊を主体
3　浅黄色シルト　締りあり地山塊を 40%



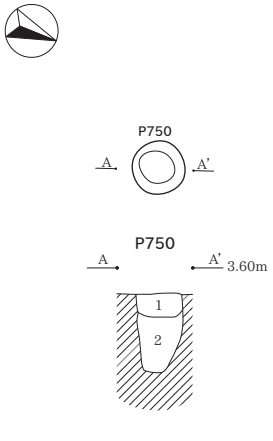

P738
1　暗灰黄色シルト　柱根残存、柱痕で締りなく炭化物を 5%
2　浅黄色シルト　締りあり地山塊を 30%
3　黄灰色シルト　締りあり地山塊を 40%




P743
1　黄褐色シルト　柱根残存、柱痕で締りなく炭化物を少量
2　浅黄色シルト　締りあり地山塊を 30%
3　黄灰色シルト　締りあり地山塊を 40%




P746
①　灰色シルト　締りあり地山塊を主体
②　浅黄色シルト　締りあり地山塊を 40%

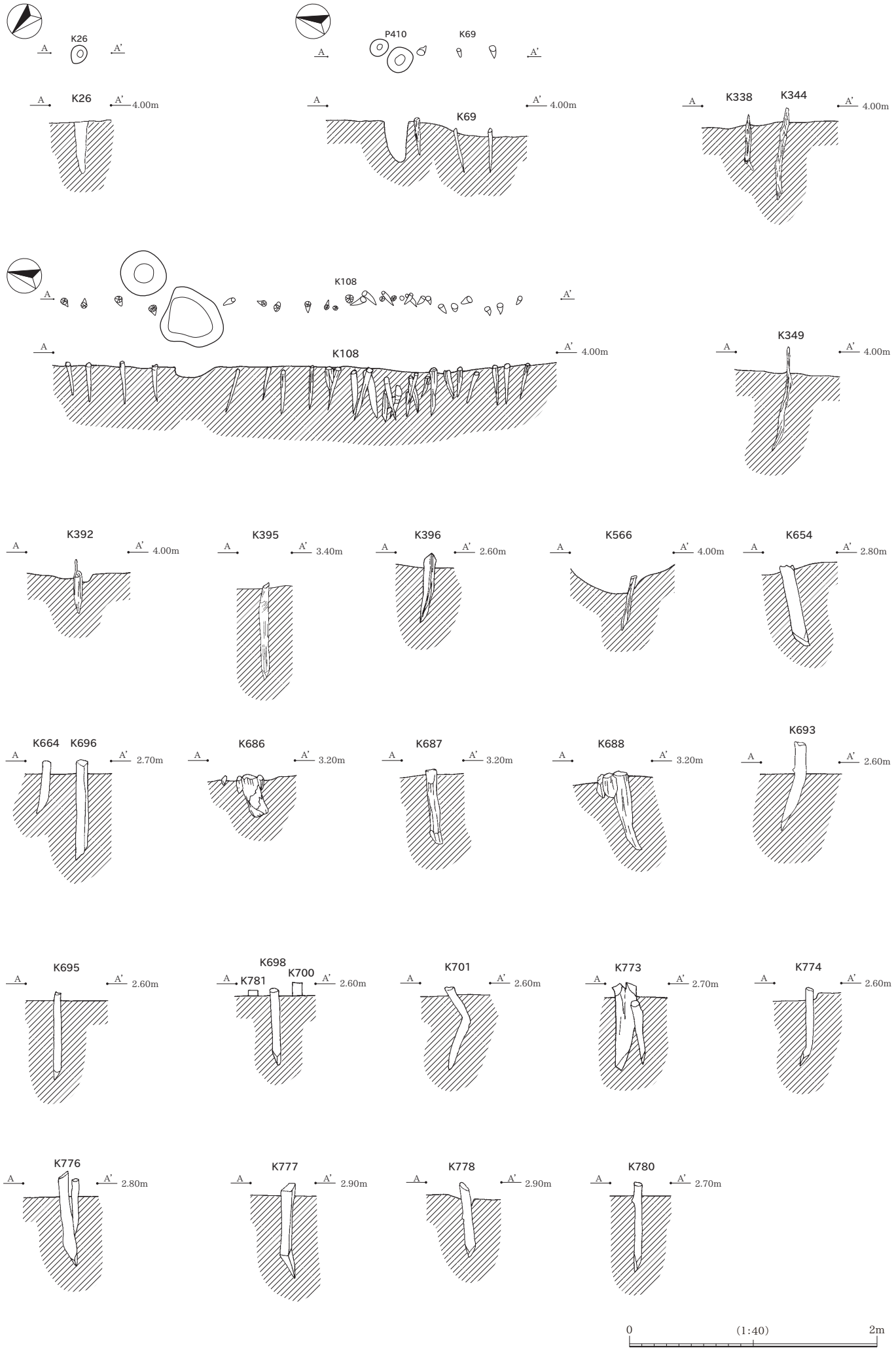



P750
1　浅黄色シルト　締りあり地山塊を 20%
2　黄灰色シルト　締りあり地山塊を 40%

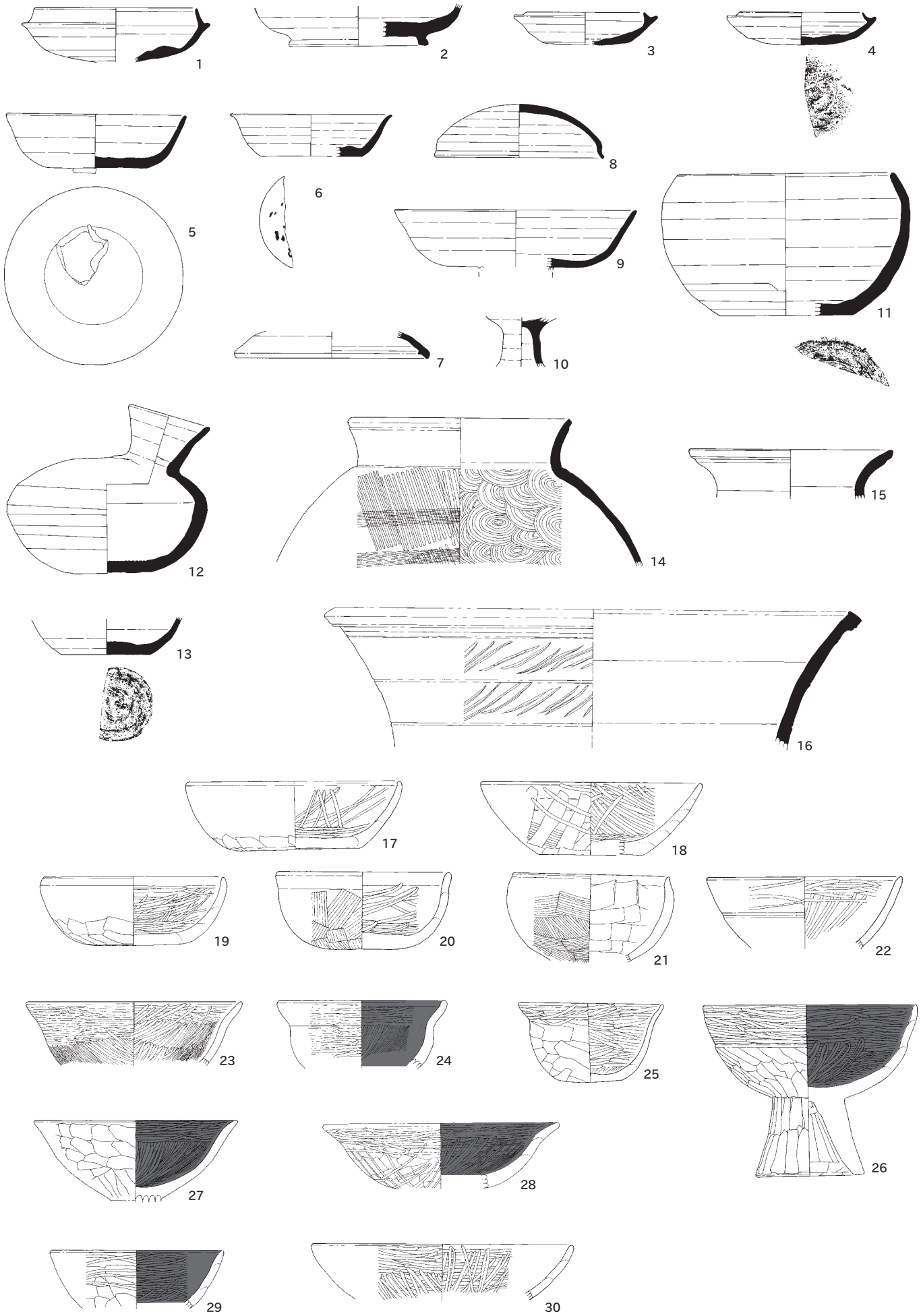
0　(1:40)　2m

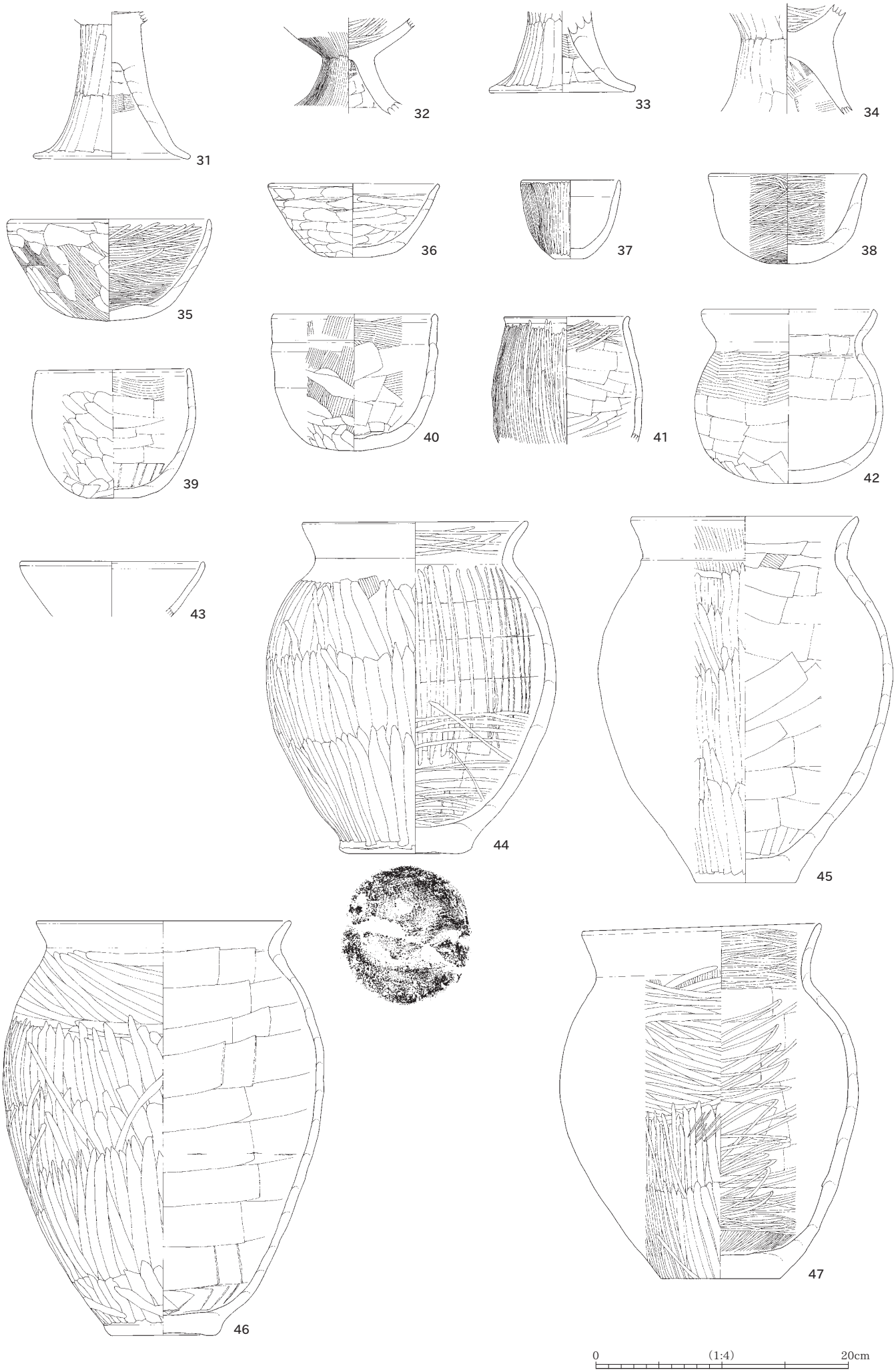
K26・69・108・338・344・349・392・395・396・566・654・664・686・687・688・693・695・696・698・700・701・773・774・776・777・778・780・781（1：40）

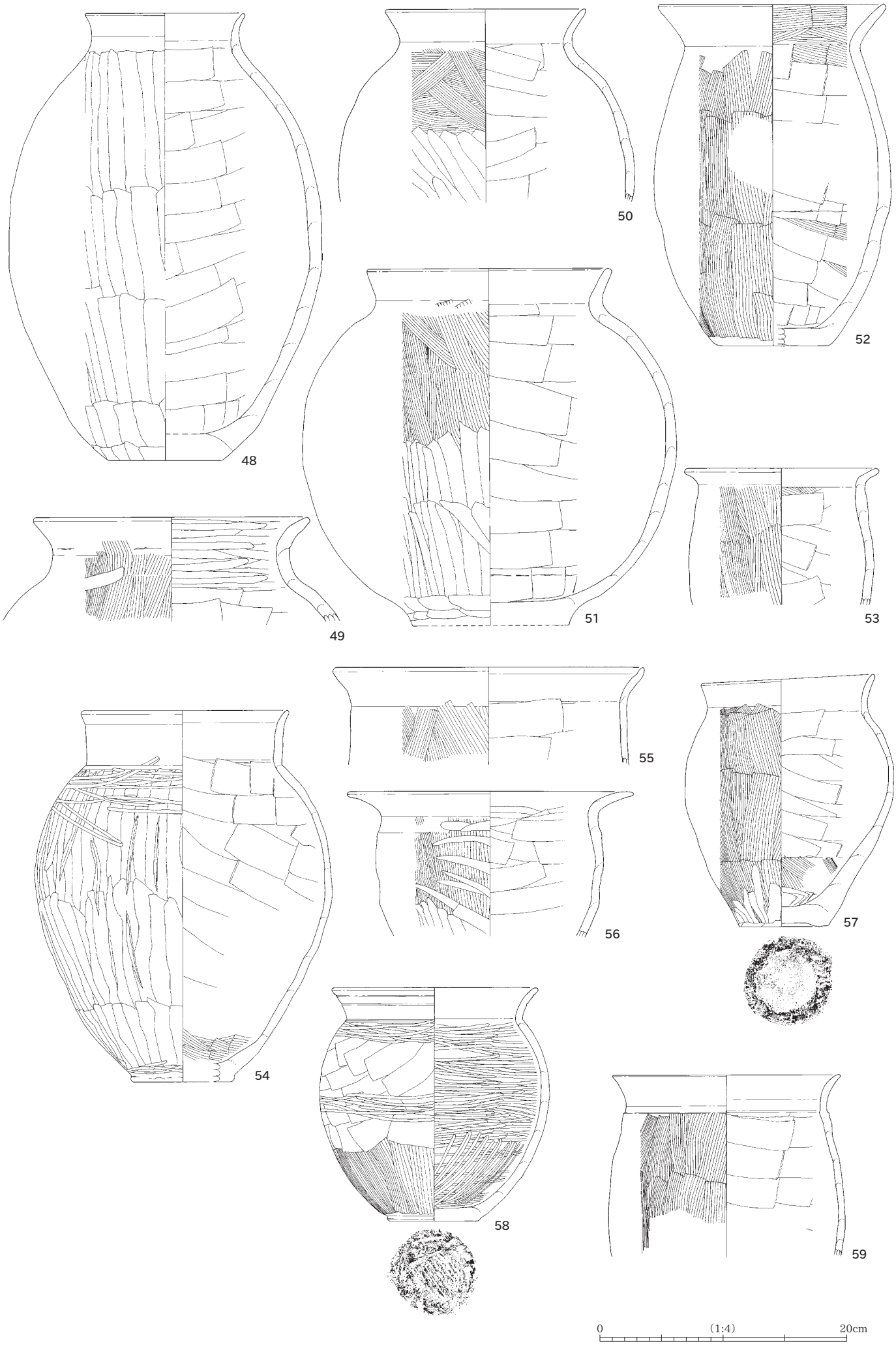


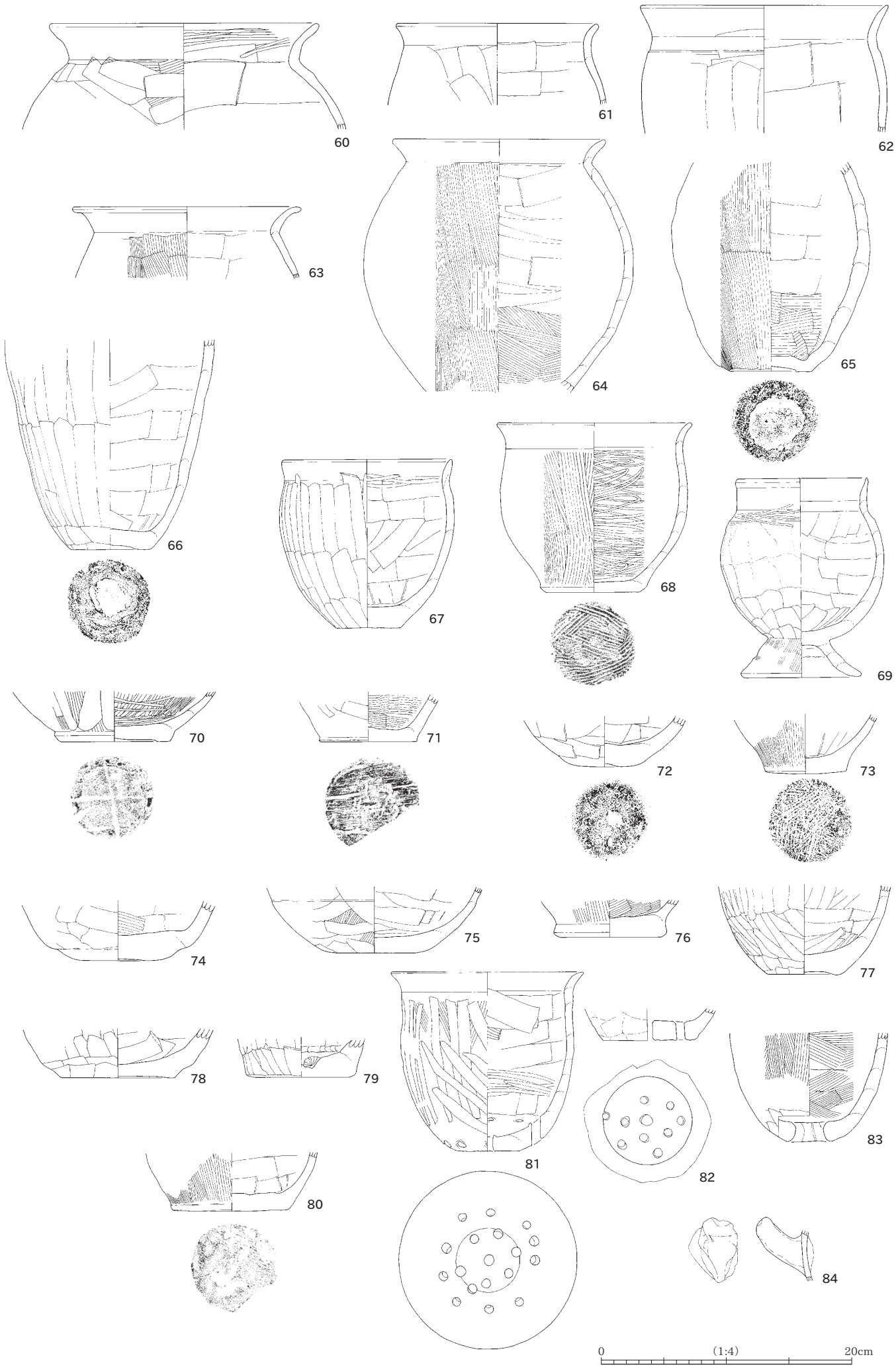


古墳時代後期、飛鳥時代（旧河川流路SR400）の土器 1

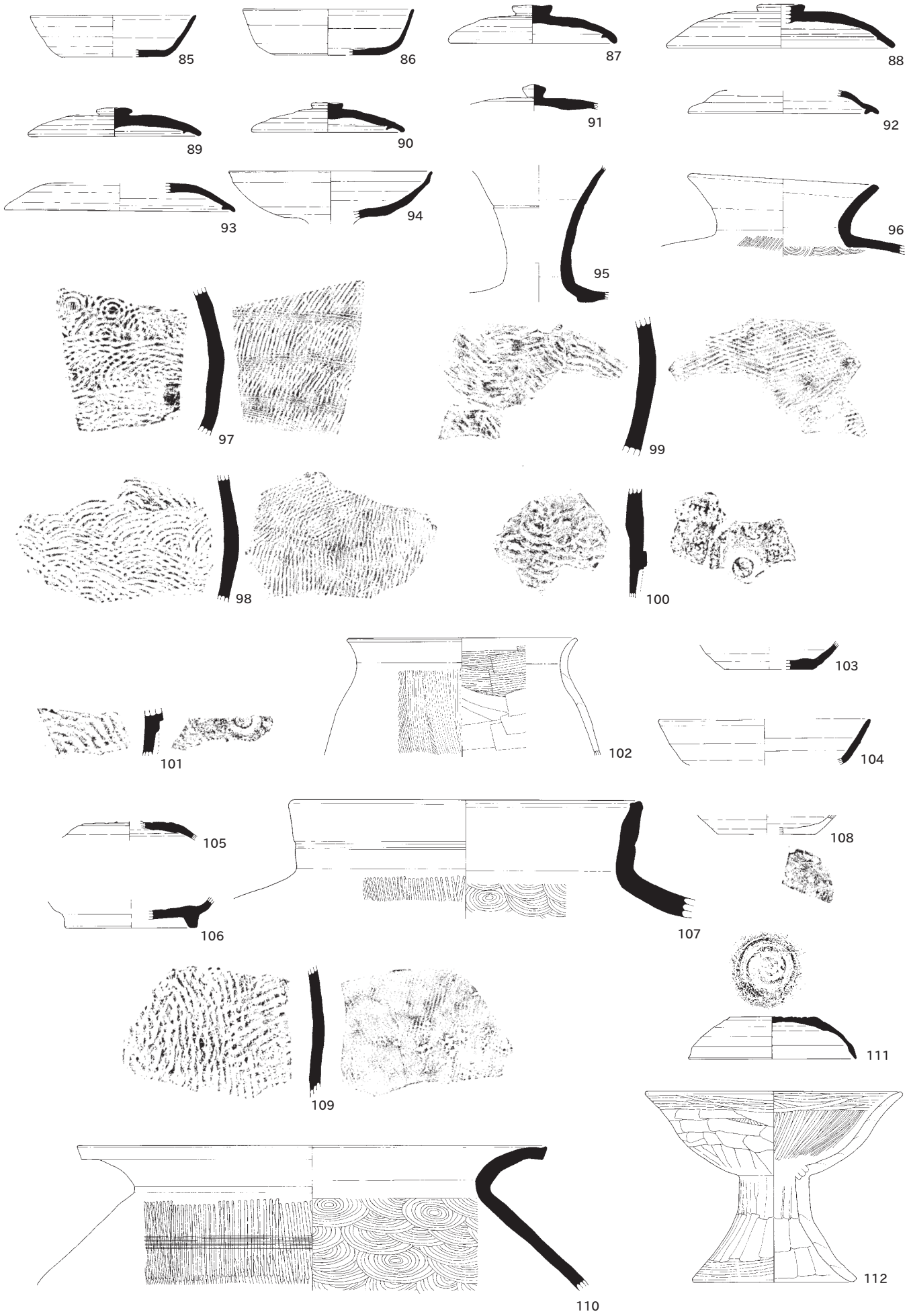


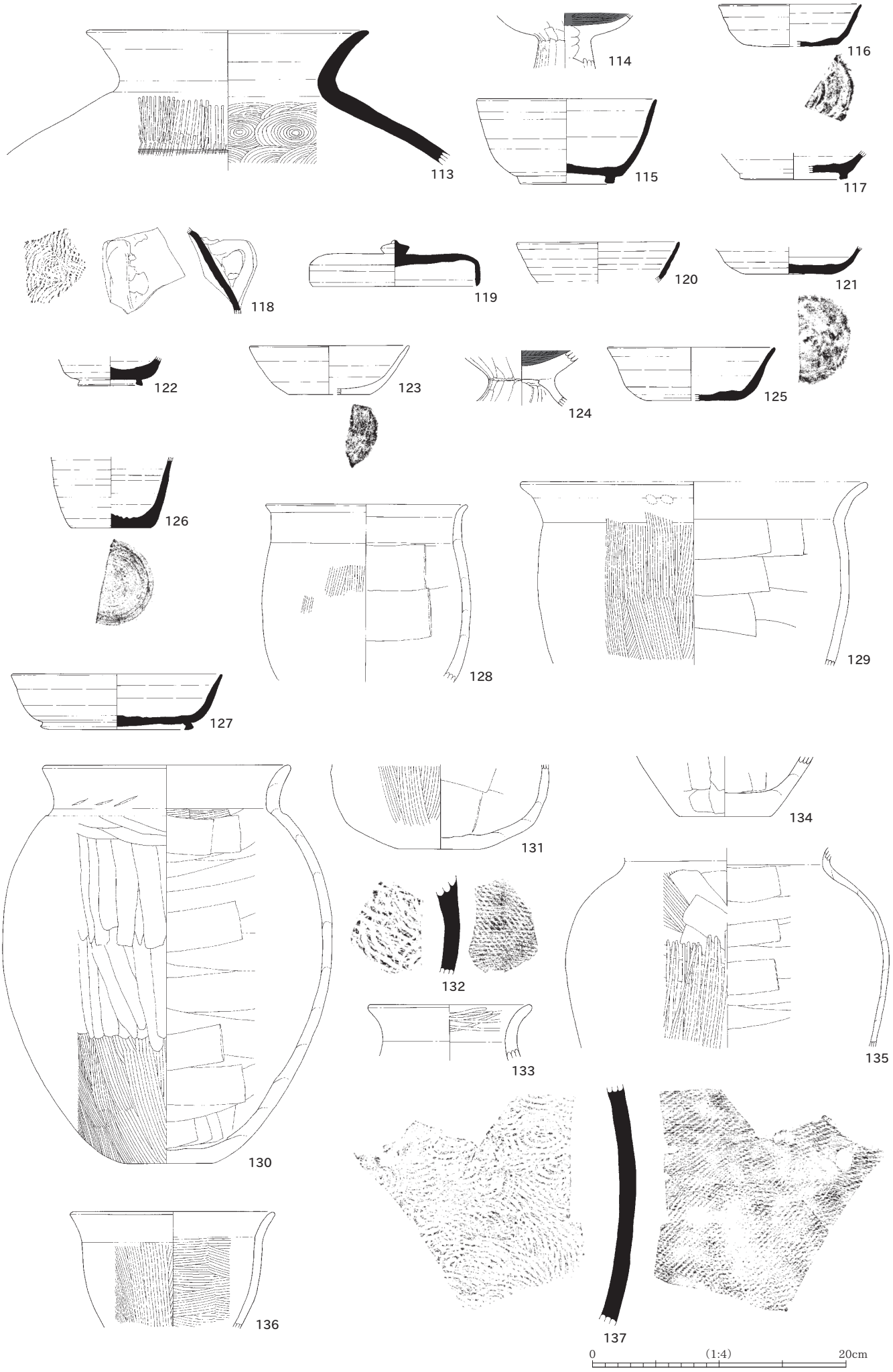

31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
0
(1:4)
20cm


48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
0
(1:4)
20cm

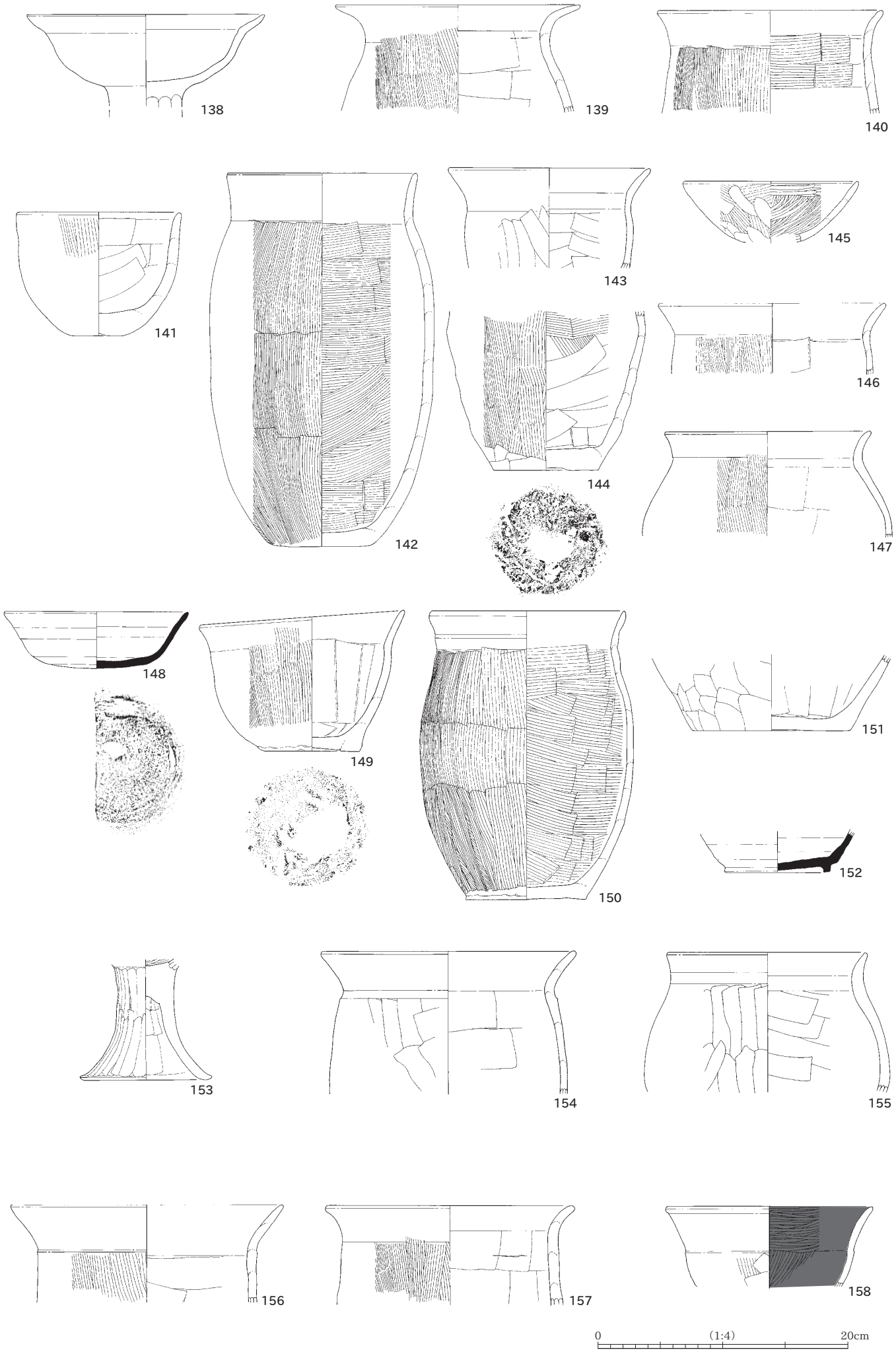

60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
0
(1:4)
20cm

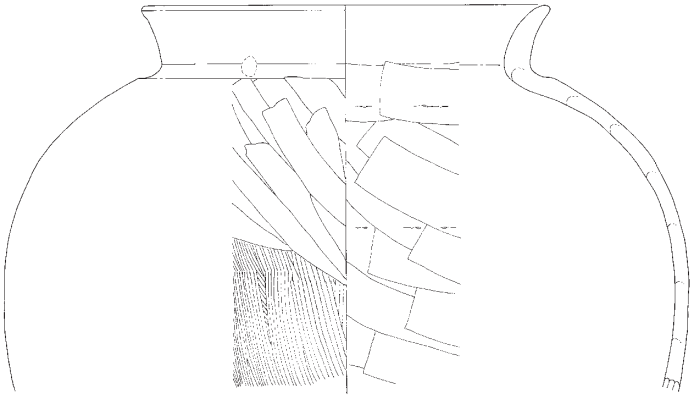
飛鳥時代（遺物包含Ⅱc層、SB506・508・509、SD33・73・117）、平安時代（SD４）の土器

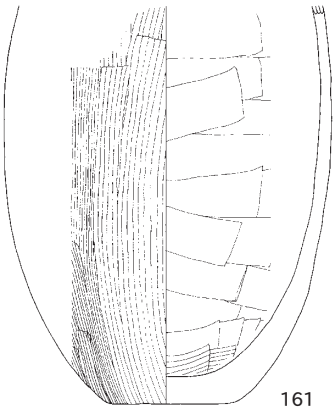


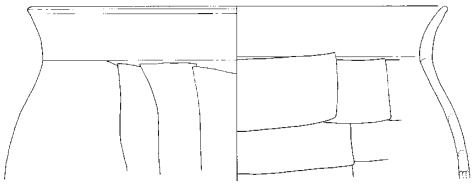

113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
0
(1:4)
20cm

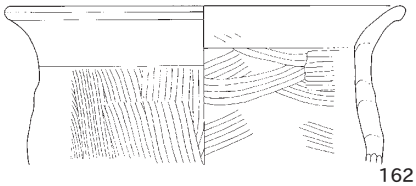
飛鳥時代（SK210・234・237・247・261・278・311・313・351・370・389・394）の土器

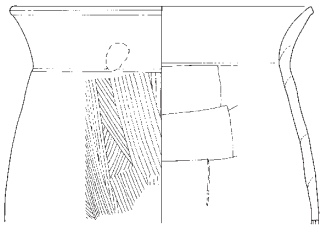


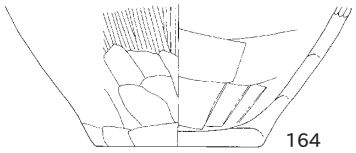

159

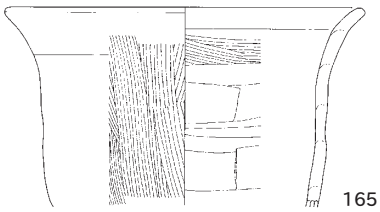

161

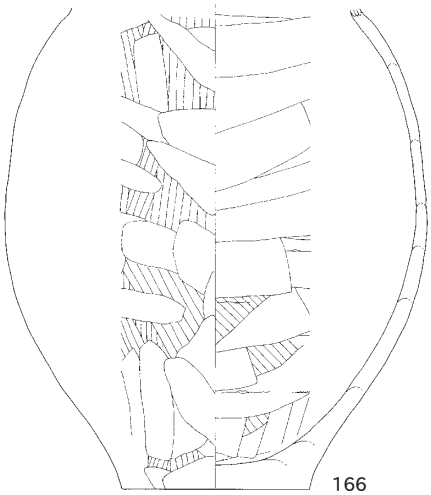

160

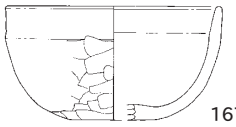

162

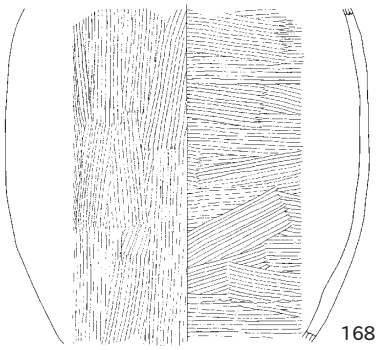

163

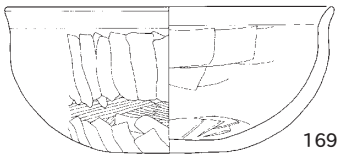

164

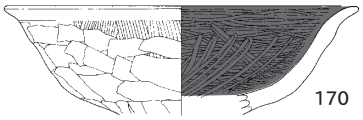

165

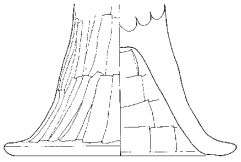

166

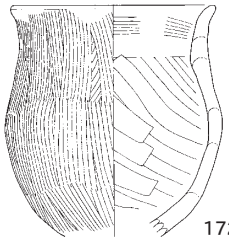

167

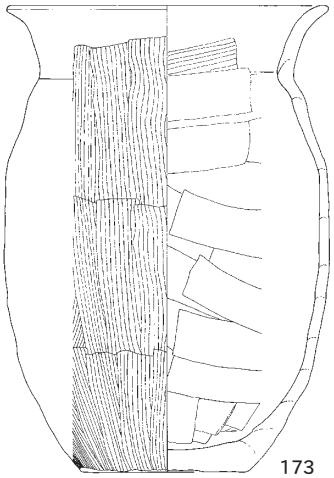

168

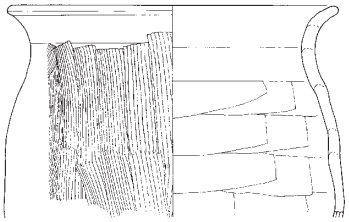

169

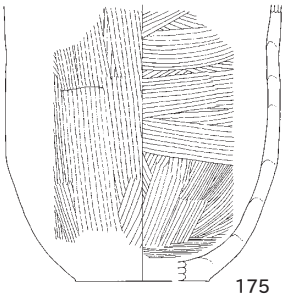

170


171


172

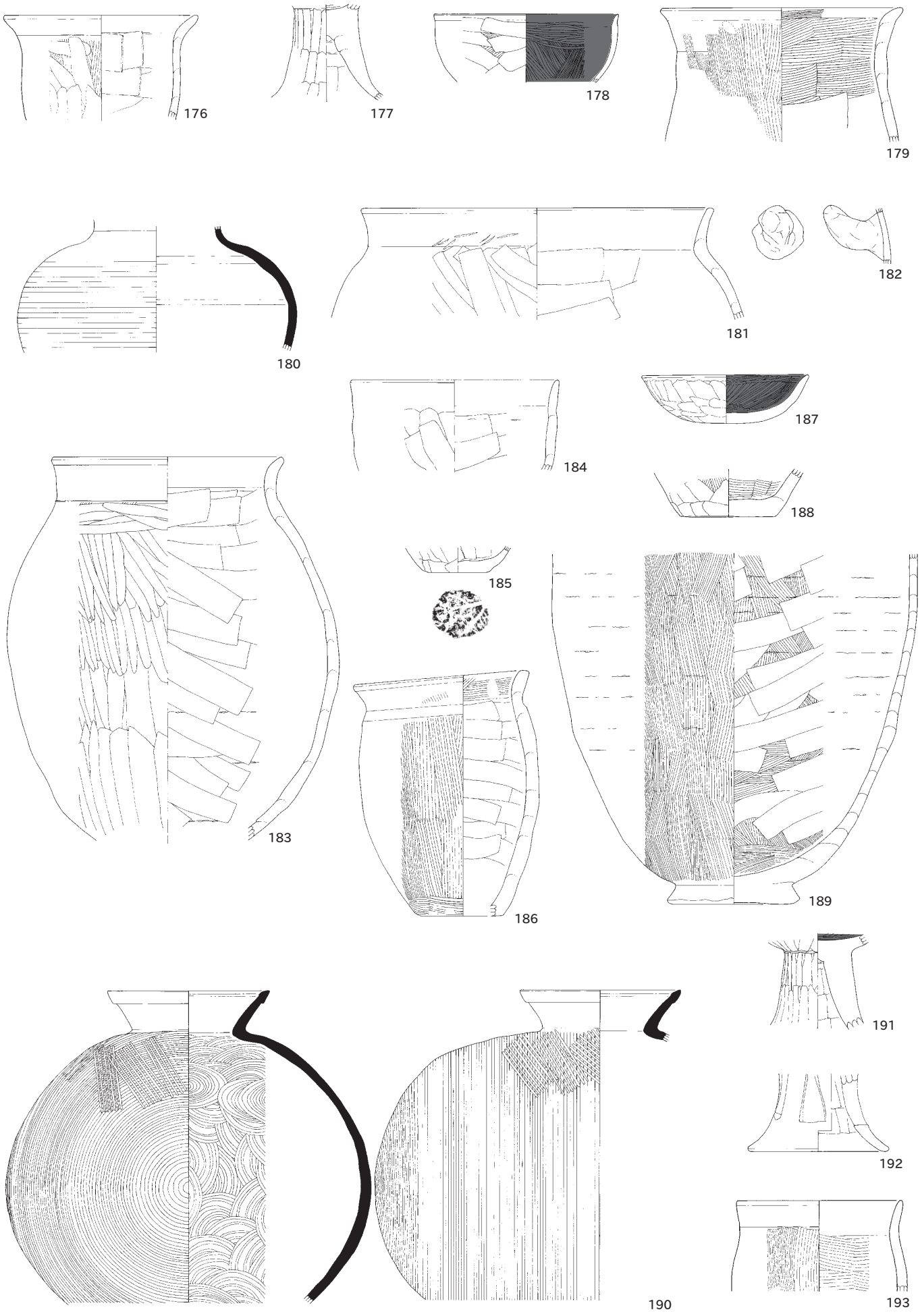

173

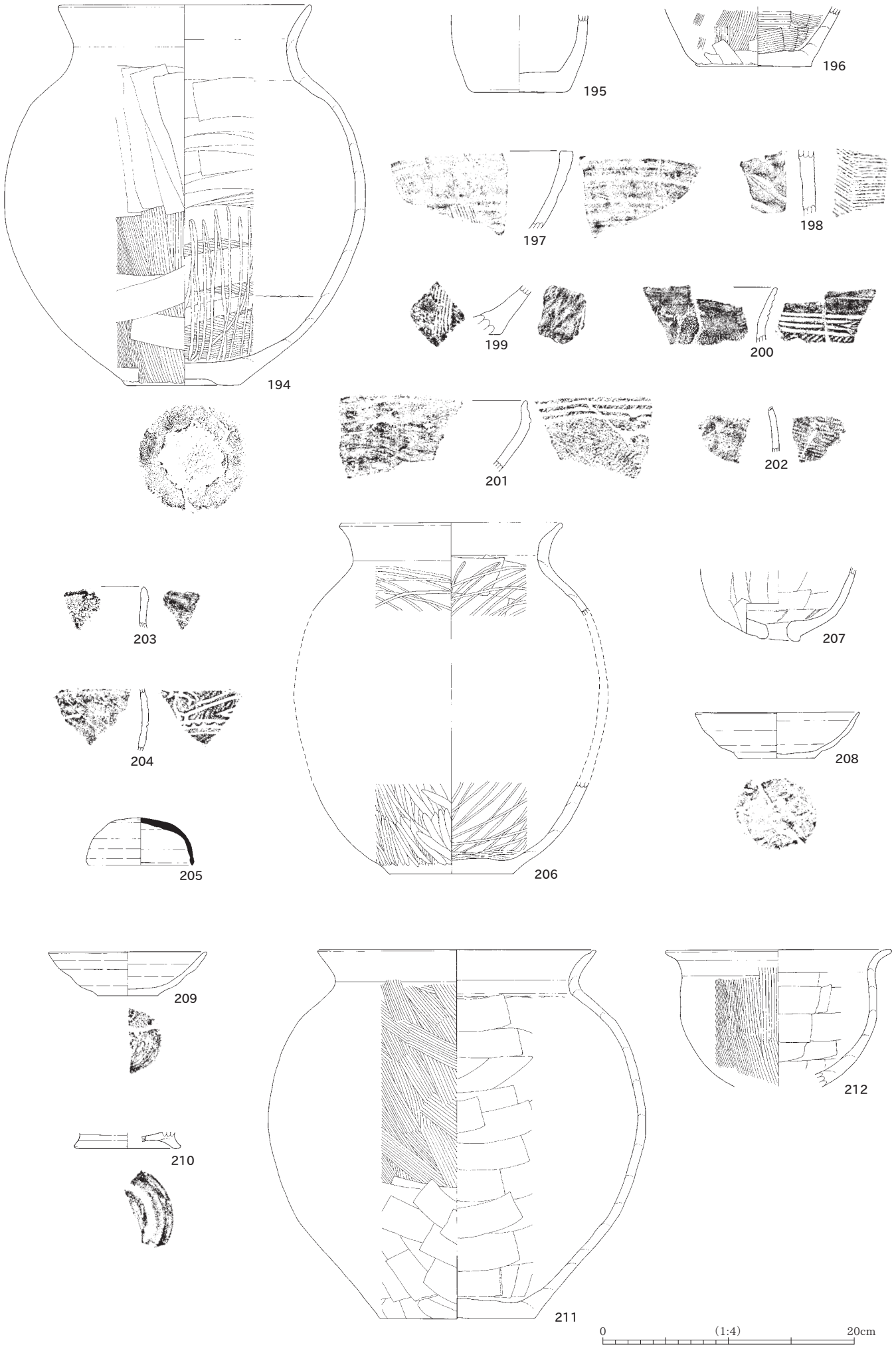

174


175

0　(1:4)　20cm

飛鳥時代（SK720・726・727・732・733・734・755・767）の土器

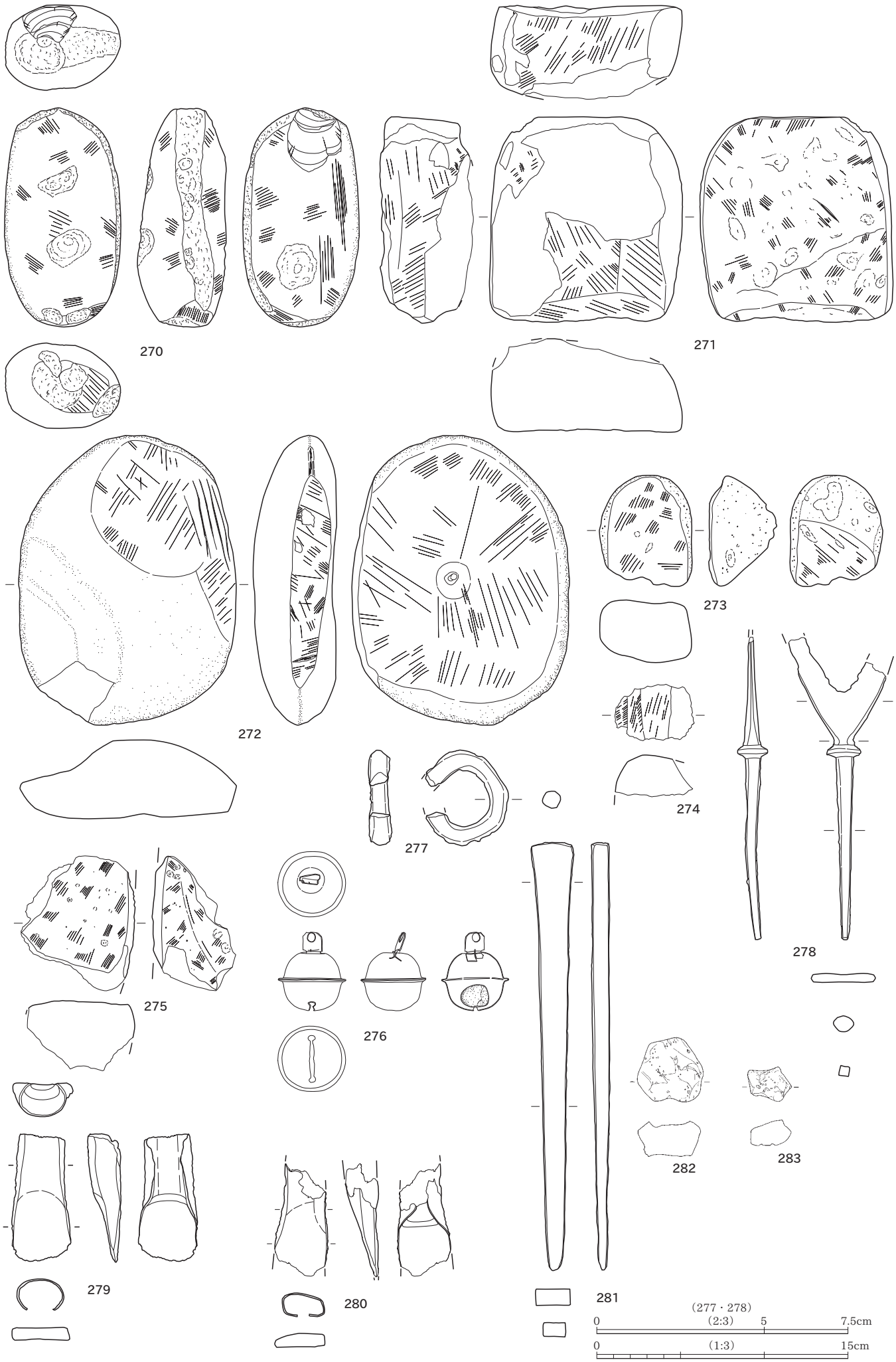



194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
0
(1:4)
20cm

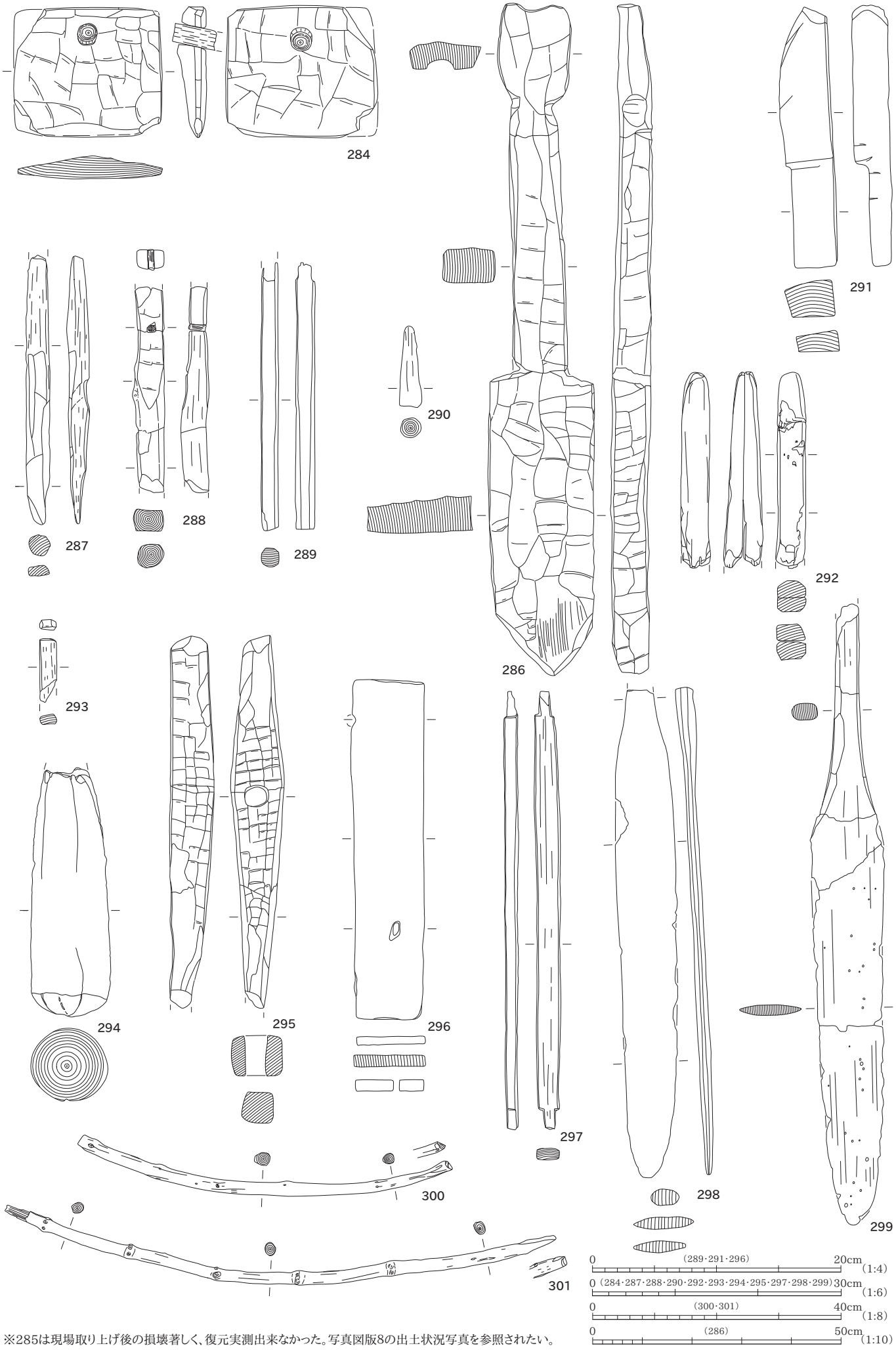
土製品１（ミニチュア土器、手捏ね土器、人形・動物形土製品、紡錘車、土錘、板状土製品、円柱支脚）

233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
0
(1:3)
15cm

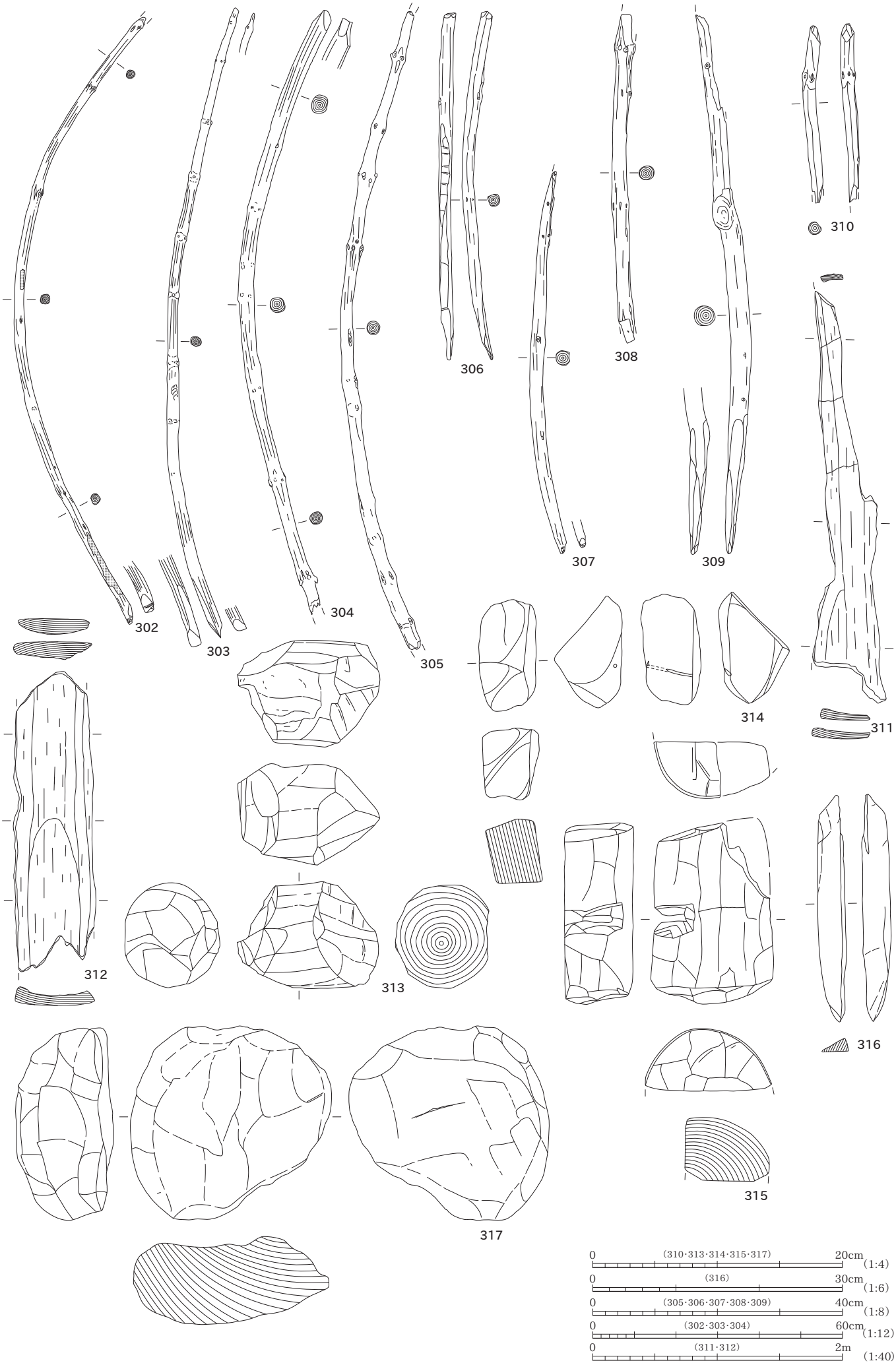
土製品３（カマド形土製品）、石製品１（紡錘車、紡錘車未成品か、権状錘、砥石）


270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
(277・278)
0 (2:3) 5 7.5cm
0 (1:3) 15cm

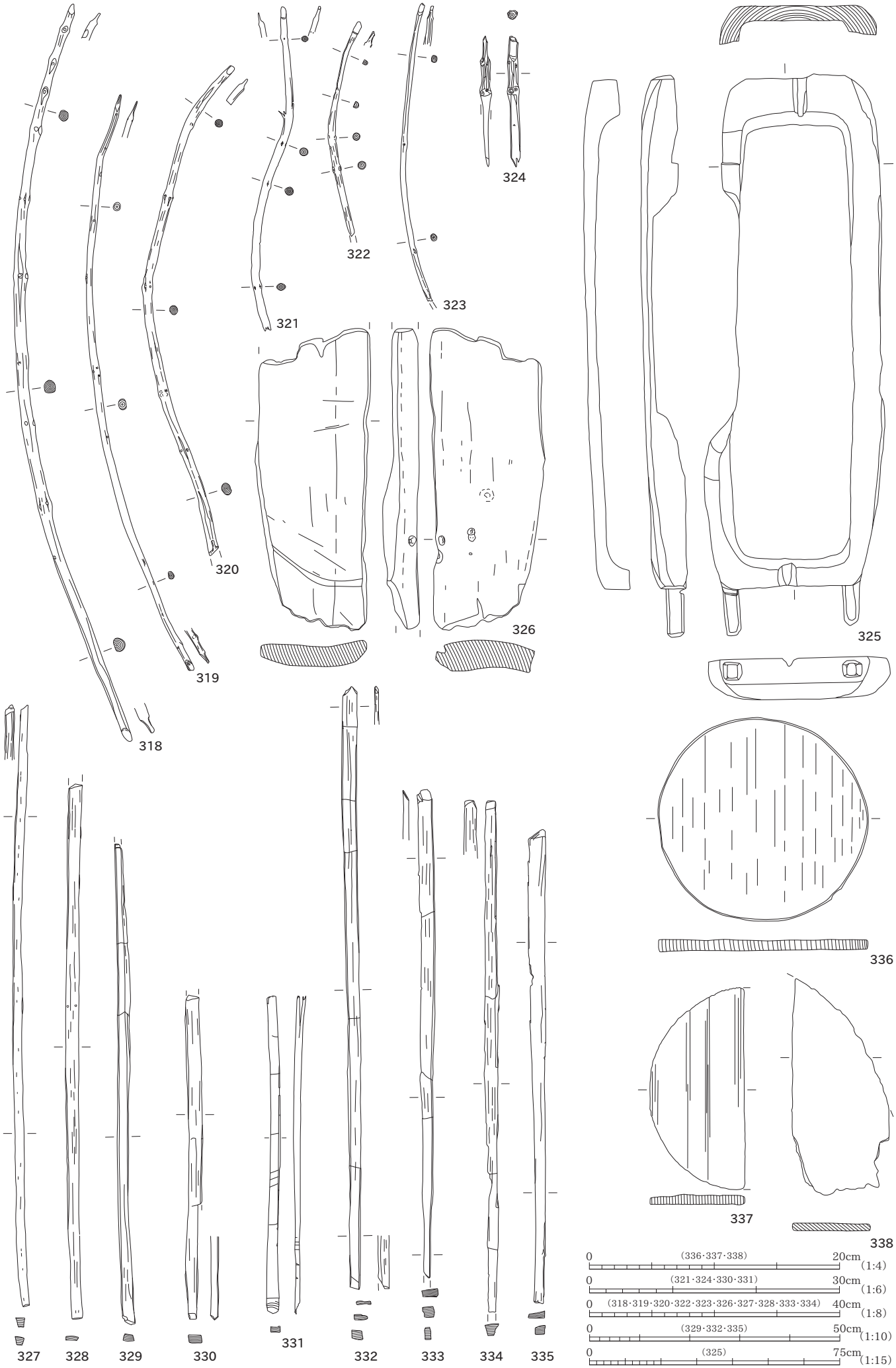
図面図版 54　木製品 1（直柄平鍬284、一木平鋤未成品286、柄287 ～ 293、竪杵294、糸車の横木295、田下駄296、大足の横桟297、櫂298・299、弓状木製品300・301）




※285は現場取り上げ後の損壊著しく、復元実測出来なかった。写真図版8の出土状況写真を参照されたい。

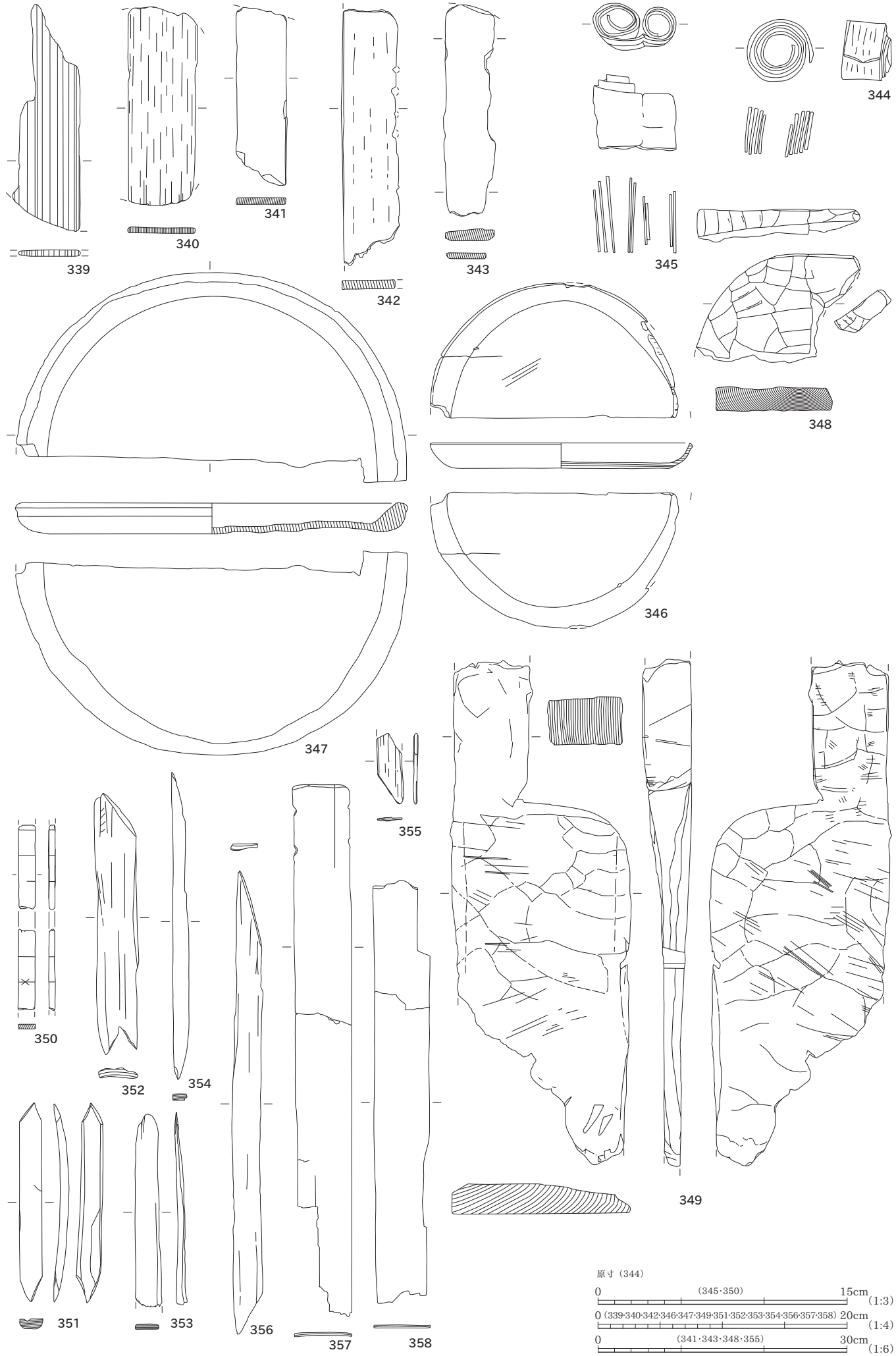

302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
0 (310･313･314･315･317) 20cm (1:4)
0 (316) 30cm (1:6)
0 (305･306･307･308･309) 40cm (1:8)
0 (302･303･304) 60cm (1:12)
0 (311･312) 2m (1:40)

木製品３（丸木弓318 ～ 324、把手付槽325、槽326、板材（木桶か）327 ～ 335、曲物底板336 ～ 338）

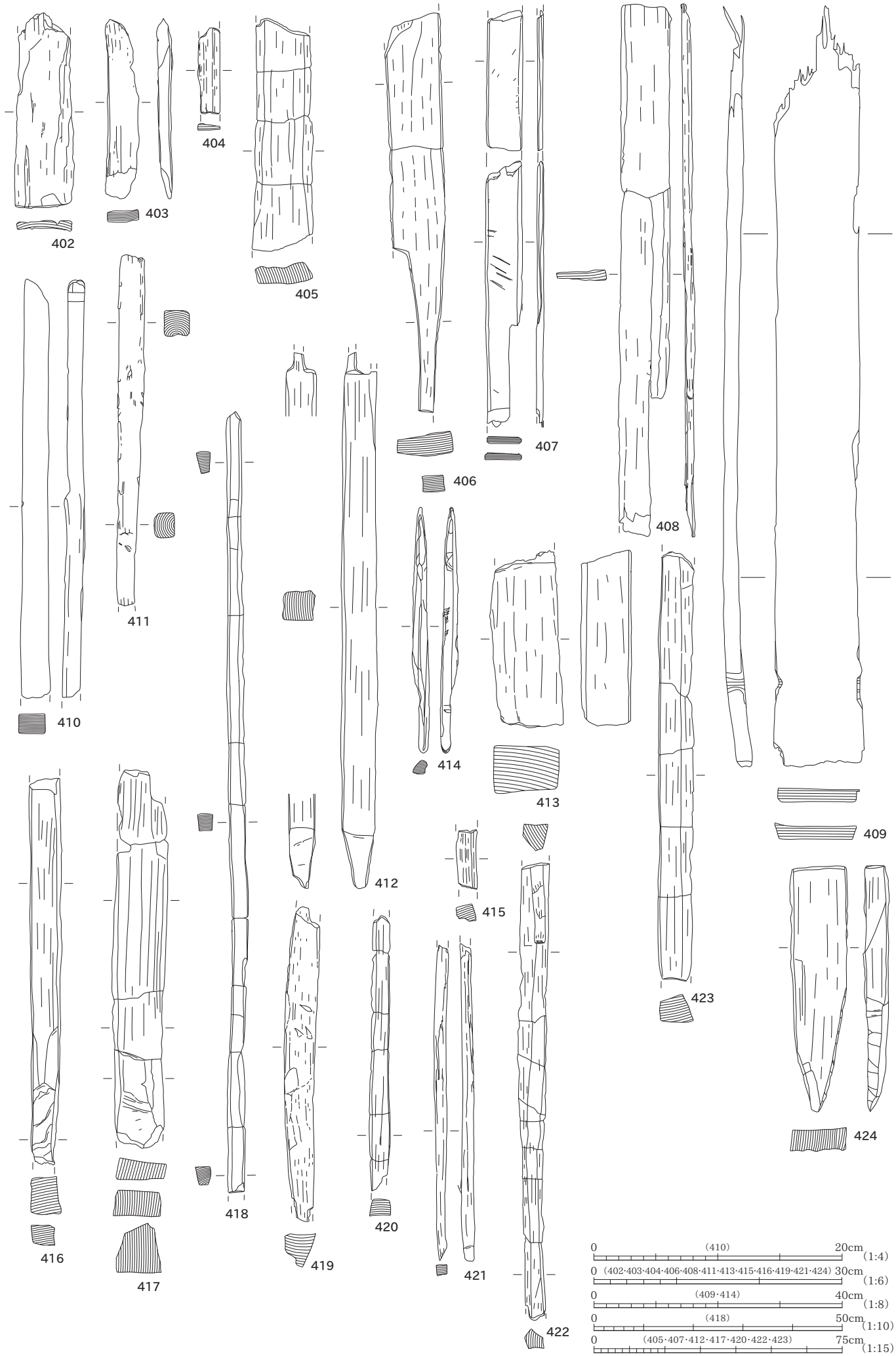


木製品４（曲物底板339 ～ 343、曲物綴じ樹皮344・345、皿346、皿347、俎板か348、俎板349、物差し350、斎串351 ～ 358）

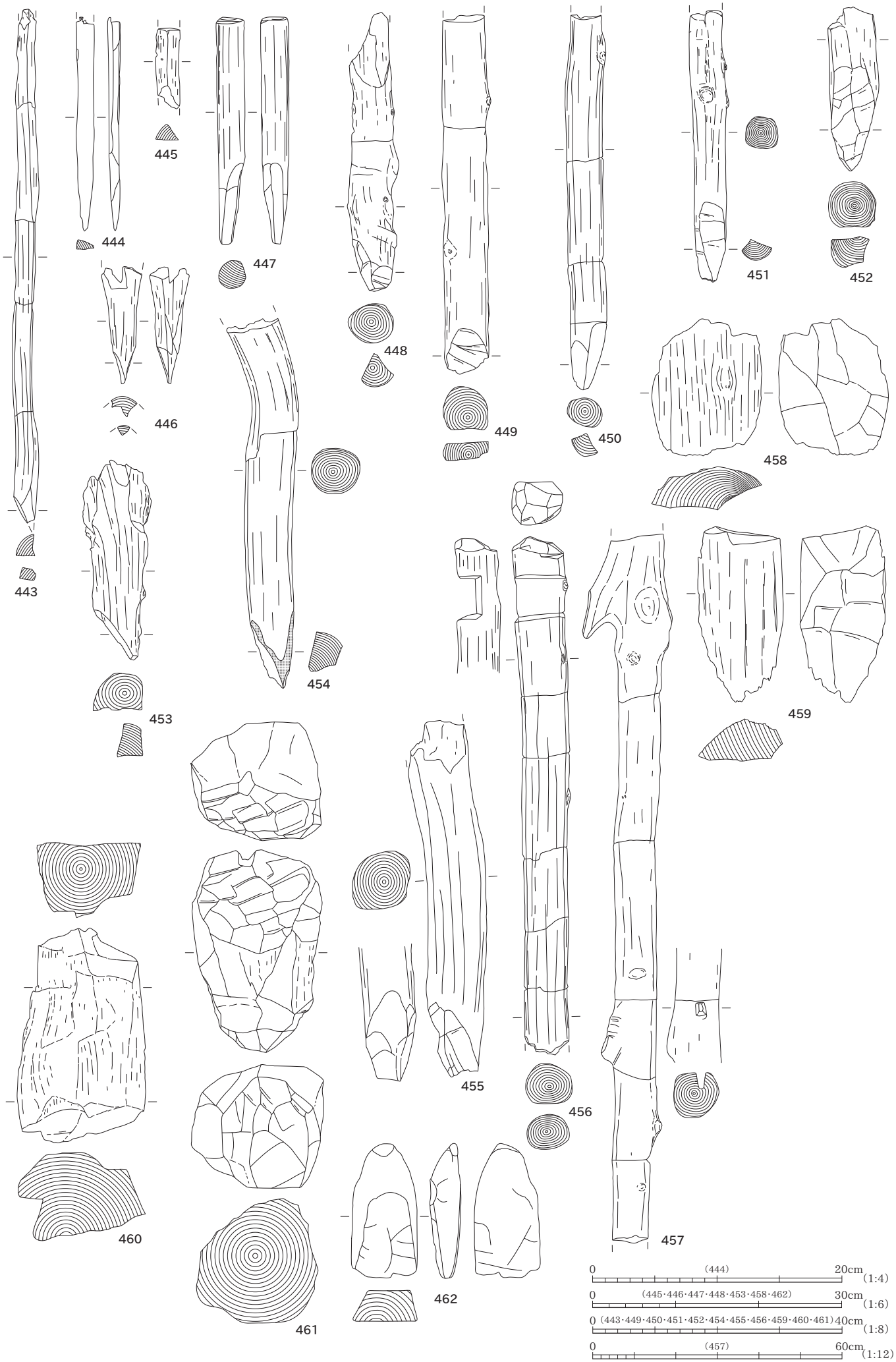




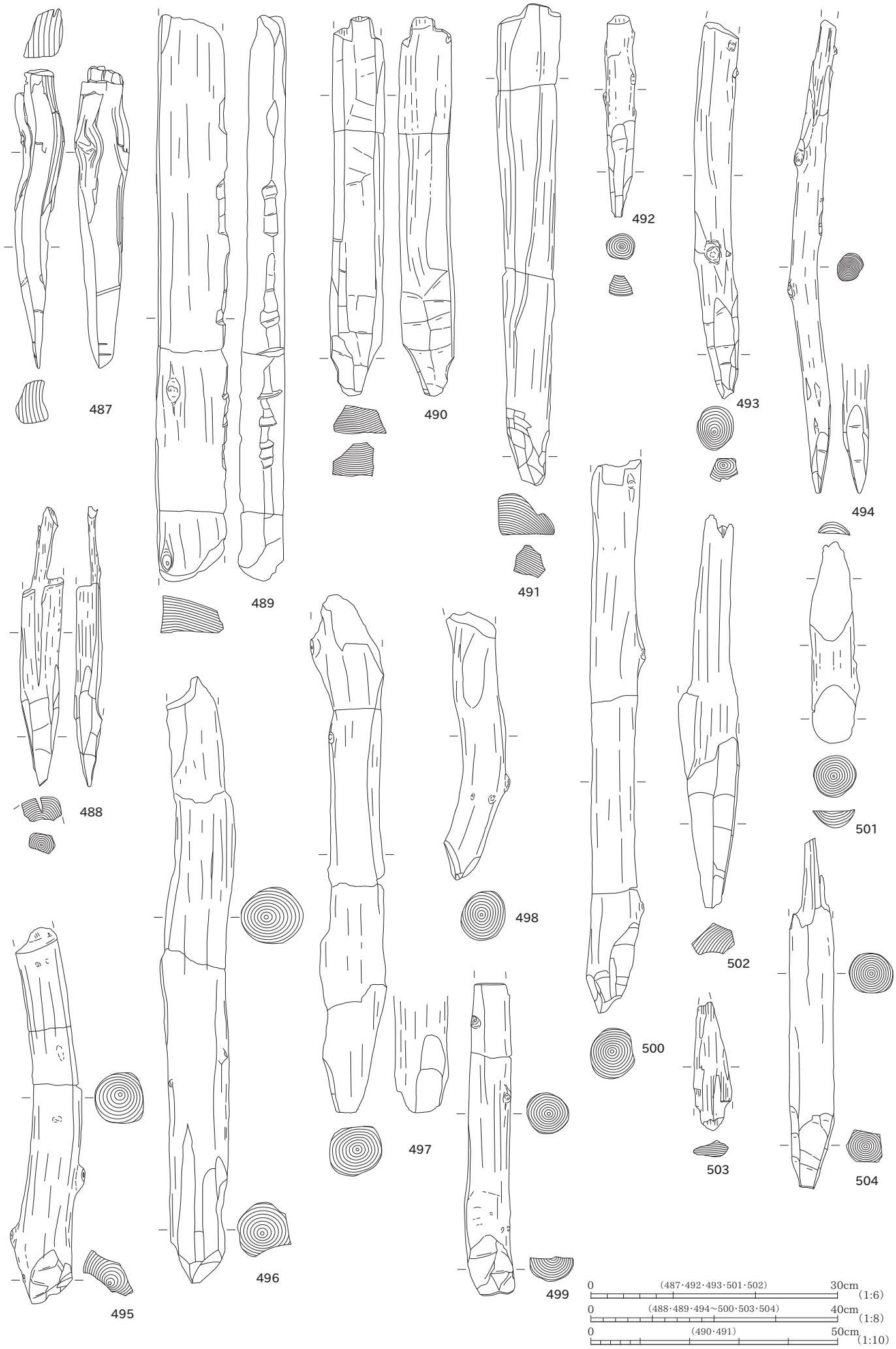
木製品５（火鑽杵359・360、焚付け木361、二又材362 ～ 367、板材368 ～ 370、角棒371 ～ 384、板材385 ～ 401）


402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
0 (410) 20cm (1:4)
0 (402·403·404·406·408·411·413·415·416·419·421·424) 30cm (1:6)
0 (409·414) 40cm (1:8)
0 (418) 50cm (1:10)
0 (405·407·412·417·420·422·423) 75cm (1:15)

木製品 7（角材425・426、割材427 ～ 429、角材430、割材431 ～ 442）


443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
0 (444) 20cm (1:4)
0 (445・446・447・448・453・458・462) 30cm (1:6)
0 (443・449・450・451・452・454・455・456・459・460・461) 40cm (1:8)
0 (457) 60cm (1:12)

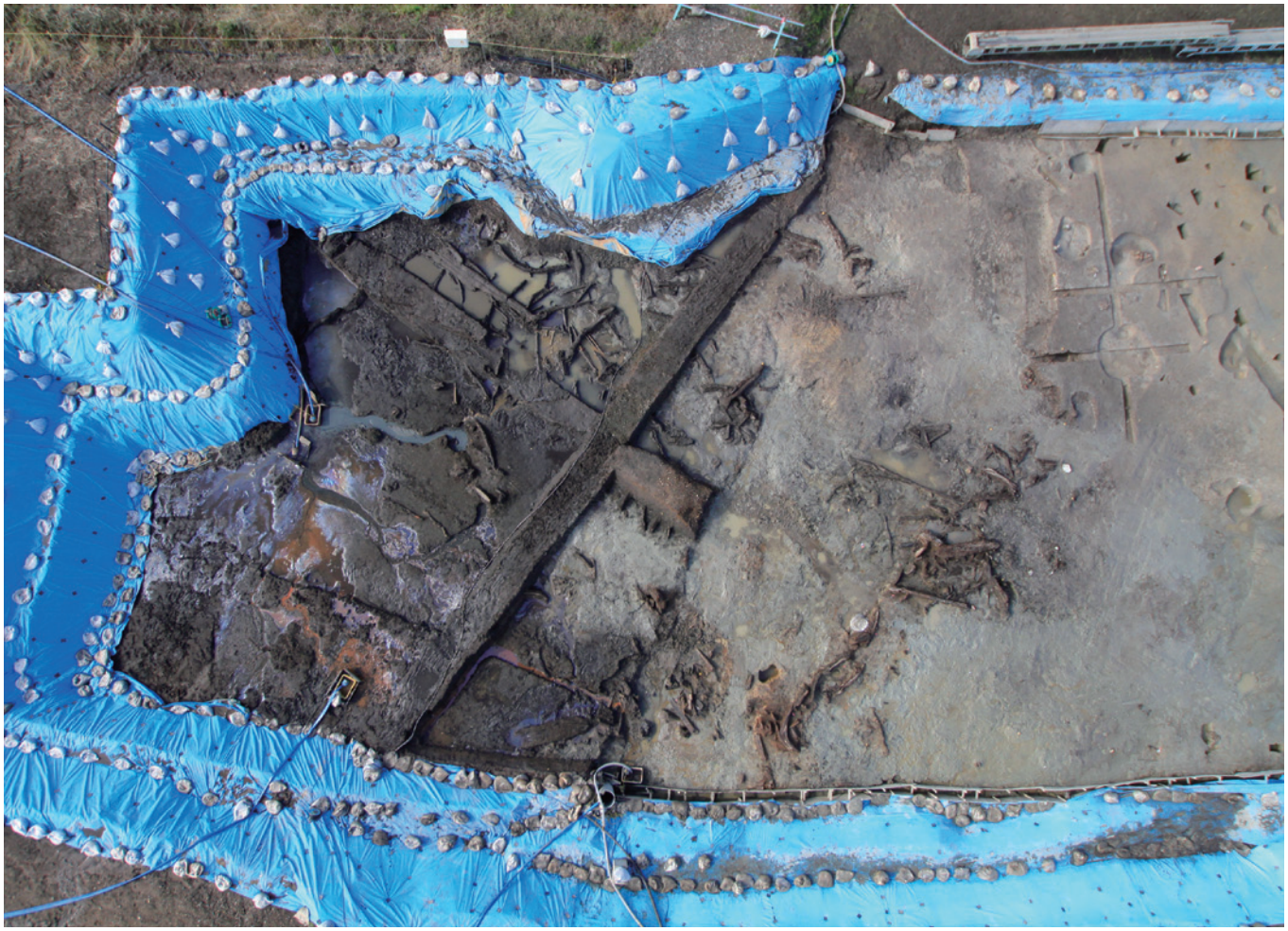
木製品９（桂根463 ～ 482、杭483 ～ 486）


487
488
489
490
491
492
493
494
495
496
497
498
499
500
501
502
503
504
0 (487·492·493·501·502) 30cm (1:6)
0 (488·489·494～500·503·504) 40cm (1:8)
0 (490·491) 50cm (1:10)

# 写 真 図 版

遺跡全景（東上方から）

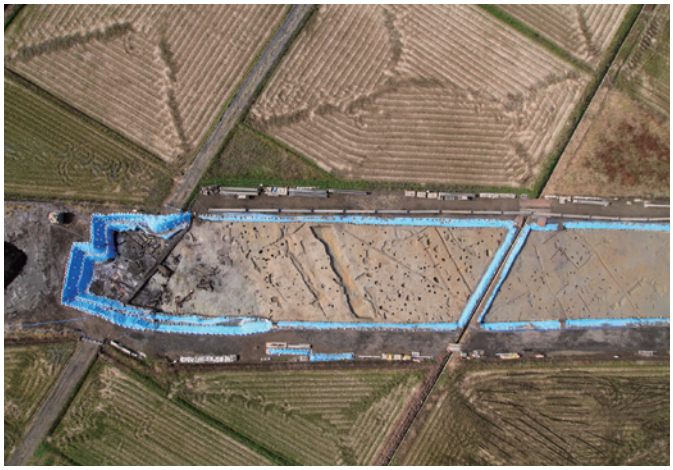
遺跡遠景（北から）



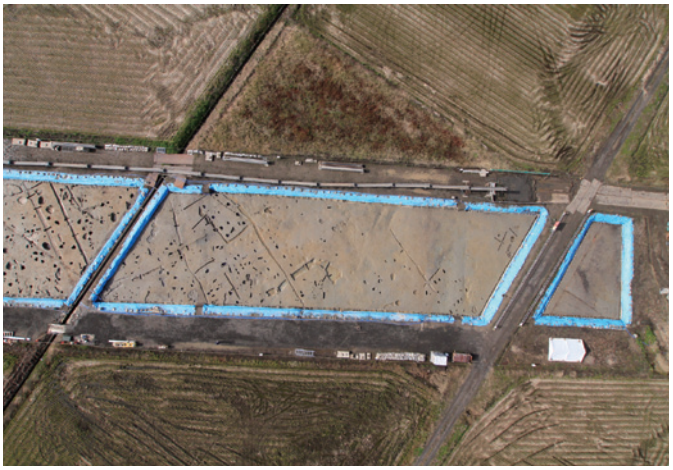
旧五社川流路　SR400全景（東上方から）

護摩堂山方面を望む（北西から）

弥彦山・角田山方面を望む（東から）



調査区南側近景（東上方から）



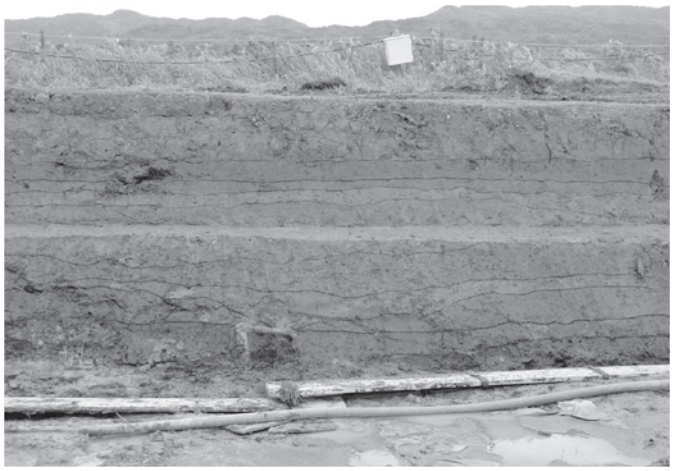
調査区北側近景（東上方から）

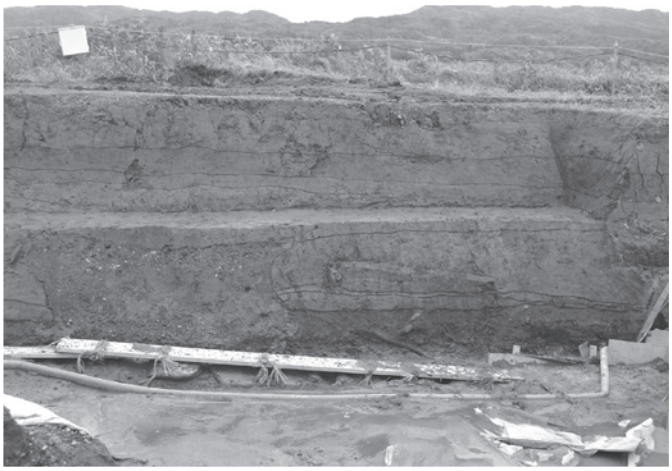
調査前全景（北から）

調査前全景（南から）

SR400調査区東壁土層断面（西から）

SR400調査区（13C17・22、14C02）東壁土層断面（西から）


SR400調査区（14C07・12・17）東壁土層断面（西から）


SR400調査区（14C22、15C02・07・14）東壁土層断面（西から）

SR400調査区（15B18～20、15C16）南壁土層断面（北から）

SR400調査区（16B20）東壁際最下層（7層）までの掘削状況（北から）

SR400発掘調査状況（北東から）

SR400（14B14・15）発掘調査状況（北東から）

SR400（14B11～25、15B01～10、15C01・06）7層遺物出土状況（東から）

SR400（14B13～15・18～20・23～25）7層遺物出土状況（西から）

SR400（14B14・15・19・20・24・25）7層遺物出土状況（西から）

SR400（14B13～15・18～20・23～25）7層遺物出土状況（南から）

SR400（15A20・25、15B16・21）7層遺物出土状況（西から）

SR400（15B11・12・16・17）7層遺物出土状況（南から）

SR400(15B11・12・16・17)7層遺物出土状況(東から)

SR400(15B12・17)7層遺物出土状況(北東から)

SR400(15B12・17)7層遺物出土状況(北から)

SR400(15B11・16)7層遺物出土状況(北東から)

SR400(15B11・12・16・17)7層遺物出土状況(北東から)

SR400(15A20・25、15B16・21、16A01)7層遺物出土状況(北西から)

SR400(15A20、15B16・21)7層遺物出土状況(北から)

SR400(15B15・20・25、15C11・16・21)7層遺物出土状況(西から)

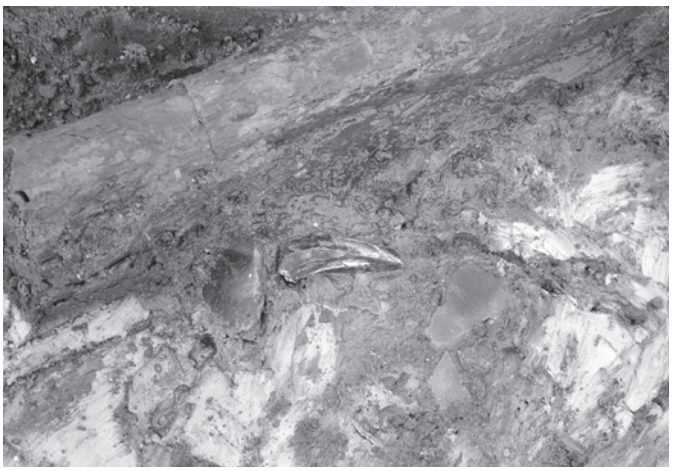
SR400(14C01)遺物出土状況(北から)

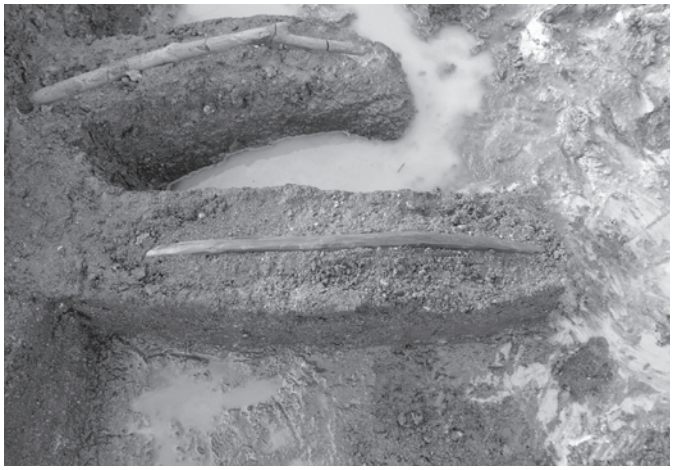
SR400(15C01)銅鈴(276)出土状況(東から)

SR400(14B19･20･25)丸太材出土状況(東から)

SR400(14B24･25)一木平鋤未成品(286)出土状況(北から)

SR400(15B19･20)7層遺物出土状況(北から)


SR400(14B20)7層イノシシ犬歯出土状況(東から)


SR400(15B20)7層弓状木製品(306)出土状況(東から)

SR400(14B08)7層須恵器杯(4)出土状況(東から)

SR400(14B15)7層板材(327～330)出土状況(東から)

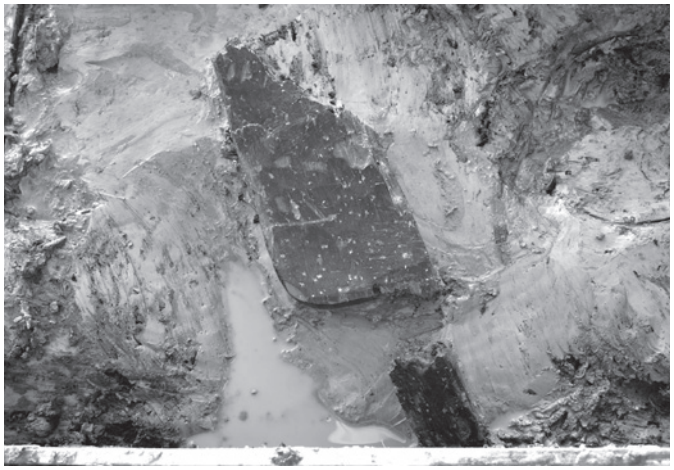
SR400(15B16･17･21･22)7層遺物出土状況(北東から)

SR400(15B16･21)7層杷手付槽(325)出土状況(北から)

SR400(15B16･21)7層杷手付槽(325)出土状況(東から)

SR400(16B03)7層木製皿(346)出土状況(南から)

SR400(16B06･11)5層木製皿(347)出土状況(北から)

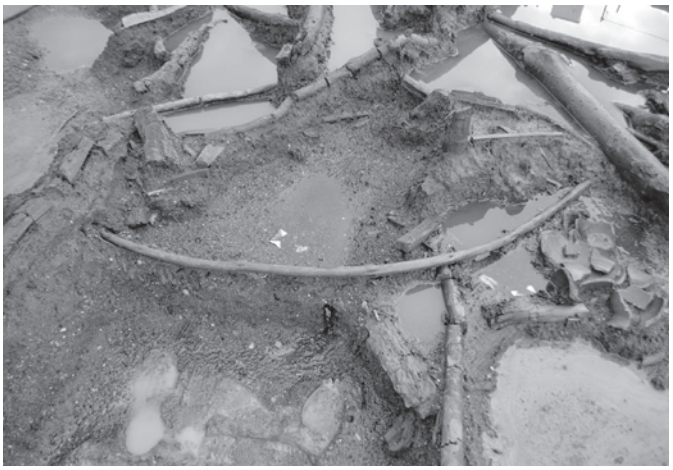

SR400(14C12)7層真名板(349)出土状況(東から)

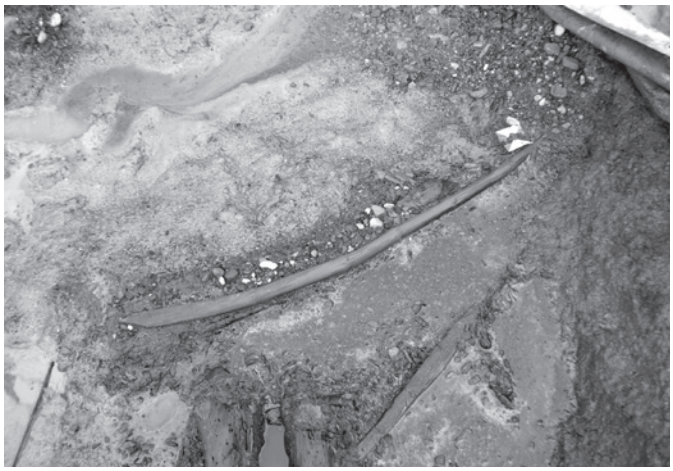
SR400(14B23)7層櫂(299)出土状況(東から)

SR400(14B20)7層弓状木製品(301)出土状況(南から)

SR400(14B20)7層丸木弓(322・323)出土状況(南東から)

SR400(14B24)7層丸木弓(318)出土状況(東から)

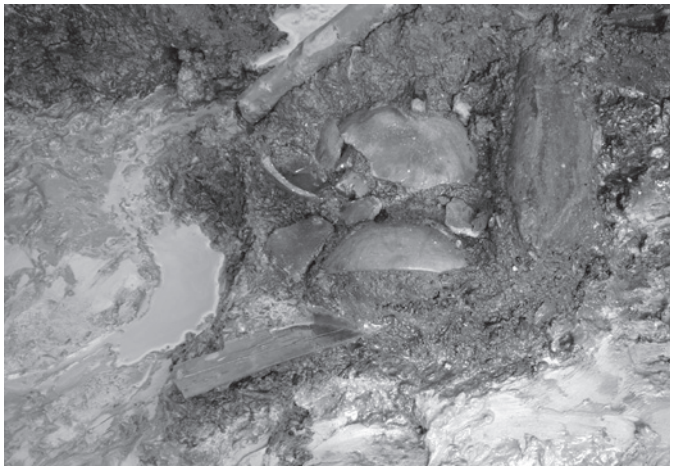

SR400(15B22)7層弓状木製品(302)出土状況(北東から)


SR400(15A15)7層弓状木製品(304)出土状況(北から)

SR400(15B17)7層直柄平鍬(285)出土状況(東から)

SR400(15B21・22)7層須恵器平瓶(12)出土状況(東から)

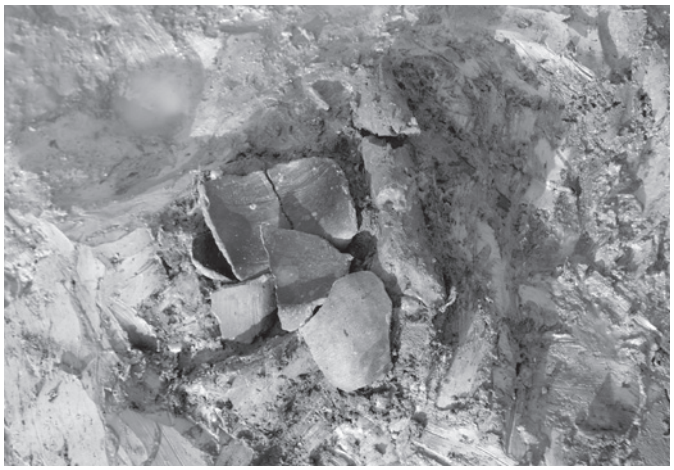
SR400(16A05、16B01)7層櫂(298)出土状況(南東から)

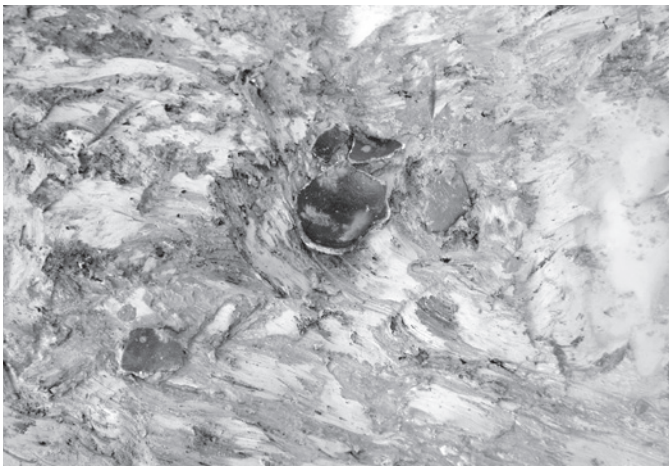

SR400(15B22)7層斎串(358)土師器杯(17)出土状況(南から)

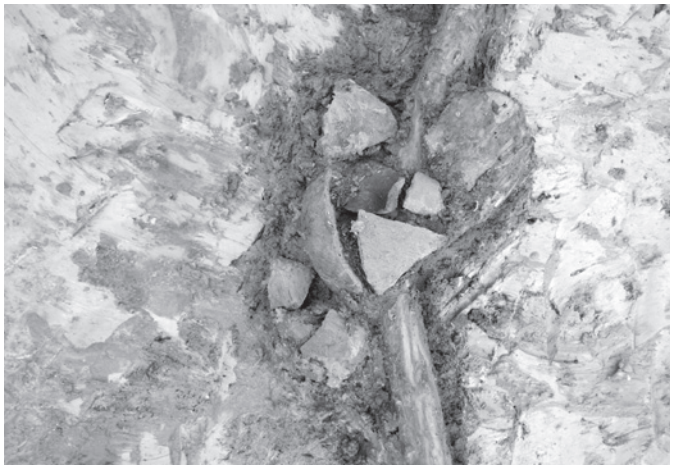
SR400(15B21)7層直柄平鍬(284)、土師器甕(62)出土状況(東から)

SR400(15B21)7層土師器甕(66)出土状況(南東から)

SR400(15B21)7層土師器甑(81)出土状況(南西から)

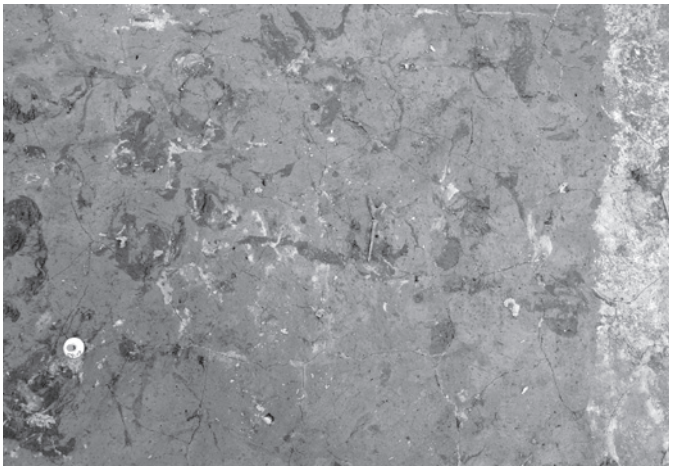

SR400(15B21)7層土師器小甕(68)出土状況(南から)


SR400(15B21)7層土師器高杯(28)出土状況(南から)


SR400(15B16･21)7層土師器杯(19)出土状況(南から)

SR400(15B21)7層土師器高杯(18)出土状況(南東から)

Ⅱc層調査区（12C06･07）土層断面（南から）※断面最下層がⅡc層である。


Ⅱc層（9C-02）雁又鏃（278）出土状況（南から）

SB131･132完掘（東上方から）

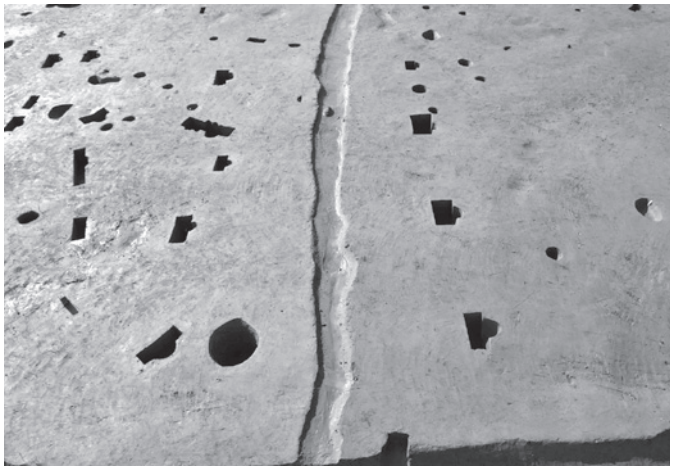
SB131柱穴断割り全景（東から）

SB131柱穴P104断割り（南から）

SB131柱穴P109断割り（北から）

SB131柱穴P468断割り（北から）

SB131完掘全景（北から）

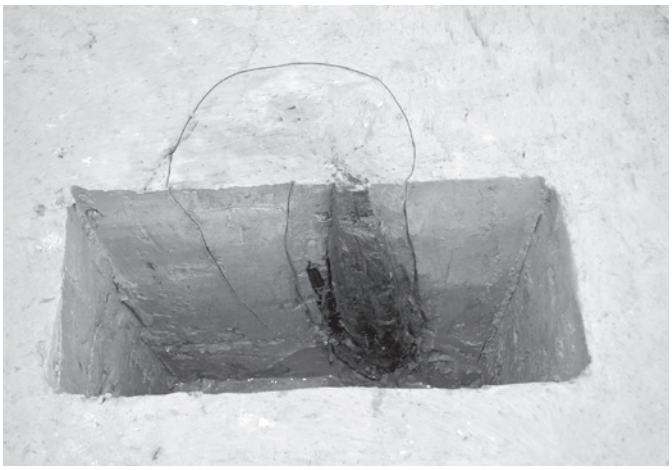

SB132完掘（東から）

SB198柱穴P147断割り（南西から）

SB198完掘全景（東から）

SB199柱穴P12断割り（南から）

SB199柱穴P15断割り（北から）


SB199柱穴P17断割り（北から）

SB199柱穴P23断割り（南から）

SB199柱穴断割り全景（東から）

SB500柱穴P39断割り（東から）

SB500柱穴P50断割り（南から）

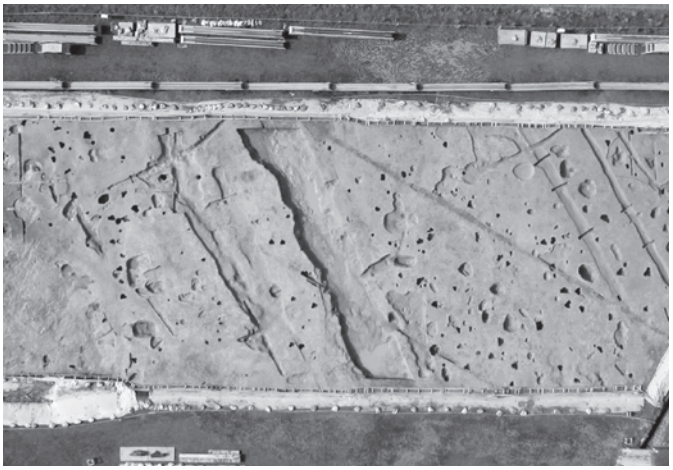
SB500完掘全景（東から）

SB501完掘全景（東から）

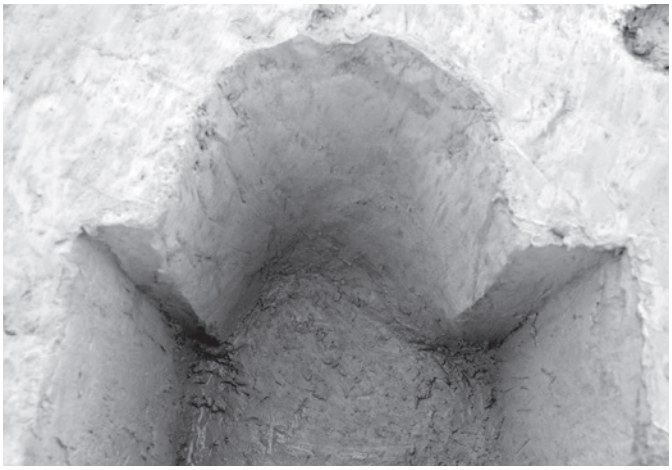
SB502完掘全景（北から）

SB503完掘全景（南東から）

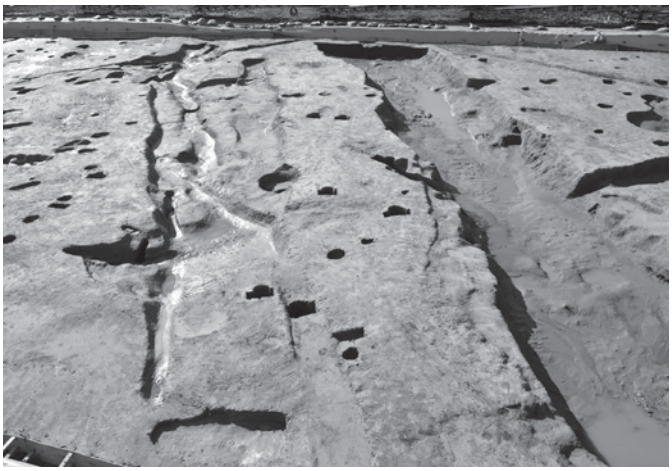
SB503完掘全景（南から）


SB504～508・510、SA515完掘（上方から）

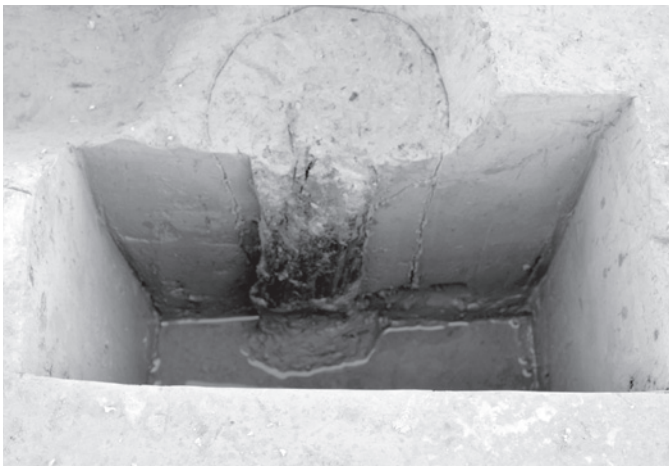
SB506柱穴P346断割り（南から）


SB507柱穴P432完掘（南から）

SB508柱穴P305断割り（南から）


SB509完掘全景（北東から）

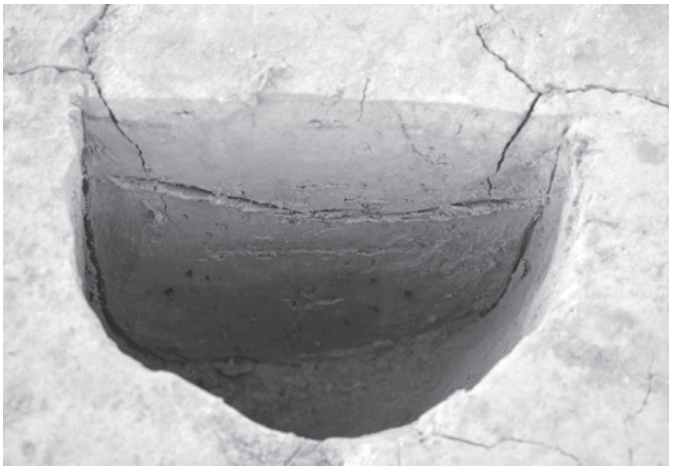
SB511柱穴P364断割り（東から）

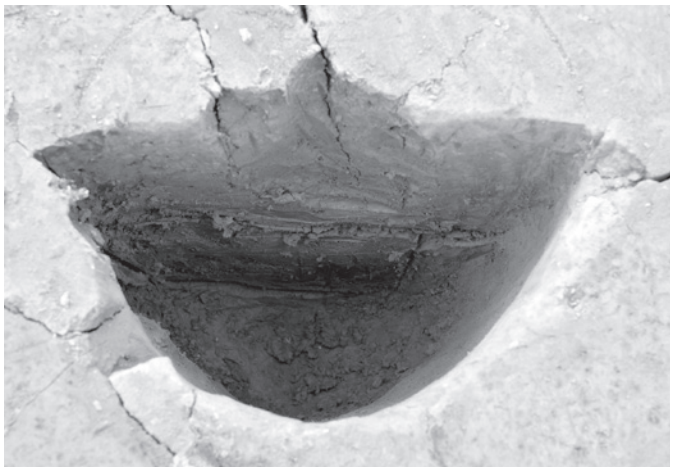

SB511柱穴P723断割り（北から）

SB511柱穴P756断割り（南西から）

SB511柱穴P759柱根検出（南から）

SB511完掘全景（上方から）


SA515柱穴P429土層断面（南から）


SA515柱穴P441土層断面（東から）

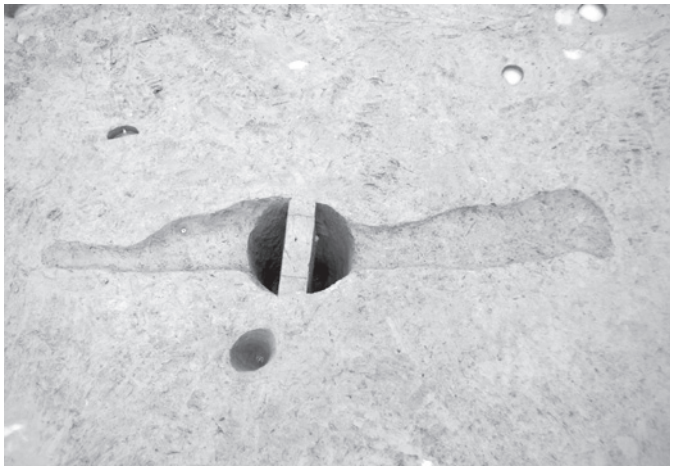
SD4遺物（106・107・108・226）出土状況（南から）

SD4完掘（北から）

SD5遺物出土状況（南から）

SD5完掘（北から）

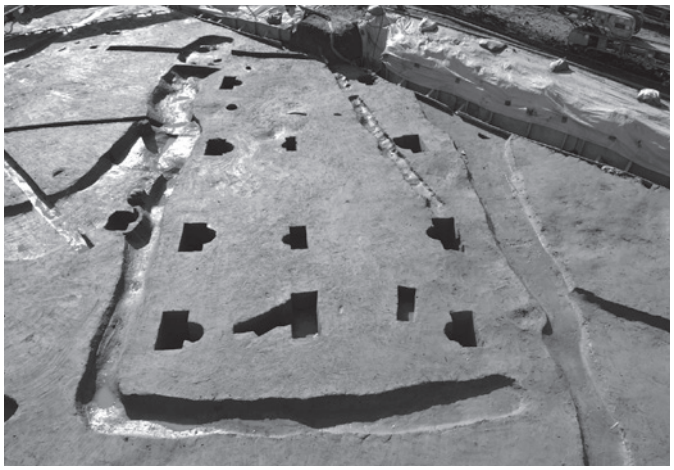
SD33完掘（北から）

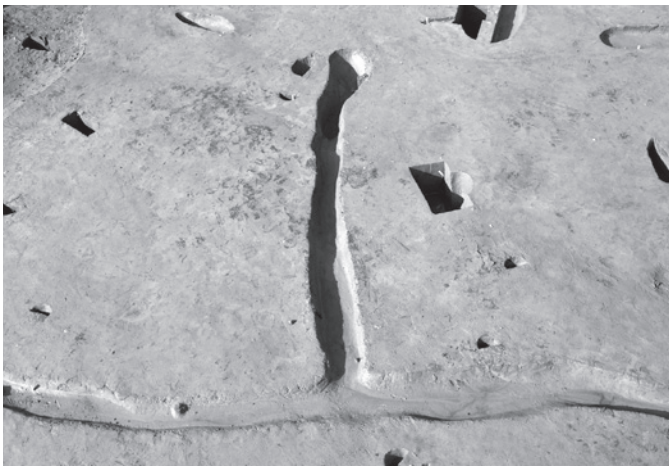

SD73完掘（南から）

SD75完掘（北東から）

SD94完掘全景（北東から）

SD100土層断面C（南から）


SD100完掘全景（北東から）


SD111完掘全景（北から）

SD116完掘全景（北東から）

SD117須恵器蓋（111）出土状況（南から）

SD117完掘全景（北から）

SD141土層断面（北から）

SD141（右）・160、SK403、SD668完掘全景（南から）

SD160土層断面A（南西から）

SD160（中央）・200・374完掘全景（北東から）

SD200土層断面B（南西から）

SD200杭検出状況（南東から）

SD250土層断面A（北西から）

SD250須恵器甕(113)・土師器高杯(114)出土状況(南東から)

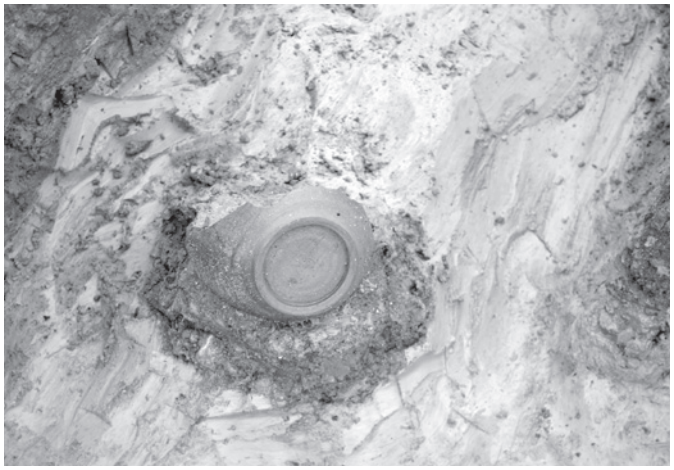
SD250・613完掘全景(南から)

SD290土層断面(東から)

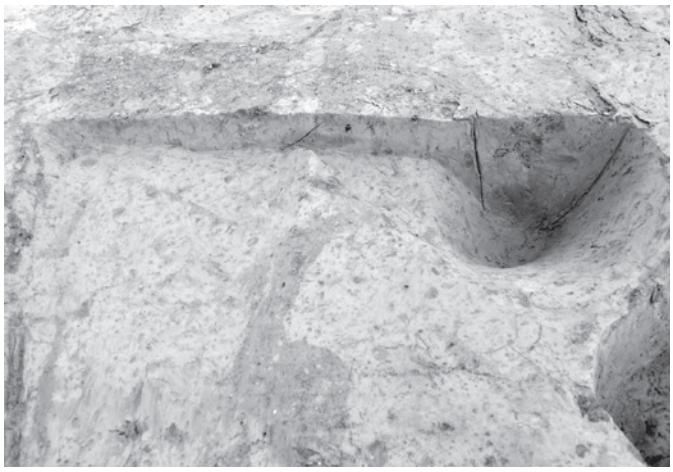
SD290材(しがらみ状)出土状況(南から)

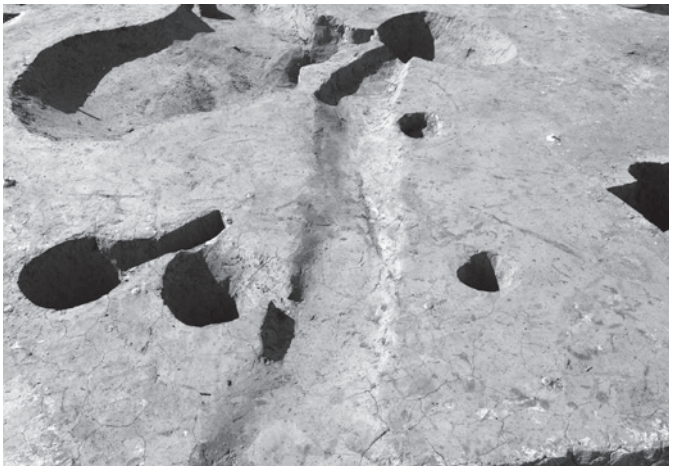
SD291土層断面E(西から)

SD291杭列出土状況(東から)

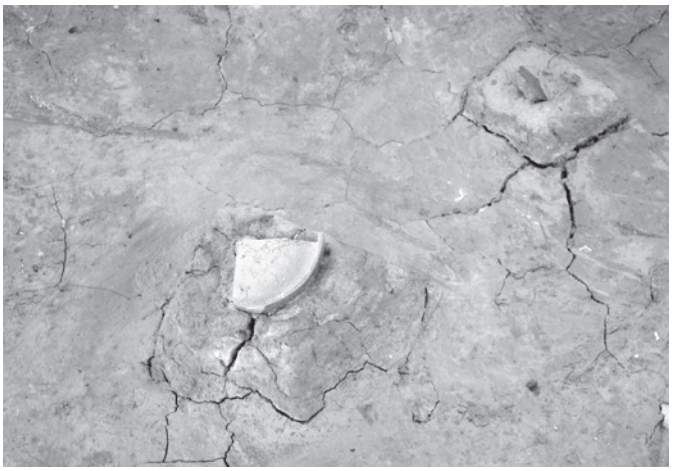

SD291須恵器杯(115)出土状況(東から)

SD291完掘全景(北東から)


SD307、P315土層断面（西から）

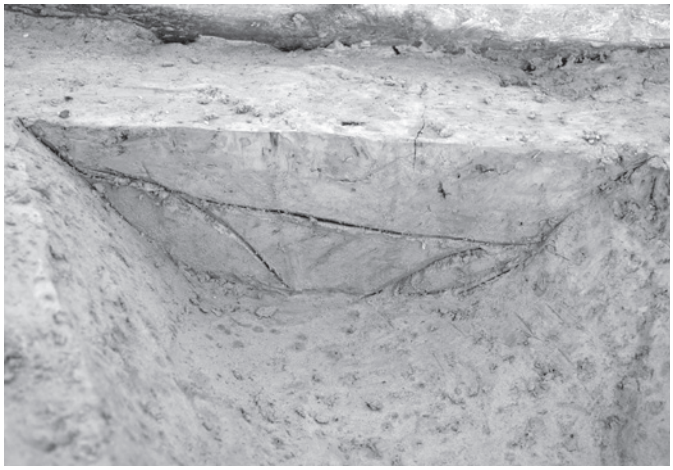

SD307完掘全景（東から）

SD340土層断面B（東から）


SD340須恵器蓋（119）出土状況（南から）

SD340（中央）・341・347（右）遺物出土状況（西から）

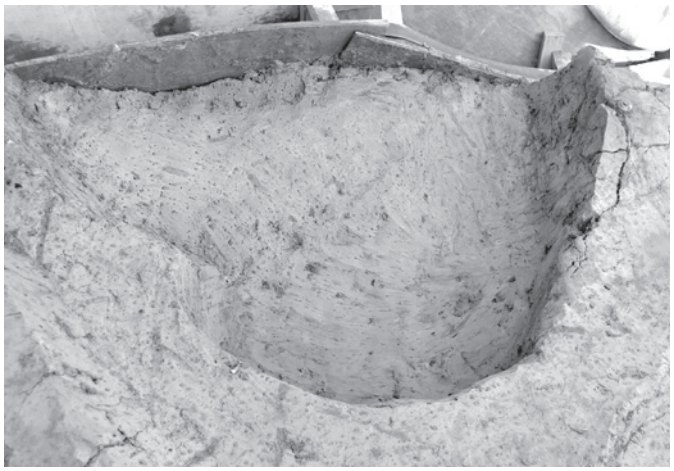
SD347土層断面C（東から）

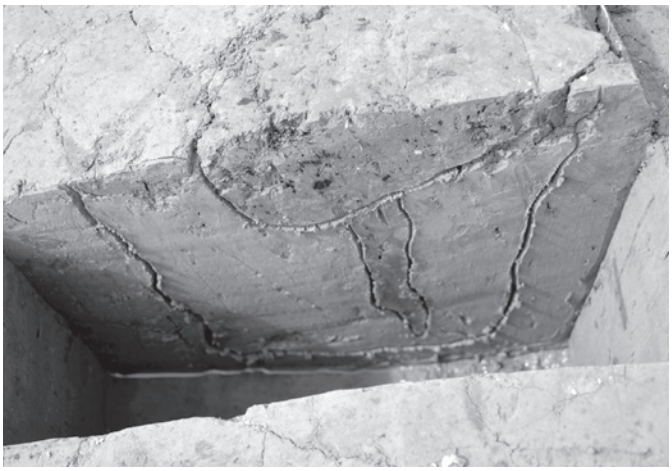

SD374土層断面A（東から）

SD374遺物出土近景（南東から）

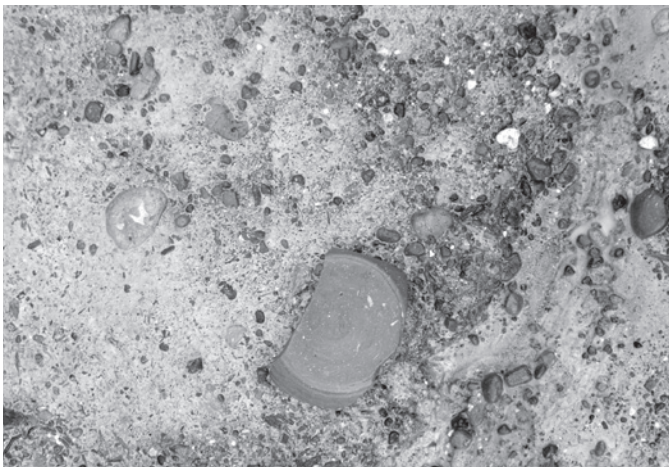
SD384土層断面（西から）

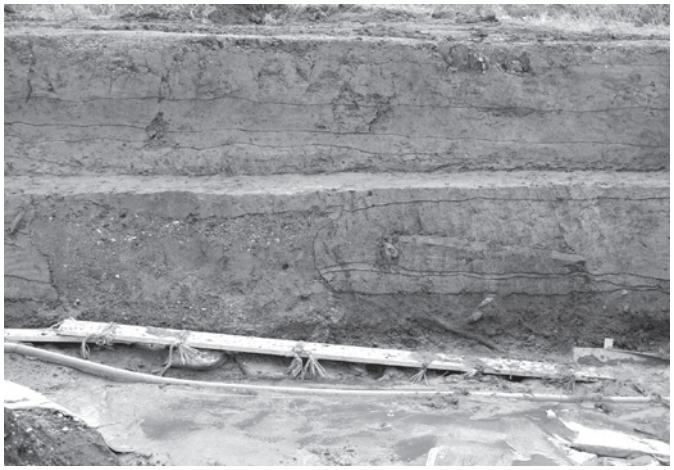
SD412土層断面（西から）


SD412完掘（西から）


SD414土層断面A（東から）

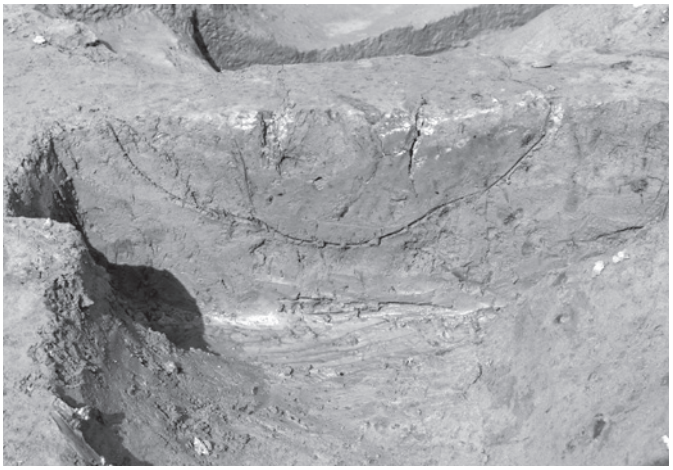
SD491東西畦西側土層断面（北から）

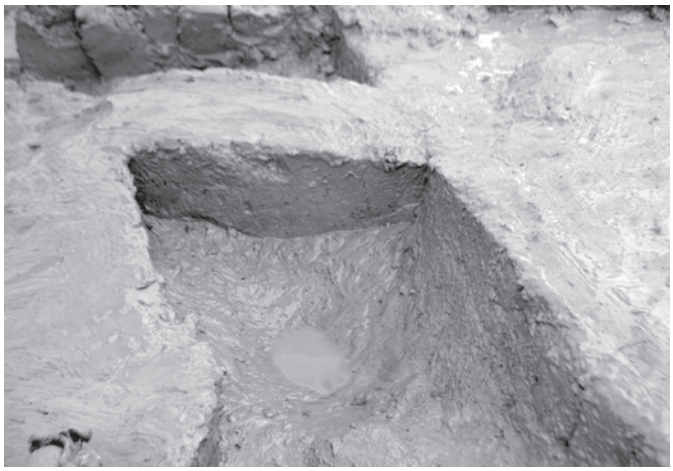

SD491須恵器杯（121）出土状況（南から）


SD491調査区東壁土層断面（西から）

SD532完掘（西から）

SD668土層断面A（北から）


SD724土層断面B（南東から）


SD768土層断面（東から）

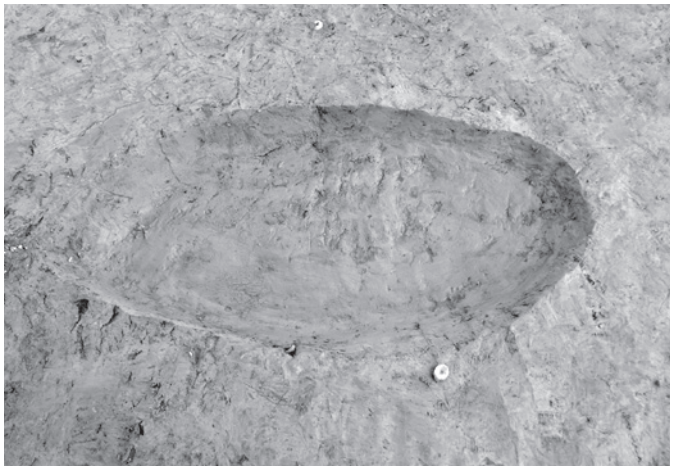
SK1土層断面（南から）

SK1完掘（南から）

SK2土層断面（南東から）

SK2完掘（南から）

SK3土層断面（北から）

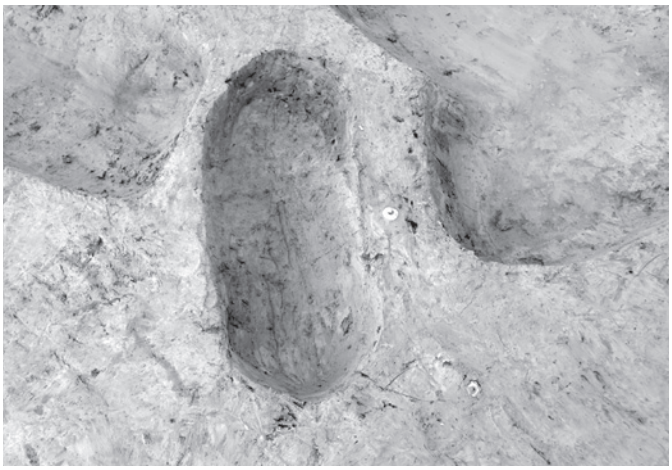

SK3完掘（西から）

SK6完掘（東から）

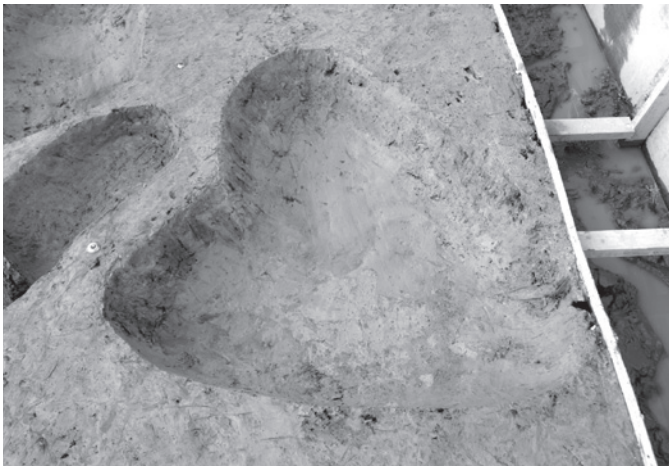
SK7土層断面（南から）

SK7完掘（南から）

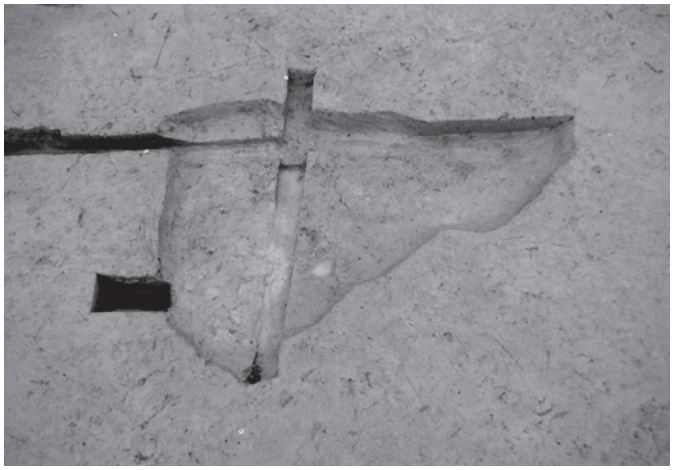
SK9土層断面（南西から）


SK9完掘（西から）

SK10土層断面（南から）

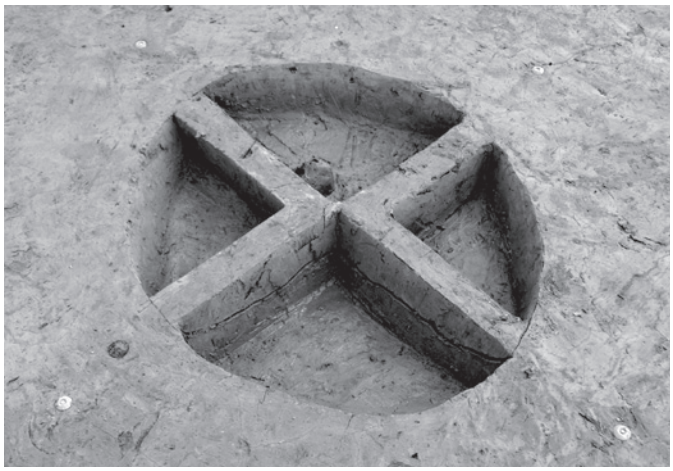

SK10完掘（東から）

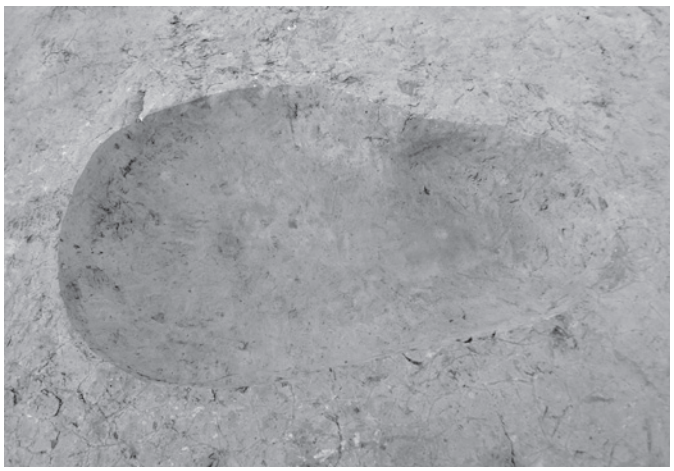
SK11土層断面A（東から）

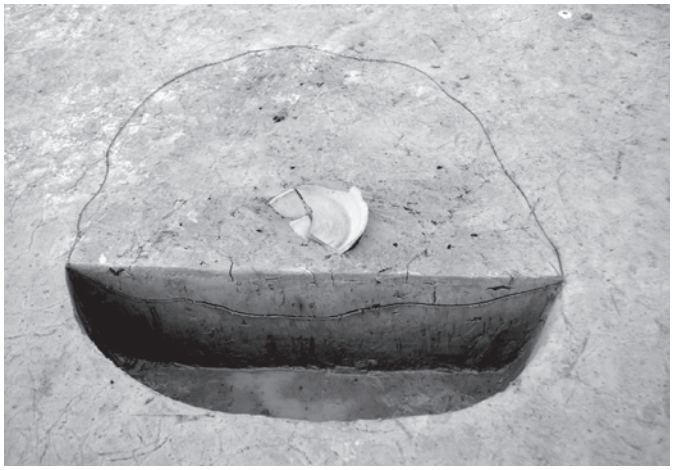

SK11完掘（南から）

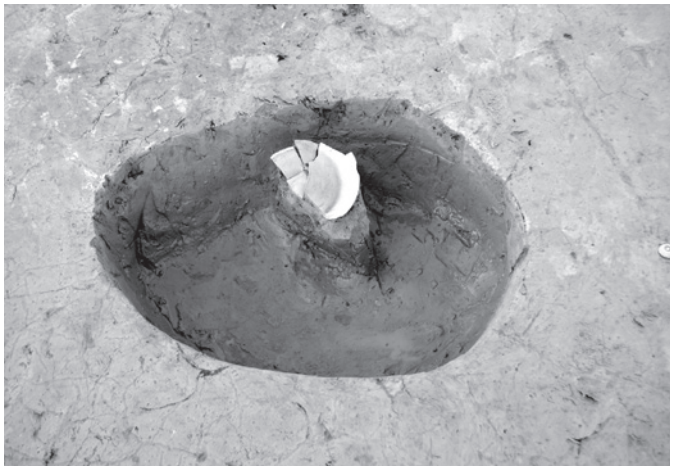
SK13土層断面（東から）

SK13完掘（北から）


SK16土層断面（北から）


SK19完掘（北から）

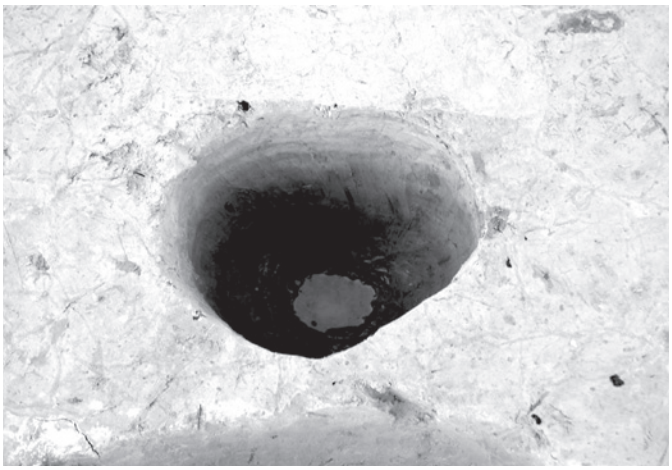

SK20土層断面（南から）

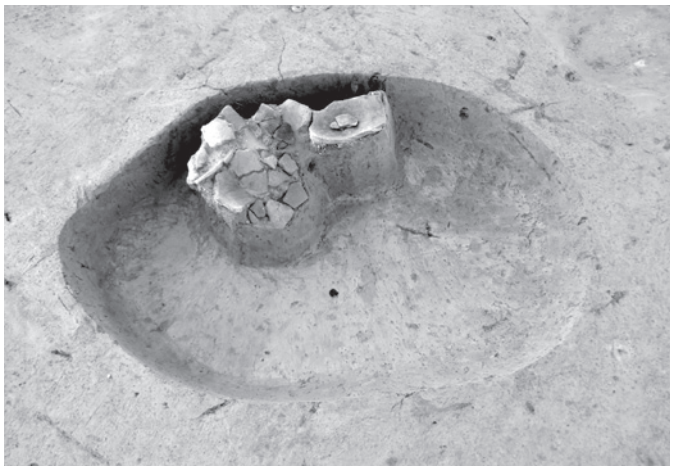

SK20須恵器杯（127）出土状況（南から）

SK24、P711完掘（東から）

SK29土層断面（西から）

SK30土層断面（西から）


SK31完掘（南から）


SK40土師器甕（128・129）出土状況（北から）

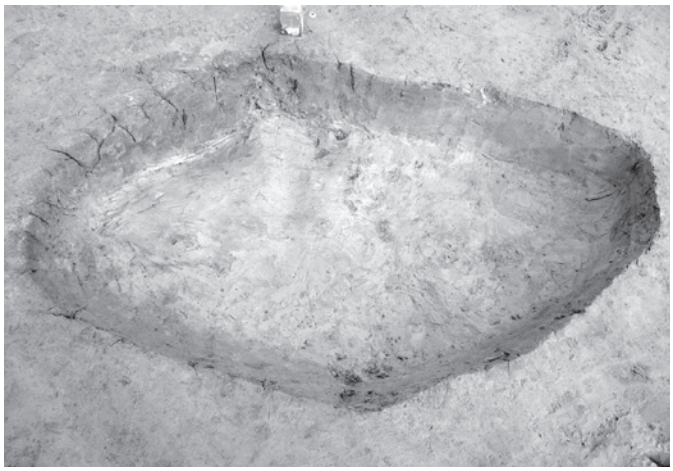
SK40完掘（東から）

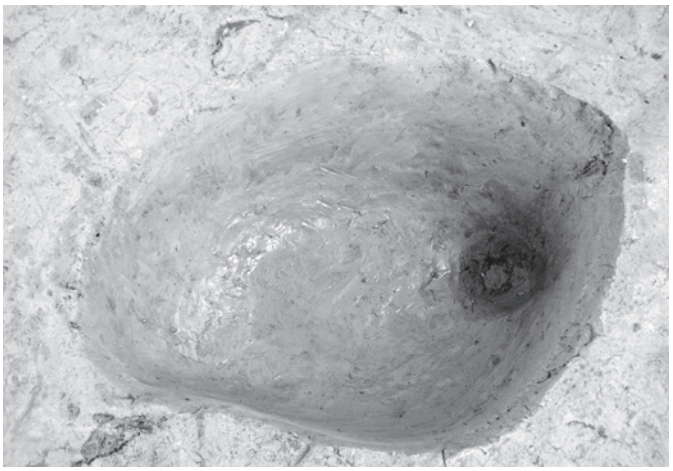
SK58土師器甕（130・131）出土状況（北から）

SK58完掘（東から）

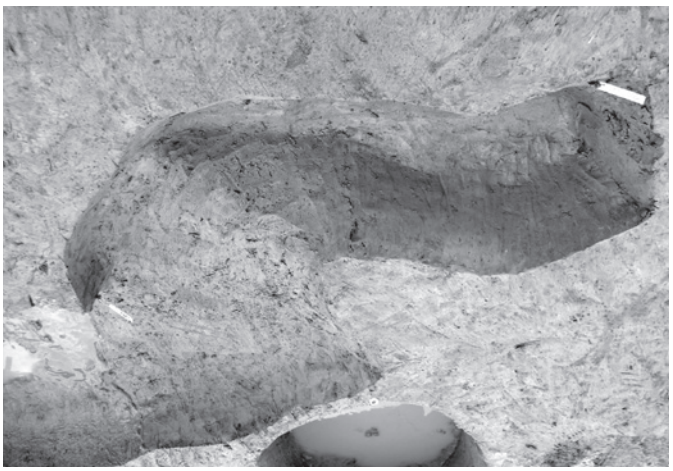
SK74土層断面（東から）

SK74遺物出土状況（東から）


SK74完掘（西から）

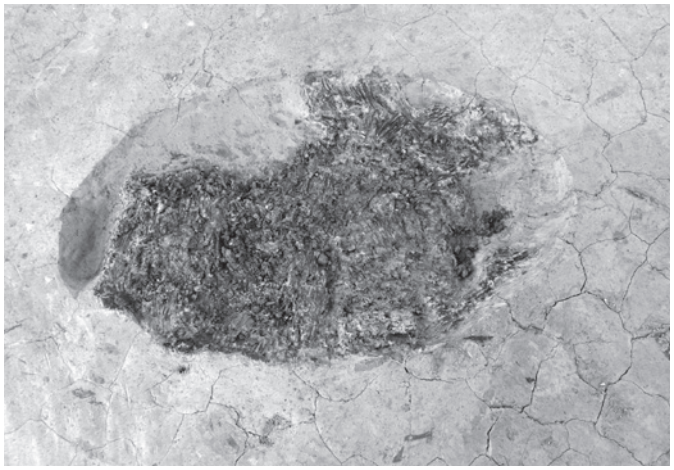

SK85完掘（南西から）

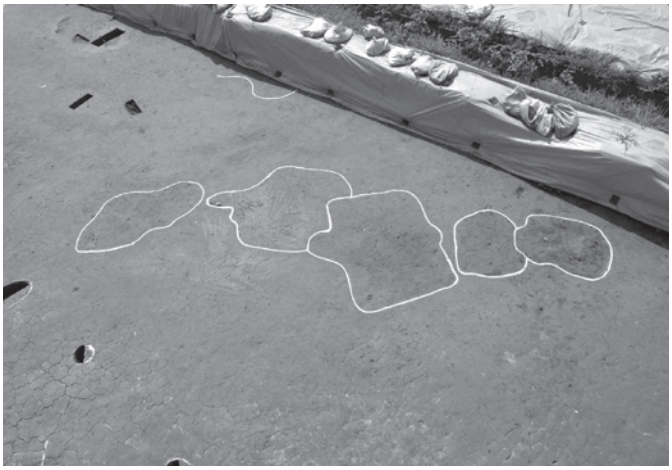
SK88完掘（南から）


SK89完掘（北から）

SK110完掘（西から）

SK128土層断面（南から）


SK130炭化物確認状況（南東から）


SK135～139確認状況（北から）

SK135土層断面（南東から）

SK136土層断面（東から）

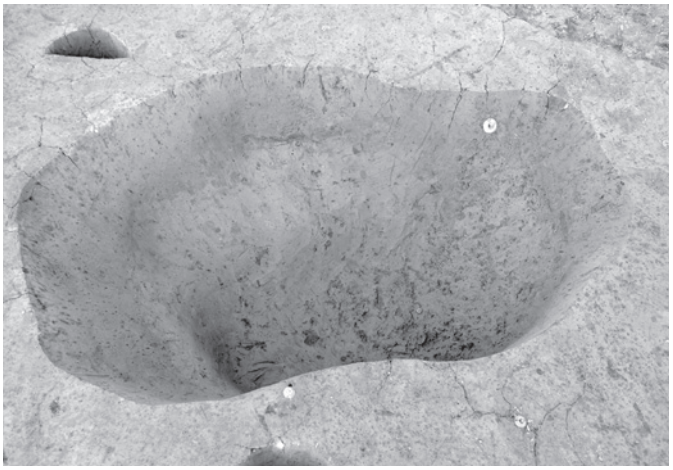
SK137土層断面（北から）

SK137（左）～139完掘（北から）

SK138土層断面（東から）

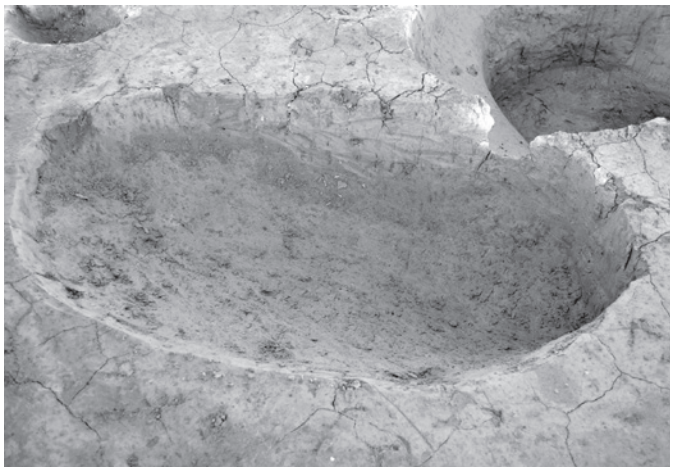
SK138・139（右）土層断面（北から）

SK150土層断面B（東から）

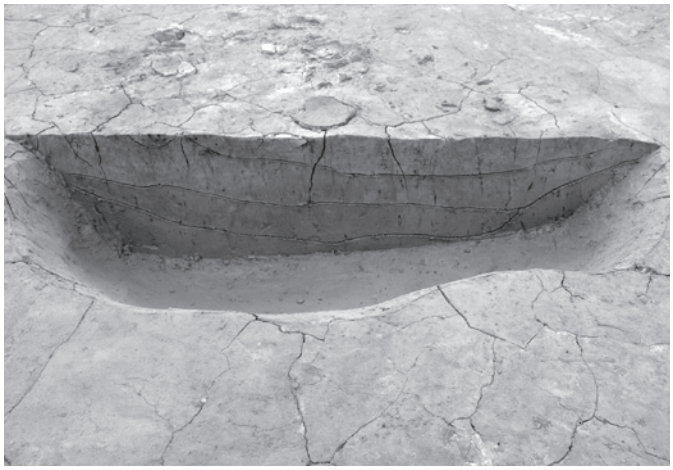

SK150完掘（南から）

SK163土層断面（南東から）

SK165土層断面（北東から）


SK165完掘（南から）

SK167土層断面（北西から）


SK172土層断面（北東から）

SK172土師器甕（133・134）出土状況（南から）

SK172完掘（南から）

SK180土層断面（東から）

SK182土層断面（南から）

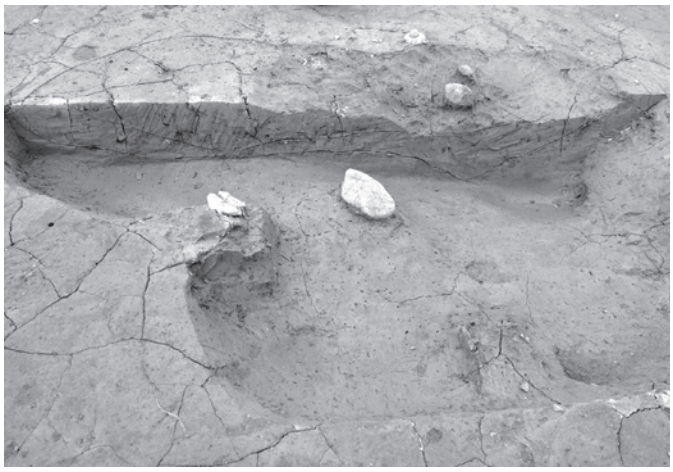
SK182完掘（南から）

SK190土層断面A（南東から）

SK190土師器甕（135）出土状況（南から）

SK197土層断面（南から）

SK197土師器甕（136）出土状況（北から）


SK207土層断面（南東から）

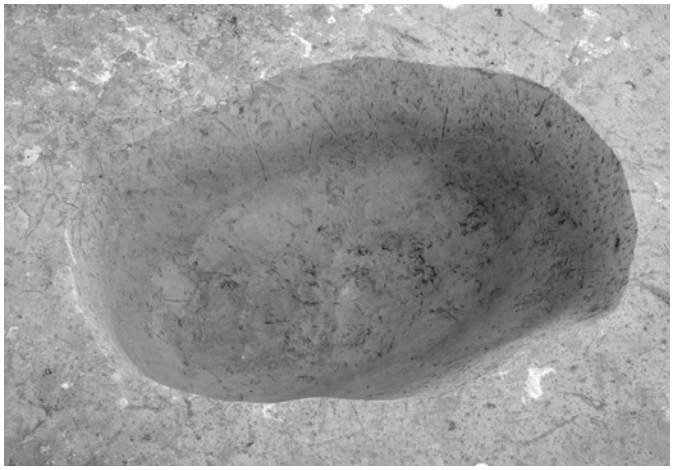
SK207遺物出土状況（東から）

SK208土層断面B（南西から）

SK208遺物出土状況（南東から）

SK210土層断面（東から）

SK210須恵器甕（137）、土師器高杯（138）、土師器甕（139）出土近接（西から）

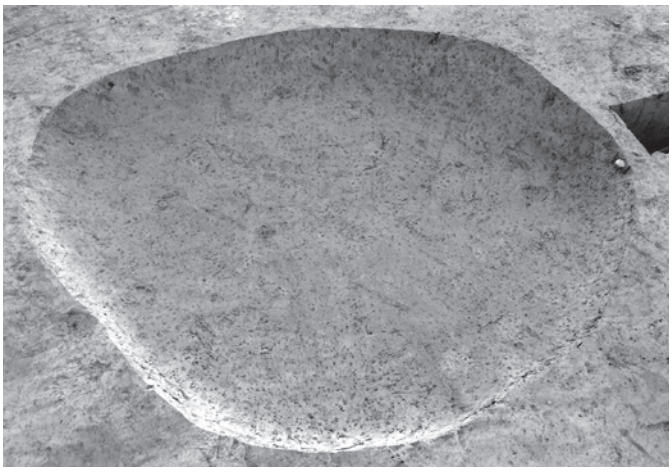

SK210完掘（北西から）

SK215土層断面（南から）

SK216、P223土層断面（北西から）

SK234土師器甕（140・土師器鉢（141）出土状況（南西から）

SK240土層断面A（東から）

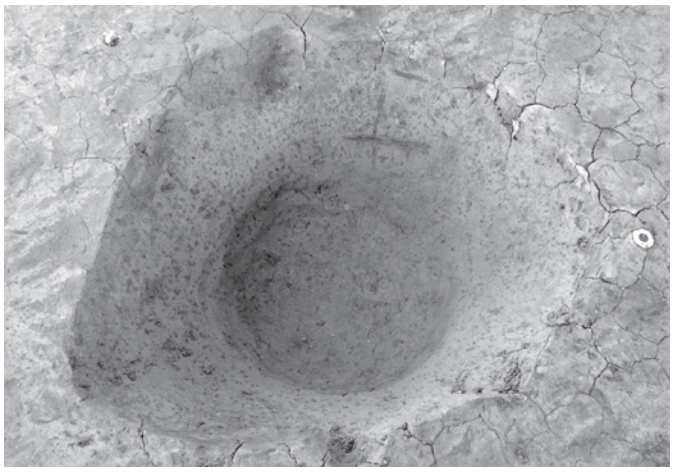

SK240完掘（東から）

SK244土層断面C（北東から）

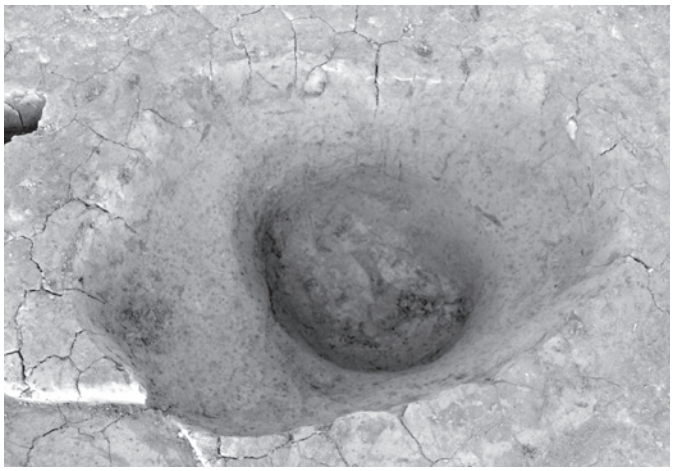
SK246土層断面（北から）

SK246完掘（北から）

SK247土層断面・土師器甕（143）出土状況（東から）


SK247完掘（東から）

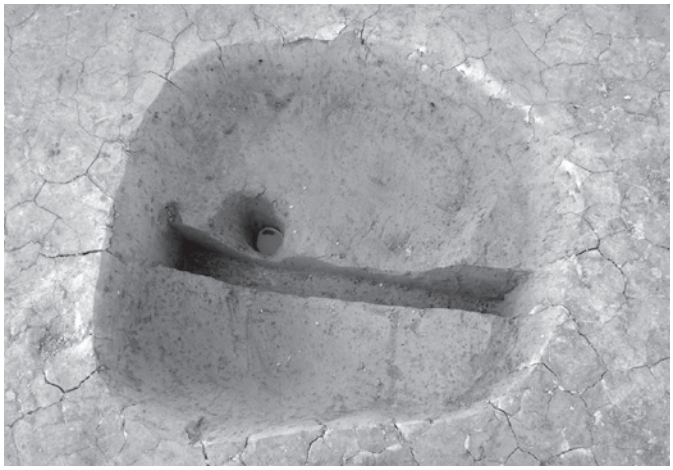
SK261土層断面・土師器甕（144）出土状況（北から）


SK261完掘（南から）

SK277土層断面（西から）

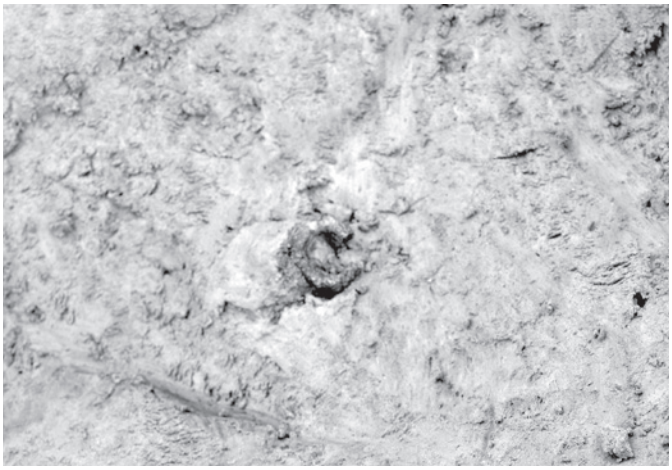
SK278土層断面（東から）

SK278土師器杯（145）出土状況（南東から）

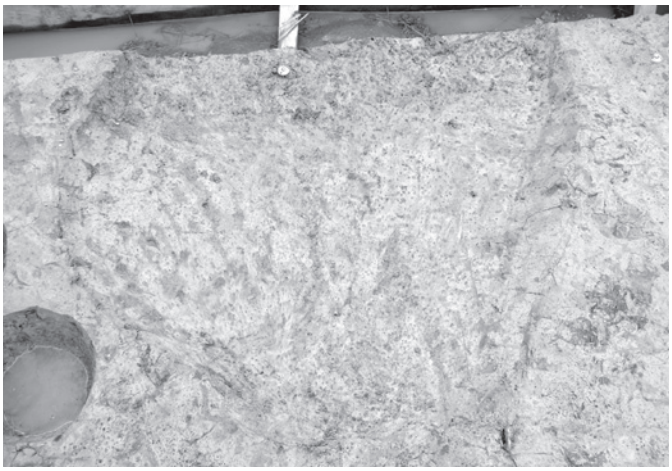

SK278完掘（南東から）

SK281土層断面（東から）

SK282土層断面（北から）


SK282耳環（277）出土状況（北から）

SK297土層断面B（南から）

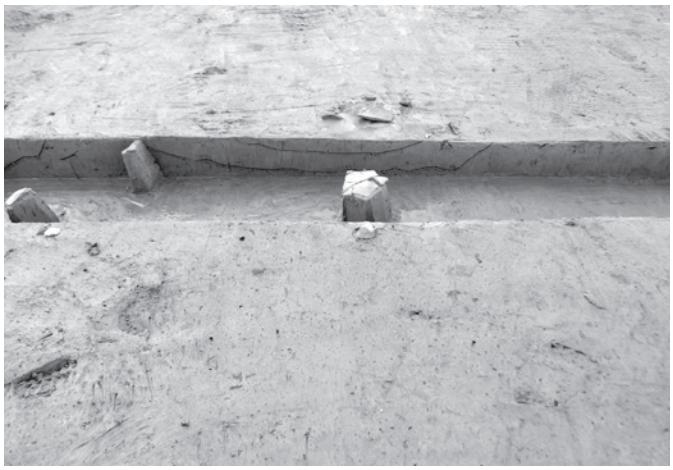

SK297完掘（東から）

SK306土層断面（南から）

SK308土層断面C（北から）

SK308完掘（西から）

SK309土層断面（南から）



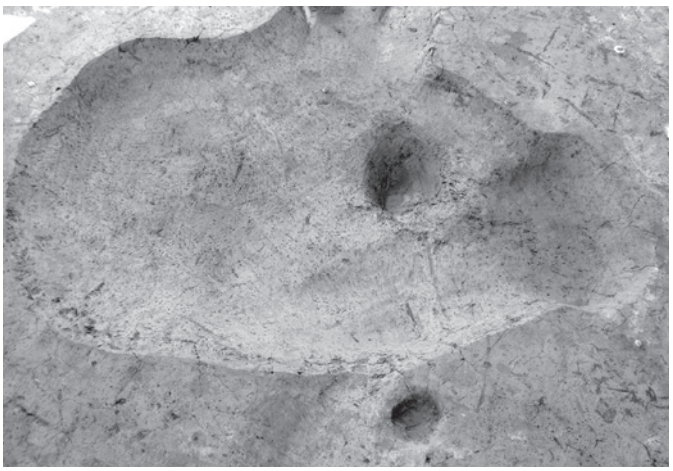
SK311土層断面（東から）

SK311（右）・313・402土師器甕（146・147）、須恵器杯（148）、
土師器鉢（149）、土師器甕（150・151・160・161）出土状況（東から）

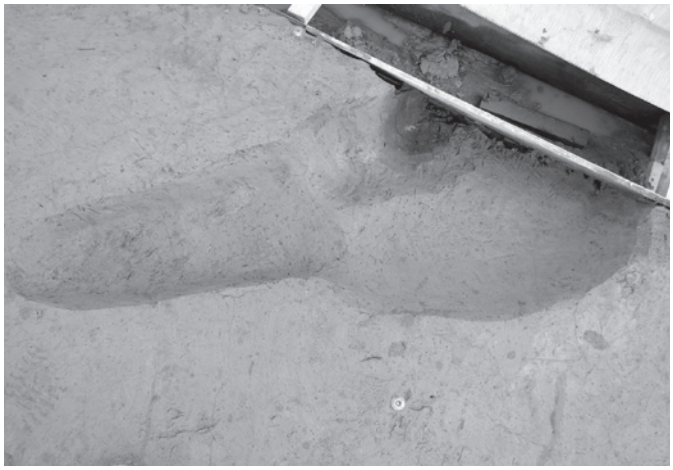
SK311（右）・313・402完掘（東から）

SK313確認全景（西から）

SK314土層断面（東から）



SK314完掘（東から）



SK322完掘（南西から）

SK330土層断面（南東から）

SK330完掘（南東から）

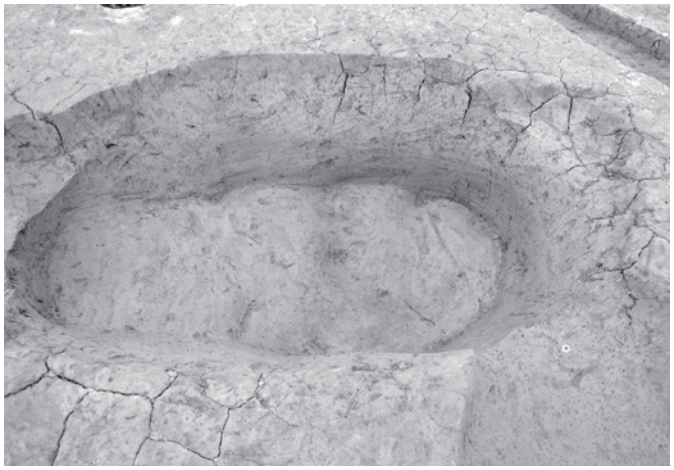
SK370土師器高杯（153）出土状況（東から）

SK371土層断面（北から）

SK377土層断面（東から）

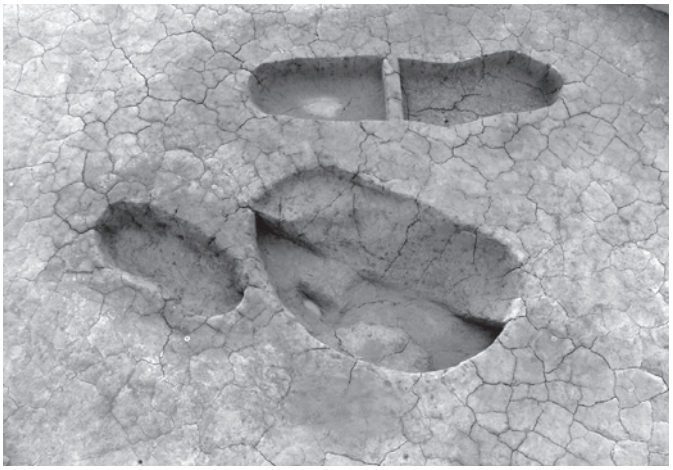
SK377炭化物出土（東から）

SK377遺物出土状況（東から）


SK377完掘（東から）

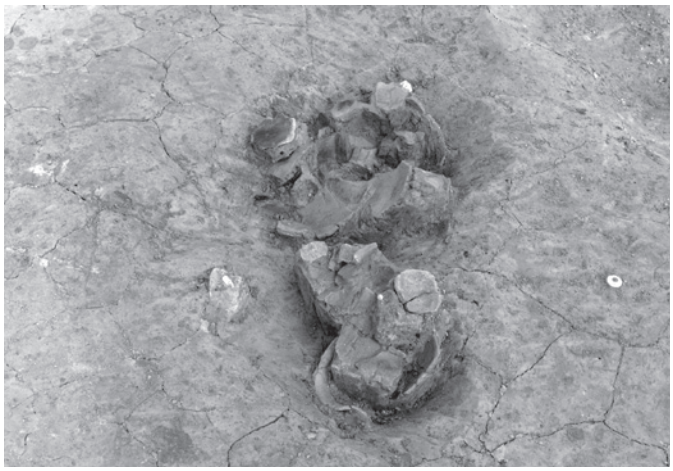
SK378土層断面（東から）

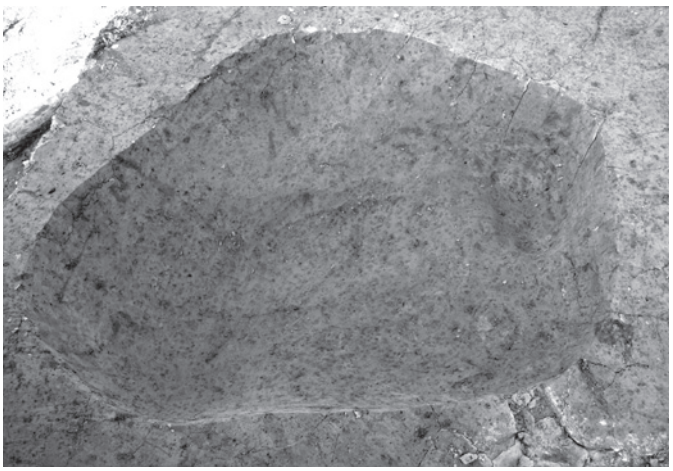
SK378完掘（東から）


SK382（左）・383、SD384完掘（東から）

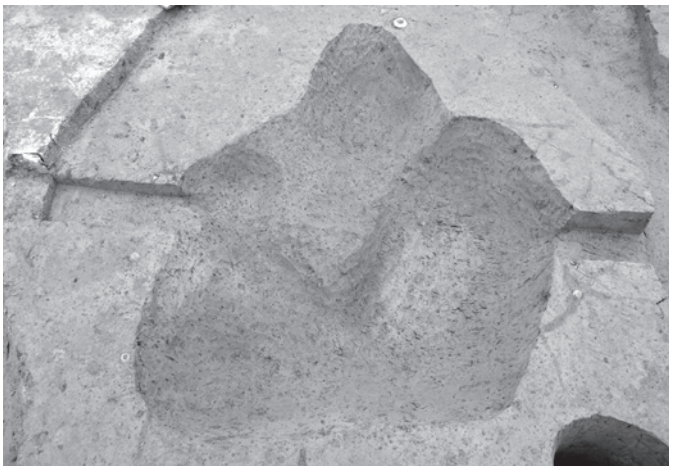
SK383土層断面（東から）

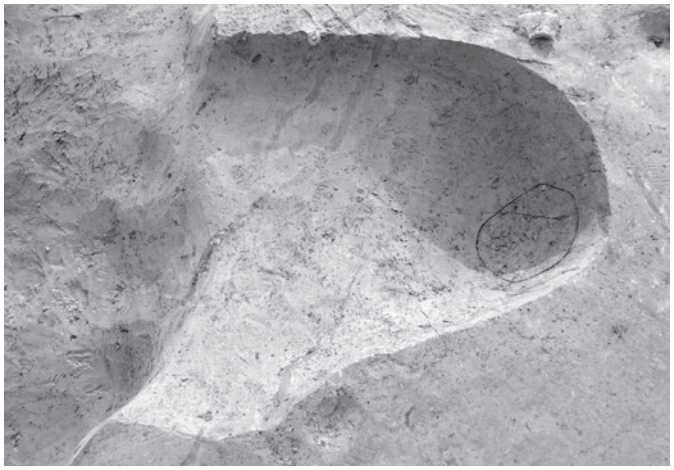
SK383完掘（東から）


SK389土師器甕（154～157）出土状況（北西から）


SK390完掘（南から）

SK391土層断面A（南から）


SK391完掘（東から）


SK393完掘（東から）

SK393・394・719・720・727完掘全景（南から）

SK394土層断面A（北から）

SK394土師器鉢（158）出土状況（南から）

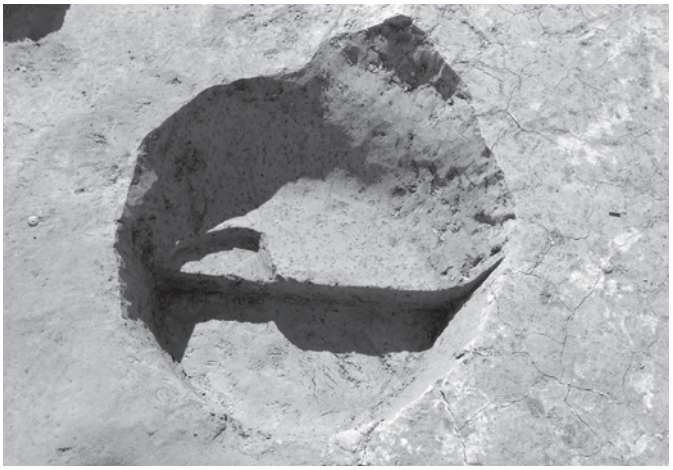
SK394完掘（南から）

SK402土師器甕（160・161）出土状況（東から）

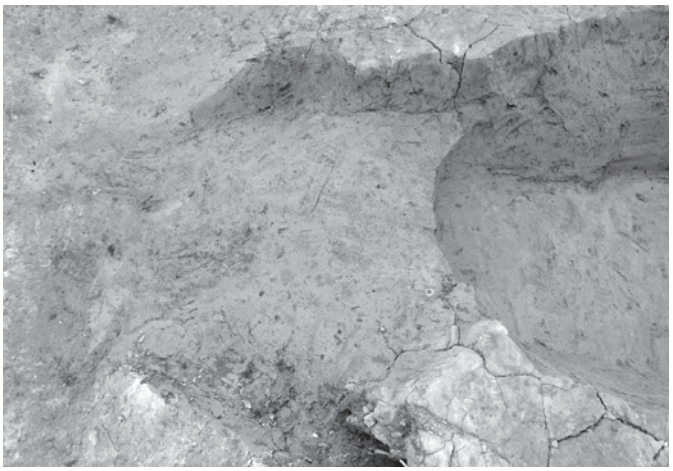
SK403土層断面（北から）

SK403土師器甕（163・164）出土状況（東から）

SK403完掘（東から）


SK405完掘（東から）

SK409土層断面（東から）


SK413完掘（東から）

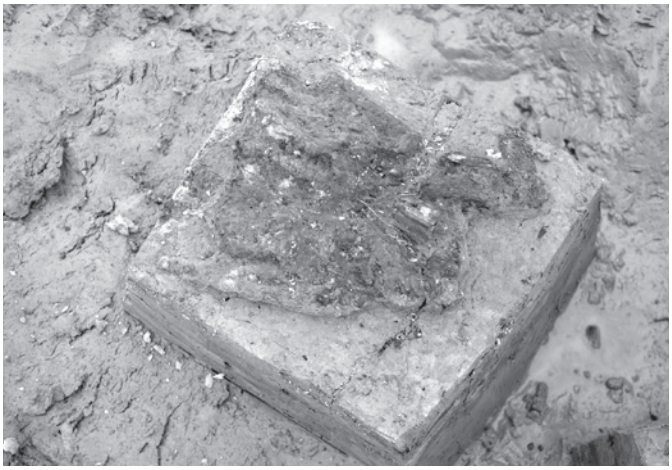
SK415土層断面（西から）

SK415完掘（南から）

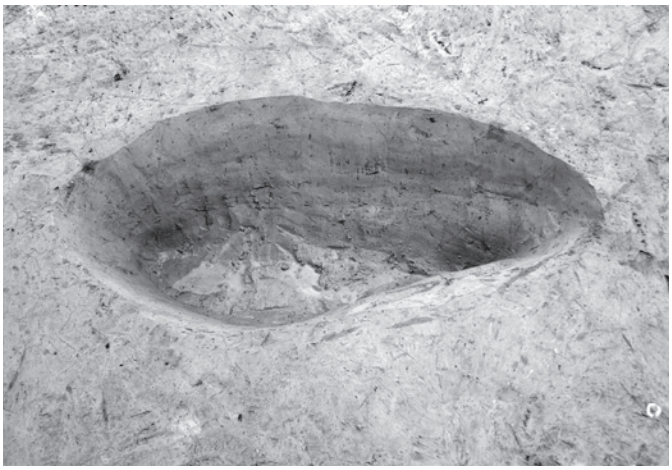
SK416土層断面A（西から）

SK416炭化物・遺物出土状況（南から）

SK417土層断面C（北東から）

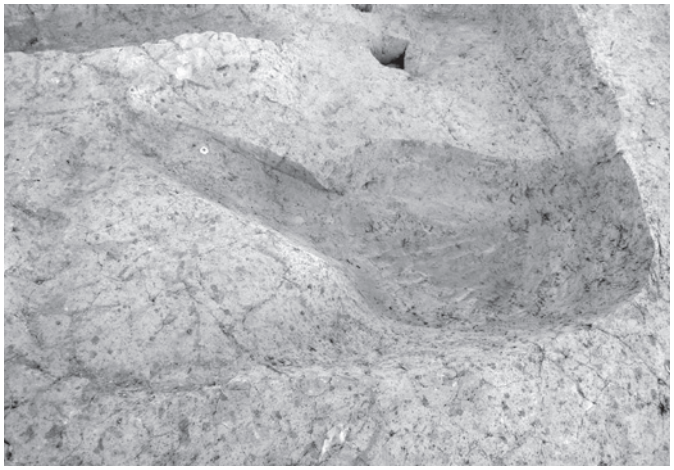

SK417炭化材出土状況（北から）

SK418土層断面（南東から）

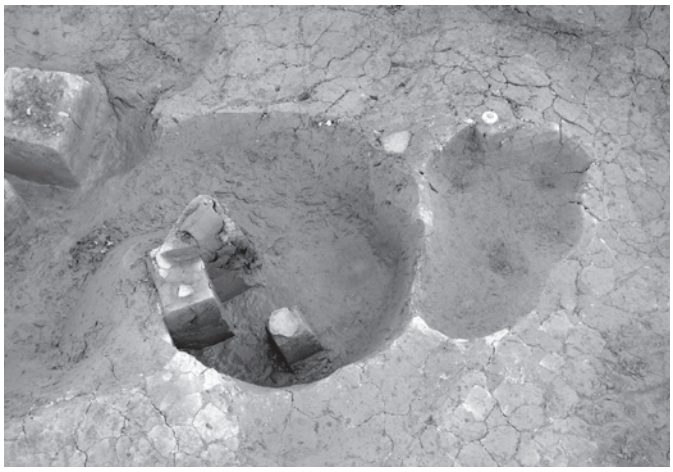

SK420完掘（北から）

SK421土師器甕（165・166）、円筒形土製品（243）出土状況（北西から）

SK423土層断面A、土師器椀（167）・土師器甕（168）出土状況（南から）


SK423完掘（西から）

SK424土層断面（南東から）

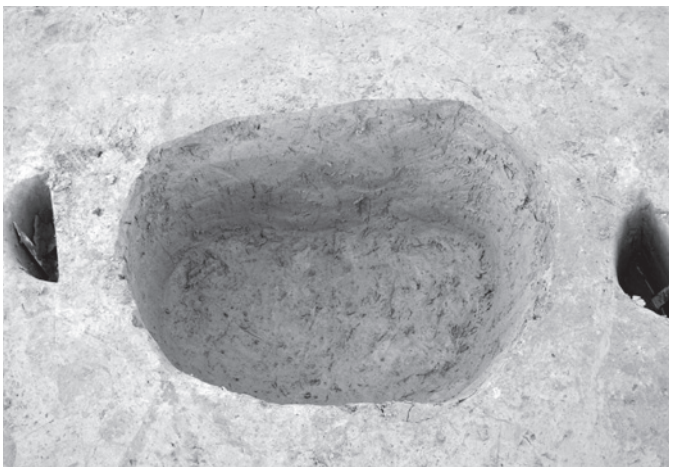

SK421・426（右）炭化物・遺物出土状況（西から）

SK437土層断面（東から）

SK452土層断面（南西から）

SK490土層断面（東から）

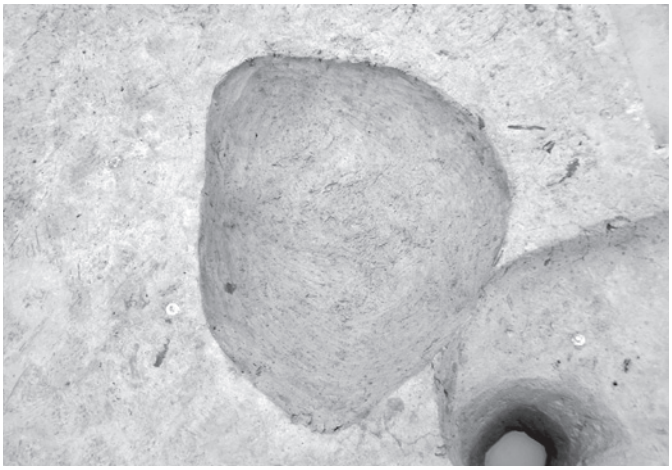
SK490完掘（南から）

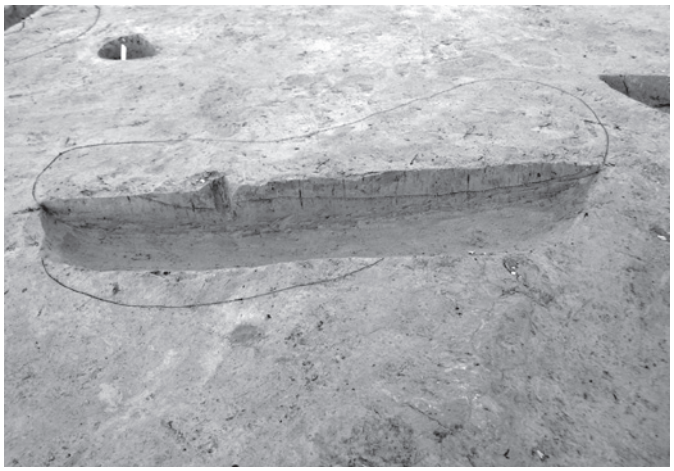

SK547完掘（南から）

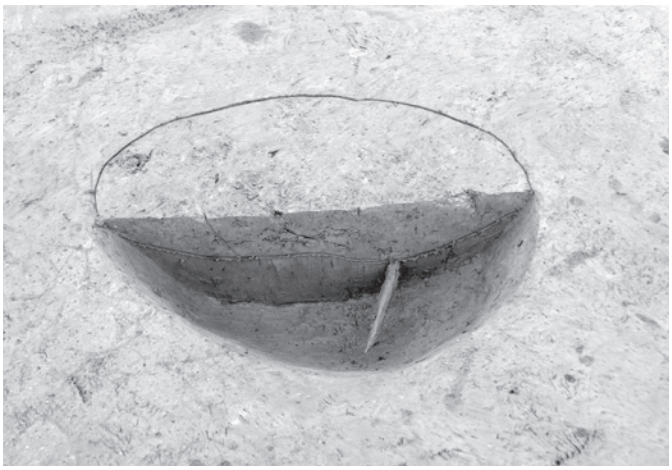
SK557土層断面（南から）

SK558土層断面（西から）

SK559土層断面（北から）

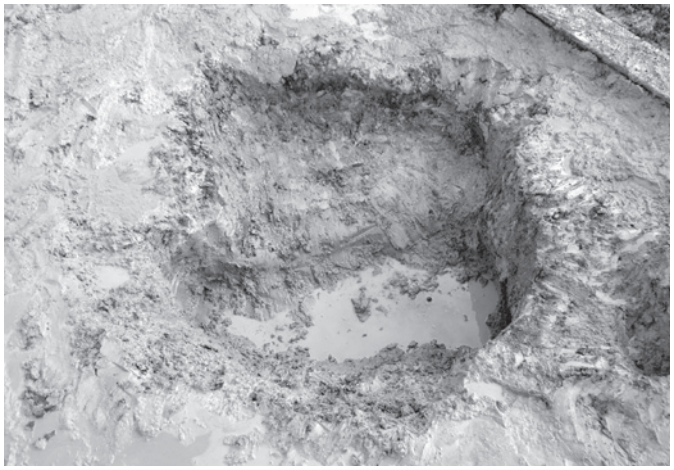

SK559完掘（北から）

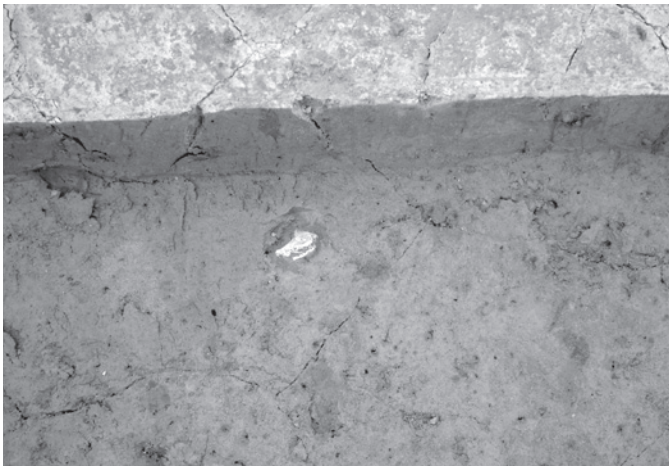

SK560土層断面（南から）


SK574土層断面（南西から）

SK574遺物出土状況（南西から）

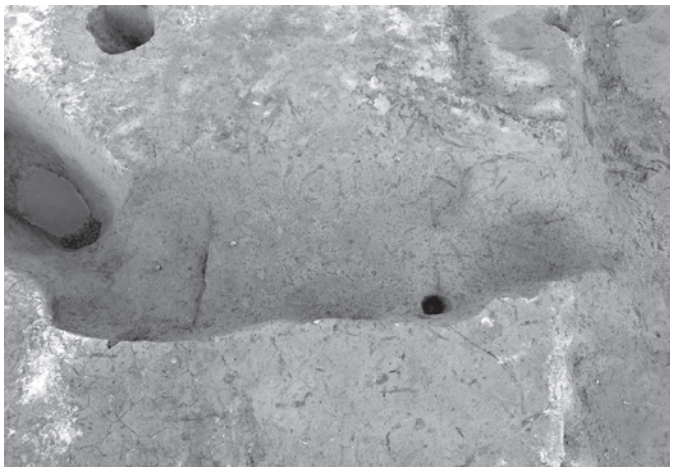
SK653材出土状況（北から）


SK653完掘（西から）


SK665獣骨出土状況（西から）

SK717土層断面（西から）

SK717炭化物出土状況（西から）


SK717・718完掘（北から）

SK719土層断面（北から）

SK719土師器椀（169）、土師器高杯（170・171）、土師器甕（172～175）
出土状況近接（南から）

SK719完掘（北から）

SK720土層断面A（北から）

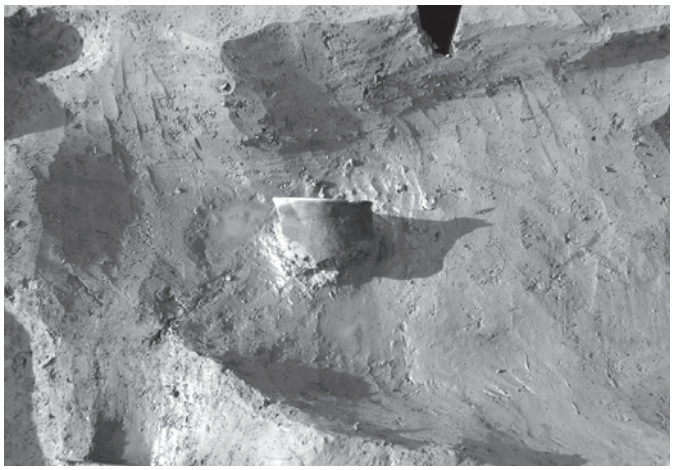
SK720土師器甕（176）出土状況（西から）

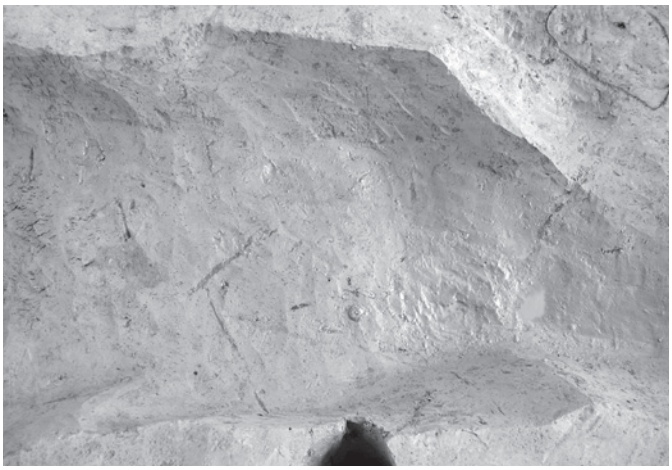
SK720完掘（西から）

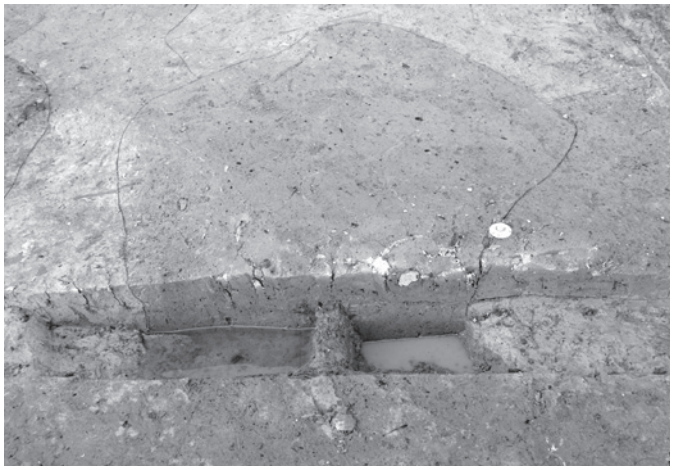
SK726土層断面（南から）

SK726完掘（南から）

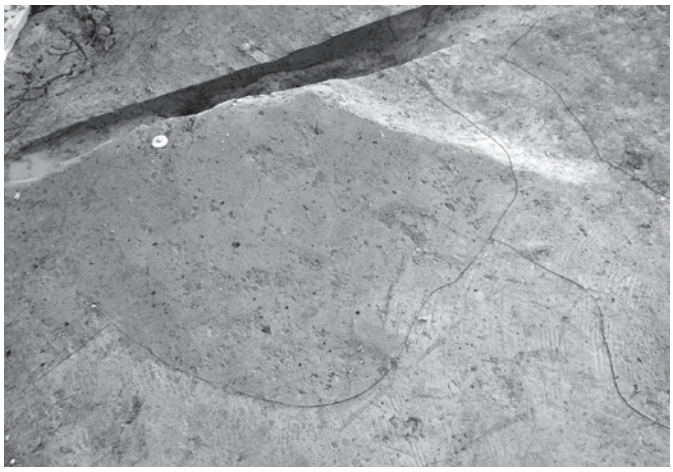
SK727土層断面B（東から）


SK727土師器甕（179）出土状況（南から）


SK727完掘（北から）


SK730土層断面（南から）

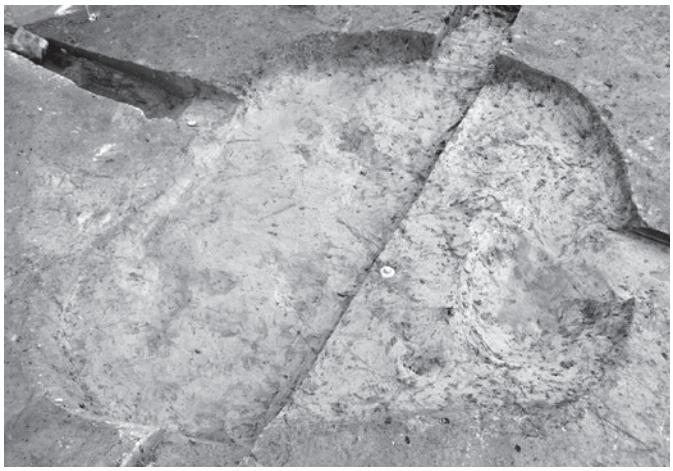
SK730完掘（東から）


SK730遺構確認状況（北から）

SK731遺構確認状況（北から）

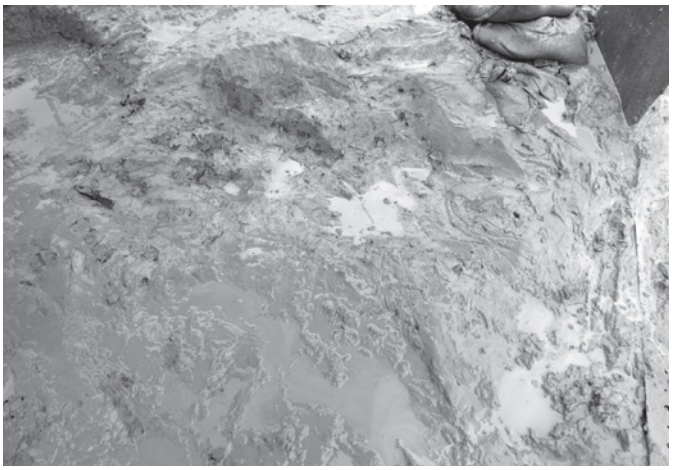
SK731土層断面（東から）

SK731炭化物出土状況（北から）


SK731完掘（北から）

SK732土層断面（東から）

SK733土層断面（東から）


SK733完掘（南から）

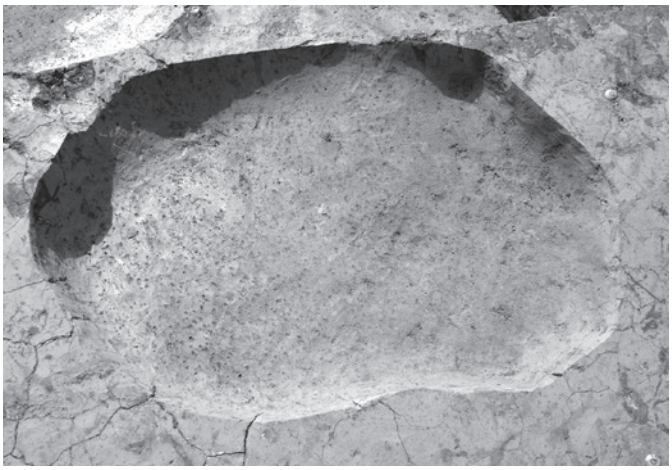
SK734土層断面（東から）

SK734土師器甕（186）出土状況（東から）

SK734完掘（西から）

SK417・421・741土層断面A（北西から）

SK741炭化物・遺物出土状況（西から）

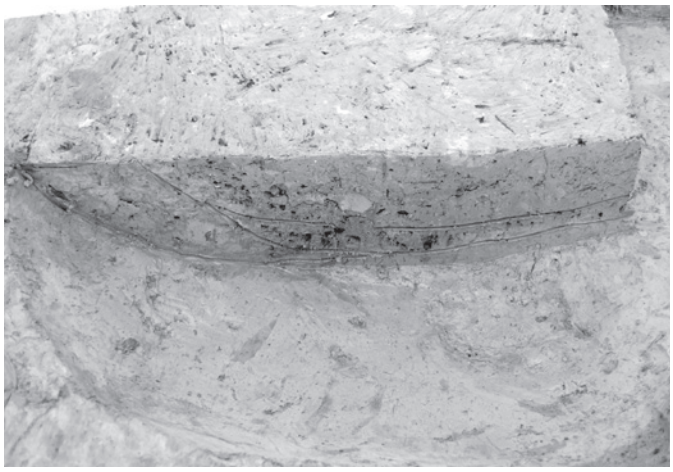

SK744完掘（北から）

SK755土層断面（南西から）

SK755土製円柱支脚（240）出土状況（南から）

SK755土師器杯(187)、土師器甕(188・189)出土状況(東から)

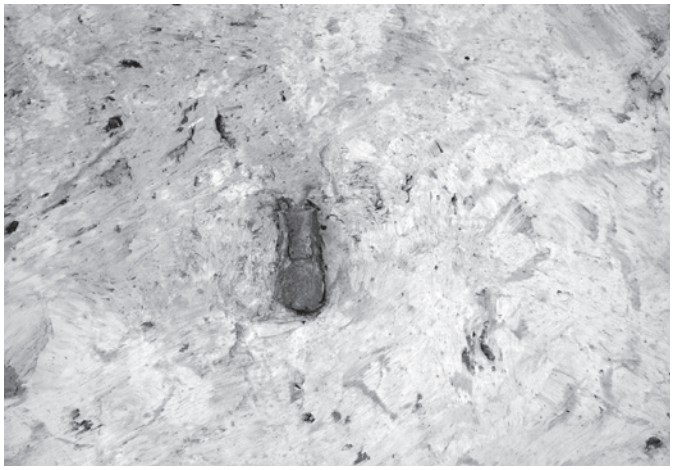
SK755完掘(東から)

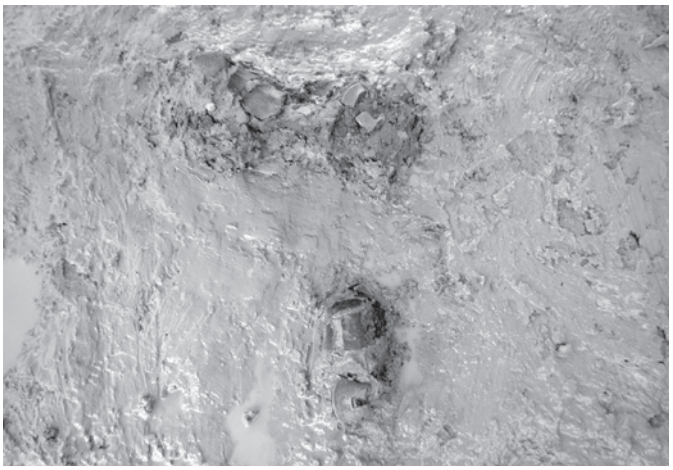

SK764土層断面(東から)

SK764完掘(東から)

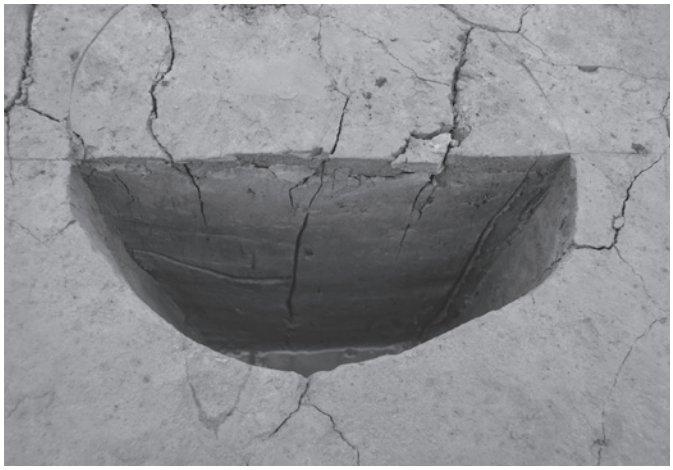
SK765土層断面(南西から)

SK765円筒形土製品(242)出土状況(北東から)


SK765鉄斧(279)出土状況(東から)


SK767土師器高杯(192)出土状況(北から)

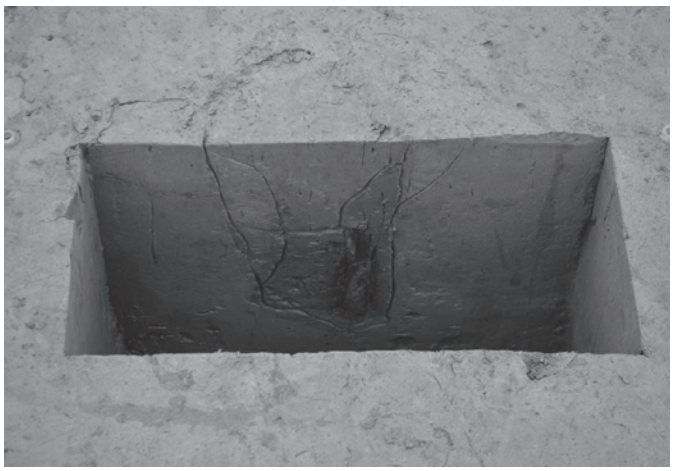
P42土層断面（東から）


P168土層断面（南から）

P171土層断面（南から）

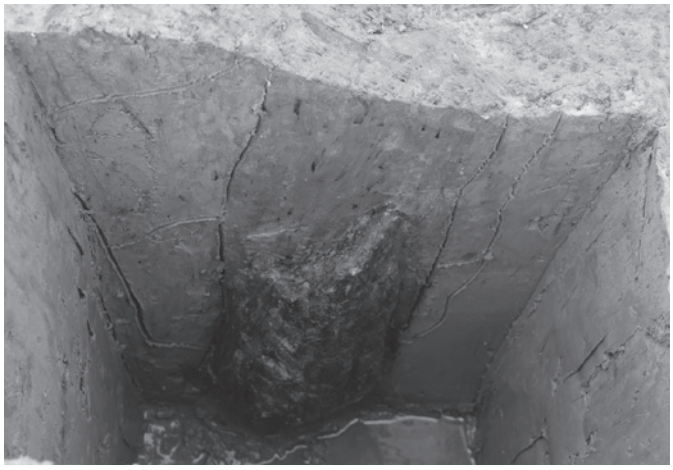
P203土層断面（南から）

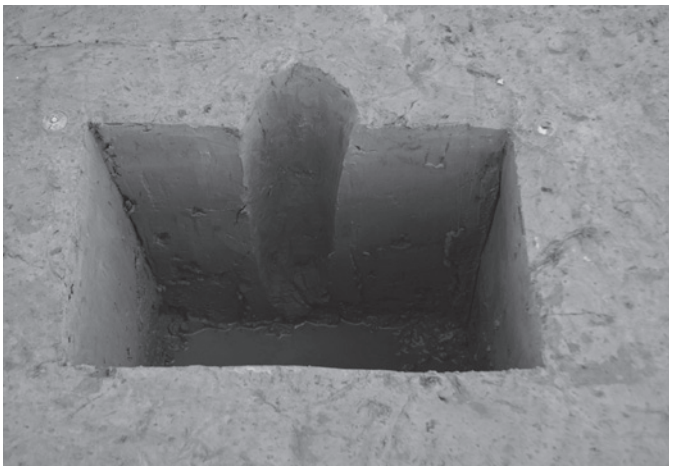
P204柱根出土状況（南東から）


P279土層断面（南東から）

P434土層断面（東から）

P736土層断面（南西から）


P743土層断面（西から）


K26完掘状況

K69土層断面（西から）

K108土層断面（西から）

K388（左）・344土層断面（北西から）

K392土層断面（南東から）

K395土層断面（西から）

K396土層断面（南から）

K566土層断面（南東から）

K654土層断面（南西から）

K664（左）・696土層断面（南から）

K698土層断面（西から）

K701土層断面（西から）

K777土層断面（北から）

K778土層断面（東から）

K780土層断面（北から）

噴砂脈とSK394（7世紀後半）の切合い状況（西から）

噴砂脈断面13B18（西から）

遺構（11B04・05）掘削状況（北西から）

遺構（13B04・05、13C01・02）確認状況（南東から）

土壌洗浄作業

現地説明会（1）

現地説明会（2）

現地説明会（3）

飛鳥時代（７世紀後半）の土器群

平安時代前期（８世紀末～９世紀中頃）の土器群

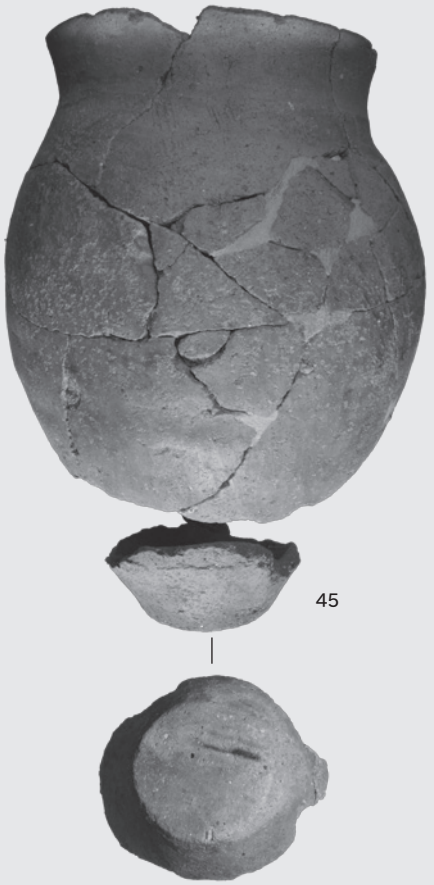
平安時代前期（10世紀代）の土器群

中世（15世紀代）の土器群

弥生時代の土器群

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24

25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44



45

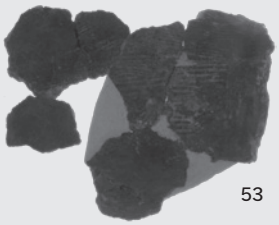
47

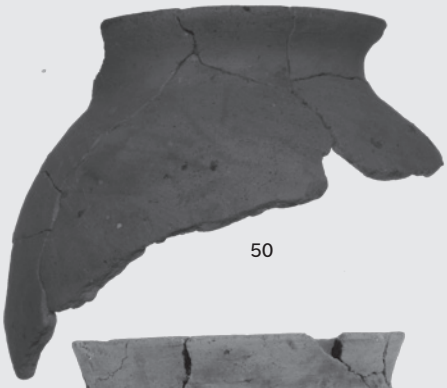
46

48

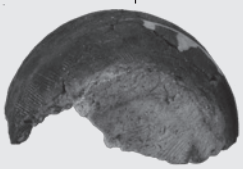
49

52


53


50

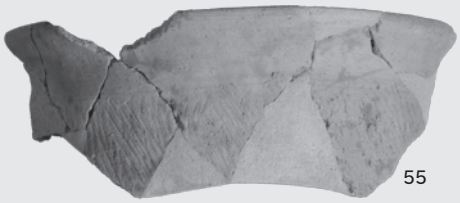
54

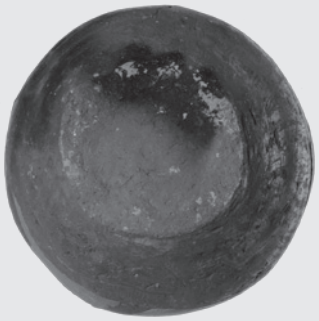


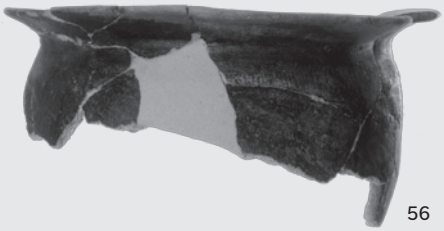
51

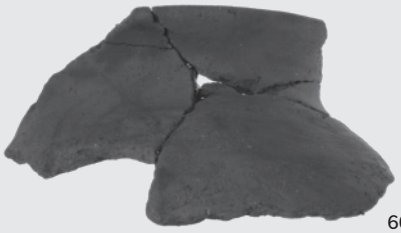
57

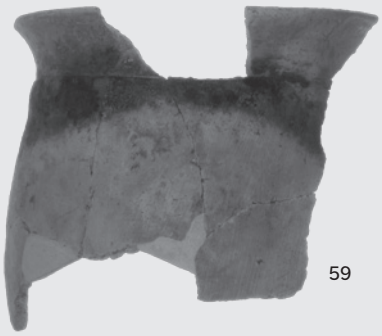
58

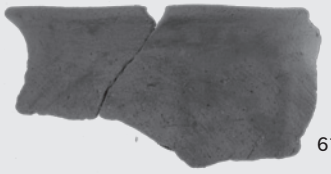

55

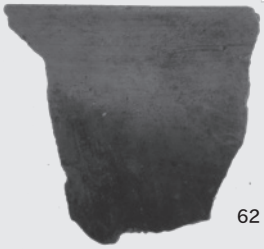


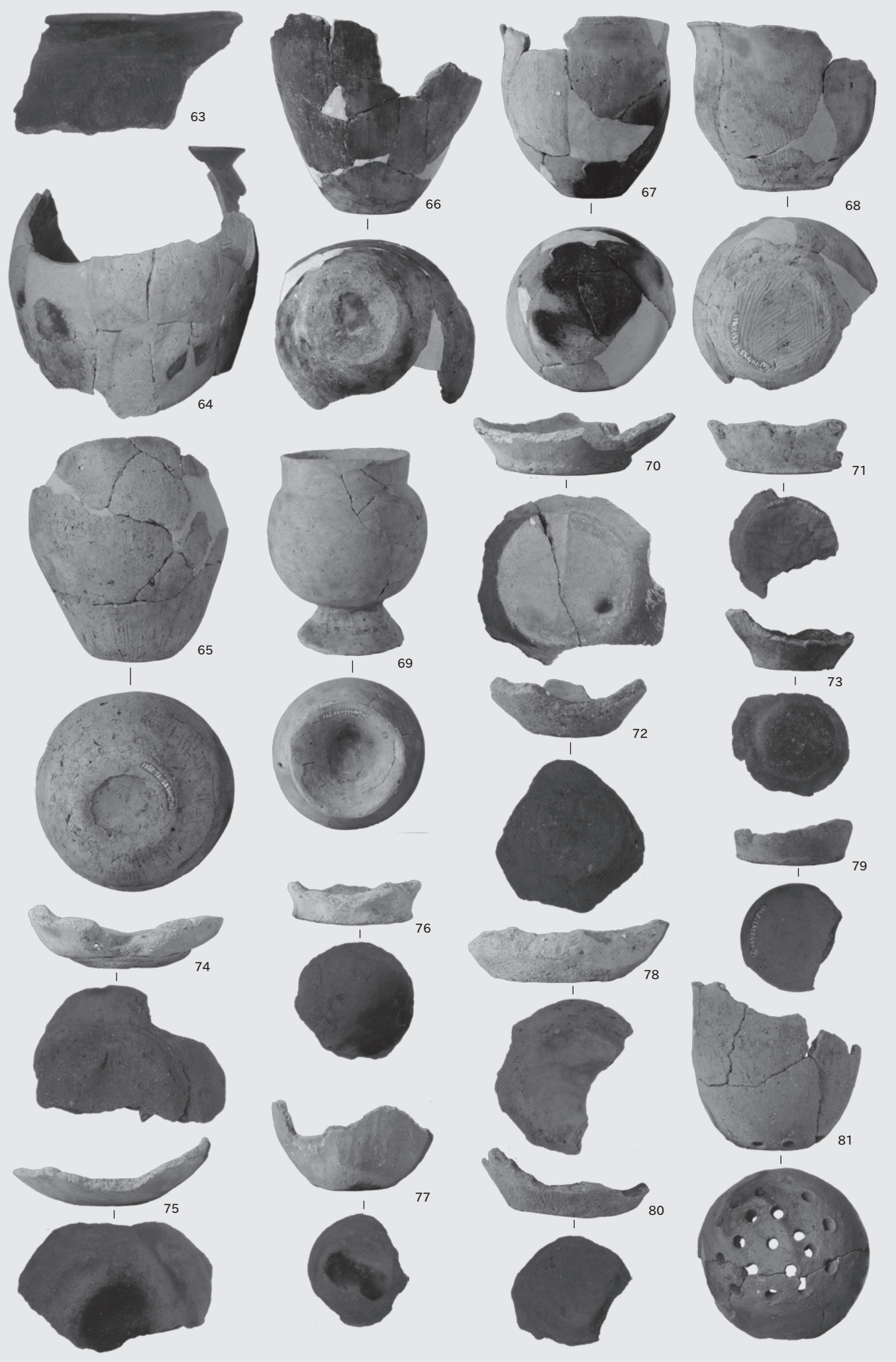

56

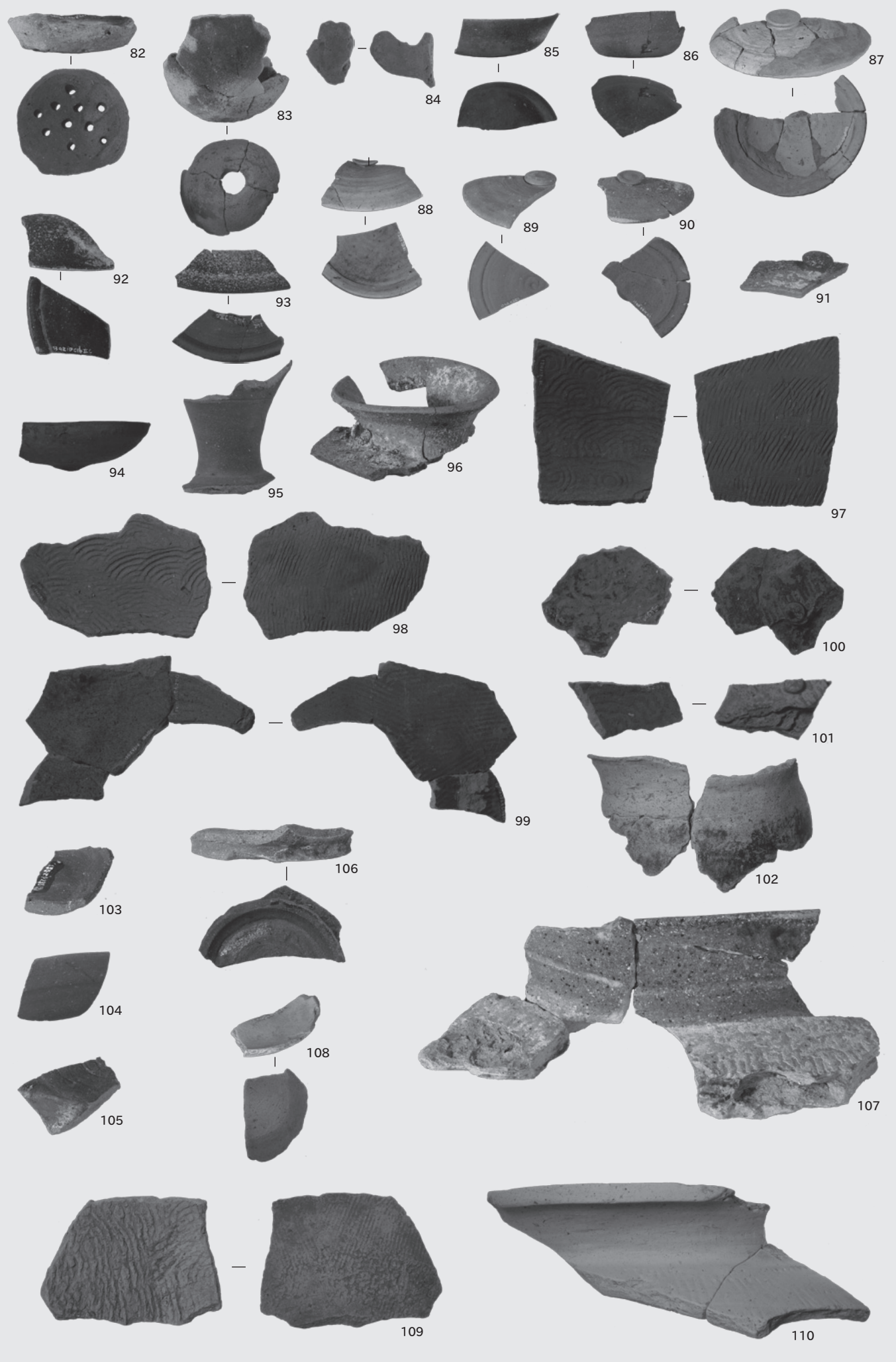

60

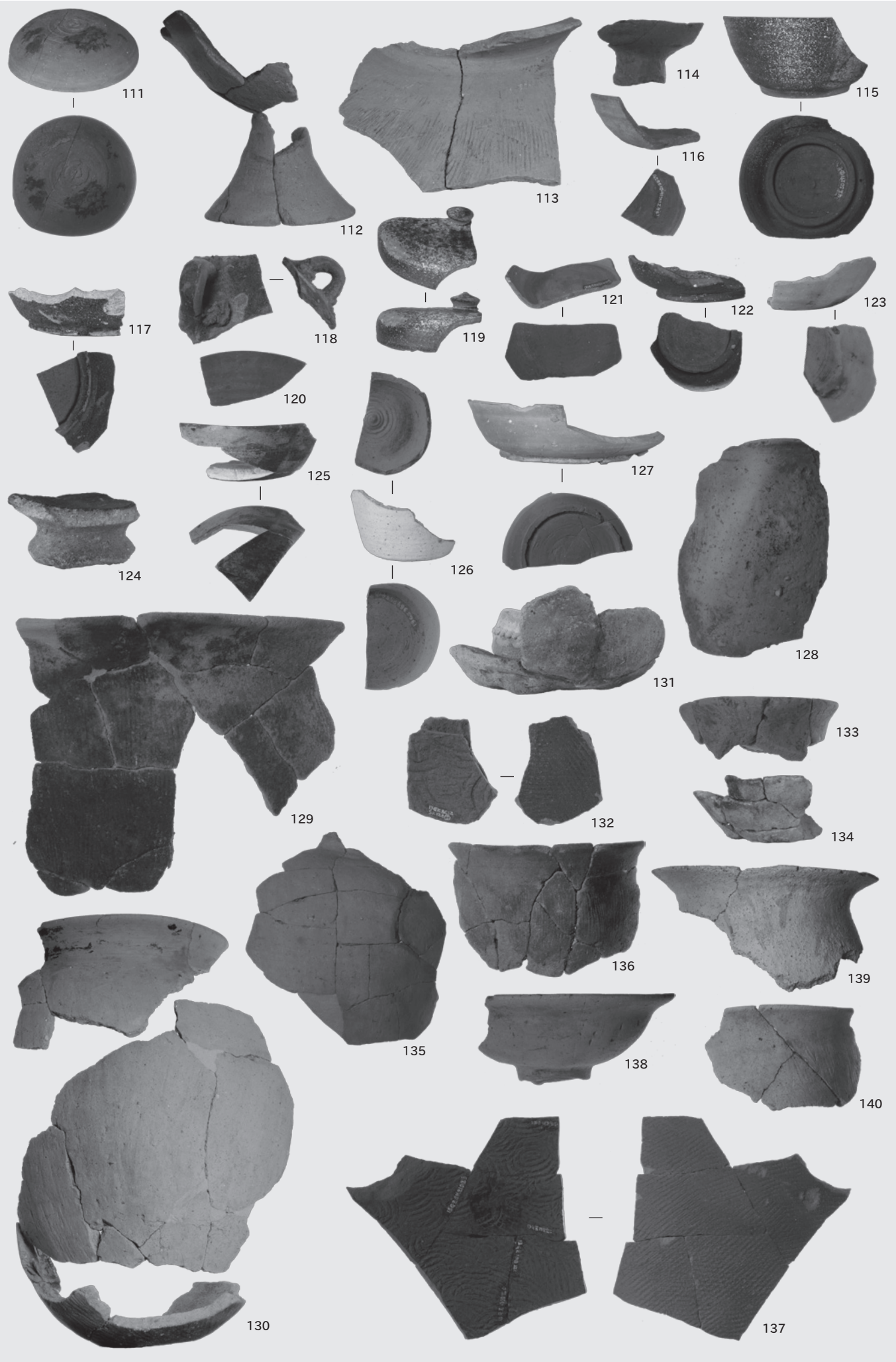

59


61


62

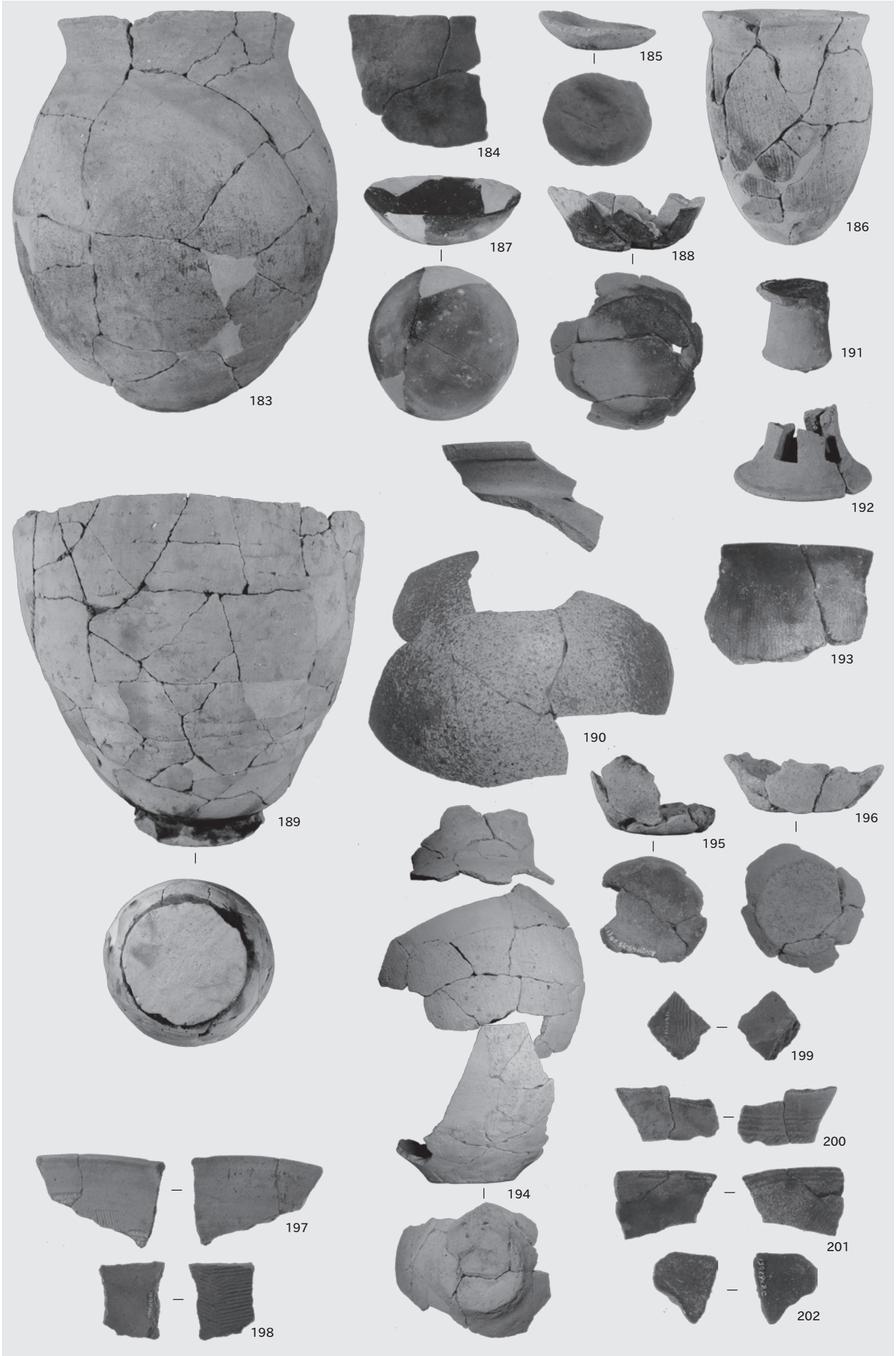

63
66
67
68
64
70
71
65
69
73
72
79
76
74
78
81
77
75
80


82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110

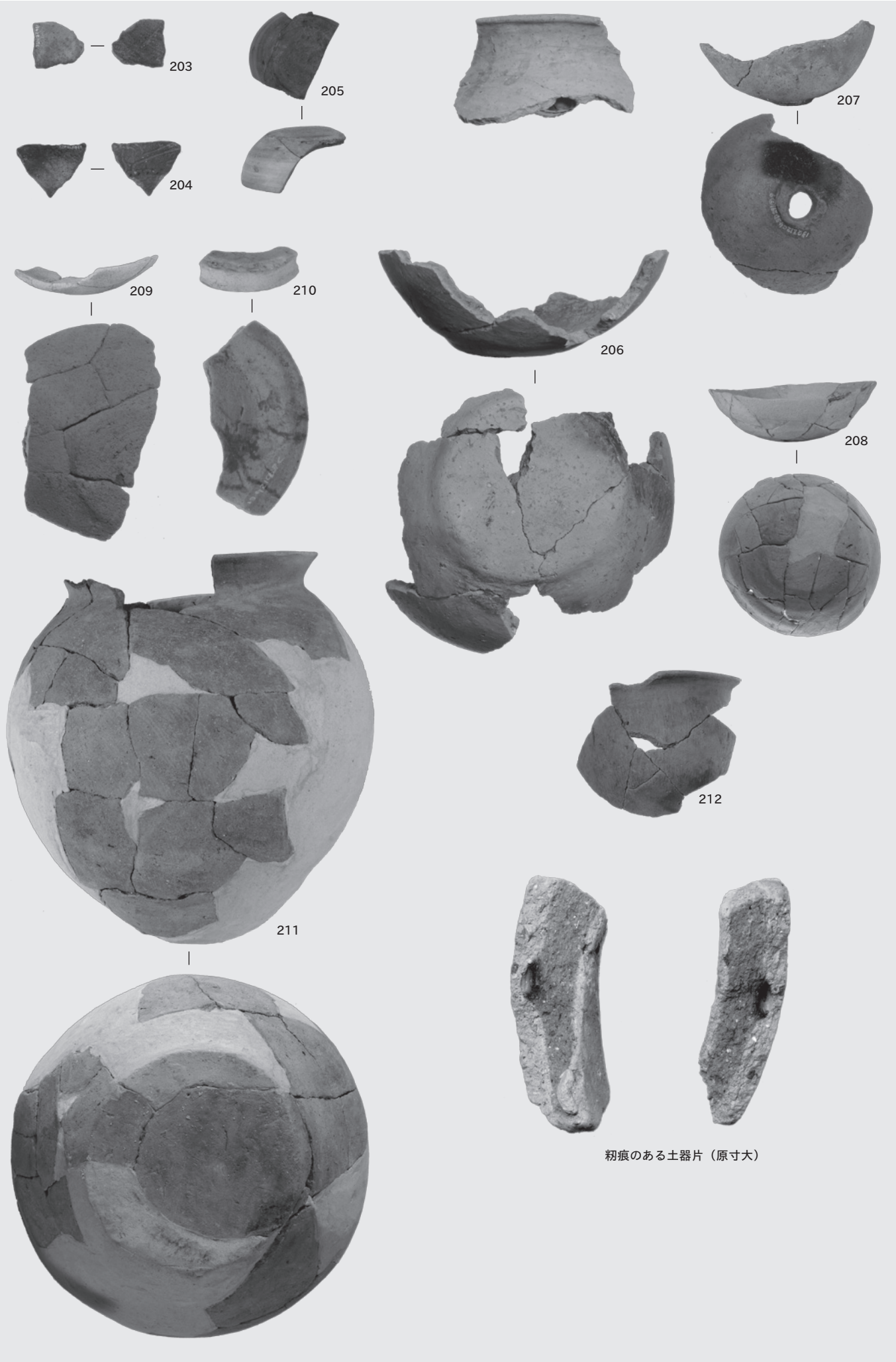

111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140

141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159

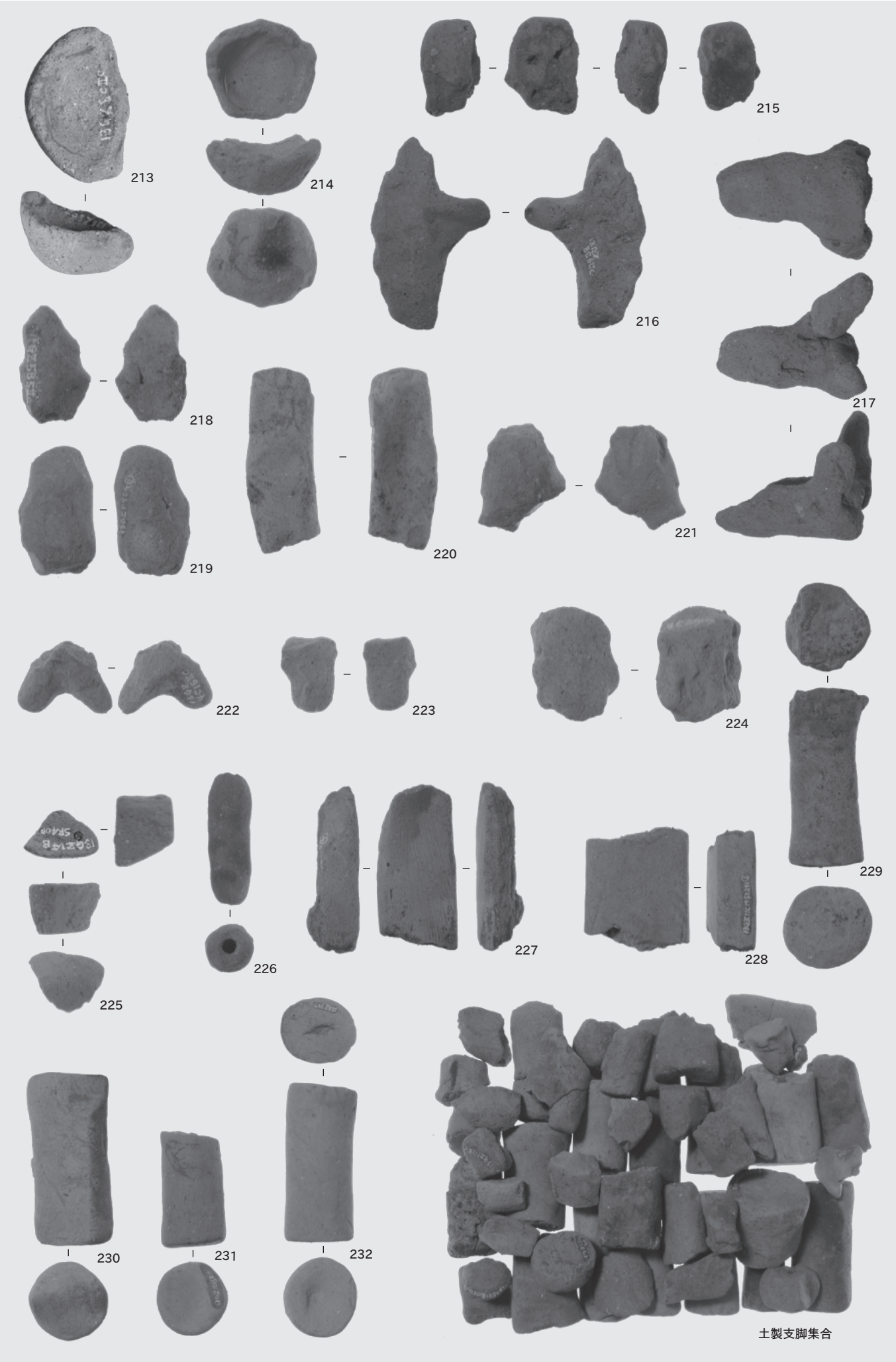
160
161
164
165
162
163
167
166
169
171
168
170
172
174
175
176
177
178
173
179
181
180
182

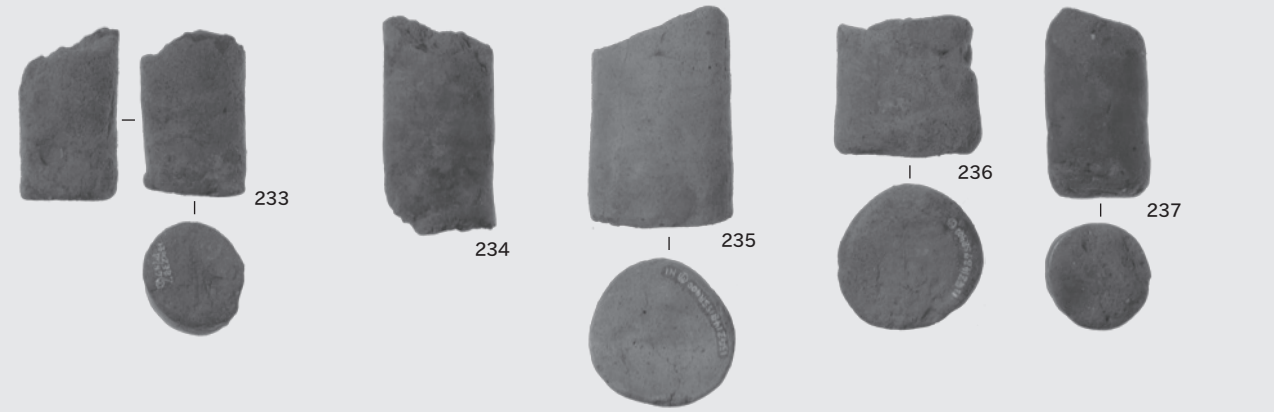

183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202

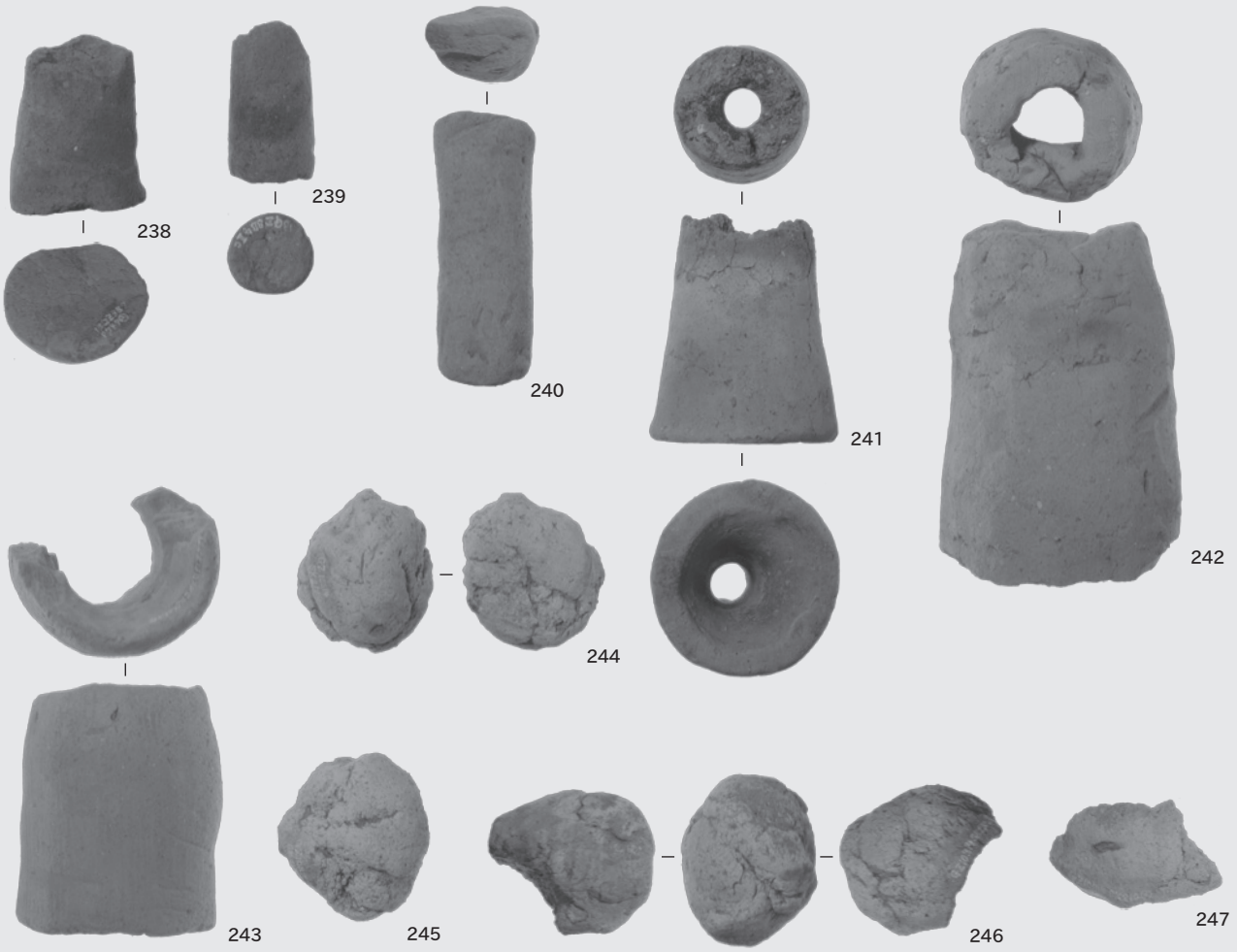
土器（11）弥生時代、平安時代（Ⅱ b 層）遺構外、試掘調査、籾痕のある土器片




籾痕のある土器片（原寸大）


213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
土製支脚集合



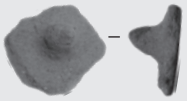



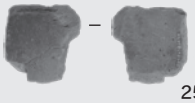
円筒形土製品集合

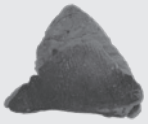
鞴羽口集合

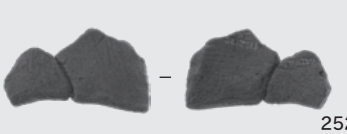
248

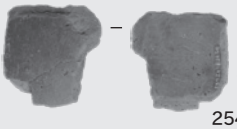
249

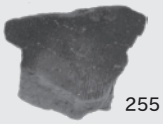

250


251


253


252

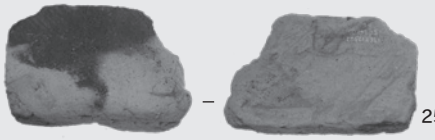

254

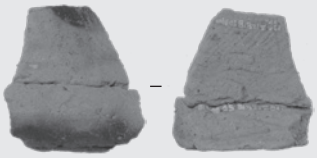

255

256

257

261


258

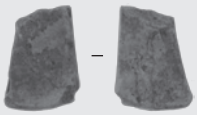

259

262

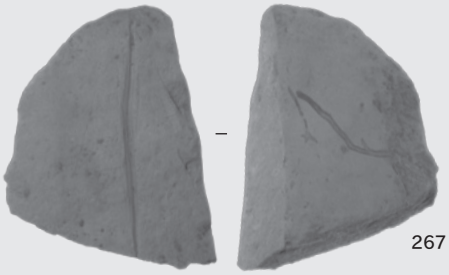
263

264

260

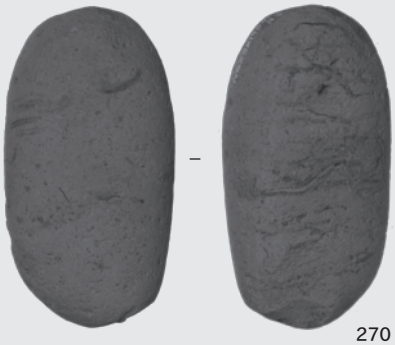

266

265


267

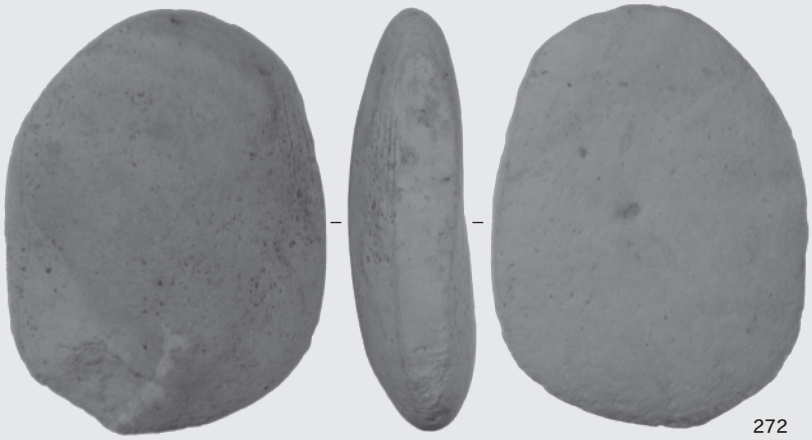
268

269

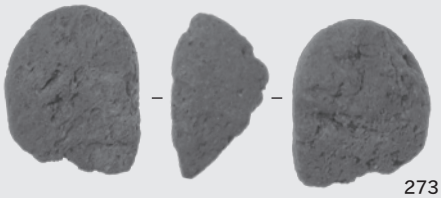


270

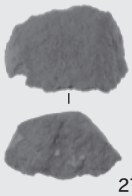
271



272

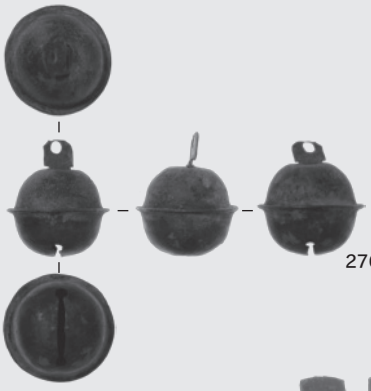


273



274

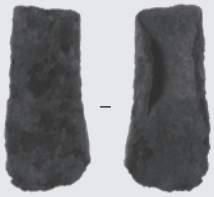
275



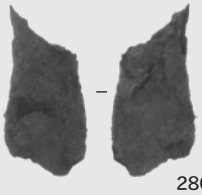
276

277

278

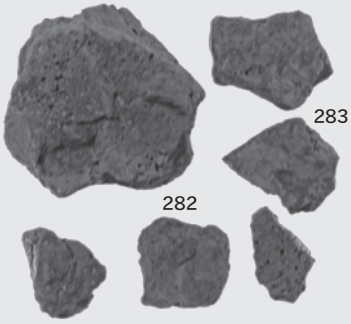


279



280

281

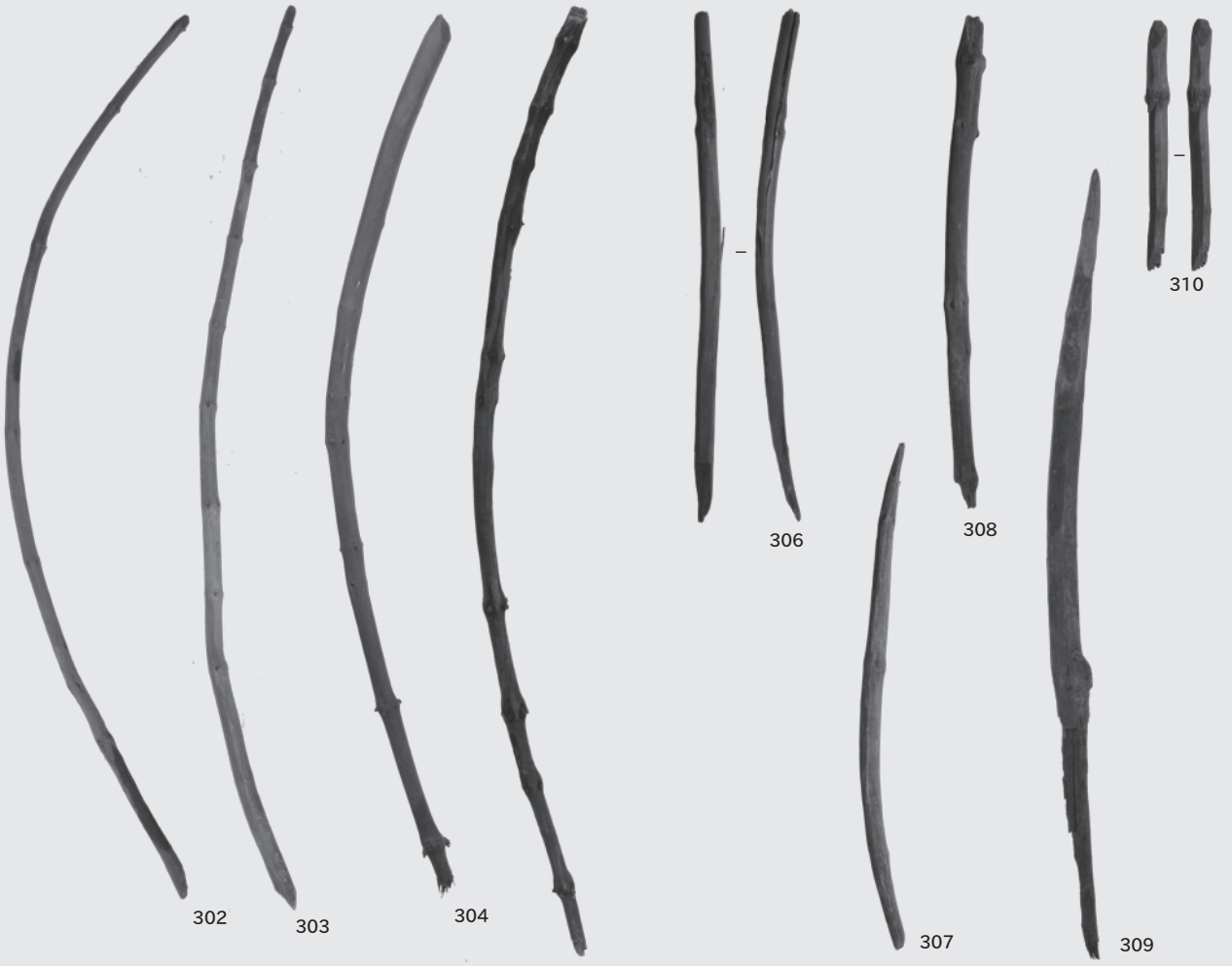


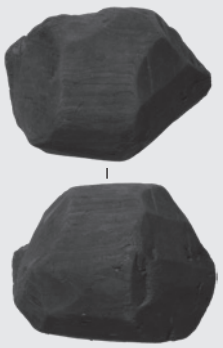
282

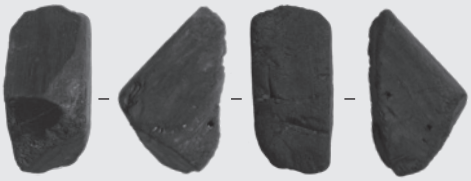
283

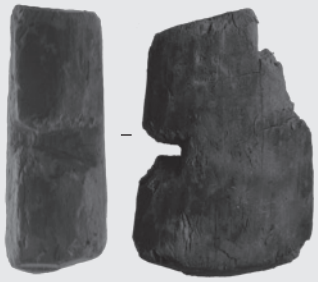
鉄滓集合

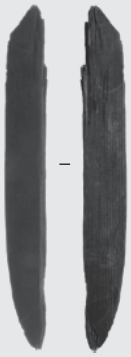
※ 285 は現場取り上げ後の損壊著しく、個別撮影はできなかった。写真図版８の出土状況写真を参照されたい。



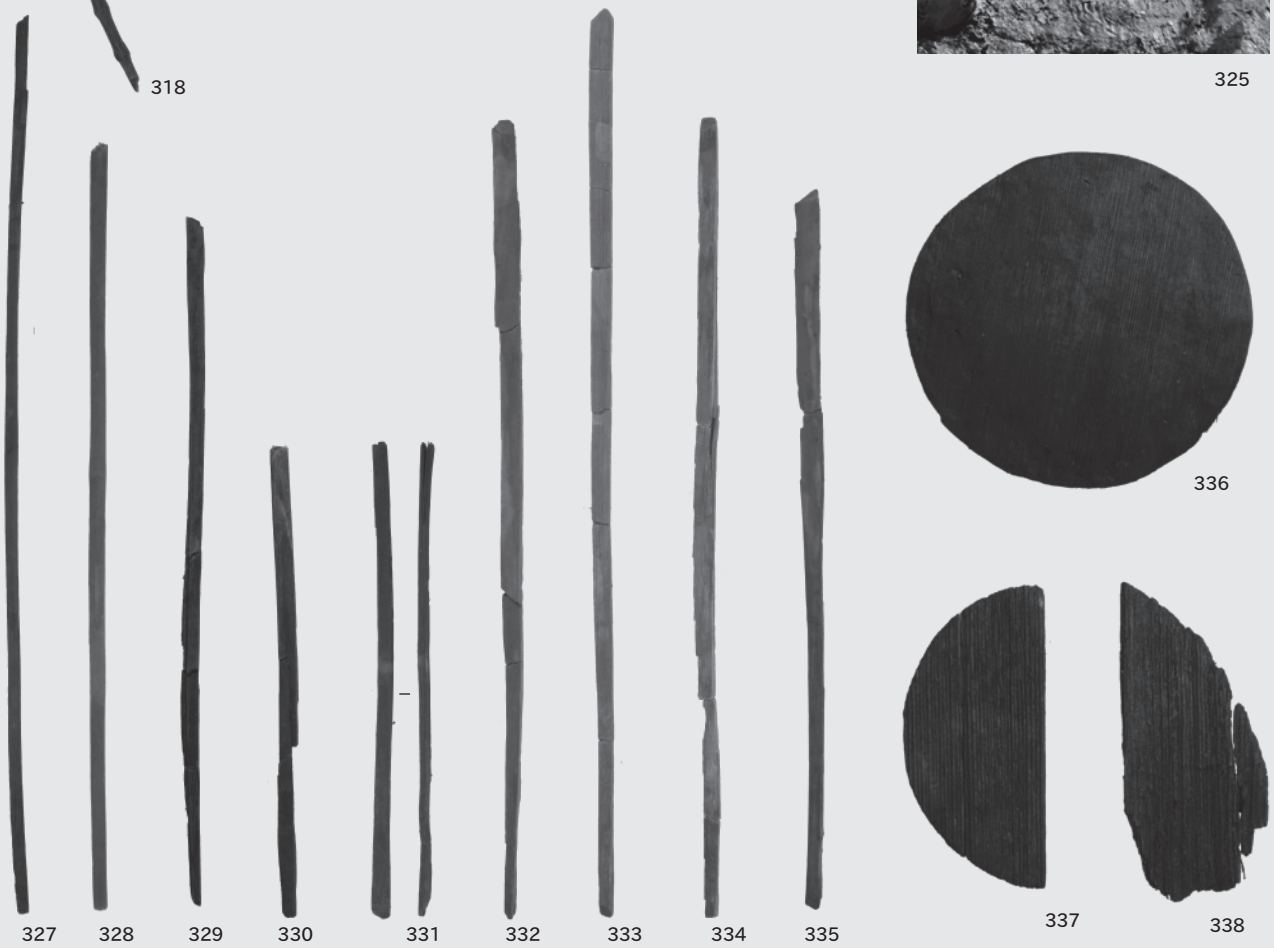



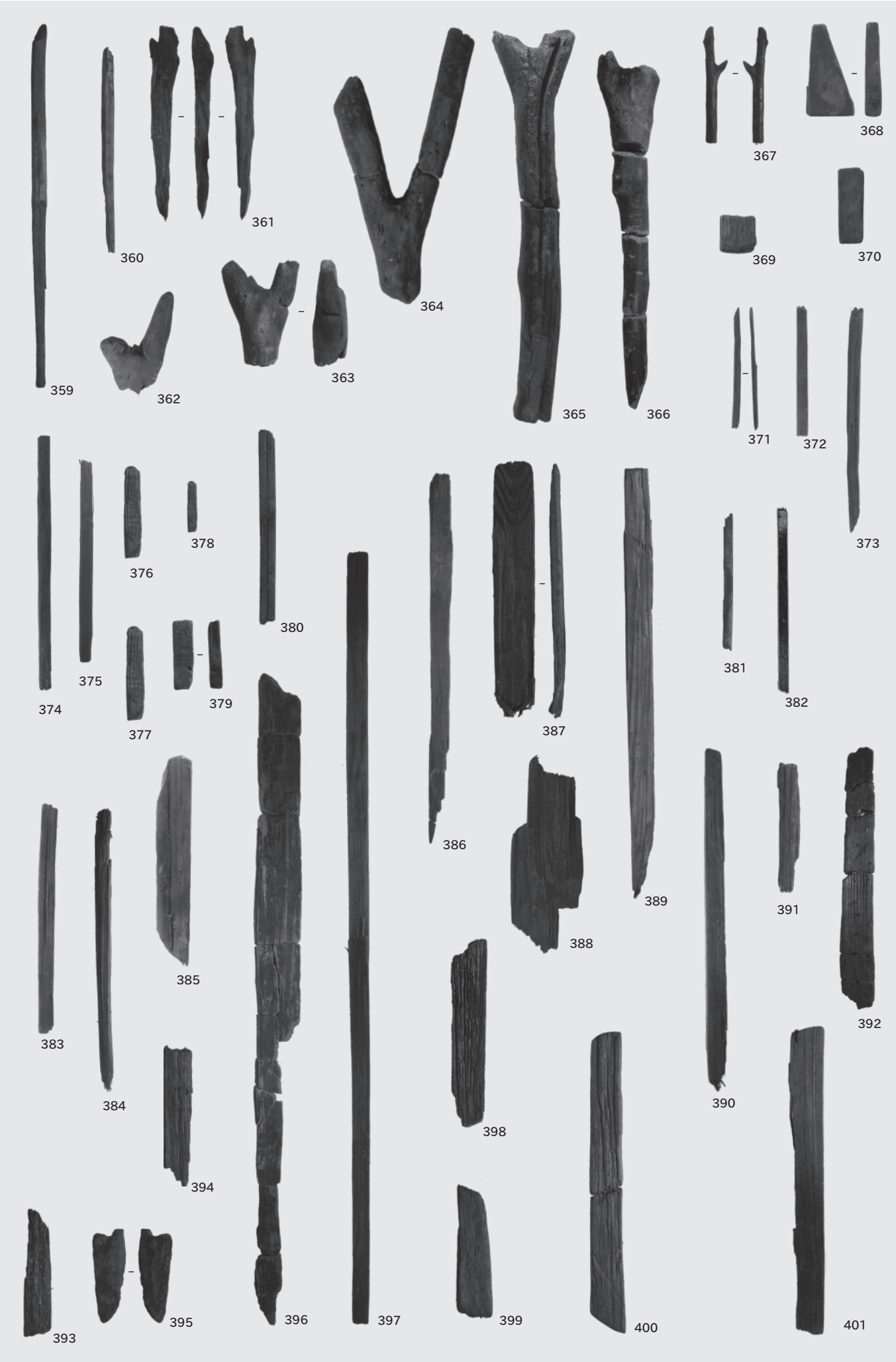



※ 311・312 は現場取り上げ後の損壊著しく、個別撮影はできなかった。写真図版 5 下半の出土状況写真を参照されたい。

318
319
320
321
322
323
324
325
326


327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338

339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358

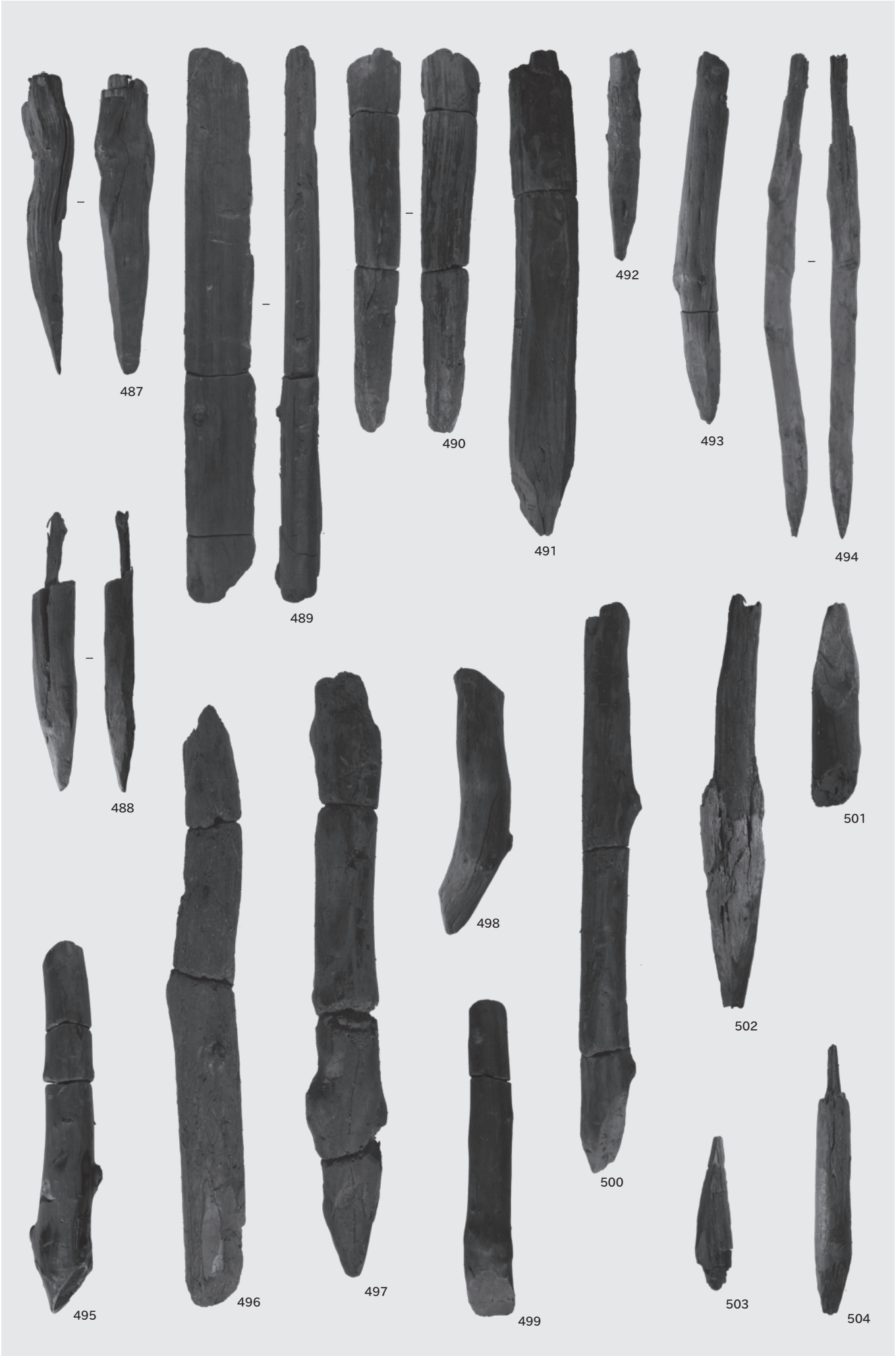

359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401

402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424

425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442

443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462

463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486


487
489
490
491
492
493
494
488
495
496
497
498
499
500
501
502
503
504

# 報　告　書　抄　録

| | |
|---|---|
| 報告書抄録 | ぎょうやざきいせき |
| 書　　名 | 行屋崎遺跡 |
| 副　書　名 | 一般国道403号（小須戸田上バイパス）道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 巻　　次 | |
| シリーズ名 | 田上町埋蔵文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第22集 |
| 編著者名 | 田畑　弘（田上町教育委員会）、武部喜充（株式会社ノガミ）、楢崎修一郎（生物考古学研究所）、黒沼保子・藤根　久・森　将志・佐々木由香・バンダリ　スダルシャン・小林克也（株式会社パレオ・ラボ） |
| 編集機関 | 田上町教育委員会 |
| 所　在　地 | 〒959-1503　新潟県南蒲原郡田上町大字原ヶ崎新田3070　TEL.0256（57）6114 |
| 発行年月日 | 2015（平成27）年2月27日 |

| ふりがな<br>所収遺跡 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯<br>°　′　″ | 東経<br>°　′　″ | 調査期間 | 調査面積<br>㎡ | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ぎょうやざき<br>行屋崎遺跡 | にいがたけんみなみかんばらぐん<br>新潟県南蒲原郡<br>たがみまちおおあざゆかわあざ<br>田上町大字湯川字<br>ぎょうやざき<br>行屋崎131 ～ 177 | 153613 | 62 | 37°43′<br>33.66526″ | 139°04′<br>19.94832″ | 20130612 ～<br>20131130 | 3,740㎡ | 道路（一般国道403号小須戸田上バイパス道路改築事業） |

| 所収遺跡 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 行屋崎遺跡 | 祭祀跡<br>集落跡 | 飛鳥時代 | 旧河川流路、掘立柱建物16棟、溝11条、土坑129基、ピット300基、杭28基 | 須恵器、土師器、土製品（人形・動物形・カマド・紡錘車・鞴羽口・支脚・板状・円筒形）、石製品（権状錘・紡錘車・砥石）、金属製品（銅鈴・耳環・鉄斧・雁又鏃・鑿）、鍛冶滓、木製品（平鋤未成品・平鍬か・竪杵・糸車・田下駄・櫂・弓状木製品・丸木弓・曲げ物・把手付槽・皿・真名板・物差し・斎串・火讃杵） | 信濃川右岸の沖積低地を流れる五社川旧河川流路と自然堤防上に立地する。複数の時代が重なる複合遺跡であるが、なかでも飛鳥時代の遺物が出土総量の9割以上を占め、祭祀関連の土製人形、土馬、斎串などが出土した。 |
| | 水田跡か | 平安時代 | 溝19条、柵1条、杭列3条 | 須恵器、土師器、土錘 | |
| | 水田跡か | 中世 | 溝2条、土坑1基 | 珠洲焼 | |


要　約

行屋崎遺跡の集落造営時期は、古代の大きな画期となる大化改新（645年）直後の7世紀後半を中心とする飛鳥時代である。この時期、越後では阿賀野川以北の支配のために渟足柵が造られ、その後阿賀野川以南で蒲原郡・古志郡が成立する。越後では7世紀前半の遺跡がほとんど確認できないなかで、本遺跡と隣接する新潟市大沢谷内遺跡で集落造営が行われることから、この地域での本格的な開発が始まることがわかる。

本遺跡で想定される生業は、鞴羽口や鍛冶滓の出土から鉄鍛冶、鋤や漁労具などの未成品出土から木製品の生産を行なっていたとみられる。一方で、農業に関するものは少なく、稲作を基盤とした集落とは考え難い。このように行屋崎遺跡は越後における古代の始まりを象徴するものであり、蒲原地域のみならず、新潟県や東日本・北日本において重要な遺跡と考える。渟足柵造営直後に成立した遺跡であり、出土品の内容からも、蒲原地域のみならず新潟を含む東日本・北日本の古代史を検討する場合に、特に重要な情報が得られた。



## 行屋崎遺跡

一般国道403号（小須戸田上バイパス）道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成27年2月20日　印刷

平成27年2月27日　発行

編集・発行　田上町教育委員会

〒959-1503　新潟県南蒲原郡田上町大字原ヶ崎新田3070

電話　0256－57－6114

印刷・製本　株式会社　ライフ

〒286－0134　千葉県成田市東和田595

電話　0476－24－1564